

てねんこ
ぼねんこ
山口弁

TEREN PAREN TERENKO PARENKO TERENKO PORENKO

阿部啓治 編

目次

目 次

はじめに

凡 例

注意点とお願い

本 文 1 ～ 366

資 料 367 ～ 372

標準語索引 373 ～ 469

参考文献

あとがき

医療者やボランティアのための山口東部方言 (1/4～4/4)

表紙装幀：阿部奈名子氏。

はじめに

この本は、2007年にひょんなことから、始まった方言集めの集大成であります。

1950年頃に生まれた者が、

①今も喋っている。

②そう言えば昔、喋っていた。

③喋ってはいないが聞いたことがある。

と言う方言をまとめております。

そして、2016年に「山口弁（周南地方）辞典」として、上梓したものの、改訂版にあたります。

山口弁をしゃべり出してから、70年以上。山口弁についてまとめ出してから、10年以上経ちました。これから何年しゃべることが出来るか分からない歳になったし、まとめるのも、パソコン作業は目も疲れるし、肩も凝るし、校正となると、こりゃー苦行に近いものになるのーと言うことで、今が潮時かと、改訂作業に取り掛かりました。

改訂作業に入った頃から、コロナ禍が発生し、会って話す等の行動は制限されましたが、メールを使っただけの聞き取りや、机の上の作業は制約なしと言うことで、何とかまとめることが出来ました。結果、体力は落ちたと思いますが、語数は2016年の「山口弁（周南地方）辞典」より約100語増えました。

山口弁の世界を「ぶらぶら」してもらいたいと思い、今回の本の題名は「てれんこぼれんこ山口弁」にしました。「てれんこぼれんこ」は、「てれんぱれん」や「てれんこぼれんこ」と自分が言っていた方言に読み替えてもらっても結構です。

山口弁の世界をお楽しみ頂けると幸いです。

2024年5月12日

阿部啓治

昔話：

2007年のひょんなことちゅーなー、こーゆーことであります。

昔、「とくそう（徳山曹達）」言いよった、今の（株）トクヤマの技術教育訓練センターを2007年に開校したんであります。その授ぎょーん中で、安全指どーする時に「現場でつばえるんじゃーなーど」ゆーたら、よそから来ちよった新入社員がきょんとしたんちゃー。ほーか、こいつらー地下（ぢげ）のもんじゃーなーから「つばえる」の意味が分からんのんかあーつーことから、山口弁をまとめてみょーやーちゅーことになりましたのいの。

A4にちよつとまとめたもんが最初であります。それが、毎年、ちーとずつ言葉が増えて、この恰好になったんであります。作りはなえたときゃーこねーなことになるたー思いもせんじゃったが、まあ、これで一区切りでありますかの一。

「はじめに」も書いちゃうが、この本は1950年頃に生まれたもんが、

①今もゆいよる

②そーいやー、むかしゃー言いよった

③ゆーたこたーなーが、聞いたこたーある

ちゅーものーおもに集めたもんで、Aさーはゆいよったが、Bさーは知らんちゅー言葉もよけーありますいの。

今のわかーもんはゆわん言葉がおいーともいますが、1950年から2024年位のあえーだに、このへん（周南地方）で言いよった言葉の覚え書き（備忘録）ちゅーもんを、まとめたともーてもらえりゃー幸せますがの一。
あべけいじ

凡例

- 1: 見出しの排列は50音順に従った。
- 2: 「あー」などの長音「ー」はその発音が、「あ・い・う・え・お」のいずれかであるので、その音を示す「かな」と同じものとみなして、50音順に並べた。
例: 「あーた」→「ああた」「おーけな」→「おおけな」「せーでも」→「せえでも」
- 3: アクセントの付け方で強調する言葉は太字と下線で表した。
また、抑揚の上げ下げは矢印の↗・↘で示した。
例: 「あいた」「あります」
- 4: ☆は県外の方が間違い易い言葉。
- 5: ○は「三省堂スーパー大辞林」(文中では「国語辞書」としている)に収録されているが、比較的良く使う言葉で方言としても良いと思われるもの。
ただし、国語辞書にあり、同じ言い方だが、方言と意味が違うものにも○が付いている。ご注意願いたい。また、国語辞書にあるが、チェック不足で○を付けていないものもあると思われるので、これもご注意願いたい。
- 6: () 内は、「見出し」の欄においては、方言を漢字で書いた場合と別の言い方、場合によっては方言が話された地名を示す。
また、欄を分割した場合の(その1)(その2)の表示にも使う。
「説明」の欄においては、ふりがな、または漢字を示す。また、方言の使用例の標準語の言い方、方言の別の言い方、分類、補足等を記入した。
- 7: 【 】 内は見出しの方言と同様の意味や関連のある項目で、参考にしたら良いと思われるものを記入した。
- 8: ≪ ≫ 内は使用例の状況説明や場面設定等を記入した。
- 9: [] 内は標準語、または標準語の意味を示す。
一つの言葉の意味が方言と標準語の混合になっているところなどに付けた。
単独の言葉でも分かりやすくするために付けたところもある。
ただし、[] 内が日本語でない場合は、発音記号である。
- 10: 「○○」のように二重下線が付いている部分は、後に注釈があることを示す。
ただし、3. のアクセントの表記と重なった場合と、示す必要がないと思われる場合は省略した。また、「○」のように太字でない部分に一重下線が付いている部分は、説明の相互比較を分かりやすくするためである。
例: 「めく」の欄の「を」と「が」
- 11: 東西の分け方で「日本の東西」と「周南地域の東西」がある。
ただ単に「東」とか「西」の時は日本の東西、「東地区」とか「西地区」の時は周南地域の東西を示す。また、県東部、県中央部、県西部の言い方も使っているが、明確な区分はしていない。【資料の「山口県内地名」参照】
- 12: 「東地区(○○)」のように() 内に地名を書いているのは、収録した場所を示す。また、「西地区で言う」とか「東地区(○○)で使う」のように書いているが、他の地域をすべて調べた上で書いているものではない。よって、他の地域でも使われているかも知れないので、その点はご了解頂きたい。
- 13: 地名は旧市町村の名称と、新市町村の名称が混在している。
随時どちらかをご判断願いたい。位置、地域については資料の「山口県内地名」を、周防・長門地域の境界や方言の区分については資料の「県内の方言区分」の図や表を参考にして頂きたい。
- 14: 文中の「KRY」、「TYS」、「YAB」は山口県の放送局の略称名。
「KRY: 山口放送」、「TYS: テレビ山口」、「YAB: 山口朝日放送」のこと。
また、「NHK」は「日本放送協会(NIPPON HOSO KYOKAI)」のこと。
- 15: 説明に「?」がついている文は編者の推測レベル。あまり当てにはならないと思う。

注意点とお願い

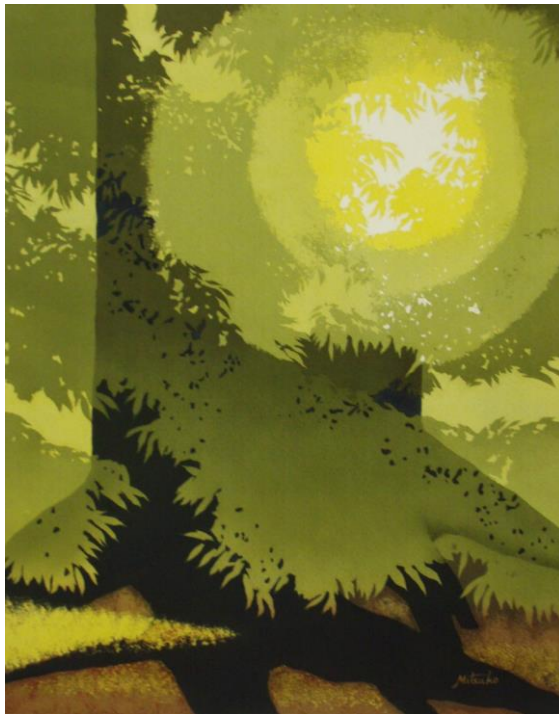
ある程度は整理したが、思い付いた時に、思い付いた言葉を収録しているので、各所で重複して記載したり、若干、違う表現をしているものもある。
その注意点を以下に記入した。また、この注意点全般について、読者のご理解と、ご容赦をお願いするものである。

- 1:「こそあど言葉」の見出しは、一部において関連する「こそあど」を全部表記したために、「あ」の欄にあるものと同じものが「こ」の欄にもあると言うように、重複している場合がある。なお、「こそあど」とは、「こ」「そ」「あ」「ど」の違いで同じような言い方をする言葉群のこと。
例:「あ」の欄:「あんとところ(こんところ)・・・」「こ」の欄:「こんところ」
- 2:「～にゃー」と「～んにゃー」が併記されているように、同じ使い方だが、見出しが一部重複している場合が多数ある。また、「それで」や「それでも」の「それ」が「せー、へー、ほい、ほん」などに变化した言葉をかなり重複しながらも、気が付いた範囲で記入した。同様の例は他にも多数ある。「探し易くした」と善意に解釈して頂きたい。
- 3:「説明」の中に、「見出し」の方言の反対語や他の言い方を書いている場合もあるので、「見出し」に無くても、似たような言葉の欄を探索して頂きたい。
例:「まえがきれる」の中の「まえがぬるい」
例:「ねんごーをたれる」の中の「ねんごーを言う」
- 4:例えば、「きちよる:①来ている ②着ている」のように本来は違う意味の言葉が、同じ表現になる時は、別の欄に書くのが筋だが、比較がしやすいように、同一の欄に表記しているものが多い。
例:「いけん」、「きゅう」等
- 5:山口弁の発音について、各所に記入した。ただ単に「～と発音される」としか表記していないが、すべて「山口弁では～と発音される」の意味である。
なお、発音について、詳しく知りたい方は、森川信夫氏の著書、「山口県方言基本発音体系」を参考にして頂きたい。
- 6:後ろに標準語の索引を付けた。索引は複数の言い方の中から一語だけが見出しの頭になっているので、必ずしも読者が引きたい言葉と一致していない可能性は高い。別の言い方で検索できるようにしたものもあるが、数は少ないので、特例と思って頂きたい。
- 7:本書を編集するにあたり、周南地域以外でも情報として頂いたものは、極力収録した。よって、若干、収集範囲が広がっているが、どの地域での方言であるかは明記しているので、間違わないようにして頂きたい。
ただし、情報を寄せて頂いた方以外の方が知らなかった場合、情報提供者の出身地を使っていた地域として記入した。よって、「凡例 12」に示したように、もっと、広い範囲で使われて「いる」、または「いた」可能性は高いと思う。
そのあたりの不備はご容赦願いたい。
- 8:編者の年代で使っていないものも、情報として収録したので、「はじめに」で、収録範囲として記した「㊦今も喋っている。㊧そう言えば昔、喋っていた。㊨喋ってはいいが聞いたことがある。」に、「㊩昔、喋っていたと思われる方言。」が、若干プラスされたものになっている。この点はご理解頂きたい。
- 9:「見出し」の言葉は、「山口弁」として載せているが、実は標準語に近いものであったり、西日本全体で使われている言葉もある。よって、拙著は編者の年代、および、もう一世代前(親世代)が喋っていた言葉を列記した「備忘録」、ないしは「雑記帳」として頂き、間違い等も多々あると思うが、ご容赦願いたい。

最後に、方言、および説明の文中に不適切な表現がある場合は、これも、編者の理解不足と、ご理解、ご容赦頂きたい。

本文（50音順）

本文の欄外左側の記号は、
☆：県外の方が間違い易い言葉
○：国語辞書に載っている言葉
を示す。



作者は阿部光子氏
「山口弁（周南地方）辞典の表紙で
使用したもの。
題は「大きな樹のお話」で、降松神社の
ご神木を題材にした染色作品。

てれんこぽれんこ 山口弁

TEREN PAREN
TERENKO PARENKO
TERENKO PORENKO

阿部啓治編

No.	見出し	説明
1	あーた	あなた。 明治、大正生まれや昭和初期生まれの人は言っていたが、昭和でも戦後に生まれた人はもう言っていないと思う。また、「あーた」は「飽きた」の意味でも使う。これは「あいた」の項目に記入した。女性は「あえーた」を使うことが多い。 【「あいた(飽いた)(あいだ)(あーた)」、「あえーた」、「あんた」参照】 例：あーたあ、どうしてですか。(あなたは、どうされますか。)
2	ああぬく (あーぬく)	仰向(あおむ)く。 上を向く。「ああぬけ」は「仰向け」のこと。 例：ああぬいて見いやー。(上を向いて見ろや。) 例：ああぬけになっちゃった。(仰向けになっていた。)
3	ああぬけだま	仰向いたままの状態。 「『ああぬけだま』はひっくり返った拍子に」の意。「仰向き様(あおむきさま)」の訛り。我々は使わないが聞いたことはある。 例：ああぬけだまを取る。(ひっくり返っている。)
4	あーや こーや	あれやこれや。何やかや。 例：あーや こーや、言いさんないね。(あれやこれや、言わないでよ。)
5	あいた (飽いた) (あいだ) (あーた)	飽きた。 「あいた」、「あけた」とも言う。「あぐ(あく)」の完了形。言い方は「あいた」「あいだ」「あけた」。「飽きたから」を「あーたけえー」、「あーだけー」と延ばして言うこともある。 【「あぐ」、「あくばる」、「うるう」、「～けえ(～けー)(～けん)」参照】 例：もうあいた。(もう飽きた。)
6	あいだけ (あえだけ) (あんだけ)	あれだけ。 「あんだけ」とも言う。西地区では「あえだけ」に近い言い方になる。「あえだけ」の方が山口弁の正調だが、東地区は「あいだけ」や「あんだけ」の方が優勢かな？ 例：《失敗した人に》 あいだけ、ゆうたのにねー。やっても一たかー。 (あれだけ、言ったのに。失敗してしまったか。)
7	あいたっ (あいたー)	①しまった。しまったことをした時の言葉。②痛い。 「あっ、痛い」が変化したものか？「あいたー」と延ばして言う時もある。 【「えー えっ」、「やーや」参照】 例：あいたっ、やっけもうた。(しまった、失敗してしまった。) 例：あいたー、手を切っても一た。(痛い、手を切ってしまった。)
8	あえ (間) (あい) (あいのや) (あいご)	間(あいだ)。家と家の間の空間のこと。 母屋と納屋の間の空間や、家が密集している地域では家と家の間の小道(隙間)のことを言う。「あい」、「あいのや」、「あいご」と言うところもある。「あえ」は、山口弁では連母音「アイ」が「アエー」となるので、「あい」が「あえー」と発音されるうちに「あえ」に定着したと思われる。同様の变化で「あいだ(間)」は「あえーだ」、「あえだ」と言う。 【「あかー」、「こまい」、「～ないと」参照】 例：そっちょー通るより、あえを通して行こーやー。近いけー。 (そっちを通るより、間を通して行こうよ。近いから。) 注：家と家の間「あいのや」に作った部屋も「あいのや」と呼ばれる。

No.	見出し	説明
9	あえーた	あなた。 男性も使うが、主に女性が使う。最近でも年配者は使うようだ。はっきりと区切った言い方の「おはようございます」でなく、自然と流すように言う時の「おはようござえーます」の「ざえー」と同じ言い方。 【「あーた」、「あんた」参照】 例：あえーたあ、お元気でありましたか。 （あなた、お元気でしたか。）
10	あおじ (あおぢ) (あおじに) (あおじみ)	内出血した部分の青黒くなったアザのこと。打ち身のあざ。 「あおじに」、「あおじり」、「あおじみ」とも言う。似たような言い方だが、漢字は「あおじ」は「青地か青血」、「あおじに」「あおじり」は「青死」、「あおじみ」は「青染み」が考えられるので、各所、各人でいろいろな言い方をしていたのかも？ 県内には、「あおあざ」「あおたん」と言うところもあるようだ。「くろじ」とも言う。【「くろじ」参照】 例：どこで打ったか、よ一分からんが、あおじになっちよった。 （どこで打ったか、良く分からないが、アザになっていた。） 余談：広島では、「あおじになる」は「しにいる」。「あおじになった」は「しに一た」。
11	あかー	赤い。 連母音「アイ」は普通「アエー」と発音されるが、形容詞では「アー」と発音することが多い。よって、「赤い」は「あかー」、「無い」は「なー」、「暗い」は「くらー」になる。どちらかと言うと男言葉。【「あえ」、「おもたー」、「こまい」、「～(し)たー(～(し)てー)」、「～ないと」参照】 例：《車を指して》あんたなー、あかー色のやつかの？ （あなたのは、赤い色の分かね？）
12	あかい (明い)	明るい。 「あかあ」とも言う。正調は「あかえー」。【「あこーなる」参照】 例：A; あこうなったら、行こう。 （夜が明けて明るくなったら行こう。） B; はあ、外はあかいでえー。 （もう、外は明るくなったよ。）
13	あがいな (あがあな) (あがーな) (あげえな) (あげーな)	あんな。 「そがいな(そんな)」、「こがいな(こんな)」、「どがいな(どんな)」と使う。 「こそあど」言葉である。 「あがあな(あんな)」、「あげえな(あんな)」と使う場合もある。 後ろの「な」が「に」になると、「あがいに」、「あがあに」、「あげえに」となり、「あんなに」の意味になる。それぞれの「こそあど」の変化も「あがいな」と同様。【「あげえに(そげえに、こげえに、どげえに)」、「あねー」、「こがあな」、「こがあに」、「そがあな」、「どがい」参照】 例：あがいなことを言うんでよー。 （あんなことを言うのだよ。） 例：そがいなひどいことをゆうたんか。 （そんなにひどいことを言ったのか。） 例：あがーなことをゆーちゃーいけんよ。 （あんなことを言っはいけないよ。） 例：こがいにしてもろーて、ええんじやろーか。 （こんなにしてもらって、良いのだろうか。）

No.	見出し	説明
○ 14	あがく (足掻く)	①寝相が悪くて動くこと。 子供が昼寝している時に少しあばれて、タオルがずれて腹をだしているような時に、「暑いから、あがいて腹をだしちゃー(暑いから、あばれて腹をだしているよ)」のように使う。 ②じたばたする。もがく。 犬や馬が前足で土を掻く様子から転じて、足をばたばたさせて動かすことに使うようになった。 【「あずる」参照】 例：《昼寝をしている子供を見て》 暑いから、あがいて、腹が冷えんように、 タオルをようー掛けちよっちゃりーよ。 (暑いから、寝相が悪くて、腹を冷やさないと、 タオルを良く掛けておいてやりなさいよ。)
15	あかまつ (あかまつばえ) (あかばえ)	カワムツ(河鯰)。(魚) 産卵期に頭部と腹部が橙色になるので、「あかまつ」と呼ばれる。この呼び名は「あかむつ(赤鯰)」の訛ったものと思われる。他に、「あかまつばえ」、「あかばえ」とも言う。産卵期以外の普通の色のときは「しろばえ」。 【「どろばえ」参照】 注：「カワムツ」は鯰(ハヤ)の大きくなったもの」と書いてある方言集もあるが、多分「カワムツ」を「ハヤの大きい個体」と認識していると思われる。
16	あがりいの (あがりいや) (あがりいね) (あがりんさい)	あがりなさいよ。《家の中に》 言い方は「あがりいのー」。「あがりいの」はどちらかと言うと男言葉。きつく言う時は「あがりーい」になる。「あがりーいや」、「あがりーね」は少し柔らかめの言い方で、これは男女共に使う。「あがりんさい(上がって下さい)」は丁寧な言い方になる。 【「～い(～え)」、「～え(～い)」、「～んさい」参照】 例：《家に上がってもらう時に》 まあええけー、あがりーの。 (まあ良いから、上がりなさいよ。) 例：はよー<u>くつ</u>ぬいで、おあがりんさい。 (早く靴を脱いで、お上がりなさい。) 注：母音「ウ」+助詞「オ」は「ウー」と発音される。よって、「靴を(クツオ)」は「クソー」になる。他には「水を(ミズオ)」は「ミズー」、「猿を(サルオ)」は「サルー」がある。【「なおす」参照】
17	あがりこぐち (上がり小口)	上がり口。 土間から座敷に上がる場所。「小口」は「端、始まり、出入口」の意。 例：《荷物をどこに置くかと聞かれて》 そりゃー、あがりこぐちに置いちゃって。 (それは、上がり口に置いておいて。)
18	あがりはな (上がり端)	上がり口。 土間、玄関から座敷へ上がる場所。上がり框(かまち)のところ。 【「はな(端)」については「はなえる」参照】 例：そねーに、あがりはなにねじ座って話さんでも、 上にあがって話しゃーええじゃ。 (そんなに、上がり口にべたーと座って話さなくても、 座敷に上がって話せばいいでしょう。)

No.	見出し	説明
19	あき	稲刈り。 稲刈りが終わることは「あきあげ」。稲刈りの手伝いをする雇人は「あきし」。 字は「秋師」。 例：あきあげには、一杯やりましょう。 (稲刈りが終わったら、一杯やりましょう。)
20	あぎ	あご。 主に魚に使う。えらの所を折ることを「あぎ折り」と言う。
21	あきらめん こーに	あきらめずに。 【「～こーに」参照】 例：《免許の試験に失敗した子に》 あきらめんこーにね。つぎー、がんばりーさいよ。 (あきらめずにね。次を、頑張りなさいよ。)
22	あぐ (飽ぐ) (あく)	飽きる。 完了は「 <u>あ</u> けた」、「 <u>あ</u> いた」。【「あいた」、「あくばる」参照】 例：《長く同じ動作をしているのを見て》 そりゃー、あねーに <u>同じのーなごー</u> やったら、あぐいの一。 (それは、あんなに同じことを長くやったら、飽きるよね。) 注1：母音「オ」+助詞「オ」は「オー」と長音化して発音される。よって、「同じのを(オナジノオ)」は「オナジノー」になる。【「けつまずく」参照】 注2：形容詞の連用形活用語尾の「ク」がウ音便化する。よって、「長く(ナガク)」は「ナゴー」と発音される。【「いとーない」参照】
23	あくた	稲の下の方の葉のこと。藁(わら)の袴(はかま)。 字は「芥」か？【「そぐる」参照】
24	あくばる	飽きる。飽き飽きする。 「攻めあぐむ」、「考えあぐむ」に使われる「あぐむ(倦む)」は「飽き倦む(あきうむ)」のつづまった言葉なので、元は「あくむ」と思われる。その「あくむ」が「あくまる」になり、「あくばる」になったようだ。ただ単に飽きるのではなく、うんざりするほど量がある状態に飽き飽きした感じ。東地区(室積)で使う。 【「あいた」、「あぐ」参照】 例：あくばるほど食べた。(飽き飽きするほど食べた。) 例：あくばるほど遊びたえー。(飽きるほど遊びたい。)
25	あげえに (そげえに) (こげえに) (どげえに)	あんなに(そんなに、こんなに、どんなに)。 「あねーに」、「あがあに」、「あがいに」、「あげいに」、「あねいに」とも言う。それぞれの「こそあど」の変化も「あげえに」と同様。後ろの「に」が「な」になった「あのような」の場合にも「あげえな」、「あねーな」、「あがあな」、「あがいな」、「あげいな」、「あねいな」など色々な言い方がある。 【「あがいな」、「あねー」、「そがあな」、「そんとな」参照】 例：あそこが、あげえに高いとは思わなかった。 (あそこが、あんなに高いとは思わなかった。) 例：そげえに、きなるな。 (そんなに、調子づくな。)
26	あけた	飽きた。 「あいた」と同じ。言い方は「 <u>あ</u> けた」。「飽きる」は「あける」。 【「あいた」参照】

No.	見出し	説明
27	あけての日	翌日。 昨夜のことは「ゆんや」。【「ゆんや」参照】
28	あけやす (あきやす)	物に飽きやすい人のこと。根気の無い人のこと。 「あけた(飽きた)」と言うことが多い人の意味。「あきやす」とも言う。 【「あいた」参照】
29	あけやすの ほれやす (あきやすの ほれやす)	飽き易く、惚れ易い人。目移りの激しい人。 「あきやすのほれやす」とも言う。昔は「ほれやすのあきやす」と言っていたらしい。惚れないと飽きないから昔の言い方が正しいか? 「あけやすのほれやすじゃ、いけんど(やっては、すぐ飽きるようなことではいけないよ)」と言って、集中力や持久力、耐久力の必要性を教えた言葉。 【「ほれやすのあきやす(惚れやすの飽きやす)」参照】
30	～あげる	動詞の連用形の後について、その動きが甚だしいことを示す。力を極めてする意。 「酒を飲みあげる(徹底的に飲む)」、「文句を言いあげる(すごく言う)」、「笑いあげた(すごく笑った)」等、いろいろな動詞に付く。ただし、「論文を書きあげる」、「マフラーを編みあげる」のように「成し遂げる、終了する」意味や「申し上げる」のように「尊敬、謙譲」の意味で使うのは標準語。 また、言い方は、標準語の時は「書き <u>あ</u> げる(書き終える)」で「あ」が強調され、山口弁の時は「書 <u>き</u> あげる(徹底的に書く)」で「か」が強調される。 【「～まあす(～まーす)」参照】 例: 遊びあげる。(十二分に遊ぶ。遊んでばっかり。) 例: 打って打って、打ちあげる。(打って打って、打ちまくる。)
31	あげんさい (やりんさい)	あげなさい。 命令しているが、これは丁寧な言い方。「やりんさい(やりなさい)」になると相手をちょっと蔑んだ言い方になる。目下の者に物を渡したり、犬などに餌をやる時に使う。 【「～(して)あげんさい(～(して)やりんさい)」、「～んさい」参照】 例: あの子にお菓子をあげんさい。 (あの子にお菓子をあげなさい。) 例: ポチに餌をやりんさいよ。(ポチに餌をやりなさいよ。)
32	あこーなる	①明るくなる。 言い方は「あこーなる」。強める時は「 <u>あ</u> こーなる」。夜が明けるとか、雨が止んで薄日が差して来た時に使う。【「あかい」参照】 ②赤くなる。 言い方は「 <u>あ</u> こーなる」。 例: 《冬から春になった頃に》 あこーなるのが、はよ <u>な</u> ったの一。 (明るくなるのが、早くなったな一。) 例: 《小雨から薄日が差して来た時》 <u>あ</u> こーな <u>っ</u> て来たね。(晴れて来たね。) 例: このトマトは、はあ、 <u>あ</u> こーな <u>っ</u> たで。 (このトマトは、もう、赤くなったぞ。) 例: 顔が <u>あ</u> こーな <u>っ</u> ちよるよ。(顔が赤くなっているよ。) 注: 形容詞の連用形活用語尾の「ク」がウ音便化する。よって、「赤く(アカク)」は「アコー」と発音される。【「いとーない」参照】

No.	見出し	説明
33	あさってのほーみちよる (明後日の方を見ちよる)	よそを見ている。 意識が集中していない時や、見当違いの方向を見ている時に使う。 例:《「ぼーとしている子供を見て」 どーかねー、あさっての方をみてから。 (どうかね、ぼーとしてから。) 例:《「指示した方向と違う方を見ている人を見て」 あいつは、あさってのほーみちよる。 (あいつは、見当違いの方を見ている。)
34	あさつぱち (あさつぱちら)	早朝。朝っ腹のこと。 東地区は「あさつぱち」、西地区は「あさつぱちら」と言う。
35	あさま (朝間)	朝のうち。午前中。 例:《「夏休みに」夏は暑いから、あさまに勉強した方がええよ。 (夏は暑いから、午前中に勉強した方がええよ。)
36	あさまじめ (あさまずめ)	①朝風(あさなぎ)。朝の無風状態。 ②夜明け。明るくなり始めて、太陽が昇るまで。 「まじ」は「真風(南風か南寄りの風)」の意味と思われる。「あさま(朝間)」と「まじ」が合わさって「あさまじめ」か? 反対は「ゆうまずめ(ゆうまじめ)」。 東地区(笠戸島)では①の意味で「あさまじめ」を使い、西地区では②の意味で「あさまずめ」を使う。【「ゆうまずめ」参照】
37	あじうり (味瓜)	まくわうり(真桑瓜)。(野菜) 県内には色々な呼び名があるが、「防長動植物方言考」によると、「あじうり(味瓜)」はほぼ県内のいたるところで呼ばれていたが、今では西地区(湯野)で残っているくらいか? 表面が緑色系の「まくわうり」の関西系の呼び名である。 ちなみに、「まくわうり」の由来は岐阜の真桑村(現:本巣市)産の「うり」だから。【「なつめうり」、「まっか」、番外の「野菜の呼び名」参照】
38	あじも すっぽもない	味も素っ気もない。 余談:「つれない」「愛嬌がない」を「すげなし」と言う。漢字で「素気なし」。これを読み間違えて「そっけない」になったらしいと言う説と、「すげない」が「すけない」→「すっけない」→「そっけない」と変化したと言う説がある。同様に「すっぽもない」は「すっぽくもない」が「すっぽーもない」→「すっぽもない」と変化したと言う。 ちなみに、京阪神では「あじもささらもない」と言うらしい。「ささら(細ら)」は「ささら形」のことで、細かい織模様のこと。
39	あずがきれん	ぐずぐずしている。はっきりしない。 鹿野の方言集によると、「あず」は水路の底に溜まっている泥土。これを除くと水の流れが良くなるが、それをしない状態なので、言葉や動作、思考がはっきりしないことを言う。反対は「あずがええ」、「あずがきれん」。「決断力がある」とか「はきはきしている」意味になる。 編者が聞いた範囲では使っていた人はいなかったが、新南陽、鹿野、小畑、柳井などの各地の方言集に載っているの、今でも使っている人がいる可能性ありとして収録した。 【「いんぐりもんぐり」、「ぼそぼそ」参照】 例:よいよ、あずが切れんやつじゃのー。 (本当に、煮え切らないやつだなあ。)

No.	見出し	説明
40	あずる (足摺る)	てこずる。窮する。もてあます。困って四苦八苦している様子。試行錯誤を繰り返している様子。 より大変な時は、「あずりかえす」とか「あずりまわす」、「あずりあげる」と言う。「あずる」は足を地に摺り付けるような、バタバタさせるような動きを表す「足摺る(あしずる)」から派生したと思われる。昔の人はどうしてもうまく行かないような時に、このような動作をしていたらしい。なお、「足掻く(あがく)」ことを岡山や山陰では「あずる」と言う。【「あがく」参照】 例：あいつはあの現場であずりまわしちよるよ。 (彼はあの現場で作業が順調に進まずに、大変困っている。) 例：あずりかえて、よーよーできたいやー。 (非常に手子摺って、ようやく出来たよ。) 例：ながーこと、あずったが、結局でんかったいやー。 (長いこと、てこずったが、結局できなかったよ。)
41	あぜまめ (あでまめ)	大豆。(野菜) 田の畦(あぜ)が崩れないように畦に植える大豆のことを言う。畦に小豆を植えた時も「あぜまめ」と言っていた。今頃は面倒なので、畦に植える人はいないかな? 「あぜ」が「あで」になるのは、山口弁ではザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」が、しばしばダ行音「ダ・デ・ド」として発音されるため。 【番外の「野菜の呼び名」参照】
42	あそーだ	遊んだ。 バ行、マ行五段動詞連用形活用語尾の撥音「ン」は概ねウ音便化する。よって、「遊ぶ→あそんだ」は「アソーダ」となる。他には「ころぶ→ころんだ」が「コローダ」になるなどがある。【「よろこーで」参照】 例：《おじさんの昔話で》 むかしやーよう「ぱっちゃん」をやってあそーだよー。 (昔はよく「ぱっちゃん」をして遊んだよな。)
43	あだぶ (あざぶ)	①残飯。 ②沈澱して溜まったもので「どべ」よりもっと得体の知れないもの。 例：あだぶが溜まって、きしゃないのー。 (沈殿物が溜まって、汚たないねー。)
44	あたまが すずしい (頭が涼しい)	①聡明な。 理解力、判断力が優れている。理解力が良いと言う意味では「のどりがええー(呑み込みが早い)」も使う。【「のどり」参照】 ②髪が少ない。 髪が少ない人を揶揄する時に使う。自虐的に使うことが多い。 【「きんかあたま」参照】 例：あのひたー、頭が涼しいからねー。 ①(あの人は、頭が良いからね。) ②(あの人は、髪の毛が少ないからね。) 例：《頭の良し悪しの話の時に、自分は賢くはないが・・・ という状況で、禿げている人が》 わしゃー、頭は涼しいがのー。 (私は、髪の毛が少ないから、賢くは無いが、頭は涼しいよ。)
45	あたまにいく (頭に行く)	散髪に行く。美容院に行く。 例：ちょっと、頭に行ってくるでー。(ちょっと、散髪に行ってくるよ。)

No.	見出し	説明
46	あたまを まるがす (頭をまるがす) (あたまー まるがす)	喜ぶこと。 うれしい事があって非常に喜んでいる様子。「頭をまるがして」と使う。にこにこして喜ぶさまを強調している。「あたまをころがす」と言う所もある。山口弁では、母音「ア」+助詞「オ」が「アー」と発音されるので、「あたまを(アタマオ)」が、「アタマー」になり、「あたまーまるがして」と「を」を省略したような言い方で使うことが多い。「まるがす」は山口弁で「転がす」の意。 【「まるがす」参照】 例：お母ちゃんが、あたまー(頭を)まるがして喜んじょったでね。 (お母さんが大変喜んでいたよ。) 余談：KRYテレビの方言コーナーで「顔をまるがして喜ぶ」とアナウンサーが紹介していた。柳井の方ではこの表現も使うようだ。
47	あたん	腹いせ。仕返し。報復。復讐。八つ当たり。 「仇(あた)」に鼻音の「ん」を添えた言葉で、「仇」は「当る」と同義。「あた」は万葉の頃からの中央語。「敵討ち、仕返し」の意。江戸時代初めに「あたん」と「あだ」に意味が分かれて使われるようになったようだ。 例：くじゅーくられたあたんに石をなげたんじゃろう。 (叱られたから腹いせに石を投げたのだろう。) 例：《腹が立ったからと、バケツを蹴つり回している子に》 そねーに、ものにあたんするんじゃーないよ。 (そんなに物に八つ当たりするのではないよ。)
48	あっかんべー	あかんべい。 「いやだ。まっぴら御免」の意。下まぶたを指で下げ、裏の赤い所を見せる動作と合わせて言う。
49	あっこ (そっこ) (どっこ)	あそこ(彼所)。あすこ。あのところ。 こそあど言葉ではあるが、「こっこ」はまず使わない。 【「あんところ」参照】 例：あっこもそっこも留守にしちよってよ。 (あそこもその家も留守ですよ。) 例：どっこもわるーはなかつたいやー。 (どこも悪くは無かつたよ。)
50	あっちゃ こっちゃ (あっちゃら こっちゃら)	あちらこちら。 「あっちゃら こっちゃら」とも言う。 例：話があっちゃ こっちゃして、よー分からんでー。 (話があちらこちらして、良く分からないよ。)
51	あっぱい	①着物。(幼児語) ②赤いもの。(幼児語) ③美しいもの。(幼児語) KRYの方言コーナーで言っていたが、我々は使っていない。 周防大島の方言集には「『あっぱ』は幼児語で『衣服』のこと。『い』が付くと『きれいな』と形容詞になる」とあった。柳井、岩国、須佐の方言集にも載っていた。また、「花」の意味では長門や広島の方言集に載っていた。それから考えると、かなり広い地域で、昔は幼児語として「あっぱ」が「花、着物などの美しいもの」、「あっぱい」が「美しい」「晴れ着」などの意味で使っていたと思われる。 なお、「あっぱい」は古語「あはれ」が「あっぱれ」になり、「あっぱい」になったようだ。【「あば」、「べんべ」、番外の「幼児語」参照】 余談：信越や北陸地方では、「あっぺ(汚い)」の変化で「あっぱ」は「大便」、「あっぱい」は「汚い物」の意味になるようなので、要注意。

No.	見出し	説明
52	あっぱっぱー	開けっ広げ。 「あっぱっぱ」はゆったりと作ったウエストを締めないワンピース形の夏服。大正末期に流行した。これが転じて、開けっ広げの意味になった。 よって、方言と言うより時代語か？ 例：あいつは、あっぱっぱーじゃけー、なんでもゆうんちゃ。 (あいつは、開けっ広げだから、何でも喋るのだよ。) 余談：名古屋では「窓を開ける」ことを「ぱーぱーにする」と言うそうだ。
53	あてこすり (当擦)	マッチ。 方言と言うより、「時代語」か？
54	あてっぽうに	当てずっぽうに。 いいかげんな推量でことを行うこと、またそのさま。【「えいやー」、「えーころ」、「ええころはちべえ」、「おおめっそー」、「めっそー」参照】 例：《クイズを出して》 当たらんでもええけー、あてっぽうにゆうてみいやー。 (当たらなくても良いから、当てずっぽうに答えてみろよ。)
55	あてる (当てる)	かける(掛ける)。 「アイロンをあてる(かける)」や「パーマをあてる(かける)」のように焼き縷(ごて)を当てる動作に使う。近畿や中四国で使われるが、最近はあまり言わないか？
56	あとーさま (あとーさー) (あとーはん)	お月様。(幼児語) 月は太陽とともに尊崇の対象で、夜の月の明かりは街灯の無い時代にはありがたいものであった。「あとーさま」は使っていないが、太陽の「おひーさま」との比較のために収録した。 【「おひーさま」、番外の「幼児語」参照】
57	あとすだり (あとすざり)	後退り(あとずさり)。 前を向いて後ろに下がること。尻込みすること。「あとすざり」とも言う。
58	あとばね	泥跳ね。 後ろに跳ねが上がるから「あとばね」。県東部の周東では「しりうち」と言うらしい。
59	あねー (そねー) (こねー) (どねー)	あんな(そんな、こんな、どんな)。 「こそあど」の変化は、後ろに「に」を付けて、「あねーに(あんなに)、そねーに(そんなに)、こねーに(こんなに)、どねーに(どんなに)」と使う。「な」を付けると「あねーな(あんな)、そねーな(そんな)、こねーな(こんな)、どねーな(どんな)」になる。「こそあど」言葉である。かつては江戸の中央語として使われていた。京都の「こない、そない、あない、どない」が変化してできた言い方。【「あがいな」、「あげいに」、「そんとな(そねーな)」、「どない」、「どねー」参照】 例：あそこが、あねーに、高いとは思わなかった。 (あそこが、あんなに、高いとは思わなかった。) 例：そねーに、ぎばるないやあ。(そんなに、頑張るな。) 例：そねー言われてものー。(そんなこと言われてもなあ。) 例：こねーなことーせんなよ。(こんなことはするなよ。) 例：あねーなことになっちゃうとは！(あんなことになっているとは！) 例：あねーなことーいいさんなよ。(あんなことを言いなさんなよ。) 例：どねーしたん。(どうしたの。)

No.	見出し	説明
60	あねーこねー (あねこね)	あれやこれや。何やかや。かれこれ。あしたり、こうしたり。 「あねこね」と短く発音することもある。 例：あねーこねー、せん方がええよ。 (あれやこれや、しない方がよい。) 例：あねこねせてみたが、どねーもこねーもならだいたいやー。 (あれやこれやしてみたが、どうにもこうにもならなかったよ。)
61	あねーなことを	どういたしまして。 A：「ゆんやはご馳走になりました。(昨夜はご馳走になりました。)」 B：「あねーなことを、あなた。(どういたしまして、あなた。)」 のように、相手の言葉に対して、それを丁寧に打ち消しながら返す言葉として使う。「あねーなことをそねーに言わんでね。(あんなことをそんなに言わないで下さい。)」の後ろ半分を省略した使い方。 当然、「あねー」の項目に示すように、「あんなことを」の意味でも使う。「こそあど」の変化も同様。【「あねー」参照】
62	あば	着物。(幼児語) 「あっぱ」「あっぱい」を「着物」や「晴れ着」、「あっぱい」を「美しい」、「あっぱいべべ」は「晴れ着」と言う風に昔は使っていたようなので、「あば」は「あっぱ」か「あっぱいべべ」の短縮形か？ 【「あっぱい」、「べんべ」、番外の「幼児語」参照】
63	あぶらめ (油身魚)	アイナメ(鮎魚女)。(魚) 西地区で使う。周防大島では「クジメ(久慈目)」のことを「あぶらめ」と言うらしい。【「おつむぎ」、「もみだねうしない」参照】 注：「アイナメ」は尾びれの先が真っ直ぐ、「クジメ」は少し丸い形をしていることで見分ける。
64	あほったらしい	阿呆らしい。ばからしい。 例：《ばかみたいなことをした人に》 どうかー、あほったらしいことしてから。(どうした、阿呆らしいことして。)
○ 65	あまい	塩味が薄い。 例：こりゃー、ちょっとあまいねー。(これはちょっと味が薄いね。)
66	あやかす	あやす。すかす。機嫌を取る。 「あやかす」は「だます」こと。昔は本来の意味の「だます」、「迷わす」意味にも使ったようだが、転じて、赤ちゃんをあやす、子供の機嫌を取る意味に使うようになった。東地区(笠戸島、櫛ヶ浜)で使う。 例：赤ちゃんをあやかす。(赤ちゃんをあやす。) 例：子供がなーてうるさーけー、あやかしちゃれーやあー。 (子供が泣いてうるさいから、機嫌を取ってやれよ。)
67	あらかましい	①乱暴な様。動作が荒っぽい。②粗雑な様。大雑把。 荒々しい熊に由来する「あらくまい」から終止形「あらかまし」になり、それから「あらかましい」になったようだ。 【「あらかましい」、「おーちようしな」、「おーぼっかい」参照】 例：あらかましゅーに運んじゃーいけんでー。(乱暴に運んだらダメだよ。) 例：そねーな、あらかましいことでええんかー。 (そんなに、雑なことで良いのか?) 余談：「あらかましい」は「①荒い、②粗い」の意味あり。「あらかましい、あらかまし」は「粗い」の意味だけ。

No.	見出し	説明
68	あらく (散らく)	間が広がる。距離、間隔が開く。 徒競走などで差が開いた時に、「差があらいた」と言う。「あらき」は「距離、間隔、隙間」などの意。「あらける(散ける、粗ける)」で国語辞書に「①散り散りになる ②間をあける ③火や灰をかきひろげる」とあるので、昔は普通に使っていた言葉のようだ。東地区(櫛ヶ浜)では今でも使っている。
69	あらびる	乱暴をする。暴れる。
70	あらましい	粗雑なこと。大雑把。ぞんざいなこと。 「あらまし」は粗雑なこと。「荒筋(大体のこと)」と「荒々しい」の意味の「あらまし」は標準語。【「あらかましい」参照】 例：あのひたー、なによーしてもあらましかろうがねー。 (あの人は、何をしても、大雑把だろう。) 例：あんたのやるこたーあらましーのー。(あなたのやることは、雑だなあ。)
71	ありがとう ありました	ありがとうございました。 お礼を言う時の言葉。年寄りが良く使っていた。「ありがとうございます」や「たいがとうあります」なども使う。言い方は「ありがとう <u>あり</u> ました」。 【「～あります」参照】 余談：森川さんによると、NHKの「花燃ゆ」で吉田松陰の妹、文が使っていた「ありがとあんした」は、山口弁ではないらしい。「ありんす」と同様に、「ある」の丁寧な言葉として江戸時代に粋な人達が使っていたもので、今は、群馬や広島の方言として残っているようだ。
72	ありこ (ありんこ)	蟻。(虫) 「ありんこ」とも言う。
73	～あります (～ありました)	～ございます。 最後につける言葉で「そりょーせたのあー私であります。(それをしたのは私でございます。)」のように使う。 明治時代に大村益次郎が陸軍を創設した際に、「何々であります」の言い方を部下が使い、陸軍の標準語になったと言われている。言い方は陸軍では全体を強めに短く「何々で <u>あります</u> 」と言うが、山口では「何々で <u>あ</u> ります」と「あ」を強めて、ちょっと上げ気味に悠長に言う。「～であります」の「で」と「あ」が融合して「～だえります」と言う人もいる。「～ありました」となると、さらに強調した言い方になる。 なお、指定・断定の意を示す丁寧語表現の「～であります」の言い方は標準語であります。【「ありがとうありました」参照】 例：ありがとう <u>あ</u> ります。(ありがとうございます。) 例：おめでとう <u>あ</u> ります。(おめでとうございます。) 例：おはよー <u>あ</u> りました。(おはようございます!!) 例：おさむー <u>あ</u> ります。(お寒うございます。) 余談1：「～ちよる」も軍隊用語になったようだ。「自分も知っちよります」のような使い方をしたのかな？ 余談2：「広島がんに山口あります」と言われるが、両方とも使用率は下がっているようだ。
74	ありみしょうみ (有身正身)	その人の全部。全能力、全人格の意味。 字は「有身正身」。虚飾の無い実力を言う。 例：《自分の素を出している人を見て》 あの格好がありみしょうみじゃけー。(あの有り様が全部ですよ。)

No.	見出し	説明
75	ありやーせん	ありはしない。 子音内の母音「イ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「ありは(アリワ)」は「アリヤー」になる。「せん(しない)」は「せる(する)」の否定形。 【「うち」、「せる」参照】 例：《見当違いのところで、探し物をしている人に》 そねーなとこにやー、ありやーせんで。 (そんなところには、有りはしないよ。) 例：そねーなこたー、ありやーせんともーよ。 (そんなことは、ありはしないと思うよ) →(そんなことが、あるとは思えないよ。) 【「～ともう(～ともー)」参照】
76	ありやーどうか	あれはどうか。 「ありやーどうしたんか」は「あれはどうしたのか」。 子音内の母音「エ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「あれは(アレワ)」は「アリヤー」になる。 また、「あれは」は「こそあど」言葉なので、「これは」は「こりやー」、「それは」は「そりやー」になる。ただし、「どれは」は使わない。 【「そりやーなにーいや」、「こりやーええ」参照】 例：《良いものが側に見えた時》 A;ありやーどうか。 (あれはどうかね。) B;ありやーいけん。こりやーどうかね。 (あれはダメだ。これはどうかね。) A;そりやーええのー。 (それは良いね。)
77	ありやーね (ありやーの)	あれはねー。あのね。 「あれはねー」の意味だが、「あのね」くらいのつもりで使う。 最後が「ね」は女言葉。男言葉になると「ありやーの」になる。 例：ありやーね、あの映画は面白かったよ。 (あのね、あの映画は面白かったよ。)
78	ありやー のんたー	あれはねー。 「あれはねえ、あなた」の意。何かを説明する言葉の前に、呼び掛けの様に使うことが多い。 例：ありやーのんた、そうゆー意味じゃなかったんよ。 これこれなんよ。 (あれはねー、そう言う意味ではなかったのよ。 これこれだったのよ。)
79	ありやまー (ありやーまー)	「あれ、まあ」。 驚いた時の言葉。縮んで「ありやつ」とも言う。「あれはっ」の転。「ありやりや」と言う、「あれあれ」、「まあまあ」の感じになる。「おりやまー」とも言う。 【「おりやまー」、「おりよっ」参照】 例：ありやまー、いつんまーに来たんかね。 (あれ まあ、いつの間に来たのかね。)

No.	見出し	説明
80	ありょーみー (ありょー みーやー)	あれを見ろ。あれを見なさい。 人が失敗した時に言う時は、ざまを見ろと言う感じがある。少し落ち着いて言う時は、「ありょーみんなさい(あれを見なさい)」になる。 子音内の母音「エ」+助詞「オ」は、「ヨー」と発音される。よって、「あれを(アレオ)」は「アリョー」になる。 また、「こそあど」言葉なので、「これを」は「こりょー」、「それを」は「そりょー」、「どれを」は「どりょー」になる。【「こりょー見ない」参照】 例：《日頃、横着な人が失敗した時に》 ありょーみー、ええばちじゃ! (あれを見ろ、罰が当たったぞ!) 例：ありょーみーやー、ぶち面白いことーしよるでー。 (あれを見ろよ、すごく面白いことをしているよ。)
81	あるきがみ (歩き神)	良く出歩く人。 西地区(福川)で使う。【「たかあるき」、「でべそ」参照】 余談：八代の方言集に「そぞろ歩きを誘う神」と「出歩いてばかりいる人」の二つの意味が載っていた。最初は神様のことだったのか!
82	あるげな	あるらしい。あるそくだ。 【「～げな」参照】 例：《希少品のことで》 あそこの店にやーあるげな。 (あそこの店にはあるらしい。)
83	あるまー	ないだろう。 「あるまい」の転。言い方は単独なら「ある <u>ま</u> ー」。前文が付く時は「 <u>ある</u> まー」になる。 例：A;あるかの一。(あるかなあ。) B;ある <u>ま</u> ー。(ないだろう。) 例：そねーなこたー、 <u>ある</u> まー。 (そんなことは、ないだろう。)
84	あろーがや	あるだろう。 例：よー探してみーや。そこに <u>あろー</u> がや。 (良く探して見ろ。そこにあるだろう。)
85	あんあんした	泣いた。(幼児語) 【番外の「幼児語」参照】
86	あんき (安気)	呑気なさま。気楽なさま。 昭和初めは中央語で、古風な標準語として使われないことは無いが、現在は方言化している。言い方は「 <u>あん</u> き」。 例：街より田舎の方が、あんきでえかろーがね。 (街より田舎の方が、呑気で良いだろう。)
87	あんころ あんころなく (あーんころ あーんころ 泣く)	アーン アーン 泣く。 幼児の鳴き声。 例：《びーたれ(泣き虫)の子を前にして》 どーかー、あーんころ あーんころ、よー泣くの一。 (どうかね、アーン アーンと、よく泣くね。)

No.	見出し	説明
88	あんじょう (あにじょう)	兄上。 男の兄弟が兄を呼ぶ時使う。軽い敬意を持って兄貴と呼ぶ感じ。「あにじょう」とも言う。「姉上」は「あねじょう」(これは三人称の姉の時に良く使われるらしい)、「妹」は「いもうとじょう」。 他には「お嫁さん」は「よめじょう」、「孫」は「まごじょう」。 【「おごーはー」、「よめじょーはー」参照】
89	あんじょう ように	うまい具合に。上手に。都合良く。 「あんじょう」は「味良く」のウ音便の形「味よう」の転で、国語辞書に載っている言葉。【「ほどように」参照】 例：《鍬の柄を付けてもらう時に》 あんじょうよう、つけてつかーさい。 (ええ具合に、つけて下さい。)
90	あんじんを きめる (安心を 決める)	覚悟を決める。 「安心(あんじん)」とは、信仰によって、心を定め、心が動かないことを言う仏教用語。転じて、「覚悟」の意味に使われるようになった。浄土宗の「安心決定(あんじんけつじょう)」から派生した言葉かも知れない? 例：どうしても行かんにゃーいけんのんじゃろー。 あんじん決めんさいねー。 (どうしても行かなければならないのだろう。 覚悟を決めなさいよ。)
91	あんた	あなた。 親しい人に対して使うから、山口県人以外に使うと喧嘩になるか? 最後に「ん」を付けて、「あんたん」 ^ん と語尾を上げたら、「あなたのものですか?」となる。【「あーた」参照】 例：あんたー、どうしたん? (あなたは、どうしたの?) 注：「あんたー」は「あんたは」か「あんたを」のどちらかである。詳しくは「あんなー」参照のこと。【「あんなー」、「こんなー」参照】
92	あんたかた (あんたがた)	あなたの家。 反対は「うちかた」、「わしかた(私の家)」。 【「あんたんとこ」、「うちかた」、「わしかた」参照】
93	あんたんで (あんたんで ありますか)	こんにちは。おじゃまします。 挨拶言葉。「ご安泰であるか」の意。「あんたんさんせ」とも言う。丁寧に言う時は「あんたんでありますか」、「あんたんでござりますか」となる。現在はいまほ使われていない。また、「あんた方ですか」あるいは「あんたは御在宅ですか」の意の丁寧表現とも言われているが、どちらが正解かは分からない。 【番外の「挨拶の表現」参照】
94	あんたんとこ (あんたとこ)	あなたの所。 「あなたの家」の意味でも言う。反対は「うちんとこ」、「わしんとこ(私の所)」。 【「あんたかた」、「うちんとこ」、「わしんとこ」参照】 例：《話があるから》 あんたんとこへ行こうかー。 (あなたの所へ行こうかね。)(あなたの家に行こうかね。)

○

No.	見出し	説明
95	あんとうに (あんとうに) (あのとーに)	あのように。あの通りに。 言い方は「あんとーに」。「こそあど」の変化は「こんとうに(このように)」、「そんとうに(そのように)」、「あんとうに(あのように)」、「どんとうに(どのようにな)になる。少し丁寧に言うときは「あのとーに(あのとおりに)」と言う時もある。「に」が「な」になれば「あのような」の意味で、「こそあど」の変化も同じ。 【「こんとうに」、「そんとー」参照】 例：A; あんとーにするんよ。(あんな風にするのよ。) B; あのとーにやーできません。(あの通りにはできません。) 例：あんとーなことーせよるよ。(あのようなことをしているよ。)
96	あんところ (こんところ) (そんところ) (どんところ)	あそこ(彼所)。あすこ。あのところ。 基本は場所を示す「こそあど言葉」であるが、「こんところ」は時間を、「そんところ」は状況を示す使い方もする。「どんところ」はあまり使わない。 【「あっこ」、「こんところ」、「そんところ」参照】 例：あんところにあるじゃ。(あそこにあるではないか。) 例：こんところ、会わんなあ。(最近は会わないなあ。) 例：そんところはどうかね。(その点はどうかかね。) 例：どんところにあるん?(どこにあるのか?)
97	あんなー	①あいつは。あれは。②あいつを。あれを。 「こそあど」言葉で、詳しくは「こんなー」の欄に書いてある。男言葉である。物を指す場合も使う。【「こんなー」参照】 例：あんなー、ゆうことを聞かんのんちゃー。 (あいつは、言うことを聞かないのだ。) 例：あんなー、連れて来い。(あいつを連れて来い。) 例：あんなー、どうするかー。 (①あいつは、どうするか。)(②あいつを、どうするか。) 例：あんなー、何かね。 《物を指して》(あれは何かね。) 《態度の悪い人を指して》(あいつは何かね。) 例：あんなー、取ってくれ。(あれを取ってくれ。) 注1: 母音「ア」+助詞「ワ」は「アー」と発音される。よって、「あんなは(アンナワ)」は「アンナー」、「あんたは(アンタワ)」は「アンター」、「山は(ヤマワ)」は「ヤマー」となる。 注2: 母音「ア」+助詞「オ」も「アー」と発音される。よって、「あんなを(アンナオ)」も「アンナー」、「あんたを(アンタオ)」も「アンター」、「山を(ヤマオ)」も「ヤマー」になる。 【「あんた」参照】
98	あんに	あれに。あそこに。 「こそあど」言葉で、「こんに(これに、ここに)」、「そんに(それに、そこに)」、「どんに(どれに、どこに)」と使う。 例：《物を探していて》 <u>あん</u>にあるじゃ。<u>とん</u>に行きんさい。 (あそこにあるじゃないか。取りに行きなさい。) 例：《物を探している人に、探している物を持って》 こんにあるじゃー。(ここにあるよ。) 注：ラ行音のリ・ル・レがナ行音の前で撥音化する場合がある。よって、「あれに(アレニ)」は「アンニ」、「これに(コレニ)」は「コンニ」、「取りに(トリニ)」は「トンニ」になる。

No.	見出し	説明
99	あんぷ (あんぽ)	危険。不安。 東地区(櫛ヶ浜)では「あんぽ」と言う。「あんぷ」を編者は使ったことがないが、東地区(下松)の友達が、年寄りが言っていたのを聞いたことはあると言っていたので、昔は使われていたようだ。また、県内や広島西部の方言集には「あんぷな」「あんぽ」等で載っているの、昔はかなり広い地域で使われていたと思われる。 森川さんによると、古くは「安否」を「あんぷ」と発音して、今の「安否」と同じ意味で使っていたが、江戸時代に「あんぴ」に変化したとのこと。山口には「あんぷ」の言い方が残って、危なっかしくて案じられるさまや不安で心もとないさまを表すことになったようだ。須佐の方言集に「あんぷな」と「あんぴな」が同意とあったのはこの名残か? 「あんぷな(危険な)運転」のように使う。反対の言葉は「あんき(安気)」か? 例: あいつあー返事だきやーええが、あんぷでならん。 (あいつは返事だけは良いが、危なっかしくて困る。) 例: あいつにまかしたんじゃけど、なんかあんぽなの一。 (あいつに任したのだけど、何か不安だなあ。) 余談: 柳井の方言集に「あんぽ」で「洞穴、穴」とあった。この「あんぽ」は「あなんぽこ」等が幼児語化したものと思うが、危険との掛け詞なのかな?
100	あんぽん (あんぽんたれ)	あんぽんたん。愚か者のこと。 「あんぽんたん」の省略形、変形。【「ぱーぷー」参照】
101	あんも	あんもち。(幼児語) 【番外の「幼児語」参照】
102	～い (～い)	～に。～へ。 【「～へ」参照】 例: 学校い行く。(学校に行く。)(学校へ行く。) 例: 家い帰る。(家に帰る。)(家へ帰る。)
103	～い (～いね) (～いの) (～いや)	「～よ」ぐらいの意味。 文末にあって念を押す気持ちを添えたり、強調の意を表したり、語調を整えたりする終助詞。下に念を押す意を表す終助詞「ね」「の」「や」をしばしば伴う。【「～いね」、「それいね(その2:い)」、「～だい」、「～ちゃー」、「～で」、「～ど」、「～にー」、「～ね」、「～のー」、「～や」、「～んにー」参照】 例: 「そのうちできるい(そのうち出来るよ)」、 「そねーなこたー知っちゃうい(そんなことは知ってるよ)」、 「わたしが行きますいね(私が行きますよ)」、 「はー、そーですいの(はい、そうですよ)」、 「はよー<u>たべよーい</u>や(早く食べようよ)」、 「<u>わたしもいね</u>(私もよ)」、 「うん、それいね(うん、そうなのよ)」、 「そりゃー<u>あんたかいの</u>(それは君かい)」、 「起きちよるかいね(起きてるかい)」等。 注1: 「たべよーい」は音韻融合して「たびよーい」や、さらに長音脱落して「たびよーい」になることもある。 注2: 「わたしもいね(私もよ)」の言い方は「わたし <u>もい</u>ね」のように「し」と「も」の間がちよっと途切れる感じになる。「わたしも いね」ではない。 注3: 「あんたかいの」は年配者では「かい」の「アイ」が「アエー」になって、「あんたかえーの」になることがある。

No.	見 出 し	説 明
104	～い (～え)	～なさい。 下一段活用以外の動詞の連用形に付いて、そうするよう指示することを表わす。【類似の意味で使う「～んさい」参照】 「投げい」の[e]は連母音融合して[e:]になるので、「投げえ」となるように、下一段活用動詞には「～え」が付く。【「～え(～い)」参照】 後に「の」や「や」「ね」を付けて言い方をやわらげる。 【「あがりい」参照】 また、「早よう、食べりい(早く食べなさい)」、「しゃべりいーね(しゃべりなさいよ)」などの使い方では「～りい」の表現を使う時もある。 連用形の「書きー」「来(き)ー」「しー」などは、命令形の「書け(ー)」「来い」「せ(ー)」とは語形が違うが、「起きる」「食べる」など上一段・下一段動詞は、山口弁では連用形と命令形が同形なので、アクセントもしくは下に付ける助詞によって、丁寧な命令表現と普通のそれとを区別する。また、語尾は連母音融合により「見い」が「みー」になるように、長音化することが多い。 例：走りい。(走りなさい。) 読みい。(読みなさい。) 例：起きい。(おきい。おきー。) 食べえ。(たべえ。たべー。) 起きーね。(おきーね。) 起きーよ。(おきーよ。) (起きなさいよ。食べなさいよ。) 注：連用形の丁寧な命令表現 例：起きい。(おきい。おきー。) 食べえ。(たべえ。たべー。) 起きーや。(おきーや。) 起きーよ。(おきーよ。) (起きなさい！ 食べなさい！) 注：命令形の普通の命令表現
105	いーいっ	やれやれ。やーや。 失敗した時に発する言葉。 【「あいたっ」、「えー えっ」、「やーや」参照】 例：いーいっ、失敗したーやー。(やれやれ、失敗してしまったよ。)
106	いいえのー (いいやのー) (いいえねー) (いいやねー)	①「いいえ、どう致しまして」の意。 「否喃(いなう)」のこと。「喃」は人に呼び掛ける時に用いる語で「もし」と同じ。この意味で使う時は、3番目の例のように後ろに「あーた」または「あえーた」が付くことが多い。【「のう」参照】 ②「いや、違う」「とんでもない」「いや、そうでなくて」の意。 強く否定して言う時に使う。 ①②ともに、「いいやのー」とも言うが、「いいえのー」は目上の人や、丁寧に言う時や女性間で使い、「いいやのー」は同輩、目下や男性間で使うような気がする。普通に言う場合は「<u>いいえのー</u>(<u>いいやのー</u>)」、強調して言う場合は「<u>いいえのー</u>(<u>いいやのー</u>)」となることが多い。 【他の使用例については「いいやのー」参照】 例：A；おこといーのに、ご心配でありました。 (お忙しいのに、お疲れさまでした。) B；いいえのー、たいしたことじゃありませんけー。 (いいえ、どう致しまして。大したことではありませんから。) 例：A；こりよーやったのはあんたじゃろー。 (これをしたのはあなたでしょ。) B；いいえのー、わたしじゃありませんでえ！ (とんでもない。わたしではないですよ！) 例：《帰る時》A；おさまたげしました。(お邪魔しました。) B；いいえのー、あーた。(どういたしまして、あなた。) 【「あーた」、「あえーた」参照】

No.	見出し	説明
107	いいきび (えーきび)	好(い)い気味。 日頃憎く思う相手の失敗を喜んで、あざけて言う言葉。「えーきび」とも言う。周南では「えーきび」と言う方が多いかも？ 【「えーきび」、「ええばち」、「きびがわるい」、「ばちくそ」参照】
108	いいくさし	言い掛け。中途半端な言い方。 【「くさす」参照】 例：《話を途中で止めようとする人に》 いいくさしで止めるないやー。(言い掛けで止めるなよ。)
109	いいごと	不平。不満。 口げんか、口論の意味でも使う。【「かばち」参照】 例：いいごとのおいー人じゃねー。(不平の多い人だね。)
110	いいさい (いいさん) (ゆいさい)	言いなさい。 「いいさい」が一番きつい言い方になる。「いいさん(言いなさい)」は二番目にきつい言い方。「ゆいさい」になると柔らかめになる。催促する時は、「はよー、いいさん(早く言いなさい。)<やわらか命令形>」、または「はよー、いいさい(早く言いなさい!)<いらついた命令形>」になる。 【「～い」、「いいさんな」、「いいんさい」、「～さい」、「～さん」、「ゆう」参照】 例：《なかなか喧嘩の理由を言わない子に》 ええかげんにや、いいさいよ。 (いい加減には、言いなさいよ。)
111	いいさえた (いいさった) (ゆいさえた)	言われた。 「～さえた」は敬語の助動詞「～さえる」の連用形。「ゆいさえた」とも言う。 【「～さいた」、「～さった」参照】 例：お医者さんが、だいぶよーなっちゃよと言いいさえた。 (お医者さんが、大分良くなっているとされた。)
112	いいさんな (いいんさんな) (ゆいさんな) (ゆいんさんな)	言わないようにしなさい。言いなさんな。 「ゆいさんな」は柔らかめに言う時使う。「いいんさんな」は「いいさんな(言わないように)」を強調して言う時に使う。「絶対に言ったらだめ」と、さらに強調する時は「いいどもしいさんなよ」になる。 【「いいさい」、「いいどもしいさんなよ」、「いいんさい」、「ゆう」参照】 例：《子供を怒っている人に》 そねーに、いいさんな。(そんなに言わないようにしようよ。) 注：「さい」、「さんな」は、他には、「やりさん(やりなさいよ)」、「やりさんな(やらないように)」、「しいさん(しなさいよ)」、「しいさんな(しないように)」と使う。【「～さい」、「～さんな」参照】
113	いっこ いっぱなし	言いつ放し。 言ったそのまま実行無しの状態。 例：あの人、いっこ言いつ放しなんじゃけー。 (あの人、言うだけで、何もしないのだから。)
114	いいつろう	口を揃えて言う。 例：「わしらーは、やっちょらん」ゆうて、いいつろうんよ。 (「私達は、やっていない」とみんなが口を揃えて言うのよ。)

No.	見出し	説明
115	いいども しいさんなよ (いいども しんさんなよ) (ゆいども しーさんなよ)	「言いなさるなよ」の意。 「絶対言ってはダメだよ」の意味。また、それを言ってしまうと、どうなるか分からないよと言うおどしの感じあり。「いいさんな」をもっと強調した感じ。「行きどもしいさんなよ(行ってはダメだよ)」、「しどもしいさんなよ(してはダメだよ)」も同様。「しいさんな」を「しんさんな」とも言う。また、「ゆいどもしーさんなよ」も良く使う。 【「いいさんな(ゆいさんな)」、「～さんな」参照】 例：そねーなこたー、いいどもしいさんなよ。 (そんなことは、絶対言ってはダメだよ。)
116	いいいはなえ (ゆいはなえ)	言い出しのこと。最初に言うこと。 「ゆいはなえ」とも言う。【「はなえる」、「はなまる」参照】 例：いいいはなえたのは、あの人よ。 ゆいはなえたなー、あの人よ。(最初に言ったのは、あの人よ。)
117	いいやのー (いいえのー)	①「いいえ、どう致しまして」の意。 ②「いや、違う」「とんでもない」「いや、そうでなくて」の意。 強く否定する。また、前段に説明する場面があって、それを否定する時によく使う。①②ともに「いいえのー」とも言う。「いいえのー」に比べて、「いいやのー」は若干、粗野感あり。他に「いいやねー」、「いいえねー」も使う。 【詳しくは「いいえのー」参照】 例：A：こうするんかいね？(こうするのですか?) B：いいやのー、こうするんちゃー。 (いやそうでなくて、こうするのです。)(《目下の人に》) B：いいえのー、こうするんですいね。 (いやそうでなくて、こうするんですよ。)(《目上の人に》)
118	いいんさい (いいんさん) (ゆいんさい)	言いなさい。 「ゆいんさい」とも言う。「いいさい」「いいさん」より少し柔らかい言い方。反対は「いいんさんな」。これも同様に、「いいさんな」より同意を求めながら言う柔らかい言い方になる。【「いいさい(いいさん)」、「いいさんな」、「～さん」、「～さんな」、「ゆう」参照】 例：困っちゃうことがあるんなら、はよーいいんさい。聞いてあげろけー。 (困っていることがあるのなら、早く言いなさい。聞いてあげるから。)
119	いうけえー (言うけえー) (ゆうけえー)	言うから。 「ゆうけえー」とも言う。「ゆう」の方が山口弁の正調。過去形で言う時は、「ゆーたけー(言ったから)」を使うことが多い。ただ単に「いったけー」と使った時は「行ったから」の意味に取られると思った方が良いかな？ 【「～けえ」、「ゆう」参照】 例：お前がいうけえー、ばれたじゃろーがー。 (お前が言うから、ばれたじゃないか。) 例：あんたがいらんことーゆーたけー、 あのおいーおおごとになっちゃうよ。 (あなたが余計なことを言ったから、 あの家は大変な事になっているよ。)
120	いえとり (家取り)	跡取り。跡継ぎ。
121	いえみせ (家見せ)	新築披露。

No.	見出し	説明
122	いかい (いかえー)	①大きい。太い。②目が粗い。③沢山。 言い方は「いかえー」。連母音「アイ」が「アエー」と発音されるので、「いかい」が「いかえー」になる。平安時代には「荒々しい、厳しい」の意味であったが、後に「程度が大きい」という意味合いになり、ここから「大きい」ことを表すようになった。「いかめしい」や「いかる」と同じ語源の言葉。なお、強調の「ど」が頭に付いて「どいかい」が「でかい」に変化したとの説がある。 「いかい」は、西地区は使っていたが、東地区では最近では使われない。 「おーきな」、「おーけな」が主流。会社員が多く、転勤族がいて均質化された地区は「大きい」を使っていたようだ。反対は「こまい」。これは東地区も西地区も使う。【「おーけな」、「こまい」、「ふとい」参照】 注：①②の「大きい、太い、粗い」の意味は今でも使うが、③の「たくさん」の意味は我々の年代では使われていない。しかし、新南陽や鹿野の方言集に載っていたので、記録として収録した。 例：逃がした魚はいかかったいやー。(逃がした魚は大きかったよ。) 例：いかい指じゃねー。(太い指だね。) 例：この網のめやーいかえーで。(この網の目は粗いぞ。) 例：いかいお世話になりました。(大変お世話になりました。)
123	いがい (いがらい)	いがらっぽい。 「えぐい」から転じた言葉で、のどに対して使う。【「いがらい」参照】 例：のどがいがい。(喉がいがらっぽい。)
124	いがいが (いが)	草木などのトゲ。毬(いが)。 栗のトゲは「いが」と言う。あざみを単に「いが」とか「いがぼたん」と言うところもある。また、動詞として使い、「いがいがする」で「のどがいがらっぽい」や「ちょっと棘のようなものが刺さったような肌触りを感じる」時に使う。「はしかい」より少し大きめのトゲの時が「いがいが」。 【「いぎ」、「じがじがする」、「はしかい」参照】 例：かじょー引いたんかの一。ちーと喉がいがいがするだい。 (風邪を引いたのかな。ちょっと喉がいがらっぽいよ。)
125	いがく	①ゆでること。湯搔くこと。②やっつける。 例：野菜をいがく。(野菜をゆでる。) 例：いがいてアクー抜く。(湯搔いてアクを抜く。) 例：マージャンで、いがきあげられたいやー。 (マージャンで、やっつけられたよ。)
126	いかちうま (伊陸馬)	①出だしは勢いが良いが、すぐにバテてしまう人、また、その様子。 ②朝早くから良く働くこと。 ①については、「伊陸」の方には失礼な言葉だが、子供時代に「伊陸」の意味を知らずに、周南の西地区で普通に言っていたらしいので収録した。ご容赦願いたい。 但し、伊陸では、吉川(きっかわ)藩に年貢を納めに朝早くから出発したので、②の「朝早くから良く働くこと」を「伊陸馬」と言うようだ。 ①の「出だしは良いがすぐバテる」の意味は、多分、周辺の町に出た時には、朝早くから働いているので、馬が少しバテていた状態を見て町場の人が言いだしたものと思われる。 例：あいつは、いかち馬じゃけーの一。 (①あいつは、すぐバテるからなあ。) (②あいつは、良く働くからなあ。)

No.	見出し	説明
127	いかにもの一	如何にも。成程。本当に。 相槌の言葉。 例：いかにもの一、あんたがゆう通りじゃ。 (なるほどね、あなたが言う通りだ。)
128	いがむ	ゆがむ。曲がる。 他動詞になると「いがめる」になる。 例：ちょっと、いがんじよるのー。(ちょっと、ゆがんでいるね。)
129	いがらい	①塩辛い。②いがらっぽい。 のどが刺激される感じ。「えぐい」と「からい」が合わさって、「えがらい」。これが転じて「いがらい」。【「いがい」参照】
130	いがる	叫ぶ。がなりたてる。喉から絞り出すような大声で叫ぶ。 腹の底から出す大声でなく、喉に負担を掛けて出す大声のこと。「いがる」は子供がじらを言いながら、泣き叫ぶ時に使うのが多いかな？ 地域や人によっては「えがる」とか「いげる」も言う。 裂けるように声を出すのが「さけぶ」、「おー」と言うような声の限り叫ぶのが「おらぶ」、イガイガした声をあげるのが「いがる」、猛々しく咆え叫ぶように声を発するのが「たける」となった。本来、それぞれに違いがあったようだが、今は「いがる」以外は、「大声で叫ぶこと」に統一されている。 【「おらぶ」、「たける」参照】 例：あの子が、いがっちゃうね。(あの子が泣き叫んでいるね。) 例：いがってゆーけー、なにょーゆいよるんかよーわからん。 (しわがれ声でがなり立てるから、何を言っているのか良く分からない。)
131	いかん	①「してはいけない」ことをちょっと強めに言うこと。ダメだ。 ②行かない意思をしめすこと。 ちょっと、やおめ(柔らかめ)に言う時は「いかにーね(行かないわよ)」、「いかにーね(行かないよ)」。 近い過去の話なら、「いにかんかった」、もう少し古いと「いかなんだ」、「いかだった」。どれも標準語では「行かなかった」となる。 ただ、「いにかんか」になると、誘う言い方になり、意味が変わる。 「いにかんのか」になると行かない理由を聞く言い方になる。 【「いけん」、「おきん」、「みん」、「～んか」参照】 例：いかに! (駄目だ!) 例：わたしゃー、いかによ。(私は行かないよ。) 例：遊びにいにかんか。(遊びに行かないか。) 例：遊びにいにかんのか。(なぜ、遊びに行かないのか。)
132	いぎ	①魚の「小骨」のこと。②草木の「トゲ、いばら」のこと。 よって、さるとり茨は「いぎのは」とも言うし、あざみのことを単に「いぎ」とか、「いぎのは」、「いぎばな」と言うところもある。どちらかと言うと、①は「いぎ」と言い、②の意味では「いぎ」とも「いが」とも言うような気がする。「すいばり」と同じように、「いぎが刺さった」ことを「いぎが立った」とも言う。九州では「いぎ」と言うらしい。「いぎ」は山口でも言うところがあるようだ。 【「いがいが(いが)」、「いぎのは」、「すいばり」参照】 例：のどに、いぎが刺さった。(のどに、小骨が刺さった。) 余談：昔は「のいばら」などの「いばら類」や「薔薇(バラ)」のことを、「いぎ」、「いぎぼたん」、「いがぼたん」と言っていたようだ。

No.	見出し	説明
○ 133	いきしな	行く途中。 「いきし」とも言う。逆に行く先の人から見ると、それは「きしな(来る途中)」となる。反対は「いにしな(帰りがけ)」、「かえりしな(帰る途中)」、「もどりしな(戻る途中)」。「行きし戻りし」は「行ったり帰ったり」、または「行きと帰り」の意。【「いにしな」、「かえりしな」、「きしな」、「～しな」参照】 例：いきしなに寄るからまっちょてくれ。 (行く途中に寄るから待っていて下さい。)
134	いきっ (行き)	行けよ。お行き。 単に「行け」と言うよりは少し柔らかい言い方。言い方は「いきっ」。 例：はよっ、いきっ。(早くお行き。)
135	いぎのは	さるとりいばら。(植物) 5月頃、葉を柏餅に使う。【柏餅の呼び名については「ほてんどー」参照】 余談1：周防大島では、「ぶとんば」、「まんじゅうば」とも言う。また、柳井、玖珂、周防大島では「ぼたんば」とも言う。 余談2：「あざみ」を「いぎのは」と呼ぶこともあるようだ。(昔の下松) 余談3：小郡方面では何でも突っかかって来る人のことを「いぎんど」と言う。「いぎ」が引っかかることを転用した言葉。どうやっても「うん」と言わない人は「おうふく(往復)いぎんど」と言うらしい。 余談4：柏餅を「がめの葉もち」の名前で売っているが、「がめの葉」は福岡筑前地方の「さるとり茨」の呼び名。「がめ」は亀のこと。葉脈が甲羅の形に似ているから名付けられたようだ。 余談5：山陰や広島の一部、山口では玖珂で、「かたら」と言う。「かたいら(堅棘)」のつづまった言い方。他には「いがぐい」、または「くいのみ」と呼ぶ。「くい(杭)」も、とげのこと。 余談6：「さるとりいばら(猿捕茨)」のことを、最近は「さんきらい(山帰来)」と言う人が多い。「さるとりいばら」に良く似た棘のない「土茯苓(どぶくりょう)」の別名「山帰来」が転用されたようだ。
136	いきはがわるい	行き難い。便利が悪い。遠回りになる。 西地区で使う。東地区は聞いたことがない。 例：あそこの病院は、いきはが悪(わり)いんちゃー。 (あそこの病院は、行き難いんだ。)
137	いき目がい (生き目が行く) (いきめにく) (いきめいく)	役に立つ。効果がある。有効だ。 円滑に物事が進み、予想以上の順調な結果を得ること。 漢字は「生き目が行く」。道具や機械の使い勝手や、手法、手段の効果などを表す時に使う。「いきめ」は、かつては「生きている状態や生きる可能性、見込み」の意味で使われていたが、発展的に「役に立つこと、効果、有効」の山口弁の意味になったようだ。「いきめにいく」、「いきめいく」とも言う。この表現は、物事に対しては使うが、人に対しては使わない。使うと失礼になる。反対は「いき目がいかん(うまくいかない、気がきかない)」。 また、この言葉には納得のいく合理性を求めるニュアンスもあるので、「いきめーいく説明をしてくれ(よく分かるように説明してくれ)」と言うようにも使う。 例：そりゃー、こっちに使こた方がいき目がいきいやー。 (それは、こっちに使った方がうまく進むよ。) 例：こりゃー、いき目がいかん道具じゃのー。 (これは、役に立たない道具だなあ。) (これは、使い勝手が悪い道具だなあ。)

No.	見出し	説明
138	いきゃー	行けば。 仮定の接続助詞「～ば」が「～やー」となり、直前語の語尾と融合して拗音化を起こした例。 例：そねーに行きたいんなら、いきゃー、ええじゃ！ (そんなに行きたいのなら、行けば、良い！) 《「後はどうなっても知らんよ」の意味あり》
139	いきよる (行きよる)	行きつつある。行っている最中。 【「『～しよる』と『～しとる』」、「『～よる』と『～ちよる』」、「やりよる(やりよーる)」参照】 例：《電話で》 A；ちょっと出るんが遅れるけー、先に行きよってくれー。 (ちょっと出発が遅れるから、先に行っていて下さい。) B；なんてー、わしらー、はあー行きよるで。 (何だって、私達は、もう行く最中だよ。)→(出発したよ。)
140	いきらかす	けしかける。意気込ます。 「いきらかしあげた(おどしあげた)」のように、「相手を威圧して、強弁する、威嚇(いかく)する」意味もあるようだが、このような使い方をしたことはない。 例：まあそねーに、いきらかすな。 (まあそんなに、噓(けしか)けるな。)
141	いきをする (息をする) (いきゅーする) (いきよーする)	休息をする。骨休みをする。 「息」は「生き」と同根で生命を意味した。本来は長い労働が続いている中、雨で仕事が出来ないような時の「生き返るような休み」に対して使った言葉。言い方は、子音内の母音「イ」+助詞「オ」は「ユー」または「ヨー」となるので、「いきゅーする」や「いきよーする」になる。 現在は、かなり、詰めた作業の中での一休みに使う。「一服しようでよ」とほぼ同じ。 例：あー、えらい。ちょっと、いきをしようでよー。 (あー、疲れた。ちょっと、一休みしようよ。)
142	いきんさんへー (いきさんへー) (いきん さんせー)	「行きなさい」、「行ってみたら」の意。 「いきさんへー」、「いきんさんせー」とも言う。 ちなみに「行く」と言う言葉を基に、 「いってきめー(行ってきたさい)」、「いくんか(行くのか)」、「 「いかれん(行かない)」、「いかなでよー(行かないよ)」、 「いきんさんな(行くな)」、「いきゃーええ(行けば良い)」、 「いかにいーね(行きませんよ)」、「行きない(行きなさい)」 の様にいろいろな使い方がある。 【「～さんせー」、「～ない」、「～は一れ」参照】
143	いぐしりわりー (いぐしり悪い) (いぐすり悪い)	うっとうしい。気分が悪い。 防府地区で使う。小郡辺りでは「いぐすり悪い」になるようだ。周南では聞いたことが無い言葉である。

No.	見出し	説明
144	いくん	行くの? 行くのか? 言い方は、普通に聞く時は「いくん?」と歯切れ良く、ちょっと上がり調子に言うが、疑問が強い時は「いくーん?」のように伸ばして上がり調子に言う。聞きながらその行動に否定的な時は「いくーん?」と下がり調子になる。女言葉。【「～ん」参照】 例: はあ、いくん? (もう、行くの?) 《あっさり》 例: はあ、いくーん? (もう、行ってしまうの?) 《余韻あり》 例: 明日は、いくーん? (明日は、行くの?) 《行かないよね!》
○ 145	いける	①できる。可能だ。 反対は「やれん」。【「やれん」参照】 ②[行くことができる。] ②は標準語。 例: そりあーいけるじゃろう。 (それは出来るでしょう。)
146	いけるか	①良くない。許されない。いい訳がない。 禁止の意を表す。「か」は反語の終助詞。 ②できるか。 ③[行くことができるか。] 字は「行けるか」。後ろに「～い」「～いね」「～いや」などが付く言い方を良く使う。「いけん」より少し柔らかい言い方か? 【「いけん」参照】 例: あねーなことゆーて、いけるかいね。 (あんなことを言っでは、良くないよ。) 例: 《作業を見守っていて》 うまいこと、いけるかの一。 (上手にできるかなあ。)
147	いけん	①してはいけないこと。駄目なこと。嫌(いや)なこと。 ②行かないこと。行くことが出来ないこと。 強めの言い方は「いかん」。【「いかん」、「いけるか」参照】 例: そりあー いけん。(それは駄目です。) 例: はよーおきちゃーいけんよ。 (早く起きてはダメだよ。) 例: 《亡くなりそうな時》はーいけんらしい。 (もうダメらしい。) 例: そねーなことをゆーちゃー、いけんですいね。 (そんなことを言っでは、いけないですよ。) 例: わりー、いけんのんよ。 (悪い、行けないのよ。) 例: いけんけえー、よろしゅーゆうちよって。 (行けないから、よろしく言っておいて。)
148	いごきも すごきもせん	動きも素動きもせん。つまり、微動だにしないこと。 「いっそ動きゃーへん」とか「てんくら動かんのー」と言うのと同じだが、どうやっても動きそうにない時はこの言葉を使う。 【「いっそ」、「てんくら」参照】 例: こりゃーおもとーて、いごきもすごきもせんてよー。 (これは重たくて、微動だにしないよ。)

No.	見出し	説明
149	いごく	動く。 「ウ」が「イ」に母音交替した例。他動詞は「いごかす(動かす)」。 例：そねーに、いごきんさんな。 (そんなに動かないで下さい。) 例：《すいばりを取ってもらっている子供に》 いごいたら、すいばりが取れんじゃないかね。 (動いたら、トゲが抜けないよ。) 例：あのうすーいごかしたいんじやが、てつどーてくれんかね。 (あの臼を動かしたいのだが、手伝ってくれないかな。)
150	いさぎえー	潔い。さっぱりした人。
151	いしぞうけ (石筴)	箕(み)。 「そうけ」は竹で編んだ浅い「ざる」のこと。丸の一部を切って「み(箕)」の形にしたもので、土砂や諸物を入れて両手で抱えて運ぶものを「いしぞうけ」と呼んだ。昔は「いしぞうけ」と「てみ(手箕)」の両方の呼び名が使われていた。今でも「いしぞうけ」の呼び名の方をよく使うと言う方もおられるが、どちらかと言うと「てみ」の方が優勢かな？ 但し、宇部や小野田の方では「えぶ」とも言う。 【「えぶ(得歩)」、「そうけ」、「てみ」参照】
152	いしやら	おはじき(御弾き)。 東地区(櫛ヶ浜)で使う。県内では他には「やさら(柳井、萩)」、「やさらご(柳井、玖珂)」、「やしやら(周防大島)」の呼び名がある。 遊びに「きさご(にしきうずがい科の巻貝)」を使うところから来ている名前で、「いしやら」、「やさら」、「やしやら」は全て「きさご」の別名(方言)。貝を「きさご」、「きしゃご」と呼ぶところは、御弾きも「きさご」、「きしゃご」と言うらしい。 なお、下松の方言集に「いしやら：貝殻」とあったので、下松でも「おはじき」のことを「いしやら」と言っていたかも知れない。 【「おしとつ(おじゃみ、おひとつ)」参照】
○ 153	いじる (弄る)	①手で触る。いじくる。 少し動かす意味も含まれている。目的なしに本質的でない部分を変えたりすることにも使う。ひどくいじくることは「いじくりまわす」。 【「いらう(いろう)」参照】 ②軽くからかう。かもう。 いじめるまでひどくはない。 【「かしらう」、「かもう」、「せがう」、「せつく」参照】 例：勝手にこの装置をいじるんじゃないぞ。 (勝手にこの装置に触って動かさないこと。) 例：会則をいじる。 (会則を変える。) 例：そねーに、ちいさい子をいじるなよ。 (そんなに、小さい子をからかうなよ。)

No.	見出し	説明
154	いずい	①賢い。②違和感。窮屈。収まりが悪い。 ①は東地区(笠戸島)で使う。「賢い」の意味では、県内は「えずい」を使っているところが多い。②は「違和感がある、身に着けるものが窮屈である」の意味で、東地区で使う。 各地の方言集を調べると、「いずい」の説明は、新南陽では、「えずい(冷酷、無情) むづかしい」、周南市小畑は「けちくさいこと」、防府は「気むづかしい 近寄りがたい」となっている。柳井は「いずい」、「えずい」ともに、「④賢い 勝気な ⑤冷たい 意地悪い」となっている。柳井は「いずい」は「えずい」の訛りで、昔は、「④賢い ⑤冷酷 ⑥違和感」などの意味で使っていたと思われる。意味の残り方が地域で違う例である。 【「えずい」、「ぐづが悪い」、「はづめい」、「けどい」、「むづこい」参照】 例：あそこなー、おとどいとも、いずいナーの一。 (あそこの家は、兄弟共、賢いからなあ。) 例：このシャツァーわしにゃーちいさーけー、いずいの一。 (このシャツは私には小さいから、収まりが悪いなあ。) 余談1:「いずい」は北海道や東北では、身体に感じる違和感に使われることが多く、主流の言葉らしい。「目にゴミが入って、いずい」、「なんか、いずい」と思ったら、セーターを後ろ前に着ていた」となるようだ。 余談2:「物類称呼」(1775年)に「かはいらしい」と云詞のかはりに津軽にて、いずいと云」とある。「かわいい」の意味にまで変化していた。
155	いたしい (いたしー)	①難しい。②苦しい。③かわいそう。 【「やねこい」参照】 例：あの爺さんは、いたしいけえねー。 (あのお爺さんは、むづかしいからねえ。) 例：ちょっと、いたしいナー、休ましてくれー。 (ちょっと、苦しいから、休ませてくれ。)
○ 156	いたらん	余計なこと。無駄なこと。 「いたらんこと」は「いたらぬこと」のこと。思慮が足りず、行き届かないことから余計なことをしてしまうこと。 例：いたらんことをするな。 (余計なことをするな。)
157	いたんなし (いたりなし)	①心配りのない人。気の利かない人。 ②不始末な人。物事に対処できない人。 ③だらしない人。自堕落な人。怠け者。 「いたり(至り)」は「心配り、はからい」の意味で、それが無いから「いたりなし」、それが訛って「いたんなし」のようだ。昔は全県で使われていたようだが、現在では岩国や周東地区で残っている程度。周南ではもう使われていないかな? 例：こんなあ、いたんなしじゃけえ、家の周りはつづけ放題じゃ。 (こいつは、不始末だから、家の周りは散らかったままだ。)
○ 158	いちがいな	強情な。一概のこと。 注:「いちがいに(一概に)」なら標準語の使い方で「同じように扱えないさま」のことを言う。 例：あの人はいちがいなじゃけーね。 (あの人は強情だからね。)
159	いちがいほり	強情な人。一刻者。

No.	見出し	説明
160	いつかしらん	何時の間にか。知らないうちに。 「いつか知らぬ」の転。「いつかしら」のこと。 例：いつかしらん、できちゃったでー。 (知らん間に、出来ていたよ。)
161	いっこに	①一緒に。共に。 どちらかと言うと幼い女の子の言い方。1個のことも「いっこ」だが、それが転じて、「一緒に」の意味になったか？ ②ひとまとめに。一括りに。 例：いっこにあそぼうやー。(一緒に遊ぼうよ。) 例：《ちらばっているのを見て》 そりゃー、まとめていっこにしよう。 (それは、まとめて一括りにしよう。)
162	いっこも	少しも。ちっとも。全く。 【「いっそ」、「ひとつも」、「よいよ」参照】 例：いっこも動かんじゃ! (少しも動かないではないか!)
163	いっしく	いつも。 いっしき(一色)の変形か? 西地区のみ。東地区は言わない。 【「いつちゅうこたあなあ」、「いつもかつも」、「まがなすきがな」参照】 例：お前は、いっしく、それを言うなあ。 (お前は、いつも、それを言うなあ。)
164	いっしょうかぶ (一升株)	大酒飲み。大酒豪。飲み助。 字は「一升株」。 【「いっとだる」、「そこがない(底が無い)」参照】
165	いっしょうめし (一升飯)	大飯食らい。大食漢。 字は「一升飯」。
166	いっしょこたー	一緒くた。雑多なものをひとまとめにする。ごちゃまぜ。 例：何もかも、いっしょこたーにしちよるんじゃけー、 やれんに一の。 (何もかも、一緒くたにしているんだから、たまらないよ。)
○ 167	いっそ (いっそー)	①少しも。一向に。②全く。ほんとに。 ③いつも。すでに。④[思い切って。] 「一層」の転。「いっそー」と伸ばして言うこともある。①の場合は、否定語を伴う。 【「いっこも」、「ちゅうに(ちゅーに)」、「ひとつも」、「よいよ」参照】 例：ゆんべは、いっそねちよらんのんじゃないかね。 (昨夜は、少しも寝ていないのではないかね。) 例：いっそ、いけんのー。(まったくダメだ。) 例：そのこたー、いっそー知らんがのー。 (そのことは、まったく知らないなあ。) 例：いっそ、ご無礼しちよります。 (すっかり、ご無沙汰しています。) 例：あのひたー、いっそ寝てばっかしーいね。 (あの人は、いつも寝てばかりですよ。) 例：いっそ、本降りになったらええのに。 (思い切って、本降りになったら良いのに。)

No.	見出し	説明
168	いつちゅう こたあなあ (いつちゅう こたあない)	①いつも。いつと定めることなく。常に。 ②いつの間にか。いつとはなしに。 「いつとなく」の意。 【「いっしく」、「いつもかつも」、「まがなすきがな」参照】 例：いつちゅうこたあない、うとーちよる。 (いつもかつも、歌っている。) 例：《いつ好きになったのかと聞かれて》 いつちゅうこたあ、好きになっちゃったんちゃー。 (いつの間にか、好きになっていたんだ。)
169	いっちょうらい (いっちょうらい)	一張羅。 [一張羅(いっちょうら)：たった一枚の上等の着物。晴れ着のこと] ろうそくが貴重な時代に、一本の貴重なろうそくのことを「一挺蠟(いっちょうろう)」と言った。「一張羅」はこれが語源だと言われている。 余談：大分では「一張羅」のことを、「けんちよいき(県庁行き)」と言うそうだ。
170	いっておかえり	行ってらっしゃい。 送り出す方の言い方。「行ってきます」に対する言葉。
171	いっとだる (一斗樽)	大酒飲み。大酒豪。飲み助。 字は「一斗樽」。一斗は十升。約18リットル。 【「いっしょうかぶ」、「そこがない(底が無い)」参照】
172	いっぽーかた (一方片)	片一方。 「片一方」の逆の言い方。 例：靴がいっぽーかたしかないでー。 (靴が片一方しかないぞ。)
173	いつもかつも	いつも。常に。 「いつも」の強調表現。 【「いっしく」、「いつちゅうこたあなあ」、「まがなすきがな」参照】 例：あいつは、いつもかつも、おんなじ格好をとするのー。 (あいつは、いつでも、同じ格好をしているな。)
174	いとーない	痛くない。 「痛くなる」は「いとーなる」、「痛くなった」は「いとーなった」。 【「～(し)とーない」参照】 例：《こけて足を擦りむいた子供に、 「我慢しろよ」の意を込めて、ゆっくりと言う》 <u>いとー</u> ない、いとーない。 (痛くない、痛くない。) 注：形容詞の連用形活用語尾「ク」と一部の副詞の語尾「ク」がウ音便化する。「アク」は「オー」と発音される。よって、「痛く(イタク)」が「イトー」、「若く(ワカク)」が「ワコー」、「早く(ハヤク)」が「ハヨー」、「漸く(ヨーヤク)」が「ヨーヨー」になる。 【「あぐ」、「あこーなる」、「おきゅーなる」、「おそーなる」、「ひよーなる」、「ふるーなる」参照】

No.	見出し	説明
175	いなげな (異気な)	変な。おかしな。怪しげな。 「地方別方言語源辞典」によると、「異な」は本来であれば、形容動詞「異なり」の連体形であるが、中国・四国地方では「静かな・大儀な」と同じように終止形が「異な」となる。この「異な」に伝聞・推測の助動詞「げな」が接続して、「異な(異である)」より柔らかい表現の「いなげな」が成立したようだ。 これが、「～な」で終わっているのので、再び形容動詞となり、「いなげなかるー」「いなげなじゃろー」「いなげなかつた」「いなげなこと」などの活用をする。 【「おかしげな」、「～げな」、「～な」、「ひょんげな」、「みょうちくりん」参照】 例：今頃は、いなげな格好をした人がおーいねー。 (近頃は、変な格好をした人が多いね。)
176	いなす (いなせる)	帰らす。帰らせる。 人を帰らせる時に言う。言い方は「<u>いな</u>す」、「<u>いな</u>せる」。「帰ろう」は「いのう」。 【「いぬる(いぬ)」、「いのう」参照】 例：あいつは、<u>いな</u>すから、もーちよい待っちゃてくれー。 (あいつは、帰らすから、もうちょっと待っていてくれ。) 例：しろーしいけー、あいつあー、もう<u>いな</u>せーよ。 (うるさいから、あいつは、もう帰らせろよ。)
177	いなん	帰らない。 【「いぬる(いぬ)」参照】 例：《子供たちが遊んでいる所で》 A;もう、おそいけー、いにんさいよ。 (もう、遅いから、帰りなさいよ。) B;まだ、いなんで、えかろー? (まだ、帰らないで、良いでしょう?)
178	いなんにやー	帰らなければ。 「いなんにやー」は「いぬ(帰る)」+「～んにやー」で、「帰らなければ」の意。「いなん(帰らない)」+「～んにやー」ではない。 【「いぬる(いぬ)」、「～んにやー」参照】 例：もう、時間じゃけー、いなんにやーいけんわー。 (もう、時間だから、帰らなければいけないわ。)
179	いにさい (いにんさい)	帰りなさい。 「ん」が入ると「いにさい」より少し柔らかい言い方になる。 よその人を家から追い出す時に使う率が高い。よその家にいる子供を呼び戻す時は「かえりんさい」を使う。 【「～さい」、「～さん」参照】 例：《騒いでいる人に》 もうー、あんたはうるさいから、いにんさい。 (もう、あなたはうるさいから、帰りなさい。)
180	いにさえる (いにんさえる)	帰りなさる。 「ん」が入ると「いにさえる」より少し柔らかい言い方になる。 【「～さいる(～さえる)」参照】 例：《先客がいた時》 もう、いにさえるから、ちょっと、待ってってつかーさい。 (もう、帰られるから、ちょっと、待っておいて下さい。)

No.	見出し	説明
181	いにさった (いにんさった) (いにさえた)	帰りなさった。 「ん」が入ると「いにさった」より少し柔らかい言い方になる。 例:《〇〇さんがいないかと訪ねて来た人に》 もう〇〇さんは、いにさったでー。 (もう〇〇さんは、帰られたよ。)
182	いにさる (いにんさる)	帰られる。 「ん」が入ると「いにさる」より少し柔らかい言い方になる。 例:《先客があった時》 はあ、いにさるじゃーから、奥で待ちよってー。 (もう、帰られるだろうから、奥で待っておいて。)
183	いにしな (いにがけ)	①帰ろうとする時。②帰る途中。 帰り掛けのこと。「いにしな」の最後の「な」を省略して「いにし」と言う時もある。反対は「いきしな(行く途中)」。 【「いきしな」、「おりしな」、「かえりしな」、「きしな」、「～しな」、「もどりしな」参照】 例:いにしなに、持って帰るから、そこに置いちゃってー。 (帰る時に、持って帰るから、そこに置いて。)
184	いぬる (いぬ) (去ぬ) (往ぬ)	帰る。 古語の「往ぬ」から。過去形は「いんだ」。「帰ってから」は「いんでから」になる。江戸時代は共通語だったようだ。 【「いなす」、「いなん」、「いなんにゃー」、「いにさい」、「いぬ」、「いのう」、「いんだ」、「いんで」、「～しょー」参照】 例:こんな一なかなか、いなんの一。 (こいつはなかなか、帰らないなあ。) 例:ぼちぼち、いの一でね。(ぼちぼち、帰ろうよ。) 例:もうじき、いにますけー。(もうじき、帰りますから。) 例:あんたがいぬるんなら、わしもいのう。 (あなたが帰るのなら、私も帰ろう。) 例:ようよう、いんだでよー。(やっと、帰ったよ。) 例:はー、いんでもらおーいぬ。(もう、帰ってもらおうよ。) 例:サザエをやるから、いんでから食べんさい。 (サザエをあげるから、帰ってから食べなさい。) 例:わたしゃー、はー、いぬるでね。(私はもう帰るよ。) 例:今日は、いぬるでえー。(今日は帰るよ。) 例:いぬるときゃーゆーてくれーよ。(帰る時は、言ってくれよ。) 例:はー、いぬりゃーええのにねー。(もう、帰れば良いのにね。) 例:はー、いにゃーええのにねー。(もう、帰れば良いのにね。)
185	いぬ	帰れ。 強い命令形。どちらかと言うと目下に使う男言葉か? 【「いぬる(いぬ)」、「いんで」参照】 例:《騒いでいる仲間に》 もうー、おまえらはうるさいから、いぬ。 (もう、お前たちはうるさいから、帰れ。)

No.	見出し	説明
186	～いね (～いの) (～いや)	～よ。～だよ。～よね。 多くは気安く話す時に使うが、「ゆーた<u>いね</u>(言ったよね)」のように、相手を責める言い方になることもある。どちらかと言うと「～いね」は女性が使い、男性は「～いの」や「～いや」を使う。 【「～い」、「それいね(その2:い)」、「～だい」、「～ちゃー」、「～で」、「～ど」、「～といや」、「～ね」、「～のー」、「～や」参照】 例: そりゃー熱い<u>いね</u>。(それは熱いよ。) 例: うちゃーいや<u>いね</u>。(私はいやよ。)《女性》 例: わしゃーいや<u>いや</u>。(私はいやだよ。)《男性》 例: こりゃー<u>私のいね</u>。(これは私のよ。) 注: 「わたしのいね(私のよ)」の言い方は「の」を少し強めにし言い、「わたし <u>のいね</u>」のように「し」と「の」の間がちょっと途切れる感じになる。「わたしの <u>いね</u>」ではない。「わたし もいね(私もよ)」の言い方も同様。
187	いのう	帰ろう。 言い方は「<u>いのう</u>」。「いぬる」の未然形。「帰りましょう」は「いにましょー」または「いにまひょー」、「帰らせる」は「いなす」、「いなせる」。 【「いなす」、「いぬる(いぬ)」、「～しょー」、「～ひょう」参照】 例: もう遅いけえ、<u>いのう</u>かいのおー。 (もう遅いから、帰ろうかねえー。)
188	いび	ゆび(指)。 今では、年寄りしか使わないかな?
189	いびしー (いびせー)	見て気持ちが悪い。見た目が汚らしいこと。 うっとうしいの古語「鬱悒し(いぶせし)」からと、不吉なこと甚だしいと言う意味の「いみじ」の変化との二説あり。息が詰まるような衝撃的な恐ろしさでなく、じわっと迫って来る気味悪さのことを言う。「いびしない」は「見苦しい、汚い」の意、「いびつけない」は「汚い、みじめだ、かわいそう」の意になる。 【「おそろしー」参照】 例: その柄はいびしーねー。(その柄は気持ち悪いね。) 例: 誰かゲロしちよー。いびしーのー。 (誰か吐いている。汚いなあ。) 余談: 広島では「恐ろしい」の意味で、「いびせー」を使う。元々は「いびせー」に「気持ち悪くて恐ろしい」のように、「気持ち悪い」と「恐ろしい」の二つの意味があったが、広島では「恐ろしい」が残り、山口では「気持ち悪い」が残ったようだ。ただ、柳井や岩国の方言集には「恐ろしい」の意味も載っているの、今も、県内にこの意味で使っているところがあるかも知れない。
○ 190	いびる	あぶる。じわじわ熱する。 小魚をあぶって食べる時などに使う。「油で炒める」ことを「いびる」と言うところもある。当然、「嫁をいびる」のように「いじめる」意味でも使う。
191	いぼめる	痛めつける。苛める。 山口県方言辞典によると、「いぼめる(言葉で人を悩ます。) 例: そんなに親をイボメルものではない。」とあったので、言葉で痛めつける意味合いが強いような感じがする方言である。方言集を調べたら、長門、豊浦、八代、周東に載っていたので、昔は全県で使われていたようだ。 【「えらめる」参照】

No.	見出し	説明
192	いまのこと (いまんこと) (いまんさき) (いまんがた)	①たった今。つい先ほど。 「今し方」の意。「いまんさき」、「いまんがた」とも言う。 ②今に。近い将来。 例：いまのこと、帰ったところじゃーいねー。 (たった今、帰ったところだ。) 例：いまんこと、怒られるでー。 (直ぐに、怒られるよ。)
193	いまゆーふしに	今、言うように。 「ふし」は「節」のこと。明治、大正生まれの人は言っていたが、我々は聞いた程度。 例：いまゆーふしに、うまあーこといきゃーええがのー。 (今、言うように、上手にいけば良いがね。)
194	いまんとこ	今の所。現段階では。当面。 例：いまんとこ、問題はないよ。 (今のところ、問題は無いよ。)
195	いも	さつまいも(薩摩芋)(甘藷)。(芋) 山口県では「いも」と言えば、普通「さつまいも」のことを指す。 【「とーいも」、「りゅうきゅういも」、「るいきいも」、番外の「芋の呼び名」参照】 余談：北海道では「いも」と言えば、「じゃがいも」のことらしい。
196	いもをひく (芋を碾く)	一歩引く。怖じける(おじける)。 東地区で使う。字は「芋を碾く」。言い方は「いもーひく」。 例：あねーなこと一言われて、わしゃーいもーひーたでよ。 (あのようなことを言われて、私は怖じけたよ。)
197	いら (苛・刺)	①気短な人。せっかち。 ②刺すくらげ。(刺胞動物) ③癩癧(かんしゃく)。 ④毛虫。(虫) せっかちな人は「いらっち」とも言う。防府では「いらっぽ」、宇部では「いらち」、阿知須では「いらばち」言うらしい。豊浦の方言集には「いらばち」で「落ち着きのない人」となっていたので、ちょっと違う意味に使っているのかも知れない。癩癧が起きることを「いらがでる」、「いらがおきる」と言う。 また、萩や福栄の辺りでは、蟻のことを「いら」と言うようだ。 そして、「いぎ」と言うことが多い「あざみ」のことを柳井や熊毛辺りでは「いら」と言っていたようだ。 例：あの人は、いらじゃねー。 (あの人は、せっかちな人だね。) 例：盆を過ぎたら、いらが出る。 (盆を過ぎたら、刺すクラゲが出る。) 例：また、あの人がいらをおこしちよーねー。 (また、あの人が癩癧を起しているよ。) 例：葉の裏に、ちいさーいらが固まっちゃったいやー。 (葉の裏に、小さい毛虫が固まっていたよ。) 余談：「防長動植物方言考」によると、山口県内の毛虫の方言としては他に、「ひげうじ」「ひげむし」もあるようだ。

No.	見出し	説明
○ 198	いらう (弄う) (綺ふ) (いろう)	①いじる。触る。 少し動かす意味に使う時もある。「いろう」とも言う。「いらわす(いじらせる、触らせる)」、「いらわせるな(いじらせるな、触らせるな)」の様に使う。「いらわんこと」は「さわらないように」のこと。 ②手を加える。修繕する。手入れする。 家のリフォームをするようなことを「家をちよついろう」と言う。畑の手入れも「畑をいろう」となる。 平安や室町時代の「いろふ」は「かかわり合う、世話をやく、干渉する」等の意味であった。江戸時代初めの「日葡辞書」にも「かかわり合う」となっている。それ以後、「手でさわる、いじる」の意味に使われるようになった。「いろう」の「オウ」が「アウ」になって「いらう」となり、「オウ」が長音化すると「オー」になって「いろー」となる。元は中央語だが、明治以降、岐阜、北陸以西で方言化している。 【「いじる」、「おう(会う)(合う)」参照】 例：こりょー、いろーてみいやー。(これを、触ってみる。) (これを、ちよつと動かしてみろ。) 例：そねーなきしゃなーものーいろーちゃーいけんでね。 (そんな汚いものを触っては駄目だよ。) 例：雨漏りするけー、やによーちーといろわんにやーいけんのー。 (雨漏りするから、屋根をちよつと修理しないとイケないなあ。) 余談：東北や北海道では、「さわる」が「ちよす」、「さわるな」は「ちよすな」らしい。
199	いらく	乾く。 「乾かす」は「いらかす」と言う。「炒来(いりく)」の転か。東地区は「いらいた」の言い方が多いが、西地区は「いらえーた」と言う。西地区が山口弁の正調の言い方。熊本や大分では「いろく」らしい。 【「ひる(干)」、「ふやぐ」参照】 例：もう、<u>シャツァー</u>、いらいた。 (もう、シャツは、乾いた。) 例：《風呂上りに》 はよう、<u>かみょー</u>いらかさんと、かじょーを引くよ。 (早く髪を乾かさないと、風邪を引くよ。) 例：《長く晴天が続いた後に、雨が降った時》 ええ降りじゃのー。よーいらいちよるから、 この位じゃーきかんかもしれんのー。 (よい雨だな。よく乾いているから、この位の量ではダメかな。) 注1：母音「ウ」+助詞「ワ」は、「ウァー」と発音される。よって、「シャツ」は(シャツワ)は「シャツァー」になる。 注2：子音内の母音「イ」+助詞「オ」は概ね「ユー」や「ヨー」と発音される。「かみょー」は「ヨー」の場合。よって、「ユー」の場合は「かみゅー」となる。 【「きーつけて」参照】
200	いらん	いらない。要らぬ。 余計なことは「いらんこと」。 【「もとーらん」参照】 例：いらん心配をするな。 (余計な心配をするな。) 例：いらんことばあーかしするねー。 (余計なことばかりするね。)

No.	見出し	説明
○ 201	いろめ (色目)	顔色。血色。 国語辞書にある色調や色合いのことや色っぽい目つきのことにも使う。「けしき(気色)」とも言う。 例：いろめがわりーよ。どーしたん？(顔色が悪いよ。どうしたの?)
○ 202	いわえる	結ぶ。縛る。 「結わえる」の転。【「きびる」参照】 例：しっかり、いわえんと荷が崩れるぞ。 (しっかり、結ばないと荷が崩れるぞ。)
203	いわん こっちゃーない (ゆわん こっちゃーない)	言わないことではない。言った通りだろう。 「い」が「ゆ」になって「ゆわんこっちゃーない」も良く使う。 例：《忠告したのに失敗した人に》 それみー、いわんこっちゃなからうがー。 (それ見ろ、言った通りだろう。)
204	いんきばな (いんき花) (いんきぐさ) (いんき草)	つゆくさ(露草)。(植物) 花をつぶすとインク(青)の様に青い色が付くから。「インキ」はオランダ語。 古くは、「はながら(大島、玖珂、熊毛、厚狭)」、「ほたるぐさ(岩国、高森、高水)」、「はたかり(鹿野、広瀬)」、「かしわぐさ(光、岩田)」などと呼んでいたようだ。
205	いんぐり もんぐり	①くねくねと身悶える様。くねくねと曲がっている様子。 ②ぐずぐずして物事が進まない。ぐずぐずしている。何をしているのか訳が分からない。 編者は使ったことはないが、①の意味から転じて、②の意味に使うようになったようだ。「いんぐり」は「いごく」から、「もんぐり」は「まんぐり」と言うところもあり、「まがる(曲がる)」か「まがふ(紛う)」から派生したようだ。なお、「まがふ」は「まかふ(目交)」に由来している。 ①は広島で良く使うが、県東部(伊陸)でも使う。須佐や周防大島の方言集にもあった。②は県東部(伊陸)や東地区(笠戸島)で使う。萩や周防大島、広島の廿日市の方言集にもあった。どちらかと言うと悪口に使う。周防大島では「ちんぐりまんぐり」とも言うらしい。 【「あずがきれん」、「いごく」、「つんぐりもんぐり」参照】 例：A；なにを、いんぐりもんぐりしよるんかね。 (何をくねくねしているのかね。) B；せなが、かいいんちゃー。(背中が、かゆいんだ。) 例：あのひたーいんぐりもんぐりじゃね。 (あの人はしゃんとしていないね。)
206	いんごー がんぎー (いごうがんぎ)	①完膚無きまでにやられた状態。負けて、どうにもこうにもならない状態。 ②きちんと出来ていない。真っ直ぐになっていない状態。 「いんご」は「ゆがむ」のなまり「いがむ」の「いが」を調子付けて言い、「がんぎ」はのこぎり形になった状態を言う。「がぎがぎ」の「がぎ」を響き良く言った言葉。特に柳井方面から広島方面で良く使われているような気がする？ 【「がんぎ」、「けちよん けちよん」参照】 例：こないだの試合は、あいつにやられて、 いんごーがんぎー(いごーがんぎー)じゃったいやー。 (このあいの試合は、あいつに完膚無きまでにやられたよ。) 例：《垂直に出来ていない塀を見て》 ありや、このへーは、いんごーがんぎーじゃね。 (あら、この塀は、真っ直ぐ出来ていないね。)

No.	見出し	説明
207	いんじゅたれ (因循たれ) (いんじゅん たれ)	引っ込み思案。臆病なさま。小心なさま。内気なさま。 東地区(櫛ヶ浜)で使う。「人見知りをする子供」も「いんじゅたれ」。 【「ひとみず」、「みずをする」参照】 例：あいつは、いんじゅたれじゃからの一。 (あいつは、引っ込み思案だからなあ。)
208	いんだ	帰った。 「いぬる」の過去形。言い方は「いんだ」。【「いぬる(いぬ)」参照】 例：はーいんだとも一たら、まだおったんかー。 (もう帰ったと思ったら、まだいたのか。)
209	いんで	帰って。 「いんだ」は「帰った」。「いんじゃった」は「帰られた」。「いんでくれ」は「帰って くれ」、「いんでみー」は「帰って見ろ」、「いんでみよー」は「帰ってみよう」 になる。「いんでこい」と言ったら「一旦帰って、また来い」の意味になる。「い んで～してこい」や「いんで～してくる」も良く使う。「いんで食べてこい(帰っ て食べて来い)」や「いんで見てこい(帰って見て来い)」、「いんで見てくる (帰って見て来る)」など。 【「いぬる(いぬ)」、「いぬ」参照】 例：もう、いんでかね。(もう、帰ってですか。) 例：《居てもらいたくない人に》もう、いんで！(もう、帰って！) 例：まだ始まらんから、一回いんでこい。 (まだ始まらないから、一旦帰ってまたおいで。)
210	いんにゃ (いんや) (うんにゃ)	いいえ。 「いんや」、「うんにゃ」とも言う。後ろに「～の一」を付けて、「いんにゃの一」、 「いんやの一」と言うことも多い。 【「うんにゃ」、「んにゃ」、「～の一(～の)」参照】 例：A：このお菓子を食べたじゃろー。(このお菓子を食べたでしょう?) B：いんにゃ、食べちゃらんよー。(いいえ、食べていないよ。)
211	うえみて (植え満て)	田植え後の休日。また、その祝いのこと。 「山口県方言辞典」には周防は「どろおとし」で、長門が「うえみて」とあった が、鹿野の方言集には「どろおとし」は無く、「うえみて」が載っていた。よっ て、周南でも昔は言っていたと思われるので、収録した。「みて」は「満て る」の連用形が名詞化したもので、苗を植える作業が終わったことを示す。 【「どろおとし」、「しろみて」、「みてる」参照】 余談：鹿野の方言集の「うえみて」の説明の最後に、「早苗饗(さなぼり)」 のこととあった。これは「さ上り(さのぼり)」の訛で、「さ上り」は田の神を送る 祭りのこと。なお、田植え初めに田の神を迎える行事は「さ降り(さおり)」、 または「さ開き(さびらき)」と言う。これらの言葉も今頃は絶滅危惧種か？
212	うぐる	①穴を掘る。②潜る。 土の中に手を入れて、穴を掘るのが「うぐる」。また、「くぐる」か「もぐる」を 語源としているようなので、「潜る」意味にも使う。 【「うぐろ」、「かずく(かづく)」参照】 例：うぐったら芋がでるで。(掘ったら芋が取れるよ。) 例：水んなかーうぐってみーやー。(水の中を潜ってみろよ。) 余談1：広島では「剥(は)ぐ、めくる」の意味にも使うようだ。この意味では、 山口は「へぐ」かな？ 余談2：「もぐる」が「もぐら」の語源。

No.	見出し	説明
213	うぐろ (うぐら) (むぐろ)	もぐら。(小型哺乳類) 光地区では言っていたが、他の地区は知らなかった。「むぐろ」とも言う。他にも「うぐらもち」、「うぐろもち」、「うぐら」等、いろいろな呼び名があったようだ。土などが盛り上がるのを「うごもつ、うぐもつ(填つ)」と国語辞書にある。この昔の言い方は「うぐろもつ」か? 連用形が「うぐらもち」。これらの言い方が名詞化したようだ。【「うぐる」参照】 例:うぐろが、うぐっちょる。(モグラが、穴を掘っている。)
214	うしろあたま (後ろ頭)	後頭部(こうとうぶ)。 山口県や大分、宮崎県で使う。防府では「うしろこぶ」とも言うらしい。東京では「こうとうぶ」。 例:うしろあたまに手をやってみんさい。 (後頭部に手を当ててみなさい。)
○ 215	うづく (疼く) (うづく)	痛む。神経や筋や傷の痛み。 「山口県方言辞典」の「にがる」の欄に神経痛の痛みは「うづく」と載っていたので、収録した。例文としては「肩がうづく」とあるので「肩こり」のような痛みか? 他の方言集には国語辞書と同じ意味の「ずきずき痛む」とあったので、標準語と同じ使い方である。【「にがる」、「はしる」参照】
216	うずろうしい	①鬱陶(うっとう)しい。煩(わづら)わしい。面倒くさい。うるさい。目障り。 ②どうにもこうにもならない。 語源は「うざらしい」。邪魔けなものがウザウザある感じから言った。「うざろーしい」とも言う。広島では普通に「毎日、雨でうずろうしいのー(毎日、雨でうっとうしいね)」のように使う。虫が目の前を飛んで回るのも「うずろうしい」。どちらかと言うと広島弁で、広範囲に使われている言葉ではない。②は①の転意で、「うずろうしい人」のように使うが、局所的な使い方ようだ。【「どもならん」、「やれん」参照】
217	うそいい (嘘言い)	嘘つき。 「うそき」とも言う。昔は「まいす(うそつき)」とも言ったらしい。ただ、「まいす(売僧)」は国語辞書に載っている言葉。 【「うそをいう」、「せんみ」、「まんみ」参照】 例:あのひたー、うそいいじゃから当てにならん。 (あの人は、嘘つきだから当てにはならない。)
218	うそをいう (嘘を言う) (うそーゆー)	嘘を吐く(うそをつく)。 「 <u>う</u> そを言う」は山口弁。「うそをつく(吐く)」は標準語。言い方は「 <u>う</u> そーゆー」が多いかな。「うそをこく(放く)」とも言ったが、これは標準語の卑語か? 【「うそいい」、「うそをいえ」参照】 例:うそーゆーちゃーいけんよ。(嘘を吐いてはいけないよ。)
219	うそをいえ (嘘を言え) (うそーゆーな)	嘘を吐くな(うそをつくな)。 命令する言い方ではない。嘘をつく人に対して、疑問視して「嘘をついてい るのではないか」と言う意味で、「うそをいえ」や「うそをゆうな」と言う。「うそ を言うな」のこと。言い方は「 <u>う</u> そーいえー」、「 <u>う</u> そーゆーな」。少し柔らか い言い方として、「うそをいさんな」も良く使う。「うそを言ってはいけな いよ」と言いながら、「うそをついているでしょう」の意。 【「いいさんな」、「うそいい」、「うそをいう」参照】 例:《うそらしいことを話している人に対して》 うそーいえ。そりゃーおかしいでえ。 (嘘をつくなよ。それはおかしいよ。)

No.	見出し	説明
220	うだうだ	①くどくど言うこと。②ぺちゃくちゃの意味。 【「ぐちぐち言う」参照】 例：うだうだ言うな。(くどくど言うな。) 例：うだうだ、よーしゃべるのー。 (ぺちゃくちゃ、良くしゃべるなあ。)
221	うち	①私(女性が使用)。②自分の家庭・家族。③自分の家。 「うちらあ」は「私達」。「うちゃあ(うちゃー)」は「私は」、「私の家は」。「うちゅを(うちゅー)」、「うちょを(うちょー)」は「私を」、「私の家を」の意味。 【「うちかた」、番外の「家(『いえ』と『うち』の使い分け)」参照】 例：うちゃー、そねーなこたーよー言わんでねー。 (私は、そんなことは言わないよ。)(言っていないよ。) 例：うちは5人です。(私の家族は5人です。) 例：うちにおいでーね。(私の家に来なさいよ。) 例：うちょーたんねて来ちゃったんかね。 (私の家を訪ねて来られたのですか。) 注1：子音内の母音「イ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「うちは(ウチワ)」は「ウチャー」、「鳥は(トリワ)」は「トリヤー」、「柿は(カキワ)」は「カキヤー」になる。 【「ありゃーせん」、「たまにゃー」、「みてみい」、「らちゃーあかん」参照】 注2：子音内の母音「イ」+助詞「オ」は普通「ユー」と発音される。よって、「うちを(ウチオ)」は「ウチュー」となるが、「ヨー」とも発音する。その時は「うちを(ウチオ)」は「ウチョー」になる。【「すじ」参照】
222	うちかた (うちがた)	自分の家。私の家。我が家。 どちらかと言うと女言葉。男は、「うちかた」も使うが、「おれかた」や「わしかた(私の家)」を使う率が高い。反対は「あんたかた(あなたの家)」。 【「あんたかた」、「うちんところ」、「わしかた」、「わしんところ」参照】 例：うちかたで遊ぼーやー。(私の家で遊ぼうよ。)
223	うちんところ (うちところ)	私の所。 「自分の家」の意味でも使う。どちらかと言うと女言葉。男は「おれんところ」や「わしんところ(私の所)」を使う率が高い。反対は「あんたんとこ(あなたの所)」。 【「あんたんとこ」、「うちかた」、「わしかた」、「わしんところ」参照】 例：うちんところへおいで。(私の所においで。) 例：うちんところで勉強しよーやー。(私の家で勉強しようよ。)
224	うっぱいがええ (うっぱえーがえー)	外観が良い。見かけが良い。風貌が良い。 「うっぱい」は「外観、見かけ」のこと。「たっぱい」とも言う。言い方は「うっぱえーがえー」。今はほぼ使われていない。聞いたことがある程度。また、昔は「おおよそ、大体」の意味もあったようだが、今は使われていないと思われる。 【「たっぱいがええ」参照】 例：あのひたーうっぱえーのえー人じゃのー。 (あの人は風貌の良い人だな。)
225	うでっこうにあわん (うでっこうにおえん)	手に負えない。管理できない。 周東や岩国の一部で使われているようだ。「うでっこう」が「しご」や「てご」になるとなじみのある方言になるので、ちょっとした使い方の違いがある方言と言えるかも? 【「しごにならん」、「てごにおえん」参照】

No.	見出し	説明
226	うなめ (うなみ)	牝牛。(哺乳類) 「うなみ」とも言ったらしい。牡牛は「こっとい」。 余談：子牛の呼び名は収録できなかったが、「防長動植物方言考」によると、周南では「ベーベー」、「ベベこ」だったようだ。他には「ベーご」、「べいこ」等の呼び名も近辺の方言集にあった。【「こっとい」参照】
227	うぶきん	産衣(うぶぎ)(産着)。 産衣(うぶぎぬ)と言う中世の言葉の転訛。周防大島では「おぶきん」らしい。
228	うまあこと (うまーこと)	うまいこと。上手に。 【「うまい」が「うまー」になる点については「おもたー」参照】 例：あしたー、うまーことやれーよ。 (明日は、うまいことやれよ。)
229	うむす (産(うむ)す)	①孵化する。 これはあまり使わない様になったが、元々の意味である。 ②蒸し暑い。 雌の鶏が卵を孵化する時に腹で温めることから、蒸し暑いことに使うようになった。 ③蒸す。 米や野菜を蒸す時も使う。 例：今日はうむすの一。 (今日は蒸し暑いなー。) 例：イモをうむすのいやー。 (イモをふかすのだよ。)
○ 230	うめる (埋める) (うべる)	①水を加えてぬるくする。②薄める。 「うべる」とも言う。「うめる」のマ行とバ行の音の入れ替えによるもの。「うべる」は山口弁だが、「うめる」は国語辞書に①②の意味があるので標準語のようだ。ただし、「土に埋める」は確かに標準語だが、「水でうめる」は方言化しているかも？【「ぬべる」参照】 例：風呂が熱いけえ、うめるけえー、ちょっと待ちよってくれー。 (風呂が熱いので、水を入れてぬるくするから、 ちょっと待っていてくれ。)
231	うら (末)	梢(こずえ)。先端。 「うら木」は「枝」のこと。「ねと」の対。 【「ずく」、「てんかち」、「ねと」参照】 例：木のうらい、えっと雀がおるで一。 (木の先に、たくさん雀がとまっているぞ。)
232	うらぶ	瘰癧(ひょうそ)。指先の化膿性炎症。 手足の指先が腫れて膿み、重症のものは爪が脱落する病気。各地の方言集に「うらぶ」は載っているので、昔は広範囲で言われていたようだ。 【「おばる(うばる)」参照】
233	うるい	慈雨。めぐみの雨。程よく雨が降ること。 言い方は「うりい」で、良い雨なので、「えーうるい」の言い方で使われる。 【「うるう」参照】 例：えーうるいでありますねー。 (良い雨ですね。)

No.	見出し	説明
○ 234	うるう (潤う)	①[潤う(うるおう)。湿る。] ②飽きる。もういらない。 十分に満足するほど潤うと、もういらないとなるので、「し過ぎて飽きる、満足して食べ飽きる」という意味が生まれたようだ。東地区は昔、聞いたなと言う程度だが、西地区では、今でも使う。ただし、食べ物に関して、もう十分と言う時に使うことが多い。また、お米を水に漬けておくことや食後の茶碗を水に漬けておくのは「うるかす」と言う。 【「あいた」、「うるい」参照】 例：この雨でだいぶうる一たの一。 よれちよった野菜が生き生きしちよるで一。 (この雨で大分、潤ったね。 萎れていた野菜が生き生きしているよ。) 例：あのひとのこた一、何べんも聞いて、うる一たでね。 (あの人のことは、何回も聞いて、もう十分聞き飽きたよ。) 例：カレーをよけ一食べて、うる一たでよ。 (カレーを沢山食べ過ぎた、もういらない。)
235	うるさい	うっとうしい。煩わしい(わずらわしい)。 雨に濡れて不快な時に使う。服が濡れてまとわりついているような時のこと。当然、音がうるさい時にも使うが、これは標準語。 【「しろおーしい」、「よーそけない」参照】 例：雨に濡れて、うるさかった。 (雨に濡れて、うっとうしかった。)
236	うれい (うれえ)	葬式。 西地区で使う。東地区は今頃は「不幸」を使うことが多い。 字は「憂い」で、お悔やみに行くことを「うれいに行く」と言い、亡くなったことや葬式を全て含めて「うれいごと」と言った。言い方は「うれえ」。 【「たちば」、「とうふ」参照】 例：うれえがあって、休んじよってよ。(葬式があって、お休みよ。)
237	うんとこ どっこいしょ	「にらめっこ」の結句。(歌) 標準は「あっぷっぷ」。わらべ歌(題名は「にらめっこ」か「だるまさん」)の「だるまさん、だるまさん、にらめっこしましょ、わろたらだめよ、〇〇〇」の「〇〇〇」の部分。今の主流は「あっぷっぷ」のようだが、昔はほぼ全県で「うんとこどっこいしょ」が正調。ただ、周防大島は昔から「あっぷっぷ」が優勢だったようだ。 当然、立ち上がる時などの動作を始めようとする時に発する掛け声としても使う。 余談：「わろたらだめよ」の部分が「わろたらしっぺ」や「くるっとまわって」になる変形バージョンもあったようだ。 注：方言とは言えないかも知れないが、「あっぷっぷ」に席卷されそうなので、収録した。
238	うんにゃ (いんにゃ) (んにゃ)	いいえ。 「いんにゃ」、「んにゃ」とも言う。「うんが」、「うんな」と言うこともある。「うん+いや」が「うんにゃ」に変化した。「うんが」、「うんな」は「うん」の否定。【「～にゃー」、「いんにゃ」、「んにゃ」参照】 例：《朝、眠たそうな子供に》 A; 夜ふかしたじゃろう。(夜更かししたでしょう。) B; うんにゃ、しちりゃへんちゃー。(いいえ、していませんよ。)

No.	見出し	説明
239	～え (～い)	～なさい。 下一活用の動詞に付いて、そうするよう指示することを表わす。上一活用動詞には「～い」が付く。【詳しくは、「～い(～え)」参照】 例：教ええやー。 (教えなさいよー。) 例：食べえ。 (食べなさい。)
240	えいやー	おおよそ。概略。 「えいやー」の掛け声が、概略を一遍に出すことに転化した。業界用語か？ 【「あてっぽうに」、「えーころ」、「おおめっそー」、「めっそー」参照】 例：《概略の見積を頼む時に》 えいやーでええから、見積もってくれ。 (概略で良いから、見積もってくれ。)
241	ええ (えー)	①良い。いい。②十分。 「ええちゅうたら(良いと言ったら)」、「ええてえやー(良いと言うことだ)」、「ええといや(良いそだよ)」、「ええともい(良いものだよ)」、「えーのう(良いね)」のように使う。 「よい」が「ええ」になったように、「よい」の「よ」が「え」になって、「えかろう(良かろう)」、「えかった(良かった)」、「えけりゃー(良ければ)」のようにも使う。 また、良く使う「ええーちゃーや」は、①の意味の「これは良いぞー!」と②の意味の転の「これはいらない」「しなくて良い」の二通りの言い方がある。「ええーゝちゃーや」と「ええー」を長めに下がり調子に言った時は「良いぞー!」で、「ええーゝちゃーや」と「ええー」を少し短めに上がり調子に言った時は「もう十分だからいらない」、「しなくて良い」になる。 例：こりゃーええの一。 (これは良いなー。) 例：はあーええ一。 (もういらない。)(もうしなくて良い。) 例：これで、えーにしようやー。 (これで、終わりにしようよ。) 余談1：山口弁で「ええでよー(よいなあ)」または「ええでねー(よいねえ)」は、大分弁では「いいちこ」になるらしい。 余談2：「いいちこ」の「いい」は「よい」で、「ち」は強調、「こ」は更なる強調なので、余談1の山口弁はもっと強めた言い方の「ええーちゃーや」と言う方がより合うか。元防府図書館長、森川さん談。
242	えー (ええ)	よう。よく。 古語の可能・不可能を示す副詞「え(得)」に由来した副詞。 「えー」は、以下に肯定文が続くときは可能表現となり、打ち消し文が続くときは不可能表現となる。今は「よー」の方を良く使う。 【「えーせん」、「よー」参照】 例：A；えー打つかの一。 (打てるかなー?) B；えー打たんじゃろ一。 (とても打てないだろう。) 例：「ええやらん(出来ん)」、「ええ読まん(読めない)」、「えーせん(なし得ない)」等。

No.	見出し	説明
243	えー えっ (えーえ)	①きたないなあ。②しまったなー。 不潔の時、または失敗した時に発する掛け声。言い方は「えー えっ」。最初の「えー」の後にちょっと間があいて、次の「えっ」を強く発する。 また、「えーえ」と平板式に言うと①の意味の時は幼児語になり、②の意味の時は、失敗したとあまり思っていない気持ちを表す。 【番外の「幼児語」参照】 【「あいだ」、「いーい」、「やーや」参照】 例：えー えっ、ゴミの山になっちゃー。 (きたないなあ、ゴミの山になっているよ。) 例：えー えっ、失敗してしもうたーや。 (しまったなー、失敗してしまったよ。)
244	えーが	映画。 連母音「エイ」は「エー」と発音される。よって、「映画(エイガ)」は「エーガ」、「警察(ケイサツ)」は「ケーサツ」、「青年(セイネン)」は「セーネン」、「丁寧な(テイネイナ)」は「テーネーナ」、「冷蔵庫(レイゾウコ)」は「レーゾーコ」になる。【「せー」、「へー」参照】 例：えーがを見にいこーいね。 (映画を見に行こうよ。)
245	えーがいに いかん (えーがーに いかん)	うまくいかない。良い具合にならない。 「ええぐあい(良い具合)にいかん」が縮まった言い方。「えーがーにいかん」とも言う。 例：《プラモデルが上手にできない時に》 どーも、ここが、えーがいにいかんのんちゃ。 (どーも、ここが、うまくいかないのだ。)
246	えーかげんに せーよ	いい加減にしろよ。 どちらかと言うと怒っている。「えーかげんにしたら」となると「ほどほどのところでやめなさいよ」の意になる。 【「ええほど」、「かげん」、「てーげーにせーよ」参照】 例：《子供がいつまでも、きなっていると》 おとなしゅうせんか。 きなるのも、えーかげんにせーよ。 (おとなしくないか。 調子に乗って騒ぐのも、いい加減にしろよ。)
247	ええかっこし	気取る人。 格好良く見せようとし過ぎる人。中身のない人。姿と性格行動の両方の面で使う。ちょっと、侮蔑的な言い方。【「だてし」参照】 例：あいつは、ええかっこしじゃからの一。 (あいつは、良く見せようとし過ぎだからなあ。)
248	ええかん (えーかん)	お風呂やお酒が適温であること。 【「じょうかん」、「かん」参照】 例：《昔の五右衛門風呂で》 A;風呂の加減はどうかね。 (風呂の湯加減はどうかね。) B;ええかんじゃ。 (良い湯加減だ。)

No.	見出し	説明
249	えー きしゃな	ああ 汚い。わー 汚い。 「えつきしゃな(わっ汚い)」の様に「え」が短い言い方と、「えー きしゃな(わあー 汚い)」のように「え」が伸びてちょっと間をあけて「きしゃな」が続く言い方の二通りがある。
250	えーきなもの	気楽な人。人の好意を感じない人。また、その様子。 【「きのうちゃーまめな」参照】 例：あねーなことをゆうて、ええきなもんじゃねー。 (あのようなことを言って、気楽なものだねえ。)
251	えーきになる	調子に乗る。 ちょっと浮ついている感じの時に使う。諫(いさ)めたい気持ちがある時と、侮蔑している時の両方に使う。 例：ちょっとテストの点がえかったちゅーて、 えーきになっちよるんちゃ。 (ちょっとテストの点が良かったと言って、 調子に乗っているのだ。) 例：あいつあー、ちょっと、えろうなったゆうて、 えーきになっちよるでえ。 (あいつはちょっと偉くなったと言って、 調子に乗って威張っているぞ。)
252	えー きび	「好(い)い気味」のこと。 こう言う時は、悪意あり。 【「いいきび」、「ええばち」、「きびがわるい」、「ばちくそ」参照】 例：《失敗した人を見て》えー きびじゃ。(いい気味だ。)
253	えー くそ	ちくしょう。ちきしょう。 託(かこ)つ場合の独り言。 注：「託つ：嘆いて言う。不平を言う。」 例：えー くそ、うまいこといかんかったー。 (ちくしょう、上手にできなかった。)
254	ええけー (えーけー)	良いから。いいから。 【「～けえ」参照】 例：手伝いは、はあーええけー、手をあろーて来い。 (手伝いは、もうよいから、手を洗っておいで。) 例：はーもーえーけー、きーやー。(もう良いから、来なさいよ。)
255	えーころ	いい加減に。適当に。 ある程度、きちんとしたところで止める「いい加減」と、全く無責任な、考えの無い「いい加減」の二つの意味がある。名詞としても使われる。 【「あてつばうに」、「えいやー」、「おおめっそー」、「めっそー」参照】 例：《夜遅くなったところで》 もう、えーころにしちよきーよ。 (もう、程々にしておきなさいよ。) 例：《見積を急いで頼む場面で》 えーころでもええからはじいてくれ。 (適当でも良いから計算してくれ。) 例：えーころにやるんじやったら、はー頼まれんの一。 (いい加減にやるのなら、もう頼めないな。) 例：えーころーゆーな。(いい加減を言うな。)

No.	見出し	説明
256	ええころ はちべえ	①いい加減さ。無責任さ。程々。②目算。見当。 「えーころ」だけでも「いい加減」の意味になる。言い方は「えーころはちべえ」。 【「あてっぽうに」、「おーちょうしな」、「おーぼっかい」参照】 例：今年はええころはちべえを直します。 （今年はいいい加減さを直します。） 例：えーころはちべえをゆーな。（いい加減なことを言うな。） 例：《忙しい人に見積を頼む場面で》 ええころはちべえでもええから頼むいね。 （超概略でも良いから頼むよ。）
257	えーころばっち	いい加減に。適当に。 「えーころ」だけでも「いい加減」の意味になる。 例：えーころばっちでええから教えてくれ。 （いい加減で良いから教えてくれ。）
258	えーせん	できない。なし得ない。 「得為（えせ）ず」の意。 【「えー（ええ）」、「よー（よう）」、「ようせん（よーせん）」参照】 例：そりゃー、えーせんではえ。 （それは、できないだろうよ。）
259	ええっちゃ （ええーいや）	「いいよ」の意味。 相手が許しを請うて来たような時や、質問して来た時の返事として使う。 「ええーいや」とも言う。頭に「もう」や「はあ」を付けて言うことが多い。 例：A；いやー、申し訳なかった。（済みませんでした。） B；いや、もう、ええっちゃ。（いや、もう、いいよ。）
260	えーと （えっと） （ええと）	沢山。 「ようやく」の意味の「やっ」との変化した言葉。「ようやく」を「ようやっ」と言い、「ようやっ」をさらに「やっ」と言っているうちに「随分と」の意味を生じて、音転して「えっと」、「えーと」になったと言う説と、標準語の「うんと」と同じ作りで、「えい」と力を入れる時の擬声語から「えーと、えっと」になったとの説がある。 また、「沢山は無い」の意味の「えっとはない」は前に子音を伴う母音オ+助詞ワが「アー」になるので、「えったーない」になる。 【「おーかましい」、「さで」、「ごっつう」、「ごっぼう」、「ごっぱり」、「じょーに」、「ようけ」参照】 例：おもちゃを、えーと、持っちゃる。 （おもちゃを、たくさん、持っている。） 例：あそこの蔵ん中にゃー、ええもんがえっとあったがのー。 （あの家の蔵の中には、良い物がたくさんあったがね。）
261	えーど （ええど） （えーよ）	もうよいぞ。 「もう良い」かの問いに対して、「えーど」と平易に言う。男言葉。女性なら「えーよ」と言う。 例：A；もー、そっちに行ってもええか。 （もう、そっちに行っても良いか。） B；えーど、こーいや。 （もうよいぞ、来いよ。） 余談：語尾に「～そ」を使う地域では「えーそ？（いいか?）」、「えーそ、えーそ（いいよ、いいよ）」となるようだ。【「～そ」参照】

No.	見出し	説明
262	ええどー (ええどおー)	いいぞー。 格好のいい他人の動作、風姿に対して賞賛を浴びせる男言葉。「ええど、ええどー」と2回続けて言うことが多い。強い口調で囃(はや)すように言う。女性なら「ええよー」か?
263	ええばち (えーばち)	「罰が当たろうが」の意。 失敗した者に対する悪口。「罰が当たって当然、ざまあみろ」の感じ。さらに強調して「えーばちくそ」と言うこともある。 【「いいきび」、「えーきび」、「ばちくそ」参照】 例：調子に乗るから、失敗したろうが。ええばちいやー。 (調子に乗るから、失敗したろう。罰が当たったな。)
264	えーひょうし	好都合。良いタイミング。 字は「良い拍子」。 例：えーひょうしに、でおうたんちゃー。(好都合にも、出会ったんだよ。)
265	ええほど	いい加減なこと。適当なこと。 良い方にも悪い方にも使う。西地区では使っていた。東地区は「ええ加減」の方を使っていた。【「えーかげんにせーよ」参照】 例：ええほどのとこで、おさめちよけーや。 (いい加減にして、頃合いの良いところで済ましておけよ。) 例：ええほどを言うな。(いい加減なことを言うな。)
266	えーめにあう (ええめにあう)	幸運に会う。「良い目にあう」の意。 一般的に「目に遭う」は良くないことに使うが、こちらは良いことになる。
267	えーやら やっど (えーやっど)	辛うじて。何とか。 「えい」は力を入れて押すにも引くのにも使う掛け声。「やら」は調子に言う言葉で、意味はない。「やっど」は漸(ようや)くの意味。 例：えーやらやっどで、できたいやー。(何とか出来たよ。)
268	ええんかのー	いいのかなあ。 内容に疑問がある時に使う。 例：A;それで、ええんかのー。(それで、いいのかなあ。) B;そりゃー、はあ、ええっちゃ。(それは、もう、いいよ。)
269	えき (浴)	谷。 「谷」のことを「浴」と書いて「えき」と呼ぶ。東日本では「沢」が多く、西日本では「谷」が多いが、山口県では「浴(えき)」が地名として多い。広島、島根でも使われている。泉から水が湧き流れ出る意があるようだ。 【「峠(たお)参照】 注：「沢」と「谷」の分布は縄文系が「沢」で、弥生系が「谷」となっていると言う説がある。
○ 270	えぐい	①あく(灰汁)が強い。 味と人の両方に使う。筍のアクが抜けていない感じのこと。 ②気持ちが悪い。どぎつい。 国語辞書にあるので、方言では無いかも知れないが、良く使うのと、「えぐい」と「えずい」が混同して使われている地域もあるようなので、比較のために収録した。同じ語源から派生した言葉かも知れない? 【「えずい」、「のどをほる」参照】 余談：里芋のことを「えぐいも」と言うと新南陽の方言集に書いてあったが、我々は言わない。【「かいも」参照】

No.	見出し	説明
○ 271	えずい	①賢い。②ずる賢い。とげのある人。 ①は純粋に賢い。②は賢いけど、「ずる賢い、少し冷たい、意地悪な感じ」がある。 国語辞書の「えずい」は「おぞましい」の「悍し(おぞし)」の転ゆえ、「不快、恐ろしい、薄情」の意で「賢い」の意味はない。「おぞし」→「おぞい」→「うずい」→「えずい」になったようだ。「悍し(おぞし)」に「悪賢い」の意味があるから、「悪賢い」意味で使われている内に、それが「知力が優(まさ)っている」の意味合いになり、次第に「賢い」に移行したと考えられる。「賢い」と言う意味に使うのは、瀬戸内地方主体で、全国的には国語辞書にある悪意の意味合いで使うことが多い。また、「いずい」と同様に身体に対する違和感を「えずい」と言う地方もあるようだ。 なお、この「えずい」は、福岡に行くと「えずか(恐い)」と副詞の「えずー(たいそう、とても)」とに使い方が分かれる。 【「いずい」、「はつめい」参照】 注:「物類称呼」(1775年)に「薩摩にては人に超て、智の有をゑずいと云」とあるので、「賢い」の意味で昔は鹿児島でも使っていたことが分かる。(今も使われているかどうかは分からない。)
○ 272	えずく (えづく)	吐き出す。もどす。 「えづく」は旧仮名遣い。古くは「えたぐ」とも言う。「えづく」は「餌衝く(えつく)」か「餌吐く(えつく)」、「えたぐ」は「餌吐る(えたぐる)」のこと。「吐き気」は「えずき」。周防大島では「えばく」と言うらしい。
○ 273	えどる (絵取る)	なぞること。 昔は「口真似をすること」も「えどる」と言ったようだが、我々は使っていない。「彩る」と言う意味の古語で、昔は中央語。 例:えどって書きゃあええわーね。 (なぞって書けばいいじゃない。)
○ 274	えばる	①欲張る。②[威張る。] 「いばる」の転。「いばるな」は「えばるな」。 ②の意味は国語辞書にあり。 例:そないに、えばらんでも。 (そんなに、欲張らなくても。)
275	えぶ (えふ) (絵符)	荷札。名札。 「えふ」とも言うが、この「えふ」は標準語。漢字は「絵符」、「会符」を使う。
276	えぶ (得歩)	箕(み)。 宇部や小野田では「箕(み)」のことを「えぶ(得歩)」と言う。「宇部で使われた炭鉱のことば」(長尾美代之輔編著)に「石炭や土砂を炭車に積んだり、運ぶときの入れもので、割り竹で編んだものを『竹えぶ』、針金で編んだものを『金(かな)えぶ』という。これに似たものを農村では『手ミイ』(手箕)と呼ぶようである。」とある。炭鉱は閉鎖されたが、言葉は残っていた。 【「いしぞうけ」、「てみ」参照】
277	えぼし (烏帽子)	鶏冠(とさか)。 今ではまず言わないが、昔は使っていたらしい。周防大島や柳井では「よぼし」。四国西部から九州中部にかけては「かぶと」と言うらしい。

No.	見出し	説明
278	えもんかけ (衣紋掛け)	ハンガー。 「時代語」かも知れないが、洋服を掛けるハンガーのことを「えもんかけ」と言っていた。最近では着物を掛けるのが「衣紋掛け」、洋服を掛けるのは「ハンガー」と使い分けられているが、昔はみんな「えもんかけ」だった。 余談：パラオ共和国では「ハンガー」のことを「えもんかけ」と言っているそうだ。
☆ ○ 279	えらい (えらえー) (えれえー)	疲れた。だるい。つらい。骨が折れる。 「えらい(えらえー、えれえー)」は苦痛や困難、骨折りなどを伴う全身の疲労感を表し、肉体だけでなく精神的な疲労の場合にも用いる。「あー、えら」というふうに、語幹だけの感動詞的な表現も、疲労感の大きい場合にはしばしば行われる。 「えらい」は「程度の甚だしさ」を表す言葉として、近世以降、上方を中心に発達した。「とげ」の意味の「いら(苛)」が「いらし」になり、「えらし」→「えらい」となったようだ。そして、「①程度が甚だしい」から、「②疲れた」、「③立派」等の意味に変化していった。②の意味は、中部北信越から近畿、中四国で使われている。北海道、東北は「こわい」、九州は「きつい」らしい。 【「えらい(えろう)(えれえー)」、「おえろーありました」、「こわえー(こわい)」、「だらしい」参照】 例：ぶち、えらかった。 (大変疲れた。) 例：はあ、えろうてやれん。 (もう、しんどくてダメだ。) 例：おえろーあります、のんた。 (お疲れ様ですね。) 注：上記③の意味から派生した「偉い」も「えらい」と言うので注意が必要。この使い方は幕末からで、「偉い」と書くようになったのは、明治の中頃から。「出世する」は「えろうなる」。
○ 280	えらい (えろう) (えらえー) (えれえー)	とっても。すごく。 「えらい(えらえー)(えれえー)」の欄に記したように、「えらい」の元々の意味、「程度の甚だしさ」を表す使い方。強調の接頭辞「ど」を付けた「どえらい」も使う。 【「えらい(えらえー)(えれえー)」、「ごつぽう」、「どひょーしもない」、「どようし」、「ばくちん」、「ぶち」参照】 例：今日は、えらい車が多かった。 (今日は、とっても車が多かった。) 例：えろー人がおーがー、なんかあるんじゃないか。 (すごく人が多いが、何かあるのだろうか。) 例：えらえーがんばるのー。(とっても頑張るね。) 例：えれえー風が強いの一。(大変、風が強いなあ。)
281	えらめる	いじめる。 「えらい」ことをさせる意味から、他人をいじめ、虐(しいた)げることを使うようになった。【「いぼめる」、「かもう」参照】 例：ひどーに、えらめよったいやー。 (ひどく、いじめていたよ。) 例：弱い者をえらめちゃーいけんぞ。 (弱い者をいじめてはいけないよ。)

No.	見出し	説明
282	えんか (苑香)	茶のこうばしい香り。 特に飲み終わった後に残る茶の香り。字は「苑香」以外に「藺香」、「艶香」も使ったようだ。「えんかが抜ける」は「タイミングを逸する」、「話題の新鮮さが無くなる」ことを言う。「えんかがうすーなる」は「風味や雰囲気は薄れる」ことを言う。西地区で使う。 【番外の「昔の言葉、行事?」の「かざ(香)」参照】 例:このはなしゃーえんかが抜けてしもーてから、 新鮮味はありやせんてね。 (この話は、時宜を逸してしまったから、新鮮味は無いよ。)
283	えんこう (えんこー)	①河童。 字は「猿猴」。猿のことだが、これが河童の異名になった。かつては、猿が年を取ると、水に入って河童になるとの俗信があって、河童を「水猿猴(みずえんこう)」と言った。その「水」が取れて「えんこう」を河童の通称として使うようになった。 ②水の中にいる得体の知れない化け物。 淵などに隠れていると言う。島などでは海の中にいるのも言う。(東地区) ①と②の意味の「えんこう」は山口、広島、岡山、大分、四国で使われている。よく、「えんこーに足を引っ張られるよ」と言うのは、子供に水難事故の教訓として言っていたのではないかと、KRYラジオの方言コーナーで森川信夫さんより説明あり。 ③ゲンゴロウ(源五郎:昆虫)。 水の中にいて小魚やオタマジャクシを食べる肉食の昆虫。西地区で言う。 余談1:下松では「みずすまし」のことを「えんこー」と言っていたらしい。河童が泳ぐ姿を上から見たとしたとしたら、似ているかも? (「防長動植物方言考」、「山口県方言辞典」より) 余談2:「河童」を「かつぱ」と読むのは、「かわ わっぱ」が「かわつぱ」→「かつぱ」となったようだ。なお、「河童」が全国で使われるようになったのは芥川龍之介の「河童」が出版されたかららしい。
284	えんだ (円座)	蒂(へた)。果物や野菜のへた。 炭俵の丸いふたや、藁製の円座のことも「えんだ」と言ったらしい。山口弁では「ザ・ゼ・ゾ」がよく「ダ・デ・ド」に変わるので、「えんざ」が「えんだ」になった。
285	えんりよし (えんりよしー)	遠慮する人。 【「きがねし」、「〜し」、「てれさく」参照】 例:あのひたー、えんりよしじゃからねー、 こりー受け取っちゃないんちゃ。 (あの人は、遠慮する人だから、 これを受け取ってもらえないのよ。) 注:子音内の母音「オ」+助詞「ワ」は「アー」、または「オアー」と発音される。 よって、「人は(ヒトワ)」は「ヒター」「ヒター」、「ここは(ココワ)」は「コカー」「ココアー」、「物は(モノワ)」は「モナー」「モノアー」となる。
286	お (峰)	峰。山の背。 例:山のおが、境になっちゃう。 (山の峰が境界になっている。)

No.	見出し	説明
287	おあがん さんせー (おあがりん さんせ)	①《訪問者に対して》座敷にお上がり下さい。部屋の中にどうぞ。 砕けて言う時は「あが ~~りん~~ さい(まあ、上がったら)」になる。もっと砕けると「あが ~~りー~~ 」、「あが ~~りっ~~ 」となる。 【番外の「挨拶の表現」参照】 ②《食卓を前にして》お召し上がり下さい。お食べ下さい。 砕けて言う時は「たべんさんせー(食べなさいよ)」になる。もっと砕けると「た ~~べー~~ (食べな)」。 注:「た ~~べー~~ 」なら、まだ少しは丁寧な言い方になるが、「 ~~た~~ べー」なら命令する感じになる。【「～い(～え)」参照】
288	おいー (おいゐ)	多い。たくさん。 例:今日は、人が ~~おいー~~ の一。 (今日は、人が多いなー。) 注:子音内の連母音「オイ」は、形容詞等で「エー」や「オー」と発音されるが、例外として「イー」になるものがある。「多い(オオイ)」は「オイー」、「濃い(コイ)」は「コイー」、「遠い(トオイ)」は「トイー」などである。 【「おせー」参照】
289	おいこ (負子)	背負子(しよいこ)。 木またはワラ製の背負い具。
290	おいちゃー	おいよー。呼びかけの言葉。 「おい」+「ちゃー」で、親しい人や目下の人に呼びかける時に使う。「おいよー」くらいの意味。【「よい」参照】 例:おいちゃー、ありよー取ってくれんか。 (おいよー、あれを取ってくれんか。)
291	おいでませー	いらっしゃいませ。いらっしゃいよ。 招致する時に使う言葉。県の観光キャッチフレーズ、「おいでませ、山口へ」に使われている。言い方は、キャッチフレーズの時は後ろに「山口」が付いているので、「 ~~おいでませー~~ 」と言うのが多い気がするが、普通は「 ~~おいでませー~~ 」と言う。後ろが上がる時は軽い招致、下がる時は強めの招致の雰囲気あり。他に「おいでまへー」、「おいでんさい」、「おいでんさんせ」などを使う。 遠方から人が来られたら、「よー、 ~~おいでましたのー~~ (よく、いらっしゃいましたね)」と言って、「おもてなし」をする。丁寧に言う時は「よー、 ~~おいでんされ~~ ましたのー(よく、いらして下さいましたね)」になる。下関の方では、「よう、おいでなんしたなあ」と言うらしい。 【「おいでる」、「よー、きちゃったのー」参照】 例:かき ~~ょーとん~~ においでませー。(柿を取りにいらっしゃいよ。) 注1:子音内の母音「イ」+助詞「オ」は概ね「ユー」と発音されるが、「イヨ」、「ヨー」、「イー」と発音されることも多い。「かき ~~ょー~~ 」は「ヨー」の場合。よって、「柿を」を「かき ~~ゅー~~ 」とか「かきよ」、「かきー」と言う場合もある。「イヨ」は「イ」と「オ」の間に半母音[ɨ]が挿入した形で、「ヨー」は「イヨ」が音韻融合したもの。 注2:ラ行音のリ・ル・レがナ行音の前で撥音化する場合がある。よって、「取りに(トリニ)」は「 ~~トニ~~ ニ」になる。 【「きーつけて」、「あんに」参照】 注3:2023年に山口県の新しいキャッチフレーズが「おいでませ ふくの国、山口」に変わった。

No.	見出し	説明
292	おいでる	①居(い)る。 ②行く。 ③来る。 「おいでる」は「おいでなさる」の略。尊敬語。「おいで」は「御出」で、寝室を「出て」、居室に「在る」の意味に使われていると思われる。これから派生して、「おいでる」を「在、往、来」の三種類の意味に使う。 また、「待っておいでる(待っていらっしゃる)」、「休んでおいでる(休んでいらっしゃる)」のように、「～て(～で)おいでる」の使い方では状態を示す尊敬語として使う。【「～て(～で)」参照】 ①居る。 例：お父さんは、今日、おうちにおいでるかね。 (お父さんは、今日、家におられますか。) 例：ご両親はお達者でおいでますか。 (ご両親はお元気ですか。) ②行く。 例：今日は、どこにおいでてかね。 (今日は、どこにでかけられるのですか。) ③来る。 例：また、おいでませー。(また、いらっしゃい。) 例：また、おいでんさい。(また、いらっしゃい。) 例：よう、おいでましたのー。 (良く、いらっしゃいましたね。)
293	おいわい (お祝)	鏡餅。 言い方は「おいわえー」になる。
○ 294	おう (負う)	おんぶすること。 ちなみに「おんぶ」は「おぶう」から転じた言葉。「おぶう」と「おう」はともに古語「おふ(負ふ)」を語源とする言葉。奈良時代は「オフウ」と言っていたが、関東では「オフウ」→「オブ」→「オブー」と変化し、西日本では「オフウ」→「オウ」と変化したと推定されている。ちなみに「おんぶ」は元々は東京の山の手の方言だったようだ。 山口県では、物を背負う時は「かるう」、人を背負う時には「おう(負う)」を使うのが一般的だが、「かるう」は人と物に使い、「おう」のは人だけや、逆に「かるう」のは荷物だけで「おう」は人にも物に使うと、人や地域で色々な使い分けがされてるようだ。 中国地方の大半や四国の東部はどちらも「おう」を使うようだ。さらに、東日本では荷物は「しょう」、人は「おぶう」を使うそうだ。 【「かたぐ」、「かるう」参照】 例：赤ん坊をお一て、畑をしょってじゃー。 (赤ん坊を背負って、畑仕事をしているよ。)
○ 295	おう (覆ふ) (被う)(蓋う)	布などで覆う。蓋を閉める。 例：蓋をおう。(蓋をおおう。)

No.	見出し	説明
○ 296	おう (会う) (合う)	①会う。 ②合う。 後に「た」や「て」が続いて、「おーた(会った)(合った)」「おーて(会って)(合って)」のように使う。北陸から西日本全体で使われている。古語は「あひたり」「あひて」。これがウ音便化して「あうたり」「あうて」。これの[au]が連母音融合して[o:]になって、「おーた」「おーて」になった。なお、この音韻現象は、ワ行五段動詞で連母音「アウ」が含まれるものには全て発生する現象である。 一方、東日本では「あひたり」「あひて」の「ひ」が「っ」になる促音便化が起こり、今の標準語の「あった」「あって」になった。この「あった」「あって」は、山口弁ではワ行五段動詞連用形の活用語尾の促音「ッ」がウ音便化するため、「あうた」「あうて」になる。この[au]が連母音融合して[o:]になって、こちら「おーた」「おーて」となった。 ワ行の動詞とは、否定が「あわない」「あわん」のように、活用語尾が「わ」になるもの。他には「思う」「買う」「洗う」「笑う」「狙う」「いらう」「かしらう」「かもう」「しまう」「たがう」「よぼう」など。 さらに、一般的には連用形で起きる連母音融合が終止形(基本形)や連体形でも使う場合がある。見出しの「おう」はこの場合である。「たう(とう)」「買う(こう)」「洗う(あろう)」「笑う(わろう)」なども同様。 【「たう」「こう」「わろう」参照】 例: せんせーに、おーて来た。(先生に、会って来た。) 例: せんせーに、おーらしいで。(先生に、会うらしいよ。) 例: 答えがおーちよった。(答えが合っていた。)
○ 297	おうかん (往還)	大通り。街道。主要道路。 奈良時代以前から使われていた言葉で、本来は「行き帰り」のこと。これが、街道の意味に変わって来た。山口県では「萩往還」として、良く知られている言葉。 例: 往還で遊ぶ時にゃー、きい一つけんさいよ。 (大通りで遊ぶ時には、気を付けなさいよ。)
298	おうっぱん	仏壇に供えるご飯。 柳井は「おはっつあま」、岩国は「おはち」、広島では「おぶっぱん」、呉は「おびきさん」、廿日市は「おはっつあん」らしい。「お初様」や「お仏飯」の変化。「おぶっぱん」は他にも大阪、奈良、島根、香川、熊本と各地にある。岐阜や佐賀では「御仏供」で「おぶく、おぶっく」と言うらしい。 【「おはっつあま」参照】
299	おえろー ありました	お疲れ様でした。 挨拶言葉。「おえろーありました」を丁寧に言うと「おえらいことでありました」で、「えらい」は「疲れた」の意味。よって、「お疲れ様でした」になる。かなりの年配者が、より丁寧に言う時は「おえろーござえーました」になる。 【「えらい」「ごしんぱいです(ご心配です)」「ごぶれいします(ご無礼します)」、番外の「挨拶の表現」参照】
300	おえん	負えない。できない。手に余る。 例: <いたずらっ子を見ながら> このこあー手におえんにーね。 (この子は手に負えないよ。)

No.	見出し	説明
301	おーお	まあ。まあまあ。 びっくりした時に使う感動詞。驚嘆と、驚嘆の入った軽いひやかしの両方に使う。 例：《難しい仕事をやり終えた人を見て》おーお、やったでよ。 (まあ、やり終えたね。) 例：《熱々のカップルを見て》おーお、あんたら熱々じゃねえ。 (まあまあ、あなた達は熱々だね。)
302	おーかましい (おおかましい)	①多いこと。甚だしい。 ②おおざっぱな。 「おーかま」は「大釜」のこと。 【「えーと」、「ごっぱり」、「じょーに」、「ようけ」参照】 例：今日は、えらいおーかましい人がおるのー。 (今日は、非常に沢山人がいるなー。) 例：おーかましいやり方でええでー。 (おおざっぱなやり方で良いよ。)
303	おーきゅーなる (おーきょーなる)	大きくなる。 「おーきょーなる」とも言う。【「でこーなる」参照】 例：《背が伸びた子を見て》<u>おーきゅー</u>なったのー。 (大きくなったな。) 注：形容詞の連用形活用語尾「ク」がウ音便化する。「イク」は「ユー」、「シク」は「シュー」と発音される。よって、「大きく(オーキク)」は「オーキュー」、「寂しく(サビシク)」は「サビシュー」になる。また、転じて、「オーキョー」や「サビショー」と言うことも多い。【「いとーない」、「おそーなる」、「おゆーて(およーて)」、「かわゆーて」、「ふるーなる」参照】
304	おおくじをくる (おーくじゅーくる)	ひどく叱ること。 言い方は「おーくじをくる」か「おーくじゅーくる」。叱られた方は「おーくじをくられた」、「おーくじゅーくられた」。【「くじをくる」参照】 例：そねーなことをしたら、おーくじゅーくられるよ。 (そんなことをしたら、ひどく叱られるよ。)
305	おーけな	大きな。 「き」の母音「イ」が「エ」に母音交替した例。昔は、「いかい」と同様に「太い、目が粗い」意味にも使っていたようだが、我々は「大きな」の意味にしか使っていない。今頃は「おーきな」と言う方が多くなっている気がする。 【「いかい」参照】 例：この<u>いえやー</u>、おーけな家じゃのう。 (この家は、大きな家ですね) 注：母音「エ」+助詞「ワ」は、「エヤー」と発音される。「家は(イエワ)」は「イエヤー」、「上は(ウエワ)」は「ウエヤー」になる。最近「ヤー」と言う場合もある。その時は、「家は(イエワ)」は「イヤー」になる。
306	おーけに	①大いに。非常に。 ②ありがとう。 「大きに」のこと。形容動詞「おおき(なり)」の連用形から。 例：おーけに、ありがとう。(大変、ありがとう。) 例：助かった。おーけに。(助かった。ありがとう。)
307	おーこ	天秤棒。

No.	見出し	説明
308	おおたまげ	①大間違い。心得違い。とんでもないこと。でたらめ。 ②大変びっくりする。 「たまげろ」は「非常に驚く」ことだが、「おお」が付くと「非常に驚く位、間違っている」意味が加わる。【「たまげろ(魂消る)」参照】 例：そねーなことをして。そりゃー、おおたまげじゃのー。 (そんなことをして。それは、大間違いだな。) (そんなことをして。それは、びっくり仰天だな。)
309	おーちゃく (横着)	生意気なこと。横柄なこと。口答えすること。 すべきことを故意に怠けることやわがままで図々しいことの意味にも使うが、これは標準語の使い方。山口弁では生意気なことや横柄なことを「おーちゃく」と言う。「横着をする」は怠けているので標準語、「横着を言う(おーちゃくーゆー)」は生意気を言っているので山口弁。口答えや屁理屈を言うものを「おーちゃくもん」と言う。(森川さん談) 【「かばち」、「ねんごー」、「ねんごーをたれる」参照】 例：何もできもせんののに横着なことーゆーな。 (何もできないのに、生意気なことを言うな。) 例：おーちゃくーたれんな。(生意気を言うな。)(口答えをするな。)
310	おーちょうしな (おーじょうしな) (大調子な)	大雑把に行くさま。仕事や作業が雑なさま。また、そのような気質の人。 細かいことを気にしないことだが、良い意味には使わない。西地区で時々聞く程度。 【「あらかましい」、「ええころはちべえ」、「おーぼっかい」参照】 例：《出来上がりがいまいちの時》 あんなーおおぢょーしな奴じゃからのー。 (あの人は大雑把な性格ですからねー。) 例：なんと、おおぢょーしなことーやるのー。それでええんか。 (随分、雑なことをやっているけど、それで大丈夫ですか。)
311	おお天ぷら	大嘘のこと。出鱈目。 「天ぷら」はポルトガル語の「tempero(油揚げ)」が語源。外見は分かるが、中身が良く分からないことから転じて、ごまかしていることになった。 例：また、おお天ぷらをゆーてから。(また、デタラメを言うてから。)
312	おおどうな	大胆な。横着な。 その人は「おおどうもの(横道者)」。 聞いた程度で、使ったことはない。 【「ごっぼう」、「のふうどう」参照】 例：よいよ、おおどうもんじゃ。 (本当に、大胆なやつだ。)
○ 313	おーね (大根)	①もともと。元来。おおもと。根本。②大根(だいこん)。(野菜) 大根(だいこん)の古語は「大根(おーね)」。 712年の古事記にも出てくるらしい。根が地面に入っているから、「もともとが、元来が、根本が」の意味になった。この「おーね」はNHKの番組で山口弁として紹介されていたが、今はほとんど使われていないと思う。 【番外の「野菜の呼び名」参照】 例：おーねがゆーな性分じゃから。 (もともとがおっとりした性分だから。) 余談：田布施地区では、沢庵用に冬大根を吊るして干してあるのを「おーねが首を吊っている」と表現していた。大根の葉の根元辺りを4本ずつ束ねて吊るしていたからか？

No.	見出し	説明
314	おーばなし	長話。 例：ちょっととも一たら、おーばなしになってしまいたいねー。 (ちょっとと思って話したら、長話になってしまったよ。)
315	おーぼっかい (おーぼっかえー) (大法界)	大雑把なさま。物事に頓着しないさま。 「法界」は仏教語で、「広大無辺の全宇宙」のこと。我々の親の世代が使っていた。【「あらかましい」、「ええころはちべえ」、「おーちようしな」、「おおめっそー」参照】 例：あのひたー、おおぼっかいな人じゃねー。 (あの人は、大雑把な人だねー。)
316	おーめげ	①大失敗、大失策。②大出費。 今頃は、大失敗の意味に使う方が多い。大出費の意味ではあまり使わないと思う。【「しもーた」、「めぐ」、「めげ」参照】 例：ごっくり、おーめげじゃったいやー。 (意に反して、大失敗でした。) 例：今週は飲みが続いたけー、おおめげじゃったいやー。 (今週は飲み会が続いたから、大出費だったよ。)
317	おおめっそー	目分量。大まか。大雑把。 新潟、佐渡の方でも使うようだ。 【「あてっぽうに」、「えーころ」、「えいやー」、「ええころはちべえ」、「おーぼっかい」、「めっそー」参照】 例：おおめっそーでええから、見積もってくれんかねー。 (目分量で良いから、見積もってもらえませんか。)
318	おかえる	①おろそかになる。 「疎(おろ)か」の古語が「おろかう」。それが「おろかえる」になり、「おかえる」に変化したようだ。 ②帰られる。 「おかえたよ(帰られたよ)」と言う言い方で丁寧な言い方になる。 【「ひがおかえる」参照】 例：外ばっかり気にして、手元がおかえちよるよ。 (外ばっかり気にして、手元がおろそかになっているよ。) 例：おじさんは、おかえたよ。 (おじさんは、帰られたよ。)
319	おかしげな	変な。分からないこと。 【「いなげな」、「ひよんげな」、「みょうちくりん」参照】 例：おかしげなことをいいさんなよ。 (変なことを言わないでよ。) 例：おかしげなかつこーしーさんなよ。 (変な恰好をしないでよ。)
320	おがちる	ふざける。 「おがち」と言えば、いつもふざけている人のこと。 【「すばえる」、「そばえる」、「ちばける」、「つばえる」、「ほたえる」参照】 注：福川辺りで言うが、湯野や下松方面では使っていない。 例：おがちるなー。 (ふざけるな。)

No.	見出し	説明
321	おきさんへー (おきんさん せー) (おきさんよ) (おきんさいよ)	①起きなさいよ。②終わりなさいよ。止めなさいよ。 「擱(お)く、置く」の意味。 例:はよー、おきさんへーよ。 (早く、起きなさいよ。)(早く、止めなさいよ。) 例:はあー、おきんさんせーよ。 (もう、起きなさいよ。)(もう、止めなさいよ。) 例:もう日が暮れたけー、おきんさいよ。 (もう日が暮れたから、止めなさいよ。)
322	おきだ	縁台。一畳位の涼み台。 置台の短縮形か? 西地区のみ。東地区では「縁台」。
323	おきゃーくらい	見通しが暗い。 「沖は暗い」で山間地の言葉。遠くの沖が良く見えないことから、見通しが暗いことになった。東地区(東荷)で使う。
324	おぎようぎを する (お行儀をする)	①正座をする。②静かにしておく。 少しラフな時や椅子に座っている時には、正座までしなくても良いから静かにしておきなさいと言うことで使う。 【「かしこまる(畏まる)」、「ちゃんこ」、「とんする」、「とんち」参照】 例:《正式な場で》お行儀をしときーよ。 (正座をしておきなさいよ。) 例:《応接間で》お行儀をしちよきーよ。 (騒がないで静かにしておきなさいよ。)
325	おきん (起きん)	起きない。 近い過去は「おきんかった」、もう少し古いと、「おきなんだ」、「おきだった」。 標準語ではどれも「起きなかった」となる。 【「いかん」、「みん」参照】
326	おくれんさい やー	「下さい」の丁寧な言い方。 【「～つかあーさい」、「～つかあさんへー」参照】 例:卵をひと箱おくれんさいやー。(卵をひと箱下さいな。)
327	おごーはー (おごーさー)	奥様。 「おごうさま(御御様)」、「おごうはん」のこと。「おごーさー」とも言う。 【「あんじょう」、「よめじょーはー」参照】
328	おこといー	忙しい。多事多忙のこと。 「御事が多い」から「忙しい」意味に使う。我々は使っていないが、一世代前は普通に使っていた。各地の方言集にもあるので、昔は全県で使われていたようだ。「おことゆーあります、のんた(お忙しくありますねえ、あなた)」のように、相手の忙しさをねぎらう挨拶表現として良く使う。相手に敬意を示す表現なので、自分の忙しさを表すことには使わない。 ただ、須佐では「乏しい」の意味もあった。例文が「財布の中がおこといー」だったので、物入りが多く、中味が乏しくなることに使ったようだ。 例:おこといーとこ、よーおいでました。 (お忙しい所を、良くお出で下さいました。) 例:おこといーのに、ご心配であります。 (お忙しいのに、お世話様であります。) 余談:京都では「おことーさんどす」だが、大晦日しか使わないらしい。

No.	見出し	説明
329	おごる	①増える。 ②叱る。怒る。 ③騒ぐ。 言い方は「おごる」。「おごる」なら「奢る」で別の意味になる。③の意味はあまり使わない。「つばえる」の方が多い。【「つばえる」参照】 例：去年より、花がおごっちゃう。 （去年より、花が増えている。） 例：そねーなことをしたら、おごられるでよー。 （そんなことをしたら、怒られるよ。） 例：子供がおごっちゃう。（子供が騒いでいる。）
330	おさむー あります	寒いですね。 冬の挨拶言葉。春なら「ぬくーになりましたのんた。（暖かくなりましたね。）」かな。
331	おしとつ (おじゃみ) (おひとつ)	お手玉。 「生きている日本の方言(佐藤亮一著)」の中に、昔、山陽本線に乗った人が集めた「お手玉」の方言として、いしなんご(岡山)、いんご(三原)、おじゃみ(広島)、こぶいし(岩国)、ていし(徳山)、ななつ・おなつ(防府)、おさら・みつご(下関)、ひーろい(赤間)とあった。各地でいろいろな呼び方がされていたようだ。 この辺りで聞いてみると、しゅすだま(伊陸)、おしとつ(福川)、おじゃみ・いきいし(むつみ村)、おじゃみ(花岡)、いしやら(櫛ヶ浜)、おてんこ(岡山総社)などがあったが、今はほとんど「お手玉」に統一されてしまったようだ。他には、いしなご・ひきねこ(周防大島)、こぶし(岩国)、おひとつ(防府)、いきし(阿武)などがある。 「おひとつ」は「おひとつ、おひとつ・・・」と歌いながら遊ぶところから付いた呼び名で、県内のかかなりの地域で言われていた。「おしとつ」はその訛。 【「いしやら」参照】
○ 332	おしピン (押しピン)	画鋏。 西日本は「押しピン」、東日本は「画鋏」と呼ぶ。 例外は岐阜の「がぼり」、大分の「がいてー」。 【番外の「東西の違い」参照】
333	おじぶん (御時分)	「食事時」の意味。 食事の時間帯に訪問した時に、「今は、食事時ですか」と聞く時に使う。「おじぶん」とも「ごじぶん」とも言う。言い方は「おじぶんかね」、「おじぶんですみますか」、「おじぶんですかね」等。相手への軽い敬意と親しみを込めた挨拶言葉。 【「ごじぶんですか」、番外の「挨拶の表現」参照】
334	おずく (おづく)	振動させる。 粒状のものを容器に入れる時に、トントンと上下に振動させることを「おずく(おづく)」と言う。東地区(櫛ヶ浜)で使う。鹿野の方言集に「舗装のない道は車がおずきやげる」と言う例があったので、所によっては突き上げるような振動にも使っていた可能性あり。 例：《米櫃(こめびつ)にお米がいっぱいになった時》 後、もーちよつとじゃけー、おずいたら入るいねー。 (後、もう少しだから、トントンと叩いたら入るよ。)

No.	見出し	説明
335	おせ	おとな。 言い方は「おせ」。「おせらしい」は大人っぽい。語源は「大兄・大背(おせ)：姉妹から見た兄弟」、「長(おさ)：上に立ってまとめる人」、「大人(うし)：人を敬って言う言葉」等の説がある。「大兄(おせ)」説が一番しっくり来るが、良く分からないらしい。 例：ひさー見んうちに、どひょうーし、おせらしゅーなってから。 (しばらく見ないうちに、大変、大人らしくなってから。)
336	おせー	遅い。 子音内の連母音「オイ」は、形容詞等で概ね「エー」と発音される。「遅い(オソイ)」が「オセー」、「白い(シロイ)」が「シレー」である。また、「オエー」と言う場合もある。「黒い(クロイ)」が「クロエー」、「細い(ホソイ)」が「ホソエー」などである。【「おいー」、「せーでも」、「ひでー」参照】 例：えらい来るんがおせーの一。(とても来るのが遅いねー。)
337	おせえる (おせーる) (おすえる)	教える。 「おすえる」に聞こえる言い方をする人もいる。「おせーる(教える)」、「おせーて(教えて)」、「おせーたげる(教えてあげる)」、「おせーちゃん(教えてあげない)」、「おせーちゃろーか(教えてやろうか)」等の言い方をする。 例：A：ねえー、この問題の答えをおせーてーね。 (ねえ、この問題の答えを教えてよ。) B：うん、おせーたぎょう。(うん、教えてあげよう。) 例：この言葉の意味をおせーちゃぎょうか？ (この言葉の意味を教えてあげようか？) 例：この答えは、おせーちゃげん。 (この答えは、教えてあげない。) 注：山口弁の正調は「おしえーる」。動詞の語中の連母音「イエ」が「イェー」と発音される。よって、「教える(オシエル)」が「オシェール」、「見える(ミエル)」が「ミュール」になる。この正調の「オシェール」が「オセール」「オスエール」に変化している。
338	おそーなる	遅くなる。 反対は「はよーなる(早くなる)」。 例：来るんがおそーなった。わりーわりー。 (来るのが遅くなった。ごめん、ごめん。) 注：形容詞の連用形活用語尾「ク」がウ音便化する。「オク」は「オー」と発音される。よって、「遅く(オソク)」は「オソー」、「黒く(クロク)」は「クロー」、「良く(ヨク)」は「ヨー」となる。 【「いとーない」、「おーきゅーなる」、「ふるーなる」参照】
339	おそはよう (遅早よう) (おそーはよー) (はよーおそー)	即刻。取るものも取りあえず。早々と。 大慌てで物事をするので、「おそくはやく」の「く」がウ音便化したもの。「動静」のように動きを表すのに、対立する静を加えて、強調する言い方と同じ使い方。「おそーはよー」と言う場合もある。ただ、この方言の使用率はかなり下がっている。なお、県北部では、「はよーおそー」と言うようだ。 例：怖かったんで、おそはように逃げたいやー。 (怖かったので、即逃げたよ。) 余談：県内各地の方言集を調べると、須佐、阿武、萩、福栄、豊浦の方では「はよーおそー」とあり、県東部と小野田、阿知須は「おそーはよー」で、山口は両方並記だった。

No.	見出し	説明
340	おそらかす	恐れさす。怖がらせる。脅かす。 【「おそれ」、「おそろしー」、「おとろしー」参照】 例：怖い話でそねーに小さい子をおそらかすなよ。 (怖い話でそんなに小さい子を怖がらせるなよ。)
341	おそれ (恐れ)	「臆病者」のこと。 ちょっと侮りや卑下した気持ちが入った言葉。「おそれんぼう」とも言う。 言い方は「お ^ろ それ」。 【「おそらかす」、「おそろしー」、「おとろしー」参照】 例：あいつは、おそれじゃのー。(あいつは、臆病者だなあ。)
342	おそろしー (おとろしー)	恐ろしい。 恐怖感を表す言葉は、山口県では普通「おそろしー」を用いる。「おとろしー」と言う人もいる。最近では、近畿地方や首都圏で使われる「こわい」、東日本方言の「おっかない」を使う人が増えている。「怖がらせる」、「恐ろしがらせる」は、「おそらかす」。「臆病者」は、「おそれ」。 【「いびしー」、「こわえー(こわい)」、「おそらかす」、「おそれ」、「おとろしー」参照】 例：おそろしー話ばかりせんさんなよー。 (恐ろしい話ばかりしてはいけないよ。) 余談1：中国地方では他に、広島は「いびせー、いびしー、えべせー」、石見は「ばいせー、ばいしー、ぼえせー」、出雲は「おぞい」、備中は「きょーとい、きょーてい」を使う。フォッサマグナより東は「おっかない」が主流。なお、「おぞい」は大分や宮崎でも使うらしい。ただ、日向弁は「おじい」のようだ。ただし、昔の人が言っていたと言うことかも知れない。広島でも「こわい」が主流になっていた。「いびせー、いびしー」はかなり年配の人が言っていたかなと言う程度。 余談2：色々な言い方があるが、標準語として認定されているのは「おそろしい」と「こわい」らしい。
343	おちゃー (おうちは)	お前は。 「おうち(御内、御家)は」を早くしゃべると「おちゃー」になる。「おうち」は「お前」の意。我々は使っていないが、KRYラジオで紹介されていたので、収録した。岩国、須佐、周東の方言集にも「おうち(お前)」と載っていたし、国語辞典にも載っている言葉なので、古くは各地で使われていたようだ。 元々は相手に対して尊敬語だったようだが、だんだん使われているうちに、自分と同等以下の人に対して使う言葉になった。 【「おどりゃー」、「おんどりゃー」、「おんし」、「われ」参照】 注：子音内の母音「イ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「おうちは(オウチワ)」は「オウチャー」になる。これがもっとつづまって「オチャー」になった。【「うち」参照】 余談：「おうち」は「おうちでごいすか」(徳山小畑)、「おーちんでごんすか」(柳井)、「おうちんでごいすか」(岩国)のように、「いらっやいますか」の意味で訪問時の挨拶言葉としても使われていたようだ。
344	おつむぎ	アイナメ(鮎魚女)。(魚) 東地区で使う。「日本方言大辞典」によると「クジメ(久慈目)」や「タカノハダイ(鷹の羽鯛)」のことも「おつむぎ」と言っていたらしい。 【「あぶらめ」、「もみだねうしない」参照】

No.	見出し	説明
345	おてらさん (お寺さん)	お寺の僧侶。 尼僧は「おびーさー」。「おびー」は比丘尼のこと。 また、湯野では、お寺さんも神社の神主さんも含めて「おっさま」と言ったようだ。他には宗派によって「ごいんげーさー」、「いんげ」、「ほーいん」、「いんじゅ」、「ほーじょー」、「おしょう」、「おつさま」等の言い方がある。
346	おとうみょうが きれる (お燈明が 切れる)	老衰死。 老い患うことなく、枯木が倒れるような老衰死の状況を言う。 菜種油に浸した燈芯が、燃え尽きる直前にかすかにジジと鳴りながら、ひときわ大きな炎を輝かすと、火は細りに細りながらやがて静かに消える様子を、欣求浄土(ごんぐじょうど)の思いで表した言葉。庶民の健康な死生観が込められた言葉である。
347	おとこし	男の人。男衆。 【「おなごし」、「～し」参照】
○ 348	おとつい	おととい。一昨日。 西日本での言い方なので、かなり広い範囲で言われている。最近では「おととい」の方が多いかも? 「遠(をと)つ日(ひ)」の意。「つ」は格助詞で「の」のこと。平安時代以前の言葉。「おととい」は「おとつい」の転で、平安時代以降の言葉。【「きによーのばん」、「しあさって」、「ごあさって」、番外の「東西の違い」参照】
349	おとどい	同性の兄弟(姉妹)。 言い方は「おとどい」。字は「弟兄」。「おとと(弟)え(兄)」が転じて、「おとどい(弟兄)」になった。この「おとと(弟)」は「おと(弟・乙)」から派生した「おとひと(弟人)」が「おとうと」になり、さらに「おとと」に変化したもの。 「え(兄)」は「おと(弟・乙)」の対義語で、古くは「同性の兄弟関係で年上の者」のこと。弟に対する兄や妹に対する姉のことを指した言葉。 余談：山口市には二つの山が仲良く並んでいる「おとどいやま」があるが、こちらは「兄弟山」と書くらしい。
350	おどりゃー (おんどりゃー) (おのりゃー)	うぬは。貴様は。 「汝は」のひどい言い方。相手をののしって言う言葉。一人称の「己(おのれ)」が転じた「おどれ」(二人称)に助詞の「は(ワ)」が付いた時の言い方。「おんどりゃー」とも言う。子音内の母音「エ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「おどれは(オドレワ)」は「オドリャー」、「おんどれは(オンドレワ)」は「オンドリャー」になる。また、「おのれは(オノレワ)」と言う時は「オノリャー」になる。【「おちゃー」、「おんし」、「おんどれ」、「われ」参照】
○ 351	おどろく	寝ていて、目が覚めること。 最近では、目が覚めるの意味での「おどろく」は使わなくなった。普通に「目が覚める」と言う。なお、「おどろく」はびっくりする意味でも使うが、山口では「たまげる」が一般的。【「たまげる」参照】 例：昨夜は大雨におどろきました。(昨夜は大雨で目が覚めた。)
352	おとろしー	恐ろしい。 「おとろしー」は「おそろしー」という古く由緒正しい言葉の変形したもの。KR Yテレビで「おっといしー」、「おそいしー」と言う放送していたのと、「周防大島ことば大全」に「おとえいしー」、「おていしー」とあったので、少しずつ変化した言い方が各地にあったようだ。【「おそろしー」参照】 余談：「おとしいしー」の言い方は広島県の島嶼部に残っているようだ。

No.	見出し	説明
353	おとんぼ	末っ子。 字は「乙坊」。「おとんぼー」と語尾を伸ばして言うこともある。柳井の方は「おとご(弟子、乙子)」とも言うようだ。この「弟・乙(おと)」は古くは「同性の兄弟関係にある年下の者」を指したが、室町時代の末頃からは「末っ子」の意味でも使われるようになった。男女の区別はない。「おと」が「おとのぼー」になり、「おとんぼ」や「おとんぼー」に変化した。 【「おとどい」参照】 例：ありゃあ、おとんぼーじゃけー、甘えん坊ちゃ。 (あいつは、末っ子だから、甘えん坊だ。) 余談：長男は「甚六」。よって、「惣領の甚六」と言われる。
354	おなごし	女の人。妻女。女中。 【「おとこし」、「〜し」参照】
355	おぬかれごすん	抜けていること。 物を忘れた時などに「おぬかれごすんじゃね(私はぬけさくだね)」と言う風に使う。田布施の「郷土館叢書第四集 田布施地方の口承文芸 民話・民謡・ことわざ」に「石城山にある『宇和奈利社(うわなりしゃ)』に『おぬかれごすん』と言う古式豊かな神事が伝えられていた。『ごすん』は『御損』の意味であろう。この神事は行われなくなったが、出し抜いた者が『してやったり』と相手に対して使う俚諺『石城の祭礼おぬかれごすん』がその名残をとどめている。」とあった。この変形の使い方のようだ。出し抜かれた者は「ぬけさく」となるから、自虐的に使ったか？ 【「おぬけそうろう」、「ぬけ」参照】
356	おぬけそうろう	①抜けていること。注意力散漫な状態。 ②赤ん坊がおしめをしていない状態。 【「おぬかれごすん」、「ぬけ」参照】 例：《物を忘れた時》 ありゃありゃ、また、おぬけそうろうじゃったねー。 (あらあら、また、忘れてしまったわ。) 例：《赤ちゃんがおしめをしていないのを見て》 ありゃ、おぬけそうろうじゃね。 (あら、まだおしめをしていないのね。)
357	おばいけ (尾羽毛)	さらしくじら。 鯨の尾の部分にある脂肪やゼラチン質のところを塩漬けにしたものを、薄く切って湯引きし、水にさらしたもの。 刺身のように酢味噌につけて食べるか、酢味噌和えにして食べる。「おばゆき(尾羽雪)」、「おばやけ」とも言う。 例：このおばいけ、こりこりしてぶちうまい。 (このさらし鯨、こりこりしてすごくおいしい。) 余談：九州では「おばけ」らしい。
358	おばち (おっぱち)	尻尾(しりお・しっぽ)。尾ひれ。 発音が三味線の撥(ばち)に似ているので、魚の尾ひれに対して良く使う。
359	おはっつあま	仏壇に供えるご飯。 柳井の方言集に載っていたが、周南でも言う人あり。 【「おうっぱん」参照】

No.	見出し	説明
360	おはよう ありました (おはよう ございました)	おはようございます。 他に「おはようござんした(おはようございます)」とも言う。 「た」は文語の完了を表す「たり」が変化したもので、気持ちちが現在、存続していることを強調している。つまり、「あります」や「ございます」を強調したもので、心がこもっている表現。 また、過去形で言うのは「早く起きたこと」をほめた言葉になっているからの説もある。気楽に言う時は「はやいのんたー」もあり。 【番外の「挨拶の表現」参照】
361	おぼる (うぼる)	①疲れて筋肉が張ること。 ②腫物が膨れて痛むこと。 腫れて痛むことを「おぼる」と言う。言い方は「おぼる」。広島では「うぼる」なので、この影響を受けた県東部地域は「うぼる」も使う。 【「うらぶ」、「おぼろしい」、「にがる」、「ふがあがる」参照】 例：《長く歩いた後に》 はあ、足がおぼってきたでよー。 (もう、足の筋肉が疲れて張ってきた。) 例：面疔(めんちよう)で顔がおぼる。 (面疔で顔が腫れる。) 例：蜂に刺されて、ちょっとおぼっちゃう。 (蜂に刺されて、ちょっと腫れている。)
362	おひーさま (おひーさー)	太陽。お天道様。(幼児語) 幼児語としても使うが、大人も普通に使うことがある。「おひーさー」とも言う。【「あとーさま」参照】 例：《日の出を見ながら拝む》 おひーさまがでちゃたよ。まんまんさーあつ。 (太陽が出たよ。今日も一日よろしくお願いします。)
363	おびく	嘲弄(ちょうろう)。あざけて ばかにすること。 欺いて誘い出すことを「おびき出す」と言う。これから転じて、からかうことになった。「大引(おびく)」か「招引(おぎひく)」の略。 【「かも」参照】 例：そねーに、おびいちゃーいけんでー。 (そんなに、からかってはダメだよ。) 余談：宮崎の方では、イワシやアジを調理する際に、指で内臓を取ったり、骨を外したりすることを「おびく」と言うらしい。
364	おべんたれ	お世辞者。 「おべん」は「巧言」。「おべんをたれる」は「おべっかを言う」こと。
365	おぼろしい	①腫物で顔がうずうずする感じ。 ②顔や目がぼてって、腫れぼったい感じ。むくんだ状態。 「山口県方言辞典」の「はしる」の欄に腫物は「おぼろしい」と載っていたので、収録したが、我々は使っていない。「おぼる」が形容詞化したものか？ ②の意味は柳井や防府の方言集に載っていた意味。これも使っていない。 「目がおぼろしい」と言えば「目が腫れて、かすんで見えること」らしい。 【「おぼる」、「にがる」参照】

No.	見出し	説明
366	おまらー (おんまらー)	俺達。 東地区(櫛ヶ浜)で使う。「私(自分)」は「おまー」。 西地区では「俺達」のことは「おんまらー」。「私(自分)」は「おんま」。 【「おんま」参照】 例:おまらー、櫛ヶ浜の生まれじゃけー。 (俺達、櫛ヶ浜の生まれだから。) 余談:「お前らー(お前達)」をつづめた言い方で「おまえらー」と「え」がほとんど消えた言い方をする人もいる。その時は場面で判断する。
367	おもたー (重たー)	重たい。 連母音「アイ」は普通「アエー」と発音されるが、形容詞では「アー」と発音することが多い。よって、「重たい」は「おもたー」、「固い」は「かたー」、「うまい」は「うまー」になる。【「あかー」、「うまあこと」参照】 例:おもたーものを、急に持ち上げたら、 こしゅーわるーするけー、きーつけーさいよ。 (重たい物を、急に持ち上げたら、 腰を悪くするから、気を付けなさいよ。)
368	おもて (表)	客間。 二間ある時は、床の間がある方が「上表(かみおもて)」、ない方が「下表(しもおもて)」。下表は「しもーて」と縮めて言うことあり。
369	おもやい	共有。 「もやい(催合い)」に「お」を付けて、丁寧な言い方の「おもやい」を良く使う。【「もやい」参照】
370	おゆーて (およーて)	多くて。 言い方は「 お ゆーて」。「 お よーて」とも言う。「おいー」の欄に書いたように、「 お おい(多い)」が「 お いー」になるのと同様に、「 お おくて」は「 お いくて」となるので、この形容詞の連用形活用語尾の「ク」がウ音便化して、「イク」が「ユー」と発音される。よって、「 お いくて」は「 お ゆーて」になる。「 お よーて」は「 お ゆーて」の転。 【「 お いー」、「 お ーきゅーなる」、「かわゆーて」、「とゆーて」参照】 例:夏休みやー宿題が お ゆーて、やれんにーね。 (夏休みは宿題が多くて、たまらないよ。)
371	おら	私。俺。自分。 言い方は「 お ら ^ㇿ 」。今頃はほとんど使われていないが、「おれはのー(自分 はね)」の時、「 お らーのー」と言う人はいる。 【「 わ しかた」参照】 例:おらもそーじゃ。(自分もそうだ。) 余談:岡山・津山では、「うら」と言うらしい。「おれ」→「 お ら」→「うら」とな ったか? 調べて見ると、山口でも「うら」は使われていたようだ。山口県方言 辞典に「うら:おら、おいら」とあった。
372	おらえる	①固定する。支持する。動かない様に止めておく。 ②我慢する。抑制する。許す。 例:転げんように、おらえちよってよ。 (転げない様に、押さえといてよ。) 例:今回は、おらえちよう。 (今回は、我慢しておこう。→今回は、許そう。)

No.	見出し	説明
373	おらぶ (叫ぶ) (号ぶ)	叫ぶ。大声で叫ぶ。「哮(たけ)る」こと。 字は「叫ぶ・号ぶ」。「声の限り叫ぶ、大声で泣き叫ぶ」感じ。周南地区では、一般的には「たける」を使う。柳井の辺りは「おらぶ」を使うようだ。広島は「おらぶ」が一般的。大分も「おらぶ」らしい。 【「いがる」、「たける」参照】 例：沖に向かっておらべ! (沖に向かって大声で叫べ!) 例：なんかおらびよるが、よーきこえんのー。 (何か叫んでいるが、良く聞こえないなあ。)
374	おらん	居ない。 「おる(居る)」の否定形。「おってかね(おられますか)」と聞かれて、居るなら「おるよ」、居ないなら「おらんよ」となる。「おらんよーになる」は「いなくなる」、「おらんよーになった」は「いなくなった」。 【「おる」参照】 余談：最近、「おらんくなった(いなくなった)」と若者が言っているらしい。今は若者言葉だが、将来の山口弁候補か?
375	おらん おらん おったー	いない いない ばあー。 「おる、おらん(居る、居ない)」を使う地域での、子供をあやす時にする動作の掛け声。年配者が時々使う。ただし、テレビや絵本の影響で、今はほとんど「いない いない ばあー」になっている。
376	おりこーさん (お利口さん)	良い子。(幼児語) 聞き分けが良い時、物分かりが良くて素直な時に、「おりこーさんだね(良い子だね)」と言う風に褒める。「おりこ おりこ」と続けて褒める言い方もする。 【「ほんこ」、番外の「幼児語」参照】
377	おりしな (おりがけ)	降りる時。 【「いきしな」、「いにしな」、「かえりしな」、「～しな」参照】 例：《傘を車内に忘れて》 おりしなに、かさー忘れちよるのに気が付いたんちゃー。 (降りる時に、傘を忘れてるのに気が付いたのだ。)
378	おりゃーる	～(して)いる。 「居(お)らる」の拗音化した言葉。本来は敬語だが、ちょっと攻撃的、嘲笑的な態度を匂わせた言い方として使うことが多い。 同じ言い方だが、「家におられますか」の意味で、「家におりゃーるかの」と言うのは敬意を払った言い方。 【「おる(居る)」参照】 例：あのひたーいつ行っても、ブラブラしてばかりおりゃーる。 (あの人はいつ行っても、ブラブラしてばかりいる。)
379	おりゃまー	「あら、まあ」。「おや、まあ」。 驚いた時の言葉。縮んで「おりゃっ」とも言う。「ありゃまー」とほとんど同じに使う。 【「ありゃまー」、「おりょっ」参照】 余談：昔、福川の方ではびっくりした時、驚いた時に「おーら」と言ったらしい。80代の人に聞いたが、「言っていない」とのことだったので、もっと昔の世代のことか?
380	おりよっ (おりよー) (おりよりよ)	おやっ。ありや。あれっ。 驚いた時の言葉。「おりよりよ」は「あら、まあ」、「あらあら」の意。 【「ありゃまー」、「おりゃまー」参照】

No.	見出し	説明
381	おりんさる (居りんさる)	居(お)られる。 反対の「居(お)られない」は「おりんさらん」、「おってんない」。「おってない」になるとちょっと丁寧さが薄れる。 【「おる(居る)」参照】 例：A(お客)；たいしょーは、おりんさるかの一。 (旦那さんは、おられますか。) B(店員)；今は、おってんないんですが。 (今は、おられないんですが。)
382	おりんさる (降りんさる)	降りられる。 【「～んさる」参照】 例：《二階に居る人の様子を見ながら》 もうちょっとしたら、おりんさると思うがねー。 (もう少ししたら、降りて来られると思いますか。)
383	おる (居る)	居(い)る。 「居る」と言う行為に対して、フォッサマグナより東は「いる」、西は「おる」を使う。 東京では通常「いる」を用いるが、丁寧語としては「おります」の形で「おる」を使う。 山口弁ではすべての場合に「おる」を用いる。敬語表現においても然り。「お父さんは、おってですか」、「先生が、おっちゃった」、「爺さー、おりゃーるか」などと表現する。 標準語の「いらっしゃいます」に相当する山口弁の尊敬語は「おられます」。標準語では「いらっしゃいます」の方が「おられます」よりも高い敬意を表わすが、山口弁においては、「おられます」は標準語の「いらっしゃいます」と同等以上の敬意を持つ表現として用いる。 【「おらん」、「おりゃーる」参照】
384	おるまー	居ないだろう。 「おるまーの一」と言えば、「居ないだろうな一」の意味。 【「～まあ」参照】 例：《あまり家に居ない人に》 A；明日はおるんかねー。(明日は居るのかね。) B；いや、おるまーでよ。(いや、居ないだろうよ。)
385	おろ	支柱。 野菜などの支柱のこと。言い方は「おろ」。草木の茂ったところを「おどろ」と言い、そこから取れる「小枝」のことも「おどろ」と言うようになり、それが縮まって「おろ」になったようだ。 例：きゅうりにおろを立てる。 (きゅうりに支柱を立てる。)
386	おろーなる (おろになる)	静かになる。 「おろ」は風や雨の勢いが衰えて静かになることだが、転じて、騒々しい人が大人しくなった、静かになったことを言う。柳井の方言集には「①風雨が収まる ②腹痛などが楽になる」とあるので、元はこのような意味に使っていたらしい。 例：あの人もおろーなったからねー。 (あの人も静かになったからね。)

No.	見出し	説明
387	おわえる (おわえーる)	追いかける。 言い方は「おわえーる」。「おわえごー」は「追いかけっこ」、「鬼ごっこ」のこと。 「おわいご」とも言う。強調した言い方は「おわえまわす」。 例：あいつをおわえて行ったが、ダメじゃったいやあ。 (彼を追いかけて行ったが、ダメだった。) 例：おわえごーして、あそぼーいね。 (追いかけっこをして、遊ぼうよ。)
388	おんがく	音楽(おんぐあく)。 言い方は「 <u>おんがく</u> 」。これは、山口県人は方言と思っていないが、標準語は「おんぐあく」の感じで「が」がはっきりと発音されないらしい。正式には「鼻濁音」と言うのだが、説明が難しい。ここではガ行鼻濁音を「 <u>ぐあ</u> 、 <u>ぐい</u> 、 <u>ぐう</u> 、 <u>ぐえ</u> 、 <u>ぐお</u> 」と示す。 森川さんの「山口県方言基本発音体系」の説明によると、「標準語では鼻濁音になる非語頭や助詞・助動詞のガ行子音が、山口県方言では、普通の濁音(破裂音)で発音されます。ガ行子音には、語頭・非語頭・品詞にかかわらず鼻濁音がありません。」となる。 他に、「うさぐい(兎)」が「 <u>うさぎ</u> 」、「りんぐお(林檎)」が「 <u>りんご</u> 」、「ぐおとく(如く)」が「 <u>ごとく</u> 」などが例として挙げている。
389	おんし	お前。お主(ぬし)。 「お主(おぬし)」の変形? 「おんしは」は「おんしゃー」になる。 【「おどりゃー」、「おちゃー」、「おんどれ」、「われ」参照】 例： <u>おんしゃー</u> 、知つとるか。(お前は、知っているか。) 注：子音内の母音「イ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「おんしは(オンシワ)」は「オンシャー」になる。【「うち」参照】
390	おんだの はつもの (穩座の初物)	おんざのはつもの(穩座の初物)。 旬の時期が終わる頃にできたため、初物同様に珍重される果物や野菜のこと。「ザ」が「ダ」になる山口弁の音韻法則により、「おんだのはつもの」となる。 「穩座」とは、正式な宴の後に設けられるくつろいだ席のこと。それから、食事で最後にでる食べ物のことになり、さらに転じて、時期に遅れて取れる果物や野菜の意味になった。 森川さんの「山口弁よもやま話」に載っていたが、「おんざ」、「おんだ」とともに、我々は使っていない。この言葉もハウス栽培が盛んになり、野菜に季節感がなくなったので、使われなくなったと思われる。 注：「穩座(おんざ)の初物」は国語辞書には掲載されている。
391	おんどれ (おんどりゃー)	うぬ。貴様。 相手への蔑称。「おんどれ」、「おどれ」、「おぬしー」、「おのりゃー」、「おんどりゃー」と投げつけるように言う。「おのりゃー」や「おんどりゃー」は「貴様は」の意味で、山口弁の発音体系に則った言い方と思うが、「貴様あ!」の意味に近い言い方で使っている気がする。 【「おどりゃー」、「おちゃー」、「おんし」、「われ」参照】 例： <u>おんどりゃー</u> 、のしちゃうか。 (お前は、殴り倒してやろうか。) 注：子音内の母音「エ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「おんどれは(オンドレワ)」は「オンドリャー」になる。 【「そりゃーなにーいや」参照】

No.	見出し	説明
392	おんま (おまー)	自分。 「自分達(俺達)」は「おんまらー」。西地区のみ。東地区(櫛ヶ浜)は「おまー(自分)」、「おまらー(自分達)」。しかし、東地区はどちらかと言うと「わし」と「わしらー」が主体。「わしゃーのー(私はねえ)」、「わしらーはのー(俺達はなあ)」の様に使っていた。【「おまらー」参照】 余談：下関や豊浦の方では「自分」のことは「おだん」と言うらしい。
393	おんりする	降りる。背中から下に降りる。(幼児語) 子供をおんぶしているが、降ろして歩かせようとするような時に、「おんりするかね(降りるかね)」と言う風に使う。【番外の「幼児語」参照】
394	～かー	～か？ 問いの言葉。「これ、それ、あれ、どれ」や動詞に付いて、伸ばす言い方で疑問や問い掛けを強調する。最後は上がり調子に言う。「これかー(これですか)」、「行くかー(行くかね)」のように使う。
395	～が (～がー) (～がん)	～ぶん(分)。～だけ。～ほど。 金額や量を限って物を買ったりする時に使う。「～がー」とのぼす場合もある。「～がん」も使う。県内には「～がそ」、「～がと」、「～がとこ」、「～がの」を使うところもあるようだ。【「～ほど」、「みながん」参照】 例：こりよー百円がちょうどいい。(これを百円分下さい。)
396	かーら	瓦(かわら)。 前に子音を伴う「アワ」は「アー」と発音される。「瓦(カワラ)」は「カーラ」、「回る(マワル)」は「マール」となる。但し、「泡」、「粟」は「アワ」で「アー」とはならない。 例：この前の台風で、かーらが飛んだいやー。 (この前の台風で、瓦が飛んだよ。) 余談：「川原、河原(かわら)」も「かーら」になる。語尾が上がり調子なら「瓦」、下がり調子なら「河原」のこと。
397	かい	かゆい。 例：せなが、かいから、かいてくれ。(背中が、かゆいから、搔いてくれ。)
398	かいも (かゆいも)	さといも(里芋)。(芋) さわると、かゆくなくなるから。「防長動植物方言考」によると、都濃郡や玖珂郡で昔は言っていたようだが、今はもう言う人はいないようだ。他に柳井の方言集によると、「ささいも」、「えぐいも」とも言っていたようだが、これも今は使われていないと思われる。 なお、森川さんの「山口弁よもやま話」によると、「かゆいも」は「痒芋」だけでなく、「粥芋」の可能性も有りとのこと。 【「えぐい」、「こいも」、「のどをほる」、番外の「芋の呼び名」参照】
399	かいさ (かいさ)	全く。全然。皆目(かいもく)。 鹿野では「かいさ」、県内の他の地域では「かーさ」、「かいさに」、「かえさら」と色々な表現になるようだ。また、「かいさ」では、意味が「少ししか」や「大したことない、つまらない」に変化して、「かいさありやーせん(少ししかない)」、「かいさな奴(つまらない奴)」、「かいさな物(粗末なもの)」のように使うこともあったようだ。また、「かいさ」は「きやーさ」と言うこともある。「かいさ」は「皆様(かいさま)」の略らしい。 例：このテストは、かいさでできちゃらんじゃないか。 (このテストは、全然出来ていないではないか。)

No.	見出し	説明
400	かいど (垣外)	①家の表側。家の前の庭。②広場。 家の裏側は「せど(背戸)」。「せど」は国語辞書にあるが、「かいど」はない。 家の前の庭は「かど(門)」とも言う。【「かど」、「ほか」参照】 例：A; お兄ちゃん、見なかった。(お兄ちゃん、見なかった。) B; かいどで遊びよったよ。(家の前で遊んでいたよ。)
401	かいらしい	①可愛らしい。②小さい。 「かわゆらし」の転。 例：《小さい子を見て》まあ、かいらしいね。(まあ、可愛らしいね。) 例：《同じ模型の大小があった時、小さい方を指して》 まあ、こっちは、かいらしいね。(まあ、こちらは、小さくてかわいいね。) 余談：「可愛らしい」は大方では「えらしい」、佐賀では「やーらしか」(他県の人には「いやらしい」と勘違いされるらしい)、五島列島では「みじょか」(化粧品やお菓子の名前になっている)、天草では「みぞか」(天草での飛行機の名前になっている)、鹿児島では「もぜ」。
402	かえごと	交換。 例：かえごとしょーいね。(交換しようよ。)
○ 403	かえりしな	帰る途中。帰り掛け。戻る途中。 【「いきしな」、「いにしな」、「おりしな」、「～しな」、「もどりしな」参照】 例：帰りしなに、本屋によろーかー。(帰る途中に、本屋に寄らないか?)
404	かお かお	手を握ったり開いたりするしぐさ。(幼児語) 幼児をあやす時に使う。幼児の目の前で、「かお」で一回開いた状態から握る。言い方は「 かお かお 」。これで二回開いて握る。これを繰り返す。ゆっくりと握る時は、「 かーお かーお 」か「 かーおっ かお 」。 【「ちょーち ちょーち」、番外の「幼児語」参照】
405	かかえる	持ち上げる。 字は「担かえる」か? 「抱える」なら両手で包むように持つ意味になる。この「抱える」意味でも当然使うが、「持ち上げる」の方はちょっとニュアンスが違うので収録した。 「かく(昇く)」と同じ意味で使う。【「かく(昇く)」参照】 例：《机をちょっと持ち上げて運びたい時に》 ちょっと一緒に机をかかえてーね。 あっちまで運ばんにやーいけんのんっちゃ。 (ちょっと一緒に机を持ち上げてよ。 あちらまで運ばないといけないのよ。)
406	かがと	踵(かかと)。 西日本で「案山子(かかし)」を「かがし」と呼ぶように、「かかと」も「かがと」と言う。方言地図には周南で「きびす」とも言うと言ってあるが、今では「きびすを返す」以外には使わない。 余談：「くるぶし」も方言地図には、周南で「こぶ」と言うと言ってあるが、我々の時代には言わなくなったようだ。
407	かかり (掛かり)	取り掛かり。手始め。最初の時。 例：昼の掛かりに打ち合わそうかー。 (昼からの最初に打合せをしようか。) 例：仕事の掛かりは10時からにしょー。 (仕事の取り掛かりは10時からにしよう。)

No.	見出し	説明
408	かぎーす	カケス(懸巢)。(鳥)
409	かく (掻く)	髪を櫛でとく。 字は「掻く」。万葉集にも例が見られる。古語の名残である。仙台や岡山でも使うようだ。 例：髪をかいちゃげて。(髪をといてあげて)
410	かく (昇く)	持ち上げる。かかえる。 数人で腰位の高さで水平に持ち運ぶ。字は「昇く」。奈良や香川でも使うようだ。【「かかえる」参照】 例：ちょっと机をかいて。(ちょっと机をかかえて。) 余談：名古屋では「つる(吊る)」と言う。両手で「吊る」から。
411	かくつとう	木の根株。 例：かくつとうに、けつまずいた。(木の根っこに、つまずいた。)
412	かべる	引っ掻く。 鍬や手で畑の草などを引っ掻くように取るのも、備中鍬(熊手等)やがんざき(がんぜき)で土の表面を浅く掻くのも「かべる」と言う。古語の「かきなぐる」が、「かなぐる」に、そして、「かべる」に変化したようだ。 なお、「かなぐる」と言う言葉は、「かなぐり捨てる」と言う言い方で残っている。 例：猫の子を抱えたら、ほおべたをかぐられたいやー。 (猫の子を抱えたら、頬を引っ掻かれたよ。) 余談：備中鍬(2～5本の歯がある打ち鍬)の内、歯が3本のものが熊手。他は二ツ子、四ツ子、五ツ子と呼んだ。
413	かくれご (かくれんご)	かくれんぼ。(幼児語) 「かくれんご」とも言う。【番外の「幼児語」参照】
○ 414	かけ (掛け)	鏡餅を数える単位。 鏡餅ひとつが「ひとかけ」、ふたつが「ふたかけ」。
○ 415	かける (かつける) (駆ける)	走る。 徒競走は「かけっこ」。「かけりごう」、「 <u>かけりやいこ</u> 」、「 <u>かけりがー</u> (走りあい)」とも言う。言い方は「 <u>か</u> ける」。県東部は「かける」だが、県西部は「かつける」と言う。「そねーにかかけたらこけるよ(そんなに走ったら転ぶよ)」のように使う。県東部なら、「そねーにかかけたらころぶよ」になる。防府は「かつける」、湯野は「かける」なので、「かける」と「かつける」の境界は樺峠か? 【「とりがー」、「～やい(～やいこ)」参照】 注：「かけりやいこ」は「はしりやいこ」、「かけりがー」は「はしりがー」とも言った。
○ 416	かげん (加減)	悪いことの程度。 調整の「加減」が、悪いことの程度に転じて、「ええかげんにせーよ(その位で悪いことは止めとけよ)」と悪いことを叱る時に使う。 当然、通常の「塩加減」、「湯加減」のように調整の「加減」の使い方や「お加減は如何?」のように体の調子を聞くのにも使う。 【「えーかげんにせーよ」参照】 例：《悪さをしている子供に》 ええかげんにしちょかんにやー、しばかれるよ。 (その位でやめておかないと、叩かれるよ。)

No.	見出し	説明
417	かごーでみる	しゃがんでみる。屈(かが)み込む。 「かごんでみる」がウ音便化した言い方。【「かごむ」参照】 例：《消しゴムが狭い所にころがった時》 ちよっと、かごーでみーや。取れるいや。 (ちよっと、かがみこんでみたらどうかね。取れると思うよ。)
418	かごむ (屈む)	①[しゃがむ。] ②[うつむく。] ③隠れる。④閉じこもる。 「屈む(かがむ)」から転じて「かごむ」になったか？ 昔は「お辞儀」の意味でも使っていたが、今は使わなくなった。 「かごむ」に「ちよる」「ちよく」が続くと「かごんじよる(しゃがんでいる)」「かごんじよく(しゃがんでおく)」になり、これがウ音便化すると「かごーじよる」「かごーじよく」になる。【「かごーでみる」、「くずぬく」、「『～ちよる』『～ちよく』…、『～じよる』『～じよく』…、「つくなむ」参照】 例：そこにかごんじよけ。 (そこにじゃがんでおれ。)(そこに隠れておけ。) 例：あのひた一歩く時、いっそかごーじよってですいね。 (あの人は歩く時、いつもうつむいていらっしやるんですよ。) 例：外に出るのは嫌じゃゆーて、家にかごんじよるんよ。 (外に出るのは嫌だと言って、家に隠れて出てこないのよ。)
419	がし	必死。一生懸命。 ガシガシやるの「がし」か？ 下松や八代、鹿野、徳地の方言集に「がしる」で、「ガシガシ骨折りに働くこと」や「人一倍働くこと」と載っていたので、この短縮系か？【「がしがし」参照】 例：あした一雨になりそうじゃから、 今日はこれをがしになって、やらんにやーいけんのー。 (明日は雨になりそうだから、 今日はこれを必死にやらないといけないな。)
420	がしがし	必死にする様子。精を出してするさま。 良い方には使わない。少しせこくやっているような時に「がしがしするな」と言う。仙台や静岡でも言うらしい。長崎では「口やかましい」ことに使うようだ。ひょっとすると「餓死」しないようにすることから派生した言葉か？ 【「がし」参照】 例：そねーに、がしがしせんでもええいやー。 (そんなに、精を出してやらなくても良いよ。)
○ 421	かしこまる (畏まる)	正座する。 居住まいを正して座る時、正座するので、この意味になった。この意味は国語辞書にも載っているが、東京の方では通じないらしい。使う地域は長野や三重、島根と点在するようだ。 【「おぎようぎ(お行儀)をする」、「ひぎーくむ(ひだーくむ)」参照】 例：かしこまっちゃったから、足がしびれたでよー。 (正座していたから、足がしびれたよ。)
422	がしゃ (がっちゃん)	藪(やぶ)。 乱雑な様や、騒々しい音の「がしゃがしゃ」と語源はいっしょか？ 玖珂や柳井では「がしゃぐろ」。草ぼうぼうも「がしゃぐろ」らしい。「ぐろ」は集めたものや積み上げたものの意。よって、藪を積み上げたものを周南は「のー」だが、玖珂では「のーぐろ」と言うらしい。「がしゃ」+「ぐろ」、「のー」+「ぐろ」、同じ使い方である。【「のう(のー)」参照】

No.	見出し	説明
423	がしやんど	乱雑。むちゃくちゃ。取り散らかしているさま。 「がしやん」は髪を振り乱すこと。これに「ど」が付いて乱れている状態を指すようになった。部屋や髪が乱れている状態を「がしやんど」と言う。 【「がしや」、「だだんだー」、「つらかる」、「つらけかやす」、「わや」参照】 例：へやんなかが、がしやんどじゃったけど、 そーじょーしたら、きれーになった。 （部屋の中が無茶苦茶だったけど、掃除をしたら、きれいになった。）
424	かじょーひく	風邪を引く。 子音内の母音「エ」+助詞「オ」は、「ヨー」と発音される。よって、「風邪を（カゼオ）」は「カジョー」、「汗を（アセオ）」は「アショー」になる。 【発音については「こりょー見ない」、「じょーに」参照】 例：あしょーかいたのー、 はよータオルでふかんにやー、かじょーひくよ。 （汗をかいたのを、早くタオルで拭かなければ、風邪を引くよ。）
425	かしらう (かしろう)	からかう。 「かしらう」の[au]が連母音融合して[o:]になって、「かしろう」となる。 【「いじる」、「おう(会う)(合う)」、「かもう」、「せがう」、「せつく」参照】 例：そねーに、かしろうたら、はぶてるよ。 （そんなに、からかったら、すねるよ。）
426	かす (浸す)	水に浸けておく。ひたす。 昔は米や麦などの穀物を水に浸ける時に使っていたが、今では穀物以外でも使うようになった。「浸(つ)かす」が、平安時代以降、「かす」になった。平板に発音する。 例：《使った後の》茶碗をかしといて。 （茶碗を水に浸けといて。） 例：大豆を一晚、水にかして置く。 （大豆を一晚、水にひたして置く。）
427	～(か)す (～(か)さす)	～(か)せる。～(か)させる。 山口弁では文法で言う「使役」は「す・さす」(文語体)になるから、口語体の「せる・させる」との対比で例を挙げると、「歩かせる」は「歩かす」、「行かせる」は「行かす」、「寝かせる」は「寝かす」となる。「か」が付かない本来の「す・さす」の例は、「飲ませる」は「飲ます」、「寝させる」は「寝さす」、「食べさせる」は「食べさす」等がある。この使い方は大阪弁もそうなので、西日本全般にあるのかも？当然、「せる・させる」の表現も良く使う。 ただ、「行かす」は「行かさす」、「歩かす」は「歩かさす」、「寝かす」は「寝かさす」とも言う。この「～かす」と「～かさす」にはちょっとした違いがあり、「～かさす」の方が「使役性」が強い気がする。つまり、「行かす」で例えると、「行かす」は「ただ単に行かす」、「行かさす」は「強意で行かす」。 【「いらく」、「ねさす」、「はしらかす」参照】 例：《なかなか眠りにつかない子を前に》 はよー寝かすええ方法はないかのー。 （早く寝かせる良い方法はないかなあ。） 例：頼むけー、わしよー行かさしてくれー。 （頼むから、私を行かせてくれ。）

No.	見出し	説明
428	かづく (かづく)	被(かぶ)る。 帽子を頭にかぶる、お面を顔にかぶる時に使う。元来、水中や水底を潜(くぐ)ることを「かずく(かづく)」と言うので、水を頭から浴びることも「水をかずく(かづく)」と言う。それを転用して、頭上に載せる物をも、「かずく(かづく)」と言うようになった、と言う説と、「かー」は頭のことで、これに付くから「かづく」となったと言う説がある。近畿や中国、四国で使われる。 【「うぐる」、「かぶる」参照】 例：帽子をかずく。 (帽子をかぶる。) 例：あんたーもうちーとええぼうしょーかずきゃええのに。 (あなたはもう少し良い帽子をかぶれば良いのに。)
429	かせ (かして) (かしーさい)	渡せ。寄越せ(よこせ)。取って。 標準語の「貸せ」や「貸して」の意味でも使うが、物を手渡すことを要求する時に使う。「かせ」「かして」も命令形。「かしーさい(渡しなさい)」も良く使う。「かして」と言った時、「取ってくれ」なのか「貸してくれ」なのかは状況で判断するようになる。それで、今頃は「取ってくれ」の時は、「かして」でなく、「取って」を使う率が高いかな？ 例：《作業がもたついている人に》 おい、そのどうぐーかせ。わしがやるけー。 (おい、その道具をよこせ。俺がやるから。) 例：《道具箱の横に立っている人に》 そのドライバーをかして。 (そのドライバーを取って。)
430	がぜ	小魚。(魚) 価値の無い魚の意味。東地区(笠戸島)で使う。
431	かぜーる	数える。 動詞の語中の連母音「オエ」が「エー」や「オエー」と発音される。よって、「数える(カゾエル)」が「カゼール」、「カゾェール」に、「覚える(オボエル)」が「オベール」「オボェール」になる。
432	かたーなー (かたーない)	形無し。面目まる潰れ。 例：また失敗したいやー。かたーなーで。 (また失敗したよ。形無しだ。)
433	かたきに (仇に)	ひたすら。そればかり。一途に。 例：あの服が好きじゃゆうて、かたきに着ちよるんよ。 (あの服が好きだと言って、そればかり着ているのよ。)
○ 434	かたぐ (担ぐ) (かたげる)	担(かつ)ぐ。肩に担(にな)う。肩に乗せる。 「かたぐ」は直接、肩に乗せる時に使う。「かたぐ」の否定は「かたがん」、「かたげる」の否定は「かたげん」になる。「肩」が動詞化したもので、昔は中央語。周南では、現在、「かたぐ」と「かつぐ」が混在して使われている。 【「おう」、「かるう」参照】 例：丸太をかたいだら、肩がいとーなった。 (丸太を担いだら、肩が痛くなった。) 例：おもたー荷は、かたげて運んだら楽でよ。 (重たい荷は、担いで運んだら楽だよ。)

No.	見出し	説明
435	かたし (かたち)	椿の実。(植物) これを絞って椿油にする。敷居にこの実を擦りつけて、襖、障子の滑りを良くした。椿の実は石の様に固いので、「堅石(かたいし)」と呼び、これの転が「かたいち」または「かたち」と周防大島の方言集にあった。 県東部は「かたち」、周南は「かたし」、または「かたち」、県西部は「かたあし」と少し違うが、「かたい」ことを語源とした言い方が各種あるようだ。主には藪椿の実のことを言うが、木そのものも、この名で呼ぶことがある。
436	かたちん	不揃い。 靴や草履などの様に揃っていないかもしれないものの、片方が違うものになっている時などのこと。 余談：周防大島では不揃いになっていることを「てってっぽっぽ」と言うと、テレビで放送していた。周防大島の方言集に「てってっぽ(片足飛び)」とあったので、その流れの言葉と思われる。 【「けんけん」、「てってっぽ」参照】
437	かたひなか (かたひま) (かたひる)	半日。 「かたひま」は西地区で使用。 東地区、柳井、周防大島では「かたひる」と言うこともある。
438	かたひら (片枚)	片方。 【「ひら」、「りょうひら」参照】 例：あっちのかたひらを見てみーや。 ちよっと、こっちのたー、ちがおーが。 (あっちの片方を見てみろよ。 ちよっと、こっちのものとは違うだろう。)
439	かつえご (餓え児)	飢えた子供。おなかをすかした子供。 「かつえど」になると「飢えた人」。「かつえる」は「糧飢える(かてうえる)」の略。 例：どうかね。かつえごみたいに食べるね。 (どうだろう。餓えた子供みたいに食べるね。)
○ 440	かつかつ	ぎりぎり。どうにかこうにか。やっとのことで。かつがつ。 例：あの棚に、かつかつ、たうかのー。 (あの棚に、ぎりぎり、届くかなー。)
441	がっそー (兀僧) (おおがっそー)	①乱れ髪。髪が伸び放題になっている。 ②植木が伸び放題になっている。 ③家や部屋の中が乱れている。 主には髪に対して使う。その比喻で②③の使い方になる。誇張して言う時は「おおがっそー(大兀僧)」。言い方は「 <u>が</u> っそー」。 例：どーかね、頭がおおがっそーになっとるじゃーないか。 (どうかね、髪が伸び放題になっているではないか。) 例：モクレンの葉がおおがっそーになった。 (モクレンの葉が上に大きく伸び放題になった。) 例：家の中が、がっそーになっとるわー。 (家の中が、ゴチャゴチャになっているよ。)

No.	見出し	説明
442	かった (借った)	借りた。 標準語では「かった」は「買った」だが、山口弁では「借りた」ことになる。言い方は平板式。 【詳しくは「かる(借る)かった(借った)」、「こう(買う)」参照】 例:このくるまー、かったんよ。 (この車は、借りたのよ。) 例:こっちの車は、こーたんよ。 (こちらの車は、買ったのよ。) 余談:「 <u>かつ</u> た」と言う時は「勝った」の意。
443	がっちょん	コチ。(魚) 正式名はネズミゴチ(鼠鯨)。キスを釣る時に良く釣れる魚で、広義のコチの一種。メゴチとも言うが、本来のメゴチはカサゴ目コチ科で、ネズミゴチはスズキ目ネズツポ亜目ネズツポ科で、別種である。 東地区(室積)の呼び方。
444	かっちょろ	ヒヨ、ツグミなどの小鳥用のわな(罟)。 立ち木のバネを利用して作る。止まり木に小鳥が止まると、ちんちろが弾いて(支えにしていた棒が外れて、立ち木がはねる力を利用して)上下の木の枠で小鳥を挟みこんで捕まえる。【「ちんちろ」参照】
445	かっちゃん	借金。借りること。 例:あいつから、500円かっちゃんしとるんよ。 (あの人から、500円借りているのだよ。)
446	がっちゃんこ (かっちゃんこ) (がっつんこ)	ぶつかること。鉢合わせすること。衝突すること。 特に頭と頭がぶつかる時に良く使う。「がっちゃんした」とも言う。 【「こっつんこ」参照】 例:あそこの角で、あいつとがっちゃんこしたいやー。 (あそこの角で、あいつと鉢合わせしたよ。)
447	カットバン	絆創膏。 「カットバン」は中国、四国、佐賀、長崎、そして東北で優勢。「リバテープ」は熊本を中心に九州と奈良。「キズバン」は富山のみ。 「バンドエイド」は近畿、中部。「サビオ」は北海道中心だが、広島は「サビオ」と言っていた。商品は2002年に製造中止になっているが、名前は残っているようだ。「ばんそうこう」は関東と新潟。 どこに製造元があるか、どこで製品が良く売れているかどうかで決まるようだ。新しい方言か?【番外の「東西の違い」参照】
448	かど (門)	①庭。②広場。空き地。 家の前の庭のこと。転じて、広場や空き地の意味でも使う。農家では穀物の天日干し場や作業場として使う。言い方は「かど」。「にわ」と言えば、土間のこと。「せど(背戸)」は、家の裏のこと。最近の使用率は低い。 【「かいど」、「ほか」参照】 例:かどに出て遊べ。 (前の庭で遊べ。) 例:家のかどに集まって、行こうやー。 (家の前の広場に集まって、行こうよ。)

No.	見出し	説明
449	かなこぎ (からこぎ) (からっこ)	ハオコゼ。(魚) 「カサゴ目ハオコゼ科」に属する海水魚。漢字は「葉虎魚」。 色が赤く、小さくてかわいいが、背ビレの棘に毒があり、刺さるとひどく痛む。 枯葉のような姿をしているので関東では「ハオコゼ」。広島や山口では「かなこぎ」が一般的な表現だが、周防大島では「からこぎ」、光の室積では「からっこ」と呼ぶ。 余談：昔の千歯の稲扱ぎ(いねこぎ)のことを「かなこぎ」と言っていたらしいので、その形が背ビレを立てた状態と似ていることから名前がついたのかも？
450	かばち	①生意気を言う。口答えをする。 ②口が立つ。饒舌なこと。 褒め言葉ではなく、皮肉まじりの穿った(うがった)表現法。 「かばち」はもともと、上下の顎(あご)の骨、或いは頬から顎のあたりにかけての部分の意味で使われた古語。「顔のふち」が元々の言葉で、これが変化して「かまち」や「かばち」になったようだ。よく生意気を言ったり、よくしゃべる人は「かばちたれ」と言う。口達者な人は「かばちがたつ」、「かばちがええ」。しかし、褒めてはいない。半分揶揄する気持ちがある言い方。 【「いいごと」、「おーちゃく」、「こうしゃくたれ(講釈垂れ)」参照】 例：かばちを垂(た)れる。(①生意気を言う。)(②良くしゃべる。) 例：よー、かばちゅーたたくおなごじゃ。 (よく、口答えする女だ。) 例：ありゃーかばちが、えーでね。 (あの人は口達者だよ。) 例：かばちをゆーちゃーいけんよ。 (文句や理屈を言ってはいけないよ。) 注：「かまち」は「上がり框(あがりかまち)」の「かまち」のこと。「ふち」だから「かまち」。
○ 451	かぶる (齧る) (かぶられた)	①虫が刺す。 ②噛みつく。大口を開けて食いつく。 ③おなか(胃)が痛い。 蚊などの虫に刺された時、「蚊(虫)がかぶった」、「蚊(虫)にかぶられた」、犬に噛まれた時は「犬にかぶられた」と使う。本来、大口を開けて食いつくようすを「かぶる」と言った。噛んで頭(かぶ)を振るから「かぶふる」→「かぶる」と変化したと言う説と、「かぶ」は「かむ(咬)」と同じ言葉で、「悲しむ」を「悲しぶ」と言うようにマ行とバ行は同音なので、「かむ」が「かぶ」になったと言う説がある。 また、昔は胃の中に回虫などの寄生虫がいたので、これが胃を噛むから痛むと思い、胃が痛い時などに「胃がかぶる」と言った。今はほぼ使われない。なお、通常に使う「水をかぶる」とか、「帽子をかぶる」も「かぶる」。発音は同じだが、こちらの漢字は「被る・冠る」。山口弁ではこれには「かずく」を使う。【「かずく(かづく)」、「かまれる」参照】 例：蚊に、かぶられてしもーた。かゆーていけん。 (蚊に、刺されてしまった。かゆくてたまらない。) 例：蚊にかぶられんよーに、しーさいよ。 (蚊に刺されないように、しなさいよ。) 例：はみにかぶられた。(まむしに噛まれた。) 例：手羽先にかぶりついて食べよる。 (手羽先に大口を開けて食いついて食べている。)

No.	見出し	説明
452	かべちよろ (かめちよろ)	ヤモリ(家守)。(虫:爬虫類) 「かめちよろ」は「かべちよろ」が変化したもの。「かべちよろ」は県西部の呼び名で、県東部は「ひちぶ」、「しちぶ」が主流と思われるが、東地区(室積)や西地区(福川)でも「かべちよろ」を使っていたようなので、併用されていたのかも知れない。大分の宇佐でも使うようだ。 【「ひちぶ」参照】 余談1:「イモリ」や「トカゲ」を「かべちよろ」と言う地域もあるようだ。 余談2:広島では家守のことを「ヘーのぼり」と言う。
453	かまぎ	刈(かます)。 わらむしろを二つ折りにして作った袋。穀物、塩、石灰、肥料などを入れた。 「かまぎ大工」は下手な大工のこと。「かまぎ」に道具を入れて持ち歩いたから。
454	かまれる	蚊に刺される。 西日本、特に近畿圏では蚊に刺された時、「蚊にかまれた」と言うと言の方言の本にあった。中部より東側と鹿児島、長崎、高知以外の九州、四国は「蚊にくわれる」と言うらしい。 周南では「かまれる」も「くわれる」も両方使っている気がする。 当然「かぶる」も使う。「かぶる」は島根、広島、山口で使う。 【「かぶる」参照】
455	かみのほう (上の方)	首都圏。 「上方(かみがた)」と言えば近畿地方の中心だが、「上の方」は東京を中心とする首都圏を指す。
456	かもう	①からかう。 ②軽くいじめる。ちょっかいを出す感じ。 ③からかい半分におだてるようなことを言う。 言い方は「かもおー」。「構う」の転。「かまう」の[au]が連母音融合して[o:]になって、「かもう」になった。 「あらかじめ用意する」から「こしらえごとをする」に、さらに「いつわりもてあそぶ」に、そして「からかう」に転じたようだ。それから、更に転じて、「いじめる」意味になったと思われる。 【「いじる」、「えらめる」、「おう(会う)(合う)」、「おびく」、「かしらう」、「せがう」、「せつく」参照】 例:ええ大人がそねーに子供をかもうんじゃないよ。 (立派な大人がそんなに子供をからかうもんじゃないよ。) 例:ええか、これ以上かもーなよ。 (よいか、これ以上いじめるなよ。) 例:あねーな上手ーゆーて、としよりーかもーさんな。 (あんな上手を言って、年寄りをからかってはいけないう。) 《悪い気はしていない時に使う。》 余談:「かもう」はちょっと意地悪をする。「おびく」はからかう、ひやかす。「えらめる」はいじめる。
457	かやーる (買やーる) (かいやーる)	買いなさる。 古語の「買やる」の転。「かいやーる」とも言う。 例:あのひたー、まいにちに魚をかやーる。 (あの人は、毎日魚を買いなさる。)

No.	見出し	説明
○ 458	かやす (かやる) (かやれる)	①倒す。ひっくり返す。(倒れる。) 物や話をひっくり返すことに使う。 ②こぼす。(こぼれる。) 「かえす(返)」の転。 ③孵(かえ)す。孵化させる。 「かえす(返)」と同源。 正確には、「かやす」は「かえす(返す)」、「かやる」は「かえる(返る)」の意味。また、「かやれる」は「かやる」が変化したもので、「かやる」と同じ意味。なお、「引っ繰り返す」は「ひっくりかやす」と言う。「ひどくかやす」ことは「ちちかやす」と言う。 【「つらかる(散らかる)」、「つらけかやす(散らけ返す)」参照】 例：お盆を、ひっくりかやすなよ。 (お盆を、ひっくり返すなよ。) 例：まとまりかけちよったはなしよー、ひっくりかやすんじゃから。 (まとまりかけていた話を、ひっくり返すのだから。) 例：コップが、かやらんよーにしーよ。 (コップが、ひっくり返らないようにしなさいよ。) 例：鉢がかやれんように、ようくくつちよきーよ。 (鉢が倒れないようにしっかりくくつておきなさいよ。) 例：お茶を、かやしてしもーたあー。 (お茶を、こぼしてしまった。) 例：鳩が雛をかやしたでえ。 (鳩が雛を孵したよ。)
459	～から	～してねえ。～したりして。 軽い順接の言葉。 例：わたしーはーおかしゅーてから、笑いあげたいね。 (私はもうおかしくてねえ、笑い転げたよ。) 例：あんたーあねーなことーゆーてから、わやじゃいね。 (あなたはあんなことを言ったりして、無茶だよ。)
460	からすなえ (からすない)	筋肉の痙攣(けいれん)。こむら返り。 筋肉全般の痙攣に使うが、主として足の痙攣(こむら返り)に使うところが多い。「からすない」とも言う。言い方は「からすなえー」で「からすなえが来る」とか「行く」と言う。平安時代は「からすなえり」で元は「からすじ(空筋：ふくらはぎ)」が「なえる(萎える)」こと。全身の時は「すじをひく」と言う。 【「すじをひく」参照】 例：ねちよる時に、からすなえがきて、やれんかったいねー。 (寝ている時に、こむら返りを起こして、大変だったよ。)
461	～からに	～から。～だから。～故に。 原因・理由を表す接続助詞。西日本全体で言っていたが、最近は「～けえ」や「～から」の言い方が優勢かな。【「～けえ」参照】 例：あのがきー、危ないからに登っちゃーいけんど。 (あの崖は、危ないから登ってはダメだよ。) 注：「あのがきー」は「あのガキ(餓鬼)」は「の」の時もある。「きー」を短めに言えば「崖」、長めに言えば「ガキ」かな？
○ 462	からびる (乾びる)	乾いて水気が無くなる。草木がしおれること。干涸(ひから)びること。 【「しばなえる」、「よれる」参照】 例：この花は、もう、からびたねえ。 (この花は、もう、しおれたね。)

No.	見出し	説明
463	からむすび	固結び。細(こま)結び。 反対は「蝶々(ちょうちょ)結び」。(正式には「ちょう結び」か?)
○ 464	がり	けち。 「我利我利亡者(がりがりもうじゃ)」のことを指していると思われる。国語辞書には「我利(がり)：自分だけの利益」とある。東地区(櫛ヶ浜、束荷)で使う。【「こまい」、「にぎり」参照】 余談：岩国の方言集に「がり：後先を考えずに勇気をふるうこと」、「山口県方言辞典」に「がりっぱ：いたずら者(山口、広島)」とあったので、「我利」の変形として、いろいろな意味で使われていたようだ。
465	かる (借る) かった (借った)	借りること。 標準語で「借りる」という行上一段動詞は、山口弁では「借る」という行五段動詞になる。よって「刈る」、「狩る」、「売る」、「乗る」、「走る」などと同じ活用変化をする。 「買う」は「こう」。今頃は「買う(かう)」と言う人が多いか? 「図書館で本を借(か)って帰る」、「書店で本を買(こ)うて帰る」などというのが、正しい山口弁の使い方。 【「かった」、「こう(買う)」、「こうてくる(買うて来る)」参照】 例：あの本をかって、この本をこーた。 (あの本を借りて、この本を買った。) 例：こりょー運ぶのに、リヤカーかってこーやあ。 (これを運ぶのに、リヤカーを借りて来ようよ。)
466	かるう (かるー) (担う)	①背負う。 荷物や包みを背負うこと。 ②負担する。 物事を負担すること。負担を引き受けること。 山口県内は「かるう」を使う地域がほとんどだが、下関地域では「からう」を使うらしい。「からう」の方が古い言葉で「かるう」は「からう」が変化したもの。つまり、「荷る(かる)＋負う(おう)」が「からう」→「かるう」→「かるう」となった。また、東日本で使う「しょう」も使う。「しょう」は「せおう」の転。 山口県では、物を背負う時は「かるう」、人を背負う時には「おう(負う)」を使うのが一般的だが、「かるう」は人と物に使い、「おう」のは人だけや、逆に「かるう」のは荷物だけで「おう」は人にも物に使うと、人や地域で色々な使い分けがされてるようだ。 【「おう」、「かたぐ」、「ひっかるう」参照】 例：背負子(しょいこ)をかるう。 (背負子を背負う。) 例：あんたーなによーかるーちよるんかね。 (あなたは何を背負っているのかね。) 例：そねーなことまで、わしがるわんにゃーいけんのんかいの。 (そんなことまで、私が負担しなければいけないのかね。) 余談：「おんぶ」は元々、東京の山の手地区の方言。
467	かわち (かーち)	家の周り。 「側地」のことか。軒下は「やだれ」と言う。言い方は「かーち」になることが多い。【「やだれ」参照】

No.	見出し	説明
468	かわやお (かわやわ) (かわくい)	さやえんどう。(野菜) 柳井や平生、田布施、光で使う。皮ごと食べられるさやえんどう(絹さや)に 対して「かわやお」、「かわやわ」と言う。下松や周南では「かわくい」と言う。 但し、現在はほとんど使われていない。 【「さんどまめ」参照】
469	かわゆーて (かわよーて)	可愛くて。 言い方は「かわゆーて」。「かわよーて」とも言う。「かわいくて」の「ク」がウ音 便化して、「イク」が「ユー」と発音される。よって、「かわゆーて」になる。「か わよーて」は「かわゆーて」の転。 【「おーきゅーなる」、「おゆーて」、「とゆーて」参照】 例：孫がかわゆーて、やれんのんじゃろー。 (孫が可愛くて、たまらないのだろう。)
470	かわりごうて (かわりばんて)	代わり番こ。代わる代わる。 例：かわりごうてに、ブランコにのろうやー。 (代わり番こに、ブランコに乗ろうよ。)
○ 471	かん 《風呂の》(爛)	湯加減。 風呂の時に使う「爛」。当然、酒でも「爛」と言う。【「ええかん」参照】 例：《お風呂に入っている人に聞く》 かんは、えーかね？ (湯加減は、いいですか?)
472	がん (元)	元手(もとで)。元金(がんきん)。 「元金」の略。上方の言葉。「がんが取れた」は「元(もと)が取れた」、「がん を取られた」は「元手を取られた」、「仕返しをされた」の意味。
473	がんが	魚の骨。(幼児語) 【「たいたい」、番外の「幼児語」参照】
474	がんぎ (雁木)	①畑の畝(うね)。 漢字は「雁木」。畝を作ることを「がんぎを切る」と言う。 ②川や海に降りるための石段。 「雁木」はガンの列がカギ形になるので「がんぎ」の音にこの漢字を当てた もの。「がんぎ」は「がぎがぎ」の「がぎ」を響き良く言った言葉。「がぎ」は堅 い物にカギ形を刻む時の音からでた言葉。 【「いんごーがんぎー」参照】 余談1：広島川の水上タクシーの乗降場(石段)は「雁木」と言う。 余談2：岩国の地酒で八百新酒蔵の「雁木」は、船着き場の雁木から原料 米を荷揚げしていたことから、この名前が付いたようだ。 余談3：雪国で、通りに面した軒から庇(ひさし)を長く出して、その下を通 路としたのも「雁木」。 これは、新潟の呼び名で、地域によって「小見世(こみせ)」（秋田、青森）、 「小間屋(こまや)」（山形）、「仮屋(かりや)」（鳥取）とも呼ばれるらしい。

No.	見出し	説明
475	がんざき (がんぜき) (がんでき) (がんじき)	熊手。 「がんぜき」とも呼ぶ。おおまかな区分として、新南陽東部から柳井、周防大島までが、「がんざき」、その周辺の新南陽西部、須々万、鹿野、玖珂、岩国と県北部、県西部は「がんぜき」のようだ。意外と、「がんざき」が通用する地域は狭い。「がんでき」、「がんじき」と呼ぶところもある。「かきじき(搔敷)」に由来し、東北の「かんじき」「がんじき」「がんぜき」(雪の中に踏み込まないための楕円形の道具)と同語源らしい。 例:にわーきれいにするけー、がんざきと、てみよー持って来てくれー。 (庭をきれいにするから、熊手と、箕を持って来てくれ。) 注:「日本国語大辞典・第二版」には、「がんぜき」は、落葉などをかきよせるために用いる竹製の用具。熊手(くまで)とある。また、日本初の五十音順に配列された国語辞典の「和訓栞(1777-1862)」の用例として、「四国にては熊手をがんぜきといへり」とある。 追記:山口では「熊手」は長い柄に鉄の爪を付けた農具や、潮干狩りで使う金属製の小さいものを言う。【「くまで」参照】 余談1:西地区(小畑)の方言集に「がんぜきおよぎ(犬かき)」とあった。手の曲げ具合からか? なかなかのネーミングである。 余談2:和紙を漉く時に容器の中を掻き混ぜる格子状のものも、「がんぜき」と言うようだ。 余談3:山口弁は「ざ・ぜ・ぞ」が「だ・で・ど」に変わり易いので、「がんぜき」が「がんでき」になる。
476	がんじ (元治)	元治(げんじ)。(年号) 江戸時代の幕末の元号の「元治(げんじ)」を山口県では「がんじ」と言う。1864年に改元され、一年後の1865年には「慶應(けいおう)」に改元された。なぜ、「げんじ」が「がんじ」と言われるのかは分からないが、池田屋事件、蛤御門の変、第一次長州征伐、四国連合艦隊の下関砲撃事件、長州内戦と激動の一年間だった年なので、力が入る「がんじ」の言い方になったのではないかとされている。 編者は知らなかったが、徳山の「地方郷土史研究会」での元防府図書館長の森川さんの講演の時、「げんじ」と「がんじ」のどちらを言うかの質問に、答えは半々だった。よって、「がんじ」を周南でも使っていると言うことで収録した。
477	がんじ がんじ しょう	良く噛もう。(幼児語) 早食いの子には「がんじ がんじ せんにやーいけんよ(良く噛まないといけないう)」と言う。【番外の「幼児語」参照】
○ 478	かんしょう (癩性) (かんしょう びつたれ)	病的にきれい好きなこと。 「かんしょう びつたれ」とも言う。あまり良い意味に使わない。「びつたれ」は「汚い、だらしない」の意味なので、相反する言葉がならんでいる。汚れが体に染みついているのが「びつたれ」、「かんしょう(きれい好き)」が汚れのごとく体に染みついているから、「かんしょう びつたれ」なのか? 言い方は「<u>かんしょう びつたれ</u>」で、どちらかと言うと「びつたれ」の方を強めに言う。なお、「かんしょう」は国語辞書に「①激しやすい性質 ②病的に潔癖であること(さま)」とある。当然、①の怒りやすい意味にも使う。 【「びつたれ」参照】

No.	見出し	説明
479	がんたれ	役立たず。 下松弁を書いた資料の中にあっただので、収録した。今はほとんど使われていないと思う。九州南部では「粗末なさま、質の悪いさま。また、その人。」の意味で使われているので、「役立たず」はこれから派生した意味と思われる。
480	かんばれ (寒腫れ) かんやけ (寒焼け)	凍瘡(とうそう)。霜焼け。 周防部の瀬戸内沿岸では「かんばれ(寒腫れ)」、周防西部の山間部では「かんやけ(寒焼け)」と言う。 なお、中世の言い方の「霜腫れ」と「雪焼け」が一緒になって「しもやけ(霜焼け)」になったようだ。
481	かんぴょう	切干大根。 作り方によって、「たこかんぴょう」、「ねじりかんぴょう」、「塩かんぴょう」などがある。「塩かんぴょう」は「うんすけ(雲助: 口が細く、横に小さな注ぎ口のある壺)」に入れて、焼酎か酒を振り掛けて密封貯蔵する。 (「聞き書 山口の食事」より) 全国的な名前である「かんぴょう」は何と呼んだかと言うと、元の材料そのままに「夕顔」と言っただけ。 【「はまぐり」、「ろーま」参照】
482	がんぼー	いたずらっ子、どちらかと言うと悪童。腕白坊主。元気のいい、ちょっと荒い子供。 「山口県方言辞典」に周防と広島で言うと言っていてあったが、周南では言わなくなった。防府や徳地では言うらしい。広島では普通に言っている。「頑坊」が由来。手に負えない子を「しごんぼー」と言い、それを略して言ったのが「ごんぼー」、これが訛ったのが「がんぼー」と言う説もある。「きかんぼー(聞かん坊・利かん坊)」と同じ言い方。山口市付近では「がんぼーたれ」、「がんぼーむすこ」とも言うらしい。 【「こびんちゃく」、「しごーする(しごをする)」、「つらはり」、「てごにおえん」、「わるぼーず」、「わるがんつう」、番外「昔の言葉、行事?」の「ちよろけん」、「てんく(てんくう)」参照】 余談: 阿知須では「どーかん」、萩や須佐の方は「どーげん」、「どーげんぼうず」らしい。由来は「童頑」、「童𪛗(どうかん)」、「童漢」等の説がある。「かん(𪛗)」は「総角(あげまき)」のこと。上代の幼童の髪のかき方の名称。「漢」は「男」のこと。 【番外の「昔の山口弁?」参照】
483	かんまた	二股になった木。 物干し竿を掛ける時などに使う。西地区で使用。 【「もがり」、「わらばさみ」参照】

No.	見出し	説明
484	かんやい (寒合) (かんやえ) (かんや)	時候。気候。 主には寒い気候を指すようだ。字は「寒合」。我々は使ったことはないが、KRYテレビの放送で言っていたので収録した。「えーかんやいになりましたのー(良い時候になりましたね)」のように使う。ただ、周南では「かんやいがわりー」と言えば、「蒸し暑い」と言う意味に使っていたようだ。 「えーかんやい」も「かんやい(寒合:寒い気候)」が緩んできたから「えー(良い)」と言うことか。この使い方から「かんやい」が「時候」の意味になり、「時候が悪い」は「蒸し暑い」へと変化して使われるようになったのではないかな？ 余談：吉田松陰が嘉永9年9月15日の手紙に「当地は逐々時候もかんやひと相成り」と書いている方言であるが、この時は、今の10月半ばであろうから「少し寒くなり」の意味かと思う。
485	き	個。 卵や石などの小さい物を数える助数詞。木の実を「一木、二木」と数えたのが始まりとの説あり。数え方は「いっき、にき、さんき、しき(よんき)、・・・」。一つの卵に黄身が二つ入っているのを、「にきだま(二き玉)」と言う。 【「こん」参照】
486	きー	頭の雲脂・頭垢(ふけ)。 方言集には良く出てくるが、我々は使ったことはない。一世代前の方言かな？ 【「こけつ」参照】
487	きー (きーろ)	黄色。 「きいろ(黄色)」を「きー」、「きーろ」と伸ばして言う。「黄色い」や「黄色の」は「きーな」。「黄の色」は「きーな色」。 例：そこのきーは、もうちょい薄い方がええかのー。 (そこの黄色は、もう少し薄い方が良いだろう。) 例：A：山口のガードレールは、なんできーろなん？ (山口県のガードレールは、なぜ黄色なの？) B：県道は夏みかんの色にしちよるんよ。国道は白よ。 (県道は夏みかんの色にしているのよ。国道は白よ。) 例：あそこのきーな車はだれんかー。 (あそこの黄色の車は誰のかな？)
488	きいかん	金柑。(果物) 言い方は「きーかん」。【「きんかあたま」参照】
489	きいさん (きーさん) (きさん) (きいさい) (きさい)	①来なさい。来い。おいで。 言い方は「<u>きい</u>さん」、「<u>き</u>さん」。 ②着なさい。着ろ。 言い方は「<u>きい</u>さん」、「<u>き</u>さん」。 「きいさい」、「きさい」でも同じ意味。 【「きんさい」、「～さい」、「～さん」参照】 例：《人を家に呼び付ける時》 今すぐ、<u>きい</u>さん。(今直ぐに、来なさい。) 例：《裸でうろうろしている子供に》 すぐ、服を<u>きい</u>さんよ。(すぐ、服を着なさいよ。) 注：平静な時は「<u>きい</u>さん」だが、強めに言う時は「<u>きい</u>さん」になる。

No.	見出し	説明
490	きいさんな (きーさんな) (きさんな)	①来てはいけない。来るな。②着ない方が良い。着るな。 「きいさいよ」、「きさいよ」でも同じ意味。【「～さい」、「～さんな」参照】 例：《都合が悪い時に家に来ると言われて》 今、うちにきいさんなよ。本当にきちゃーいけんよ。 (今、家に来てはいけないよ。本当に来てはだめよ。) 例：その服はあんたにやーあわんけー、はあ、きいさんなよ。 (その服はあなたには似合わないから、 もう、着ない方が良いよ。) 注：平静な時は「きいさんな」だが、強めに言う時は「きいさんな」になる。
491	ぎーす (ぎいす)	①キリギリス。バッタ。(虫) ②痩せた人。 「チョンギース」や「ギースチョン」のキリギリスの鳴き声から付いたと言う説と「キリギリス」の呼び名が短くなったと言う説がある。キリギリスやバッタの総称として使われる。全国にある呼び名で「ギス」と言うところもある。ただし、古語では「こおろぎ」のこと。 転じて、ギスギスした骨ばった状態を指して「痩せた人」の形容に使う。西地区では「やせぎいす」とも言う。これは方言だが、「やせぎす」は標準語。
492	きーつけて (きゅーつけて) (きよつけて) (きょーつけて)	「気を付けて」の意。 例：きーつけて、ゆっくり行きーよ。 (気を付けて、ゆっくり行きなさいよ。) 注：子音内の母音「イ」+助詞「オ」は概ね「ユー」と発音されるが、「イヨ」、「ヨー」、「イー」と発音されることも多い。「きーつけて」は「イー」の場合。よって、「気を付けて」を「きゅーつけて」とか「きよつけて」、「きょーつけて」と言う場合もある。「イヨ」は「イ」と「オ」の間に半母音「j」が挿入した形で、「ヨー」は「イヨ」が音韻融合したもの。 【「なによー」参照】
493	きがねし	気兼ねを良くする人。 【「えんりよし」、「～し」、「てれさく」参照】 例：あのひたー、きがねしじゃから、 いつでも縁で話すだけで、上にあがっちゃーないんよ。 (あの人は、よく気兼ねをする人だから、 いつでも縁側で話すだけで、座敷に上がってないのよ。)
494	きかんど	許さないぞ。こらえないぞ。承知しないぞ。 言い方は「きかんど」。「きかん」は、「(言い訳は)聞かない」、即ち「許さない、承知しない」の意。「そねーな、はなしゃーきかんど(そんな話は聞かないよ)」のように、普通に「聞かない」の意味にも使う。 【「ききやーせんでよ」、「こらえる」、「ゆうこときかんちよ」参照】 例：わりーことをしたら、きかんど。(悪いことをしたら、承知しないぞ。)
495	ききやー せんでよ (ききやー せんど) (ききやー せんぞ)	許さないぞ。こらえないぞ。 言い方は「ききやーせんでよ」と「きや」が強い。「ききやーせんど」、「ききやーせんぞ」も良く使う。「ききやーせん」、「きかん」と言う表現は、「(言い訳、弁解を)聞きはしない、聞かない」、即ち「許さない、勘弁しない」の意で良く使われる。当然、「そねーな、はなしゃーききやーせんでよ(そんな話は聞かないがなあ)」のように、「聞いていないよ」の意味でも使う。 【「きかんど」、「こらえる」、「～りやーせん」参照】 例：わりーことをしたら、ききやーせんでよ。 (悪いことをしたら、許さんぞ。)

No.	見出し	説明
496	きく	味を見ること。 酒を利くのと同じで、食べ物の「味をきく」と言う。字は「聞く」または「利く」。「酒をきく」は国語辞書にあるが、「味をきく」は無い。
497	ぎざみ	べら。(魚) 和名「キウセン(求仙、九仙)」。ペラ科の海水魚。 余談:和名の「キウセン」は体に黒、赤の斑点の線が9本あることに由来する。
498	ぎし	①岸。②崖(がけ)。切り立った所。 「岸根(ぎしね)」は岸の際(きわ)のこと。
499	きしきしになる	きれいになる。汚れが取れてピカピカになる。 「きしきし」は物がきしんで鳴る音のことと思われる。きれいになったお皿をこすると「キュッキュ」と鳴ることから「きしきしになる」と言う言葉が生まれたのではないかと。県東部(柳井)で使う。 例:見て。このお皿、磨いたらきしきしになったでしょう。 (見て、このお皿、 磨いたら汚れが取れてピカピカになったでしょ。)
○ 500	きしな	来る途中。 【「いきしな」、「かえりしな」、「～しな」参照】 例:こけーきしなに〇〇君におーたんじゃが、元気にしちよたで。 (ここへ来る途中に〇〇君に会ったんだが、元気にしていたよ。)
501	きじねこ	まだら模様の猫。白に褐色の斑点の猫。三毛猫。(小型哺乳類) 字は「雉猫」。「きじねこ」の説明として、新南陽の方言集には「三毛猫」、周防大島の方言集には「まだら猫」、「山口県方言辞典」には「白に褐色の斑色の猫」とあった。「日本方言大辞典」の「きじ(雉)」の欄に「ぶち、まだら」の意味があったので、昔は「まだら模様」の猫は、みんな「きじねこ」と呼んでいたようだ。我々の年代は使っていない。 今、「きじねこ」と言うのは、雉の羽の虎斑(とらふ)のような模様が入った猫のこと。 余談:最近の虎斑の猫の呼び名は、縞の色が、①黄と赤茶は「虎猫(とらねこ)」、②焦げ茶と黒は「雉猫(きじねこ)」で、その中で毛色が緑がかかった色の猫は別名「よもぎ猫」、③灰色と黒は「鯖猫(さばねこ)」で、縞が青みが掛かっている。別名「藤猫(ふじねこ)」らしい。
502	きしゃない (きちゃんない)	①汚い。②ずるい。 山口弁の正調の言い方は「きしゃなえー」。「きちゃんない」とも言う。語源は「 <u>気癪</u> (きじゃく、きしゃく)」と「気色(きしよく)」と「きたない」の三つの説がある。「ない」は「なよ」の転で、「無い」ではない。 【「びったれ」、「ほーとくない」、「よごれ」参照】 例:その棚の上は、きしゃないから、触らん方がええよ。 (その棚の上は、汚れているから、触らない方がよいよ。) 例:きしゃなげなところじゃのー。 (汚らしいところだなあ。) 例:きしゃない勝ちかたーするのー。 (ずるい勝ち方をするなあ。) 注:「気癪」とは、心配や驚きのあまり急に胸や腹が激しく痛み出すこと。「差し込み」が来ること。

No.	見出し	説明
503	きすい	①筋張って硬い。歯で噛み切れない位硬い。 「しわい」より、もっと筋っぽくて硬い。反対は「やおい」。 ②角々しい。性格が強い。きつい。 「きすい」は標準語の「きつい」の訛で、①は食べるものに、②は人の性格に対して使う。他に昔は「きまじめで飾り気のないこと」の意にも使ったようだが、今は①と②の意味だけが残っている。柳井や玖珂では「きすくろしー」とも言うようだ。【「しわい(撓い)」、「やおい」参照】 例：このふきは、きすいねー。(この路は硬いね。) 例：あねーに性格がきすけりゃー、声も掛けにくかるーのー。 (あんなに性格が角々しければ、声も掛けにくいだろうなあ。)
○ 504	きすご	キス。鱧。(魚)
505	きたんかね	①来たのかね。 来ないと思ったのに来た時に言う。「きたんね」とも言う。言い方は「<u>きたん</u>かね」、「<u>きたん</u>か」。 ②着たのか。 服をもう着たのか。言い方は「<u>きたん</u>かね」、「<u>きたん</u>か」。 どちらかと言うと「きたんかね」、「きたんね」は女性が使う。 男性は「きたんか」を使う。 例：《まだ準備をしているのに》 あー、はあー、<u>きたん</u>かね。(あれ、もう、来たのかね。) 例：《出かける準備をしている奥さんに》 もう服は、<u>きたん</u>か。(もう服は、着たのか。)
506	きちよる	①来ている。 言い方は「<u>きち</u>よる」。 ②着ている。 言い方は「<u>きち</u>よる」。 【「～ちよる、…」参照】 例：もう、<u>きち</u>よるよ。(もう、来ているよ。) 例：もー、<u>きち</u>よってんかね。(もう、来ておられるのかね。) 例：A; 服はもう<u>きたん</u>か。まだなら、はよーせーよ。 (服はもう着たのか。まだなら、早くしろよ。) B; そねー、せかしーさんな。もう、<u>きち</u>よるいね。 (そんなに、焦らせないでよ。もう、着ているよ。)
○ 507	ぎっちょ	左利き。 「ぎっちょん」とも言う。 余談：西地区の新南陽と小畑の方言集には、「ごんによう」で「左利き」と載っていたが、これは我々の年代は使っていない。
508	きつぽ	傷跡(きずあと)。傷痕。切り傷や火傷の直った跡。 昔、負傷箇所のことを「きつぽ(切壺)」と言った。この「きつぽ」が「きつぽ」になった。「きつぽ」と言うのは、山口や広島、島根特有の方言のようだ。 例：A; あー、あんなー頭におおきなきつぽがあるねー。 (あれ、あなたは頭に大きな傷跡があるね。) B; それいやー、とひが落ちて来て、切ったんちゃー。 (そうなんだよ、樋(とい)が落ちて来て、切ったんだよ。) 余談1：関東、東北地方では、「きつぽ」は木片のことらしい。これは「切っ端」から変化した言葉のようだ。 余談2：岡山では偏屈者のことを「きつぽー」と言うらしい。

No.	見出し	説明
509	きなざれ (木切)	木切れ(きざれ)。木の枝。枯れた枝木。 県東部(伊陸)で使う。以前、KRYテレビで山口弁として紹介されていたが、柳井方面の方言で、周南では使っていないと思っていた。しかし、鹿野の方言集に載っていたので、昔は周南でも使っていたようだ。風呂を焚いたり、かまどでご飯を炊くことが無くなったので、使用頻度が下がったのかな?
510	きなる (気成る)	①ちょっとした興奮状態。調子に乗って、得意になって騒いでいる状態。調子に乗っている時は「きなっちゃう」、止める時は「きなるな」。 ②得意がる。 「得意がる人」は「きなり」。 言い方は「 きな める」。主に県東部で使う。「いい気になる」の「気になる」が「きなる(気成る)」になった。 例: あいつらーは、きなっちゃう。 (あの子たちは、調子に乗って騒いでいる。) 例: 《騒ぎ過ぎる子供達に》 こらー、いつまでも、きなっちゃうんじゃないぞー。 (こら、いつまでも、調子に乗って騒ぐんじゃないぞ。) 例: <u>あいつ</u> あー、きなりじゃなーのー。 (あいつは、得意がるからなあ。) 注: 母音「ウ」+助詞「ワ」は、「ウアー」と発音される。よって、「あいつは(アイツワ)」は「アイツアー」になる。 余談: 小郡地区では「つらをはる(面を張る)」が、県東部で使う「きなる」の意味になるらしい。【「つらはり」、「つらをはる」参照】
511	きによー (きのー)	きのう。昨日。 周南は「きによー」と「きのー」が混在している。「きによー」は「きのう」が拗音化したもの。
512	きによーのばん (きのーの晩)	①きのうの晩。昨日の晩。②一昨日の晩。 「昨日の晩」と「一昨日の晩」の二つの意味がある。②の理由は、昔は日没から次の日没までを一日と考えていたため、「今日」は昨日の日没から今日の日没まで、「きによー」は一昨日の日没から昨日の日没まで。よって、「きによーの晩」は「一昨日の晩」となる。この時の、「昨日の晩」は「ゆんや(ゆんべ)(ゆーべ)」。 なお、「きによーの晩」を①の「昨日の晩」の意味で使った時の「一昨日の晩」は「おとついの晩」と言う。 今は、①の意味で使う人が大多数だが、②の意味で使う人もおられるので、要確認。【「おとつい」、「しあさって」、「ゆんや」参照】
513	きねり	甘柿。(果物) 漢字は「木練」。渋柿が段々甘くなることは「きねり」を動詞に使用して「きねる」と言う。お盆の頃に甘くなるのは「ぼんきねり」。
514	きのうちゃー まめな	呑気(のんき)な。「気の内は忠実(まめ)な」の意味。 知らずにいたら、精神的にはダメージはないこと。「知らんから呑気にしていられるよね」と、ちょっと揶揄する感じで使う。 【「えーきなもの」参照】 例: あの人 ^は あのこと ^を 知らん ^{のん} じゃけー、 きのうちゃーまめないね。 (あの人 ^は あのこと ^を 知らない ^の だから、呑気よね。)

No.	見出し	説明
515	きばくをだす (気魄を出す)	やる気を出す。元気を出す。 反対は「きばくがない(やる気がない)」。 【「せー ……」参照】 例: <u>いつま</u> ーゴロゴロしよるが、今日はきばくを出して働きよるで。 (いつもはゴロゴロしているが、今日はやる気を出して働いているよ。) 例: <u>あんな</u> ーつまらん。きばくがないい。 (あいつはダメだ。やる気がないよ。) 例: きばくを出してやらんにゃーいけんよ。 (精を出してやらないとダメだよ。) 注: 子音内の母音「オ」+助詞「ワ」は、「アー」、または「オアー」と発音される。よって、「いつもは(イツモワ)」は「イツマー」、または「イツモアー」になる。 【「あんなー」については「あんなー」参照】
516	きはなえる (来はなえる)	来始める。 【「はなえる」、「はなまる」、「はなわる」参照】 例: 渡り鳥が、きはなえたでー。(渡り鳥が、来始めたよ。)
517	ぎばる (気張る)	①意気込む。勇み立つ。頑張る。得意がる。 ②奮発する。思い切って多くの金銭を出す。価をはずむ。 ③トイレで息(いき)む。 標準語では「きばる」だが、山口では「ぎばる」と濁る。 例: 今日はぎばって、おごろうかねー。 (今日は奮発して、奢ろうかね。) 例: 便所でぎばり過ぎたら、頭の血管が切れるでー。 (便所で息み過ぎたら、頭の血管が切れるよ。)
○ 518	きびがわるい (きびが悪い) (きびがわりー)	気味が悪いこと。 言い方は「きびがわりー」。「きび」は「気味」で心持ち、気持ちのこと。また、「えーきびじゃ」とか「いいきびじゃ(いい気味だ)」と言えば、人の失敗をあざ笑う時に使う。 「気味が悪い」の言い方は東日本に多く、関西系は「気色が悪い」。ただし、奈良、和歌山は「こころ悪い」。「こころ」は「心」が変化したもの。「気味」は「きみ」と「きび」の言い方があるが、「きび」と言うのは、「み[m]」の[m]が[b]に音変化しやすいから。 【「いいきび」、「えーきび」、「きやいがわるい」参照】 例: あそこは暗いから、きびが悪いっちゃー。 (あそこは暗いから、気味が悪いのよ。) 例: そねーな、きびがわりーはなしーさんなよ。 (そんな気味が悪い話をしないでよ。)
519	きびる	結ぶ。縛る。くくる。 「結ぶ」はつなぎ合わせる、「縛る」は動きを固定する、「くくる」はバラバラのものをまとめるという意味の使い分けがあるが、「きびる」は全ての意味に使う。「くくる(括る)」は「くるくる」をつづめた語らしいが、「くびる」は「くび(首)」を締めることで、きつく括るような感じがある。この「くびる」が訛ったのが「きびる」。「くびれ」や「くびれる」は標準語として使われているが、「きびる」と語源は同じ言葉。九州、愛媛、広島、石見でも使う。 【「いわえる」、「てねる」参照】 例: この紐を、きびっちゃけーよ。(この紐を、結んでおきなさいよ。) 例: 上手にきびらんにゃー、すぐとけるよ。 (上手にくくらないと、すぐほどけるよ。) 例: はー、きびれたんかね。(もう、結べたのかね。)

No.	見出し	説明
520	きまい	①来なさい。 ②着なさい。 「まい」は「なさい」。 言い方は「<u>きまい</u>」(来まい)と「<u>きまい</u>」(着まい)。 【「きいさん(きさん)」、「きんさい」、「くれまい」、「～まい」参照】 例:はよう<u>来</u>まい。(早くおいで。) 例:はよう<u>着</u>まい。(早く着なさい。)
521	ぎみる (ぎんみる)	工夫する。 「吟味する」ことから、「工夫する」意味になった。 東地区(笠戸島)で使う。 例:《物をもらうために工夫をするとき》 ちよつと、ぎみて来る。(ちよつと、工夫してもらって来る。)
522	きもやき	①心配をさせること。心配をさせる人や物。親不孝者。 「きも」には「肝(かん)」や「胆(たん)」の字を当てるが、「心」や「気持ち」の意味で使われている。「きもやき息子」のように使う。また、機械や道具類に対しても使う。最近ではペットに対して使う人もいる。 ②子供が病弱で、親が心配していること。 「親が心配しているのに」逆に「子供が親に心配をかける」と表現して「きもやき」と言う言葉を使う。 例:ええ年をして、きもやきばっかしさせるんじゃないぞ。 (よい年をして、心配ばっかりさせるんじゃないぞ。) 例:このテレビは、よーこわれるのー。きもやきじゃのー。 (このテレビは、よく壊れるね。手間が掛かるなあ。) 例:きもやきで困ります。いつになったら丈夫になりますやら。 (体が弱いので困ります。 いつになったら丈夫になるのでしょうか。)
523	きもをやく (きもーやく)	親兄弟などに心配や苦労をかけること。 機械や道具類に対しても使う。ペットに対しても、親愛の情を示すために使う人もいる。言い方は「きもーやく」。 例:ドラ息子がきもーやいて、はあーやれませんかーね。 (ドラ息子が心痛させて、もうたまりませんよ。) 例:《よくごてる(調子が悪くなる)ポンプを目の前にして》 このポンプは、よーきもーやかすのー。 (このポンプは、再々、手間が掛かるなあ。)
524	～きやー (～りやー)	～けば。～れば。(仮定形) 「聞けば」が「聞きやー」、「見れば」が「見りやー」になる。 【詳しくは「～りやー(～しゃー)(～きやー)(～やー)」参照】
525	きやあせん (きやーせん)	①来はしない。来ないだろう。 ②着はしない。着ないだろう。 言い方は①は「<u>きやあせん</u>」、<u>「きやーせん</u>」。②は「<u>きやあせん</u>」、<u>「きやーせん</u>」。【「くりやーせん」参照】 例:あいつは、きやあせんで。 (①あいつは、来はしないだろう。②あいつは、着はしないだろう。) 例:あいつは、きやーせんにーや。 (①あいつは、来ないだろうよ。②あいつは、着ないだろうよ。)

No.	見出し	説明
526	きやいが わるい (きあいが わるい)	①気持ちの悪い不吉ないやらしい感じ。 ②失敗して気分が悪い感じ。 「きやい」は「気持ち、気味、気色、気分」。字は「気合」。「きやいくそが悪い」、「きあいが悪い」とも言う。言い方は「きやあーいくそがわるい」、「きやあーがわるい」、「きやえーがわりー」、「きやえーがわるい」等。②の意味では「けたいくそが悪い」とも言う。 【「きびがわるい」、「けたいくそがわるい」、「わりー」参照】
527	きゅう (きゅー) (きょう) (きょー)	①木を。②気を。 子音内の母音「イ」+助詞「オ」は概ね「ユー」、または「ヨー」と発音される。よって、「きを(キオ)」が「キュー」、または「キョー」になる。「キュー」と言うか「キョー」と言うかは、その人の癖か、地域に寄る。また、「イ」+「オ」を「イヨ」や「イー」と発音する人や地域もある。よって、「キヨ」や「キー」と言う場合もある。「キー」は今頃の若い人も使うが、他の言い方は年寄りしか使わないかな?【「き一つけて」、「むりゅー」参照】 例:きゅうきるときやー、きょ一つけーよー。 (木を切る時は、気を付けろよ。) 例:きよきるときやー、き一つけーさいよ。 (木を切る時は、気を付けないよ。)
528	きよそ	慌て者(あわてもの)。落ち着きのない人。 西地区(福川)で使う。「そっきょうさく」、「とんきょうさく」と同意。 【「けそ」、「そっきょう」、「とんきょう」参照】 例:《車にはねられそうになったと話す人に》 お前はきよそじゃけーの一。(お前は慌て者だからなあ。) 例:《お皿を、急いで運ぶ途中に、落として割った人に》 きよそきよそするな! (落ち着け!) (気を付けろ!)
529	きよぼり きよぼり	きよろきよろしながらも、放心状態でぼんやりしていること。 きよろきよろしているが、周りの状況が理解できず、ぼんやりと突っ立っている様子。次の行動に移せずにいる状態。西地区(湯野)、県東部(伊陸)で使う。「きぼりきぼり」と言う地域もあるようだ。 【「ぼうけい」参照】 例:とりよー新しい小屋に移したが、 きよぼりきよぼりしちよったでー。 (鶏を新しい小屋に移したが、 きよろきよろして動かなかった。) 例:《病院で手術の後に》 意識が戻った時に、ベッドの上で、 きよぼりきよぼりしていたわ。 (意識が戻った時に、ベッドの上で、 何か訳がわからない様子だったわ。)
530	ぎょめいぎょじ (御名御璽)	最後だ。終りだ。 「御名御璽」は、天皇の名前と公印のこと。詔勅などの末尾に記されることから、「これでもう最後だ」、「これで終わりだ」と「これが出たら最後通牒だよ」の意味で使う。方言と言うより、大正、昭和初期生まれの年代語かも? 例:《ダメ押しの一言を言われて》 それを言われたら、ぎょめいぎょじじゃね。 (それを言われたら、もう何も出来ないね。終りだわ。)

No.	見出し	説明
531	きらす	言う。ぬかす。 ののしる時や怒っている時の言い方。 物の手持ちが無くなった時も「きらす」、「きらした」だが、これは標準語。 例：ねんごーをきらすな。 （生意気を言うな。） 例：なによーきらしやがる。 （何を言うか。）
532	ぎり (まいまい)	頭の旋毛(つむじ)。 「ぎり」は「錐」や「きりきり舞い」、「きりもみ」といった言葉に見られるように、 廻っている状態を表す擬態語の「きり」から派生したもので、国語辞書に 「ぎりぎり」で「頭のつむじ」とあるので、これがつづまった言い方。奈良、三 重、岡山、広島、鳥取、島根、大分などで使われており、山口県では県西 部主体の方言だが、県東部でも使われている。「まいまい」、「まえー まえー」、「じろまい」とも言う。 これからは推測。広島は「ぎり」が全県で使われているので、山口は元々 「まいまい」だったが、毛利氏が広島から来て「ぎり」が県西部では優勢に なり、県東部でも一部地域では「ぎり」が使われるようになったか？ 【「じろまい」、「まいまい」参照】
533	きりし	花崗岩。御影石。
534	きりばん	まな板。 本来、「まな板」は魚用、「きりばん」は菜っ葉用と使い分けがあったが、今 ではほとんど「まな板」に統一されている。しかし、魚用、菜っ葉用の使い分 けは無くなったが、今でも、通常の会話では「きりばん」を、改まった時は「ま な板」を使っているところもあるようだ。
535	きりやーない	切りが無いこと。際限がないこと。 例：きりやーない食べんことよ。 （際限なく食べない方がよい。）
536	きれいな かった (きれいな かった) (きれんな かった)	きれいだった。 この言い方は「きれいな」で一回切って「かった」を付けて過去を表わす。 「きれいな」の言い方は「きれいな」になったり、「きれんな」になったりする。 【「～じゃ」、「～な」参照】 例：あのヒロイン、すごく、きれいな かったねえ。 （あのヒロイン、すごく、きれいだったね。）
○ 537	きんかあたま (金柑頭)	禿げ頭。 「きんかんあたま」の転で、「きんかん(金柑)」に似ていることから、「禿げ 頭」のことになった。最近では「禿げ」が主流で「きんか」はまず使わない。 我々が小さい時は「きんか」はあまり使わなかったが、山口弁ではないのに 「やかん」は時々、「禿げ茶瓶」は良く使っていた。なお、「禿げること」は「き んかになる」と言う。 【「あたまがすずしい」、「きいかん」参照】 余談：「禿げ頭」の言い方の分布は、東日本は「はげ頭」、「やかん頭」、近 畿は「ちゃびん」、「禿げ茶瓶」、中国、九州北部は「きんか頭」(金柑のこ と)、四国、九州南部は「はげ頭」らしい。

No.	見出し	説明
538	きんかいも (金柑芋)	じゃがいも。馬鈴薯。(芋) 1598年にジャガタラ(ジャカルタの古名)からオランダ船で長崎にもたらされたから、「ジャガタライも」で、今は「じゃがいも」となっているが、普及したのは明治時代に川田男爵が北海道にアメリカから優良品種を持ち帰ったから。「薩摩芋」とは逆に北海道から日本に広まった。そのため、日本各地に「北海道芋」、「札幌芋」、「仙台芋」等の呼び名があるようだ。「きんかいも」は中国地方だけ。芋の形が禿げ頭の「きんか」に似ているから、この呼び名になっている。 「昔、言った、聞いた」のレベルで、今は、絶滅危惧種の方言である。 【「とういも」、番外の「芋の呼び名」参照】
539	きんさい (きーさい)	①来なさい。②着なさい。 言い方は①も②も「きんさい」。「きーさい」、「きーさん」も使う。この「きんさい」という言い方は、県東部ではよく使うが、県中央部では、あまり使われないようだ。 【「きいさん(きさん)」、「きまい」、「～んさい」参照】 例：こっちに来んさい。(こちらにおいで。) 例：《暑いと言って裸で涼んでいる人に》 もう服をきんさいよ。風邪引くよ。 (もう服を着なさいよ。風邪を引くよ。)
540	きんときになる (金時になる)	酒に酔って顔が赤くなる、その様。 坂田金時(金太郎)の人形の顔が赤いからこう呼ぶ。「金時の火事見舞い」のこと。
541	くいさし (食いさし) (くいさし)	食べかけ。食べ残し。 「～くさし」が「～残し」の意。「飲みくさし(飲み残し)」、「やりくさし(やり掛け)」の表現もある。【「くさす」参照】 例：くいさしをほーたらかしにしちゃーいけんよ。 (食べかけを放ったままにしていけないよ。)
542	くいしろ	食い代(くいしろ)。 東地区で使う。 例：儲けるようになったんじゃなー、家にくいしろを入れてくれーよ。 (働いて稼げるようになったのだから、家に食い代を入れてくれよ。)
543	くいどがする	食べ応えがある。食い出があること。
544	ぐいめ	ぐみの実。(植物) 「ぐい」はとげの多い木のこと。「ぐいみ」と言うところもある。実がなる時期が種類によって違うので、鹿野の方言集によると、5月に熟れるのは「なわしろぐいめ」、11月に熟れるのは「あきぐいめ」と言っていたようだ。
545	ぐうすこ ぐうすこ	ぐうすか ぐうすか。良く寝ている時のさま。 例：おお、ぐうすこ ぐうすこ、よーねちよるでえー。 (おお、ぐうすか ぐうすか、良く寝ているよ。)
546	ぐーたれ	怠け者。 ぐうたらぐうたらしている人。ぐずぐずしていて、働く気力の無い人。 【「ぐんだらべー」、「ずーたらべー」、「なえんぼう」、「のーくれ」参照】 例：あのひたー、よいよ、ぐーたれじゃけー、始末におえんにーね。 (あの人は、本当に、怠け者だから、始末に負えないよ。)

No.	見出し	説明
547	くぐし (くぶし)	粃殻や雑草を集めて、いぶすこと。 「くぶし」とも言う。作物の残りや雑草、落葉、粃殻、塵芥などを集めて、燃やす作業のこと。長時間かけていぶす。煙は出るが、火は出ない。 【「くぐす」参照】
548	くぐす (くぶす)	いぶす。くすぶらせる。 「くぶす」とも言う。作物の残りや雑草、落葉、粃殻、塵芥などを集めて、長時間いぶすこと。名詞形は「くぐし(くぶし)」。 【「くぐし」、「ふすべる」参照】
○ 549	くくむ	口に含む。くくめる。 漢字は「銜む、含む」。 例：口に水をくくむ。(口に水を含む。)
550	くさす	中途半端で完了していないことを表す。生半可なやりかたにも使う。 昔は「腐らす」ことを「くたす」や「くさす」と言った。中止して物事を「腐らす」意味から、やりかけの意味に転じたと思われる。「食いさし」、「やりくさし」、「飲みくさし」のように「し」で体言化する。 なお、人の悪口のことも「腐さす」。ただし、これは標準語。 【「いいくさし」、「くいさし」、「つつきくさし」、「にえくさし」、「もえくさし」参照】 例：仕事をやりくさつしよる。(仕事をやり掛けで置いている。) 例：おかずの魚を、食べくささんよーにせんにゃーね。 (おかずの魚を、食べ残さないようにしなければね。) 例：どーかね、この子は。 くいくさしたまんまで、どっかにいったねー。 (どうかね、この子は。食べ残したままで、どこかに行ったね。) 注：最近は「くいくさしたまんま」は使われずに、「食べ残したまんま」が主流かな？
551	くじをくる (くじゅーくる) (くじょーくる)	①叱ること。怒ること。 ②子供が強情を張って、わがママを言うこと。ぐずつくこと。 一般的に「ねくじ」の使い方をする。 「くじ」は、 ①修験者が印を結び、身を守る呪文を称え、指で空中に「臨兵闘者皆陣列在前(りんぴょうとうしゃかいじんれつざいぜん)」の「九字」を切る。その際、呪文をグチグチ言うことから来た。 ②「公事」を繰る。公事は民事訴訟の総称。昔、お白洲で叱ったり、怒っていた。これから「公事」が「叱る・怒る」になった。また、「訴訟」の意味から、「不平不満・わがママ」の意味が派生した。 ③「口事(くじ)」を繰りかえす。(口事は小言のようなことか?) の色々な説がある。①②③の中では、②の説が一般的である。「くじゅーくる」とか「くじょーくる」と使う。 「くる」は、「繰る」で「する」の意。「じゃまをくる」の「くる」と同じ。 小言を良く言う人や気難しい人は「くじくり」。 【「おおくじをくる」、「じらをくる」、「ねくじを言う」参照】 例：そねーなことをしたら、くじょーくられるでー。 (そんなことをしたら、怒られるよ。) 余談：泣き寝入りをするを、「くじにもならん」、「くじにも、さたにもならん」と言う。くじ(裁判)にも、沙汰(判決)にもならないから、「泣き寝入り」の意味になる。

No.	見出し	説明
552	くず (くずし)	かまど。 西地区では「くず」、「くずし」。東地区は「くど」。 【「くど」参照】
553	くずぬく	①うつむく。 ②しゃがみ込む。 県西部の方言。周南では使わないが、「くずぬく」は山口弁で「うつむく」ことと、KRYラジオで紹介されていたので、収録した。大分や愛媛でも使われているようだ。②は下関や阿知須の方言集に載っていた意味。 【「かごむ」参照】
554	ぐすねる	崩れる。崩壊する。 例：そねーな積み方じゃー、ぐすねるでよー。 (そんな積み方では、崩れてしまうよ。)
555	ぐずねる (ぐすねる)	むずかる。すねる。 「ぐすねる」、「ごねる」とも言う。 【「むずがる」参照】 例：ぐずねて困る。よー守りをしてえね。 (むずかって困る。良く守りをしてね。)
556	くすばいー (くすばえー)	くすぐったい。 ほめられて、きまりが悪くて照れくさい時は「尻がくすばいー」と言う。 【「こそばい」参照】
557	くそげどう	馬鹿野郎。 相手をかなり罵る(ののしる)時に使う。 【「げどう」、「こんげどー」参照】 例：《腹に据えかねた相手に対して》 このくそげどうが! (この馬鹿野郎が!)
558	くそにもならん	役に立たない。 【「やちもない」、「しょーもない」参照】 例：くそにもならんことをしよって! (役に立たないことをしたな!)
559	くたびらかした (くたぶら かした)	疲れた。閉口した。 「草臥(くたび)れる」ことを十分にした感じ。 例：なんちゅうても、あの仕事はくたびらかしたいやー。 (何と言っても、あの仕事はすごい草臥れたよ。)
560	くだまき (管巻き)	酒に酔って、くだくだ言う人(くだを巻く人)のこと。 【「ぐでる」参照】
561	ぐちぐち言う (ぐちぐちゆー)	愚図愚図言うこと。不平を言うこと。 「ぐちぐち言われた」となると「説教をされた」となるが、言われた方から見た時にはあまり効果のある説教ではない。「小言を言われた」に近い。言い方は「ぐちぐちゆー」。【「うだうだ」参照】 例：そねーにぐちぐちゆーな! (そんなにぶつぶつ不平を言うな!)

No.	見出し	説明
562	ぐつが悪い (ぐつがわりー)	具合が悪い。塩梅(あんばい)が悪い。都合が悪い。 日程の都合と体や服の調子の両方に使う。「ぐつ」は、「ぐあい(具合)」と「つごう(都合)」の頭音を合わせた戯語だったようだ。言い方は「ぐつがわりー」。同じ意味で「ぐつがよーない」とも言う。反対は「ぐつがええ」。これはあまり使わないが、たまに使う人もいる。 【「いずい」、「じゅうがええ」、「つどう」参照】 例:《都合を聞かれて》その日は、ぐつがわりーんじゃが。 (その日は、具合が悪いのだが。) 例:《関節の病気をした人が》 あれから、どうもぐつがわりーんじゃ。 (あれから、どうも調子が悪いのだ。) 例:《着心地の悪い服を着た人が》 どうもこの服はぐつがわりーの一。 (どうもこの服は着心地が悪いなあ。) 余談:我々は使ったことがないが、各地に「ぐつ」を使った色々な言い方があったので紹介しておく。「ぐつがまげん」で「物分かりが悪い」、「ぐつがきれん」や「ぐつがにえん」、「ぐつがへげん」で「はきはきしない、決断力がない」等。
563	ぐでる	くだを巻く。(お酒に酔って) KRYラジオで山口弁として紹介されていたので収録した。県中央部では使われているようだが、県東部では知っている人が少数で、ほぼ現在では使われていないと思われる。萩市の田町商店街の方言ののぼりにはあるので、県北部で使われているのは確かなようだ? 【「くだまき」参照】 例:こんな一酒癖がわるーて、いっそぐでるんちゃー。 (こいつは酒癖が悪いから、いつもくだを巻くのだよ。)
○ 564	くど	かまど。 「火所」が「ほと」→「ふど」→「くど」と変化した。東地区では「くど」を使っていた。西地区は「くず」、「くずし」。【「くず」参照】 例:そのゴミは、くどに、<u>くべちよきんさい</u>。 《燃えていたら》 (そのゴミは、かまどに入れて燃やしておきなさい。) 《燃やす前なら》 (そのゴミは、かまどで燃やすから入れておきなさい。) 注:燃やすために薪などを火の中に入れることを「くべる(焼べる)」と言うが、事前に火をつける前に入れておくことも「くべちよく」と言う。
565	くどろ	屑(くず)。くずもの。不合格品。 野菜なら、できそこないの大根や小芋などの、選別を終わった後の不良品のことを「くどろ」と言う。お米の「クズ米(まい)」は「くどろ米(ごめ)」。言い方は「くどろまい」ではないので注意のこと。 【番外の「昔の言葉、行事?」の「くどろおけのわ(くどろ桶の輪)」参照】
566	ぐべんしゃ (くべんしゃ) (ぐえんしゃ)	「分限者(ぶんげんしゃ)」のこと。金持ち。財産家。 「くべんしゃ」、「ぐえんしゃ」とも言う。他には「ぐげんしゃ」(周防大島、徳地)、「ぐめんしゃ」(防府)、「おやかた」(柳井)等の言い方がある。これらと「ぶんげんしゃ」、「ぐべんしゃ」等が各地で混合して使われているようだ。

No.	見出し	説明
567	くまで (熊手)	三つ爪の農具や貝掘用のくわ。 小さい貝掘り用のものも「くまで」。国語辞書に載っている「熊手：先端を爪状に曲げた細い竹を何本もつけた道具」は山口弁では「がんざき」または「がんぜき」。【「がんざき(がんぜき)」参照】
568	くらさめ (暗さめ)	暗がり。 西地区(湯野、大津島)で使う。東地区では、昔、聞いたなと言う感じ。
569	くらしあげる	殴り回す。 東地区(櫛ヶ浜)で使う。「くらわす」ことを「くらす」という言い方は、西日本各地で使われている方言。【「くらわす」参照】 例：あたまー、くらしあげちゃろうか。(頭を、殴り回そうか。)
○ 570	くらわす (くらわかす) (くらわせる)	なぐる。 「くらわかす」、「くらわせる」も使う。【「くらしあげる」参照】 例：おおちゃくーゆうけー、一発くらわしちゃったいやー。 (横着を言うから、一発なぐってやったよ。) 例：一発くらわかしきたいやー。(一発なぐったよ。)
571	～くり (～繰り)	繰り返す人。 名詞の後について、同じ動作を繰り返す人を指す言葉。「じゃまくり(邪魔ばかりしている人)」、「じらくり(わがママをよく言う人)」など。 【「じゃまくる」、「じらくる」参照】 注：「よだれくり」は国語辞書にある。よって、「～くり」は標準的な使い方かも？
572	くりゃーせん	①来ない。来ないだろう。 言い方は「 <u>くり</u> ゃーせん」。 ②呉れないぞ。 「くれりゃーせん」とも言う。言い方は「 <u>くり</u> ゃーせん」。 【「きやあせん(きゃーせん)」参照】 例：あいつは、 <u>くり</u> ゃーせんで。(あいつは、来ないだろうよ。) 例：あいつは、 <u>くり</u> ゃーせんで。(あいつは、呉れないだろうよ。)
573	くれちゃった	くれた。下さった。 「見せてくれちゃった(見せてくれた)(見せて下さった)」の様に使う。「～ちゃった」は尊敬語。【「～ちゃった」、「もろーた」参照】 例：《お菓子をもらった子が》 これをくれちゃった。(これを下さった。)
574	くれまい	①来れないだろう。 言い方は「 <u>くれ</u> まい」。「これまい」も使う。 ②呉れないだろう。 言い方は「 <u>くれ</u> まい」、または平板式に「くれまい」。これは普通の打ち消し推量の助動詞。 ③下さい。 この使い方は「くれまい(くれさい)(くれんさい)」を参照のこと。 【「きまい」、「くれまい(くれさい)(くれんさい)」、「～まい」参照】 例：あいつは、 <u>くれ</u> まいでー。(あいつは、来れないだろうよ。) 例：あいつは、くれ <u>まい</u> でー。(あいつは、呉れないだろうよ。) 例：こりょー、 <u>くれ</u> まい。(これを、下さい。)

No.	見出し	説明
575	くれまい (くれさい) (くれんさい)	くれなさい。下さい。 手を出しながら言う感じ。言い方は「くれまい」。「くれさい」、「くれんさい」とも言う。【「くれまい」、「～さん」、「～まい」参照】 例：そりよー、くれまい。 (それを、下さい。)
576	～くれまい (～くれさい) (～くれんさい)	～下さい。 どちらかと言うと「～くれまい」は男言葉で、「～くれさい」、「～くれんさい」は女言葉か？最後に「か」がついて、尋ねるかお願いする気持ちが強くなる言い方は、「～くれまーか」、「～くれさらんか」、「～くれんさらんか」になる。【「～くんな(～くんない)(～くんねー)」、「～つかあーさい」、「～つかあさんへー」参照】 例：食べてくれまい。 (食べて下さい。) 例：こりよー、見てくれんさい。 (これを見てもらえますか。) 例：こりよー、見てもらえまーか。 (これを見てもらえませんか。)
577	くれやある (くりゃーる)	くれる。下さる。 「やあーる」と延ばして言う時は、少し侮蔑の気持ちが入る時もある。 例：いつもスイカをくれやあるんよ。 (いつもスイカを下さるのよ。) 例：《賞味期限の近いものをいつも呉れる人について》 いつもおそーにくれやあーるんよ。 (いつも遅くにくれてんよ。)
578	くろじ (くろぢ) (くろじに)	内出血した部分の青黒くなったアザのこと。打ち身のあざ。 「くろじに(黒死)」、「くろじり」、「あおじ」とも言う。【「あおじ」参照】 例：机のかどで打った所が、くろじになったいやー。 (机の角で打った所が、アザになったよ。) 例：どーしたーん。くろじに(黒死)になちよるじゃー。 (どうしたの。あざになっているではないか。)
579	くわいちご	くわの実。(植物)
580	ぐわえー	具合(ぐあい)(ぐわい)。 連母音「アア[aa]」の間に半母音[w]が挿入されて、「アワ[awa]」となり、その後続く連母音「アイ」が「アエー」と発音されることにより、「具合(グアイ)」は「グワエー」と発音される。他には「場合(バアイ)」が「バワエー」、「他愛ない(タアイナイ)」が「タワエーナー」などがある。 ただし、連母音「アイ」がそのままの「具合(グワイ)」と「他愛ない(タワイナイ)」については国語辞書にあるので「アエー」になった言い方と合わせ技で山口弁となる。【「こうこ」、「しょ」、「におーちよる」参照】 例：ぐわえーがわりーけー帰るでー。 (具合が悪いから帰るよ。)
581	ぐんだらべー	締りのない人。 「ぐうたら兵衛」の変形か？ 【「ぐーたれ」、「ずーたらべー」、「なえんぼう」、「のーくれ」参照】

No.	見出し	説明
582	くんな	①来るな。 ②下さい。くれ。くれなさい。 ①は「くんないやー(来るなよ)」、「くんなちゅうたら(来るなと言ったら)」、「くんなちゅうのに(来るなと言うのに)」のように使う。 ②は「そりょー、くんな(それをくれ)」のように使う人もいるが、多くは「そりょー、くんない(それを下さい)」になる。今頃は「くれまい」の言い方が多いかな？昔の人は店で物を買う時に使っていたが、今はまず言わないと思う。【「くれまい」、「くれまい(くれさい)(くれんさい)」参照】 例：いつまでも、ついてくんないやー。 (いつまでも、ついて来るなと言っているのだ。) 例：こりゃーええのー。こりょーくんない。 (これは良いな。これを下さい。)
583	～くんな (～くんない) (～くんねー)	～下さい。 「見てくんな(見て下さい)」のように使う。丁寧に言う時は「くんない」になる。「見てくんねー(見て下さい)」とも言う。 【「～くれまい」、「～つかあーさい」、「～つかあさんへー」参照】 例：食べてくんな。(食べて下さい。) 例：あそーでくんない。(遊んで下さい。)
584	～けえ (～けー) (～けん)	①～だから。～なので。 理由を言う。 ②～ね。～かね。 念を押す。 「～けんね」とか「～けんの」と言う使い方もする。「～けーの」の様に最後に「の」を付けると男言葉、「ね」を付けると女言葉になる。 【「ええけー」、「～からに」、「じゃけえ」、「～わーね(～わいね)」参照】 例：かじょー引いたけえ、えらいんちゃ。 (風邪を引いたから、だるいんだ。) 例：はあ、もーええけー、あっちーいっちょきー。 (もうしなくてよいから、あっちへ行っておきなさい。) 例：はーもーえーけー<u>ねー</u>。(もう、いいから寝なさい。) 《この時の「ねー」は命令形》 例：はーもーえーけーねー。(もう、良いからね。) 例：A; 勝ったんよー。(勝ったのよ。) B; そーけー、すごいの一。(そうかね、すごいな。) 例：わたしゃー、もう知らんけんね。(私は、もう知らないからね。)
○ 585	げさく (下作) (戯作)	①下品なこと。卑しいこと。また、そのさま。 ②できの悪いもの。へたなこと。 字は「下作」、または「戯作」。下の話をする時にも使うが、みっともない失敗の話をするような時にも「げさくな話でわりーが・・・」のように使う。また、「げさくな物言い」は「乱暴な言い方」のこと。国語辞書には載っているが、各地で方言化しているようだ。 例：そねーにげさくなことーいいさんな。 (そんなに下品なことを言うなよ。) (そんなにみっともないことを言うなよ。) 例：この服のからーげさくなのー。(この服の柄は下品だなあ。) 例：この作りはちーとげさくじゃのー。 (この作り具合はちょっとへただなあ。)

No.	見出し	説明
586	げせん (解せん)	解せない。了解できない。 例：そりゃー、げせんの一。(それは、良く分からないなあ。)
587	けそ (けそけそ) (げそげそ)	落ち着きのない様。そそっかしい様子。またその人。 言い方は「けそ」。我々は言わないが、KRYラジオの方言コーナーで取り上げていたので、収録した。「けそつく」とか「けそとく」で「落ち着きなく」、「けそつき」は「そそっかしい人」。新南陽の方言集には「げそげそ(落ち着きの無い人)」、「山口県方言辞典」には「『げそとく＝げそつく』(周防)」とあったので、我々が知らないだけかも知れない。我々はこの意味では「ごそ」の方を良く使っていた。なお、防府、須佐、福栄、周防大島の方言集は「けそけそ」だった。【「きよそ」、「ごそ」参照】 余談1：同じ方言を使っているのは北部九州、石見、隠岐、佐渡。しかし、東北や関東、長野では「けそけそ」が「平然と落ち着いている様子」と、山口と反対の意味になるらしい。 余談2：広島県北の比婆では「げそげそ」は「減っていくさま」を表すらしい。
588	けたいくそが わりい (けったくそが わりい)	気持ちが悪い。気分が悪い。いまいましい。 「けたい」は気色、気味、気持ちを表すが、字は「卦体」になり、「奇態」、「希代」の意味も含んでいるようである。「卦体が悪い」は「卦」の結果が良くないことなので、「縁起が悪い」から「気分が悪い」ことになったようだ。失敗したことや面白くないことがあって、気分が悪いことに良く使うが、異様なものを見て、気持ちが悪いことにも使う。そして、この「卦体が悪い」に強調の意の「くそ」が付いて、「けたいくそがわりい」になっている。 他に、「怪態＝気合(気持ち、気味、気色、気分)」で気持ちが悪いことになるとの説や、芝居などの演題の「外題(げだい)」が悪いの説もある。さらに「怪体」の説もある。「けったくそがわりい」、「けたいくそがわりい」とも言う。 なお、「けたい」の正調の山口弁は「けたえー」になるので、「けたえーくそがわりい」や「けたえーくそがわりい」が本来の言い方。 【「きやいがわりい」、「わりい」参照】 例：あねーなことを言いやがって。けたいくそがわりいでよー。 (あんなことを言われた。気分が悪いぞ。)
589	けだらん	少ない。ちょっと物足りない。 反対は「けだる(多い、沢山)」。腹が一杯の時は「けだる」で、ちょっと物足りない時は「けだらん」。物がたくさん手に入った時は「けだる」で、たくさん手に入らなかった時は「けだらん」と言う。 昔は「けだる」、「けだらん」を、「はかどる」、「はかどらない」の意味にも使ったようだが、今は使われていないようだ。【「けだる」参照】 例：《食事したけど、まだ食い足りない時》 なんか まだ けだらんの一。(何かまだ食い足りないなあ。) 例：《調味料が足りないかなと言う時》 けだらん時は、ちょっと掛けてね。(足りない時は、ちょっと掛けてね。)
590	けだる	多い。沢山。充分。腹一杯。 満足できる以上にかなり多くあれば「けだる」で、満足できる量に足らなければ「けだらん」。【「けだらん」参照】 例：《久しぶりに腹一杯食べた後に》 ああ、今日は久しぶりに腹が けだったでよー。 (ああ、今日は久しぶりに腹一杯だ。)

No.	見出し	説明
○ 591	けちよん けちよん	「完膚無きまでに」の意味。 関東、関西でも言うようなので、方言ではないが、今頃あまり使わない言葉になっている気がするので、収録した。文章にした時はカタカナにした方が合う気がする。【「いんごーがんぎー」参照】 例：ケチョン ケチョンにやられたいやー。 (徹底的にやつつけられたよ。)
592	けっか (結果) (けっく) (結句)	却(かえ)って。むしろ。いっそ。 「結果」からの転意。「かえって結果はその方が良い」の意味から、「却って、むしろ」の意味に使われ出した。 同じ使い方をする言葉に「けっく(結句)」がある。詩の結句からでた言葉で、新南陽や周防大島、柳井の方言集に載っていたが、我々は使っていない。「けっか」の方を使っていた。 例：こねーなもんなら、けっか、無い方が良かったのー。 (こんなものなら、むしろ、無い方が良かったね。)
○ 593	けつまずく (蹴躓く)	躓く(つまず)くこと。 【「こける」参照】 例：敷居に、けつまずきたいやあー。(敷居に、つまずいたよ。) 《この言い方は、こけてはいない。》 例：よそー見て歩きーさんなよ。けつまずくよ。 (よそを見て歩いてはいけないよ。つまずくよ。) 注：母音「オ」+助詞「オ」は「オー」と長音化して発音される。よって、「よそを(ヨソオ)」は「ヨソー」になる。他には「あおを(アオオ)」は「アオー」、「外を(ソトオ)」は「ソトー」などがある。【「あぐ」参照】
594	けつらかす	蹴散らす。蹴散らかす。 例：腹が立ったんじゃー。 まありのものーけつらかしていんだでー。 (腹が立ったんだろう。周りの物を蹴散らかして帰ったよ。)
595	けつる	蹴ること。 すごく蹴ることを「けつりあげる」と言う。強く蹴ることや続けて蹴ることを「けつり回す」と言う。 例：はよう、石をけつれーやー。(早く、石を蹴れよ。)
○ 596	けつをわる (尻を割る) (穴を割る)	あきらめて止めてしまうこと。 あまり良い意味には使われない。 例：とうとう、尻(けつ)を割ったか。 (とうとう、あきらめて止めてしまったか。)
597	けどい	味が濃い。脂が多い。匂いがきつい。 柳井の方言集によると、料理の味以外に、「色や香りがあくどい」意味があり、「お化粧がけどい」と「けばい」と同じような使い方をしようだが、周南では料理の味に関してのみ使う。西地区で言う。同様の意味を東地区では「むつこい」と言う。 今は言い方が分かれているが、岩国や柳井、新南陽の方言集に「けどい」も「むつこい」も載っているので、昔は「けどい」と「むつこい」の両方を使い分けていたのかも知れない。「けどい」は香りが主体で、「むつこい」は味が主体だったのかも？【「むつこい」参照】 例：この料理は、けどいねー。(この料理は、味が濃いね。)

No.	見出し	説明
○ 598	げどう (外道)	①野郎。《人をののしる言葉》②悪ガキ。《子供の蔑称》 人をののしって言う言葉。 【「くそげどう」、「げどされ」、「こんげどー」参照】 例：げどーめ、やりやがったな。(野郎、やりやがったな。) 例：こんげどーが悪さをしよった。(この悪ガキが悪さをした。)
599	げどされ (外道去れ) (げどうされ) (げどうたれ)	①馬鹿者。愚か者。②野郎。 人をののしって言う言葉。「げどうされ」、「げどうたれ」とも言う。我々は使ったことがないが、KRYラジオで紹介されていたので、収録した。「げどされ」「げどうされ」は昔は全県で使われていたかも知れないが、今は主に県西部の方言と思われる。【「げどう」、「ほけたれ」参照】 例：こんな一、よいよげどされじゃの一。 (こいつは、本当に馬鹿者だなあ。)
○ 600	～げな	～らしい。～そうだ。 伝聞・推定の言葉。「げ」は「心配げな顔」の「げ」と同じで、形には現れないがなんとなく察することができることで、「生(け)」の意。「げな」は「生(け)なり」の略。 【「あるげな」、「いなげな」、「～じゃげな」、「～てえな」参照】 例：もう、あの話はゆうたげな。(もう、あの話は言ったらしい。)
601	けない	長持ちしない。 言い方は「けなえー」。「けなえー」と言うところもある。「け」は「常」。「常無い(けない)」で長持ちしないの意味になる。また、二日(ふつか)、三日(みっか)の「日(か)」の転音が「け」で、「日無い(けない)」で日数が少ない、よって長持ちしないとなったとの説もある。さらに、「呆気ない(あつけない)」の「あつ」が省略されて「けない」になったとの説もあった。 昔は病気や事故で急に亡くなった時の「とむらい」の挨拶語として、「けないことごとざりましたのう」と使っていた。反対語は「むさい」。 【「むさい」、「もげない」参照】 例：この靴下は、けないでえ。はあ穴があいたいやー。 (この靴下は、長持ちしないな。もう穴があいたよ。)
○ 602	げに (実に)	本当に。なるほど。それはそうと。 「現に」の転らしい。 例：げに、どうしょーかー。(それはそうと、どうしようか。)
603	けば	芝生。(植物) 西地区で使用。周防大島では「けぼ」。 例：けばを植える。(芝生を植える。)
604	けびる	削り取る。減ずる。人のものを一部むさぼり取ること。 西地区で使用。「へびる」と同じ。【「へびる」参照】 例：人のおやつをけびるな。(人のおやつを取るな。)
605	けぶたい (けぶたあ)	①煙たい。②気詰まりで、窮屈な状態。煙たいこと。 「煙い(けむい)」は「けぶい」だが、あまり使わないかな。 例：焚火の煙がこっちに来て、けぶたいちゃー。 (焚火の煙がこっちに来て、煙たいよ。) 例：あの人がおると、けぶたいっちゃー。 (あの人がいると、煙たいよ。)

No.	見出し	説明
606	ける	炒める(いためる)。 石見地方でも使うようだ。 例: ちょっと油でけてから、味付けした方がええよ。 (ちょっと油で炒めてから、味付けした方がよい。)
○ 607	けんけん	片足跳び。(子供の遊び) 長門では「りんりん」「りんりんかいこ」、周防北部や岩国・大島などでは「てんぎ」「でんぎ」「てんてん」と言う。昔の周防大島の方言集には「ててつぽ」もあった。 「けんけん」は現在、片足跳びの共通語としてほぼ全国に広まっているが、もともとは近畿の大半と中国・四国の瀬戸内側を中心に、岩手県南部などでも使われていた方言。この言葉は、近畿・中国・四国などから東京に流入した人々によって共通語化され、東京方言を駆逐する勢を持った一つの例として注目される。 現在の共通語化した「けんけん」の発音は「ケンケン」で、頭高型アクセントになっているが、山口弁では「ケンケン」と平板に発音される。 地面に○を書いて、片足、片足、両足で「けんけんぱー」と言って、石を投げて陣地を往復する遊びが小さいころあった。 【「かたちん」、「ててつぽ」参照】
608	けんちょー (けんちん) (けんてん) (けんちんじる) (けんちん汁)	醤油仕立ての汁物料理。 大根や豆腐などを油でいためて、醤油で味付けしたもの。 「けんちょー」は汁が少ない。「けんちん汁」は汁が多い。 「けんちん(汁)」は <u>普茶料理</u> の「巻織(けんちゃん)」（野菜を刻み、豆腐を混ぜて炒め、湯葉で巻いて油で揚げた料理）がアレンジされたものという説と、鎌倉の建長寺の修行僧が作っていたため、「建長汁」がなまって「けんちん汁」になったと言われる説がある。後者の説が有力かな？山口では「けんちょー」の言い方が多いが、普通に「けんちん」、「けんてん」、「けんちん汁」と言うことも多い。 注:「普茶料理(ふちゃりょうり)」とは、江戸時代初期に中国から日本にもたらされた料理のこと。 余談: 他の郷土料理としては、「いとこ煮」や「茶がゆ」がある。周防の「いとこ煮」は一言で言うと関西で言う「ぜんざい」の汁がないバージョン(長州萩系は汁あり)。入っているのは小豆と、餅ではなく白玉団子が主だが、野菜や竹輪、タコが入るところもある。名前の由来は食材を「追々」入れて煮るから、「甥 甥」で「いとこ」らしい。「茶がゆ」は豆茶(はぶそう茶)で煮出したおかゆのこと。「茶がい」とも言う。サツマイモが入ることもある。
609	げんと (げんに)	本当に。なるほど。てきめん。 「げんに」とも言う。ただし、周防大島では「げんと」は「それはそうと」、「然し」の意味になるらしい。 例: げんとあのかー感心な子じゃ。(本当にあの子は感心な子だ。)
610	ごあさって	あさっての翌翌日。 西日本の言い方。「し(四)あさって(あさっての翌日)」までは良く使うが、「ご(五)あさって」はあまり使わないかな？ 【「おとつい」、詳しくは「しあさって」、番外の「東西の違い」参照】
611	こいも (子芋)	さといも(里芋)。(芋) 親芋を食べずに、子芋を食べる食習慣による。広島でも言う。 【「かいも」、番外の「芋の呼び名」参照】

No.	見出し	説明
612	こいらー (そいらー) (あいらー) (どいらー)	①こいつら。こいつ達。②こいつ達は。こいつ達を。 「こそあど」言葉で、「そいらー(そいつら)」、「あいらー(あいつら)」、「どいらー(どいつら)」と使う。今頃はほとんど使われない。「こいつらー、そいつらー、あいつらー、どいつらー」が主体になっている。 また、「あんなー」や「こんなー」の欄に示すように、山口弁の音韻法則で、語尾が「アー」と伸びた時は助詞「は」や「を」を含む言い方になるので、「こいらー」は「こいつ達は」、「こいつ達を」の場合もある。よって、ただ単に「〇〇達」なのか「〇〇達は」、「〇〇達を」なのかは、文の流れから判断するようになる。【「こんなー」、「そんならー」参照】 例：こいらーが、よー悪さするんちゃ。 (こいつらが、良く悪さをするんだよ。) 例：こいらー、よーつれていかんでー。 (こいつ達は連れて行けないよ。) (こいつ達を連れて行くのは難しい。)
613	こう (買う)	買う。 山口弁では「かう」の[au]が連母音融合して[o:]になって、「こう」になる。言い方は「こおー」。ワ行五段動詞連用形の活用語尾の促音「ッ」が「て」「た」「たり」「ちよる」に続く場合、ウ音便化するため、「買って」は「かうて」、これが連母音融合して、「こーて」、「買った」は「かうた」、同様に連母音融合して、「こーた」になる。 なお、「かった」は標準語では「買った(カッタ)」だが、山口弁では「借った(カッタ)」で「借りた」ことになる。 【「おう(会う)(合う)」、「かる(借る)、かった(借った)」、「こうてくる(買うて来る)」参照】 例：この本をこーたんよ。(この本を買ったのよ。) 例：こうつもりの車はどれか。(買うつもりの車はどれか。) 例：あいつあーボタンコをこおーたらしいでー。 (あいつはオート三輪を買ったらしいよ。)
○ 614	こうこ (こうこう)	沢庵漬け。 全国的には「おこうこう(御香香)」と言えば「こうのもの(香の物、漬物)」を指すが、山口では沢庵漬け。ちなみに「たくあん」は山口弁の言い方では「たくわん」になる。連母音「ウア[ua]」の間に半母音[w]が挿入されて、「ウワ[uwa]」と発音される。他には「不安(フアン)」は「フワン」になる。 【「ぐわえー」、「しょ」、「におーちよる」参照】
615	こうしゃくを たれる (講釈を 垂れる)	①理屈ばかり言う。 ②長々と説明や文句を言う。 ③生意気なことを言う。 屁理屈や文句をよく言う人は「こうしゃくたれ」。 「小癪(こしゃく)：生意気、ませている」も「こーしゃく」と言う地方があるので、「こうしゃく」には「講釈」と「小癪」の二つの意味が重なったような気がする。「講釈」の意味が①②で、「小癪」の意味が③ではないか？ 我々は言わないが「頑固、理屈っぽい、あれこれ文句を言う」ことを「こーじく(こーじゅく)」と言ったようなので、この言葉も同源か？ 【「かばち」、「こうへい」、「ねんごーをたれる」参照】 例：あいつあーこうしゃくばっかしたれるから、きらわれるんちゃ。 (あいつは屁理屈ばかり言うから、嫌われるんだよ。)

No.	見出し	説明
616	こうてくる (買うて来る)	買ってくる。 言い方は「こおてくる」。「こう(買う)」の他の使い方は、「こーたろーか」や「こーちゃろーか」は「買ってやろうか」、「こーたろうが」は「買ったでしょう、買っただろうが」、「こーたげる」は「買ってあげる」など。 【「かる(借る)、かった(借った)」、「こう(買う)」参照】 例：A;酒を、こーてこいやー。 (お酒を、買ってこいよ。) B;もう、こーて来ちやるよ。 (もう、買って来てあるよ。)
617	こうばいはねた	どうにもならない。 出雲や隠岐の方言に「こうばい利(き)かせる」で「要領よくする」と言うのがある。「勾配跳ねた」で「要領よく行かない」から「どうにもならない」意になると思われる。東地区(東荷)で使う。 なお、「山口県方言辞典」に「こうばいが早い」で、「目先が早い、合点が早い」とある。今の国語辞典には「勾配」は「傾きの程度」の意しかないが、昔は「要領、機転」の意味があったようだ。
618	こうへい (こーへー)	生意気な。ませた。高慢な。小癪な。 小癪な言葉使いや生意気な言い方をすることやその様を言う。言い方は「こーへー」。森川さんによると、「こうへい」には「ねんごー」よりもう一段上の高慢さがあるとのこと。「こうへい」に「口柄」の字を当てている方言集があったが、「横柄」のつながりか? 正確にはどの字を当てるのか分からないらしい。今頃はあまり使われない方言である。 【「こうしゃくをたれる」、「ねんごー」、「ねんごーをたれる」参照】 例：こんなこーへーなやついや。 (こいつは高慢なやつだよ。)
619	ごうら (ごーら)	百合の花。鬼百合やササユリ。(植物) 今はもう「ごーら」と言う人は少なく、「ユリ」しか使わないかな。
620	こえたんぼ	①肥えた人のこと。太っちよ。 ②肥溜め壺。 「たんぼ」は「たんぼ」が訛ったもので「穴」や「たて穴」の意。 【「ごみたんぼ」、「だいつぼ」、「たんぼこ」参照】
621	こー (来う)	①来(こ)よう。 ②来(く)るだろう。 話し手の意志・決定・勧誘と推量を表す表現。鎌倉、室町時代の中央語が方言化したもの。 例：《意志・決定の時》 そりゃー、わしがやってこー。 (それは私がやってこよう。) 例：《勧誘の時》 ふくー買いに行つてこーやー。 (服を買いに行つてこようよ。) 例：《推量の時》 あんなーあしたーこーでよ。 (あいつは明日は来るだろうよ。)

No.	見出し	説明
622	ごーがすく (ごーが にえる) (ごーが わく)	胸くそが悪い。腹が立つ。 「ごう」は仏教の「業」。悟らない人が怒ったり、腹を立てることを「業」と見立てた。「業腹(ごうばら)」と同じ「業」。「ごーがわく(涌く)」、「ごーが煮える」とも言う。「涌く」も「煮える」も立腹の頂点に達したことを言う。「ごーたれがすく」とも言う。「ごーをすかす」は「立腹させる」。「すく」は「広島県方言辞典」に「梳く、抄くの意か」とあった。「業を掻き取る、すくい取る」の意か？なお、「業が煮える」「業が湧く」は国語辞書にあるので、標準語に近いかも？「湧く」は「沸く」と書くものもある。 また、鹿野や柳井の方言集には「ごうをいる(業を煎る)」ともあった。この言い方の時は、その行為を怒るだけでなく、嘆くことや心配する意味にも使われたようだ。【「きもをやく」参照】 例：も一本当に、ごーがすいてやれん。 (もう本当に、胸くそが悪くて我慢できない。) 例：あいつの言い方にゃー、ごーが煮えてやれん。 (あいつの言い方には、腹が立つ。)
623	こーじくな (こーじゅくな) (こーじょくな)	①頑固で理屈っぽい。文句を言う。②欲張りで利己的なさま。 高価を意味する昔の言葉「こうじき(高直)」を転用した言葉。高値を張って、売り付けがましく、説き立てるような言動が元になっているらしい。「こうしゃく」と混ざって、地域によると、「理屈っぽい、文句を言う」の意味にも使われるようになったようだ。 我々は使っていないが、「こうしゃく」を調べる段階で分かったことを記した。 柳井地区では①の意味で「こーじく、こーじゅく」、防府地区では②の意味で「こーじょく」のようだ。 余談：マツノ書店の「防長方言番附」には「こーじく(利己的な性格)」と載っていた。【資料の「防長方言番附」参照】
624	こーじゃろう (そーじゃろう) (あーじゃろう) (どーじゃろう)	こうでしょう。 「こそあど」言葉で「そーじゃろう(そうでしょう)」、「あーじゃろう(ああでしょう)」、「どーじゃろう(どうでしょう)」の様に使う。 例：《作り方を教えてもらって、出来た時に》 こーじゃろー。(こうでしょう。)
625	こーでえー (そーでえー) (あーでえー) (どーでえー)	こうですか。こうするのか。こうなのか。 「こそあど」言葉で「そーでえー(そうですか)」、「あーでえー(ああですか)」、「どーでえー(どうですか)」と使う。 【「あねー(そねー、こねー、どねー)」参照】 例：《作り方を教えてもらってから試しに作ってみる時に》 こーでえー。(こうですか。)
626	～こーに	～ように。～ままに。 「持たんこーに(持たないままに)」の様に、否定の「ん」が頭について「～んこーに」で使う。「食べんこーに(食べずに)」、「寝んこーに(寝ないで)」など。【「あきらめんこーに」、「～ずく」、「～せんこーに」、「にんこうに」、「わすれんこーに」、「～んこー」参照】 例：あきらめんこーに、つぎゃー頑張りーさいよ。 (あきらめないように、次は頑張りなさいね。) 例：あそばんこーに、はよーおいでーよ。 (あそばずに、早くおいでよ。)
627	こおりもち	かき餅。

No.	見出し	説明
628	こーるい	柑橘類。(果物)
629	こがあな (そがあな) (あがあな) (どがあな)	このような。こんな。 「こがいな」、「こんとうな」、「こねえな」とも言う。「こそあど」言葉で「そがあな(そのような)」、「あがあな(あのよう)」、「どがあな(どのよう)」と使う。「こがいな」等の言い方も同様。 【「こげんこと」、「こつとな(こつたな)」、「そがあな」、「どがい」参照】 例:こがあなことをしてもろうたら、たいがたーがね。 (このようなことをしてもらったら、申し訳ないです。)
630	こがあに (そがあに) (あがあに) (どがあに)	このように。こんなに。 「こがいに」、「こんとうに」、「こねえに」とも言う。「こそあど」言葉で「そがあに(そのように)」、「あがあに(あのよう)」、「どがあに(どのよう)」と使う。「こがいに」等の言い方も同様。 【「あがいな」、「こがあな」、「そがあな」、「どがい」参照】 例:こがあに熱があるんなら、家で寝ちよかんにやーいけんの一。 (こんなに熱があるのなら、家で寝ておかないといけなね。)
○ 631	こがす (焦がす)	肌を日にあてて、黒くすること。 火で焼いて黒くするのも「こがす」だが、太陽の日で焼くのも「こがす」と言う。方言と思っていたが、KRYテレビの方言コーナーで言っていたので、収録した。 例:《夏に真っ黒になっている人を見て》 よーこげちよるの一。真っ黒じゃーないか。 (良く日に焼けているね。真っ黒ではないか。)
○ 632	こぎる (小切る)	細かく切断する。細かく砕く。 例:きゅーこかしたから、こぎちよつてくれーやー。 (木を倒したから、細かく切っておいてくれよ。) (木を伐採したから、薪にできる大きさに切っておいてくれよ。)
633	こくう (虚空)	①呆けていること。ぼんやりしていること。 ②非常に。 「虚空」から派生した言葉。大変なことだと言うのを強めて言う時に「ちゅーに、かーに、こくーに、ごっぽー」と使ったようだ。 例:ちよつと、こくうになつちよたの一。 (ちよつと、ぼおーとしていたな。)
634	こくうもない	とてつもない。大層。とても。途方もない。 「こくうもない遠い(とてつもなく遠い)」のような使い方をする。 【「ごっぽう」、「ちゅうに」、「どひょーしもない」参照】
○ 635	こぐち (小口)	入口。 「はいりこぐち」とも言う。「入り小口」か?「虎口」とも書くようだ。本来は城や陣所の出入口のこと。「小口」と書く時は、当然、棒の切り口や端の意味でも使う。 例:まあ、こぐちにたっちよらんと、中に入りんさいね。 (まあ、入口に立っていないで、中に入りなさいよ。)

No.	見出し	説明
636	こぐる	①くぐる。②掻き分けて進む。 ①は身をかがめてくぐり抜ける、通り抜ける感じ。水にもぐるのも「こぐる」と言っていたようだが、我々は使っていない。②は藪漕ぎのように、掻き分けて進むことで、防府や西地区(湯野)で使う。【こぶる】参照 例：垣根をこぐって入る。(垣根をくぐって入る。) 例：あのみちゃー、大草んなかー、 こぐって行くよーになるから大変に一や。 (あの道は、生い茂っている草の中を、 掻き分けて進むようになるから大変だよ。)
637	こけつ (こけ)	垢(あか)。 「こけ」とも言う。「あか」よりも古い語形。頭の「雲脂・頭垢(ふけ)」を意味する山口弁は「きー」。但し、これはほとんど使われない。 【「きー」参照】 例：耳の後ろをよー洗いんさいよー。 こけつもぶれじゃないかねー。 (耳の後ろを良く洗いなさいよ。 垢だらけじゃないかね。)
○ 638	こける (転ける) (倒ける)	転ぶ。 「転ばないように」は「こけんように」。「ころげる」の「ろ」を省いて「こける」になった。【「けつまずく」参照】 例：敷居にけつまずいて、こけたんちゃー。 (敷居につまずいて、倒れたんよー。) 例：急いで走りよったら、あしゅーもつらかして、こけたいねー。 (急いで走っていたら、足をもつらして、転んだよ。) 注：子音内の母音「イ」+助詞「オ」は概ね「ユー」と発音される。よって、「足を(アシオ)」は「アシュー」になる。
639	こげんなこと (そげんなこと) (あげんなこと) (どげんなこと)	このようなこと。こんなこと。 「こげんなこと」、「こげえなこと」、「こがあなこと」、「こんとうなこと」、「こねえなこと」とも言う。「こそあど」言葉で「そげんなこと(そのようなこと)」、「あげんなこと(あのようなこと)」、「どげんなこと(どのようなこと)」と使う。上記の他の言い方も同様な変化をする。 【「こがあな」、「こげんに」参照】 例：こげんなことをしてもろうーたら、たいがたーがね。 (このようなことをしてもらったら、申し訳ないです。) 例：そげえなことをしたら、罰があたるどー。 (そんなことをしたら、罰があたるぞ。)
640	こげんに (そげんに) (あげんに) (どげんに)	このように。こんなに。 「こげえに」、「こがあに」、「こんとうに」、「こねえに」とも言う。「こそあど」言葉で「そげんに(そのように)」、「あげんに(あのように)」、「どげんに(どのように)」と使う。上記の他の言い方も同様な変化をする。 【「こげんなこと」、「こんとうに」参照】 例：こげんにしてもろうーたら、はずかしーです。 (このようにしてもらったら、恥ずかしいです。) 例：どげんにせーちゅーんかね。 (どんなにしろと言うのかね。)

No.	見出し	説明
641	こころやすー せる	恋愛する。 我々は使ったことはないが、「山口弁よもやま話」に伝統的な山口弁と紹介されているので収録した。恋愛結婚した夫婦を「こころやすみょー」と言う。防府や阿知須の方言集には載っているが、他には見当たらなかった。今では、県中央部にのみ残っている方言かも？ 例：わたしらー、こころやすーせて一緒にしました。 (私たちは、恋愛結婚をしました。)
642	こさぐ	削る。削り取る。掻き取る。 表面の汚れなどを削り取る、摺り取る、掻き取るような時に使う。「こさぎ取る」や「こさぎ落とす」とも言う。鍋の底を必死にこさいでいるのは「こさぎ回しちよる」。転じて、徹底的にやることを「やりこさぐ」と言う。「こさぐ」の連用形「こさいで」、「こさいだ」は「さい」の母音「アイ」が「アエー」となり、「コサエーデ」、「コサエーダ」になる。12世紀頃の文献に見られる「刮(こそ)げる」に由来する言葉。 例：この汚れを、こさいで取る。 (この汚れを、削って取る。) 例：釜へこびり付いちよるご飯をこさえーで取って食べた。 (釜にこびり付いているご飯を削るようにそぎ取って食べた。)
643	～ごし	～ごと。～ぐるみ。～のまま。 名詞などに付いて、「そのものも共に」の意を表す。活用語に付くと、その状態のままであることを示す。「～ごし」は関西系の言い方。 【「～ごしょうには」、詳しくは「～ごみ(～ごめ)」参照】 例：魚を頭ごし食うた。 (魚を頭ごと食べた。)
644	ごじぶんですか	「食事時ですか」の意味。 食事の時間帯に訪問した時に、「今は、食事時ですか」と聞く時に言う。今頃は言わないと思うが、聞いたことはある。字は「御時分」。 【「おじぶん」、番外の「挨拶の表現」参照】
645	～ごしょうには (～ごしょー にやー)	～のままには。～しないことには。～しない限りには。～しなければ。 「～ごしには」が「～ごしょうには」、「～ごしょーにやー」になった。「ごし」は活用語について、その状態のままであることを示す。東地区(櫛ヶ浜)で使う。昔は広い地域で使われていたようだが、今はほとんど使われていないと思う。 【「～ごし」、「～ごみ(～ごめ)」参照】 例：皆が金を使わんごしょうには、景気はよーならん。 (みんながお金を使わないままでは、景気は良くならない。) 例：あそこに行かんごしょーにやー、どねーもならん。 (あそこに行かないことには、どうにもならない。)
646	こじろしー (こじろーしー)	うるさい。忙しい。 「こじろーしー」とも言う。 【「しろおいしい」参照】 例：そねーな、こじろしーことをゆうーないやー。 (そんな、うるさいことを言わないでくれ。)

No.	見出し	説明
○ 647	ごしんぱい です (ご心配です)	「お疲れ様です」、「お世話様です」、「ご苦労様です」の意味を込めた挨拶言葉。 一般的な「心配」には①不安で悩むこと、気がかりと、②心に掛けて世話をすること、心遣い、配慮の二つの意味があるが、その②の意味を込めて挨拶として使う。「こころくばり」の漢字表記を音読したもの。「お世話様」や「ご苦労様」より、敬意がある言い方。 言い方は「ご心配でした」、「ご心配であります」、「ご心配でありました」など。発音は「ごしんぱえー」に近い。また、「ご心配であります」等の「であ」が「だ」になって、「ご心配だります」に近い言い方になることもある。 なお、「お疲れ様です」は目上の人に、「ご苦労様です」は同輩、目下の人にと使い分けがあるが、「ご心配です」はどちらにも使うような気がする。 【「おえろーありました」、「ごぶれいします(ご無礼します)」、番外の「挨拶の表現」参照】 例：A；寄合のこたー、うまいこと行ったいね。 (寄合のことは、うまいことまとまったよ。) B；そりゃー、よかった。ご心配でした。 (それは良かった。お疲れさまでした。) 余談：「ご苦労さま」は、昔は目上、目下のどちらにも使っていた言葉らしい。「ご苦労」は江戸時代にはむしろ目上に対して多く使われていたようだ。
648	ごすたん	後退する。バックする。 東地区(櫛ヶ浜)で使う。英語の「go astern」から。主には漁師さんが船を後退させることに使っていたが、陸上での後退全般に使うようになったようだ。時代語か？ 例：ちょっと前に出過ぎたから、ごすたんしーさん。 (ちょっと前に出過ぎたから、バックしなさい。)
649	ごぜん (御膳)	食事そのもののこと。 食卓としての膳は「おぜん」で、食事そのものは「ごぜん」と使い分けられていた。飽食の時代でない時の、食事に対する尊敬語。
650	ごそ	①ごそごそ良く動く。元気。 ②落ち着きがない。 言い方は「ごそ」。使う場面で意味が変わる。 【「けそ」参照】 例：この子はごそじゃねー。 (この子は良く動くね。) 例：ごそしなさんな。 (ごそごそするな。) 例：ちーと、この子はごそじゃねー。 (ちょっと、この子は落ち着きがないね。)
651	こそっと	そろりと。ひそかに。静かに。 【「そろっと」、「のそっと」参照】 例：分からんように、こそっと行きいよ。 (気付かれないように、静かに行きなさいよ。)

No.	見出し	説明
○ 652	こそばい (こそばいー) (こそばえー)	くすぐったい。 語源は「こそ」と「はゆし」からなる「こそばゆし」。「こそ」は「くすぐる」の元の「こそぐる」の「こそ」で、擬声語の「こそこそ」である。「はゆし」は「恥ずかしい、きまりが悪い」と言った意味。こそこそとくすぐられて、むずむずする感覚が「こそばゆし」。「こそばゆし」→「こそばゆい」→「こそばいいい」→「こそばいー」→「こそばいー」等と言い方をする。 「こそばゆい」は標準語、「こそばい」は元中央語で、今は山口弁(方言)。また、「こそばゆくなる」は標準語だが、「ク」がウ音便化した「こそばゆーなる」は山口弁の言い方になる。【「くすばいー」参照】 例:こそばいーから、やめーやー。 (くすぐったいから、止めてくれ。)
653	こたあなえ (こたーなえー)	訳なく。 「事は無い」の意。言い方は「こたーなえー」。 例:向こうがよわーけー、こたーなえー勝ったいやー。 (相手が弱いから、訳なく勝ったよ。) 注:子音内の母音「オ」+助詞「ワ」は「アー」と発音されるので、「事は(コトワ)」は「コター」に、連母音「アイ」は「アエー」と発音されるので、「無い(ナイ)」は「ナエー」になる。よって、「事は無い」は「こたーなえー」になる。
654	ごたえー (五体)	身体そのもの、及びその状態や体格など。 標準語で用いる「五体満足」の「五体」に近い意味の言葉だが、用法は違う。 健康がすぐれない時には「ごたえーの調子がわりー(体の調子が悪い)」。 体格の良い人をほめて「えーごたえーせちよる(良い体格をしている)」。「ごたえーが、えー(体格が良い)」などと言う。身長が高く体格も良い立派な体格であることは「たてよこ(縦横)足(た)ろーちよる」などと言う。 【「たてよこたろうちよる」参照】
655	こたえかした (堪えかした)	①疲れた。②弱った。骨身にしみた。 「堪(こた)えた」の意味。「こたえかあす」とか「こたえかえした」とも言う。反対は「こたえない(困らない、弱らない)」。 例:きによーは徹夜で、こたえかしたでよー。 (昨日は徹夜で、すごく疲れたよ。) 例:どこがわりーんか、よーわからんのいやー。 図面がちゃんとしとらんけー、こたえかえしたいやー。 (どこが悪いのか、良く分からないのだよ。) 図面がきちんとしていないから、弱ったよ。)
656	ごち	芯が残っているご飯。上手に炊けなかったご飯。 県東部(田布施)の言い方。「ごちごちのご飯」の擬態語「ごち」のこと。県内は「なかごめ」が主流だが、「ごち」、「ごっ <u>ち</u> ん」を使うところもある。 【「ごっちん」、「なかごめ」参照】
657	こつく	①つつく。②とがめる。修正する。 「小突く(こづく)」は辞書に載っている言葉で、これも使うが、「こつく」は「こづく」より少し弱めの感じがある。 例:背をこつく。(背中をつつく。) 例:論文をこつかれる。(論文をいじられる。)

No.	見出し	説明
658	ごっくり (ごっくし)	①意に反して。予期しないのに。 ②急に。俄かに(にわか)に。 ③根こそぎ。いっぺんに。 「ごっくし」とも言う。水を「ごっくり」飲むのは、標準語。 例：ごっくり、おおめげじゃったいやー。 (意に反して、大失敗でした。) 例：ごっくり、さむーなった。(急に、寒くなった。) 例：ごっくし、やられたでー。(根こそぎ、やられたよ。)
659	こっこ	鶏(にわとり)。(鳥)(幼児語) 【番外の「幼児語」参照】
660	こっしゃー (ことしゃー)	今年は。 言い方は「こっしゃー」。子音内の母音「イ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「ことしは(コシワ)」は「コシャー」になる。次に「ことしゃー」が促音便化して「こっしゃー」になる。 例：こっしゃー、めーわくかけましたのー。 (今年は、迷惑を掛けましたね。) (今年は、お世話になりましたね。)
661	ごっそー (ご馳走)	ご馳走。 例：今日はおおごっそーじゃのー。 (今日は大ご馳走だな。)
662	ごっちゃん	芯が残っているご飯。上手に炊けなかったご飯。 言い方は「ごっちゃん」。これは九州の言い方だが、県内の下関や西部地域でも使う。周南でも「ごっちゃん」と言う人は少なからずいる。「ごちごちのご飯」の擬態語「ごち」の変形。県内ほとんどの地域では「なかごめ」と言う。田布施は「ごち」も使う。【「ごち」、「なかごめ」参照】
663	ごっつう (ごつう)	①大変。非常に。②沢山(たくさん)。 【「えーと」、「ごっぱり」、「さで」、「じょーに」、「ようけ」参照】 例：ごっつう、おもしろい映画じゃった。 (大変、面白い映画だった。) 例：ごっつう、おもちゃがあつたでー。 (沢山、おもちゃがあつたよ。)
664	こっつんこ	ぶつかること。鉢合わせをすること。頭同士をぶつける感じ。 (幼児語) どちらかと言うと子供言葉。 【「がっちゃんこ(かっちゃんこ)(がっつんこ)」、番外の「幼児語」参照】 例：あそこの角で、〇〇ちゃんとこっつんこしたんよ。 (あそこの角で、〇〇ちゃんとぶつかったのよ。)
665	こっとい	牝牛。(哺乳類) 古語の「ことひ(特負・特牛：「特負の牛」の略)」から派生した言葉。「重い荷を負うことができる大きい雄牛」の意味。「防長動植物方言考」によると、他に「こつとえ」、「こつて」とも言ったらしい。牝牛は「うなめ」。 【「うなめ」参照】 余談：山口県北西部には「特牛(こっとい)」の地名があり、港や山陰本線の駅名になっている。難読地名・駅名として有名。

No.	見出し	説明
666	こつとな (そつとな) (あつとな) (どつとな)	このような。こんな。 「こつたな」とも言う。 「こそあど」の同類で、「そつとな、そつたな(そのような)」、「あつとな、あつたな(あのようない)」、「どつとな、どつたな(どのようない)」も使う。 【「こがあな(こがいな) (こんとうな)」参照】 例:《思ってもいなかった方向に物事が進んでいる時に》 こつとなことがあるかいやー。(こんなことがある訳がない。)
667	コッペパン (サンライズ)	メロンパン。 宇部地区での方言? 地元のパン屋さんが昔から「コッペパン」として売っているの、この名前が宇部では定着しているらしい。昔、下松でも「コッペパン」として売っていたような気がするが定かではない。 ちなみに、全国的に「メロンパン」と言われているパンを、広島、神戸、京都、滋賀では「サンライズ」と言う。最初は今の網目状の模様で無く、日章旗のような放射線状の模様が入っていたので、「サンライズ」の名前で売り出したそうだ。 そして、神戸で「メロンパン」と言えば中味が白餡の昔のオムライスの形をしたものらしい。発売当時(1960年頃)、メロンとして売られていたマクワウリに形が似ていたから、この名が付いたと言われている。 余談: 下松のスーパーでも「サンライズ」を売っている。
668	ごっぽ (ごっぱち)	どんこ(鈍甲)。(魚) 周南では「ごっぽ」は「どんこ」のことを指すが、「かじか(鰯)」のことを言う地域もあるようだ。
669	ごっぼう	①ずいぶん。たいそう。意外に。案外。 ②沢山(たくさん)。 漢字は「権法」で真宗の言葉の定着と思われるが、「極方」とか「豪放」、「五方(四方と中央で全ての意)」の説もある。防長方言の特殊なものとして昔から、「ちゅーに」、「ごっぼう」、「どひょーしもない」と挙げられている三つの内の一つ。「ごっぽーな」となると、「大胆な、並外れた」の意になり、「ごっぽーもん」は「常軌を逸した者」で「大胆不敵な者」のような良い意味にも、「荒くれの乱暴者」のような悪い意味にも使われる。 【「えらい」、「おおどうな」、「こくうもない」、「ちゅーに」、「どひょーしもない」、「どうようし」、「のふうどう」、「ばくちん」、「ぶち」参照】 例: 掘って見たら、ごっぼう、いかえー芋じゃった。 (掘って見たら、ずいぶん大きい芋だった。)
670	ごっぼり (ごっぼし)	沢山。仰山(ぎょうさん)。がっぼり。 損得の時によく使う。 【「おーかましい」、「えーと(えっと)」、「ごっつう」、「ごんごな」、「さで」、「ようけ(よーけ)」参照】 例: あの仕事で、ごっぼり儲けたいやー。(あの仕事で、沢山儲けたよ。) 例: ごっぼし、持って行かれないやー。(仰山、持って行かれないよ。)
671	こつる	咳をする。 「こ」は音声で、「つる」は「連る」で、「こんこん」と音声が続くことを言った。「こつる」を使う人が多いが、「せく」も使う。「こつる」は、山口県全域と島根、広島、大分の山口寄りで使われる。「せく」は東地区主体か? 広島は「せく」の方が多い。【「せく(咳)」参照】 例: えらい、ようこつるねー。(すごく、よく咳をするね。)

No.	見出し	説明
672	ごてる	壊れる。機械、装置の調子が悪くなる。 国語辞書に「ごてる」は「ぐずぐず不平や文句を言う」とあるが、山口弁ではこれには「ごねる」を使って、「ごてる」は装置が文句を言う、つまり、装置の調子が悪くなることに使う。【「めぐ(めげる)」参照】 例：《ポンプの調子が悪い時》 あーや、ごてたかな？ (あれ、壊れたかな？)
673	～ごといやー	～からだよ。 非難する言い方。「そねーなことをよーやったいや(そんなことをよくやったよ)」が前提で、「私ならやらないよ」と言う気持ちを持って言う言葉。 言い方は「しごといやー(するからだよ)」。 例：そねーなことを、やりごといやー。 (そんなことを、やるからだよ。) 例：あねーなとこへ、いきごといやー。 (あんなところへ、行くからだよ。)
674	ことんならん (ことにやー ならん)	役に立たない。上手にはならない。 「ことにはならない」が「ことんならん」、「ことにはならない」が「ことにやーならん」となる。「こと」は技の上達や物事の成立、成功のこと。 例：あいつあー、ことにやーならんでー。 (あいつは、役に立たないよ。) →(この仕事には向いていない。)
○ 675	こねる (捏ねる)	①くじく。②てこ(梃子)で物を少し動かす。 足などをくじいた時に「こねた」と言う。また、てこの棒を押して、物を少し動かすことを「こねる」と言う。持ち上げて、ちょっと捻る感じ。「土をこねる」、「理屈をこねる」は標準語。強めに「こねる」ことは「こねくる」、「こねくりまわす」と言う。 例：足をこねてしもうたいやあ。 (足を捻挫してしまったよ。) 例：石の下に、ぼー差して、ちょっとこねてみーやー。 (石の下に、棒を差して、少し押し上げて見ろよ。)
676	こひどうに (こっぴどーに)	こっぴどく。手酷(てひど)く。非常にひどく。 例：あいつらー、わるさーしたから、こひどうに怒られよったでー。 (あいつ達は、悪さをしたから、大変ひどく怒られていたよ。) 例：いたずらーしたら、こっぴどーにおこられたいやー。 (いたずらをしたから、こっぴどく怒られたよ。)
677	こびんちゃく	いたずらっ子。ちょっと生意気な子。 一般的には子供を指す言葉のようだ。西地区で使用。今はほとんど使われない。【「がんぼー」、「こやと」、「わるぼーず」、「わるがんつう」、番外「昔の言葉、行事？」の「ちょろけん」・「てんく(てんくう)」参照】
○ 678	こぶい	狡(こす)い。欲が深い。けちんぼう。しぶい。出し惜しみすること。 近世の上方語で国語辞書には載っている。「にぎりこぶし」の「こぶ」が形容詞化した。西地区で使用。【「にぎり」、「よくつべ」、「よくどう」参照】 例：《やし(ずるいこと)をしたような時に》 こぶいやつじゃのー。(狡いやつだなあ。) 例：こぶいことー、ゆうな。(ケチなことを言うな。)

No.	見出し	説明
679	こぶる	踏み分けて歩く。 泥田や水中などを歩くことを「こぶる」と言う。水たまりや浅瀬をはしゃいで歩くことも「こぶる」(大津島)。物が散乱しているところを、足で踏み付けながら歩くことも「こぶる」(周防大島)。畑を猪に荒らされた時は「こぶられた」、ひどい時は「こぶりまわされた」(周防大島)。山口県方言辞典には「①河や沼を歩く ②足でこねる ③米や麦を石臼でつくこと」とある。「こねる」ような動作が入ることを「こぶる」と言ったようだ。「小振る」か「股振る」なのか?「股踏む」の変形なのか? また、周防大島では「こぐる」とも言ったようだ。【「こぐる」参照】 例:一日中、泥田をこぶっちゃったら、足がくたぶれた。 (一日中、泥田の中を歩いていたら、足が疲れた。) 例:また、はたきよー猪がこぶりまわしちよるんじゃから。 (また、畑を猪が踏み荒らしているのだから。) 余談:金沢では雪の中に足がはまることを「ごぼる」と言うらしい。「ごぼごぼ」と沈むように入ることからの言葉。「こぶる」も泥に踏み込む時の音から派生した言葉なら面白いが・・・?
680	ごぶれい しました (ご無礼 しました)	①「ご無沙汰しております」の意味。 長い間会わなかった時に使う。 ②「済みません」の意味。 ぶつかった時に使う。 ①の場合、「ご無礼しとります」、「ご無礼しちよります」、「ご無礼せとります」、「ご無礼せちよります」とも言う。 【番外の「挨拶の表現」参照】 例:こなえーだから、あえませんでしたのー。ご無礼しました。 (この間から、お会いしませんでしたね。ご無沙汰でした。) 例:《人とぶつかった時に》 あっ、ご無礼しました。(あっ、済みませんでした。) 例:《久し振りに会った人に》 ご無礼しとります。お元気でしたか。 (ご無沙汰しております。お元気でしたか。)
681	ごぶれいします (ご無礼します)	「失礼致します」の意味。 別れる時の挨拶。 【「おえろーありました」、「ごしんぱいです(ご心配です)」、番外の「挨拶の表現」参照】 例:《訪問が終わって》 それじゃー、これで、ごぶれーします。 (それでは、これで、失礼します。)
682	ごへーだ (五平太) (ごへいだ)	石炭。 我々の年代は使っていないし、昭和初期生まれの方に聞いても知らないと言うことだった。よって、かなり昔に使われなくなった方言のようだが、たくさん石炭を掘り出していた山口県の名残として、収録した。なぜ、「ごへーだ」かと言うと、昔、北九州で五平太と言う人が、初めて石炭を掘り出したからとか、船で運搬をしたからと言われている。近畿、九州、瀬戸内海一帯で言われていたようだ。

No.	見出し	説明
○ 683	こまい (細い) (こまえー) (こみゃー) (こまー) (こめー)	①小さい。細い。②細かい。③けち。吝嗇。 「ちーまい」とも言う。山口弁の音韻法則によると、連母音「アイ[ai]」が「アエー[æ:]」になるので、言い方は「こまえー[komæ:]」になる。「こみゃー」とか「こまー」と言うこともある。また、「まえー」が「めー」になって「こめー」と言うこともある。反対は「いかい」。言い方は「いかえー」。 【「あえ」、「あかー」、「いかい」、「がり」、「～(し)たー(～(し)てー)」、「～ないと」、「にぎり」参照】 例：こまい子はかわいがらんにゃーいけんよ。 (小さい子はかわいがらないといけないよ。) 例：この服は、ちーと、こまいと<u>みー</u>。 この服は、ちーと、こまえーとみー。 (この服は、ちょっと、小さいのだよ。) 注：「～とみー」は「～と見い」で「～なのだよ」と念押し強調をする末尾語。 【「～とみー」参照】 例：こまえー細工がしちやるのー。(細かい細工がしてあるなあ。) 例：あの爺さんは、ぐべんしゃなのに、こまいっちゃ。 (あのお爺さんは、分限者なのに、ケチなんだ。)
684	こまりかやす	困り切る。困り果てる。 「困り返す」の転。「よわりかやす」とも言う。 【「かやす」、「よわりかやす」参照】 例：あの人がいつでもまぜくるから、こまりかやしちよっていね。 (あの人がいいつも混乱させるから、困り切っておられるよ。)
685	～ごみ (～ごめ)	～ごと。～ぐるみ。～のまま。 「～込(～こみ)」のこと。中国地方でよく使われる言い方。 「滅びゆく日本の方言」によると、「～ごと」は本来は関東の一部で言われていた方言である。東北は「～むんづけ、～むずら、～まずら」、茨城は「～ぐちら」、山形は「～がらみ」、北陸は「～もてら」、東海は「～さら」、岐阜は「～ぐるみ」、近畿は「～ごし、～ぐち」、京都は「～なり」、隠岐は「～ごん」、九州は「～ながら、～ながり」、鹿児島は「～とみ、～とめ」等、各地で色々な言い方をしている。【「～ごし」、「～ごめ」参照】 例：この<u>さかなー</u>骨ごみ食べんさい。(この魚は骨ごと食べなさい。) 注：母音「ア」+助詞「ワ」は、「アー」と発音される。よって、「魚は(サカナワ)」は「サカナー」になる。
686	ごみたんぼ	ごみ捨て場。 「たんぼ」は「たんぽ」が訛ったもので、穴や小さい溜りのこと。ごみの溜まっているところの意味になる。【「こえたんぼ」、「たんぽこ」参照】
687	こみやすーに いう (こみやすげに いう)	大変容易にできるように言う。訳なくできそうに言う。 「できないと思うがな」と言う気持ちを持って言う言葉。「言う」は「いう」と言う時もあるが、「ゆー」になることが多い。 【「はなみやすーにいう」、「みやすい」参照】 例：えらい、あいつはこの仕事をこみやすーに言うけー、 こまっちょるんちゃー。 (あいつはとても、この仕事を簡単に言うから、 困っているのだ。) 例：《難しいと思っている仕事に対して》 あいつは、えらいこみやすげにゆーんちゃ。 (あいつは、大変簡単にできるようなことを言うのだ。)

No.	見出し	説明
688	～ごめ (～込め) (～籠め)	～ごと。～ぐるみ。～のまま。 「～込(～こみ)」のこと。今は方言化しているが、元は中央語。「～ごめ」の表現は奈良時代の「万葉集」や平安時代の「枕草子」にも使われている。 【「～ごし」、「～ごみ」参照】 例：このブドウは皮ごめ食べられるよ。(このブドウは皮ごと食べられるよ。)
689	こやと (小奴) (こやっとう)	子供。ガキ。 ちょっと見下して言う言葉。東地区(櫛ヶ浜)で使っている。 卑称の意味の「こやと」は防府の方言集にもあるが、新南陽では「こやっとう」で単に「子供達」、鹿野の方言集には「こやっとう」で「『こびんちゃく』と同類の語。少し愛情を込めて言う」とあった。昔は各所で使っていたが、意味合いは少し違ったようだ。【「こびんちゃく」参照】 例：おせが話しちよるんじゃ。こやとはだまっちょけ。 (大人が話しているのだ。子供はだまっておけ。)
690	こようが つかえる (小用が 支える)	①小便をしたくなる。②道草をしたくなる。 「こよう」は「小用」で「小便」や「ちょっとした用事」のこと。反対は「大用」。 国語辞書にある。KRYラジオで紹介されていたので収録した。昔は標準語として使われていたが、今は方言化したとのこと。 ただし、我々の年代は聞いたことがある程度で、使っていないと思われるので、絶滅寸前か？ なお、鹿野の方言集には「女性の言葉」とあった。
691	こらえじょう	堪(こら)え性。忍耐力。耐える性質。 【「こらえる」参照】 例：あいつはこらえじょうがあるから、ものになるでえ。 (あいつは忍耐力があるから、物になるよ。)
○ 692	こらえる (こらえる)	①許す。勘弁する。 「堪(こら)える」から転じて、怒りを自分側が我慢することで、許すことになった。 ②[耐える。] ①の意味は室町時代から発展して、中央語として使われていたが、明治時代から方言化した。②の「耐える」は、標準語の使い方。 【「ききやーせんでよ」参照】 例：そねーに謝るんなら、こらえちゃぎょう。 (そんなに謝るのなら、許してあげよう。)
693	ごり	よしのぼり(葦登)。(魚) 淡水ハゼの一種。体長は6～8cm。岩にへばりついている姿は愛嬌がある。 全国的にかなりの地域で「ごり」と言われているようだ。
694	こりゃーええ	これは良い。 「こりゃー」は「これは」の意味。子音内の母音「エ」+助詞「ワ」は、「ヤー」と発音される。よって、「これは(コレワ)」は「コリャー」になる。 また、「これは」は「こそあど」言葉なので、「それは」は「そりゃー」、「あれは」は「ありゃー」になる。ただし、「どれは」は使わない。 「こりゃーええ」の反対は「こりゃーやれん(これはたまらない)」、または、「やれんの一こりゃー(たまらないね、これは)」。 【「ありゃーどうか」、「こりょー見ない」、「そりゃーなにーいや」、「やれん」参照】 例：A；こりゃーええ。じゅうがええの一。(これは良い。便利だな。) B；そりゃーえかったの一。(それは良かったね。)

No.	見出し	説明
695	こりょー見ない	これを見てごらん。 「こりょ見ない」と縮める場合もある。「こりょー」、「こりょ」は「これを」の意味。子音内の母音「エ」+助詞「オ」は、「ヨー」と発音される。よって、「これを(コレオ)」は「コリョー」になる。「酒を(サケオ)」は「サキョー」、「米を(コメオ)」は「コミョー」も同じ。ただし、「エー」と発音する人もいるので、例えば「米をあげる」は「こみょーあげる」と「こめーあげる」の二通りの言い方がある。また、「これを」は「こそあど」言葉なので、「それを」は「そりょー」、「あれを」は「ありょー」、「どれを」は「どりょー」になる。 【「ありょーみー」、「かじょーひく」、「こりゃーええ」参照】 例：A;こりょー見ない。(これを見てごらん。) B;どりょー見りゃーええん?(どれを見れば良いの?)
696	ごろうじませい (ご覧ませい)	ご覧なさい。 注：「万事休す」の意味もあるようだが、我々はこの意味では使わない。死の忌詞として「とうとうごろうじませえになりました(とうとう亡くなられました)」のように使ったらしい。 例：こりょーごろうじませい。(これをご覧なさい。)
697	コロ付き	補助輪付きのこと。 自転車に補助輪が付いているのを「コロ付き自転車」と言う。 山口から広島は「コロ付き」。岡山から関西は「コマ付き」、愛知は「ワッカ付き」、鹿児島は「ハマ付き」、東日本は「補助輪付き」または「補助付き」らしい。ただし、栃木、埼玉はなぜか鹿児島と同じ「ハマ付き」。 余談：愛知は自転車のことを「ケッタ」と言うらしい。ペダルを「蹴ったくる」動きからの命名とのこと。とすると、山口で言う「コロ付き自転車」は「ワッカ付きケッタ」なのかな?
698	こわえー (こわい)	疲れてだるい。 「こわえー(こわい)」は、主に脚・足・腕・肩などの部位を使い過ぎて、筋肉が強張る感じの肉体疲労感を言い、普通は労働において最も負担度の大きい脚や足が疲れてだるい状態の時によく用いる言葉。「あー、脚がこわえーのー」などと表現する。字はご飯のお強(おこわ)と同じ「強い」を使う。現在では、西地区で少し使うとしても、周南全体ではあまり使われなくなった。関西系の「こわい(おそろしい)」が広まって来たので、重複を避ける意味で使われなくなったか?【「えらい」、「おそろしー」、「だらしい」参照】
699	こをくらん (こーくらん)	①埒(らち)が明かないこと。はかどらないこと。②要領が悪い。 「こをくらん」と「こーくらん」と平板式に言う二通りの言い方がある。努力した割に効果がない時に使う。反対は「こーくる」で効率の良いことに使う。ただし、「こーくらん」は良く使われるが、「こーくる」の使用率は低いようだ。 例：もとおらんの～、しゃんしゃんせんにか、 いっそーこをくらんじゃなあかー。 (てぬるいなあ、さっさとしないと、 いっそ埒が明かないではないか。) 例：ズボン下をはいちよるけど、 こねーにさぶーちゃー、いっそこーくりません。 (ズボン下をはいているけど、 こんなに寒くては、いっそ役に立ちません。) 例：そねーな事をせても、こーくるかいやー。 (そんなことをしても、焼け石に水だよ。)

No.	見出し	説明
○ 700	こん (喉)	尾(び)。匹(ひき)。 魚を数えるのに使う。漢字は「喉」。四国、九州、中国、福井、富山、三重で使う。数え方は「一喉(いっこん)、二喉(にこん)、三喉(さんごん)、四喉(よんごん)(しこん)」。 元々、魚を釣った時に喉が見えるので、この「喉(こう)」を使って、「いっこう、にこう」と数えていたが、鎌倉時代頃から音韻変化で「こう」が「こん」になったようだ。なお、お酒の「いっこん」は「一献」で字が違う。【「き」、番外の「数の数え方」参照】 例：たったの2こんしか釣れんじゃった。(たったの2匹しか釣れなかった。)
701	こんげどー (こんくそー)	この野郎。此奴(こやつ)。この悪ガキ。 「この外道」からか？ 同じ意味で、「こんくそー」と言うこともある。「この糞外道」の短縮形か？ どちらも、喧嘩言葉であり良い言葉ではない。 【「くそげどうう」、「げどう」参照】
702	こんごーを かるー (こーごーを かるー) (こうごうを かるう)	姿勢が悪く猫背になること。 「こうごうをかるう」も使う。また、「こうごう」だけで「猫背」の意味に使う。「日本方言大辞典」に「『こーごーを負(お)う』都濃郡、玖珂郡」となっていたので、昔はこう言ったのかも？ 【「のす」、「のる(伸る)」参照】 例：あんたー、こんごーかるーちよる。もちーと、のって歩きさん。 (あなたは、姿勢が悪い。もう少し、背筋を伸ばして歩きなさい。) 例：あいつは、こうごうじゃのー。(あいつは、猫背だなあ。) 余談：「こんごう」は金剛石のことか？ 猫背が、石を背負っている様子に見えるから？ それとも、肩が金剛石のように硬くなるから？
703	ごんごち (ごんごし) (ごんごんちい) (ごんごー) (がんごー)	お化け。幽霊。鬼。(幼児語) 語源は奈良の「元興寺(がנגうじ・がごうじ)」で、寺の鐘楼に鬼がいたと言う伝説から鬼や化け物のことを「がごうじ」等の言い方をするようになった。これが転じて、「ごんごち」等になった。他に、「ごんごんちい」、「ごんごちー」、「ごんごんじい」(須佐・阿武)、「ごんごじい」(須佐・阿武)、「ごんごー」(下関・豊浦・宇部・小野田)、「ごんごし」(防府・八代・鹿野)、「ごんごん」(須佐・八代・鹿野)、「がんごー」(柳井・周防大島・岩国)等がある。 【番外の「幼児語」参照】 例：暗うなってきたのー。ごんごちが出るから早よう帰ろう。 (暗くなってきたな。お化けが出るから早く帰ろう。)
704	ごんごな (ごんごに)	沢山な。非常な。 「ごんごに」になると「沢山に」、「非常に」の意味。西地区で言っていたが、東地区では使っていない。但し、柳井の方言集にはあるので、昔は言っていたのかも？ 【「えーと」、「ごっぱり」、「よーけ」参照】 例：《祭りで》ごんごな人じゃったのー。(大勢な人だったな。) 例：《野菜をもらって》ごんごに、ありがとう。(沢山に、ありがとう。)
705	ごんごん	やかましく叫ぶこと。 ごんごんと鳴る鐘の音が語源か？ 【「やーやー言う」、「やんやん言う」参照】 例：ごんごん ゆーないや。(やかましく言うなよ。)
706	こんじょーくさり (根性腐り) (こんじょー わる) (根性悪)	①ひねくれた心(性格が悪い)。ひねくれ者。 ②意地悪。意地悪な人。 「こんじょーくつさり」とも言う。 例：あいつあー、よいよ、こんじょーくつさりじゃからのー。 (あいつは、本当に、ひねくれ者だからなあ。)

No.	見出し	説明
707	こんだー (こんだら)	今度は。この次は。 「こんだら」とも言う。【発音については「てご」参照】 例：こんだー、いつくるん。(今度はいつ来るの。)
708	こんだけ (そんだけ) (あんだけ) (どんだけ)	これだけ。 「こそあど」言葉で「そんだけ(それだけ)」、「あんだけ(あれだけ)」、「どんだけ(どれだけ)」と使う。思ったより少ない時に使う。 例：こんだけしかないん。(これだけしか無いの。)
709	こんとうに (そんとうに) (あんとうに) (どんとうに) (このとーに) (そのとーに) (あのとーに) (どのとーに)	このように。この通りに。 言い方は「こんとーに」、「こげんとーに」とも言う。 「こそあど」言葉で「そんとうに、そげんとーに(そのように)」、「あんとうに、あげんとーに(あのように)」、「どんとうに、どげんとーに(どのように)」と使う。 少し丁寧に、また、少しやさしく言う時は「このとーに(このとおりに)」、「そのとーに(そのとおりに)」、「あのとーに(あのとおりに)」、「どのとーに(どのとおりに)」と言う。【「あんとうに」、「こげんに」、「そんとー」参照】 例：こんとうにするんよ。(こんな風にするのよ。) 例：このとーにしてみんさい。(この通りにしてみなさい。)
710	こんところ	①近頃。最近。このところ。②このところ(此の所)。この場所。 【「あんところ」、「そんところ」参照】 例：こんところ、調子がわりいーんちゃー。(最近、調子が悪いのだよ。) 例：《地図を見ながら》こんところを曲がったらええんちゃー。 (この所を曲がったら良いのだよ。)
711	こんなー (そんなー) (あんなー) (どんなー)	①こいつは。②こいつを。 「こそあど」言葉で「そんなー(そいつは、そいつを)」、「あんなー(あいつは、あいつを)」、「どんなー(どいつを)」と使う。「どんなは」は使わない。男言葉である。複数形になると後に「らー(等)」がついて、「こなならー(こいつ達)」、「そんならー(そいつ達)」、「あんならー(あいつ達)」、「どんならー(どいつ達)」になる。「らー」が付くと、ただ単に「○○達」なのか「○○達は」、「○○達を」なのかは、文の流れから判断するようになる。 【「あんた」、「あんなー」、「こいらー」、「そんならー」参照】 例：こんなー、ゆうことを聞かんのんちゃー。 (こいつは、言うことを聞かないのだ。) 例： <u>こんなー</u> 、どうしょーかー。 (①こいつは、どうしょうか。②こいつをどうしょうか。) 例：こなならー、ゆうことを聞かんのんちゃー。 (こいつ達は、言うことを聞かないのだ。) 例：こなならーを、連れて行くことになったいやー。 (こいつ達を、連れて行くことになったよ。) 注：母音「ア」+助詞「ワ」は「アー」と発音される。よって、「こなは(コンナワ)」は「コンナー」になる。また、母音「ア」+助詞「オ」も「アー」と発音される。よって、「こなを(コンナオ)」も「コンナー」になる。 【「あんなー」参照】
712	こんなし (そんなし) (あんなし) (どんなし)	この人。 「こそあど言葉」で「そんなし(その人)」、「あんなし(あの人)」、「どんなし(どの人)」と使う。【「～し」参照】 例：こんなしにゆーちょきやー、ええよーにしてくれていね。 (この人に言っておけば、良いようにしてくれるはずだよ。)

No.	見出し	説明
713	～さー	～さん。 名字や名前に付けて敬意を表す言葉。「ぼーさー」は「坊様」、「よめじょうさー(嫁嬢さー)」は「お嫁さん」。本来は同格の間の呼び方。詳しくは余談参照。【「～まー」参照】 余談：明治頃までは、次の段階があったようだ。 太郎さま；最高の敬語。太郎まー；親愛の敬語。太郎さー；同格または以下の呼び方。太郎やー；子供や下の者への呼び方。太郎しゅー；同輩以下の者への呼び方。
714	さあーらのー (さあーりやのー)	そーだねー。 疑問、推量、反論の時の前置きで、比較的軽い受け答えの時に使う。 「さあーりやのー」とも言う。 例：《「明日は晴れるかね」と言う問いに対して》 さあーらのー、あしたー雨かも知れんで。 (そーだねー、明日は雨かも知れないよ。)
715	～さい	～しなさい。 「成されい」の略で、目下の人に使う。目上には使わない。「～しな」、「～な」が「～ん」になって、「さい」が続いて「～んさい」の表現で使う。 【「あがりい」、「いにさい」、「～さん」、「いいさんな」、「しんしゃい」参照】 例：はよーきんさい。(早く来なさい。) 例：帰りに寄りんさい。(帰りに寄ринаさい。) 例：まあ、よう来たね。さあさあ、あがりんさい。 (まあ、よく来たね。早く、お上がリなさい。) 例：どっちにないと好きな方にしんさい。 (どちらでも好きな方にしなさい。)
716	さいこをやく (さいこを焼く)	お節介をすること。いらぬ世話を焼くこと。 各地の方言集を調べると、「さいこをやく(和木・新南陽・山口・福栄・萩)」、「さいくをやく(岩国・平生)」とある。「さいこ」は「差異(しゃい)」のことで「余計なこと、お節介」の意味。「しゃい」→「しゃいこ」→「さいこ」になり、他の言い方の「焼く」と合わさって、「さいこを焼く」になったと思われる。「さいく」は「しゃいこ」が「さいきょー」になり、「さいく」に変化したか？ 【「さいたらやく」、「さいばーやく」、「せこをやく」、「せんばをやく」、「ちゃんばをやく」、「てんごうをやく」、「てんばを焼く」、番外の「昔の山口弁?『いらぬさいこ』」、番外の「昔の言葉、行事?『さいろい』」参照】 注：「さいきょ」は江戸時代の公用語「裁許(申し立てを認める、仲裁をする)」との説もある。詳しくは分からない。 余談：愛媛では「さいこ」から「オ木槌(さいこづち)」に飛んで、「いらぬ世話」のことを「いらんさいこづち」と言うようだ。
717	さいたらやく (さいたら焼く)	お節介をすること。いらぬ世話を焼くこと。 東地区(光・下松・周南)で使われている。広島県方言辞典によると、「さいたら」は柴燈、斎燈(さいとう)のこと。年中行事の火祭りで、その采配は頭屋(当屋)がふるのだが、非頭屋の者があれこれいらぬ世話をやくことから生まれたもの。光では「さいとう(を)やく」と言う。なお、須佐の方言集には「さいどうやく」とあった。 【「さいこをやく」、「さいばーやく」、「せこをやく」、「せんばをやく」、「ちゃんばをやく」、「てんごうをやく」、「てんばを焼く」、番外の「昔の山口弁?『いらぬさいこ』」、番外の「昔の言葉、行事?『さいろい』」参照】

No.	見出し	説明
718	さいなら	さようなら。 【「へえなら(へーなら)」参照】 例:《別れる時に》 ほいじゃー、またあしたね。さいなら。 (それじゃ、また明日ね。さようなら。)
719	さいばーやく (さいばー焼く)	お節介をすること。いらぬ世話を焼くこと。 各地の方言集を調べると「さいばーやく(徳山・柳井)」、「さいまーやく(柳井、福栄)」とあった。「さいば」、「さいま」は「采配、宰領」のことと思われる。 「さいはい」→「さいばい」→「さいば」か? 【「さいこをやく」、「さいたらやく」、「せこをやく」、「せんばをやく」、「ちゃんばをやく」、「てんごうをやく」、「てんばを焼く」、番外の「昔の山口弁?『いらぬさいこ』」、番外の「昔の言葉、行事?『さいろい』」参照】
720	～さいる (～さえる)	～している。～される。 「～さえる」の言い方は「さえる」が山口弁の正調である。連母音「アイ」は「アエー」と発音されるから、「さいる(サイル)」が「サエール」になるため。但し、普通に「～さえる」の言い方もする。 【「～さった(～さいた)(～さえた)」参照】 例:泣きさいる。(泣いている。) 例:行きさいる。(行ってしまう。)
721	さえん	冴えない。 「①面白くない。②物足らない。③はっきりしない。」等の意味に使う。 例:今日はどうもさえんの一。(今日はどうも今ひとつだな。) 例:どーも、さえん色じゃの一。 (どうも、今ひとつすっきりしない色だね。)
722	さかし (逆し)	逆様(さかさま)。 「さかさま」の「ま」を省いて「さかさ」と言うのと同様に、奈良時代からの古語「さかしま」の「ま」が脱落した言葉。「しま」は様子の「様」のこと。省かずに「さかしま」と言う人もいる。【「へこさか」参照】 例:この箱をさかしにしてみいあ。(この箱を逆さまにしてみろ。)
723	さかしい (険しい) (嶮しい)	急勾配。急坂。險阻。 漢字は「険しい」、または「嶮しい」。読み方として日本方言大辞典には「さがしー」とあった。「さがしー」は「賢しい」で、「かしこい」の意とある。山口では発音が同じになったので、方言集に「賢い」の表記もあったが、これは標準語の意味。今は「小賢しい(ござかしい)」の言い方として残っている。また、「さかしい」は「坂」が形容詞化したとの説もある。 例:あのみちゃーさかしかったでね。(あの道は急勾配だったよ。)
724	さかつんべ (さかつべ)	逆さま。頭が下になっている状態。 「つべ(尻)」が逆さになるから。西地区で使用。今頃は使わないかな? なお、鹿野の方言集には「さかとんぼのこと。背中から真っ逆さまにひっくり返る。」とあった。地域によって、少しずつ意味合いは違うかもしれない。「逆立ち」の意味にも使うようだ。「さかつべ」が最初で、「つべ」を強調した「ん」が間に入って、「さかつんべ」となった。「まなか(真中)」を強調して「まんなか」と言うのと同様の使い方。 【「つんべんかやり」、「でんぐりかえる」参照】 例:あの土手を、さかつんべになって、川に落ちたいやー。 (あの土手を、頭から突っ込んで、川に落ちてしまったよ。)

No.	見出し	説明
725	さかむげ	逆剥(さかむ)け。 東日本は「ささくれ」で、西日本は「さかむけ」を使う人が多いようだ。
726	さがる	学校を中途退学すること。 西地区で使用。入学の「あがる」は一般的に使う。
○ 727	さくい	粘り気が無くもろい。壊れやすい。 「割(さく)」に語勢音の「い」を付けた言葉。この言葉は物に対して使うが、 気質については「気さく」を使う。反対語の「ねばい」は物と気質の両方に使う。 例: このきゃーさくいから、登るときゃー気を付けーよ。 (この木は折れやすいから、登る時は気を付けなさい。)
728	さげる	手を上に伸ばして物を支える。 通常の「下げる、提げる」の意味にも使うが、支える意味でも使う。「捧(さ さ)げる」が縮まった言い方か? 例文の言い方は「さげろてくれ」。これなら 「支える」意味になる。もし、「さげろてくれ」の言い方なら「下げる」意味にな る。【「すける」参照】 例: ちょっと落ちんように、さげてくれ。 (ちょっと落ちない様に、手を上げて支えてくれ。)
○ 729	ささける	ささくれること。 木や竹の先が細かく裂けること。
730	ささげる	幼児を抱えて排便、排尿をさせること。 物を奉げるように両手を前に出す格好で幼児を支えることからこの言葉 を使うのか? 当然、「玉串を捧げる」等の標準語の「ささげる」も使う。 【「しいをする」参照】 例: ささげて、おしっこをさせんさい。 (両手で抱えて、おしっこをさせなさい。)
731	ささら ほーさら (ささら もさら)	散々な目。散々な目に遭うこと。踏んだり蹴ったり。無茶苦茶。 山口の方言として出てくるが周南では言わない。下関や須佐、柳井の方 言としては載っているの、昔はこの辺りでも言っていたのかも? 「ささら も さら」とも言う。「ささらになる」は「無茶苦茶になる」こと。 「ささら(簞)」は楽器の一種で、竹の先を細かく割って束ねたものを、竹や 木に鋸歯状の刻み目をつけた棒と擦り合わせて音を出した。それから、竹 の先を細かく割って束ねた簞、たわしの類も「ささら」と呼ばれるようにな った。「ほさら」は「ささら」と似た音を重ねて強調したものらしい。 たわし類の先がちびて減りやすいことから、物や財産をすり減らす意味にな り、転じて無茶苦茶の意味になったようだ。 「地方別方言語源辞典」には、山梨、長野、新潟の方言として載っていた。 広島でも使うようなので、かなり広い地域で使われているようだ。 余談: 北海道の竹製のブラシを前に付けた除雪用車両は「ささら電車」と 呼ばれている。なお、ささらの竹は、昔は山口県福栄村(現萩市)の孟宗竹 が使われていたようだ。
○ 732	さしくり	仕事の段取り。都合をつけること。 漢字は「差し繰り」。

No.	見出し	説明
○ 733	さしくる (差し繰る)	①[予定を何とか都合つける。くりあわせる。] ②自分に都合よくする。ごまかす。権謀術数を弄する。 ①は標準語の使い方、②の時は山口弁の使い方。 例: 何とか差し繰って行こうかの一。 (何とか都合を付けて行きましようか。) 例: あいつぁー、なんかちゃー、さしくるいの一。 (あいつは、いつも、自分の都合が良いようにするよね。)
734	～さった (～さいた) (～さえた)	～された。 「された」の音便。「来なされた」が「来された」になり、「来さった」になる。「しなされた」は「しされた」になり、「しさった」となる。この「さった」は敬語。「来さいた」、「しさいた」、「来さえた」、「しさえた」とも言う。昔は使っていたが、今はほとんど使わなくなった。【「～さいる(～さえる)」参照】 例: お父さんが迎えに来さったよ。 (お父さんが迎えに来なされたよ。) 例: あっち一行きさいたか。 (あっちへ行きなされたか。)
735	さで (さぜ)	①すごく。②沢山。 動詞の意味内容を強調する副詞。「さぜ」とも言う。もっと強調する時は「さでくり」になる。ただし、接続する動詞は限られており、「投げる」、「捨てる」、「落とす」、「倒す」、「入れる」、「出す」といった、物を移動する動作の動詞に接続する傾向が強い。他には、「さで開ける」、「さで広げる」、「さで集める」、「さで食う」、「さでかやす(ひっくり返す)」、「さでかやる(ひっくり返る)」、「さでこかす(転がす)」、「さでこける(転ぶ)」等がある。 「掻き集める」ことを山口弁で「さでる(さぜる)」と言うので、これが名詞化したものと言う説と、元々は名詞で、「さで(叉手)」は「掬(すく)い網」のこと。二本の竹を交差させるか、竹などで輪を作って、これに網を張ったもの。「さで」ですくうように沢山「投げる」から「さで投げる」になったと言う説がある。 元々は「さぜ」で、「ザ・ゼ・ゾ」が「ダ・デ・ド」になる山口弁の音韻変化で「さで」になり、この方が広まり、「さで(叉手)」の説明が出来たかも? 【「さでこむ(さぜこむ)」、「さでしてる」、「さでだす」、「さでる」、「じょーに」、「ちち」、「つち」、「とり」、「ばり」、「ぶち」参照】 例: これはいらんから、さで捨(し)てた。《「さですてた」とも言う》 (これはいらんから、一遍に捨てた。) 例: どおーかー、さであるの一。(どうかね、沢山あるなあ。) 例: 《腹が立ったから》 いるもんいらんもんかんけーなしに、さでくりしてたいね。 (要る要らない関係なしに、放り捨てたよ。)
736	さでこむ (さぜこむ)	入れるの強調。かき集めて、取り込むこと。 「探(さがし)」の「さ」と「狭(せばめる)」の「せ」を合わせた言葉。多く詰め込むことを「さぜこむ」。これから「さでこむ」に変化したと言う説と、「さで(叉手)」は「掬(すく)い網」のことで、「さで」ですくうように沢山放り「込む」から「さでこむ」との二説あり。反対は「さでしてる」。これも、「さぜ」から「さで」になり、「さで(叉手)」の説明が生まれたのかも? 【「さで」、「さでる」参照】 例: いっぺんに運ばんにゃあーいけんから、さでこんだいや。 (一度に運ばないといけないから、一度に放り込んだよ。)

No.	見出し	説明
737	さでしてる	捨てるの強調。投げ捨てること。 火に投じるのは「さでくべる」。放り出すのは「さでだす」、「さでくりだす」。反対は「さでこむ」。【「さでだす」参照】 例：ちゃんと、箱になおしちゃん、さでしてるよ。 (ちゃんと、箱に片付けないと、放り捨てるよ!)
738	さでだす (さでくりだす)	放り出す。 萩市の田町商店街には、方言ののぼりが掛けてある。その中に「さでくりだす」があった。周南は「さでだす」が優勢だが、萩は「さでくりだす」が優勢か? 【「さでしてる」参照】 例：いらんもな一さでだしーよ。(いらんものは全部放り出しなさいよ。)
739	さでる (さぜる)	①かき集める。②撫(な)でる。 「さぜる」とも言う。昔は主に②の意味で使っていたようだが、我々は使っていない。場所によっては「すくどをさでる(落ち松葉を集める)」から「さで」に意味の比重が移って、「落ち松葉」そのものを「さぜ」、「さで」と言う。 【「さで」、「すくず(すくど)」参照】 例：すくどをさでる。(落ち松葉をかき集める。) 例：《小豆の収穫後に殻や小さなカスを取り除く作業をする時に》 小豆の中のゴミをさでちよけ。 (小豆の中のゴミを集めて取り除いておきなさい。)
740	さな	こたつの格子。コンロ(七輪)の中底。 言い方は平板型。
○ 741	さね (実)(核)	果物の種。(植物) 「たね」は穀物の種子のこと。言い方は平板型。
742	さばけん	困る。思うようにならない。どうにもならない。 「魚をさばく」、「手綱をさばく」、「仕事をさばく」、「在庫をさばく」などの国語辞書にある「さばく(捌く)」ができないことを「さばけん」と言うが、その「さばけん」状態で陥る結果の「とても困った状態」も「さばけん」と言う。「山口なまり小唄」にも「さばけん(困る)」と載っている。 【資料の「県内の方言区分」参照】 例：《上手に物事を進めない人に対して》 そねーなことじゃー、さばけんの一。 (そんなことをしていたのでは、困るよ。)
743	サビエル	ザビエル。 山口県ではフランシスコ・ザビエルのことを「サビエル」と濁らないで言う。 山口市のカトリック教会は「山口サビエル記念聖堂」が正式名称。
744	さびる	穀物を箕(み)で振って風でくずを取り去ること。塵を除去すること。 標準語では「簸(ひ)る」。「さ」は接頭語。「さ簸(ひ)る」で「さびる」。
745	さぶけがする (寒気がする)	①寒気がする。悪寒(おかん)がする。②気味が悪い。 例：かじょーを引いたかの一。さぶけがするでようー。 (風邪を引いたかな。悪寒がするよ。) 例：あの目で見られたら、さぶけがする。 (あの目で見られたら、気味が悪い。) 余談：昔は秋が深まった時に寒くなったら、「さぶけがたつ」だったようだ。今頃は「さむーなったね」で済ましている?

No.	見出し	説明
746	さみー (さびー)	寒い。 「さむい」が「さみー」に、「さぶい」が「さびー」になった。 【「しゃむいしゃむい」、「ひよーなる」参照】 例：ぶっ <u>さみー</u> の一。(すごく寒いな。) 例：おお、 <u>さびー</u> 。(おお、寒い。) 注：前に子音を伴う連母音「ウイ」は概ね「イー」と発音されるが、「ウィ」と発音するところや人もある。よって、「寒い(サムイ)」は「サミー」「サムイ」、「さぶい(サブイ)」は「サビー」「サブィ」、「古い(フルイ)」は「フリー」「フルィ」、「悪い(ワルイ)」は「ワリー」「ワルィ」になる。 また、子音を伴わない連母音「ウイ」を「ウィー」と言う人もいる。よって、山口県の名物「外郎(ういろー)」は「ウィーロー」になる。【「わリー」参照】 余談：山口の「外郎」の原料は「わらび粉」。「米粉」で作る他の地域のものとは比べて、プリプリ感があるのが特徴。
747	さらばえる (浚ばえる)	かき集める。海底や川底などをさらう。 例：残り物をさらばえて帰った。(残り物を全部集めて持って帰った。)
748	～さん	～しなさい。 親しみを込めた命令形。「～さんす」と言う言葉の命令形「～さんせ」の「せ」が脱落した言い方。軽い敬意を表す。「～さんす」は江戸時代の遊女言葉で、江戸時代後期には男性も使いだした。「～やんす」、「～やんせ」、「～やん」も同じ言い方。「いにさん(帰りなさい)」、「くれさん(下さい)」、「先にねさん(先に寝なさい)」のように使う。【「いいさい(いいさん)」、「いいさんな」、「いにさい」、「くれまい」、「～さんせ」参照】 例：早よー(はよー)行きさん。(早く行きなさい。) 例：もう、8時よ。起きんさんよ。(もう、8時よ。起きなさいよ。) 例：あんたー、これ位はやりさんよ。(あなた、これ位はやりなさいよ。)
749	さんかくのり (三角乗り)	大人用の自転車に子供が乗る方法。 サドルに腰掛けられないので、ハンドルを持って、三角のフレームの間に片足を突っ込んで、ペダルに足を掛けて、自転車を斜めにして乗る方法。「よこのり」とも言う。方言と言うより時代語か？【「よこのり(横乗り)」参照】
750	さんしの みつつ	いちにのさん。 【「さんの一がはい」参照】 例：さんしのみつつで、走るどおー。(いちにのさんで、走るぞ。)
751	さんじょうがき	西条柿。(果物)
752	さんずい	お酒。
753	～さんせー	～さいませ。 敬語。文語の「させ」の音便的变化。「来いさんせー(来なさいませ)」、「くれさんせー(下さい)」、「つかあさんせー(下さい)」、「しいさんせー(しさいませ)」の様に使う。「～さんせー」が「～さんへー」になることもある。【「いきんさんへー」、「～さん」、「～つかあさんへー」、「～ない」、「～は一れ」参照】 例：《金物屋でお客さんが》 ちいーさあーくぎょー、ひとつかみほど、つかあさんせー。 (小さい釘を、一掴みほど、下さい。) 余談：昔は釘樽が並んでいて、釘は量り売りだった。量った後、新聞紙にくるんでお客さんに渡す。

No.	見出し	説明
○ 754	さんだん (算段)	工面(くめん)する。探す。 昔は「①工面する。探す。②さんさんの悪口。③詮議をする。」の3つの使い方があったようだが、今は①の意味でしか使わない。②③は使わない。 例:もっと算段せんと足らんよ。(もっと工面しないと足らないよ。)
755	さんどまめ	さや隠元。隠元豆。(野菜) KRYのラジオで元防府図書館長の森川さん談。一度植えたら三度収穫できるので、この名前がついたようだ。西地区(湯野)や県東部(田布施)で使う。岩国、周防大島、柳井、周東、防府、須佐、下関の方言集に載っている。昔は各地で言われていたようだ。 【「とうまめ」、番外の「野菜の呼び名」参照】
756	～さんな	～してはいけない。 【「いいさんな」、「いいともしいさんな」、「きいさんな(きさんな)」、「しいさんな」参照】 例:は一、行きさんなよ。(もう、行ってはいけないよ。) 例:そねーに、いばりーさんな。(そんなに威張るなよ。) 例:そねーなことーいいさんな。(そんなことを言わないのよ。)
○ 757	さんによう (算用)	計算。 「算用(さんよう)」が連声(れんじょう)で、「さんによう」になった。計算高い人のことを「さんにようし」と言う。 例:さんにようが合わんのう。(計算が合わないなあ。) 例:さんにように合わんことをするな。(得にならないことをするな。)
758	さんの一がはい	いちにのさん。 今頃の言い方なら、「ハイ、チーズ」か。写真を撮る時に言った。 【「さんしのみつつ」参照】 余談:福岡県では掛け声の主流が「さんの一が一はい!」らしい。
759	～し	①「～をよくする人」の意。 特徴のある言葉の後に付けて用いる。 ②「～達」の意味。 「衆」の転か? 【「ええかつこし」、「おとこし」、「おなごし」、「こんなし」、「さんによう」、「じまんし」、「だてし」、「まねし」参照】 例:あんたは、遠慮しじゃねー。(あなたは、良く遠慮する人だね。) 例:あの人(あの人)は算用(さんによう)しじゃなー。 (あの人(あの人)は計算高い人だから。) 例:こどもしはあっち側よ。(子供達はあちら側よ。)
760	しあさって	あさっての翌日(明明後日)。 西日本での言い方。「し」は「四」で、今日が「一」、明日が「二」、あさってが「三」、よって、その次の日だから「し(四)あさって」、その次は「ご(五)あさって」となる。東日本では「やのあさって」。ただし、東京都区内では「しあさって」、岐阜、三重、北陸の一部、九州南端では「さあさって(ささって)」と言う。 「やのあさって」の「や」は「弥」で「たくさん、さらに」の意味、「さあさって」の「さ」は「再」で「次の」の意味。「さ+あさって」をつづめて、「ささって」とも言うようだ。ちなみに、明明後日を「やのあさって」、「さあさって」と言う地域では、その次の日を「しあさって」と言うようだ。【「おとつい」、「きによーのばん」、「ごあさって」、番外の「東西の違い」参照】

No.	見出し	説明
761	しあわせます (幸せます) (仕合わせ ます)	①ありがたい。②助かります。③好都合であります。 お願いや感謝をする言葉の最後に使用。他力で成されることに対して使う。「何々して頂けると幸せます」と言う。手紙やメールの末尾文としても使う。標準語では「助かります」、「幸甚に存じます」か？ 書き言葉は「しあわせます」だが、話し言葉では「しやわせます」に近い言い方をする。「幸せます」は「幸せる」の連用形「幸わす」に丁寧の助動詞「ます」が付いた言い方。「ます」が付かない言い方も使う。 【話し言葉の言い方については「におーちよる」参照】 例：ほんに、しあわせますいーのんた。 (本当にありがたいですよ。) 例：こりょー、てつどーでもろーたら、しやわせますがのー。 (これを、手伝ってもらったら、助かりますがねー。) 例：あした一晴れてくれると、幸せるがのー。 (明日は晴れてくれると、都合が良いがなあ。) 例：ご多忙とは存じますが、多数ご参加頂ければ幸せます。 (ご多忙とは存じますが、多数ご参加頂ければ幸いです。) 余談1：「幸せ」の語源は「為合わす」で成り行きとかめぐり合わせの意味で、昔は「良い幸せ」とか「悪い幸せ」のように良い悪い両方に使っていたが、今は良い方が定着している。 余談2：出雲地方は「喜びます」と言うらしい。
762	しーさい (しーさん)	しなさい。 「しんさい」、「しんさん」とも言う。丁寧と言う時は、「しーさんせー」。「するな」の時は、「しいさんな」。強く命令して言う時は「<u>しー</u>さい」。 【「～さい」、「～さん」、「～さんな」参照】 例：はよー、しーさいよ。(早く、しなさいよ。) 例：こりょー、しーさいや。 (これを、しなさいよ。)(これを、したらどう。)
763	しいさんな (しーさんな)	してはいけない。するな。 気短に言う時は「<u>しい</u>さんな」、悠長に言う時は「<u>しー</u>さんな」の感じあり。「しんさんな」とも言う。 【「いいさんな」、「いいどもしいさんなよ」、「～さんな」参照】 例：あぶないこたー、しいさんなよ。(危ない事は、するなよ。)
764	しいら (しーら)	実のない米麦等。屑。(穀物) 「しいな(秕、秕)」のこと。「しいら米(まい)」と言う。【「まんさく」参照】
765	しーろく	退く。後ろに下がる。 押し除けることを、「しろのける」、「しろのく」と言う。「しーろけ」は「そこを除(の)け」、「退(しりぞ)け」のこと。テレビの前に人がいて邪魔になる時は「しーろきさん(後ろに下がちなさい)」。「さん」は丁寧な命令形。 聞いたことがある程度で、今はほとんど使わない。 【「～さん」、「どきやーがれ」参照】
766	しいをする (尿をする) (しーをする) (しーする)	小便をする。(幼児語) 「うーんをする」は「大便をする」になる。 【「ささげる」、「ばる」、番外の「幼児語」参照】 例：はい、しーをするんよ。(はい、おしっこをするのよ。) 例：ささげて、しーをさせんさい。 (両手で抱えて、おしっこをさせなさい。)

No.	見出し	説明
○ 767	じか (直)(ぢか)	直接。 目の前の盛り合わせの皿から直接、自分の箸でものを取るのは「じかばし(直箸)」。 例:じかに、火に当てる。(直接、火を当てる。)
768	じがじがする (じかじかする)	①ちくちくする。むずがゆくて、ちくちくする。 ②ちくちくする。とげが刺さって、ちくちくする。 ③ちくちくする。虫に刺されて、痛痒い(いたがゆい)。 ①は散髪した後などに、シャツの中に毛が入って、ちょっとちくちくするような時に言う。東地区(下松)や西地区(湯野)は「じがじが」、西地区(福川)は「じかじか」なので、地域により言い方に偏りがあるようだ。言い方は平板式である。 ②言い方は「じかじかする」。KRYテレビの山口弁コーナーで紹介していたので収録した。須佐の方言集には「とげなどが触れてちくちく痛む」とあったので、同じ使い方である。周南ではこの使い方はしないかな? ③東地区(室積)で使う。言い方は「じがじが」で「じかじか」ではない。 【「いがいが」、「はしかいー」参照】 例:せなが、じがじがする。なんか毛がついちよるんかのー。 (背中が、むずがゆくてちくちくする。 何か毛が付いているのかな。) 例:《栗拾いの最中に》 栗がさでくり落ちて来た。頭がじかじかする。 (栗が沢山落ちて来た。頭がちくちく痛む。)
769	じかばき (直履き)	普段用の下駄、草履など。 「じか(ぢか)」は「履こうとしたら直ぐ」の意味。標準語で使う、素足で直接、靴、下駄を履くことではない。行為でなく、履物のこと。 【「にわばき」参照】
770	しかまえ (仕構)	①準備。用意。②ご馳走。(お客を呼んだ時) 本来は「準備」や「用意」の意味で使うが、御膳を出して、お客を前にしての挨拶で、「なんのしかまえもありませんが・・・」のように使うので、「ご馳走」の意味にも使われる。
771	じきのまに (直の間に)	たちどころに。間もなく。 例:船がぶつかって、じきのまに沈んでもうた。 (船がぶつかって、直ぐに沈んでしまった。)
○ 772	しきび	しきみ。仏様に供える柴。(植物) 東地区で使用。西地区は「はなしば」。【「はなしば」参照】
○ 773	じげ (地下) (治下)	地元。 「ぢげ」とも書く。元々は司支配の村々のことを「治下(じげ)」と言ったためにできた名前らしい。普通は「地下(じげ)」の字を使う。 「じげのもん」、「じげの人」は「地元の人」。「ところのもん」とも言う。反対は「よそもん(余所者)」。 例:あんたー、じげのもんかいのー。(あなたは、地元の人ですか。)
774	しける	弱る。衰弱する。 当然、「湿気る」、「時化る」の標準語の意味でも使う。【「しとる」参照】 例:うじが付いて、苗がしけたのー。 (害虫が付いて、苗が弱ったな。)

No.	見出し	説明
775	しごーする (しごをする) (しごーせる)	①処置。始末。手入れ。 料理などの下拵え(したごしらえ)をすること。畑の手入れ等をすること。嘔吐物(おうとぶつ)などの始末をすること。 ②懲(こ)らしめ。 聞き分けのない子供を叱るときに使う。 「しご」は①「為事(しごと)」、「仕事」の略か、②行為を意味する「為」に接尾語の「こ」をつけて、字をあてるとすると「為子」、それに④「しこう(趣向)：用意、準備、したく」に由来するとの三説あり。山口弁の正調は「しごーせる」だが、今頃は「しごーする」の言い方が多くなっている気がする？ 【「しごにならん」、「せる」、「てごにおえん」参照】 例：魚のしごーしちゃんにやー。 (魚のはらわたを出しておかないとー。) 例：今から、畑のしごーせてくる。 (今から、畑の手入れをしてくる。) 例：ゆーことを聞かんと、しごーせるでよ。 (言うことを聞かないと、懲らしめるよ。) 例：あのしごたー、しごーされたいや。 (あの仕事には、えらい目にあわされたよ。) 例：おっ、最初からしごーされよのっ。 (おっ、最初からしごかれているな。)
776	しこったま	しこたま。沢山。 「醜溜(しこたま)」または、「繁溜(しきたま)」が語源。不正な貯蓄をすることから、「わるだめ」のことを「しこたま」と言う。周南では「しこ」と「たま」の間に「っ」が入ることが多い。【「どさな」参照】
777	しごにならん (しごんならん) (しごにおえん)	①手に負えない。始末に負えない。②油断がならない。 ①「しごをしても(懲らしめても)利かない」から「しごにならん」。「しごにおえん」とも言う。我々はこの言い方は使っていないが、「てごにおえん」との比較で収録した。 ②「油断がならない」のも「しごにならん」と昔は言っていたようだが、今では絶滅危惧種か？ それとも絶滅したか？ 【「うでっこうにあわん」、「しごーする」、「てごにおえん」参照】
778	しこる	茂る。はびこる。 西地区で使用。 例：枝がしこった。(枝が茂った。)
779	ししらさむい (ししらさみー) (ししらさぶい) (ししらさびー)	肌寒い。何となく寒い。 ちょっと冷えた時に使う。元は「せせりさむい」で肌をせせるような感じで言った言葉が訛ったと思われる。秋の初めに冷えた時や春先の寒の戻りの時などに良く使う。言い方としては「さむい」が「さみー、さぶい、さびー」になることもある。 語源に関して、森川さんの説は、「しし」は「四肢(両手両足)」で、万葉の時代から使われていて「肌」の意味も含まれている。「ら」は「等」。寒いと両手両足をさする動作と結びついている気がするとのこと。広島、愛媛、大分、青森の津軽でも使われている。 例：今日はちょっと、ししらさむいねー。 (今日はちょっと、肌寒いね。)

No.	見出し	説明
780	～(し)たー (～(し)てー)	～(し)たい。 連母音「アイ」は普通「アエー」か「アー」と発音される。よって、「～(し)たい」は「～(し)たえー」か「～(し)たー」。「たえー」が訛って「てー」になると、「～(し)てー」になる。 【「あかー」、「こまい」参照】 例：ああ、ねむたーのー。 （ああ、眠たいなあ。） 例：せながかーいから、搔きてーが手がたわんから搔けん。 （背中がかゆいから、搔きたいが手が届かないから搔けない。）
781	したじ (下地)	下の階。 例えば、2階にいる時に1階のことを言う。また、ただ単に足元のことにも使う。当然、国語辞書に載っている本来の「素質」や「前の準備」の意味にも使う。
782	したる (すたる) (ひたる)	①物が落ちる。 ②なくなる。 「捨たる」か？「すたる」とも言う。今はあまり聞かないが「ひたる」と言う人もいる。 【「してる」、「ひたる」、「ひてる」参照】 例：道にこれがしたっちゃたよ。 （道にこれが落ちていたよ。）
783	しったげにする (知った気に する)	知らないのに、知った振りをする。知った風をする。 例：《知らないのがばれた時》 まあ、ようしったげにしちよたね。 （まあ、よく知った振りをしていたね。）
784	しっぺいぐち (竹篋口) (しっぺーぐち)	への字口。 「しっぺ」の元の言葉の「しっぺい(竹篋)」のように、口をぐっと強く結んだ状態のことを言う。 注1：「しっぺ」とは、「しっぺい」の転。人差し指と中指を揃えて相手の手首の辺りを打つこと。 注2：「しっぺい(竹篋)」とは、禅宗で修行者を打って戒めるのに使う具。竹の長いへらと思えば良い。先が少し曲がっているので「への字」に見える。
785	しっぽがながい (尻尾が 長い)	戸を開けたままで閉めない人に言う言葉。 尻尾が長いから戸が閉められないと言う理由。韓国の慣用表現が日本で使われている例。韓国では悪事を続ける意味にも使うようだ。 【「しりぬけ」、「たてる」、「ちんぐー」、「ぱーぷー」参照】 例：《戸を閉めない人に向かって》 どうかー、しっぽが長いー。 （どうか、ちゃんと閉めろよ。） 例：《戸が開けっぱなしになっている時に》 だれかー、しっぽのながーやつがおるのー。 （誰だ、戸を開けていないのは。）

No.	見出し	説明
786	～(して) あげんさい (～(して) やりんさい)	「～(して)差し上げなさい」の意。 自分より年上の人に対しての行動を指示する時に使う。反対に年下の人に対しての行動指示は、「～(して)やりんさい(～(して)やりなさい)」。 【「～ちゃげる」、「～ちよる」「～ちよく」「～ちやる」「～ちゃれ」「～ちよけ」、「～んさい」参照】 例：《お年寄りが荷物を持っておられるのを見て若い者に》 あの荷物を持ってあげんさい。 (あの荷物を持って差し上げなさい。) 例：《上の例の変形》 あの荷物を持っちゃげんさい。 (あの荷物を持って上げなさい。) 例：《子供が沢山の荷物を持っているのを見て》 あの荷物を持ってやりんさい。 (あの荷物を持ってやりなさい。) 例：《上の例の変形》 あの荷物を持っちゃりんさい。 (あの荷物を持ってやりなさい。)
787	～(して) しも一た	～(して)しまった。 「～(して)しまう」が「～(して)しもう」、過去形の「～(して)しまった」が「～(して)しも一た」になるが、「～(して)しもう」の方はあまり使わない。瀬戸内海沿岸はこの言い方が多い。ただし、新潟県でも使うようだ。 【「しも一た」参照】 例：泣いてしも一たいね。(泣いてしまったよ。) 余談：「県別方言感情表現辞典」にあった各県の言い方は、 「泣いてしも一たわいね」(広島)、「泣いてしも一たがー」(岡山)、 「泣いてしも一た」(愛媛、香川、京都)、「泣いてしも一たわ」(徳島)、 「泣いてしも一たばい」(福岡)、「泣いてしも一たわい」(新潟)、 となっていた。 なお、山口の他の言い方としては、以下の二例もあった。 「泣いてしも一たんよ」、「泣いてしも一たっちゃ」(山口)。
788	してる (ひてる)	①捨てる。②紛失する。なくす。落とす。 注：方言地図では山口県は標準語形の「すてる」と言うことになっているが、「してる」も良く使う。「ひてる」になることもある。 【「したる」、「とりすてる」、「ひたる」、「ひてる」参照】 例：こりゃー、もういらんからしてよう。 (これは、もういらんから捨てよう。) 例：これは大事なもんじゃけー、してちゃーいけんよ。 (これは大事な物だから、失くしてはいけないうよ。)
789	～(し)と一ない	～(し)たくない。 「たくなし」の音便。反対の言い方は「～(し)と一なる」。 【「いと一ない」、「～(し)と一なる」、「～(し)と一もない」参照】 例：「いと一ない(痛くない)」、「行きと一ない(行きたくない)」、 「きと一ない(来たくない)」、「帰りと一ない(帰りたくない)」、 「起きと一ない(起きたくない)」、「ねむと一ない(眠たくない)」、 「しと一ない(したくない)」、「せと一ない(したくない)」、 「やりと一ない(やりたくない)」等。 例：いま一食べと一ない。(今は食べたくない。)

No.	見出し	説明
790	～(し)とーなる	～(し)たくなる。 「たくなる」の音便。反対の言い方は「～(し)とーない」。 【「いとーない」、「～(し)とーない」、「～(し)とーもない」参照】 例：「ねむとーなる(眠たくなる)」、 「ねむとーなった(眠たくなった)」、 「いとーなる(痛くなる)」、「いとーなった(痛くなった)」、 「かきとーなる(書きたくなる)(掻きたくなる)」、 「かきとーなった(描きたくなった)」、 「しとーなる(したくなる)」、「せとーなった(したくなった)」等。
791	～(し)とーもない	～(し)たくもない。 「たくもない」の音便。「～(し)ともない」とつづめて言う時もある。 【「～(し)とーない」、「～(し)とーなる」参照】 例：こねーなもなー、食べとーもないでよ。 (こんなものは、食べたくもないよ。) 例：あねーなとこにゃー、行きとーもない。 (あんなところには、行きたくもない。) 例：そねーなこたーせとーもない。 (そんなことはしたくもない。)
792	～しとりんさい	～していなさい。 「～している」よりやさしい言い方。「ゆーに、しとりんさい(ゆつくりして、いなさい)」、「じっと、しとりんさいよ(じっと、していてね)」のような使い方をする。 「しとりんさい」は「せとりんさい」とも言う。
○ 793	しとる (湿る)	湿る(しめる)。湿気る(しける)。 国語辞書に載っている言葉だが、最近では使われなくなっている。下記の煎餅の例も「しつけちよる」や「しけちちよる」の方が良く使われるかも？ 【「しける」、「しとれ」参照】 例：このせんべーは、しとちよるでー。 (この煎餅は、湿気っているよ。) 例：《梅雨に》いえんなかが、しとってやれん。 (家の中が、湿って困る。)
794	～しとる	～した。～している。 【詳しくは「『～しよる』と『～しとる』」参照】
795	しとれ	みぞれ(霰)。 大正、昭和初期生まれの90代以上の親世代が使っていた。我々は「みぞれ」しか使っていない。【「しとる」参照】
796	～しな	～の途中。～の時。～の際。～のついでに。～掛け。 「しな」は「しだ(…する時)」の転音で「時」の意。現状では標準語だが、使われなくなっているの、方言化しつつあるようだ。言い方は「いきしな」、「かえりしな」、「ねしな」。但し、今頃は平板式に言うことも多い。 【「いきしな」、「いにしな」、「おりしな」、「かえりしな」、「もどりしな」参照】 例：「行きしな(行く時)」、「帰りしな(帰る途中)」、 「もどりしな(帰る時)」、「来しな(来る時)」、 「入りしな(入った時)」、「切りしな(切る時)」、 「寝しな(寝る時)」等。 例：出しなに、ぶつかった。(出た時に、ぶつかった。)

No.	見出し	説明
797	～しない	～しなさい。～やりなさい。 命令する時に使う。当然、「やらない」の意味でも使う。【「～ない」参照】 例：早よーしない。(早くしなさい。)
○ 798	しにくい (為難い)	することが難しい。やりにくい。 例：こりゃー、しにくいねー。(これは、やりにくいね。)
○ 799	しばく	平手で打つ、殴る。叩く。[棒で殴る。] ひどく平手打ちする時は「しばきあげる」、それが連続する時や、よりひどく打つ時は「しばき回す」と言う。棒で打つ時も「しばく」だが、これは標準語。「撓る(しわる)」に語尾「く」が付いた「しわく」からできた言葉と言う説があるように、元々は細い棒などでたたくことが「しばく」だったのか？今は、どちらかと言うと、平手でたたくと「しばく」だが、拳固でなぐるのは「しばく」とは言わない。「どやす」を使う。「撓る(しなる)」動作がないと「しばく」にならない気がする？ 例：お父さんが勉強せんゆうて、あたまあーしばいた。 (お父さんが勉強をしないと行って、頭をぶった。)
800	しばなえる (しばなえる) (しなばえる)	しおれる。しなびる。 植物がしぼんで、萎えることを「しばなえる」、「しばなえる」、または、「しなばえる」と言う。東部でも使っていたようだが、主に県中央部から西の方言と思われる。小野田や下関、豊浦では「しなばえる」が、使われるようだ。【「からびる」、「よれる」参照】
801	しびらかす	耐えきれないこと。 【「やれん」参照】 例：なによーゆうても、だまっちょるんじゃから、しびらかしたいね。 (何を言っても、黙っているんだから、堪らんかったよ。)
802	しぶり こぶり	渋々。いやいやながら。 東地区(笠戸島)で使う。
○ 803	じべた (地べた)	地面。 【「どべた」、「もと」参照】 例：じべたにじかに座ったら、汚れるけー、つまらんど。 (地面に直接座ったら、汚れるから、だめだよ。)
804	しまう (仕舞う)	①失敗する。 ②身体を壊す。健康をそこなう。 ①の意味では「しもーた」や「しまーかす」の言い方で良く使う。②は「腰をしまう(腰を痛める)」や「膝をしまう(膝を痛める)」などの使い方を良くする。当然、「～し終える」や「片付ける」意味の「しまう」も使うが、これは国語辞書にある。【「おう(会う)(合う)」、「しまわかす(しまーかす)」、「しもう」、「しもーた」参照】 例：《失敗すると思う時に》 そりゃー、やりしまうでよ。(それは、失敗すると思うよ。) 例：《重たいものを持とうとしている人に》 むりよーすると、こしょーしまうでね。 (無理をすると、腰を痛めるよ。) 例：酒ばかり飲みよったら、身体をしまうでね。 (酒ばかり飲んでいたら、身体を壊してしまふよ。)

No.	見出し	説明
805	します (しゅます)	浸透させる。浸(ひた)す。 【「しむ(しゅむ)」、「しゅむ」参照】 例：布に油をちよっとしましてから、道具を拭けーよ。 (布に油をちよっと浸透させてから、道具を拭きなさいよ。)
806	じまたい (じまたえ)	①倏約するさま。②実直な。③けち。 地域によって、また人によって「倏約」の褒め言葉になったり、「けち」の侮蔑的な言い方になったりするようだ。 【「しまつめ」、「しんぼうにん」参照】
807	しまつめ	倏約。節約。 倏約、節約を良くする人の意味でも使う。「山口県方言辞典」には「『始末目よし』の意か」とある。「しまつ」は「始末」で、「しまつな」は「倏約な」、「しまつする」は「倏約する」の意。物を大切に、無駄遣いをしない人に対して、「しまつめがえー」と言う。反対は「しまつめがわりー」。 当然、「始末」は「片付ける、処理する」の意でも使う。「しまつがつかん」と言えば、「手に負えない、どうにもならない」の意。こちらの意で使う「しまつする」は「処理する」の意味になる。 【「じまたい」、「しんぼうにん」参照】 例：あのひたーしまつめがえーからねー。 (あの人は節約家だからね。) 例：日頃、しまつをしちよるけー、大丈夫。今日は、ぎばるよー。 (日頃、倏約をしているから、大丈夫。今日は、奮発するよ。)
808	～(し)ま ひょーや	「～(し)ましよう」の丁寧な言い方。 例：《作業をしていて暗くなって来たから》 もう、暮れるけー、おきまひょーや。 (もう、暮れるから、止めましよう。) 例：もう、時間が来たけー、しまいまひょーや。 (もう、止める時間が来たから、仕舞いましよう。)
809	しまわかす (しまーかす) (しまくらかす)	①失敗する。②困らかす。 過去形は「しまわかした」。「しまーかす」、「しまーかした(過去形)」、「しまくらかす」、「しまくらかした(過去形)」とも言う。①の時は「しもーた」も良く使う。【「しまう」、「しもーた」参照】 例：ありゃー、しまわかしたいね。(あれは失敗したよ。) 例：しまーかした。かぎょー忘れたいや。(失敗した。鍵を忘れたよ。) 例：わたしゃー、しまわかされたいね。(私は困らされたよ。)
810	じまんし	自慢をする人のこと。 身内の自慢話をよくする人を少し軽蔑して言う言葉。「我が子褒めるはイチのバカ」と言って、「じまんし」の最悪のケースとされた。 【「～し」参照】
○ 811	しみる (凍みる)	凍る。 「しむ(凍む)」の終止形。国語辞書には載っているが、今頃、使う人は少なくなっている。県内では「こごる(凝る)」、「こごなる」を使うところもある。宇部は「かんじる」。字は「寒じる」? 例：しみちよって、弱ったいね。(凍っていて、困ったよ。) 例：今、奥から出てきたんじゃけど、は一道路はしみちよったでー。 (今、山奥から出てきたけど、もう道路は凍っていたよ。)

No.	見出し	説明
812	しむ (しゅむ) (しゅみる)	しみる(染みる。滲みる。沁みる)こと。 言い方は「しゅむ」が一般的。「しむ」は「しみる」の古語。 【「します(しゅます)」、「しゅむ」参照】 例:この葉はしゅむの一。(この葉は《痛いくらいに》沁みるな一。)
813	しもう	仕舞う。片付ける。 【「しまう」、「なおす」、「のけとく」、「のける」参照】 例:もう、このおもちゃをしもうてよ。 (もう、このおもちゃを仕舞ってよ。) 例:へやんなかーしもわんにやー、帰れんよー。 (部屋の中を片付けないと、帰れないよ。)
814	しも一た	①失敗した。②仕舞った。終り。 終りになる意から、転じて、失敗の意味に使われるようになった。失敗と言っても大失敗でなく、惜しい失敗のような時に使う。①の時は「しまーかした」も良く使う。 また、「～(して)しまう」の過去形「～(して)しまった」も「～(して)しも一た」と言う。よって、「仕舞ってしまった」は「しも一てしも一た」となる。 それは、ワ行五段動詞連用形の活用語尾の促音「ッ」がウ音便化し、次に[au]が連母音融合して[o:]になるため、「しまった」→「しまうた」→「しも一た」、「しまって」→「しまうて」→「しも一て」となるから。 【「おう(会う)(合う)」、「おーめげ」、「～(して)しも一た」、「しまう」、「しまわかず」参照】 例:しも一た事をした。みんな取られたいやー。 (失敗した。みんな取られたよ。) 例:しも一たの一。おーきな魚を逃がしてしも一た。 (惜しかったな。大きな魚を逃がして仕舞った。) 例:今日はもうしも一たんよ。(今日はもう仕舞ったのよ。) 例:はあーみしゃーしも一てしも一たで。 (もう店は閉めてしまったよ。)(もう仕舞屋にしてしまったよ。) 例:何もせんずくに、休みが終わってしも一たいね。 (何もしないままで、休みが終わってしまったよ。)
815	～じゃ	①～だ。 言う人の判断や気持ちを表す。 後に「ね」を付けることで説得しようと言う気持ちを強くする。普通は短く「じゃ」であるが、断定的に言う時は「じゃー」と延ばして言うこともある。「である」の語尾「る」が脱落した「であ」の転。中世末期から、関西が「じゃ」、関東が「だ」。これも東西対決?【番外の「東西の違い」参照】 ②「～でしよう」の意味で使う時もある。 参考:標準語における形容動詞の「ダ活用」は、山口県方言では「ジャ活用」となる。断定(指定)の助動詞「だ」が、山口県においては「じゃ」になる。「静か」でその一例を示してみると、「静かじゃろ・う」(未然形)、「静かじゃつ・た」「静かじゃ・なえー」「静かで・あります」「静かに・あります」(連用形)、「静かじゃ」(終止形)、「静かな・とき」(連体形)、「静かなら」(仮定形)というような活用になる。 【「きれいな かった」、「～な」参照】 例:明日は、休みじゃ。(明日は、休みだ。) 例:わしはじゃね、納得できんのじゃ。(私はだね、納得できないのだ。) 例:まだ着きやすまーじゃ。(まだ着かないでしょう。)

No.	見出し	説明
816	じゃあ (～じゃあ)	それでは。～では。 「それじゃあ」は「それでは」。「ほれじゃあ」は「ほれでは(それでは)」。「のーじゃあ」の样になると「飲んで」が「飲みながら」の意味に少し変化する。 【「のむのむ」、「へじゃー」参照】 例:じゃあ、行きますか。(それでは、行きましょうか。) 例:のーじゃあ、話そうか。(飲みながら、話そうか。)
817	～しゃー (～りゃー)	～せば。～れば。(仮定形) 「話せば」が「はなしゃー」、「見たければ」が「みたけりゃー」になる。 【詳しくは「～りゃー(～しゃー)(～きゃー)(～やー)」参照】
818	しゃーせん (しゃーせん)	していない。する訳ない。しはしない。 今頃は「しゃーせん」の言い方が多いか? 自分の意思を示す「しはせぬ」の意。状況に応じて、過去の行動にも、未来の予測にも使う。 例:そねーなこたー、しゃーせんちゃー。 (そんなことは、していないよ。)(そんなことは、する訳ないよ。)
819	しゃーない	①仕方ない。仕様ない。②大丈夫。 ①の「仕方ない」の意味で使う時の言い方は「しゃー」を平板型に言って最後に下がる「しゃーない」。 「しようない」の訛った言い方。「しょーない」→「しゃーない」か? 【「～しょー」参照】 ②の「大丈夫」の言い方は「しゃー」を少し長めに上がり調子に言って最後に下がる「しゃあーない」。 「世話はない」の訛った言い方。山口弁は母音「ア」+助詞「ワ」は「アー」と発音されるので、「世話は(セワワ)」は「セワー」になる。そして子音内の母音「エ」+助詞「ワ」が「ヤー」になるので、「ワ」は助詞ではないが「セワ」が「シャー」になり、「せわはない(セワワナイ)」は「シャー」が少し長めの「シャーナイ」になる。 【「せわーない」、「そりゃーなにーいや」参照】 例:そりゃー、しゃーないで。(それは、仕方ないな。) 例:《大丈夫かと聞かれて》しゃーないっちゃ。(大丈夫だよ。)
820	～じゃーない	～ではない。 否定に使う。 例:そうじゃーないよ。(そうではないよ。)
821	～じゃーのーて (～じゃのーて)	～ではなくて。 否定に使う。 例:そうじゃのーて、こうやるんちゃ。(そうではなくて、こうやるのだよ。)
822	じゃが (～じゃが) (じゃがのー)	～だが。然し。 例:じゃがのー、わしはすかん。(だがねー、私は嫌いだ。) 例:わしゃー行くんじゃが、あんたー行かんのんか。 (私は行くのだが、あなたは行かないのか。)
823	じゃけえ (じゃから) (じゃけい) (じゃけん)	～だから。 「じゃから」、「じゃけい」、「じゃけん」とも言う。 【「～けえ」、「まいじゃけー」、「ほじゃから」参照】 例:《失敗した人に対して、それ見ろの意味があつて》 ほいじゃけえ、ゆうたじゃろうーがあー。 (それだから、言っただろうが。) 例:《理由を説明して、お願いする時に》 そーゆーことじゃから、よろしゅーたのんます。 (そう言うことだから、よろしく頼みます。) 例:秘密じゃけーね。(秘密だからね。)

No.	見出し	説明
824	じゃけど	だけど。ですけど。 ちょっと、丁寧に反駁(はんぱく)する時は「じゃけどですねえ」と言う。 例:《おいしいけど量が多いケーキを食べて》 これ、おいしいねー。じゃけど、量がおゆーない? (これ、おいしいね。だけど、量が多くない?)
825	～じゃげな	～だそうだ。 【「～げな」参照】 例:あの人が勝ったんじゃげな。(あの人が勝ったんだそうだ。)
826	～しゃげる	～してあげる。～したげる。 サ行五段動詞において「ちゃげる」の前の「し」が促音化した時に起きる音韻変化。「話しちゃげる」が「話っしゃげる」に、「見しちゃげる」が「見っしゃげる」になる。【「～ちゃげる」参照】
827	～じゃし	～も。 「じゃし」は、現代の標準語に直すと、全部を否定する意で用いられる係助詞の「も」に相当する。「じゃし」は付属語であるから単独で使われることはなく、普通「なん」、「だれ」、「どれ」、「どこ」など限られた語の下に付いて連語を形成し、後ろに打ち消しの表現を伴う。 【「なんじゃし」参照】 例:「なんじゃし、食べるもんがなえー(何も、食べる物が無い)」、 「だれじゃし、やりてがおらん(誰も、やる人がいない)」、 「どれじゃし、えーもんがなえー(どれも、良い物が無い)」、 「どこじゃし、いくとこがなえー(どこも、行く所が無い)」等。
828	しゃっしゃと	さっさと。手早く。速やかに。 【「ちゃっちゃと」参照】 例:《だらだらしてる子供に》しゃっしゃとーよ。(さっさとしなさいよ。)
829	～しゃった	①～なされた。～なさった。 ②～してやった。～してあった。 サ行五段動詞において「～ちゃった」の前の「し」が促音化した時に起きる音韻変化。【「～ちゃった」参照】 例:「せんせーが見っしゃった(先生が見なされた)」、 「あいつに見っしゃった(あいつに見せてやった)」、 「はー話っしゃった(もう話してあった)」等。
830	～じゃった	①～だった。 断定(指定)の助動詞「だ」は、「じゃ」になることが多い。 ②～なされた。～なさった。 ③～してやった。～してあった。 ②③は「～ちゃった」が濁音化したもの。 【「～じゃ」、「～ちゃった」参照】 例:あの頃は、毎晩、飲んでばかりじゃったのー。 (あの頃は、毎晩、飲んでばかりだったな。) 例:きのーは休みじゃった。(昨日は休みだった。) 例:えらい喜んじゃった。(大変喜びなされた。) 例:子供に本を読んじゃった。(子供に本を読んでやった。)
831	しゃばら	男まさりの女の人。 東地区(笠戸島)で使う。

No.	見出し	説明
832	シャベル (ショベル)	足を掛けて踏むことが出来る大きさの土を掘る道具。 英語で「shovel」。ただし、関東では「スコップ」と言うらしい。ただ、周南でも最近はこの大きさも「スコップ」と言う人は多い。JISに定義はないが、例示図形のシャベルはわかり肩で足を掛ける部分がある。主に土を掘る道具。「スコップ」と「東西」の比較のため、収録した。 【「スコップ」参照】
833	じゃまくる (邪魔くる) (じゃまーくる) (邪魔を繰る)	妨げる。 「邪魔くそ」は、邪魔をすること。また、その人。「邪魔くり」は「邪魔をする人」。言い方は「じゃまーくる」。 例:このかー人が仕事をしとりゃー、 来ちゃーじゃまーくるんちゃー。 (この子は人が仕事をしていると、来ては妨げるのよ。)
834	しゃむい しゃむい (しゃぶい しゃぶい)	寒い。(幼児語) 【「さみー(さびー)」、番外の「幼児語」参照】 例:《子供をあぐらの上に乗せて、着ているどてらで包みながら》 きょーは、しゃむいしゃむい。 (今日は、寒い寒い。)
○ 835	しゃりき (車力)	荷車。大八車。
836	～じゃろう	～でしょう。～だろう。 強く同意を求めるような時は、「～じゃろー」と伸ばさずに「～じゃろ!」と歯切れよく言う。どちらかと言うと男言葉か。【「～ろー」参照】 例:今日は晴れじゃろう。 (今日は晴れでしょう。) 例:そーじゃろ! (そうだろ!)
○ 837	しゃんしゃん	しゃんとしている。しっかりしていて気が利く。素早くやる。能率がよい。 鈴の音色や多人数で手締めをする音、丈夫でよく立ち働くさま、湯が沸き立つ様の意味で使う時は標準語で、言い方は「しゃん <u>しゃん</u> 」。山口弁の言い方は「 <u>しゃん</u> しゃん」。 なお、「しゃんしゃんしとる」や「しゃんしゃんしちよる」の言い方の時は、「知らん顔をしている」の意味で使う時もある。 例:あの人は、しゃんしゃんしとる。 (あの人は手際よく物事を進める。) 例:しゃんしゃんせーやー。 (もっと早くしろ!) 例:《関係があるのに》 他人事みたいにゆーてから。しゃんしゃんしとるでよー。 (他人事みたいに言ってから。すずしい顔をしているよ。)
838	しゃんとこべー (しゃんとき)	①しっかり者。 ②はきはきしている人。さっぱりとした人。 主として、「しゃんとした人」の意味で、特に女性に対して褒め言葉として使うが、東地区(笠戸島)では、しっかり者だが、ちょっと気難しい人に対して使う。東部の玖珂や伊陸では「しゃんとき」、「しゃんときー」とも言う。 【「しゃんとする」参照】

No.	見出し	説明
○ 839	しゃんとする (しゃんとせる)	すっきりする。さっぱりする。 国語辞書にある「姿勢を正してきちんとしているさま」、「内容や態度が整っていてあいまいなところがないさま」の意味にも使うが、転じて、汗をかいた後に、水を浴びたり、風呂に入ってすっきりした時にも使う。反対は「しゃんとせん(すっきりしない)」。風邪がなかなか治らない時などに使う。山口弁の正調の言い方は「しゃんとせる」。 【「しゃんとこべー」、「せる」参照】 例：《汚れた作業の後に、風呂から上がって》 あー、これでしゃんとしたでよー。 (あー、これですっきりしたよ。) 例：あのひたーしゃんとした人いね。 (あの人はさっぱりとした性格の人だよ。) 例：《風邪を引いて長引いている時に》 なかなか、しゃんとせんの一。 (なかなか、すっきりと治らないね。)
840	じゅうがええ (じゅうがええ)	①便利。 ②具合が良い。使い勝手が良い。 言い方は「十(じゅう)；10」に似ている。「自由」が訛ったもの。反対は「ふじゅう」、「じゅうがわるい」。 同じような言い方に「ぐつがええ」、「ぐつがわりー」があるが、これは日程の都合や身体や服の具合の良し悪しに使い、便利か不便かと言う時に、「じゅう」を使う。「便利になった」は「じゅうがよーなった」。 【「ぐつが悪い」、「じゅうがわりー」参照】 例：コンビニが近くにできたけー、 じゅうがよーなつたいの一。 (コンビニが近くにできたから、便利になりましたよ。) 例：ひよーなつたけえー、チョッキがあるとじゅうがええ。 (寒くなったから、チョッキがあると具合が良い。)
841	じゅうがわりー	①不便。 ②具合が悪い。使い勝手が良くない。 【「ぐつが悪い」、「じゅうがええ」参照】 例：いなかー車が無いと、 なによーせるにもじゅーがわりーいーね。 (田舎は車が無いと、何をするにも不便だよな。) 例：こりゃーなんか。じゅーがわりー道具じゃの一。 (これは何だ。使い勝手が悪い道具だなあ。)
842	じゅうだま (りゅうのひげ)	じゃのひげ(蛇の鬚)。その実。(植物) 言い方は「じゅーだま」。「銃玉」か? 「じゅじゅだま」(阿武、玖珂)や「じゅずだま」(厚狭)と言う地方もあるので、「数珠玉」の変化かも? 「竜のひげ」が、正式名称と思っていたが、「山口県の植物方言集覧」によると、これも方言だった。 他には「じいなめ」(都濃、徳山、下松)、「じゅうだん」(都濃、新南陽、大島)、「せんりょうもも」(徳山、光)、「たきのひげ」(都濃)、「ふくふくだま」(柳井)、「りゅうだま」(岩国)などの呼び名もあったようだ。 【「りゅうのひげ」参照】

No.	見出し	説明
843	～しゅーて	～しくて。 「忙しくて」は「いそがしゅーて」、「楽しくて」は「たのしゅーて」、「寂しくて」は「さびしゅーて」のようになる。 例：いそがしゅーてから、はあーやれんにーね。 （忙しくて、もうたまらないよ。） 注：形容詞の連用形活用語尾「ク」がウ音便化する。「シク」は「シュー」と発音されるので「忙しく（インガシク）」は「インガシュー」になる。 【「おーきゅーなる」参照】
844	～しゅーない	～しくない。 「美味しくない」は「おいしゅーない」、「楽しくない」は「たのしゅーない」、「うれしくない」は「うれしゅーない」のように使う。 【「おーきゅーなる」参照】 例：こりゃー、おいしゅーないでー。（これは美味しくないよ。）
845	しゅき (ちゅき)	好き。(幼児語) 「しゅきしゅき」や「ちゅきちゅき」のように続けて言うことも多い。 【番外の「幼児語」参照】
846	シュッポッポ (シュツシュッポッポ) (ポー)	汽車。(幼児語) 全国的には「ポッポ」、「ポッポー」だが、我々は蒸気が出る時の音を入れた「シュッポッポ」や「シュツシュッポッポ」を良く使っていた気がする。「汽車」自体が「SL」と言う名称になっている時代に、いつまで残れる言葉か？ 【番外の「幼児語」参照】
847	しゅむ	①鼻をかむこと。 「鼻をしゅむ」と使う。 ②沁みること。 ①は濁りや汚れを取り除く「すむ」が「しゅむ」になった。②は「しみる」の古語「しむ」の変化で、元々は違うもの。 【「します(しゅます)」、「しむ(しゅむ)」参照】 例：塵(ちり)紙で、はなーしゅんだら、てーあろーちよきーよ。 （ティッシュで鼻をかんだら、手を洗っておきなさいよ。） 例：かじょーひーたから、朝から、はなーしゅみつめちよる。 （風邪を引いたから、朝から、ずっと鼻をかんでいる。） 例：《傷口に》赤チンをつけたら、しゅんだいヤー。 （赤チンをつけたら、沁みたよ。）
848	しゅんじよる	「しみこんでいる」の意。 「～じよる」は「～ちよる」の変形。【『～じよる』、・・・参照】 例：この大根はよう味がしゅんじよるのー。 （この大根は味が良くしみ込んでいるなあ。）
849	シュンする	鼻をかむ。(幼児語) 【「しゅむ」、番外の「幼児語」参照】 例：《ティッシュを子供の鼻に当てて》 はい、シュンしさい。（はい、鼻をかみなさい。）
850	しょ (塩) (潮)	①塩。②潮。 連母音「イオ[io]」の間に半母音[j]が挿入されて、「イヨ[ijo]」と発音される。よって、「塩・潮(シオ)」は「ショ」になる。 【「ぐわえー」、「こうこ」、「におーちよる」参照】

No.	見出し	説明
851	しょうがええ	①性質が良い。 ②根気強い。忍耐力が強い。 「しょう」は「性」で、標準語である。①は県東部(周防大島)の使い方。②は県西部(阿知須)の使い方。①は標準語的で、②が方言的か? ②の使い方がKRYラジオで紹介されていたので、収録した。 例:しょうがええ子じゃね。 (性質が良い子だね。) 例:《夜遅くまで仕事をしっている時に》 あんたーしょうがええねー。(あなたは根気強いね。)
852	じょうかん (ええかん)	お風呂の温度が丁度良い状態。適温。 東地区(光)で使用。他の所では「ええかん」。【「ええかん」参照】
853	しょうねがない (性根が無い)	懲りない(こりない)。 何度も同じことを注意されることや、その人のことを言う。「しっかりした心(性根)がない」から、同じ間違いを繰り返す。よって、「懲りない人だ」となる。反対に注意されなくなったら、「性根に入った(いった)」、「性根が入った(はいった)」。 例:あいつあーしょうねがないからのー。 (あいつは懲りないやつだからなあ。)
854	～しょー	～しょう。 西日本は「しょー(ショー)」、東日本は「しょう(シヨー)」と発音する。これはサ行変格動詞の「せる(為る)」の未然形「セ」+推量・意志を表す助動詞「ヨー」が「ショー」と発音されるからである。「セヨー」の「エ」が脱落して、「ショー」になっている。 同じ音韻体系として、下一段動詞未然形の活用語尾母音「エ」+推量・意志を表す助動詞「ヨー」が「ヨー」と発音される。つまり、「見せよう(ミセヨー)」が「ミショー」になる。他には、「食べよう(タベヨー)」が「タビョー」、「出よう(デヨー)」が「デョー」「ジョー」、「晴れようか(ハレヨウカ)」が「ハリョーカ」などがある。【「せる」、「みょー」、「～ひょう」参照】 例:野球をしょーいや。(野球をしようよ。) 例:お菓子を、たびょーか。(お菓子を、食べようか。) 例:このみしゃー、はあーじょーで。(この店は、もう出ようや。) 例:もう、いにましようかね。(もう、帰りましようかね。)
855	しょーことなしに	仕方なしに。 例:しょーことなしに、やったんちゃー。 (仕方なしに、やったのだよ。)
856	じょーに	沢山。 「えーと」、「ようけ」、「さで」と同意語。「盛に」で「じょーに」になった説と、「剰」の字を「あまる」と読むから、「余るほど」の意味で「じょーに」と言うようになった説とがある。【「えーと」、「おーかましい」、「ごっつう」、「さで」、「どさな」、「ぶち」、「ようけ」参照】 例:人がじょーに來ちよった。 (人が沢山來ていた。) 例:じょーに<u>あしょー</u>かいた。 (沢山汗をかいた。) 【「あしょー」の発音については「かじょーひく」参照】

No.	見出し	説明
857	しょーもな	役に立たん。つまらん。 くだらない事を言われた後の返事。 【「しょーもない」、「やちもない」参照】 例：《面白い遊びをしたと自慢する人に対して、 その内容があまり面白そうでない時》 しょーもな。(つまらん。)
858	しょーもない	役に立たない。無益な。くだらない。 【「しょーもな」、「やちもない」参照】 例：しょーもないことばかりして! (役に立たないことばかりして!)
859	じょーり (じょうり)	草履。 今頃は、あまり使わないが、年配者は自然に口から出る時がある。
860	しょしゃ (所作)	しぐさ。振る舞い。 所作(しよさ)のこと。体裁の意味にも使う。 例：しょしゃのええ人じゃねー。 (しぐさの良い人だね。) 例：親子じゃから、しょしゃがにちよるのー。 (親子だから、仕種(しぐさ)が似ているなあ。)
861	しょっちよる	背負(しよ)っている。自惚れている。いい気になっている。 例：えらい、しょっちよるのー。 (かなり、自惚れているな。)
862	「～しよる」 「～しよく」 「～しゃる」 「～しゃれ」 「～しよけ」	「～ておる」「～ておく」「～てやる」「～てやれ」「～ておけ」。 サ行五段動詞において「～ちよる」「～ちよく」「～ちやる」「～ちやれ」「～ちよけ」の前の「し」が促音化した時に起きる音韻変化。 【『～じよる』『～じよく』…、「『～ちよる』『～ちよく』…」参照】 例：《「捜す」を並記すると、以下のようになる。》 「捜しちよる」→「捜っしよる(捜している)」 「捜しちよく」→「捜っしよく(捜しておく)」 「捜しちやる」→「捜っしゃる(捜してやる)」 「捜しちやれ」→「捜っしゃれ(捜してやれ)」 「捜しちよけ」→「捜っしよけ(捜しておけ)」等。
863	「～じよる」 「～じよく」 「～じゃる」 「～じゃれ」 「～じよけ」	「～ておる」「～ておく」「～てやる」「～てやれ」「～ておけ」。 ガ行、バ行、マ行五段活用とナ行変格活用の動詞に「～ちよる」「～ちよく」「～ちやる」「～ちやれ」「～ちよけ」が続くと「～じよる」「～じよく」「～じゃる」「～じゃれ」「～じよけ」になる。 【『～しよる』『～しよく』…、「『～しよる』と『～しとる』」、「『～ちよる』『～ちよく』…」参照】 例：《「見る」と「読む」を併記すると、以下のようになる。》 「見ちよる(見ておる)」 「読んじよる(読んでいる)」 「見ちよく(見ておく)」 「読んじよく(読んでおく)」 「見ちやる(見てやる)」 「読んじゃる(読んでやる)」 「見ちやれ(見てやれ)」 「読んじゃれ(読んでやれ)」 「見ちよけ(見ておけ)」 「読んじよけ(読んでおけ)」

No.	見出し	説明
864	「～しよる」と 「～しとる」	「～している」と「～した、～している」。 「～しよる」は進行中、「～しとる」は動作終了・存続・状態を示す。 「～しとる」と「～しちよる」は同等に使っている。つまり、動作終了だけでなく、存続していることも、「～しとる」と言う。よって、「朝から晴れている」は「朝から晴れちよる」とも「朝から晴れとる」とも言う。なお、「～ちよる」は「～とる」に、「～じよる」は「～どる」になる。 【「いきよる(行きよる)」、「『～じよる』『～じょく』・・・」、「『～よる』と『～ちよる』」、「やりよる(やりよーる)」参照】 例：雨がやみよる。(雨が小振りになってきた。) 例：雨はやんどるよ。(雨は降っていない。)(晴れて来た。) 例：今、晴れよる。(今、晴れつつある。) 例：今、晴れとる。(今、晴れている。) 例：もう、晴れとる。(もう、晴れた。) 例：朝から曇とる。(朝から曇っている。) 例：朝から曇ちよる。(朝から曇っている。) 注：「やみよる」は「やみよーる」、「やんどるよ」は「やんじよるよ」とも言う。 余談：「～ちよる」が「～とる」、「～じよる」が「～どる」になるのと同様に、「～ておく」の「～ちよく」は「～とく」、「～じょく」は「～どく」に、「～ておけ」の「～ちよけ」は「～とけ」、「～じょけ」は「～どけ」になる。例は、「食べておく」の「食べちよく」と「食べとく」、「読んでおく」の「読んじょく」と「読んどく」、「聞いておけ」の「聞いちょけ」と「聞いとけ」、「飲んでおけ」の「飲んじょけ」と「飲んどけ」など。
865	じらをくる (じらを繰る) (じらーくる) (じらーゆー) (じらを言う)	①わがママを言うこと。子供が駄々を言うこと。 わがママを言って、人の言う事を聞かない状態。「じら」の元は「振る(もじる)」で、「そむき、さからう」こと。「もじらす」の略が「じらす」で、これが「じら」に縮まった。また、「地方別方言語源辞典」に「じら」は「盗賊」の意とあった。「しらなみ(白波)：盗賊」が「しら」になり、「じら」に変化したと言う説もある。子供の「じら」は「盗賊」並みと言うことらしい。 幼児に対しては「おじら」を使う。寝つきが悪い時は「ねじらを言う」と言う。「ねくじを言う」とも言う。よく「じらをくる子」は「じらくり」。 KRYテレビの方言コーナーで「じらーこねる」ともいうと言っていたが、周南では「じら」は「くる」で、「こねる」のは「だだ(駄々)」が一般的。なお、「くり」は「くりかえす」こと。また、「じらーゆー(じらを言う)」も使う。 【「くじをくる」、「～くり」、「ねくじを言う」参照】 ②横車を押すこと。無理難題を言うこと。 じらを良く言う人は「じらくそ」、または「くそじら」と言う。子供の時は「じらむすこ」。じらばっかし言うことを、「じらーくいあげる」と言う。いつも喧嘩する嫌われ者は「じらもの」か「じらもん」。じらを押し通すことは「じらを通す」。ひどいじらは「おーじら」。 例：どうかね、じらばっかし言って。 (どうかね、わがママばかり言って。) 例：《たしなめるように》 おじらを言いさんなよ。(駄々を言わないのよ。) 例：あいつあー、じらーくーてばっかしおるが、困ったもんじゃのー。 (あいつは、無理を言ってばかりいるが、困ったことだなあ。)

No.	見出し	説明
866	しりぬけ (尻抜け)	①物事の締め括りのつかない人。 ②戸を開けたままで絞めない人。 戸を開けたままで閉めない人を指しては「尻尾(しっぽ)が長い」とも言う。 【「しっぽがながい」、「たてる」参照】 例:《戸があけっぱなしの状態で》 だれかあー、しりぬけは! (誰だ、戸を閉めていないのは!)
867	しりのまち (しりまち) (こじりのまち)	斜面の一番下の田畑。 西地区で使う。「しりまち」とも言う。周防大島の方では「こじりのまち」。なお、上の方の田畑は「くちまち」らしい。
868	じるい (じゅるい)	地面が雨や水でぬかるんでいる状態。 「じゅるい」とも言う。昔は「しるい」とも言っただろう。語源は「汁」である。 例:じるいから通りんさんなよ。 (ぬかるんでいるから通らない方がよいよ。)
869	じるた (汁田)	じるい田んぼ。水でぬかるんでいる田。 東地区は「はるた」も使う。 【「はるた」参照】
870	しろおしい (しろーしい)	①騒々しい。五月蠅い(うるさい)。 ②面倒。煩わしい(わずらわしい)。 ③うるさい性格。物事にうるさいさま。 ④忙しい。多忙。 元は「忙しい、為(しろ)うしか」の意味。しかし、「知らしむ」が「しろしー」→「しろーしー」に変化したと言う説もある。 落ち着かないでうろうろ動いている人に対しても「うるさい」ので、「しろーしい」と言う。「しろーしい」以外にも「せせろしい(うるさい)」ということもある。 今頃は単純に「うるさい」と言う方が多いかも? 【「うるさい」、「せせろしい」、「やかましい」参照】 例:しろおーしい人じゃねー。 (騒々しい人だね。)(落ち着かない人だね。) 例:そねーにしろーしいこたーせんでええ。 (そんなに面倒なことはなくてよい。) 例:文句のおいー、しろーしい奴じゃのー。 (文句の多い、うるさい奴だなあ。) 例:仕事がしろーしゅーて休めんのんじゃ。 (仕事が忙しくて休めないのだ。) 余談:山口では①の「騒々しい」の意味合いで使うことが多いが、福岡では「雨に濡れて気持ちが悪い、煩わしい」と言う②の意味合いで使うことが多いようだ。長雨でじめじめしてくると博多弁では「しろしかね」となる。少し不快なときは「こじろしい」。【「よーそけない」参照】
871	じろまい (じなまい) (じーなまい) (じのまい)	頭の旋毛(つむじ)。 「じなまい」、「じーなまい」、「じのまい」とも言う。東地区(櫛ヶ浜、下松)で使う。「頭の地のまいまい」がつづまった言い方か? 【「ぎり」、「まいまい」参照】

No.	見出し	説明
872	しろみて (代満て)	田植え後の休日。また、その祝いのこと。 「うえ(植)みて」、「どろおとし」、「どろみて」と言うところもある。下関の方言集には、4種類すべて載っていたし、柳井のにも「どろみて」以外の3種類が載っていたので、県内各地でそれぞれの言い方が混在していたようだ。しかし、調べた範囲では、今、県東部で残っているのは「どろおとし」が主体で、「うえみて」と「しろみて」が少しだけと思われる。 なお、「民俗学辞典」に、「四国、九州にかけては『さのぼり』、奥羽、関東は『さなぶり』、北陸、山陰、山陽にまたがって『しろみて』。他には中国の『どろおとし』、近畿の『のあがり』などがある」とある。言葉の発生順は「さのぼり」系→「しろみて」→「どろおとし」らしい。 【「うえみて」、「どろおとし」、「みる」参照】
873	しわい (撓い)	①粘り強い。辛抱強い。しぶとい。 ②くどい。しつこい。 ③強情。頑固。片意地。 ④固い。咬む時の歯切れが悪い。【「きすい」参照】 「しわ」は「撓(しお)る」の転。撓(たわ)んでも折れないこと。動詞の「しわる(撓る)」は山口弁では「ひわる」と言う。なお、「けち」の意味の「しわい」は「しわい(吝い)」の欄参照のこと。 【「しわい(吝い)」、「ひわる」参照】 例：あの子は、しわいねえ。 (①あの子は、粘り強いね。)(②あの子はくどいね。) (③あの子は頑固だね。)(①②③のどれかの意味で使う。) 例：結構、しおーにやったのー。 (結構、頑張ったな。)(①②③のどれかの意味あり。) 例：このこうこうは、しわいねえ。 (この沢庵は、固いね。) 例：こねーしわいもんが、<u>くえー</u>るかー。 (こんなに固いものが、食べられるかね。) 注：動詞の語中の連母音「ウエ」は「ウェー」と発音される。「食える(クエル)」が「クェール」、「増える(フエル)」が「フェール」になる。 余談：島根県では、長い階段を上がった「しわい」。「苦しい、難儀だ」の意味。山口県の「えらい」と同じ使い方？【「みやすい」参照】 広島でも「胸苦しく、息の詰まるような感じ」を「しわい」と言うようだ。当然、強情や固いの意味にも使う。
○ 874	しわい (吝い)	[けち。吝嗇(りんしょく)。しみったれ。] 「けち」の意味の「しわい」は古風な言い方の標準語。山口では、元々は「しわい」と言えば、「撓い」の「粘り強い」意味が多く使われていたようだが、東京方面から「吝い」の「吝嗇家」の意味が入り込んで、「けち」の意味や「撓い」の「癖のある感じ」が、主体の意味になって来たようだ。 【「しわい(撓い)」参照】 例：あの子は、しわいねえ。(あの子は、ケチだね。) 例：結構、しおーにやったのー。(結構、吝く振る舞ったねー。) 《上記使用例は、「しわい(撓い)」の欄の使用例と比較のこと》
875	じわっこ じわっこ	じわじわ。ゆっくり。じわりじわり。 例：《割れ物を動かす時に》 きーつけて、じわっこ じわっこ、いごかせーよ。 (気を付けて、じわりじわりと、動かせよ。)

No.	見出し	説明
876	しわもぶれ	しわだらけ。 【「ほとびる」、「もぶる」、「もぶれる」参照】 例：プールからあがったら、手がしわもぶれじゃったいねー。 （プールから上がったら、手がしわだらけだったよ。）
877	しわる	胃がもたれる。重苦しい。少し痛む。 国語辞書には「①しなう たわむ ②腹がすく」とある。①は使うが、この意味では「ひわる」を良く使う。②は「日葡」とあるので、「日葡辞書」が書かれた1603年頃はこの意味で使っていたのかも知れない。しかし、山口弁では逆に、腹にもたれるものを食べ過ぎた時の感じになっている。胃や腹に関する痛みの言い方は他に「にがる：鈍痛、つめる：ちくちく痛い、せく：ひどく痛い」等がある。 【「せく」、「つめる」、「にがる」、「ひわる」参照】
878	しんきな	退屈なこと。 通常の辛気の意味でも使う。昔は「綿密な仕事」や「待ち遠しい」意味にも使っていたらしいが、今頃は使わない。標準語の「辛気」は「陰気な感じ」があるが、山口弁の「辛気」は「退屈だなあーの感じ」で暗くない。軽めの表現である。 例：雨が降ってしんきなよなー。（雨が降って退屈だよなー。）
879	しんしゃい	しなさい。 「～しな」、「～な」が「～ん」になって、「しゃい」が続いて「～(し)んしゃい」の命令表現で使う。「しんさい」より少しやわらかい言い方かな？ 女性が良く使う。なお、「しゃい」は「しゃる」の命令形で、「しゃる」は「せらる」の転。 【「～さい」参照】 例：ちゃんとしんしゃい。（ちゃんとしなさい。）
880	じんだ	粉々。 西地区で使用。字は「糝糝」か。これは国語辞書に載っているが、意味は「ぬかみそ」、「じんだみそ」等で粉々の意味はなかった。周防大島の方言集では、「じんだ」は、ぬかを利用したおかずの名前で「清正の陣菜」から来たものとの説明あり。 【「ちんじに」、「どぶづけ」参照】 例：じんだになってしもうた。（粉々になってしまった。）
881	しんつーする (心痛する)	苦労する。 国語辞書には「心痛」は「心を痛めて心配すること」とある。この意味でも使うが、「苦労する」と言う意味でも使う。 例：《大仕事を終えた話を聞いて》 えらい、しんつーをしちゃったんですねー。 （大変、ご苦労をされたのですね。）
882	じんとう	すいば(酸葉)の茎。(植物) 小さい時に食べる。大きくなると、きすい。すいばの葉は「すいば」。 【「きすい」、「ててつば」参照】
883	しんぼうにん (辛抱人)	我慢強く働いて、なおかつ、質素儉約に努める人。 我慢強いだけでなく、質素儉約する意味が加わったのが、山口弁。 【「じまたい」、「しまつめ」参照】 例：あのひたーしんぼうにんじゃけーねー。 （あの人は良く働いて質素儉約する人だよ。）

No.	見出し	説明
884	すいい	酸っぱいこと。 例：このみかんは、ぶち<u>すいい</u>。 （このみかんは、すごく<u>すっぱい</u>。） 注：「い」が多く付く例としては、「酸い→すいい」、「多い→おいしい、おいしい」、「濃い→こいい」など。
885	ずいたれ (ずい) (ずいと) (ずいとう)	①食いしん坊。食い意地の張った人。②つまみ食い。 広島でも言う。②の意味で言う時は「ずいたれ」より「ずいとー」と言う率が高いかな？ ④風流心を古くは「すき(好き)」と言ったが、その「すき」が転じて、「すい(粹)」になり、「ずい」はその「すい」が俗語化したもの。道楽が多いことを意味した。それから「いやしんぼ」の意味に転じて、「くいしんぼ」につながった。「たれ」は「太郎」の意味。 ⑤「ずい」は「随意(ずいい)」の「ずい」で「気の向くままに」の意。「たれ」は性質をはっきり表す人をののしって言う言葉。「ばかたれ」の「たれ」と同じ。と言う二説がある。後者の方がしっくりくる感じ？ 例：あれほどのずいたれと食べに行ったら、財布がもたん。 （あれほどの食いしん坊と食事に行ったら、 お金が掛かってたまらん。） 例：準備中にずいとーしたから、もう食べられん。 （準備中につまみ食いしたから、もう食べられない。）
886	すいちよる	①透(す)いている。 「透く」に「ちよる」がついたもの。隙間があいている状態。「～している」を「～しちよる」と言う。【『～ちよる』・・・参照】 例：この間がすい<u>ちよる</u>じゃろーが。 （この間に隙間があるだろう。） ②好きになっている。 「好き」に「ちよる」がついても「すいちよる」。 例：ありゃーどうみても、<u>すい</u>ちよるで一。 （あの様子は、好きなようだよ。） 使い分けの方法：一般的に「すい」が強調されている時は「好き」で、「ちよる」が強い時は「透き」かな？
887	すいばり	小さい刺(とげ)。 「すいばり」の時は「刺さる」と言わずに「立つ」と言う。「すいばり」の「す」は「少し」の「す」。「す」は狭の意味で「狭(す)き」。「狭(す)き針」を音便で「すいばり」と言う。刺よりも更に細く小さなものを言う。広島、島根、大分、長崎の一部でも使う。「方言の地図帳」によると、東日本は「とげ」類、近畿、北陸、鹿児島は「そげ」類が多いようだ。【「いぎ」参照】 例：手の先に、すいばりが立った。(手の先に、とげが刺さった。)
888	ずーたらべー	だらしない。ずぼらなこと。 散らかして片付けられない状態。ずるずるべったりのこと。 書き方は「づーたらべー」かも知れない。「ぐうたら兵衛」の変形か？ 【「ぐーたれ」、「ぐんだらべー」、「なえんぼう」、「のーくれ」参照】
889	すえる	耳が聞こえなくなる。 「饅(す)える(腐敗)」と同じ言葉か？ 例：そねーな大きな声でゆうたら、耳がすえるでよー。 （そんな大きな声で言ったら、耳が聞こえなくなるよ。）

No.	見出し	説明
890	～すえる	しきりに～する。物に熱中する様。 「書きすえる(ずっと書いている)」、「言いすえる(言ってばかり)」、「もうけすえる(儲け通す)」の様に使う。 例: 泣きすえる。 (しきりに泣く。)(ずっと泣いている。) 例: 勝ちすえる。 (勝ち続ける。) 例: 雨が降りすえるの一。 (雨がずっと降るなあ。)
891	ずえる (づえる)	崩れる。潰れる。 持ちこたえることが出来ずに崩れる感じ。古語「ついえる」の訛りで、濁音化したのは、ずり落ちる感じを出したものの説あり。「つえる」とも言う。また、「くえる」と言うところもあるようだ。 【「ずやける」、「つえる」、「どおれる」参照】 例: 大地震で山がずえた。 (大地震で山が崩れた。)
○ 892	すぎる (紐る)	寄り掛かる。体をもたせ掛かる。 国語辞書に載っている「腕にしがみつく」や「仏にたよる」意味でも使う。よって、「手すりにすがちよる」は、「手でしっかりつかまっている」のなら標準語の使い方、「体が寄り掛かっている」のなら山口弁。 防府までは「すぎる」を使うが、県西部の宇部や厚狭の方は「さばる」を使う。「廊下に立っちよ! さばるんじゃないぞ(廊下に立っておけ! もたれ掛るのではないぞ)」のように使うらしい。 【番外の「昔の山口弁?」の「さばる」参照】 例: ヘーにすがってたっちよる。 (壁に寄り掛かって立っている。)
893	すかん	嫌い。好きでないこと。 何か言われて、「あら、嫌だあー」の感じで使う時は「すかーん」になる。女言葉。 例: あの人にはうるさいから、すかんちゃ。 (あの人にはうるさいから、嫌いよ。)
894	すかんならしい (好かんたらしい)	嫌いで不愉快なこと。 広島でも言う。嫌な奴は「すかんなれ」。 例: 好かんたらしいことをゆーんよ。 (嫌なことを言うのよ。)
895	ずく (木菟) (ずくてん) (ずってん) (ずってんこう)	頂上。上の方。てっぺん(天辺)。 「ずくてん(木菟天)」とも言う。木の一番上や、山の頂を指す。東地区(下松)では「ずってん」、西地区(鹿野、小畑)では「ずってんこう」とも言う。「ずく」は「ミミズク(木菟)」のこと。 頂上を意味する方言として主なものは、「てっぺん(天辺)系」と「てんこつ(天骨)系」、「ずく系」、「つじ(辻)系」がある。「ずく系」は京都、鹿児島、宮崎などで使われているようだ。 【「うら」、「てんかち」、「てんば」参照】

No.	見出し	説明
896	～ずく (～づく)	「～のまま」の意。 「食べないままで」は「食べんずくで」。「持たないままに」は「持たんずくに」。否定の「ん」が頭に付いて、「～んずく(～しないままで)」で使うことが多い。これが山口弁。「知らんずく(知らないまま)」、「言わんずく(言わずに)」、「聞かんずく(聞かないまま)」、「見んずく(見ずに)」、「寝んずく(寝ないで)」、「遊ばんずく(遊ばないまま)」、「出会わんずく(出会わないまま)」など。 当然、「腕ずく」、「欲得ずく」、「相談ずく」のように名詞に付く接尾語の「尽(ず)く」の使い方もする。これは標準語。なお、「ずく」の漢字は「尽く」のようなので、「づく」が正かも? 【「～こーに」、「せんずくに」、「～んずく」参照】 例: 水を取らんずくに行ってしまうたー。 (水を取らないままに行ってしまった。)
897	すぐい (直い)	真っ直ぐなこと。
898	ずくし (じくし)	熟柿(じゅくし)。(果物) 「じくし」とも言う。
899	すくず (すくど)	落ち松葉。 落ち葉のことにも使う。字は「素屑」か? 湯野地区では落ち葉を「すくど」と言う。他に「せんば、すくば、こつぱ」なども使っていたらしい。玖珂では「すくば」らしい。落ち葉のことを「さぜ」、「さで」と言う所もある。 【「さでる」参照】
900	ずくずく (づくづく)	腫物などの痛むさま。ずきずき。 「山口県方言辞典」の「にがる」の欄に腫物の痛みは「づくづく」と載っていたので、収録したが、我々は使っていない。また、「日本方言大辞典」には「ずくずく」と表記されていたので、見出しは「ずくずく(づくづく)」とした。 【「にがる」参照】 余談: 昔は、「ずくばれる」を「腫れる、膿む、化膿する」の意で使っていたようだが、これも我々は使っていない。
901	すくねる (ずくねる)	すねる。ぐずぐず言う。むずかる。 泣いて意地を張っている状態。元は「じくねる」か? 昔、聞いた程度で、使ったことはない。 【「はぶてる」、「ぶーをつる」、「ぶすけ」、「ぶすける」参照】
902	すくも	粃殻(もみがら)。 「糠(ぬか)」のことを東は「こぬか」、西は「ぬか」と言うが、昔は「粃殻」も「糠」も「ぬか」と言っていた。その「ぬか」よりさらに古い時代は、共に「すくも」と言われていたようだ。区別する必要が出て、中国地方は「粃殻」の意味で「すくも」が残り、「糠」は「すくも」から「ぬか」に変化したようだ。東北地方では「粃殻」が「ぬか」で、「糠」は「こぬか」と呼ばれているようだ。 注: 藍染につかう「薬(すくも)」とは違う。
903	すくれ	寒がり。寒さを感じ易い人。 石見や大分でも使う。【「すくれる」参照】 例: わたしゃー、すくれじゃけー、よけー着ちよるのいねー。 (私は寒がりだから、たくさん着ているのよ。)

No.	見出し	説明
904	すくれる	冷える。凍える。 寒がりは「すくれ」。【「すくれ」参照】 注：湯ざめのようなちょっとした「冷え」には使わない。 例：《寒い日に》 ずっと外に出ちよったから、すくれたでよー。 (ずっと外に出ていたから、冷えたよ。)
905	すける (助ける) (すげる)	手を出して支える。助ける。 【「さげる」参照】 例：ちょっと、この柱をすけちよってくれ。 (ちょっと、この柱を支えておいてくれ。)
906	スコップ	移植ゴテ。 オランダ語の「schop (schep)」からきた言葉。英語では「trowel」。英語で「scoop」は小さいシャベルのこと。ただし、関東では「シャベル」または「ショベル」と言うらしい。ただ、周南でも最近では「移植ゴテ」と言う人の方が多いかも？ JISに定義はないが、例示図形のスコップはなで肩で足を掛ける部分がない。主に掬(すく)う道具。 【「シャベル(ショベル)」参照】
907	すじをひく (すじを引く) (すじゅーひく) (すじょーひく)	①子供の痙攣(けいれん)。引き付け。 ②びっくりする。 「すじを引く」と言う。言い方は、子音内の母音「イ」+助詞「オ」は「ユー」または「ヨー」となるので、「すじゅーひく」や「すじょーひく」になる。転じて、「すじを引く」を「びっくりする」意味にも使う。 【「うち」、「からすなえ」参照】 例：子供がすじゅー引いた。 (子供が痙攣を起こした。) 例：こりょー見たら、みな、すじょーひこーでよ。 (これを見たら、みんな、びっくりするぞ。) 余談：厚狭では「定規」のことを「すじひき」と言う。
908	すすりん	うなぎの稚魚。(魚) 川にいて、体長5～6cm。 注1：友人からの情報。多分、うなぎの稚魚だろうと思われるが、子供時分の記憶なので、違うかも知れない。こう呼んで網で取っていたとのこと。 注2：鰻の稚魚でなく、「すなやつめ」のことかも知れない？
909	～ずた	～ずつ。～宛。 山口県方言辞典では「周北」地区と書いてあるので、「周防の北」地区で使っていたものか？ 【「～つた」、「ひとつつた」、「～わて」参照】

No.	見出し	説明
910	すどい	①素早い。すばしこい。やることが早い。 ②抜け目がない。悪賢い。ずる賢い。 ほめる言葉ではないが、①はまあ良い方にも使う。 「狭る利い(するどい)」の省略形で、「狭(す)」は微小なものが進んでいく音。悪い方に鋭敏なことと言う説と、本来は「すすどい」で、はきはきしていることの二説あり。「すどこい」とも言う。感嘆詞的に言う時は「すどっ!」になる。昔は「ててらすどい」と言って、意味は分からないが「ててら」と言う強調する接頭語を付けて言う場合もあったようだ。今なら「ぶちすどい」か? 反対語は「ぬるい」か? 【「ちやりこい(ちよろこい)」、「ぬるい」、「もとーらん」参照】 例:どろぼーおわえたが、すどいやつで、よーつかまえんかった。 (泥棒を追いかけたが、素早いやつで、捕まえられなかった。) 例:あのかー、走るんがはよーて、すどい子じゃのー。 (あの子は、走るのが早くて、すばしこい子だね。) 例:《素早く抜け目なく動く人を見て》すどっ! (素早い!) 例:あのひたー、けっこーすどいけーね。 差し繰られんよーにしーよ。 (あの人は、結構抜け目がないからね。 ごまかされないようにしなさいよ。) 余談:「ててら」を辞書で引くと「①襦袢、②ふんどし」となっていた。?? ひょっとすると、「父」の意味の「てて」かも?
911	～すな	～するな。～してはいけない。 強めに言う時は「すな」で終わる。優しく言う時は「すなよ」。 【「すんないやー」参照】 例:そねーなこたー、すなよ。(そんなことは、するなよ。)
912	ずにあがる (頭に上がる)	調子に乗って増長すること。図に乗ること。 「ずのにのっている」と言いたい時は、山口弁では「ずのにのっちょる」と言う。見出しの漢字は「頭」が「図」かも知れない? 例:こんなー今頃、ずにあがっちょるのー。 (こいつは最近、付け上がってるなあ。)
913	すばえる	じゃれる。ふざける。 【「おがちる」、「そばえる」、「ちばける」、「つばえる」、「ほたえる」参照】 例:子犬がすばえる。(子犬がじゃれる。)
914	すばしい	すばしこい。 東地区で使用。【「ちやりこい」参照】 例:すばしいのー。はあ、逃げたでよ。 (すばしこいな。もう、逃げたよ。)
915	ずへえな	だらしない。ずぼらな。
916	ずぼな	茅(ちがや)の穂の新芽。花穂。(植物) 【詳しくは「つばな」の欄を参照】
917	すま	隅。 「すみ」の古い形。昔(明治・大正時代)は「すま」と言う人の方が多かったらしい。今頃はあまり言わない。 例:重箱のすまをせせる。(重箱の隅をつつく。)

No.	見出し	説明
918	～すまー (～すまあ)	①～しないだろう。～するまい。 こちらは話す人の想像。 ②～しない。～しないようにする。 こちらは話す人の決意。 例：そねーなこたあ、すまーで。(そんなことは、しないだろう。) 例：あねーな悪いこたー、もうこれからーすまあと思うた。 (あんな悪いことは、 もうこれからはしないようにしようと思った。)
919	すまる (統まる)	つらら。 氷が長く成長して垂れるようになること。一般的には「つらら」のことだが、東地区(笠戸島)では、田んぼにできるのが「すまる」、家の外の軒先などにできるのは「つらら」と使い分けがあったようだ。 余談：動詞「統(す)ばる」から付いた牡牛座のプレアデス星団の和名「昴(すばる)」のことを「すまる」とも言う。
920	すまん (すいません)	済みません。 謝る時と、感謝をする時に使う。「すまん」は男言葉で、同年代、目下を使う。「すいません」は少し丁寧と言う時に使う。また、関西系の「すみません」も良く使われる。「県別方言感情表現辞典」によると、「わるい」類が東日本で、「すまん」類が西日本を中心に広がっており、東西対立となっているとのことだが、山口では「わるい」も使う。【「わりー」参照】 例：いつもいつも、すまんねー。(いつもいつも、すみませんね。) 注：「いつもいつも」は丁寧になると「いっつもいっつも」となる。
921	すみざけ	婚約のお酒。
922	ずやける (づやける) (ずわける)	崩れる。つぶれる。 「ずえる」と同じ。【「ずえる」、「どおれる」参照】
923	ずやす (づやす)	崩す。つぶす。 「つやす」とも言う。【「つやす」参照】 例：りんごをずやして(づやして)ジャムを作る。 (りんごをつぶしてジャムを作る。)
924	すりだいこん (摺り大根)	おろし大根。 今頃は「大根おろし」と言う人が多いかも？ 国語辞書によると「大根おろし」には①おろした大根と②おろし金のふたつの意味があり、「おろし大根」なら①の意味だけになる。なお、おろすものは「大根摺(す)り」。 【「だいこんすり」参照】
925	すりほがれた	ひどく怒られた。 「摺り」ながら、「ほぐ(穴を開ける)」から「ひどく怒られる」意味に使われるようになったか？ 東地区(笠戸島)で使う。【「ほぐ」参照】
926	すわぶる	舐(な)める。しゃぶる。舐(ねぶ)る。吸う。 「ねぶる」はただ単に舌でなめる感じが強いが、「すわぶる」は若干吸う感じが入っているか？【「ねぶる」参照】 例：ゆびょーすわぶるくしゃーなおしんさいよ。 (指をしゃぶる癖は直しなさいよ。)

No.	見出し	説明
927	ずんずらぼうず (ずんべら ぼうず)	つるつるてん。のっぺらぼう。 国語辞書の「のっぺらぼう」の欄に、「ずんべらぼう」とあるので、凹凸なく平らな状態を呼ぶ言葉だったようだ。それで、坊主頭や、木の枝を全部切り落とした状態などにも使ったと思われる。 例：このブラシは、ずんずらぼうずになっちゃうから、 よー洗えんでよー。 (このブラシは、毛がちびているから、良く洗えないよ。)
928	すんないやー	するなよ。しないで。 【「～すな」参照】 例：わりやー、悪さをすんないやー。(お前、悪さをするなよ。)
929	せー	背(せい)。 連母音「エイ」は「エー」と発音される。よって、「背(セイ)」は「セー」になる。「精を付ける」、「精一杯」、「政治家」も、「セーを付ける」、「セーいっぱい」、「セーじか」と言うように、山口弁では「せい」は、「い」を意識して言わない限り「セー」になりやすい。【「えーが」、「へー」参照】 例：セーが高いのー。(背が高いね。) 例：《成長期の親類の子供に会った時》 また、セーがぬんだんじゃな一か？ (また、背が伸びたのではないか？)
930	せー せーがええ せーがおちた せーがない せーを つけんにやー せーが ですすね	①張り合い。やり甲斐。 ②[精。力。] 「セー」は「所為」、「詮(せん)」のどちらからの変化か良く分からない。「精」の変化も考えられる。①の意味で使うのが山口弁。 ①「セーがええ」は気持ちが良い、やり甲斐がある。張り合いがあって良い。「セーが落ちた」は張り合いがなくなった。「セーがない」は失望した、やり甲斐がない。「セーがなー」、「セーがなー」の言い方もする。「ええ(良い)」の反対は「悪い」ではなく、「無い」になる。丁寧に言う時は「セーがありません」。「セーを落とさんように」は親しい人が亡くなった時に、張りを無くさない様にの意味で言う。なお、「セーがいい」、「セーがあります」の言い方はしない。 ②「セーをつけんにやー」は栄養を取って精をつける意味で使う。体力をつけること。「セーが出来ますね」、「ごせいが出来ますね」は精を出して頑張っておられますね。「セーをだしてやりーよ」は「頑張りなさいよ」の意。 北海道の「けっぱれ」、茨城の「がんばっぺ」のように「がんばれ」を簡単に言える山口弁はない。【「きばくをだす」、「ぎばる」、「セー」参照】 例：あねーに喜ぶんなら、おかしょーあげても、セーがええーいね。 (あんなに喜ぶのなら、お菓子をあげても、気持ちが良いよね。) 例：授業中に、セーと(生徒)が寝ちよつたら、 教える方は、セーがないのー。 (授業中に生徒が寝ていたら、教える方は、やり甲斐がないよね。) 余談：熊本、長崎、福岡辺りは、「精を出す、良く働く」は「がまだす」らしい。
931	～せー	～しろ。 「為よ」の音便「せい」が「セー」になっている。【「セー」参照】 例：はよーせー。(早くしろ。) 例：はよーせんかいやー。(早くしなさいよ。) 例：こりよーせーちゅうんかい。(これをしろと言うのか。) 《したくない意思あり》

No.	見出し	説明
932	～せーで	～しないで。 「為で」の音便「せいで」が「せーで」になって、「しないで」の意味になる。 「～しないで」は「～せーでも」。「それでも」の意味の「せーでも」と似ているが、言い方は平板型である。【「せー」、「せーでも」、「～(せ)んでも(～(せ)いでも)(～(せ)ーでも)」参照】 例：ええこたーせーで、わりーことばあーかし、しとるんちゃー。 (良いことはしないで、悪いことばかり、しているのだよ。) 例：そねーなこたー せーでも えかろーが。 (そんなことは、しなくても良いだろうに。) 注：「～せーで」と同様の言い方は、「やる」、「かく」、「とる」、「行く」、「持つ」等の色々な動詞で使う。「やる」なら「やらーでえかった(やらないでよかった)、やらーでもええ(やらないでもよい)」のように使う。他の言い方は「かかーで」、「とらーで」、「いかーで」、「もたーで」等。
933	せーでも	それでも。 「へーでも」、「まいでも」も同様に使う。言い方は、「せーでも」。「それでも」を「そいでも」と言うが、その「オイ」の音声は「エー」になったもの。 【「おせー」、「～せーで」、「へーでも」、「まいでも」参照】 例：《何々をしろと言われた内容が、前と違う時に》 せーでも、まえにやー、こうゆうたじゃー。 (それでも、前にはこう言ったよ。)
934	せがう (せごう)	①対抗する。反抗する。 ②からかう。軽くいじめる。 言い方は「せがう」。「が」は鼻濁音でなく、普通の濁音(破裂音)。これが山口弁の特徴。【「おんがく」参照】 ①は「せがらう」「せがろう」とも言う。②は周南では最近に使わないかな。 「せがう」は昔の書き方なら「せがふ」で、「せが」は「迫来」で、「ふ」は「延」。 「迫り苦しめることが来て、続くこと」を言う。「せがう」はワ行五段動詞なので、「せごう」「せごーた」「せごーて」と言うことも多い。県中央部では「せらがう」とも言うようだ。 【「いじる」、「おう(会う)(合う)」、「かしらう」、「かもう」、「せつく」参照】 例：あいつが、せがうのいやー。(あの人が対抗して来るのよ。) 例：いつも、せごーてばかりじゃ。 (いつも、からかってばかりだ。)
○ 935	せからしい	うるさいくらい、せかせかしている。忙しい。気忙しい(きぜわしい)。騒々しい。煩わしい。 九州に入ると「せからしか」になる。 【「せせかましい」、「せせくろしい」、「せせろしい」参照】 例：あのおなごは、せからしいのー。 (あの女の人、せかせかしているな。)
○ 936	せく (急く)	心がはやる。あせる。 よく「気がせく」と使う。反対は「せくな(急ぐな)」。「急がす」は「せかす」。反対は「せかすな(急がすな)」。【「せくる(せくらかす)」参照】 例：気がせえーて、いけんわいやー。 (気持ちが焦って、仕方がない。) 例：《走って行く人に》そねーに、せかんでもええいね。 (そんなに、急がなくても良いよ。)

No.	見出し	説明
○ 937	せく (塞く) (堰く)	水をせき止めること。 余談：戸や障子を閉めることを山口弁では「たてる」と言うが、九州ではこの「せく」を使うようだ。熊本で「あとせき(後塞)」と書いた張り紙を見たら、戸を閉めること。
938	せく	痛む。 腹が痛い時に使う。「迫来(せく)(せまりくる)」の意で、病気と言う敵が迫って来たようなものだから「せく」と言う。どちらかと言うとじっとしてられないくらい刺すような痛み。鈍痛は「にがる」。 【「しわる」、「つめる」、「にがる」参照】 例：ゆんや、腹がせいてせいてやれんかったいやー。 (昨夜、お腹が痛くて痛くてたまらなかったよ。)
○ 939	せく (咳く)	ひどく咳をする。 咳き込むことが続く時に使う。「息を塞(せ)く」の意味。 広島は「せく」を使う率が高い。【「こつる」参照】 例：せいて、やれんかったでよー。 (咳き込んで、たまらなかったよ。) 注：昔は「咳をする」ことを「たぐる(吐る)」とも言っていたようだが、我々は聞いたことがない。この「たぐる」は国語辞書にも載っており、痰を伴ってせきあがるような、かなり激しいせき方のようだ。
940	せぐ	大勢が押しあう。混み合うこと。混雑。 【「せんぎんごんごん」、「せんごーまんごー」参照】 例：せがないで並んで下さい。(押しあわないで、並んで下さい。) 例：もっとせげば入れる。(もっと詰めれば入れる。)
941	せくる (せくらかす)	せきたてる。せかす。しきりに促すこと。 昔は、「せきたてる」以外にも「もてあそぶ、いじる」の意味で使ったようだが、我々は知らない。【「せく(急く)」、「せせる」、「せつく」参照】 例：そがーに、せくるな。(そんなに、せきたてるな。) 例：そねーに、せくらかすないやー。(そんなに急がすなよ。)
942	せこをやく (こせこをやく)	お節介をすること。いらぬ世話を焼くこと。 防府や徳地、福栄地域で使う。「せこ」が余計な世話のこと。他に「こせこを焼く」と言うところもある。 【「さいこをやく」、「さいたらやく」、「さいばーやく」、「せんばをやく」、「ちゃんばをやく」、「てんごうをやく」、「てんばを焼く」、番外の「昔の山口弁?『いらぬさいこ』」、番外の「昔の言葉、行事?『さいろいり』」参照】 例：そねーにせこをやかんでも、まかしたらたらえーのに。 (そんなに余計な世話を焼かずに、まかしたら良いのに。)
943	せせかましい	急いでいて余裕がないこと。 せかせかしている、目まぐるしいことに使う。しかし、国語辞書では「こせこせしている、金銭に細かい」となっている。 【「せからしい」、「せせくろしい」、「せせろしい」参照】
944	せせくろしい	忙しくて煩わしい。 主には「忙しくて煩わしい」の意味に使う。しかし、「うるさい」、「狭い」意味にも使うようだ? この言葉はあまり使ったことは無い。 最近「狭い」意味なら、標準語の「せせこましい」を使うかな? 【「せからしい」、「せせかましい」、「せせろしい」参照】

No.	見出し	説明
○ 945	せせる (揉る) (せせくる)	ほじくる。いじる。つつく。 他には、「いじめる」、「手入れする」、「探る、あばく」の意味でも使っていた ようだが、今では「ほじくる、つつく」等の意味以外は使用しないかな？ 語源 は「狭狭ら」らしい。「せ」を重ねて言うのは強調で、狭い場所を苦労してほ じくり出すこと。【「せくる」、「せつつく」参照】 例：妻楊枝で歯をせせる。(妻楊枝で歯をほじくる。) 例：《魚をきれいに食べた時》 よう、せせるの一。(良くつつくなあ。)→(きれいに食べるな一。) 余談：昔は「はせせり」と言えば、爪楊枝(つまようじ)のこと。
946	せせろしい	忙しくてせかせかしている。煩わしい。 「山口県方言辞典」には、『せせろしい』は『せせらわし』の音便。『狭狭らは し、狭狭らはる』の転。①居づらい ②狭苦しい ③忙しいと載っている。昔 は使い分けていたのかも？【「せせる」参照】 しかし、今頃は「忙しくてせかせかしている」、よって「煩わしい」などの意味 でしか使わないし、「せからしい」、「せせかましい」、「せせくろしい」、「せせろ しい」も皆同じ感じで使っているような気がする？ 【「しろおいしい(しろーしい)」、「せからしい」、「せせかましい」、「せせくろしい」 参照】
947	せたけができた (せできが できた)	豊作の代名詞。 <u>一反</u> 十俵のお米ができた。 収穫の良い時のこと。「せたけ」は東地区(熊毛)で使う。県内には他に「せ でき」や「せわり」の言い方もある。「山口県方言辞典」には一畝(せ)に一 俵の「でき」だから、「せでき」との説明あり。東日本では「せどり(畝取)」と 言うらしい。 ただ、今頃はお米が良くできたことを言う時は「おいかった」、「よーでき た」、「どさなできた」、「どよーしできた」、「しごにならんほどできた」などの 言い方が一般的かな？ 注：一反(たん)は十畝(せ)。
○ 948	せつつく	①しきりに催促する。せきたてる。せつつく。 ②子供を執拗にからかう。 字は「責付く」、「迫附」。【「いじる」、「かしらう」、「かもう」、「せがう」、「せく る」、「せせる(せせくる)」参照】 例：《急がす人に》 そねーに、せつかんでも、ちょっと待てーや。 (そんなに、せきたてないでも、少し待ちなさいよ。) 例：《子供を執拗にからかっている人に》 そんなにせつつくなよ。(そんなにからかうなよ。)
949	せつつく	くつつく。近付く。引っ付く。 東地区(束荷)や県東部(伊陸)で使う。「せつつく」の転の「せつつく」とは違う 使い方である。「ひつつく」の転かも知れない？【「せつつく」参照】 例：せつつくと暑いじゃろう。(ひつつくと暑いだろう。)
950	せな	背中。 言い方は「せな」。古風な標準語だが、方言化している。 例：もうちょっと、せな一のばさんにやー。 (もう少し、背中を伸ばしなさい。)

No.	見出し	説明
951	せなをする (背中をする)	背中を流すこと。 言い方は「せなーする」。 例: せなをすっちゃぎょうか。(背中を流しましょうか。)
952	せばい	狭い。 広い所から急に狭い所に入ったような時に、「せばー」と言った。今頃は「せまー」か?
953	せばる	独占したがること。人の物を欲しがって取ろうとすること。やるまいとして欲張ること。やきもちを焼いて欲しがること。 人に物を与えることは惜しんで、人が物を得ることは拒むこと。字は「迫る」。西地区で使用。よくせばる人は「せばり」。東地区では「やばる」を使う。県西部では「せばる」、県東部では「やばる」が主流か? 【「やばる」参照】 例: 人の持ちちよるものーそねーにせばるな。 (人の持っているものをそんなに欲しがるな。)
954	～せまい (～せまー)	～しない。～しまい。 文語の「為(す)まじ」が「為(せ)まい」となった。「せまー」とも言う。 例: 早いからまだ出もせまーが、まあ見て来るか。 (まだ早いから、出ないだろうが、まあ見て来るか。)
○ 955	せる (競る) (迫る)	少し当たって動かない状態。 言い方は「せる」。「競り合うこと」から転じたか、「迫る」から転じたか良く分からないが、ぎりぎりであるが少し当たって動かない状態の時などに「せっている」と使う。「せっちよる」とも言う。 例: こりゃー、せって動かんで。 (これは、少し当たっているので動かないよ。) 例: せっちよるけー、簡単にやーいごきやーせんで。 (少し当たっているから、簡単には動きはしないよ。)
956	せる (為る)	する(為る)。 「する」に相当する山口弁。文法的には下一段活用と同じ。すなわち「せ・ん」「せ・られる」「せ・よう」(未然形)、「せ・ます」「せ・た」(連用形)、「せる」(終止形)、「せる・こと」(連体形)、「せり・やー」(假定形)、「せ」「せー」(命令形)。ただし、「せ・よう」は「せ」の母音[e]が脱落して「ショー」になる。また未然形が打ち消しの推量・意志を表す「まー」(「まい」の山口弁)へ続く場合、「せ・まー」は「す・まー」となることもある。周防地域では「へる」も良く使う。否定は「へん」。【「～しよー」、「へる」、「～まあ」、「みよー」参照】 例: 《何かしようとしている二人が》 A: せまーかあー。(しないようにしようか。) B: せりやーええじゃ。(すれば良いではないか。) 注: 「せまーかあー」は「すまーかあー」とも言う。当然、「へまーかあ」とも言う。その時の答えは上記の例では「へりやーええじゃ」となる。 例: A: 電話をせんにやーいけんよ。(電話をしなけりばいけんよ。) B: はあーさつき、せたからえかろう。(もう先程したから良いだろう。) 例: 《失意の友に》しっかりせんにやー。(しっかりしなさいよ。) 例: 先にせちよって下さい。(先にしておいて下さい。) 例: どねーせりやーええかねー。(どうすれば良いかね。) 例: はよーしよーでよ。(早くしようよ。)

No.	見出し	説明
957	せわーない (世話は無い)	①大丈夫。心配ない。差支えない。 ②容易だ。簡単だ。 「世話は無い」の山口弁の言い方。問いに対しての答えとして言うのが基本の使い方。「世話(手数、やっかい、面倒)」は「忙(せわ)しい」と同根の言葉。「世話」をする必要は無いから「大丈夫」に転じた。発声は「せわーなえー」が原形で、省略形が「せわーなー」になる。「せわーなー」はどちらかと言うと男言葉。「せわーなえーですいいね」、「せわーなーですいいね」、「せわーないっちゃ」、「せわーありませんにーね」の様に使う。「せわない」と短く言う人もいる。「せあーない」、「せやーない」、「しゃーない」とも言う。言い方は、主観的に言う時は「<u>せ</u>わーない」、客観的な時は「せ<u>わ</u>ーない」が多い。 【「しゃーない」、「～ですいいね」、「どうちゅーこたーない」参照】 例:《胃が悪かったと聞いた人に》 A; <u>い</u>やーどうかね。(胃はどうかね。) B; <u>せ</u>わーないちゃー。(大丈夫だよ。) 例: A; ひとりでできるか。(一人でできるか。) B; せわーないですいいね。(簡単ですよ。大丈夫ですよ。) 注1: 母音「イ」+助詞「ワ」は「イヤー」と発音される。よって、「胃は(イワ)」は「イヤー」になる。 注2: 母音「ア」+助詞「ワ」は「アー」と発音される。よって、「世話は(セワワ)」は「セワー」になる。
○ 958	せわしい (忙しい)	忙しいこと。 「せわしない」とも言う。元々は「せはしない」で、語源は「狭ばしなよ」と思われる。「狭ばし」は「急(せ)く」ことで「忙しい」ことになる。「ない」は「なよ」の転音。 例: 今日はせわしゅーていけん。 (今日は忙しくてたまらん。)
959	～せんかい	①～しよう。 言い方は「せんかい㍿」。語尾を上げた時は勧誘の言葉になる。口調は柔らかか。 ②～しないか。～しろ。 言い方は「せん<u>かい</u>㍿」。「かい」を強めて語尾を下げた時は命令口調になる。 語尾に「や」を付けて「～せんかいや」もよく使う。【「せる(為る)」参照】 例: トランプをせんかい㍿。 (トランプをしようよ。) 例: その仕事をはよーせん<u>かい</u>㍿。 (その仕事を早くしないか。)
960	せんぎー もんぎー (せんぎもんぎ)	①混み合うさま。 ②おしくらまんじゅう。 ③話しがまとまらない。 ①の意味の時、「せんぎーもんぎー」は東地区の言い方で、西地区は「せんぎーまんぎー」と言う。また、大人数で話していて、話がまとまらない時に、「せんぎもんぎしよる。」と言う。 【「せんぎんごんごん」、「せんごーまんごー」参照】 例: せんぎもんぎしよーやー! (おしくらまんじゅうしようよ!)

No.	見出し	説明
961	せんぎん ごんごん (せんぎー ごんごー)	混み合うさま。押し合い圧(へ)し合い。 この言葉は森川さんによると、「詮議(せんぎ) 囁(ごうごう)」から派生したようだ。「せんぎんごんごん」は萩で使われている言い方だが、「せんごーまんごー」との対比で収録した。なお、萩の隣の福栄の方言集は「せんぎんごんごー」で「雑踏するさま」となっていた。 周南でも昔は言っていたか? 「山口なまり小唄」にも「せんぎんごうごう」と載っている言葉なので、県内で広く使われていたと思われるが、言い方は、「せんぎーごんごー」、「せんぎーまんぎー」、「せんぎーもんぎー」、「せんぎんごーごー」、「せんぎんもんもん」、「せんごまんご」、「せんばごんば」と各地で変化している。【「せぐ」、「せんぎーもんぎー」、「せんごーまんごー」、資料の「県内の方言区分」参照】 例:あの祭は、せんぎんごんごんだった。 (あの祭りは、押しあいへし合いだった。)
962	～せんこーに (～せんこー)	～しないで。～せずに。 「ある動作をすることをしないで」の意味。「～せんこー」と「に」を付けずに言うこともある。「こー」は「こと」がウ音便化したもので、「せんこと」が「せんこー」になった。【「～こーに」、「～んこー」参照】 例:あんまりむりょーせんこーに、やりんさいよ。 (あんまり無理をしないで、やりなさいよ。) 例:あのひたー、もんく一言わんこー、よー頑張るでね。 (あの人は、文句を言わずに、良く頑張るよ。)
963	せんごー まんごー (せんごまんご) (せんぎー まんぎー)	①沢山の人から求められ、欲しがられるさま。非常に評判の良いこと。 ②混み合うさま。人が多いさま。 防府、新南陽、鹿野の方言集には「せんごーまんごー」、または、「せんごまんご」で、①の意味が書いてあったが、徳地や周東では②と意味が変わっていた。字は「千呼万呼」か「千呼万喚」。 江戸時代の他所問答には「せんごばんご」と載っている。「万」は「ばん」とも「まん」とも読むので、同じことが読み方で変わったと思われる。 または、萩では②の意味のことを、「せんぎんごんごん」と言うが、この同じような言い方の意味が混同された結果なのか? それとも、合わせ技なのか? なお、西地区(湯野)では、②の意味で「せんぎーまんぎー」と言う。東地区(下松)では「せんごまんご」や「せんぎーもんぎー」と言う。 【「せぐ」、「せんぎーもんぎー」、「せんぎんごんごん」参照】 注:阿知須の方言集は「せんごまんご(千言万言)」で「いつも口数の多い人」となっていたので、意味がかなり変化していた。 余談:同じような言い回しの言葉で下関には「せんぐりまんぐり(やり繰り、切り盛り)」というのもあった。「せんぐり」は「先繰り」。「まんぐり」は「先」を「千」と見立てて、強調のために「万」を付け加えたものではなかろうか?
964	せんこと	しないように。 例:あぶない運転をせんことよ。 (危ない運転をしないようにね。)
965	せんずくに	しないままに。 「せん」は「せる」の否定、「ずく」は「～のままに」。 【「せる(為る)」、「～ずく」、「～んずく」参照】 例:勉強せんずくに、遊びに行ったでよー。 (勉強しないままに、遊びに行ったよ。)

No.	見出し	説明
966	せんたくする	着物の小修理をする。 洗濯ではない。山口、広島、島根、四国、福岡、大分、石川、富山で使われていたようだが、我々は聞いたことがない。方言地図に載っているので、今、使われる「洗濯する」とあまりにも意味が違う方言が昔はあった、と言う記録の意味で収録した。
967	せんちん (せんち)	雪隠(せっちん)(せんち)。便所。
968	～(せ)んでも (～(せ)いでも) (～(せ)ーでも)	～(し)なくても。 「～(し)なくても」という打ち消しの逆接仮定条件を表す場合、山口弁では、動詞の未然形と接続助詞「でも」の間に打ち消しの助動詞「ん」、もしくは「い」が挿入するか、動詞未然形の活用語尾が長音化して「でも」に接続する。「来なくてもいい」は「こんでもえー」「こいでもえー」「こーでもえー」と表現され、「食べなくてもいい」は「たべんでもえー」「たべいでもえー」「たべーでもえー」となる。 【「～せーで」、「～へーでもええ」参照】 例：A；まだ、遊んでもえー？ B；もー遊ばんでもえかろー。べんきょーしーさん。 例：A；まだ、あそーでもえー？ B；もーあそばーでもえかろー。べんきょーしーさい。 (A；まだ、遊んでもいいか？) (B；もう、遊ばなくてもいいだろう。勉強しなさい。)
969	～せんと	①～しないで。②～しないと。 二つの使い分けに関しては「～んと」を参照のこと。 【「せる(為る)」、「～んと」参照】 例：勉強せんと、遊んじよる。(勉強しないで、遊んでいる。) 例：勉強せんと、いけんよ。(勉強しないと、いけないよ。)
970	せんど	しないぞ。 【「せる(為る)」、「～ど」参照】 例：そねーなこたー、せんど。(そんなことは、しないぞ。)
○ 971	せんない (詮無い)	①辛い(つらい)こと。難儀なこと。煩わしい(わずらわしい)こと。 ②[仕方がない。甲斐がない。無益。] 「せんなあ」、「せんなえー」とも言う。苦しい上に、情けない感じ。「せんながる」は「しきりに辛がる、難儀がる」こと。山口、広島、島根で使われているようだ。言い方は「 <u>せん</u> ない」。関西の「せんない」は②の「仕方がない」の意。国語辞書に載っているのはこちらの意味。 【「たいぎい」参照】 例：そりゃー、せんない話じゃねえー。(それは、辛い話だね。) 例：そねーに、せんながりーさんな。 (そんなに、難儀がってはいけないよ。)
972	～せんによー いけん	～しなくてははいけない。 宮崎弁の流行語となった「どげんかせんといかん」は、山口弁では「どねーかせんによーいけん」になる。 【「せる(為る)」、「どねーか」、「～んによー」参照】 余談：「どげんかせんといかん」は宮崎でも鹿児島寄りの都城の言葉。日向での言い方は「どんげかせんといかん」らしい。

No.	見出し	説明
973	せんばをやく (せんばを焼く)	お節介をすること。いらぬ世話を焼くこと。 宇部で使う。「てんば」の「て」が弱くなって、「せんば」に変化したと思われる。【「さいこをやく」、「さいたらやく」、「さいばーやく」、「せこをやく」、「ちゃんばをやく」、「てんごうをやく」、「てんばを焼く」、番外の「昔の山口弁?『いらぬさいこ』」、番外の「昔の言葉、行事?『さいろり』」参照】
974	せんぼーがええ	しない方がよい。 「せる」の否定が「せん」。強く止める時は「 せん ぼーがええ」。疑問を持ちながら弱めに止める時は「せん ぼー がええ」になる。【「せる」参照】 例:そねーなこたーせんぼーがええでー。 (そんなことはしない方がよい。)
975	せんみ (せんみつ)	嘘つき。 千に三つの真がある意味。あまり言った記憶はない。ただ、研究開発では、方言の「嘘つき」の意味でなく、千個トライして、当たるのは三つくらいの厳しさを教える言葉として、「せんみつ」、「せんにみつ」を使うので収録した。【「うそいい」、「まんみ」参照】
976	そ	①仲間(完成品)。同志。一緒。②それ 物の仕分けをする時に、良い品、完成品の仲間を指す使い方をする。②の意味で「ほ」を使う地域もある。 【「～そ」、「～ほ」参照】 例:よそもんは、そこにせまーでよ。 (よそ者は、仲間にならないようにしようよ。) 例:《色々あるものを見て》これはそ。そっちは違う。 (これは良い品。そっちは違う。) 例:《あるものを指して》それがそいね。(それが、そうよ。)
977	～そ (～ほ)	「～の」の意味。 周南では使わないが、気になる言い方である。山口弁として、良く知られているので、収録した。 「防府地域の方言」には、「そ」は助詞で、「の」の意味。 ①連体形について上の語句に体言の資格を与える。 「わたしゃー、みるそがええ(私は見るのがよい)」 ②明確な断定、説明を表す。 「あれが最後の試合じゃったそいね(あれが最後の試合だったのよ)」 ③問いの意を表す。 「どねーするそかね(どうするのかね)」 と説明あり。 「～ほ」と言う地域もある。「ほ」は「そ」が弱くなった言い方で使い方は同じらしい。旧佐波郡が「～そ」で、旧吉敷郡が「～ほ」となっており、境界線は台道辺りのようだ。また、泣いている子に「泣かないの」と言うように命令口調の時も「泣かないそ」、「泣かないほ」のように言うようだ。さらに、「あかいそ、あかいほ(赤いそれ)」のように代名詞として「それ」の意味でも使う。 (KRYラジオの朝の方言コーナーより) 【「えーど」、「そ」、「～ほ」参照】
978	そいで	それで。 「エ」が「イ」に母音交替した例。【「そんで」参照】 例:そいでねー、遊びに行ったんちゃ。 (それでね、遊びに行ったのよ。)

No.	見出し	説明
979	そうけ (箆筍)	竹で編んだ浅い「ざる」。 「そうき(箆器)」のこと。今頃は、野菜を洗って乾かすために使う。元は、塩を作る時の「ざる」から付いた名前。 塩を取るために、潮を掛けて、乾燥させた海藻を焼き、その灰を水に溶かしてザルでこすと、濃い塩水が得られる。それを釜でいり立てるのが「藻塩焼く」である。その際、使用するザルを「しおけ(塩筍)」と言った。この「しおけ」が訛って、「そうき」、「そうけ」になり、これがザルの総称になった。 もうひとつの説は、「簀麻筍(すおけ)」を早口で言ったと言うもの。「簀(す)」は竹で編んだもの、「麻(お)」は中に入れておく麻のことで、「お」は麻の古語、「筍(け)」は容器のこと。【「てぼ」、「てみ」参照】 余談:「麻筍(おけ)」が「桶」に転じた。
980	ぞーず (どーず)	雑水。 食器を洗った水や魚屋の魚の頭や骨が入った水のこと。「ぞーずい」や「どーずい」とも言う。残飯や塩分が入っている水なので、家畜の肥料に混ぜて与えたそう。
○ 981	そーそーする	せわしく動く。 最近あまり言わないか? 字は「草草」か「忽忽」。 例:そねーに家ん中をそーそーしなさんな。 (そんなに家の中を動き回らないように。)
982	そーめんながし (素麺流し)	素麺を流しながら食べること。 西日本は「そーめん流し」、東日本は「流しそーめん」。 【番外の「東西の違い」参照】
983	そーゆーちゃー なんじゃが	言い難いことだが。 例:そーゆーちゃーなんじゃが、 こりゃーあんまりおいしゅうないでー。 (言い難いが、これはあまりおいしくないよ。)
984	そがあな (そがいな)	そんな。そのような。 「こそあど」言葉で、「こがあな(こな)」、「あがあな(あんな)」、「どがあな(どんな)」と使う。最後の「な」が「に」になると、「そがあに(そんなに)」となり、他の「こそあど」の変化は、「こがあに(こなに)」、「あがあに(あんなに)」、「どがあに(どんなに)」となる。「そがいに」も同様。 【「あがいな」、「あげえに」、「こがあな」、「こがあに」、「そんとな」、「どがい」、「どない」参照】 例:そがあな事を言われても、困るいのー。 (そんな事を言われても困るなあ。) 例:《映画が面白かったと言っている子供に》 そがいに面白かったでー。(そんなに面白かったかね。)
985	そぐい	合う。調和。 「そぐう」の連用形が名詞化したもの。合う場合は「そぐいがええ」、合わない場合は「そぐいがわりー」。 【「そぐう」、「そぐわん」参照】 例:ここにこの絵を飾ったら、そぐいがええかも知れんね。 (ここにこの絵を飾ったら、合うかも知れないね。) 例:あの人とあの人じゃ、そぐいがわりーじゃろう。 (あの人とあの人では、合わないだろう。)

No.	見出し	説明
○ 986	そくう (続う)	繕う(つくろう)。 穴や隙間を埋めて、繕うこと。靴下の穴明きを繕う時や、鍋などを修理する時に良く使う。続飯(そくい: 飯粒を練って作る糊)を摺り込んで、あかぎれを治療することから、裂け目などを繋ぎ合わせることを「そくう」と言った。これから、修理の意味に使うようになった。
987	そぐう	合う。似合う。釣り合う。 ある物に対して、ある物を取り合わせて、配合の良いこと、調和していること。「添食(そぐう)」の意。一つの物に対して、もう一つの食い合いが良いことを指す。人に対しても使う。反対は「そぐわん」。この否定の使い方の方が多い。 【「そぐい」、「そぐわん」、「におーちよる」、「ふさう」参照】 例:《見合い写真を見ながら》 あの人にゃー、この人がそぐうような気がするがねー。 (あの人には、この人が合うような気がするがね。) 例: あの花がそぐやー、ここへ飾りゃーええ。 (あの花が釣り合えば、ここに飾れば良い。)
988	そぐる	稲のはかま(あくた)を除けること。 下の方の葉を取り除いて、茎主体にすること。藁のはかまを取ることに。 【「あくた」参照】 例: わらをそぐいて縄をなう。(藁のはかまを取って縄をなう。)
989	そぐわん (そぐわぬ)	合わない。似合わない。釣り合わない。 どちらかと言うと、「そぐう」より「そぐわん」を使う方が多いが、同じ場面なら、今頃は、「合わん」や「似合わん」の方が優勢かな? 【「そぐい」、「そぐう」参照】 例: こりゃーここにゃーそぐわんよーな気がするのー。 (これはここには似合わない気がするね。)
990	そけ (そけー) (そけら)	①量。嵩(かさ)。②沢山(たくさん)。 我々は使っていないが、KRYラジオで紹介されていたので、収録した。「総計」の変化したものらしい。石見、広島、岡山でも使う。「そけら」は「そーけーら(総計ら)」が短くなったもの。 例: ごはんのそけがおいーのー。(ご飯の量が多いなあ。) 例: さきょーそけーのーじゃーいけません。 (酒をたくさん飲んではいけません。)
○ 991	そげる (削げる)	①木を斜めに切る。 ②本筋から外れる。横道にそれてしまう。 ③機嫌が悪くなる。気分を損なう。 木や石を割る時に、思った通りに割れないで、それてしまうことを言う。人に対しては、本筋から外れて、思った通りにできない、真っ当に取り組めないことを言う。また、③の意味にも使うようだが、我々は使っていない。なお、防府、柳井、周防大島の方言集には③の意味が載っていたので、このあたりでも使っていたようだ。 例: 《木や石を割る時に》 そかーそげるかも知れんけー慎重にやってみーよ。 (そこは、斜めに割れるかも知れないから、慎重にやってみろよ。) 例: あいつあーすぐそげるんじゃけー、弱ったものいやー。 (あいつは、すぐ横道にそれてしまうのだから、困ったものですよ。)

No.	見出し	説明
992	そこがない (底が無い)	大酒飲み。飲み助。 「おろち(大蛇)」とも言う。【「いっしょうかぶ」参照】
993	そこまめ (底豆)	南京豆。落花生。(野菜) 東地区(三井)で使う。他の地区は我々の年代はもう使っていなかった。 「防長動植物方言考」で調べたら、県内には他に「たわらまめ」、「ひょうたんまめ」と言うのもあったが、「そこまめ(底豆)」と言う地域が圧倒的であった。この三つの呼び名は豆の形や、豆が地下に生ることから名付けられたと思われる。【番外の「野菜の呼び名」参照】
994	そっきょう (率軽) (そっきょー)	軽率なさま。 「そっきょーさく(率軽作)」は「慌て者」。「そっきょーもん(率軽者)」とも言う。今頃はほとんど使わない。我々も聞いた程度。 KRYラジオの森川さんの方言コーナーで、竹重アナが、「『軽率』をひっくり返した言葉遊び的な感じで言われ出した方言かも」と。森川さんの賛意あり。【「きょそ」、「とんきょう」参照】 例：あのひたーそっきょーなひとじゃ。(あの人は慌て者だ。) 例：きのーはちーとそっきょうじゃったのー。 (昨日はちょっと軽率だったなあ。)
995	そったら	それなら。そうしたら。 【「そんなら」、「ほいなら」、「ほったら」、「ほんだら」参照】 例：そったら、どうしょーかあー。 (それなら、どうしようか。)
996	そねーに (そんとに)	そんなに。 「そんとに」も良く使う。「こそあど」の変化は、「こねーに、こんとに(こんなに)」、「そねーに、そんとに(そんなに)」、「あねーに、あんとに(あんなに)」、「どねーに、どんとに(どんなに)」となる。最後の「に」を省略して言うことも多い。【「そんとな(そねーな)」参照】 例：《仕事がうまくいかないで、てこずっている人に》 なによーそねーに、あずりよるんかねー。 (何をそんなに、てこずっているのかね。) 例：そねーにゆーけー、こねーなったらーがやー。 (そんなに言うから、こんなになっただろうが。)
997	そばえ (すばえ)	通り雨。村時雨。時雨。夕立。驟雨。 「そばえる」が名詞化したもの。戯れるように、じゃれるように雨が降るから、この名前が付いた。「すばえ」とも言う。各地の方言集に「時雨のこと」とあったり、「夕立、にわか雨のこと」とあったりするので、雨の種類で使い分けがあった可能性もあるが、まとめて「驟雨(しゅうう)」と思えば良いと思う? 【「そばえる」参照】
998	そばえる (戯える)	①じゃれる。戯れる。甘えてふざけて騒ぐ。 ②通り雨が降る。小雨が降る。 古語「戯(そば)ふ」からの転。「側へ寄りかかり、戯れる」の意。②の意味では我々の年代は使っていない。明治生まれの祖父母の年代が使っていたのを聞いた程度。 【「おがちる」、「すばえる」、「そばえ」、「ちばける」、詳しくは「つばえる」、「またえる」参照】 例：猫がそばえよったでよー。(猫がじゃれていたよ。)

No.	見出し	説明
999	そばおしき (傍折敷)	むささび。(小型哺乳類) 国語辞書によると「傍折敷」とは「①膳の名。平折敷に脚をつけたもの、②家紋の一つ。正方形を二つ組み入れた形のもの」とある。むささびが飛んだ時の姿から名付いたもの。西地区で使用。
1000	そびく (ぞびく) (どびく)	引きずる。引っ張る。 「ぞびく」とも言う。「裾をそびく(裾をひきずる)」の様に使う。防長方言考には「裾曳(すそひく)」の略語とあり、国語辞書には「そびく(誘く)」で「①誘う。②無理に連れて行く。しょっぴく。」とあるので、両方を紹介しておく。県西部で主に使っているようだが、東地区(笠戸島)では、魚釣りで餌をちょこちょこ動かすことを「そびく」と言っていた。また、「どびく」とも言う。山口弁では「ぞ」が「ど」に変化するので、「どびく」になる。 余談：広島では「そびく」または「そぶく」で赤ちゃんをわざとお愛想をして笑わすことを言うらしい。ただし、単にあやすのは「すかす」。引きずる意の「そびく」と語源は違うが言い方が同じになった例か?【「どびく」、「ひこじる」、番外の「昔の言葉、行事?」の「あいちょうじる」参照】
1001	そめぐ	急ぐ。 県東部(伊陸:いかち)で使う。柳井の方言集に「①急ぐ 気ぜわしくする ②うろたえる」とあったが、他の地域には載っていないので、柳井地区での方言かも知れない。周南では使っていないかも? 例:そめがんこと。(急がないように。)
1002	そらず	そらまめ(空豆)。(野菜) 「空豆」の「豆」を「ず」と読んだ言い方。中国、四国地方で使う。 【「とうまめ」、番外の「野菜の呼び名」参照】
1003	そらみー (そらみーや)	それみろ。それみなさい。 「それみー」とも言う。【「それみー」参照】 例:そらみー、できんかったろーが。(それみろ、出来なかっただろう。) 例:そらみーや、ゆうたじゃろーがー。(それみなさい、言っただろうが。)
1004	そりゃーそうと	そういえば。 例:そりゃーそうと、こないだ話したのは、どうなったかーのー。 (そういえば、この前話した件は、どうなりましたか。)
1005	そりゃーそれ	その通り。 「それはその通り」で、相手の言うことを肯定する相槌の言い方。 例:A;人に恥をかかすもんじゃーない。(人に恥をかかすものではない。) B;そりゃーそれ。(その通り。)
1006	そりゃー なにーいや (そりゃー なにーいね) (そりゃー なにーいの)	それこそ。 「それはなにと言うべきか」の前段の「それはなに」に終助詞の「い」「や(ね)(の)」が付いた山口弁の言い方。同様の言い方「それはなんと言っただらいいか」の時は、「そりゃーなんちゅーか」「そりゃーなんちゅーたらええか」になる。【「～い(～いね)(～いの)(～いや)」参照】 例:そりゃーなにーいや、 バケツーひっくり返したよーな大雨じゃったいやー。 (それこそ、バケツをひっくり返したような大雨だったよ。) 注:子音内の母音「エ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「それは(ソレワ)」は「ソリヤー」、「訳は(ワケワ)」は「ワキヤー」となる。 【「ありゃーどうか」、「こりゃーええ」、「わきゃーない」参照】

No.	見出し	説明
1007	それいね (その1:それ)	そうよね。 感動詞の「それ(其れ)」は、相手の言葉を肯定したり、発言に相槌を打ったり、驚きの気持ちを表したりする場合に使う。 標準語の「そう(然う)」にほぼ相当するが、より気持ちを強調した言い方で、山口弁の「それですか」は標準語の「そうですか」より「そうなんですか」の方に近い。 中年層以上の日常会話の中ではきわめて使用頻度が高い。子供や若年層が使うことは少なく、一種の大人言葉としての位置付けができる方言。 【「それかね」、「それぞれ」、「それですいね」、「それですか」参照】 例:「それですいね(そうなんですよ)」、 「それいね(そうなのよ)」、 「それっちゃ(そうなんだよ)」、 「そりゃーそれでよ(それはそうだぞ)」、 「それかの(そうなのか)」等。 余談:周南市の戸田(へた)にできた道の駅「ソレーネ周南」は、①「それ、いいね」と喜んでもらえる道の駅の意味と、②「それいね」のくだけた言い方「それーね」の合わせ技で決まったらしいが、みんな②の意味と思っている。 注:「それいね」は「そうなのよ」、「そうかね」の意味で、相手の発言に対して、肯定や相槌などの意を示す時に使うが、ここでは、「それ」について本欄で、「い」について次の欄で説明をしている。
1008	それいね (その2:い)	～よ。 「い」は、文末にあって念を押す気持ちを添えたり、強調の意を表したり、語調を整えたりする終助詞。「～よ」ぐらいの意味で使われる。下に念を押す意を表す終助詞「ね」、「の」、「や」をしばしば伴う。「それいね」は女言葉、「それいの」、「それいや」は男言葉。 【「～い」、「～いね」、「～だい」、「～ちゃー」、「～で」、「～ど」、「～といや」、「～ね」、「～のー」、「～や」参照】 例:「そのうちできるいね(そのうち出来るよ)」、 「そねーなこたー知っちゃるいや(そんなことは知ってるよ)」、 「わたしがいきますいね(私がいきますよ)」、 「はよーたべよいや(早く食べようよ)」、 「わたしもいね(私もよ)」、 「そりゃーあんたかいの(それは君かい)」等。
1009	それかね (それかー)	そうなのか。そうなの。そうかい。 どちらかと言うと、「それかね」は女言葉で、「それかー」は男言葉。 【「それいね(その1:それ)」、「ほれかね」参照】 例:A;こないだの大雨のときゃー、あるきじゃったけー、 びっしゃになってしもーたいや。 (この間の大雨の時は、徒歩だったから、 びしゃびしゃになってしまったよ。) B;それかね、そりゃー大変じゃったねー。 (そうなの、それは大変だったね。) 余談:「それかね」は標準語の疑問を表す「それか?」に問い掛けの気持ちを表す「ね」が付いた「それかね(それですか)?」の意味でも使う。この場合は「こそあど」の変化をする。また、「それかー」は問いを強調した言い方としても使う。【「～かー」参照】

No.	見出し	説明
1010	それぎり	それっきり。 例：それぎり、こんようになったいや。 (それっきり、来なくなったよ。)
1011	それぞれ (然れ然れ)	そうそう(然う然う)。 相手に対して、同意や肯定の気持ちを表す時に使う。 【「それいね(その1:それ)」参照】 例：A; あん時もう一た饅頭は、ぶちうまかったいねー。 (あの時もらった饅頭は、大変おいしかったよね。) B; それそれ、あんときゃー昼抜きじゃったけーね。 (そうそう、あの時は昼食を食べていなかったからね。)
1012	それたー ゆわんある	それより多い。 ある数字、量を聞いた後に言う言葉で、「言わないほどある」こと。今、聞いた数字(量)よりかなり多い時に使う。「それ」を具体的な数値に置き換えて言う時もある。【「～たあ」、「ゆう」参照】 例：A; そこにセメント袋は5袋あるか? B; それたーゆわんあるでー。(それより沢山あるよ。) 《7袋ならこう言わない。10袋以上あるなら言う。》 例：こっから、あっこまでっちゃー、 10キロたーゆわんあるともーがのー。 (ここから、あそこまでなら、10km以上あると思うがな。)
1013	それっちゃー (それっちゃ)	それだよ。そうなのよ。その通り。そうなんだよ。 「それ」に「～よ」の意味の終助詞「ちゃ」が付いた言葉。相槌に良く使う。最後を「ちゃー」と伸ばして言うことが多いが、「ちゃ」と短く言うこともある。 【「それですいね」、「ちゃー」参照】 例：《相手の面白かったと言う話を受けて》 それっちゃ、ありゃーおもしろかったいねー。 (その通り、あれは面白かったよね。)
1014	それですいね (そーですいね)	そうなんですよ。 同意を強調する時は「それ」や「そー」を強く言い、軽い同意の時は全体を平板式に言う。【「それいね(その1:それ)(その2:い)」、「～ですいね」、「それっちゃー」参照】 例：A; あそこのおとんぼは、よー悪さをするちゅーじゃないかね。 (あの家の末っ子は、よく悪さをすると言うじゃないか。) B; それですいね。おやーよわっちゃったですいね。 (そうなんですよ。親は困っていましたよ。)
1015	それですか	そうなんですか。 相槌を打つ時に使う。 【「それいね(その1:それ)」参照】 例：A; 抗生物質がでだちの頃じゃったけー高かったが、 あの薬がきいたんじゃろーねー。あれからよーなったいねー。 (抗生物質が出たばかりの頃だったから高かったが、 あの薬が効いたのだらうね。あれから良くなったよ。) B; それですか。そりゃー良かったですねー。 (そうなんですか。それは良かったですね。)

No.	見出し	説明
1016	それべくさ (それべくそ) (それっぽち) (それっぽち)	それだけか。「ただそれだけ」の意。 少ない時に言う。西地区で使用。「それっぽち」、「それべくそ」とも言う。東地区は「それっぽち」、「それっぽち」の方が主流だった。 【「べくそ」については「ちいとべくそ」、「べくさ」参照】 例：それべくさしきやー取れんじやったか。 (それだけしか取れなかったか。) 余談：我々は使っていないが、各地の方言集に「それべくそうろう(其可候)」で「それっきり、放置、うやむやにする」等の意味に使っていた方言があった。それっきり音沙汰無い場合に「あれ以来、それべくそうろうじゃ」のように使ったらしい。
1017	それみいー (それ みいーや)	それみろ。それみなさい。 「そらみー」とも言う。【「そらみー」参照】 例：それみいー、失敗したろーが。 (それみろ、失敗しただろう。) 例：それみいーや、いわんこっちなかろうがー。 (それみなさい、だから注意しただろうが。)
1018	そろそろ	ゆっくり気を付けて。 「ゆっくり」の意味だけでも使うが、挨拶用語として使う時は「気を付けて」の意味が加わる。昔、お年寄りには使っていたが、今頃はまず聞かない。言い方は「そろゝそろゝ」。【番外の「挨拶の表現」参照】 例：そろそろ、おかえりませ。(気を付けて、お帰りなさいませ。) 例：そろそろ、行きんさい。(ゆっくり気を付けて、行きなさい。)
1019	そろっと (そろーと)	そろりと。ひそかに。静かに。 「そろそろ」の「そろ」で字は「細(そ)ろ」。「そろーと」とも言う。 【「こそっと」、「のそっと」参照】 例：分からんように、そろっと行きいよ。 (気付かれないように、静かに行きなさいよ。)
1020	そん (尊)	血統。遺伝。系統。 字は「尊」。西地区で使用。昔は熊毛、都濃では「そんだれ」とも言っらしい。「たれ」は「垂れ」か？【「ばっけ」参照】 例：あれは長生きのそんじゃから、心配せんでもえー。 (あの人は長生きの家系だから、心配しなくて良い。) 余談：仏様やお地藏さんを数える時は、数助詞として、この「そん(尊)」を使う。
1021	そんで	それで。 ラ行音が撥音化した例。他には「そんぐらい(それくらい)」、「そんとき(その時)」、「そんとお(その通り)」などがある。【「そいで」参照】 例：そんでねー、遊びに行ったんちゃ。 (それでね、遊びに行ったのよ。)
1022	そんとー	そのよう。そのようなもの。その通り。 ナ行音が撥音化した例。また、「こそあど」言葉である。 【「あんとうに」、「こんとうに」、「そんとーり」参照】 例：《店で一つしか残っていない物を指して》 そんとーななー、もーないんかね。 (そのようなものは、もう無いのですか。)

No.	見出し	説明
1023	そんとーりに	その通りに。 ナ行音が撥音化した例。状態や方法を強調したい時によく「とーり」を使う。 普通の場合は「とー」のことが多い。また、「こそあど」言葉である。 【「あんとうに」、「こんとうに」、「そんとー」参照】 例：そんとーりにせりゃーええんかね。（その通りにすれば良いのかね。）
1024	そんとき	その時。 ナ行音が撥音化した例。「こそあど」言葉である。【「ほんとき」参照】 例：そんときゃー、わしゃーおらんかったで。 （その時は、私はいなかったよ。）
1025	そんところ	そのところ。その点。 【「あんところ」、「こんところ」参照】 例：そんところはどねーなちよるんかねー。 《図面や地図を見ながら》（その所はどんなになっているのかね。） 《話を聞きながら》（その点はどんなになっているのかね。）
1026	そんとな （そねーな）	そのような。そんな。 「そねーな」も良く使う。「こそあど」の変化は「こんとな、こねーな（このような）」、「そんとな、そねーな（そのような）」、「あんとな、あねーな（あのような）」、「どんとな、どねーな（どのような）」となる。 【「あげえに」、「そがあな」、「そねーに（そんとに）」参照】 注：「こそあど」とは、「こ」「そ」「あ」「ど」の違いで同じような言い方をする言葉群のこと。 例：そんとなことをゆうちゃーいけんにーねー。 （そのようなことを言っではいけないよ。） 例：そねーなことー、いいさんな。（そのようなことは（を）、言わないの。）
○ 1027	そんなら	それなら。 「それなら」の転。言い方は普通は「そん <u>なら</u> い」、強く言う時は「 <u>そん</u> ゝなら」になる。【「そつたら」、「ほつたら」参照】 例：そん <u>なら</u> い、もうしまいにしようかー。 （それなら、もうお終いにしようか。） 例：《してあげようとしたのに、「もうするな」と怒られて》 <u>そん</u> ゝなら、もうしちゃげんよ! （それなら、もうしてあげないよ!）
1028	そんならー （こんならー） （あんならー） （どんならー）	①そいつ達。②そいつ達は。そいつ達を。 「こそあど」言葉である。基本は「こんならー」は「こいつ達」、「あんならー」は「あいつ達」、「どんならー」は「どいつ達」である。しかし、「あんなー」や「こんなー」の欄に示すように、山口弁の音韻法則で、語尾が「アー」と伸びた時は助詞「は」や「を」を含む言い方になるので、「そんならー」は「そいつ達は」、「そいつ達を」の場合もある。よって、ただ単に「〇〇達」なのか「〇〇達は」、「〇〇達を」なのかは、文の流れから判断するようになる。 言い方は「こん <u>ならー</u> 」、「そん <u>ならー</u> 」。怒って言う時は、「 <u>こん</u> ならー」、「 <u>そん</u> ならー」のように前を強く言う。 【「あんなー」、「こいらー」、「こんなー」参照】 例：《少し離れた所にいる人達を指して》 そんならーは、なによーしょーとおもーちよるんかー。 （そいつ達は、何をしようと思っているのか。） 例：そんならー連れて行け。（そいつ達を連れて行け。）

No.	見出し	説明
1029	～たあ (～たー)	①～より。(比較) ②～とは。 ①の比較の時は「～たーゆわん(～とは言わないくらい→～よりも多く)」で使うことも多い。比較でも使うのが山口弁の特徴。 ②の「～とは」は「と」を強めた言い方で「君たーもう絶交だ(君とはもう絶交だ)」や「驚き、怒り、感動などの気持ち」を表す「まさか優勝するたー思わんかった(まさか優勝するとは思わなかった)」などの使い方をする。 「～たー」は「～とは」の山口弁の言い方で、子音内の母音「オ」+助詞「ワ」は概ね「アー」と発音されるので、「～とは(～トワ)」は「～ター」になる。 【「それたーゆわんある」、「ゆう」参照】 例：去年たあ、寒い。(去年より、寒い。) 例：あれたー、これのほーがええ。(あれより、これの方が良い。) 例：10年たーゆわん、たっちょろー。 (10年とは言わない位、経ったろう。) →(10年以上、経っている。) 例：あんたが、のけちよったものたー知らずに、食べてしもーたいや。 (あなたが、取って置いたものとは知らずに、食べてしまったよ。)
1030	～たーね (～たーの) (～たーや)	～たよ。～たぞ。 過去・完了の助動詞「た」が長音化して、念押し・感動・詠嘆の助動詞「ね」「の」「や」が付いたものだが、元々は文末にあって感情を添えたり、軽く念押しする「わー」が付いた「たわーや」「たわーの」「たわーや」が音韻融合して、現在の言い方になったものらしい。 【「～わーね」参照】 例：「晴れたーね(晴れたよ)」、 「そねーゆーたーの(そう言ったぞ)」、 「えらかったーや(苦しかったぞ)」等。
1031	～たい	～たよ。 「たよ」の転音。 例：①大方そうじゃろーと、おもーたい。(大方そうだろうと、思ったよ。) ②おおかたそーじゃろーともーたい。(大方そうだろうと、思ったよ。) 注：①の言い方もするが、普通は②の言い方になる。 【「～ともう」参照】
1032	～だい	～よ。～だよ。 「だよ」の転音。【「～い」、「～いね」、「それいね(その2:い)」、「～ちゃー」、「～で」、「～ど」、「～ね」、「～のー」、「～や」参照】 例：今日は暑うていけんだい。(今日は暑くてやれんよ。)
1033	たいがたい (たえがたい)	①申し訳ない。 相手の厚意に対し済まなく思う、申し訳ない、恐縮である、ありがたいという気持ちの時に使う。 ②きまりが悪い。 気恥ずかしいという気持ちを表す場合に使う。 漢字は「堪え難い」。言い方は「たえーがたえー」。 【「よわります(弱ります)」参照】 例：そねーなことをしてもろーたら、たいがたいのー。 (そんなことをしてもらったら、申し訳ないね。) 例：こねえにもろうて、たいがとーあります。 (こんなにもらって、恐縮です。) 例：《カメラを向けられて》たいがたいね。(恥ずかしいね。)

No.	見出し	説明
1034	だいから	足踏みの杵。踏み臼。 精米や餅つきに使う。字は「台唐」。「唐」は「唐臼(からうす)」の略。吉田松陰が本を読みながら踏んだ臼のことと言えば分かりやすいか？ 【「なんじょう」、番外の「昔の言葉、行事？」の「たこんたー」参照】 余談1：周防大島の方言集に「だいがらぼし」とあった。「北斗七星」のことである。 余談2：野尻抱影の「星の方言集 日本の星」に広島、山口で四角形の「からす座」のことを「ダイガラボシ」と言うことがあったが、その後に、「周防大島でいうダエガラボシは北斗の異名である。これは長いキネがあるので、からす座よりもその名にふさわしいといえる。」とあった。 (注：「ダイガラ」と「ダエガラ」は原文通り)
1035	たいぎい (大儀い) (たいぎな)	面倒くさい。骨が折れる。億劫である。体調が悪くて気が進まない。 古語の「大儀(面倒で手間が掛かること)」が形容動詞化したもので、名詞と形容詞の「大儀」は標準語。また、「たゆげ」の転と言う説がある。「たゆげ」は「たゆむげ」で「心がゆるむ、疲れる」の意。弛緩した様子が面倒な気持ちを表しているのか？ 「たえーぎい」と言う人もいる。昔はこの言い方だったと思うが、今は「たいぎい」と言う人の方が多い気がする。肉体的に面倒な時に使う率が高い。精神的な方が強い時は「せんない」か？ 言い方は「たいぎい」と「ぎ」を少し強めに言うが、平板式に言うことも多い。 【「せんない」、「やかましい」参照】 例：この仕事は、たいぎいーの一。 (この仕事は面倒くさいなあ。) 例：そうかー、たいぎなことになったの一。 (そうか、面倒くさいことになったね。) 余談：大分、宮崎は「よだきい」。古語「よだけし(弥猛し：面倒だ)」が語源らしい。
1036	だいぐら (大暗) (だいくら)	急に暗くなる。 ゲリラ豪雨のように、空が急に暗くなって、大雨が降りそうになる時のことを言う。阿知須の方言集には「真っ暗闇」の意味とあったので、昔は「暗闇」のことも言っていたのかも知れないが、現在は天気用語になっている。「だいくら」とも言う。「大暗闇」の略と思われる。 例：だいぐらになったー！ 今から来ると。 (急に暗くなった！ 今から雨が降るぞ。) 注：例文は「今から」の後に「雨が」を省略している。
1037	だいにんすり (大根摺り)	大根おろし。おろし金。 ちなみに「おろし大根」を「すり大根」と言う。 【「すりだいこん」参照】
1038	たいさま (たえーさま)	大分(だいぶん)。しばらく。長時間。 西地区や防府で使う。言い方は「たえーさま」で、丁寧な言い方になる。新南陽の方言集には「たんさま」、鹿野の方言集には「たださま」とあったので、このような言い方もあったようだ。 【「たっさま」参照】 例：たえーさま、お待たせしました。 (大変長らくお待たせしました。)

No.	見出し	説明
1039	だいしょう (だえーしょー) (だえーしょ)	少しは。多少は。幾分(いくぶん)かは。 量、年令、回数等、いろいろなものに使う。言い方は「だえーしょー」、「だえーしょ」が正調だが、「だいしょう」の方を使う人が多くなっている気がする。本来は「大きい物事と小さい物事」の「大小」の意味があるが、方言の使い方は「程度が小さい」と言う「小」の意味に特化している。 【「ちいたあ」、「ちいと」参照】 例：《気分が悪くて寝ている人の横で》 A;様子はどねえなかいね？(様子はどうですか?) B;だいしょう、ええみたいじゃね。(少しは、良いみたいです。) 例：わけーもんにかこまれちよったら、 だえーしょー若返ったよーな気がせるんじゃが、うそかの一。 (若い者に囲まれていたら、 少しは若返った気がするのだが、間違いかなあ。)
1040	たいしょー	店主。親方。おやじ。ご亭主。 商人、請負師等に多く用いられる。「大将」からか? 例：たいしょう、この匏(かんな)をつかーさい。 (旦那さん、この匏を下さい。)
1041	たいたい	魚(さかな)。(魚)(幼児語) 柳井や須佐の方言集によると、他に「びーびー」とも言ったようだが、我々は使っていない。また、「鯛」のことも「たいたい」と言った。 【「がんが」、「びーびー」、番外の「幼児語」参照】 余談：『広島県方言辞典』に魚の幼児語の説明として、「東(岡山県境)に『とと類』、広島・出雲・周防に『たいたい』、西石見・周防に『びいびい』。また、周防に『じじ』、伯耆に『ぶうぶう』、東石見に『べべ』、隠岐に『えぼ』と言った類が、それぞれまとまっている。」とあった。「たいたい」も方言だった。
1042	だいつぼ	肥溜め壺。 野に作る直径4尺、深さ6尺位の大きさ、漆喰で固めて作り、肥を入れて腐熟させるためのつぼ。今はもう無い。なお、牛馬の堆肥は「だいごえ」。 【「こえたんぼ」参照】 余談：田布施、柳井地方は「こがつぼ」または単に「こが」。大便のことを「はこ」と言っていたので「はこがつぼ」の省略形か? 「肥(こえ)がつぼ」の略かも? 「こが」で「水桶」の意味に使うところもあるようなので、違う意味があるのかも? なお、「はこ」は昔、大便を箱にしていたからで、本居宣長が日本で最も古い言い方と書いているらしい。言い方は「<u>はこ</u>」。 【「だる」参照】
1043	だいどこ	台所。 【「くど」、「はいらず」、「はしり」、「はんどう」参照】 例：このおかしゃー、だいどこのはいらずになおしちょきー。 (このお菓子は、台所の食器棚(網張り)に仕舞っておきなさい。)
1044	だいめん (だえーめん)	大分(だいふ、だいぶん)。かなり。 言い方は「だえーめん」。 例：《体調はどうかと聞かれて》 だえーめん、よーなつたとみー。 (大分、良くなったよ。)

No.	見出し	説明
1045	たう	届くこと。高い所や深い所などに手や足が届くこと。 「とう」とも言う。届いたかどうか確認する時は「とーたゝ」と言う。語源は「手(た)ふ」で、「手(て)」の古形「手(た)」が動詞化したもの。「手が届く、手が達する」と言うイメージから派生した言葉。「手向(たむ)ける」や「手(た)折る」、「手綱(たづな)」等と同じ読み方。言い方は[au]が連母音融合して[o:]になる。つまり、「たう」が「とう」、「たうた」が「とーた」、「たうて」が「とーて」となる。 また、標準語の「たった」、「たって」は山口弁ではワ行五段動詞連用形の活用語尾の促音「ッ」がウ音便化するため、「たうた」、「たうて」になり、これが連母音融合して、こちらも「とーた」、「とーて」となる。反対は「たわん」。なお、否定の活用語尾が「わ」となるのが、ワ行の動詞。「洗わん」、「思わん」、「笑わん」等。 【「おう(会う)(合う)」、「たわん」、「とう」、「とわん」、「みてる」参照】 例:この棚に手が、たうかね。(この棚に手が、届くかね。) 例:この棚に手が、とうかね。(この棚に手が、届くかね。) 例:あの高い所に、手がとーたかね。 (あの高い所に、手が届いたかね。) 例:《海でちょっと沖に出て》足はまだたうよ。(足はまだ届くよ。)
1046	たお (峠) (埤)	「峠」のこと。 「峠(とうげ)」のことを「たお」と呼ぶ。「埤」の字も多く使う。「峠」は山脈が低くなった所で、山が「撓(たわ)った所」。それで、古語「たわむ」の語幹「たわ」が「たお」になったと言うのが定説。「とうげ」は「たわを越える」、すなわち「たわごえ」が「たうげ」、「とうげ」になったと思われる。 防府と周南の境の「椿峠」のことを「つばきだお」と呼ぶように、「たお」は地名と繋がって濁音になる。【「えき(浴)」参照】 例: <u>たおあー</u>、ここから四里先じゃがの一。 (峠は、ここから16km先だがなあ。) 注: 母音「オ」+助詞「ワ」は「オァー」と発音される。よって、「峠は(タオワ)」は「タオァー」になる。
1047	たかあるき	遠出。遠出して遊びまわること。 字は「高歩き」。主に少年少女時期の子供が家の近くでウロチョロしていないで、気の向くままにあらぬところに出かけて行って遊ぶことを言った。この癖が直らない大人にも言ったようだ。 【「あるきがみ」、「でべそ」参照】
1048	たかたか	幼児を高く抱き上げること。また、その時の掛け声。(幼児語) 幼児の腋(わき)の下を両手で支えて、高く持ち上げられることを、「たかたかを」と言う。上げる時に、「たかたか」と言って、上げ下げを繰り返す。 【番外の「幼児語」参照】
○ 1049	たく (炊く) (煮く)	煮ること。 西日本は「ご飯を炊く」だけでなく、「大根も炊く(煮る)」。漢字は「炊く」でなく「煮く」が正解か? 注: 同じ「たく」でも、字が「焚く」なら火を燃やすこと。 注に関連する余談: 北海道では「エアコンをつける」でなく、「エアコンを焚く」と言うらしい。「ストーブを焚く」の名残りのようだ。
1050	たけぎ	焚き木。1〜2cm角に小さくして火を点け易くしたもの。 言い方は「たけぎ」。ちなみに「割り木」は「わるぎ」。

No.	見出し	説明
1051	たける (哮る) (たっける)	叫ぶ。大声で叫ぶ。 字は「哮る」。「たっける」と言う人もいる。古語の「たけぶ」が「たける」に変化した。「咆え叫ぶ」感じ。一部では「おらぶ」と言う。ちなみに広島は「おらぶ」が一般的。【「いがる」、「おらぶ」参照】 例：大きな声で、たけてみいやー。 (大声で、叫んでみる。) 例：あっちで、誰かたけりよるよ。 (あっちで、誰か叫んでいるよ。) 余談：石見弁の横綱綴に「ひゃこる(大声で呼ぶ)」があるが、須佐や阿武の方言集にも「ひゃこる」で「叫ぶ 大声で呼ぶ」とあった。周南辺りでは言わないが、これも山口弁の大声を出す方言のひとつか？
1052	たごうた (たごーた) (たがう)	捻(ひね)った。振(ね)じった。捻る。振じる。 「違(た)がう」の[au]が連母音融合して[o:]になって、「たごう」になった。また、標準語の「たがった」「たがって」は山口弁ではワ行五段動詞連用形の活用語尾の促音「ッ」がウ音便化し、さらに[au]が連母音融合して[o:]になるため、「たがった」→「たがうた」→「たごーた」、「たがって」→「たがうて」→「たごーて」となる。 【「おう(会う)(合う)」、「ねたがい」、「ねたがえる」参照】 例：首の骨をたごーた。 (首の骨を捻ってしまった。)
1053	たこのばち	竹の皮で作った頭につけるスゲ笠。
1054	ただくち (徒口)	おかずだけ食べる。 ひとつの物をひたすら食べる様子から、ガツガツ食べるとか、おやつを食べるような意味に使うところもあるようだ。 例：このつけもんは、ただくちに食べるのにええの一。 (この漬物は、これだけを食べるのに良いね。)
1055	ただごめ (ただまい)	うるち米。 もち米に対して、普通の米の意味。今頃は「普通の米」と言うか、銘柄で呼んでいるから、「ただごめ」とはほとんど言わないと思われる。「ただごめ、ただまい」は中国地方と四国の瀬戸内海側が主体だが、他には紀伊半島の東側、長野の北半分、富山、新潟の北半分、伊豆諸島の一部、対馬、種子島で言う。この分布を見ると、後述のように近畿は「うる」に変わったが、周辺には「ただごめ」が残ったのか？ 四国の太平洋側は「きち」、九州の北半分は「うるし」、南半分と沖縄は「しゃくごめ、しゃくまい」、近畿、中部は「うる、うるし」、関東は「うるち」、東北、北海道は「うるごめ、うるまい」らしい。他には宮崎北部に「とーご」、熊本北西部に「ほろこ」、北陸に「ままごめ」の言い方があるようだ。
1056	だだんだー (だだんこだー)	乱雑。むちゃくちゃ。取り散らかしているさま。 「だだんだー」は西地区、「だだんこだー」は東地区の言い方。 【「がしゃんど」、「つらかる」、「つらけかやす」、「わや」参照】 例：いつもだだんだーにしちよるね。(いつも乱雑にしているね。) 例：部屋の中がだだんこだーじゃ。(部屋の中が無茶苦茶だ。) 余談：柳井では「だだーごだー」または「だだんだー」。伊陸では「だだんこだー」らしい。

No.	見出し	説明
1057	～だち (立ち)	～立て(たて)。～してまもない。 動作が終わったばかりの意を示す接尾語。実の「もぎたて」は「もぎだち」、魚の「捕りたて」は「とりだち」、「釣りたて」は「釣りだち」、卵の「産みたて」は「うみだち」。【「できだち」、「でだち」、「やきだち」参照】 例：炊きだちのご飯。 (炊き立てのご飯。) 例：こけーきだちのときゃー、方言がよ一分からんかった。 (ここへ来たばかりの時は、方言が良く分からなかった。) 注：子音内の母音「オ」+助詞「エ」は「エー」または「オー」と発音される。 よって、「ここへ(ココエ)」は「コケー」または「ココエー」となる。 【「ときゃー」については「うち」参照のこと】
1058	たちば (立ち場)	葬式。 「立ち場の膳」で死者との最後の別れの食事。 「葬儀の立」や「立ち場の膳」を略して「たちば」と言う所もある。西地区では「たちば」は「立ち場の膳」のこと。あの世へ旅立つ日は命日、忌日だが、極楽浄土での転生を信じて「旅へ立つ」と言う考え方で生まれた言葉。「旅に立つ場」だから「葬式」。【「うれい」、「とうふ」参照】
1059	たっさま	①大分(だいぶん)。すこぶる。長時間。 ②たまたま。折よく。 櫛ヶ浜では①の意味だけで、下松では①と②の両方の意味で使う。今ではほぼ使われなくなっている。【「たいさま」参照】 例：たっさま、遅れまして、申し訳ござりません。 (大変、遅れまして、申し訳ございませぬ。) 例：たっさま待っちゃたけど、おいでにならんかったのー。 (大分、首を長くして、待っていたけど、来られなかったね。) 例：たっさま、あれがやって来た。(折よく、あれがやって来た。)
1060	だった	だるくなった。 「だった」は動詞「だる」の連用形「だっ」+完了の助動詞「た」である。 【「だる(疲る)」参照】 例：手がだった。 (手がだるくなった。)
1061	～だった	～(し)なかった。 「～(し)なかった」という打ち消しの過去を表す言い方。他に「～んじゃった」「～んかった」と言う。「～だった」は「～ざった」が、「ザ・ゼ・ゾ」が「ダ・デ・ド」になる山口弁の音韻法則により訛ったもの。「～ざった」は我々にはなじみのない言葉だが、打ち消しの文語助動詞「ず」の連用形「ざり」と過去・完了の口語助動詞「た」とが融合した連語らしい。 【「～なんだ」、詳しくは「～んじゃった」参照】 例：そりゃー知らだったのー。 (それは知らなかったなあ。)
1062	～たっち	～しても。 どちらかと言うと、子供用語か? 例：待っちゃったっち、ひとりもきやーせんよ。 (待っていても、一人も来ないよ。)

No.	見出し	説明
1063	たっちする	①[立つ。](幼児語) ②さわる。(幼児語) ①の「立つ」は全国的に使われている。②は英語の「touch」と同じ意味だが方言。東地区(下松、櫛ヶ浜)で使う。 例: たっちしたら、次は、よんよ よんよじゃね。 (立ったら、次は歩くだね。) 例: さあ、たっちしてみようか。 (さあ、立ってみようか。)(さあ、さわってみようか。) 例: ビービーじゃなー、たっちしちゃーいけんよ。 (汚いから、さわってはいいけないよ。)
1064	たっぱいがええ (たっぱえーがえー)	①体格が良い。 ②外観が良い。見かけが良い。 言い方は「たっぱえーがえー」。②の意味の場合は「うっぱいがええ」と言うところが多い。各地の方言集を調べたが、「たっぱい」には「体格」の意味が載っているが、「うっぱい」にはこの意味は無く、「外観や見かけ」の意味のみであった。日葡辞書には「たっぱいは、良い、または悪い外観、作り具合で九州方言」とある。「たっぱいの良い刀(作り具合の良い刀)」のように、人だけでなく物にも使われたようだが、今は人に対してだけ使われる。 また、江戸時代の「他所問答」には「たっぱへうつぱへ」とあり、山口県方言辞典には「たっぱえうつぱえ」で「たっぱい(体格、外観)」のこととあるので、昔は「たっぱい」と「うっぱい」が一つの言葉として使われていたが、次第に分離して使われるようになったと思われる。今はほとんど使われていない。 【「うっぱいがええ」参照】 余談: 建築用語で物の高さ、身長の意味に使う「たっぱ(立端、建端)」は全国共通の俗語。
1065	だてし	おしゃれな人。伊達者。 身形(みなり)を飾りすぎる人や気取っている人に、ちょっと揶揄的に使うこともある。【「～し」参照】
1066	たてよこ たろうちよる	背も高く、体つきも良い。 「縦と横が足りている」の意。 【「ごたえー(五体)」参照】
☆ ○ 1067	たてる (立てる) (閉てる)	戸を閉めること。 「戸を立てる」は「戸を閉める」こと。 【「しっぽがながい」、「しりぬけ」、「せく(塞く)」参照】 例: その障子をたてときいよ。 (その障子を閉めておきなさいよ。)
1068	たとむ	①畳む。 ②物や家を処分する。 畳むこと。今頃は「たたむ」が普通か? 例: A; ふるしきよーたとーで、しもーちよきよ。 (風呂敷をたたんで、仕舞っておきなさいよ。) B; ふるしきやーはあーたとんで、しもーちよるよ。 (風呂敷はもうたたんで、仕舞ってあるよ。) 例: 店をたとむから、安売りよーする。 (店を閉めるから、安売りをする。)

No.	見出し	説明
○ 1069	たなぎょう	盆に寺の僧が檀家を回って読経すること。 言い方は「たなぎょー」。字は「棚経」。
1070	たなげる	①板などを掛け渡す。 ②間(あいだ)を空ける。透かす。 由来は「棚来(げ)る」で、板や木を一方から一方へ渡して置くこと。棚の様にすること。薪などを井桁のように組むと間が空くので、②の「透かす」意味に転化したようだ。これは西地区で使う。柳井の方言集には他の意味として「重ねる(例: 皿をたなげる)」とあるので、濡れた皿を乾かすために少しずらして重ねることも「たなげる」と言うようだ。 例: まきょー焚く時にゃーたなげて焚きよー。 (薪を焚く時には間を透かして積んで焚きなさいよ。)
1071	たの一だ	頼んだ。 今頃はほとんど使わないかな? 「たのんだ」を普通に使っている。 例: あの件は、はあ、たの一だで。 (あの件は、もう、頼んだよ。)
1072	だぶ	水たまり。池。泥池。 ハスの池は「はすだぶ」。川をちょっと堰き止めたものも「だぶ」。 【「どべ」②参照】 余談: 「だぶ」は「ダム」の転化との説あり。「さむい(寒い)」が「さぶい」に転化したように、「だむ」が「だぶ」になったのかな?
1073	たふぐ	おたまじゃくし。カエルの子。(両生類) 方言地図に周南で「たふぐ」と言っていると書いてあるが、言ったことはない。「田にいる『ふく(ふぐ)』」の意味か。この言い方は四国の佐多岬、南紀の熊野、新宮、志摩、知多半島、房総半島の館山、勝浦にもあるらしい。皆、海岸に近い所である。
1074	たべごと	食事。また、その準備。 例: おなごしは食べごとに忙しいから、 よー顔を出さんのじゃろー。 (女の人、食事の準備に忙しいから、 顔を出せないのだろう。)
1075	だまがしに (たまがしに)	不意に、だし抜けに。 【「ひょつくら」参照】 例: だまがしに、おおけな声を出すから、 びっくりするじゃないかね。 (不意に大きな声を出すから、 びっくりするではないか。)
1076	だまくらかす (騙くらかす)	だます。欺く。 例: あんたー、人をだまくらかしたね。 (あなたは、私を騙したね。)

No.	見出し	説明
○ 1077	たまげる たまがす たまぐらかす	①非常に驚く。びっくりする。 字は「魂消る」。仕掛ける方なら「たまがす(驚かす、びっくりさせる)」。「たまげる」の使役形が「たまげさす」。これが変化して「たまがす」になった。驚いた時に使う言葉の「びっくりする」は京都中心の近畿地方、その外側の島根、長野、静岡地方は「おびえる」、「おどける」等。その外側の東日本、四国、山口、広島は「たまげる」。九州は「たまがる」。よって、昔はみんな「たまげる」、次の時代は「おびえる」、一番新しい言い方は「びっくりする」となる。 (方言周圏論) 【「おおたまげ」、番外の「方言周圏論」参照】 ②野菜などを熱湯に瞬間的に入れて、湯掻くこと。湯通しのこと。 こちらは野菜を熱湯に入れておどろかすから「たまがす」と思っていたら、「たぎる(沸騰する)」と同じ「たまぎる」からの転。沸騰すると泡(玉)が沢山でるから「たまぎる」らしい。つまり、「たまぎる」の使役形が「たまぎらす」。これが変化して「たまがす」になった。 例：そねーに大きな声を出したら、たまげるじゃないかね。 (そんなに大きな声を出したら、びっくりするじゃないか。) 例：蕨(わらび)の葉をたまぐらかすとええよ。 (蕨の葉を湯通しすると良いよ。) 余談：山形県の米沢では「湯通しする」ことを「ふすべる」と言うらしい。「雪菜のふすべ漬け」の独特の辛味を出すのに、3回「ふすべる」ようだ。 【「ふすべる」参照】
1078	だましがけに	不意に。急に思いついて。 今頃はほとんど言わないか? 【「ひょつくら」参照】 例：だましがけに、寄ったいね。(急に思いついて、寄ったよ。)
1079	たまにゃー	たまには。 例：<u>たまにゃー</u>、遊びにおいでーねー。(たまには、遊びにおいでよ。) 注：子音内の母音「イ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「たまには(タマニワ)」は「タマニャー」になる。 【「うち」、「みてみい」、「らちゃーあかん」参照】
1080	だや	家畜小屋。 牛馬のことを「だ」と言う。豚や羊は「だ」と言わない。牛と馬、つまり「だ」の「小屋」だから「だや」。 注：漢字の「駄」は「馬荷」のことで「馬」のことではないから、「駄屋」と書くのは音をとらえた当て字。
1081	たゆうさん	神主。 伊勢神宮の「御師(おんし)」のことを「太夫」と言ったのをまねた言い方との説あり。 余談1：「疲れて元気がない」と言う意味の古語は「たゆし」。神職や遊女の動きはゆったりしているので「たゆーな」動き。よって、「たゆーさん」に変化した? 余談2：大分では「たゆーさん」は「怠け者」のことらしい。
1082	～たら	～とか。 不確定なことに使う。「～と」に「やら」が付いた「～とやら」が縮まって「～たら」になった。【「なんたら かんたら」、「なんやら かんやら」、「～やら」参照】 例：〇〇さんたらゆー人が来ちゃったよ。 (〇〇さんとか言う人が来られたよ。)

No.	見出し	説明
1083	たらかす (垂らかす)	垂らすこと。 注:「たぶらかす、だます」の意味の「誑(たら)かす」ではない。 例:よだれをたらかす。(よだれを垂らす。)
1084	だらき (だら木)	たらの木。(植物) 節分の夜、門口に立てて、鬼の来るのを防ぐのは「だらいぎ」。たらの木にはトゲがあるので「たらのいぎ」で「だらいぎ」。西地区で使用。
1085	だらしい (だらしー)	だるいこと。 「だらしい」は「だる(疲る)」の形容詞。「だるしー」とも言う。「だらしい(だらしー)」は精神的な要素を多分に含んだ全身の疲労感を表す言葉で、標準語の「だるい」、「けだるい」にほぼ相当する。 【「えらい」、「こわえー」、「だる(疲る)」参照】 例:ちいーと、だらしいのー。(ちよっと、だるいなあ。)
1086	だりが出る	だっている。疲れが出る。 「だり」は「だる(疲る)」の名詞。【「だる(疲る)」参照】 例:仕事のだりが出る。(仕事のだっている。)
1087	たりくさい (足り臭い)	「少し足りない」の意。 例:この数じゃー、たりくさいのー。(この数では、少し足りないな。)
○ 1088	だる (疲る) (倦る)	①疲れる。くたびれる。②ゆるむ。たるむ。③味や香りが抜ける。 元、中央における俗語で、「だる」の前は「たふる(倒れる)」、または「たる(垂る)」。これが「だる」に変化した。名詞は「だり(疲れ、疲労)」、形容詞は「だらしー(だるい)」。【「だった」、「だらしい」、「だりがでる」参照】 例:もう、だった。(もう、疲れた。) 例:あいつらー、もう、だっちゃー。 (あの人達は、もう、くたびれている!) 例:この糸はだっちゃる。 (この糸は弱くなっている。)→(伸びている。) 例:家の軒(のき)がだっちゃるでー。(家の軒が垂れているよ。) 例:このビールはだっちゃるどー。 (このビールは気が抜けているぞ。)
1089	だる	人糞肥料。 言い方は「だるゝ」。昔は西日本全般で使われていた言葉だが、今は死語になっている。【「たいつぽ」参照】
○ 1090	たれる (垂れる)	言う。悪いことを言う感じ。 反対は「たれるな(言うな)」。「嘘をたれるな(嘘を言うな)」のように使う。 国語辞書にある「水がたれる」、「訓示をたれる」、「糞をたれる」のような表現は当然使う。「たれる」も「たれるな」も不愉快にものを出す時に使う率が高い気がする。【「かばち」参照】 例:文句をたれる。(文句を言う。) 例:もんくーたれるな。(文句を言うな。)
1091	たわらご (たーらご)	海鼠(なまこ)。(棘皮動物) 形が米俵に似ているので目出度いとされている。KRYラジオでの森川さん談。我々は言ったことがない。須佐の方言集には載っていた。柳井、周防大島、岩国は「たーらご」らしい。 余談:「たわらまめ」は落花生のことらしい。当然、我々は言ったことはない。

No.	見出し	説明
1092	たわん	届かないこと。高い所や深い所などに手や足が届かないこと。 「とわん」とも言う。反対は「たう」。【「たう」、「とう」、「とわん」参照】 例：この棚に、手がたわんわいね。（この棚に、手が届かんよ。） 例：この棚には、手がたわんとみーね。 （この棚には、手が届かないようだ。） 例：《海水浴場で親が子供に》 足がたわんとこで泳いじゃーいけんよー。 （足が届かない所で泳いではいけないよ。）
1093	たんけつ	痰（たん）。
○ 1094	だんだん （段々）	ありがとう。（幼児語） 出雲弁の「だんだん（ありがとう）」は有名だが、昔はこの辺りでも「いろいろお世話になりました」を「だんだんお世話になりました」と言っていたようだ。この名残として、「いろいろ、重ね重ね」の意味で使われていた「だんだん」が、全体の意味を表す「ありがとう」の意味になって、幼児語に残っていた。しかし、今はこれもほとんど使われていないと思われる。 余談：佐賀では「だんだん」は「いつも」や「たいそう」の意味らしい。「だんだん面白かよ」と言ったら、「いつも面白いよ」のこと。新潟の十日町市では市報タイトルが「だんだん」。これは、「お世話になっています」の挨拶代わりに「だんだん、どうも」とよく言うかららしい。この辺りの昔の使い方と同じである。
○ 1095	たんねる （たねる）	①尋ねる（たずねる）。探す。②訪問する。 「たずねる」の転。「尋ねる」と「訪ねる」が同源のため、「訪問する」意味に使う。 例：たんねてみー。（探して見ろ。）（訪ねて見ろ。）
1096	だんねん （残念）	残念。 山口弁ではザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・デ・ド」として発音されるため、「ざんねん」が「だんねん」になる。「どうぞ」が「どーど」になるので、昔の人なら下記の「使用例」のような言い方になる。我々も聞いた程度で、「だんねん」と明確にダ行音で使ったことはない。 【「でに」、「でんでん」参照】 例：だんねんでした。また、どーど。（残念でした。また、どうぞ。）
○ 1097	たんびに （たんびたんび）	度々。 「たんび」は「たび（度）」を強めた俗な言い方と国語辞書にある。「たんびたんび」は更に強めた言い方になる？ 例：家に帰るたんびに、仕事を手伝わされるんちゃ。 （家に帰るといつも仕事を手伝わされるよ。） 例：《いつもお裾分けをしてくれる人に》 たんびたんび、すみませんのー。（度々、済みませんね。）
1098	だんべー （団平）	生簀（いけす）。 舟形の生簀のこと。東地区（室積）で使う。昔、聞いたと言う程度で、今はほとんど使われていない。「さんまい（三枚）」とも言ったようだ。 「だんべい」、「さんまい」ともに、和船の一つで、「だんべい」は平底の船、「さんまい」は三枚の板で出来ている簡単な船のこと。形が似ているので、この呼び名を使ったようだ。

No.	見出し	説明
1099	たんぽこ	穴。 西地区で使用。東地区は標準語の「あなぼこ」を使っていた。 【「こえたんぽ」、「ごみたんぽ」参照】
1100	ちい	つい。 例：ちい、やってしもうたいやー。(つい、やってしまったよ。)
1101	ちいたあ (ちいたー) (ちーたー)	少しは。ちょっとは。 【「だいしょー」、「ちいと(ちーと)」参照】 例：ちいたあ、遠慮せえよ。(少しは遠慮しろよ。) 例：《あまり家に来ない人に》 ちいたー、寄りんさいよ。(少しは寄りなさいよ。) 例：《良く働いている人に》 ちーたー、ゆっくりしんさいよ。(少しはゆっくりしなさいよ。)
1102	ちいちと (ちーちと) (ちちと)	ちよつと。少し。ほんの少し。 「ちい」は「小」、「ちと」は「ちと(些と)」の促音添加で、「ほんのわずか、ほんの少し」の意味。「ちちと」は「ちいちと」のつづまった言い方。 【「ちいと」参照】 例：《下戸なのにお酒を勧められて》 のめませんけー、ほんのもー、ちーちとで。 (飲めませんから、本当にもう、ほんのちよつとで。)
1103	ちいと (ちーと)	ちよつと。少し。 古語の「ちと(些と)」を伸ばして、語勢を緩めた言葉。同じ意味で、「ちーとべくさ」、「ちーとべくそ」とも言う。 【「ちいたあ」、「ちいちと」、「ちいとべくそ」、「ちよつこら」、「ちよつくし」、「ちびつと」、「ちびる」、「べくさ」参照】 例：もうちーと、はよーせえーやー。 (もう少し、早くしろよ!) 例：金が、ちいーと足らんでよー。 (お金が、ちよつと足りないよ。) 注：森川さんによると、この「ちと」、「ちーと」は古風な標準語で、方言ではないらしい。
1104	ちいとべくそ (ちーとべくそ) (ちーとべくさ)	ちよつとばっかし。少しばかり。 「ちーと(少し)」を強めた言い方。「べ」は「屁(へ)」のこと、「くそ」は「糞」のこと。「へくそ」が連濁して、「べくそ」になった。「それべくそ(それっぽち)」とか「あれべくそ(あれくらい)」という言い方もする。「ちーとべくさ」とも言う。 ちよつと、いらつししながら、少ないことを強調する時に使う。悪意のある言い方になる。【「それべくさ」、「ちいと」、「べくさ」参照】 例：ありょーちーとべくそもろーても、うれしゅーはないのー。 (あれをちよつとばかし貰っても、うれしくはないよね。) 余談：「へくそ」を使う花の名前として、「へくそかずら」がある。この花は「早乙女花(さおとめばな)」と呼ばれるほど、可憐な花が咲くが、こちらは「臭い」ので、この名前が付いた。「くさおとめかずら」と言うところもあるようだ。
1105	ちかしゅー	近頃。この頃。このところ。 【「ちこう」参照】 例：ちかしゅー、会わなかったねー。 (このところ、会わなかったね。)

No.	見出し	説明
○ 1106	ちぎる (千切る)	挽ぐ(もぐ)。 標準語の「もぐ」を使って「みかんをもぐ」や「梅をもぐ」と言うところを、「みかんをちぎる」、「梅をちぎる」と言う時は、山口弁の使い方だ、とKRYラジオで放送していた。ちなみに、防府天満宮で初夏に行われる梅を収穫する行事の名前は「梅ちぎり」。お供えをした後、土用干しをして、「お福梅」や「梅茶」にする。 【「もげる」参照】
1107	ちこう (ちこうきん) (ちこうきんらい)	近頃。 「ちこうきんらい(近こう近来)」は強調か? 「ちこうきん」とも言う。 【「ちかしゅー」参照】 例: こちこう、こねーなこたーなかったのー。 (ここ最近、こんなことはなかったね。) 例: あのひたー、ちこうきん見んねー。 (あの人は、近頃見かけないね。) 例: こねーな大あみゃー、ちこう近来なかったのー。 (こんな大雨は、最近なかったね。)
1108	ちしゃっぱ	サニーレタス。萵苣(ちしゃ)。(野菜) 葉に縮みがあり、葉先が赤紫色の野菜をまとめて「ちしゃっぱ」。昔の「ちしゃ」は「掻きちしゃ」の一種で、同じような形状の「葉ちしゃ」の名前が「サニーレタス」。これは昭和40年代に付けられた商品名で、今ではこれが、一般化した。 昔の「ちしゃ」を使った山口県の郷土料理としては「ちしゃなます」がある。戦後栽培が盛んになった「レタス」は「玉ちしゃ」のことで、焼肉で使う「サンチュ」は「掻きちしゃ」の一種。なお、「ちしゃ」の名前の由来は葉や茎を切ると白い乳液がでるので「ちちぐさ(乳草)」と呼び、これが訛って「ちさ」になり「ちしゃ」になったと言われている。 【「ちちぐさ」、番外の「野菜の呼び名」参照】 余談1: 昔の「ちしゃ」は今の「サニーレタス」より、苦味が強かった気がする。 余談2: 今は、ちしゃを「とる」とか「ちぎる」と言うが、昔は「かぐ」、「かぎとる」と言ったようだ。字は「掻ぐ」か? 下側の外葉からかいで(掻き取って)行くから上に伸びるし大きくなる性質を知っての収穫だった。高菜も同様。
1109	ちち	「激しく」の意。 【「さで」、「とり」、「つち」、「ばり」、「ぶち」参照】 例: 「ちち投げる(ひどく投げる)」、 「ちちめぐ(ひどく壊す)」、 「ちちなぐる(ひどく殴る)」、 「ちちやぶる(ひどく破る)」等。 例: ちつつらかす。(ひどく散らかす。) 注: 「ちちらかす」が「ちつつらかす」に変化している?
1110	ちちぐさ	野げしのような白い乳を出す草を総称して言う。兔が好きな草。(植物) 「山口県方言辞典」には「たんぼぼ(下松、室積)」、「柳井の方言」には「①たんぼぼ、②うつぼぐさ」とあった。各地でいろいろな草を「ちちぐさ」とか「ちちぐさ」と呼んでいたようだ。 【「ちしゃっぱ」参照】

No.	見出し	説明
1111	ちぢゅうがみ	縮れ毛。 言い方は「ちぢゅーがみ」。「ちぢゅーじよる(ちぢんでいる)髪」だから「ちぢゅーがみ」。 【「ちぢゅむ」参照】
1112	ちぢゅむ	縮む。 「ちぢんでいる」が「ちぢゅーじよる」になる。今頃は「ちぢんじよる」の言い方が多いかな？ 【「ちぢゅうがみ」参照】 例：そねーに、ちぢゅーじょらんで、 もうちよい、しゃんとしときい。 (そんなに、縮こまっていないで、 もう少し、姿勢をきちんとしておきなさい。)
1113	ちばける	①甘える。甘えて幼稚な態度を取る。 ②ふざける。戯れる。 ③ちょっとおかしな格好をする。 語源については「つばえる」の欄を参照のこと。 【「おがちる」、「すばえる」、「そばえる」、「つばえる」、「ほたえる」参照】 余談：岡山の方では「ふざける」ことを「ちばける」と言うのが主流らしい。周南では「つばえる」が主流かな。 例：大きな子のに、ちばけたらおかしーでね。 (大きい子なのに、甘えたら変だよ。) 例：ちばけちよる。 (ふざけている。) 例：どうかね、ちばけた格好をして。 (どうかね、おかしな格好をして。)
1114	ちびっと	少し。ちょっと。 名詞の「ちび」が副詞化したもの。言い方は「 <u>ちび</u> っと」。 なお、「ちび」は標準語だが、「ちびっと」は方言。そして、「ちーと」は古風な標準語である。 【「ちいと」参照】 例：砂糖を、もーちびっと入れんさい。 (砂糖を、もう少し入れなさい。)
○ 1115	ちびる (禿びる)	磨滅する。先が磨り減ること。 「鉛筆がちびた」、「下駄がちびた」と使う。「ちびける」とも言う。平安時代の言葉、「潰(つぶ)る」が転じたもの。言い方は「 <u>ちび</u> る」。標準語の言い方は「ちびる」。 【「ちびっと」、「ちょびっと」、「ちいと」参照】 例：《下駄の歯がすり減っているのを履いている人に》 歯がえらいちびたの一、履いちよるの一。 辛抱人じゃの一。 (歯が大変すり減ったのを、履いているね。 辛抱人だね。)
1116	ちぶくれ	打ち身で黒血が溜まって膨れ上がる状態。血膨れ。

No.	見出し	説明
1117	～ちゃー (～ちゃ)	①～よ。～だ。②～ては。③～と言えば。 三つの用法がある。強く言う時は「ちゃ」と短く言う。ゆったり話す時は「ちゃー」と長めに言う。前に促音「っ」を入れて言うことも多い。 ①「～よ」、「～だ」ぐらいの意。「ちゃー」は「と言うに」の転訛。 文末や人に呼びかける語の後に付けて、念押し、強意、断定を表す。念を押す時は後ろに良く「ね」「の」「や」を付ける。また、「～なのだ」と言う時は、「の」が「ん」に、「だ」が「ちゃ」になって、「～なんちゃ」の言い方になる。 【「～い」、「～いね」、「それいね(その2:い)」、「～だい」、「～で」、「～ど」、「なんかちゃー」、「～ね」、「～のー」、「～や」参照】 例:そねーなこたー、知っちょるっちゃ。 (そんなことは、知ってるよ。) 例:そうなんちゃーや。(そうなのだよ。) 例:それっちゃーね。あのひたー、よいよーええ人なんじゃなー。 (そうなのよ。あの人は、本当に良い人なのよ。) ②「～ては」の意。 動詞の後に付いて、条件や状況を示す。 例:そうしちゃー、いけんちゃー。 (そうしては、いけないよ。)(そうしては、いけないと言うに。) ③「～と言えば」ぐらいの意。 体言や体言に準ずるもの、及び言い切った文に付いて引用などを表す。 例:まー、料理ちゃー料理じゃのー。 まー、料理っちゃー料理じゃのー。 (まあ、料理と言えば料理だな。)
1118	ちゃーちゃー 言う	うるさいほどしゃべる様子。ぺちゃくちゃ、良くしゃべっている様子。 文句を言う感じではないので、後ろに否定語がつかないことあり。鳥の鳴き声からの擬音語、擬声語。言い方は「ちゃーちゃーゆー」になる。 【「ちゃぶちゃぶ言うな」、「やーやー言う」、「やんやん言う」参照】 例:ちゃーちゃー、よーゆーのー。 (よくしゃべるなあ。) 例:ちゃーちゃー、よーしゃべるのー。 (ぺちゃくちゃ、よくしゃべるね。)
1119	～ちゃいや	「～と言うのに、うるさいねえ。」の感じ。 「～ちゃー」に、「い」が感動音、「や」が驚嘆音の「いや」がついた。言い方は「ちゃいや」。 注:柳井地方には「ちゃー、いや」、「しゃー、いや」で「うちゃー、いや(私はいやだ)」、「わたしゃー、いやだ(私はいやだ)」の意味で使うことがあるが、この例とは違う。 例:そねーなこたー、知っちょるちゃいや。 (そんなことは、知ってると言うのに。)

No.	見出し	説明
1120	～ちゃげる	～してあげる。～したげる。 「てあげる」が「てあげる」に、「てあげる」が「ちゃげる」に変化した。「見ちゃげる(見てあげる)」、「しちゃげる(したげる)」、「やっちゃげる(やってあげる)」のように使う。「ちゃげよー」は音韻融合して「ちゃぎょー」となることもある。命令形は「ちゃげー」。 【「あげんさい」、「～しゃげる」、「～ちゃった」、「『～ちよる』『～ちよく』『～ちやる』『～ちゃれ』『～ちよけ』参照】 例：《トイレに行きたいと言う人に》 荷物は見ちよっちゃげるけー、はよー行っておいで。 (荷物は見ていてあげるから、早く行っておいで。) 例：勉強を見ちゃげよー。 (勉強を見てあげよう。) 例：勉強を見ちゃぎょー。 (勉強を見てあげよう。) 例：勉強を見ちゃげー。 (勉強を見てあげなさい。) 例：私がやっちゃげたいね。 (私がやってあげたのよ。)
1121	～ちゃった (～ちゃーた) (その1:①)	①～なされた。～なされた。 「～ちゃった」は尊敬語。動作主への敬意を表す助詞「て」と、軽い敬意や親愛の情を表す助動詞「やる」の連用形、さらに過去・完了の助動詞「た」が接続した「～てやった」が音韻変化してできた連語で、過去・完了の形しかない。 「先生は、は一來ちゃったですか(もう来られましたか)」、「何てゆーちゃったかね(何と言われたかね)」のような使い方をする。「～ちゃった」は、ナ行・バ行・マ行・ガ行の五段動詞連用形に付く場合には、「～じゃった」となる。「～ちゃった」「～じゃった」を「～ちゃーた」「～じゃーた」とも言う。 尊敬語の「～ちゃった」は、東京言葉で「～してしまう」という意を表す「～ちゃう」の過去・完了形や、山口弁で「～してやる」「～してある」の意を表す「～ちやる」の過去・完了形とは違うもので、「先生がわろーちゃった(先生が笑われた)」は動作主への敬意を表す山口弁。 同様な言い方だが、「わしゃー、わろーちゃったいや(私は、笑ってやったよ)」は敬意を持たない山口弁。 「わらっちゃったよ(笑ってしまったよ)」は敬意を持たない東京言葉。 【「～じゃった」、「『～じよる』『～じよく』…」、「～ちゃげる」、「『～ちよる』『～ちよく』…」、「～て(～で)」、「～やーる」、「～やった」参照】 例：「せんせーが、きちゃったよ(先生が来られたよ)」、 「伯父さんが、きちゃーたでー(伯父さんが来られたぞ)」、 「もう書いちよっちゃったよ(もう書いておられたよ)」等。
1122	～ちゃった (～ちゃーた) (その2:②)	②～してやった。～してあった。 「～ちやる」の連用形に過去の助動詞「た」が付いたもの。 【「～しゃった」参照】 例：「あいつー助けちゃった(あいつを助けてやった)」、 「みせー連れて行っちゃった(店へ連れて行ってやった)」、 「はあ、用意がしちゃった(もう、用意がしてあった)」、 「ラムネが冷やしちゃった(ラムネが冷やしてあった)」等。

No.	見出し	説明
1123	ちゃっちゃと	さっさと。手早く。速やかに。 「日本国語大辞典」によると「ちゃつと」の「素早く」の意味を強調した言葉で、「ちゃちゃと」と同様。青森、岩手、宮城、山形、新潟、富山、福井、京都、大阪、静岡、奈良、和歌山で使われているのでかなり広範囲で使われている方言。昔の京都で使われて、各地に残っている言葉かも？ 【「しゃっしゃと」参照】 例：宿題をちゃっちゃと片付けて、遊ばーいね。 (宿題をさっさと済ませて、遊ぼうよ。)
1124	ちやなぐり すてる	①捨てるの強調。 ②見捨てる。見放す。 ①は西地区(徳山)で使う。「さでしてる」、「とりすてる」と同じ意味合い。②は東地区(笠戸島)で使う。相手を完全に見放すような時に使う。 【「ちやなぐる」参照】
1125	ちやなぐる	①叱る。やかましく言う。 ガミガミ言う、ひどく言う時に使う。 ②おちよくる。馬鹿にする。嘲弄する。 茶々を入れるとか、おびくことにも使う。 ③邪険に扱う。手ひどく扱う。 ①②は東地区(光)、県東部(伊陸)、③は西地区(鹿野)や東地区(笠戸島)で使う。各地で少しずつ意味合いが違った使い方をしているようだ。 【「ちやなぐりすてる」参照】 例：そねーにちやなぐるな。(そんなにひどく叱るな。) (そんなにおちよくるな。)(そんなに邪険にするな。) 例：あのひたーいつもちやなぐってばかりなんよ。 (あの人は、いつも茶々を入れてばかりなのよ。)
1126	ちゃぶちゃぶ (ちゃんぼ)	お風呂。(幼児語) 「ちゃんぼ」とも言う。「ちゃぶしよう(お風呂に入ろう)」と使うこともある。「お風呂」の幼児語は沢山あるが、その中で「全国幼児語辞典」に「山口」と記載してあるものを列挙すると、「じゃぶじゃぶ」「ちやいちやい」「ぶんぶ」「ぼちゃ」「ぼしゃぼしゃ」「ちゃぼちゃぼ」「ちゃんぼ」「どんぶ」である。 【「ぶんぶう」、番外の「幼児語」参照】
1127	ちゃぶちゃぶ 言うな (ちゃばちゃば 言うな) (ちゃぶちゃぶ ゆーな)	文句を言うな。あれこれ言うな。つべこべ言うな。 鳥の鳴き声からの擬音語、擬声語らしいが、水をたたく音からの可能性もあるかも知れない？ それか合体したか？「ちゃばちゃば言うな」と言う人もいる。防府の方では「ちゃぼちゃぼ」と言うらしいが、周南では「ちゃぶちゃぶ」か「ちゃばちゃば」が主流。 また、「ちゃばちゃば」の時は、「ちゃぼちゃぼしゃべる」とか「ちゃぼちゃぼにぎやかな人」と言う風に、「にぎやかに言い立てるさま」を肯定的に使っているようだが、周南では「ちゃぶちゃぶ」や「ちゃばちゃば」の後に「言うな」を付けて、否定的に使うことが多い。 なお、「言う」は普通、山口弁では「ゆー」と言う。 【「ちゃーちゃー言う」、「へんじょーこんごー」、「やーやー言う」参照】 例：《いろいろと文句を言う子供に》 うるさい。ちゃぶちゃぶゆーな。 (うるさい。つべこべを言うな。)

No.	見出し	説明
1128	ちゃりこい (ちよろこい)	①すばしこい。敏捷な。 ②目先が聞く。悪賢い。抜け目がない。 最近では聞いたことも喋ったこともないが周防地方の方言らしい。よって、掲載した。新南陽、防府、周防大島や柳井の方言集にも載っていた。 道化役の滑稽な動作を言う「茶利(ちゃり)」からついたようだ。「茶入り」の略との説あり。来客に対して、ご馳走をせずにお茶でごまかすことからついた言葉。愚弄することから転じて、滑稽になり「茶化す」、「茶々を入れる」等の言葉につながったようだ。「ちゃらこい」、「ちよろこい」、「ちよろこすい」とも言うらしい。 また、森川さんによると、「ちゃり」は「おどける、ふざける」の古語「ちやる」の連用形が名詞化したもの。「こい」は形容詞「濃い、薄い」の「こい」から状態を強調する使い方になったもので、「すばしこい」や「あぶらっこい」などの「こい」と同じとのこと。 【「すどい」、「すばしい」、番外「昔の言葉、行事?」の「ちよろけん」参照】 例：ちゃりこいがきじゃ。 (すばしこい子供だ。)(悪賢い子供だ。) 例：ちゃりこいことをする。(すばしこいことをする。) 例：あのひたーあー見えても、けっこーちゃりこかろーがね。 (あの人はああ見えても、結構ずる賢いだろう。)
1129	ちゃんこ	座る。(幼児語) 京都から福岡まで、西日本で使う。「ちゃんこ鍋」も「ちゃんこ」と言うが、子供に、「ちゃんこしよーね」と言う時は「座ろうね」の意味。他には赤ちゃんを座らせる時は「ちゃん」だけを使って、「ちゃんしよう(座ろう)」や、「とんする(座る)」、「あつとんする(座る)」、「とんち(座る)」なども使う。 【「おぎようぎをする」、「とんする」、「とんち」、番外の「幼児語」参照】 例：ちゃんこしときーよ。(ちゃんと座っておきなさいよ。) 余談：幼児語ではないが、「座る」ことを、東北から北陸は「ねまる」、群馬は「おつくべ」、神奈川は「ぶっさある」、岡山では「へたる」。幼児語は、北海道では「おっちゃんこ」、神奈川、長野では「えんこ」、兵庫では「おっちゃん」とん、大阪、徳島は「おっちゃん」らしい。
1130	ちゃんちゃこ	ちゃんちゃんこ。 袖なしの羽織で多くは綿入り。
1131	ちゃんばをやく (ちゃんばを 焼く)	お節介をすること。いらぬ世話を焼くこと。 周防大島で使う。周防大島独特の言い方で、他の地域では使われていないようだ。 【「さいこをやく」、「さいたらやく」、「さいばーやく」、「せこをやく」、「せんばをやく」、「てんごうをやく」、「てんばを焼く」、番外の「昔の山口弁?『いらぬさいこ』」、番外の「昔の言葉、行事?『さいろい』」参照】
1132	～ちゅう (～ちゅー)	～と言う。 古語は「ちふ」で「ちゅう」と読む。万葉集に用いられている。中世以降は「てふ」になって「ちよう」と読むようになるが、山口では「ちふ(ちゅう)」が残っている。「ちふ」、「てふ」共に、「といふ」の転。「～つう」と言うこともある。 【「～ちゅえ」、「～ちゅわー」、「～つー(～つう)」参照】 例：こりゃー何ちゅう魚かいのー。(これは何と言う魚かな。) 例：どうちゅうてもやれんでー。(どう言ってもできないよ。)→ (何ともやりようが無いよ。)→(お手上げた。)

No.	見出し	説明
1133	ちゅうかい	全然。まるで。 後に否定語が付くと、全面否定になる。 中世の「中」は「つまらない、だめ、不快」の意味があるので、その派生での「中開」か、仏教用語の「宙海、宙界」から派生した言葉か、二つの説がある。【「ちゅうに(ちゅーに)」参照】 例：ちゅうかい話にならん。(全然話にならない。)
1134	～ちゅうても	「～と言っても」の意。 例：なんちゅうても、あれが一番おもしろかったけー。 (何と言っても、あれが一番面白かったね。)
1135	ちゅうに (ちゅーに)	①とても。甚だ。 ②とうとう。 ③全然。まったく。めったに。 ④意外に。 量の大きさを称する副詞。「防長方言考」には「遂に」を急いで言った言葉とあるが、字は「宙に」または「中に」で、仏教用語からかと言う説もある。複合で色々な意味になったかも？防長方言の特殊なものとして昔から、「ちゅーに」、「ごっぼう」、「どひょーしもない」と挙げられている三つの内の一つ。 注：①の意味で使う時に、打消しの語をとこなう場合は「ちゅうかい」と同義で「全然」、「まるで」の意味に用いられることもある。 【「こくうもない」、「ごっぼう」、「ちゅうかい」、「どひょーしもない」参照】 例：① ちゅうに怒っちよる。(とても怒っている。) 例：① ちゅうに話にならん。(まるで話にならない。) 例：② ちゅうに話が破れた。(とうとう話が破れた。) 例：③ あの人ちゅうに家に居らんけえ。 (あの方はめったに家に居ないから。) 例：④ ちゅうに良えことが続くねえ。(意外に良いことが続くね。)
1136	ちゅうに ちゅうかい (中に中開) (宙に宙海) (宙に宙界)	全く。全然。 「ちゅうに」と「ちゅうかい」の合成語。二つ重ねて、「全く」を強調している。漢字は当て字かも？【「ちゅうかい」、「ちゅうに」参照】 例：ちゅうにちゅうかい、どうにもならんでー。 (全く、どうにもならないよ。)
1137	～ちゅうのに (～ちゅうに)	～と言うのに。 「～ちゅうに」とも言う。「～ちゅうたら」なら「～と言ったら」の意味になる。 例：するなちゅうのに、したから罰があたつたろうが。 (するなと言ったのに、したから罰が当たつただろうが。) 例：するなちゅうたら、するな。(するなと言ったら、するな。)
○ 1138	ちゅうぶる	中古(ちゅうこ)。 「中古」の「重箱(じゅうばこ)読み」。今でも使う人はいるが、昔の言い方で、方言というより「時代語」かな？ 余談：「重箱読み」の反対は「湯桶(ゆとう)読み」。
1139	～ちゅえ (～つえ)	～と言え。 「～ちゅう(～と言う)」の命令形。「～つえ」とも言う。 【「～ちゅう」、「～つう」参照】 例：わりーこたー、二度とせんちゅえ。 (悪いことは、二度としないと言え。)

No.	見出し	説明
1140	～ちゅわー (～つわー)	～と言うよ。～と言ってるよ。 「～つわー」とも言う。【「～ちゅう」、「～つう」参照】 例:まだ、お菓子がほしーちゅわーね。 (まだ、お菓子が欲しいと言ってるよ。)
1141	ちようどする (丁度する) (ちょーどする) (ちょーどせる)	じっとする。静かにする。動かないでいる。 昔は、全国で「じっとする」と言う意味だったが、中央で「丁度」が「ぴったり、きっかり」の意味に変化して使われるようになり、それが標準語になった。そして、方言周圏論のとおり中国地方や東北地方に昔の意味が残って使われている。【番外の「方言周圏論」参照】 例:ちょーどしちょきーよ。 (静かにしておりなさいよ。)
1142	ちょーち ちょーち	手をたたくこと。(幼児語) 子供をあやす時に使う。手をたたきながら、「ちょーち ちょーち あばば」とあやす。「あばば」の時は開けた口を手でたたく。「ちょーち ちょーち しょー」なら「両手をたたいて遊ぼう」になる。「ちょーち」は「てうち」の変化したもので、「ちょーち ちょーち」は「手打 手打」の意。「ちょーち ちょーち」が「じょーち じょーち」に聞こえる時もある。 【「かおかお」、番外の「幼児語」参照】
1143	～ちょき	①～しておいた方が良い。 ②～しておきなさい。 将来に対して、今、何をすべきだと言う時は、「〇〇は～(し) ちょき」のように「は」を入れることが多い。【「～とき」、「ほっちょく」参照】 例:英語の勉強はしちょきーよ。 (英語の勉強はしておいた方が良いよ。) 例:勉強しちょき。 (①勉強しておいた方が良い。)(②勉強をしておきなさい。) 注:上の例は場面によって①にも②にもなる。 例:遊ぶのは、えーかげんにしちょきんさいよ。 (遊ぶのは、いい加減にしておきなさいよ。) 例:そのドリルをやっちょきーよ。 (そのドリルをやっておきなさいよ。)
1144	ちょっきし	丁度。かっきり。ちょっきり。 過不足のないさま。「ちょっきり」が「ちょっきし」になった。「やっぱり」が「やっぱし」の言い方になるのと同じ使い方。 例:ちょっきし100円じゃ。 (丁度、100円だ。)
1145	ちょっくし (ちっくし)	ちょっと。少し。 「ちょっくら」、「ちょっくり」と同じ。「ちっくし」とも言う。 【「ちいと(ちーと)」参照】 例:ちょっくし、出かけて来るでー。 (ちょっと、出かけて来るよ。)
1146	ちょっころ	ちょっと。少し。こっそり。 【「ちいと(ちーと)」参照】 例:《心配のある場所を》ちょっころ、覗いてみるでー。 (ちょっと、覗いてみよう。)

No.	見出し	説明
1147	ちよびっと (ちよぼっと)	少し。ちよっと。 「ちよびっと」、「ちよぼっと」とも言う。「ちよびり」と同じ。 「ちよぼ(樗蒲:博打のこと)」の賽(さい)の目の打ち方に似ることから、点のことを「ちよぼ」と言う。「点(ちよぼ)」が小さいから、物が少ないことを「ちよぼっと」言う様になった。この「ちよぼっと」が転じて「ちよびっと」になった。 【「ちよる」参照】 例:《お茶碗を出して》ご飯をほんのちよびっと頂戴。 (ご飯をほんの少し下さい。) 例:《習字の練習中に》墨が顔にちよぼっとついとるでー。 (墨が顔にちよっとついているよ。)
1148	～ちよらー	～しているよ。 「～ちよる」に詠嘆または強調の気持ちを表す「ら」を付けた時の言い方。 「～とらー」とも言う。【『～ちよる』『～ちよく』…参照】 例:わろーちよらーや。(笑っているよ。) 例:あいつあー泣いちよらー。(あいつは泣いているよ。)
1149	～ちよりゃー	～していれば。～したなら。 「～ちよる」の仮定形。「～とりゃー」とも言う。 【『～ちよる』『～ちよく』…、「～りゃー」参照】 例:わしが行っちよりゃー、 あねーなことにゃーならんかったのかのー。 (私が行っていれば、あんなことにはならなかったかな。)
1150	「～ちよる」 「～ちよく」 「～ちやる」 「～ちゃれ」 「～ちよけ」	①「～ちよる」は「～ておる」が「～てよる」になって「～ちよる」に変化。 物事の状態や動作の完了・存続を表す。 「今、晴れちよるよ(今、晴れているよ)」、「そねーなこたー知っちよる(そんなことは知っている)」というふうにする。 ②「～ちよく」は「～ておく」が変化。 「さきー(先に)めしゅー(飯を)くーちよこーや(食っておこうよ)」 ③「～ちやる」は「～てやる」および「～てある」が変化したもの。 「今度はぎー(萩へ)連れて行っちゃろー(連れて行ってやろう)」、「ビールが冷やしちやるよ(ビールが冷やしてあるよ)」などと言う。「冷やしちやる」は音韻融合により「冷やしやる」となる場合もある。 ④「～ちゃれ」は「～てやれ」が変化。 「はよー届けちゃれ(早く届けてやれ)」、「行って見ちゃれ(行って見てやれ)」 ⑤「～ちよけ」は「～ておけ」が変化。 「きちんとしちよけよ(きちんとしておけよ)」、「これをやっちよけ(これをやっておけ)」 なお、「～ちよる」の過去形は「～ちよった」、「～ちよく」は「～ちよいた」、「～ちやる」は「～ちゃった」になる。 【「あげんさい」、「『～しよる』『～しよく』…」、「『～じよる』『～じよく』…」、「～ちやげる」、「～ちゃった」、「～ちよらー」、「～ちよりゃー」、「やっちよる」、「『～よる』と『～ちよる』」参照】 余談:山口県のゆるキャラ「ちよるる」はこの「～ちよる」から名付けられた。
1151	ちよろま (ちよろっとの ま)	ちよっとの間。ほんのわずかな間。あつと言う間。 「ちよろっとの間」も良く言う。 例:よーけ、あつたのに、ちよろまに食べたのー。 (沢山、有ったのに、あつと言う間に食べたね。)

No.	見出し	説明
○ 1152	チョンガー	独身者。 男性に使う。もと朝鮮で成人前の男子の髪型の名前。漢字は「総角」。字にする時は、カタカナで書く。
1153	ちん (ちぬ)	黒鯛。(魚) 「ちん」は九州系、「ちぬ」は関西系の呼び名。親友のことを「ちんくそ」と言うが、これは、「ちんぐー」の「ちん」と、「黒鯛」の「ちん」を掛けて、黒鯛(ちん)が糞(くそ)まで食べる悪食に由来するとのこと。昔の「肥料(肥溜め)」を船から水揚げする時に、こぼれたものを黒鯛が寄って来て食べていたかららしい。最後までいっしょ(「くそ」まで食べる?)の仲の意味と思われる。 【「ちんぐー」参照】
1154	ちんぐー	親友、仲良し。 朝鮮半島から対馬を通して伝わった言葉。対馬や長崎でも使う。「ちんくそ」とも言う。 【「しつぽがながい」、「ちん」、「どーしん」、「とぎ」、「へこかえ」参照】 例：ありゃー、昔からのちんぐーじゃいやー。 (あいつは、昔からの親友だよ。)
1155	ちんぐう はんぐう (ちんぐー はんぐー)	ちぐはぐ。 「ちぐ」、「はぐ」ともに、「不揃いなさま」や「半端物」のことで「ちんぐ」、「はんぐ」とも言う。これが合わさった言い方。 例：こりゃー、話がちんぐーはんぐーになっちゃうのー。 (これは、話がちぐはぐになっているね。)
1156	ちんげな	ごく小さい様子。 「ちんぎ」は小さい、細い。今ではほとんど言わないか?
1157	ちんじに	粉々に。 「ちんじめちやくちやに」とも言う。昔の書き方は「ちんぢに」。「ちんぢに」は「千千に(ちぢに)」の音便。「千千(ちぢ)」は「つつ」の転音。「つつ」は「粒粒(つぶつぶ)」の略で、「ひとつ、ふたつ」の数をあまた重ねたことを意味する。よって、「ちんじに」はそれほど粉々になったと言う意味。また、「ちりじり」が、「ちんじり」→「ちんじ」になったと言う説もある。 【「じんだ」参照】 例：皿がちんじに割れた。(皿が粉々に割れた。) 余談：「ひとつ、ふたつ」の「つ」は「つぶ(粒)」の略で、果実を「ひと粒、ふた粒」と数えたのが、数詞の起源らしい。
1158	ちんじ ばらばらに	粉々に。 非常に細かく砕けたさまを表す。【「じんだ」、「ちんじに」参照】 例：茶碗がちんじばらばらになった。 (茶碗が粉々に割れた。)
1159	ちんちろ	罎の締め木を支えておく仕掛けのこと。バネ仕掛けの支えのこと。 「ちんちろ」は他に「松かさ」や「子犬」、「皿の破片」を指すこともあるらしいが、言ったことはない。【「かつちろ」参照】
1160	つい	ほんの。 例：A；こねーなのをもらって、たいがとーあります。 (こんな良い物をもらって、恐縮です。) B；つい、お印であります。(ほんの、お印です。)

No.	見出し	説明
○ 1161	つい (対)	揃い。同じもの。一対。 まさにそっくりなら「まっつい」と言う。【「まっつい」参照】 例：これとこれは、ついじゃねー。 (これとこれは、揃いだね。)(これとこれは、そっくりだね。)
1162	～つー (～つう)	～と言う。 「行くちゅーんか(行くと言うのか)」が「行くつーんか」、「行くちゅーんど(行くと言うのだ)」が「行くつーんど」のように使う。山口弁で良く使う「～ちゅう」、「～ちゅーんか」、「～ちゅーんど」が、「～つー」、「～つーんか」、「～つーんど」になる。しかし、今は「～ちゅう」系が主流で、「～つー」系はほとんど使われない。 また、「行くちゅーる、行くちーよる(行くと言っている)」は「行くつーよる」で、「行くちゅーよった、行くちーよった(行くと言っていた)」は「行くつーよった」になる。 【「～ちゅう」、「～ちゅえ」、「～ちゅわー」参照】
1163	つーしなさい	吐き出しなさい。(幼児語) 「つー」は「唾(つば)」のこと。「つーしなさい」は「唾を出しなさい」、つまり「口の中のものを吐き出しなさい」になる。危ないものを口の中に入れたような時に使う。【「つず(つづ)」、番外の「幼児語」参照】 例：なによー、くちんなかえー入れちよるんかね。つーしなさい。 (何を、口の中に入れているのかね。吐き出しなさい。) 例：砂が口に入ったときゃー、つーするんよ。 (砂が口に入った時は、吐き出すのよ。) 余談：「スイカのさねはプッしなさいよ」のように、果物の「さね：種のこと」などを出す時は「プッ」を使う。
1164	つえぬけ	崖や山の崩れること。 「つえ」が崩壊。山崩れを「つえが抜けた」と言うらしい。 【「ずえる」、「ずやける」、「どおれる」参照】
1165	つえる (づえる)	崩れる。 「崩れる」ことを「ずえ(づえ)」と言う時と、「つえ」と言う時がある。崖や石垣が崩れる時や組み体操が崩れる時は「ず(づ)える」。山が崩れる時は「つえがぬける」と使い分けている。「つえる」も「ず(づ)える」も元はいっしょ。言い方は「つえる」。「できもんがつえた」と言えば、「腫物がつぶれた」ことになる。 【「ずえる」、「ずやける」、「つやす」、「どおれる」参照】
1166	～つかあーさい (～つかあー され) (～つかん さい)	～下さい。 「遣わされ」の転。敬語であるから、こちらから物を渡す時やお願いをする時に使う率が高い。 ①「～つかーされませ」、②「～つかーされい」、③「つかーさい」の順に言葉を略して行くと敬語のレベルは下がる。「～つかんさい」、「～つかんされ」とも言う。【「おくれんさいやー」、「～くれまい」、「～くんな(～くんない)(～くんねー)」、「～つかあさんへー」参照】 例：こりよー、食べてつかあーさい。(これを、食べて下さい。) 例：ありよー、取ってつかあさい。(あれを、取って下さい。) 注：昔は③の前後に「～つかーれい」と「～つかい」の言葉があったそうだが、今はほとんど使われていないので省略した。

No.	見出し	説明
1167	～つかあ さんへー (～つかー さんへー) (～つかー さんせい)	～下さい。 「つかさんへー」、「つかんさいへー」、「つかんへー」と言う時もある。 親しい間柄の時には「～つかあされい」を「～つかあさんせい」のように言う。 この「～つかあさんせい」の変形版として「～つかあさんへー」を使う。買物 や物をもらう時やお願いをする時に使う率が高い。 【「おくれんさいやー」、「～くれまい」、「～くんな(～くんない)(～くん ねー)」、「～さんせー」、「～つかあーさい」参照】 例：水を一杯つかーさんへー。 (水を一杯下さい。) 例：ちょっと待ってつかーさんせい。 (ちょっと待って下さい。)
1168	つく (突く)	押すこと。 自転車やリヤカーを押す時によく言う。和歌山、高知でも使うらしい。「押し 車」は「つきぐるま」。 例：自転車を突いて行きゃええじゃあ。 (自転車を押して行けばよいのでは。)
○ ☆ 1169	つぐ (注ぐ)	よそる。よそう。 ご飯を茶碗に盛ること。「ご飯をつぐ」と使う。 「つぐ」は中四国と九州で使う。一般には液体に対して「注ぐ(つぐ)」を使う ことが多いので、他の地域出身者は違和感があるようだ。関西は「よそ う」。「よそう」は「装う」で食事を用意する意味から器に盛ることを指すよう になったそうだ。北海道、東北は「盛る」。関東は「よそる」。これは、「よそう」 と「もる」が合体してできた言葉らしい。
1170	つくなむ (蹲む) (屈む) (つくのむ)	かがむこと。しゃがみこむこと。 「つくのむ」とも言う。語源は二説あり。一説は膝を折りて腰を降ろしておる こと。「うずくまる」の語と同一。「つく」は「著(つく)」で腰を地に著(つ)くよう にする形。「なむ」は「之身(のみ)」の転音。即ち、「著之身(つくのみ)」のこ とと「防長方言考、防長民謡集」にある。 もう一説は、森川さん談で、鎌倉時代の「つきはう(突き這う)」から出た「つ くばう」がバ行音とマ行音の交替作用によって「つくまう」。これが「つくな む」になったとのこと。 「かがんでいいる」は「つくなんじよる」、言い易くして「つくのーじよる」。 「かがんでいよう」は「つくなんじょこう」、これも言い易くすると「つくのーじょ こう」になる。今頃はあまり使わないかな？ 我々が良く使ったのは「かごんじよる、かごーじよる」や「かごんじょこう、か ごーじょこう」。 【「かごむ」、「『～じよる』『～じょく』・・・」参照】 例：太ったから、つくなんだら、えらいんちゃあー。 (太ったから、しゃがみこんだら、きついんよ。)

No.	見出し	説明
○ 1171	つくねる	①だらしなく丸めて積み上げる。無造作に重ねて置く。整理することなく、ひとまとめにしておくこと。 ②[こねて固める。] 「つくね」を作る時のような、「こねて固める」意味。これは標準語。 「束ぬ(つかぬ)」の転。「束ぬ」はひとつに束(たば)ねてあるが、不揃いで丁寧な物ではない状態に使うらしいので、衣服などを脱いだまま、丸めて放置している状態は「つくねちよる」となる。 例：いらいた洗濯物をつくねちよる。 (乾いた洗濯物を丸めて置いている。) 例：脱いだふくーそねーなとこに、つくねちよっちゃいけんよ。 (脱いだ服をそんな所に、山にしておいたらダメだよ。) 余談：服を山にしていると「つくねちよる」だが、広げて置いていたら、「ふくーほおーちよる(服を放っている)」になる。
1172	つける	お寿司を作ること。 言い方は「つける」。 例：お母さんは、今、お寿司をつけよるよ。 (お母さんは、今、お寿司を作っているよ。)
1173	つず (つづ)	つば。唾液(だえき)。 西地区主体か？ 言い方は「つず」。東地区は「つば」、「つばき」を使うことが多かった。「つ」は口から吐き出す時の音声のことで、唾液を意味する最も古い語である。一音節の不安定さを避けるために、「つ」を重ねて名詞にした。よって昔の書き方は「つづ」。幼児語は「つー」。 【「つーしなさい」参照】 例：《怪我をした時》つずー塗ってみーや。 (つばを付けておいたら。) 余談1：「つば」の面白い変化。「つば」が口元から垂れたら「よだれ」で、地面に落ちたら、また「つば」に戻る。つまり、垂れているかどうかで決まる。ただし、青森では、こちらで言う「つば」のことを「よだれ」と言い、「よだれ」のことは「べろ」か「びろ」と言うらしい。 余談2：「つばき」は「つ」+「吐き」の「つはき」が変化した形で、「つば」は「つばき」の「き」が脱落したもの。「よだれ(涎)」は奈良時代には「よだり」で、涎だけでなく涙や鼻水など垂れてくる体液を指していた言葉らしい。
1174	～つた	～ずつ。～あたり。～宛。 周防大島では使っていたようだ。「～ずた」を「～づた」と書く場合もあるので、濁音が清音になって「～つた」と変化したものか？ 聞いた気はするが、我々の年代は使っていない。「～わて」の方を使っていた。 【「～ずた」、「ひとつつた」、「～わて」参照】
1175	つち	すごく。 強意の接頭語。「つち投げる」、「つち当たる」、「つち捨てる」、「つち転げた」などの様に次の動詞の意味を少し強める感じで使う。 【「さで」、「ちち」、「ばり」、「ぶち」参照】
1176	つつきくさし	物事をやり始めて、途中で止めること。中途半端なこと。 いろいろな習い事をやっては直ぐ止めるような時に使う。「惚れやすの飽きやす」状態。 【「あけやすのほれやす」、「くさす」、「ほれやすのあきやす」参照】 例：このこあー何でもつつきくさしでやめんじゃーやれんにーね。 (この子は何でも途中で止めるのだから困ったものだよ。)

No.	見出し	説明
1177	つっぺ	貸し借り無しのこと。同等。互角。 「突っ張り合い」の「つっぱり」が「つっぱい」から「つっぺい」に、そして「つっぺ」に訛って来た。兵庫、島根、広島、愛媛では使う。 「つっぺー」、「つっぺい」、「つっぱい」と変化して言うところもある。 例：これで、つっぺじゃの。(これで、貸し借り無しになったね。) 面白い情報：北海道ではティッシュを鼻に詰めることを「つっぺ」と言うらしい。 耳に詰める時は「つっぺ」とは言わない。「突く」という言葉と、押すという意味の「へす」がくっついた「つぺ」が穴や隙間に詰め込むものの意味になったのが語源らしい。それで、止水の栓をすることを「つっぺかる」と言う。 余談：東地区(下松)で「つっぺ」のことを「いってこい(行って来い：差引損得なし)」と言う人がいたので、調べたら、山梨、岐阜、静岡、滋賀などで使われている方言だった。
1178	つどう	都合が悪いこと。用事が重なること。 今なら、「バッティング」や「ダブルブッキング」？【「ぐつが悪い」参照】 例：明日、海に行こうと思うたが、つどうて行けんわー。 (明日、海に行こうかと思ったが、都合が悪くて行かないよ。)
1179	つなぐ	お金や物を集めて回ること。 銭型平次が使っていた、緡(さし)に通して、つないである銭のことを「つなぎ銭」と言うように、江戸時代は小銭をつないでいたから、この言葉が残っている。 例：町内会費をつないで歩くんよー。(町内会費を集めて回るのよ。)
1180	つばえる	はしゃぐ。ふざけて騒ぐ。戯れる。じゃれる。 調子に乗って比較的大騒ぎで遊ぶ様子。「そばえる」、「すばえる」、「ちばえる」、「ちばける」、「ほたえる」とも言う。「そばえる」は清少納言の「枕草子」(10世紀終り頃成立)にも見える古い中央語で、江戸時代の浄瑠璃や歌舞伎などでも頻繁に使われている。「そばえる」から「すばえる」、それが最後に「つばえる」に訛ったもの。さらに「つばえる」が訛って「ちばえる」となり、その「ちばえる」から「ちばける」が派生したものと考えられる。訛るにつれて「甘える」と言う意味が強くなっている。「ほたえる」は元々は上方語だが、今は西日本の方言になっている。 他には「つば」はおしゃべりを指す擬態語で、それを動詞にしたのがこの言葉と言う説もある。また、「連延る(つはへる)」のことで時間を延長して物事を為すことから来た言葉との説もあった。 【「おがちる」、「おごる」、「そばえる」、「すばえる」、「ちばける」、「ほたえる」、「ほだける」参照】 例：授業の時に、つばえるんじゃないぞ。 (授業の時に、はしゃいだり騒いだりするんじゃないよ。) 余談：長野や静岡では「つばえる」ことを「くるう」と言うようだが、長門の方言集に「くるう(戯れ、狂態)」と載っていたので、山口でも長門辺りでは使っているのかも？
○ 1181	つばな (茅花) (ずぼな) (ずぶな)	茅(ちがや)の穂の新芽。花穂。(植物) 穂が出る前で、芯の中に穂をはらんでいる時に取って食べる。チューインガムのような感じ。「つばな」は西地区(湯野)、「ずぼな」は東地区(笠戸島)、「ずぼーな」、「ずんぼーな」は県東部(伊陸、田布施)、「ずぶな」は周防大島の呼び方。県内、他には「つぼな」や「はいや」等の呼び名がある。 【「ずぼな」参照】 注：「つばな」は国語辞書にあるが、方言化しているので、収録した。

No.	見出し	説明
1182	つぶける (潰ける)	つぶれる。 例：金繰りが悪うて、とうとうつぶけたとみー。 (金繰りが悪くて、とうとう潰れてしまったなー。)
1183	つべ	お尻。 西地区で使用。「丸いもの」を意味する語基「tub-」が元になって、「粒」や「つぶつぶ」、「つぼみ」等の言葉が生まれている。「つべ」もこの流れで、「お尻の丸さ」をこの語基を使って表現したと考えられている。なお、「つべに目薬」は効果のないことの例え(たとえ)。 余談：沖縄では「お尻」は「ちび」と言うらしい。
1184	つべくそ	ほんの少し。些細なこと。細かいこと。 西地区で使用。【「めくそほど」参照】 例：《些細でどちらでもよいようなことを言う人に》 つべくそ、ゆうないやー。(細かいことを、言うな。)
1185	つぼんかわ	水を溜めた泉池。 「つぼかわ」とも言う。家の側に水を引いて来て作る。
1186	つまらん (つあーらん)	①だめだ。いけない。 ②[役に立たない。くだらない。] 古語「つまらぬ」から変化して「つまらん」。「つまらん」の言い方が「つあーらん」に近い時もある。当然、通常のさびしい、楽しくない、面白くない、ひきあわない等の「詰まらない」の意味でも使う。これらは標準語の使い方。 例：そねーなことをしちゃあ、つまらんよ。 (そんなことをしたら、だめだよ。) 例：やんや、つまらんものーこーてしもーたのー。 (やれやれ、役に立たないものを買ってしまったよ。)
1187	つみ	コクゾウムシ。米につく蟻に似た黒い虫。(虫) 例：つみがわいて、米がだめになったいやー。 (コクゾウムシがわいて、米がダメになったよ。)
1188	つむ (抓む) (摘む)	切ること。 爪や髪を切る時に使う。言い方は「つむ」。昔は「つむ」と言っていたが、今は、「切る」が優勢かも? 「つめ」と「つむ」の語源は同じで、物の端(はし)、際(きわ)の意味の「端(つま)」である。 例：髪をつみんさい。 (髪を切りなさい。) 例：爪をつむ。 (爪を切る。) 例：爪、つんじょき。 (爪を切っておきなさい。)
1189	つむぐ	つぐむ(嚙む)こと。 「紡ぐ」ではない。 例：うるさいのー。少しは口をつむんじょけ。 (うるさいなあ。少しは口をつぐめ。)
1190	つめたか	つま先立ち。 西地区(福川)で使う。

No.	見出し	説明
○ 1191	つめる	①痛む。胃が痛むこと。 【「しわる」、「せく」、「にがる」参照】 ②閉める。 【「つन्दる(つんじょる)」参照】 ③挟む。 注：他に「弁当を詰める」や「根を詰める」等の通常の意味の「詰める」も使うが割愛した。 例：胃が詰める。 （胃がちくちくと痛い。） 例：戸をようつめちよけよ。 （戸を良く閉めておけよ。） 例：指を詰めたいやー。 （指を挟んだよ。）
○ 1192	つやす (潰す) (づやす) (づわす)	崩す。つぶす。 言い方は「つやす」。「づやす(ずやす)」、「づわす(ずわす)」とも言う。「使い果たす」意味の「ついやす」が変化したもの。「つぶす」意味で「みしゃぐ」、「へしゃぐ」等を使うようになって、「つやす」はあまり使われていない。 【「ずやす」、「つえる」、「ひしゃぐ」、「へしゃぐ」、「みしゃぐ」参照】 例：空き缶をつやして、資源ごみに出しちゃきーよ。 （空き缶をつぶして、資源ごみとして出しておきなさいよ。） 例：リンゴをづやして、ジャムを作るんてー。 （リンゴをつぶして、ジャムを作ると言っていたよ。）
1193	つゆがあがる (梅雨が上がる)	梅雨が明ける。 「霽る」とも書く。明治36年の尋常小学校の教科書には「つゆがあがる」の表現があるらしいので、昔は全国で言っていたのだろうが、現在の標準語では「あがる」のは雨や雪で、梅雨は「あける」を使う。
○ 1194	つら (面)	側。 言い方は「つら」の前の単語の後ろに「っ」を付けて「〇〇っつら」と言う。 【「ひら(びら)」参照】 例：「東つら(東側)」、「北つら(北側)」等。 《言い方は「ひがしっつら」、「きたっつら」》
1195	つらかる (散らかる) (つらける)	散らかる。散らける。 「ひどく散らかしていること」は「とっつらかす」、「とりちらかす」。これを萩では「うっつらかす」と言うらしい。(萩市の田町商店街ののぼりより。) 【「だだんだー(だだんこだー)」、「つらけかやす(散らけ返す)」、「とりちらかす(とっちらかす)(とっつらかす)」参照】 例：部屋がつらかつとる。 （部屋が散らかっている。）
1196	つらけかやす (散らけ返す)	非常に散らかっていること。 「かやす」はひっくり返すこと。「つらけかやす」は、散らかって、上下が分からない位になっていること。よって、非常に散らかっている意味になる。同じく、ひどく散らかっていることを「つらかりまわしちよる」とか「ちらかりまわしちよる」とも言う。【「かやす(かやる、かやれる)」、「だだんだー(だだんこだー)」、「つらかる(散らかる)」参照】 例：つらけかやしちよるが、まあ、上がりさい。 （非常に散らかっているが、まあ、上がりなさい。）

No.	見出し	説明
1197	つらはり	聞(利)かん坊。腕白な子供の様子。 NHKのアナウンスルームで山口の方言として紹介されているので収録したが、我々は使ったことはない。県中央部の言葉かも？ 岩国や柳井、周防大島の方言集には収録されていなかった。但し、須佐地方の方言集には「強情、我を張る」、阿知須の方言集には「悪いことばかりする子供」と収録されていた。 また、小郡地区では「つらをはる」が県東部の「きなる(興奮する、調子に乗る)」の意味になるので、「きなって、ゆうこときかんちょ」が「つらはり」か？ 「山口県方言辞典」によると「つらをはる」が「①人の顔を打つ ②憎まれ顔をする」だから、この②の転から「つらはり」になったか？ 【「がんぼー」、「きなる」、「つらをはる」、「ゆうこときかんちょ」参照】
1198	つらをはる (面を張る)	人の顔をたたく。 言い方は「つらーはる」。周南では「たたく」意味にしか使わないが、小郡地区では「きなる(興奮する、調子に乗る)」の意味に使う。 【「きなる」、「つらはり」参照】 例：おーちゃくーゆーから、つらーはりあげちゃったいやー。 (横着を言うから、顔をたたいてやったよ。)
1199	つるい	井戸。 つるべに水を汲んで吊り上げることから派生した言葉。
1200	つれようて	連れ立って。 対等の関係で行く時に「つれようて行く」と使う。しかし、今はほとんど「つろーて」を使うかな。【「つろうて」参照】
1201	つろうて (つろーて)	①連れだって。②辛くて。 ①の「つれだって」の時の言い方は普通は平板式だが、連れて行くことを強調する時は、「<u>つろ</u>ーて行く」のようにちょっと上がり調子に言う。②の「つらくて」の時は、普通の言い方は「<u>つろ</u>ーて」とちょっと下がり調子に言うか、「つろーてゝ」のように「て」を少し強く言うが、辛いことを強く言う時は「<u>つろ</u>ーて」と上がり調子に言うこともある。 【「つれようて」参照】 例：遊びにつろーて行った。(遊びに連れだって行った。) 例：何年つろーちよるかのー。(何年連れ添っているかな。) 例：つろーてやれんにーね。(辛くてたまらないよ。)
1202	つんぐり もんぐり	行ったり来たり。埒(らち)が明かない。 「つんぐり」は「つむ(錘)：紡錘」に糸を丸く巻いたように、中央が太く、端が細い形のことを言う。それで、いちじくや、どんぐり、松かさの別名ともなっている。「もんぐり」は、「いんぐりもんぐり」のところに記したように、「曲がる」などから派生した言葉と思われる。よって、転がり方が一樣でないことから、物事が進まないことに使われるようになったのではないかと、東地区(花岡)で使う。 なお、柳井の方言集には「つんがらもんがら」で「仕事中途半端で困っている」、周東の方言集には「つんぐりまんぐり」で「らちがあかん」とあった。同じ意味で少し言い方が違う例である。 【「いんぐりもんぐり」参照】
1203	つんこ	小魚の干物。(魚加工品) 東地区(笠戸島)で使う。

No.	見出し	説明
1204	つんどる (つんじよる)	①閉まっている。 「つめる」で「閉める」の意。言い方は平板式。 ②渋滞している。 「間隔を詰めている」こと。言い方は「つんゞどる」「つんゞじよる」。 ③積んでいる。 言い方は「つんゞどる」「つんゞじよる」。 【「つめる」参照】 例：もう遅かったけー、店がつんどった。 (もう遅かったんで、店が閉まっていたよ。) 例：あの道はつんじょったで。(あの道は渋滞していたよ。) 例：にもつあー、はあ、つんじよるよ。(荷物は、もう積んでいるよ。)
1205	つんべんかやり	でんぐりがえり。とんぼ返り。逆さまに返る。 一般的には後転のでんぐりがえり。とんぼ返りのこと。西地区で使用だが、聞いた程度。鹿野の方言集には「逆様に返る。宙返り。逆つんべとも。」とあった。【「さかつんべ」、「でんぐりかえる」参照】 余談：須佐の方言集に「つんぶりこをかやす(ひっくりかえる)」とあった。この「つんぶり」は「つぶり(頭)」の変化と思われるので、「つんべ」が「つべ(尻)」としたら、「頭返り」と「尻返り」と県内で違う系統の言い方があったのか？ ちなみに、周防大島は「つべかやり」。
1206	～て (～で)	～られる。 動作主への親しみを込めた敬意を表す助詞。 【「～ちゃった」、「～やーる」参照】 「～て」となる例 例：今日、<u>せん</u>せーが家へ来てんよ。 (今日、先生が家に来られるのよ。) 例：外でお客さんが待ちよってですよ。 (外でお客さんが待っていていらっしゃいますよ。) 例：ずっと描きよってじゃが。(ずっと描いておられるが。) 「～で」となる例(五段活用の撥音便・ウ音便とガ行イ音便の動詞、すなわちナ行・バ行・マ行・ガ行の五段動詞連用形に付く時) 例：何の新聞を読んでですか。(何の新聞を読まれますか。) 例：よーけ、のーでじゃねー。(たくさん、飲まれるんですね。) 例：どこまで泳いでですか。(どこまで、泳がれますか。) 注：伝聞の意を表す助詞の「て」とは区別あり。【「～て(～てー) 参照】
1207	～て (～てー)	～と言うこと。 伝聞の意を表す助詞の「て」。「てー」とも言う。 また、最後に「～てや」、「～てーや」と言う風に「や」を付けて、「～ぞよ」の意味で使うことも多い。 【「～といや(～といの)」、「～んて」参照】 例：明日から、雨って。(明日から、雨ということだ。) 例：《ある人が知らなかったことを別の人に伝える場面で》 そねーなこたー知らんってー。 (そんなことは知らないそうだ。) そねーなこたー知らんってーや。 (そんなことは知らないそうだよ。) 注：敬意を表す助詞「て」とは区別あり。【「～て(～で)」参照】

No.	見出し	説明
1208	～で (～でね) (～での) (～でよ)	～ぞ。～よ。 山口弁の終助詞「で」は、下に何も伴わない場合、共通語の終助詞「ぜ」にほぼ相当する、親しみとぞんざいさを伴った日常語。同等以下の相手に使うことが多い。 「で」の用法的な特徴は、念を押す意を表す終助詞「ね」「の」「よ」を頻繁に伴うことである。「で」、「での」、「でよ」は主に男性が使う。「でね」は優しい言い方で主に女性が使う。 【「～い」、「～いね」、「それいね(その2:い)」、「～だい」、「～ちゃー」、「～ど」、「～ね」、「～のー」、「～や」参照】 ①強調・断定を表わす。 例:「はあ、行くで。」「はあ、行くでよ。」「はあ、行くでの。」 (もう、行くぞ。) 例:そりゃーだめでね。(それはだめだよ。) ②勧誘の気持ちを示す。 例:遊ぼうでよ。(遊ぼうよ。) 例:はあー、行こうでー。(もう、行こうよ。)
1209	～でえー	「～ですか?」の省略形。 敬意を表す「～で」とは違う使い方。 例:はあー、行くんでえー? (もう、行くのですか?)
1210	てーげーに せーよ (たえーがえー に せーよ)	大概にしろよ。いい加減にしろよ。 山口弁の正調は「たえーがえーに せーよ」。「大概(たいがい)」の連母音「アイ」が「アエー」と発音されるので、「たいがい」が「たえーがえー」になる。これを言い易くしたのが、「てーげー」。「大概にはしろよ」は「てーげーにやーせーよ」。他に、「たい」が「てー」になる例としては、「てーそーな(大層な)」がある。【「えーかげんにせーよ」参照】 例:《いつまでも遊んでいる子供に》 あそぶなー、てーげーに せーよ。 (遊ぶのは、いい加減にしろよ。) 余談:「てーげー」は大分では「甚だ、大変」の意味になり、宮崎や鹿児島では「てげ」で「とつても」、「てげてげ」で「大概、適当に、いい具合に」の意味になるようだ。「てげてげ」は「大概」を語源とする「てげ」の反復語との説明あり。上記と同じような発音の経緯をたどったものと思われる。 【番外の「『ぶち』の付録」参照】
1211	てーたーさく (てーたー)	まぬけ。 東地区(笠戸島)で使う。「手が下に垂れている」と作業が遅くなる。よって、「てたれ」→「てーたれ」→「てーたー」で、「まぬけ」の意味に使うようになったと思われる。「てーたー」だけでも使う。 なお、鹿野の方言集には「たえたあ」で「ていたらく、様子、姿」とあったので「無様(ぶざま)な様子」の意味でも使っていたようだ。 【「てれさく」、「とろさく」、「ぬけ」参照】 例:あいつあー、てーたーじゃけーのー。 (あいつは、まぬけだからなあ。)
1212	～てえな	～らしいよ。 例:もう、ゆうたてえーな。 (もう、言ったらしいよ)

No.	見出し	説明
1213	～でか	もちろん～する。 「行かいでか(もちろん行きます)」、「やらいでか(もちろんやります)」のように使う。言い方は「 <u>いかい</u> でか」、「 <u>やらい</u> でか」になる。
1214	～てから	～てねえ。 念押し、強調、語調を整える助詞「から」で、理由を言う「から」ではない。 例：痛うてから、やれんじやった。 （痛くて、堪(たま)らなかった。） 例：あねーなことをゆうてから、どねーなつもりかね。 （あんなことを言ってねえ、どんなつもりなんだろう。）
1215	できだち	出来立て。 言い方は「 <u>できだち</u> 」。 【「～だち」、「でだち」、「やきだち」参照】 例： <u>できだち</u> よー、はよー、 <u>たび</u> よーいーねー。 （出来立てを早く、食べようよ。） 注：子音内の母音「イ」+助詞「オ」は「ユー」や「ヨー」等に発音される。よって、「できだちを(デキダチオ)」は「デキダチュー」や「デキダチャー」になる。 また、下一段動詞未然形の母音「エ」+推量・意志を表す助動詞「ヨー」は、「エ」が脱落して、「ヨー」と発音される。よって、「食べよう(タベヨー)」は「タビヨー」になる。【「～しょー」参照】
1216	できもん	出来物。吹き出物。おでき。 【「めいぼ」参照】
1217	てご	手伝い。 「人手を助ける子」の意。「手伝い人」は「てごし」、「てごにん」と言う。「てごーせる(手伝いをする)」、「てごーせよーか(手伝いをしようか)」、「てごーしー(手伝いをしなさい)」、「てごーせー(手伝いをしろ)」などの使い方をする。【「てごにおえん」参照】 例：ちょっと、 <u>てご</u> してくれ。 （ちょっと、手伝ってくれ。） 例： <u>てご</u> あーせんでもええけー、 <u>しゅくだい</u> ゆーやりんさい。 （手伝いはしなくても良いから、宿題をやりなさい。） 注1：母音「オ」+助詞「オ」は「オー」と長音化して発音される。よって、「てごを(テゴオ)」は「テゴー」になる。 注2：子音内の母音「オ」+助詞「ワ」は、「アー」または「オアー」と発音される。よって、「てごは(テゴワ)」は「テガー」または「テゴアー」になる。 また、母音「イ」+助詞「オ」は、「イュー」、「イヨ」、「イヨー」、「イー」と発音される。よって、「宿題を(シュクダイオ)」は、「シュクダイュー」、「シュクダイヨ」、「シュクダイヨー」、「シュクダイー」のどれかの言い方になる。
1218	でこ	土人形。 広義では人を描いた絵も含む。
1219	でこーなる	大きくなる。 【「おーきゅーなる」参照】 例：このこあーでこーなったねー。 （この子は大きくなったねー。）

No.	見出し	説明
1220	てごにおえん (てごにあわん) (てごにいらぬ) (てごにあわん)	手に余ること。持て余すこと。手に負えないこと。 但し、子供に限った表現。「てご」をさせようとするけど、手子にならないから、変じて、「手に余る」になったか。 「てごにあわん」とも言う。これは「手」に、接尾語の「ご」がついて「手に合わない(手に余る)」が「てごにあわん」になったようだ。 同様に考えると、「手に負えない」は「てごにおえん」になるので、これが「てご」と混ざって「てごにおえん」になった可能性もある？ また、西地区(小畑)の方言集には「てごにいらぬ(手に負えぬ)」、防府の方言集には「手にあわん(手に負えぬ)」とあったので、このような言いまわしもあるようだ。【「うでっこうにあわん」、「がんぼー」、「しごーする」、「しごにならん」、「てご」参照】 例:この子はてごにおえん。(この子は手に余る。)
1221	でごん	すなめり(砂滑)。小さい鯨類。(哺乳類) 「すなめり」なのか、「ごんどーくじら(巨頭鯨)」なのか、良く分からないが、2m程度の小さい鯨や海豚(いるか)類を「でごん」と呼んだ。 「じゅごん」と言う説もある。昔、瀬戸内海に生息していたとしたら、可能性ありだが、我々が子供の頃は小さい鯨類のことだった。
1222	～ですいね	～ですよ。 助動詞「です」に念押し、強調の意を添える助動詞「い」と「ね」が付いた表現。この「～ですいね」は山口県の特徴的な言い方。 【「それいね(その1、その2)」、「それですいね」参照】 例:せわーないですいね。(大丈夫ですよ。)
1223	ですいね	「そうなんです。分かってもらえましたか」の意。 例:A;そうゆーことか。(そう言うことか。) B;ですいね。(そうなんですよ。)
1224	でだち	出たばっかし。出たばかり。出立てのこと。 言い方は「でだち」。【「～だち」、「できだち」、「やきだち」参照】 例:このスイカは、でだちじゃから、 うまいかどうか、よう分からんでー。 (このスイカは、出たばっかしだから、 おいしいかどうか、良く分からないよ。)
1225	てっかい	手長エビ。(甲殻類) 東地区(熊毛)で使う。「手がでかい」からの変化で「てっかい」か? 下松では「てくま」と呼んでいたようだが、確認出来なかった。
1226	てっき (てき)	焼き網。 言い方は「てっき」か「てき」。「てっき」の「っ」を短く言うと「てき」に聞こえる。「山口県方言辞典」によると周防と阿武は「てっき」、他は「てき」らしい。確かに方言集に載っていたのは、防府、周防大島は「てき」、須佐は「てっき」だった。しかし、阿武郡奈古村の方言は「てき」だったし、下松の友人は「てき」と言っていたので、各所で混在か? 例:《ひちりんを前に》 餅を焼くから、てっきを持ってきんさい。 もちよーやくけー、てっきよー持ってきーさい。 (餅を焼くから、焼き網を持っておいで。) 【「ひちりん」参照】

No.	見出し	説明
1227	てっしょ (てっしょう) (てふけ)	小皿。 手塩皿のこと。「てっしょざら」と言うところもある。【「てふけ」参照】 例：お前のへりにあるてっしょを取ってくれんか。 (お前の横にある小皿を取ってくれないか。)
1228	ててっぽ	①片足飛び ②いたどり(虎杖) (植物) どちらの意味でも我々は使っていないが、情報提供と言うことで収録した。 「ててっぽ」は「ててっぽっぽ」と言う山鳩の鳴き声が省略されたもので、「ててっぽっぽ」は全国各地で少しずつ言い方、意味が変わっている。山口県では「山鳩」や「ふくろう」などの意味があり、「ててっぽー」で「無一文」(鹿野、徳地)、「ててっぽ」で「いたどり」(周防)、「片足飛び」、「蟻地獄」(周防大島)などの意味に使われていたようだ。 「いたどり」は「山口県の植物方言集覧」によると他に「すいば」(徳山)、「すいすい」(下松)、「すかんぽ」(熊毛)、「かば」(下松笠戸島)、「いたずり(玖珂)」等の呼び名がある。なお、食べると同様に酸味がある「すいば(酸葉)」も「すいば」以外に「じんとう」(周防)、「すいすい」(下松、光)、「すかんぽ」(周防大島)等、一部「いたどり」と同様の呼び名が使われていたようだ。【「かたちん」、「けんけん」、「じんとう」、「ふるつく」参照】
1229	でに (銭)	お金。銭。料金。 山口弁ではザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・デ・ド」として発音されるため、「ぜに(銭)」が「でに」になった。他の例としては「ぜん(膳)」が「デン」、「ぜったい(絶対)」が「デッタイ」、「ぜんぶ(全部)」が「デンプ」、「ぜひ(是非)」が「デヒ」、「かぜ(風)」が「カデ」、「はぜの木」が「ハデノキ」、「いこうぜ(行こうぜ)」が「イコウデ」などがある。 【「でろ」、「でんき」、「でんで」、「でんでん」参照】
1230	てねる (手練る)	束ねる。手で束ねること。 主に稲刈りの時に稲束をわらで束ねることに使う。 文語では「てぬ」。わらや苗などを小さく束ねるのが「てねる」。「束」から「たばねる」と言ったのと同じように「手」から「てねる」という表現が出たらしい。手で押さえこんで少し回す様子が練る動作に似ているからか？ 【「きびる」参照】
1231	でびら (でべら)	干しカレイ。(魚加工品) タマガンゾウビラメやメイタガレイの小さいものを干して作る。「雁瘡鰯(がんぞうびらめ)」のことを「デビラガレイ」とも呼ぶので、この名前が付いたと思われる。「でべら」とも言う。 注：雁瘡とは雁(がん)の飛来する頃に流行する瘡(かさ：皮膚病)の意。鰯の体に斑紋があり、表面がかさかさしていることに由来する。
☆ 1232	てぶくろをやる (手袋をやる)	「手袋を『する』」、「手袋を『はめる』」こと。 手袋を人にあげることではない。ただし、人にあげる時も「てぶくろーやる(手袋をあげる)」と使うので、どちらの「やる」かは状況判断となる。 例：《寒い外に出る人に》さみーから、手袋をやって行きーよ。 (寒いから、手袋をして行きなさいよ。) 例：このぐんちょーやるから、作業のときゃー、やっちょけよ。 (この軍手をあげるから、作業の時は、しておけよ。) 余談：関東甲信越、東海、中国、九州は「する」、「はめる」派。北海道、東北、信越、四国、沖縄は「はく」派。近畿は両方が混在。特異点として、岩手は「かざる」、山口は「やる」らしい。

No.	見出し	説明
1233	てふけ	小皿。取り皿。 東地区(中須)で使う。「てしお(手塩皿)」のこと。 【「てつしょ」参照】
1234	でぶっちゃん	おでこ、額(ひたい)のこと。 西地区で使用。東地区は「でこちん」。柳井の方言集に、「でぶ」「でび」「でぼ」「でびちん」「でぼちん」などの言い方が載っていたので、昔は、いろいろな言い方があったようだ。 注：新南陽の方言集には「でぶちん(おでこ)」とあったが、今は「でぶちん」、「でぶっちょ」は「太っちょ」のこと。
1235	てぶらかす	放棄する。放置する。ほったらかしにする。 「てぶる」の未然形に他動的な意を表す接尾語の「かす」が付いて、「てぶらかす」になった。「てぶる」より、その度合いが強調されている。なお、柳井の方言集には「てびらかす」の言い方も載っていた。 【「てぶる」、「とりてぶる」、「ぶらんかす」、「ほーからがす」、「ほーかる」、「ほーたる」参照】 例：あいつは仕事をてぶらかして遊んじよる。 (あいつは仕事をせずに遊んでいる。) 例：そねーなこたー、てぶらかしちよきやーええいやー。 (そんなことは、放っておけば良いよ。)
1236	てぶる (手振る)	①放棄する。放置する。そのままにしておく。 ②異常振動する。回転が滑らかでない。 「手ぶら」の語源となる「てぶり」の動詞化したものが「てぶる」。明治以降、使われるようになった。森川さんによると、昔の中央語としては「てぶり」しかないの、山口県で独自に「てぶる」と使っていたようだとのこと。 【「てぶらかす」、「とりてぶる」、「ほーかる」、「ほーたる」参照】 例：ほーり、てぶる。 (投げ捨てて、放っておく。)(何もしない。) 例：こねーな でえーじなことー、 てぶっちょちゃーいけんでー。 (こんな大事なことを、 そのままにしておいてはいけないう。) 例：草刈り機がてぶるんちゃー。 (草刈り機の回転がおかしいのだ。)
1237	でべそ (出臍)	①どこへでも顔を出す人。外を良く出歩く人。②でしゃばり。 「山口県方言辞典」には、「でしゃばり」の意味しかないの、昔は②の意味が優勢だったのかも？ 今頃は①の意味で使う人が多いが、東地区(笠戸島)では②の意味でも使う。 【「あるきがみ」、「たかあるき」参照】 例：いっそ家におりやーせん。よいよでべそでよ。 (いつも家にいない。本当に出歩くのが好きな人だね。) 例：いらんてんばを焼きーさんな。よいよでべそじゃねー。 (いらんおせっかいをしてはいけないう。本当にでしゃばりだね。)
1238	てぼ	竹で編んだカゴ。手籠。麺をゆでるものとか、鰻を取る細長いカゴ。 「鉄砲ざる」が略されて「てぼざる」、または「てぼ」と呼ばれるようになった。 【「そうけ」、「てみ」参照】

No.	見出し	説明
1239	てまがえ (てまがえー)	お互いに仕事の「てご(手伝い、手助け)」をして労働を交換し合うことを言う。 村落における労働力補充と共同体としての認識・秩序を維持するための生活の知恵。字は「手間換え」。「ゆい(結)」のこと。用具などの物を共有にするのは「もやい・もやえー」。 【「もやい」参照】
1240	てまりかん	あじさい。 光で使う。「防長動植物方言考」によると、徳山でも言っていたらしい。「てまるかん」とも言うらしい。他に県内では「ななばけ(和木、室積、厚狭)」、「あまちゃ、おばさん、しちばら(周防大島)」、「ぼんぼんだりあ(豊浦)等の呼び名があったようだ。
1241	てまる	まり。手まり。 注：標準語では「手丸提灯(丸形の提げ提灯)」の略になる。
1242	てまをくう (手間をくう)	手間が掛かる。 例：てまーくう造作じゃのー。(手間が掛かる造作だな。) 例：このしごたー、てまーくうてやれんにーや。 (この仕事は手間が掛かってたまらないよ。)
1243	てみ (手箕)	箕(み)。 四国や中国の方言。「日本方言大辞典」には、「てみ：(1)穀物のもみ殻をあおってくずを取り除くための道具 箕(み)(香川県)(2)ものを入れて運ぶ箕(み)の形をした小さな竹ざる(熊本県球磨郡)(3)土などをすくう竹ざる(徳島県 愛媛県)(4)竹で編んだちり取り(島根県)」とある。山口県では(1)や(3)の意味で使う。ただし、須佐の方言集に「竹製のちりとり」とあったので、(4)の意味で使うこともあるかも知れない？ 他に県内には、「いしぞうけ」、「えぶ」などの呼び名がある。 ちなみに、野菜を洗って乾かすために使う竹で編んだ浅いざるは「そうけ(箒筥)」、麺をゆでるものとか、鰻を取る細長いカゴは「てぼ」と言う。 【「いしぞうけ」、「えぶ」、「そうけ」、「てぼ」参照】
1244	でみ (ぜみ)	泉。わき水。 「ぜみ」とも言う。西地区は言わない。東地区で昔聞いたかな？ という程度。ほとんど使わない。 柳井、周防大島の方言集には収録されている。
1245	てれーぐれー (てれんぐれん)	①何もせずにぶらぶらとしている様子。 ②とりとめのないこと。あれこれまともらず物事が進まない様子。 「てれー」は「でれる」に由来する。「でれる」は「でれでれする」の意。女にかまけているから仕事をしない。よって、「ぶらぶら怠けている」の意味になる。「ぐれー」は「くれる」の意。よって、ぐれて正業に就かないから、こちらも「ぶらぶらしている」の意味。「てれんぐれん」とも言う。県内のほとんどの方言集に載っているの、昔は良く使われていたようだが、現在使う人は少ないようだ？ 【「てれさく」、「てれてれするな」、「てれんこぼれんこ」参照】 例：てれーぐれー、ほっつき歩いちよる。 (ぶらぶらとあちこち歩いている。) 例：あんたーいっそてれーぐれーじゃけー、ものーたのめんのいね。 (あなたはいつものらりくらりしているから、ものを頼めないのだよ。)

No.	見出し	説明
1246	てれさく (照れ作)	①照れ屋。引っ込み思案な人。恥ずかしがり屋。 ②まぬけ。役に立たない人。 通常、①の意味で使う。今は、②の意味では使わないが、「山口県方言辞典」や「新南陽市の生活とことば」にも、「役に立たない人」と載っているの で、昔は使っていたようだ。「てれ」は「でれる」由来でぶらぶら怠けている 様子を表している。よって、「まぬけ」や「役に立たない人」の意味になる。 【「えんりよし」、「きがねし」、「～し」、「てれーぐれー」、「てれてれするな」、 「てれんこぼれんこ」参照】 例：《団体で写真を撮る時に》 あの人てれさくじゃから、前にやでちゃーないーね。 (あの人照れ屋だから、前の方に出てことはないよ。)
1247	てれてれするな	だらだらするな。でれっとするな。 【「てれーぐれー」、「てれさく」、「てれんこぼれんこ」参照】 例：整列！ てれてれするなよ！ (整列！だらだらするなよ！)
1248	てれんこ ぼれんこ (てれんこ ぼれんこ) (てれんぼれん) (てれんぼれん)	①何もせずにぶらぶらとしている様子。 ②とりとめのないこと。あれこれまとまらず物事が進まない様子。 「てれんぼれん」、「てれんぼれん」、「てれんこぼれんこ」と言うところもある。 「てれん」は「でれる」に由来し、でれでれしているから仕事をしないで、 ぶらぶら怠けている意味になった。「ぼれん」は「ぼれん」の転で、「晴れる」 に由来。心の中のわだかまりが無くなり、何も考えることが無くなったから、 ボーとしている。これがぶらぶらしている、まとまりの無いことの意味に転じ た。 なお、編者が使っている「てれんこぼれんこ」は下松から平生までの範囲 で使われているようだが、「てれんぼれん」は県内の広い地域で使われて いる。次が「てれんこぼれんこ」で、「てれんぼれん」は新南陽から岩国の 範囲で使われていた？ 【「てれーぐれー」、「てれさく」、「てれてれするな」参照】 例：なによーう、てれんこぼれんこしちよるんかねー。 (何を、ぶらぶらしているのかね。) 例：こんなーてれんぼれん話すけー、 なによーゆいよるんか、よー分からん。 (こいつは取り留めのない話をするから、 何を言っているのか、良く分からない。)
1249	でろ (零)	ゼロ(零)。 山口弁ではザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・デ・ド」として 発音されるため、「ぜろ」が「でろ」になる。携帯の電話番号を言う時に「09 0」は「でろ きゅー でろ」となる。今頃は「ゼロ」と言う方が多いかな。 【「でに」参照】
1250	てわるさ (手悪さ)	「手遊び」のこと。集中しないで、手で何かをしていること。 例：授業中に手悪さをしよって、せんせーにおこられたいねー。 (授業中に手遊びをしていて、先生に怒られてしまった。)
1251	～てん	～ごらん。～ごらんない。 軽く促す時に、「やってみてん(やってみてごらん)」、「食べてみてん(食 べてごらん)」の様に使う。 例：こっちに来てん。よう見えるよ。 (こっちに来てごらん。良く見えるよ。)

No.	見出し	説明
1252	てんかち (てんこつ) (天骨)	頂上。一番上。 「てんかち」を東地区(笠戸島)で使う。頂上の言い方には「てっぺん(天辺)系:てっぺん、とっぺん」、「てんこつ(天骨)系:てんこつ、てんかち、てんけつ、てんづく、てんぱち」、「ずく系:ずく、ずくてん、ずってん」、「つじ系:つじ、てんつじ、まっつじ」があり、県内には「てんこつ系」、「ずく系」、「つじ系」の言い方が混在している。なお、「つじ(辻)」は分かれるところや合わさるところの意味なので、「頂上」の意味にも使われる。 「てっぺん系」はどちらかと言うと東日本中心に全国で使われているが、「てんこつ系」、「つじ系」は西日本が主体で、「ずく系」は西日本の一部地域だけで使われている。 また、「てん(天)」は物の高いところ、「こつ(骨)」は骨組みや身体を意味しており「頭」の意味に使うことがある。それで、「てんこつが痛い(頭が痛い)」と使うところもあるようだ。 【「うら」、「ずく」、「てんぱ」参照】 例:《庭石を築く(つく)時に》 この石は、こっちをてんかちにしても面白いかなあ。 (この石は、こちらを上にしても面白いかな。) 余談:ヘルメットのことを、「てっぱち」とか「てっかち」と呼んでいた。「てっぱち」は「天鉢」だが、「てっかち」は「てつ」を「てんかち」にかぶせるから「てっかち」??
1253	でんき (でんきな) (でんきをはる) (ぜんき)	頑固。片意地。意地っ張り。頑な。言うことを聞かない。 山口弁では、ザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・デ・ド」となって発音されるが、「でんき」も「ぜんき」が変化したもの。「ぜんき」は「善機」で正しい教えを修行する性質、能力、またその人の意味と、「禅規」で禅宗で教えられる厳密な規則、教えの意味の二通りの説がある。 「でんき」は名詞で、通常は「意地を張る」で使う「押し通す」意味の「張る」を付けて、「でんきをはる(頑固なことを言い張る)」と使う。形容動詞になると「でんきな(頑固だ)」となる。正しい教えを学ぶ強い意志やその教えを貫くことが、頑固な意味に転じたと思われる。 【「でんでん」、「～な」、「ゆうこときかんちよ」、「へんくう」参照】 例:そねーに、でんきをはりーさんな。 (そんなに、頑固なことを言い張らないで。) 例:あんたー、でんきなの一。 (あなたは、意地っ張りだね。)
1254	てんくら	全然。全く。 後には否定語が来る。昔の「全然」の使い方と同じ。 「てんくら」でうそ、嘘つきの意に使うところもあるが、周南ではその意味では「てんすら」と変化して使う。これは「てんくら」から派生した言葉と思われる。【「てんすら」参照】 例:今度の試験は、てんくらダメじゃった。 (今度の試験は、全くダメだった。)
○ 1255	でんぐりかえる (でんぐりがやる)	①ひっくり返ること。 ②とんぼ返りすること。 主には①の意味で使う。【「さかつんべ」、「つんべんかやり」参照】 例:《子供が》でんぐりかえって泣きよる。 (ひっくりかえって泣いている。)

No.	見出し	説明
1256	てんぐり まんぐり	代わるがわる。 聞いたことがある程度で使ってはいない。ただし、千葉県では「沢山」の意味になるらしい。
○ 1257	てんごう (癡狂)	①ふざける。いたずら。 ②生意気。 古語の「癡狂(てんごう)」から出た言葉。元々は「気狂い」の意味。「転合」、「転業」の字をあてることもある。「てんごーを焼く」は「よくお節介をすること」だが、周南ではこの意味では「てんばを焼く」の方が一般的。②の生意気の意味では「ねんごー」の方を良く使う。 【「さいたらやく」、「てんごうをやく」、「ねんごー」、「てんばを焼く」参照】 例：てんごーするなよ。(いたずらするなよ。) 例：てんごー言うな。(生意気を言うな。) 余談：周防大島では「てんごうを言うな」または「ねんごうを言うな」で「生意気を言うな」以外に「ホラを吹くな」の意味にも使うようだ。
1258	てんごうをやく (てんごー焼く) (てんごうする)	お節介をすること。いらぬ世話を焼くこと。 東地区で使う。「てんごーする」とも言う。また、「てんごーやかせる」も良く使うが、これは「手を取らせる」、「世話をやかせる」と言う意味。 【「さいこをやく」、「さいたらやく」、「さいばーやく」、「せこをやく」、「せんばをやく」、「ちゃんばをやく」、「てんごう」、「てんばを焼く」、番外の「昔の山口弁?『いらぬさいこ』、番外の「昔の言葉、行事?『さいりい』」参照】 例：えっと、てんごー焼くな。(余計な世話を焼くな。) 例：えっと、てんごーするな。(余計な世話を焼くな。)
1259	てんすら	①嘘つき。 ②食わせ者。 ③お転婆。 ④あばずれ。 長門や萩では「てんくら」らしい。要は「ええ加減なやつ(無責任な、信用できない人)」のこと。「てんくら」が変化した言葉。 【「てんくら」参照】 例：あのてんすら娘はどこに行ったか。 (あの好い加減な娘はどこに行ったか。)
1260	でんで (でんでえー) (ぜんぜえー)	銭。お金。(幼児語) 「ぜんぜえー」が「でんでえー」に訛った。「ぜに」が「でに」になるのと同じ。「でんで」は「でんでえー」をつづめた言い方。 【「でに」、「でんでん」、番外の「幼児語」参照】
1261	でんでん	全然。 山口弁では、ザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・デ・ド」となって発音される。「ひざ(膝)」が「ヒダ」、「ざぶとん(座布団)」が「ダブトン」、「かぜ(風)」が「カデ」、「ぜに(銭)」が「デニ」、「みぞ(溝)」が「ミド」、「ぞうきん(雑巾)」が「ドーキン」となるなど。 【「でに」参照】 例：そねーなこたー、でんでん知らんじゃったでね。 (そんなことは、全然知らなかったよ。) ゾードの例：《大変、びっくりした時に》 しんどーがとまりそーなぐらえーたまげたでね。 (心臓が止まりそうなくらい驚いたよ。)

No.	見出し	説明
1262	でんでんむし	カタツムリ(蝸牛)。(陸生巻貝) 山口弁と言う訳ではないが、柳田国男の「蝸牛考」の元になった軟体動物なので収録した。「でんでんむし」は全県で言われているが、他に「防長動植物方言考」に収録されているもので、特徴的なものを参考に記す。おひめさま(高水)、かたつぶり(上関)、かたつもり(下松)、かんじゅーら(広瀬)、ぜんぜんむし(広瀬)、つぶら(船木)、づんづんさ(光)、でえでえ(岩国)、ででーこ(柳井)、まいまい(和木)、まいまいこ(山口)、まえまえ(秋吉)、まめくじ(萩)等。 「つぶら」や「まめくじ」のように、古い言葉の変形が残っているので、山口県は「カタツムリ」の昔からの一通りの言い方を残していたと言えそう。現在のどの程度のものが残っているかは不明。 【番外の「方言周圏論」参照】
1263	てんば (天場)	頂上。一番上。上の面。 字は「天場」。尖った先ではなく、上の面の意味合いで、工事用語としても良く使う。頂上の意味では、県内には「ずく」、「ずくてん」、「てんかち」、「てんこつ(天骨)」等の言い方がある。周南では良く「ずくてん(天)」を「頂上」の意味に使う。 【「ずく」、「てんかち」参照】 また、当然、字は違うが「転婆」の意味でも使う。 【「てんばを焼く」参照】 例：《足場の一番上を指して》 あのとんばに物を置きちゃーいけんど。 (あの一番上に物を置いてはいけないよ。)
1264	てんばを焼く	お節介をすること。いらぬ世話を焼くこと。 都濃地区は「てんば」だが、他の所では「てんごーやく」とも言う。よくお節介をする人は「てんばやき」。「てんば」は「転婆」のこと。軽はずみに良く動き回ることから転じたと思われる。また、「天馬」からとの説やオランダ語の「オンテムバール(手に負えない)」からと言う説もあるが、どちらにしても定説は無い。防府や徳地では「せこをやく」、周防大島では「ちゃんばをやく」、宇部では「せんばをやく」と言う。他に下関では「はなやき」、長門では「てんばり(せんばり)」とも言うようだ。他にも下記の参照欄のように各地でいろいろな言い方がある。 【「さいこをやく」、「さいたらやく」、「さいばーやく」、「せこをやく」、「せんばをやく」、「ちゃんばをやく」、「てんごう(癡狂)」、「てんごうをやく」、番外の「昔の山口弁?『いらぬさいこ』」、番外の「昔の言葉、行事?『さいろいり』」参照】 例：いらんてんばを焼くな。(いらんお節介をするな。) 例：人のとんばばっかし焼くんじゃないよ。 (人のお節介ばかりするんじゃないよ。)
1265	～ど	～ぞ。 山口弁の終助詞。文末に付いて、念押しや強調の意を示す。 【「～い」、「～いね」、「それいね(その2:い)」、「～だい」、「～ちゃー」、「～で」、「～ね」、「～のー」、「～や」、「～んど」参照】 例：わしゃー、そねーなこたー、ゆーちょらんど。 (私は、そんなことは、言っていないぞ。) 例：わしゃー、そねーなこたー、ゆーちゃーおらんど。 (私は、そんなことは、言っていないぞ。) 例：わしゃー、そねーなことー、ゆーちょらんじゃーないど。 (私は、そんなことを、言っているのではないぞ。)

No.	見出し	説明
1266	といぎき	縁談等で風評を聞くこと。身元調査。
1267	～といて	～とて。～としても。 例：ゆーたといて、ききやーせまーよ。 (言ったとしても、聞きはしないでしようよ。)
1268	～といや (～といの) (～とー)	～とさ。～ということだ。～だそうだ。 「～とー」は第三者から頼まれたことを伝える時に使う言葉。それに終助詞の「いや」や「いの」がついた言い方が、「～といや」や「～といの」。普通はこちらを使うが、「～とー」だけの時もある。「～といや」は男言葉である。「～といの」、「～とー」は男女共に使う。「～といの」は「～ということよの」の略語になる「～とよの」の転音でもある。言い方は「～と ^い いの ^い 」。女言葉は「～といね」。 【「～いね(～いの)」、「それいね(その2:い)」参照】 例：おもしろかったといや。(面白かったとさ。) 例：せんせーが明日、 <u>が</u> っこうにはよー来いさい ^い といの。 あんたに話がある ^い といの。 (先生が明日、学校に早く来なさいとのことだ。 あなたに話があるそうだ。) 例：これが最後だ ^{とー} 。(これが最後だそうだ。) 注：最近の言い方は「面白かった ^{てー} や」、「来いさい ^{てー} や」、「話がある ^{てー} や」のように伝聞の助詞「～て」を使う率が高いと思う。 【「～て(～てー)」参照】
1269	とう	届くこと。高い所や深い所に手や足が届くこと。 「たう」と同じ。「たう」の[au]が連母音融合して[o:]になり、「とう」になる。言い方は「とー」で、「とうた」は「とーた」になる。「たう」の語源は「手(た)ふ」であると思われるが、「とう」については、「広島の方言とその語源」によると、字は「堪う」で「堪える(こらえる、たえる)」の意味。「及ぶに堪う」、「達するに堪う」の意味から、直接「届く」、「及ぶ」、「達する」の意味に使うようになったと言う説もあった。反対は「とわん」。 【「おう(会う)(合う)」、「たう」、「たわん」、「とわん」、「みてる」参照】 例：底に足がとうた。(底に足が届いた。) 例：棚の上に手がとーたよ。(棚の上に手が届いたよ。) 例：これに手がとーかの。(これに手が届くかな。)
1270	とういも (唐芋) (とーいも)	さつまいも(薩摩芋)(甘藷)。(芋) 言い方は「とーいも」。甘藷(かんしょ)が1605年に中国の福建省から沖縄にもたらされて「とういも(唐芋)」、1615年に長崎県平戸に渡って「りゅうきゅういも(琉球芋)」、青木昆陽によって、1735年に薩摩から種芋が関東に移入されて「さつまいも(薩摩芋)」となった。 そして、「さつまいも」が標準語となり、1966年～74年に調査して、まとめられた「日本語語地図」には兵庫、鳥取、香川県までは「さつまいも」の範囲になっているが、それより西は昔の名前が残っていた。今は、全部「さつまいも」かも？ 我々の年代は、もう使っていないから、一世代前の方言と言える。【「いも」、「きんかいも」、「りゅうきゅういも」、「るいきいも」、番外の「芋の呼び名」参照】 注：日本に伝わったのは、1705年に鹿児島指宿の説もある。 余談1：米大陸にルーツを持つ「甘藷」がフィリピンから福建省に伝わったのは1594年。その11年後には沖縄に伝わっている。 余談2：その沖縄でも、今では「甘藷」の呼び名は「さつまいも」が主流らしい。恐るべし「標準語力」。

No.	見出し	説明
1271	とうがき (唐柿) (とーがき)	いちじく(無花果)。(果物) 言い方は「とーがき」。西地区(福川)、東地区(三井)で使う。各地の方言集に載っているの、昔は県内全域で使われていたと思われる。 江戸時代には周防で「なんばんがき(南蛮柿)」とも言ったようだが、手に入った方言集には載っていなかった。 【番外の「野菜の呼び名」参照】
1272	とうきび (唐黍) (とーきび)	とうもろこし(玉蜀黍)。(穀物) 言い方は「とーきび」。大きくは北陸、奥羽、四国北部、九州と県西部の言い方である。そして、周南は「なんまん」か「まんまんきび」類が主体だが、東地区(下松、笠戸島、櫛ヶ浜)では「とうきび」を使っていた。また、県東部の柳井や、周防大島、岩国の方言集に「とうきび」が載っているの、県東部でも一部では「とうきび」を使っていたようだ。四国の瀬戸内海側との交流を示す証しか? 詳しくは「なんまん」参照のこと。 【「なんまん」、「まんまんきび」、番外の「野菜の呼び名」参照】 余談:「とうもろこし」は、中国のことを昔、「もろこし(唐土)」と呼んだが、それに「とう(唐)」が追加されてできた言葉で、本来は関東南部の方言。なお、「とうもろこし」のことを「もろこし」と呼ぶのは、長野や山梨などで関東南部の隣接地帯。
1273	どうしょうか しらん (どねーしょか しらん)	「どうしょうかしら」よりもっと切迫している時に発する言葉。 大切なものを無くしたり、壊した時に使う。言い方は「どうしょうかーしらん」。「どねーしょかしらん」とも言う。聞かれた相手が、如何ともし難い時の返事は「どーしょーもないでー」や「どねーしょーもないよ(どうしようもないよ)」となる。 【「どねーしょう」参照】
○ 1274	とうじん (唐人)	わけの分からないことを言う人。物の道理が分からない人。 国語辞書に載っているが、よく方言ではないと言われるので、記載した。何を言っているのか分からないことを「唐人の寝言」と言う。当然、唐の人や外国人の意味もあるが、今はほとんどこの意味では使わない。 【「ぱーぷー」参照】 例: よいよ、とうじんばっかり言ってから。 (本当に、わけの分からんことばかり言ってから。)
1275	どうちゅー こたーない	①どうと言うことはない。大丈夫だ。 ②遮二無二。他のことは何もしないで。いつも。 ③どんなにも こんなにも。どうにもこうにも。何とも言いようがない。 「どうと言うことはない」が色々な意味に使われる。①は「せわーない」、②は「どうのこうなあない」、③は「どねーも こねーも」と同じ。 【「せわーない」、「どうのこうなあない」、「どってこたーない」、「どねーも こねーも」参照】 例:《損をした人が、「大丈夫か」と聞かれて》 この位はどーちゅーこたーないーね。 (この位は大丈夫だよ。) 例: あいつあー、どうちゅうこたーないあそーじよるで。 (あいつは、いつも遊んでいるよ。) 例: どうちゅーこたーない、どねーもならんでー。 (どうにもこうにも、どうしようも無いよ。)

No.	見出し	説明
1276	どうちゅーんか (どうちゅーん かい) (どうちゅーん かいや)	どうと言うのか。何を言いたいのか。 最後が「か」、「かい」、「かいや」と進むにつれて言う人の「いらいら感」がつのる言い方になる。 【「なんちゅーんか」、「～んか」、「～んかい」参照】 例：それで、どうちゅーんか。(それで、どうと言うのか。) 例：《くどくどと言っている人に》 ほいじゃから、どうちゅーんかいや。 (それだから、どうと言うのか。)
1277	とうなす (唐茄子) (とーなす)	トマト。(野菜) 言い方は「とーなす」。我々の年代は聞いたことがある程度で、使っていない。岩国、柳井、須佐の方言集には載っていたので、県東部では使われていたようだが、県西部については分からない。 東京、埼玉、栃木、群馬や青森・岡山の一部では「とーなす」は「かぼちゃ」のことになるようだ。 【「とーぶら」、番外の「野菜の呼び名」参照】
1278	どうのこうなあ ない (どーのこーの なえー) (どーこーは ない)	遮二無二。前後の考えなしに。無茶苦茶に。無理矢理に。 「どーのこーのなえー」とも言う。「どうのこうの(如何の斯うの)」から派生した意味で、「何やかや言うことではない」の意味でも使う。その時は「どーこーはない」と約めた(つづめた)言い方をすることもある。 【「どうちゅーこたーない」参照】 例：どーのこーなあない、あそんじよる。 (たわいなく、遊んでいる。) 例：どうのこーなーない、押し通したいやー。 (無理矢理、押し通したよ。) 例：A;なんか文句があるんかー。(何か文句があるのか。) B;いいや、どーこーはないよ。(いや、何も言うことではないよ。) 注：「どうもこうもない(まったくお話にならない)」は標準語の慣用句。
1279	とうふ (豆腐)	葬式のこと。 葬式の時の必須食品なので別称として使われた。東地区(笠戸島)で使うが、鹿野の方言集にも載っていたので、周南全体で使われていたのかも? 「あぶらげ(油揚げ)」と言うところもあるようだ。 【「うれしい」、「たちば」参照】
1280	とうまめ (唐豆) (とーまめ)	①そらまめ(空豆)。(野菜) ②いんげんまめ(隠元豆)。(野菜) 言い方は「とーまめ」。各地の方言集を見ると、防府、新南陽、小畑、徳地、下関は「そらまめ」、柳井は「そらまめ」と「いんげんまめ」両方の意味あり。岩国は「いんげんまめ」。周南では「そらまめ」の意味の方が優勢か? KRYテレビの山口弁コーナーで紹介していたので、収録したが、我々の年代ではもう使われていない方言のようだ。 【「さんどまめ」、「そらず」、番外の「野菜の呼び名」参照】
1281	どーしん	①友達。仲が良い。 ②同行。同伴。同道。 【「ちんぐー」、「とぎ」参照】 例：わしらー、どーしんじゃからのー。(私達は、友達だからね。) 例：どーしんしよーいねー。(いっしょに行きましょう。)

No.	見出し	説明
○ 1282	とーに (とーから) (とーの昔から)	早くに。とつくに。ずっと前に。遠い昔に。 字は「疾うに」。「疾くに」の転。「とつくに」は「疾うに」の口語形。「とーから」や「とーの昔から」はずっと以前からの意。全て国語辞書に載っている。方言ではないと思うが、方言化しているのかも知れないので収録した。 例：めしは、はあ、とーに済ませたよ。 (食事は、もう、とつくに済ませたよ。) 例：その話なら、はあ、とーから知っちゃたいね。 (その話なら、もう、早くから知っていたよ。)
1283	～とーに (～とうに)	～通りに。～そのままに。 動作、状態、方法について真似をさせる時に使う。「やる」、「する」、「ゆー(言う)」、「聞いた」等の後について、「やるとーに(やる通りに)」、「するとーに(する通りに)」、「ゆーとーに(言う通りに)」、「聞いたとーに(聞いた通りに)」のように使う。また、「この」「その」等について、「このとーに、こんとうに(この通りに)」、「そのとーに、そんとうに(その通りに)」等の「こそあど」の変化をする。 例：ゆーたとーに、せえーよ。 (言った通りに、しなさいよ。) 例：こんとうにやったら、えーのいやー。 (この通りにやったら、良いのだよ。) 例：このとーにしたら、ええよ。 (この通りにしたら、良いよ。)
1284	とーぶら	かぼちゃ。南瓜。(野菜) 山口県では「とーなす」は「トマト」のことだが、「かぼちゃ」のことを関東、青森・岡山の一部では「とーなす」と呼ぶ。この「とーなす」と「ぼーぶら」の合成語が「とーぶら」と考えられる？ 県東部(田布施)では「なんきん」より「とーぶら」の方を良く使っていたそう。東地区(三井)でも言う。「防長動植物方言考」によると、周防大島から柳井、玖珂、熊毛、光、徳山までの範囲で使われていたようだ。 【「とうなす」、詳しくは「ぼーぶら(ぼーぼら)」、番外の「野菜の呼び名」参照】
1285	どおれる	器具が壊れる。崩れること。形あるものが崩れる感じ。 【「ずえる」、「つえぬけ」参照】 例：家がどーれた。 (家が崩れた。)
1286	とーんする (たーんする) (てーんする)	転ぶ。倒れる。(幼児語) 転ぶさまの擬態語と思われる。「たーんする」や「てーんする」とも言う。 【「とんする」、番外の「幼児語」参照】 例：そねーに、はよー走ったら、とーんするよ。 (そんなに、早く走ったら、転ぶよ。)
1287	どがーも こがーも	どうも こうも。どう言っても、こう言っても。どうやって見ても、こうやって見ても。 「どがいにも、こがいにも」が訛ったもの。無茶苦茶な状態になっていることを指す。 例：どがーも こがーもないで。てんで話にならんわい。 (どうにもならないぞ。まるで話にならない。)

No.	見出し	説明
1288	どがーもない (どげーもない)	どうもない。 例：《こけた時に怪我をしたかと聞かれて》 どがーもないよ。(どうもないよ。) 注：山口県方言辞典によると、長門の方では「どがーもない」は「突拍子もない。甚だ(はなはだ)。」の意味に使うらしい。
1289	どがい (こがい) (そがい) (あがい)	①どのよう。どんな。②どう。どのように。 後ろに「に」が付いて「どがいに」になると、「どんなに」の意になる。「な」が付くと「どがいな」になり、「どのような」の意になる。「どがい」を「どがー」、「どぎゃー」、「どげー」と言うこともある。また、「こそあど」言葉で「こがい」、「そがい」、「あがい」の言い方もする。 【「あがいな」、「こがあな」、「こがあに」、「そがあな」、「どげえーでも、こげえーでも」、「どげん」参照】 例：どがい苦労させられたいやー。 (どんなにか苦労をさせられたよ。) 例：どがいに苦労しても、やり通せよ。 (どんなに苦労しても、やり通せよ。) 例：あのはなしやー、どがいなことになっちゃうるかねー。 (あの話は、どのようなことになっているのかね。)
1290	とぎ (伽)	仲間。友達。連れ。 「伽」は、「御伽話」や「夜伽」、「御伽衆」として、標準語に残っているが、ここでは、「仲間、連れ」の意味で使う。 【「ちんぐー」、「どーしん」参照】 例：あのひたー、昔からのとぎでねー。 (あの人は、昔からの仲の良い友達でね。) 例：あいつあー、みな、とぎがわりーけーのー。 (あいつは、仲間がみんなワルだからなあ。)
1291	～とき	①～しておいた方がよい。②～しておきなさい。 将来に対して、今、何をすべきだと言う時は、「〇〇は～とき」と言うことが多い。【「～ちょき」参照】 例：予定表は見とき。(予定表は見ておいた方がよい。) 例：予定表を見とき。(①予定表を見ておいた方がよい。) (②予定表を見ておきなさい。) 注：上の例は場面によって①にも②にもなる。 例：へや一片付けときんさいよ。(部屋を片付けておきなさいよ。)
1292	どきやーがれ	退け。よそへ行け。 乱暴者の言い方。いらいらして、怒っている時の言い方。 【「しーろく」参照】 例：《道を邪魔している人に》そこーどきやーがれ。(そこを退け。)
1293	とぎらす (とぎらかす) (とんぎらす) (とんぎらかす)	尖らす(とがらす)。尖らせる。 「とぎらかす」、「とんぎらす」、「とんぎらかす」など、色々な言い方をする。 【「とぎる」、「とんぎらかす」、「とんぎる」参照】 例：鉛筆をそねーにとぎらしたら、すぐ折れるでよ。 (鉛筆をそんなにとがらしたら、すぐ折れるよ。) 例：そねーに声をとぎらかして、怒りーさんな。 (そんなに声を尖らせて、怒らないのよ。)

No.	見出し	説明
1294	とぎる (とんぎる)	尖る(とがる)。 「とがる」が訛って、「とぎる」と言う。さらに訛ると「とんぎる」となる。 【「とぎらす」、「とんぎらかす」、「とんぎる」参照】 例：えらい先がとぎった靴を履いちよるんじゃね。 (すごく先がとがった靴を履いているのだね。)
1295	とく	徳利。 液体が入っているビンも「とく」。一升瓶は「一升とく」。
1296	どげえーでも、 こげえーでも (どがーでも、 こがーでも)	何かなんでも。否でも応でも。不承知、承知にかかわらず。どうでも。 「どがーでも、こがーでも」とも言う。【「どがい」参照】 例：どげえーでも、こげえーでも、今日は返事を聞いて帰るでー。 (何かなんでも、今日は返事を聞いて帰るぞ。)
1297	どげん (どねん) (どがん)	どう。 【「どがい」、「どない」、「どねー」参照】 例：どげんしたん？(どうしたの?) 例：どねんするん？(どうするの?) 例：どがんにしたらええかね。(どうしたら良いかね。)
1298	どこじゃし	何処と言っても。 例：どこじゃし、わりー所はない。(何処と言って、悪い所はない。)
1299	どこたあない (どこたあなあ) (どこちゅう こたあない)	何処と言うことなしに。ところ構わずに。 「どこちゅうこたあなあ」とも言う。 例：あいつはどこたあない顔をだすいのー。 (あの人はところ構わず、どこにでも顔を出すよ。)
1300	どさな	多いこと。たくさん。 「どさ」が量の多いさま。「どさくさ」「どさどさ」「どっさり」の「どさ」のこと。同義語は沢山あるが、「しこったま」「じょーに」など。反対は「かいさ」「ちーとべくさ」など。西地区で使う。【「おいー」、「かいさら(かいさ)」、「しこったま」、「じょーに」、「ちいとべくそ(ちーとべくそ)(ちーとべくさ)」参照】 例：魚がどさな釣れたんじゃのー。(魚がたくさん釣れたのだね。)
1301	どしたん (どーしたん)	どうしたの。 見てびっくりした時や、大変だと思って聞く時は「どしたん」。そうでもない時やあきれて聞く時は「どーしたん」と言う。「～ん」は疑問の「～か」。 【「～ん」参照】 例：A：ふるえよるが、どしたん？(震えているが、どうしたの?) B：さむーてやれんのんちゃ。(寒くてたまらないのだよ。) A：かじょーひーたんじゃない？(風邪を引いたのでは?)
1302	どじぼん (どちぼん)	葬式の時、後継者が持ってお伴をする位牌盆。
1303	どだい (土台)	①全く。まことに。甚だ。②元来。根っから。 「どだえー」とも言う。強調する時は、「どっだーい」、「どっだえー」となる。西日本各地で使われている。 例：こりゃ、どだい安いねえー。(これは、まことに安いね。) 例：どだい、あいつは海育ちじゃからのー。 (元来、あいつは海育ちだからね。) 例：どだい、なっちょらん。(まったく、出来が悪い。)

No.	見出し	説明
1304	とちまよう	予想外で驚きうろたえること。 「とちめんぼうをふる」とも言う。【「とちめんぼうをふる」参照】 余談：マツノ書店の「防長方言番附」には「とちれる(まごまごする)」と載っていた。【番外の「昔の山口弁?」、資料の「防長方言番附」参照】
○ 1305	とちめんぼうを ふる	予想外で驚きうろたえること。 「とちまよう」とも言う。「栃麺」は粘り気が乏しいために麺棒を忙しく扱うことから、あわててうろたえる様子に見立てた言葉。【「とちまよう」参照】
1306	どづく (どつく)	殴りつける。打つ。 「ど」は接頭語「どう」の変化したもので、名詞、形容詞や動詞の上に付いて、罵倒や強調の意を表す関西系の言葉。「ど真ん中」や「ど根性」の「ど」と同じ。「どづきあげると」は「すごく殴るぞ」、「どづきまわすど」は「殴り回すぞ」の意で、両方とも喧嘩言葉。「どつく」も使う。 例：あいつを、どづいちやったいやあ。(あいつを、なぐったよ。) 例：わりゃー、そねーなことばっかり言いよったら、どづきまわすど。 (お前、そんなことばっかり言っていたら、殴り回すぞ。)
1307	どって こたーない (どおって こたーない)	どうと言うことはない。大したことではない。 「どおってこたーない」と言うこともある。【「どうちゅーこたーない」参照】 例：このくらいなら、どってこたーないーね。 (このくらいなら、大したことではないよ。)
1308	～どて	～とも。～とは。 「行こうどてせん(行こうともしない)」、「食おうどてせん(食べようとしないう)」のように、次に否定の言葉が付く。
1309	ととこぐさ	えのころぐさ(狗尾草)。(植物) 平安時代の呼び名は「いぬのこぐさ」(和名抄)。これが「えのこ」、「えのころ」と転じて、現在は「えのころぐさ」が正式名称となっている。「ねこじゃらし」とも言うが、これは比較的新しい名前、元は関東の方言である。 「ととこ」は子犬、またはネコやナギのこと。子犬の尾に似ているので「ととこぐさ」と言う。岡山県から山口県にかけては、「早くこちらにおいで」と犬を呼ぶ時に「疾う疾う(とうとう)」と言うことから、「とーとー」が犬のことになり、「とーとーの子」が「とうとうご」や「ととこ」に変化したようだ。これから「とうとう草」や「ととこ草」の呼び名がついた。 余談1：白洲正子さんは、犬の尾に似ているからでなく、胃の調子が悪い時などに、犬がこの草を好んで食べるから付いた名前ではないかと推測されている。 余談2：鹿野の方言集に「ねこやなぎ」の別称として「ととねんぶう」とあった。花姿が子犬の寝た姿に似ているからと説明あり。
○ 1310	どない (こない) (そない) (あない)	①どのよう。どんな。②どう。どのように。 関西系の言葉。「どないしたん(どうしたの)」のように「どない」も使うが、「どない」より、「どがい」、「どがー」、「どげー」、「どねー」の方を良く使う。「こそあど」言葉なので、「こない」、「そない」、「あない」の使い方もするが、これも上記の「どがい」から「どねー」の「ど」が「こ」「そ」「あ」に変わった方を良く使う。 【「あねー」、「そがあな(そがいな)」、「どげん」、「どねー」参照】 例：A; どないしょーかー。(どうしようか。) B; こないしーね。(このようにしたら。)

No.	見出し	説明
1311	どねー (こねー) (そねー) (あねー)	①どのよう。どんな。 ②どう。どのように。 ①は形容動詞の使い方。「どねーになっちゃうんか(どのようにになっているのか)」と使う。②は副詞の使い方。「どねーしたかね(どうしたかね)」、「どねーせたんかね(どうしたのかね)」の様に使う。 「どのような」などの「どのよう」の「の」を「ね」に転じて、「よ」を「い」に転じ、「う」を省いた言い方。この後に「な、に、にか、にも」等が付いて「どねーな(どのような)」、「どねーに(どのように)」、「どねーにか、どねーか(どのようにか)」、「どねーにも、どねーも(どのようにも)」のようになる。「にか」や「にも」の「に」は省略して使うことが多い。 また、「こそあど言葉」なので、「こねー」、「そねー」、「あねー」の使い方もする。【「どげん」、「どない」、「どねえかね」、「どねーか」、「どねーか こねーか」、「どねーしょう」、「どねーな」、「どねーも」、「どねーも こねーも」参照】 例:《手品を見た後に》その<u>てや</u>、どねーになっちゃうんかね。 (その手は、どのようにになっているのかね。) 例:《腕を怪我している人に》その<u>うでや</u>、どねーせたんかね。 (その腕は、どうしたのかね。) 注:子音内の母音「エ」+助詞「ワ」が「ヤー」と発音される原則から、名詞の語尾の「テ」+助詞「ワ」は「チャー」、「デ」+「ワ」が「デャー」となる。よって、「手は(テワ)」は「チャー」、「腕は(ウデワ)」は「ウデャー」になる。
1312	どねーか (どねーにか)	どうにか。何とか。 【「どねー」、「～せんにやーいけん」参照】 例:《忙しい時に》 どねーかしてもらわんと、やれんにーね。 (どうにかしてもらわないと、たまらないよ。)
1313	どねーか こねーか	どうにか こうにか。やっとのことで。 「どねーか こねーか になった(どうにかこうにかできた)」のように使う。 【「どねー」、「どねこね」参照】 例:難しかったけど、どねーか こねーかしよったら、 何とかなったいね。 (難しかったけど、どうにか こうにかしていたら、 何とか出来たよ。)
1314	どねえかね	どうですか。 【「どねー」参照】 例:近頃見かけんじゃったけど、どねえかね。 (最近見かけなかったけど、どうですか。)
1315	どねーしょう (どねーしょー)	どうしょう。 何かあって困った時の表現。 「どねーしょうちゅーんかね(どうしょうと言うのか)」は相手がどうしようとしているか分からない時に言う。責める言い方。 「どねーしょうもない(どうしょうもない)」は何もしてあげられない時や自分に打つ手がない時に言う。「どしよーもない」とも言う。 「どねーせーちゅーんかね(どうしろと言うのか)」ははっきりと指示をして欲しい時に言う。半分喧嘩腰。「どーせーちゅーんかね」とも言う。 【「どうしょうかしらん」、「どねー」参照】

No.	見出し	説明
1316	どねーな	どのような。 【「どねー」参照】 例：どねーなことをゆーか、よーきいちょかんにやーいけん。 (どのようなことを言うか、良く聞いておかないといけないうい。）
1317	どねーも (どねーにも)	どんなにも。どうも。 【「どねー」参照】 例：《こけた(転んだ)後に怪我をしたかと聞かれて》 うんにゃ、どねーもないよ。 (いいえ、どうもないよ。)
1318	どねーも こねーも	どんなにも こんなにも。にっちも さっちも。 「どねーも こねーもならん」や「どねーも こねーもない」の言い方で使う。「どねんも こねんもない」は言いようがない位の意。 【「どうちゅーこたーない」、「どねー」参照】 例：どねーも こねーもならん<u>にー</u>や。 (どうにも こうにもならないよ。) (にっちも さっちもいかないうい。) 注：「にー」は文末にあつて感情を添えたり強調したりする意を表す終助詞。標準語の「～よ」「～ね」と同じ。【「～に」参照】
1319	どねこね (どねえー こねえー)	どんなに こんなに。「どうにか こうにか」の意。 言い方は「どねえーこねえー」。【「どねーか こねーか」参照】 例：どねこね言いようつたら、何とかなつたいやー。 (いろんなことを言っていたら、何とか解決できたよ。) 例：どねえーこねえーしあげたら、できたいやー。 (こうにか こうにか、できたよ。)
1320	とばかす (とばくらかす)	とばす(飛ばす)。 「とばかす」より「とばくらかす」の方が強調した言い方になる気がする？ 例：《バイクや車を運転する人に》 危ないけー、とばかしーさんなよ。 (危ないから、飛ばしてはいけないうい。) 例：なんかあつたんかいのー。 えらい、とばくらかして、いによつたでー。 (何かあつたのかね。 すごい勢いで飛んで帰つたよ。)
1321	どばく (どばす)	散らかす。 最近はあまり使われない。一部の地方で残っているか？ 余談：周防大島では「散らかす」ことを「さばく」と言うらしい。 【「さばけん」参照】
1322	どばしこむ	投げ込む。飛び込む。突っ込む。 「飛ばし込む」が強調されたか？ 東地区(櫛ヶ浜)や裕島(すくもじま)で使う。 例：車の運転でヘマをやって、 人のうちにどばしこんでしも一た。 (車の運転でヘマをやって、 人の家に飛び込んでしまった。)

No.	見出し	説明
1323	どびく (そびく) (ぞびく)	引きずる。 山口市では「そびく」を使うようだ。各地の方言集を調べたところ、「そびく」と「どびく」の両方が載っていたのは須佐、柳井だけで、「そびく」だけは、下関、阿知須、長門、岩国、「どびく」だけは萩、防府、新南陽、鹿野、徳地、周防大島、周東であった。 昔は、両方を使っていたのかも知れないが、大まかに言うと、県西部は「そびく」、県東部は「どびく」が残ったということか？ 「そびく」が濁音化して「ぞびく」、山口弁は「ぞ」が「ど」に変化するから、「どびく」になった。【「そびく」、「ひこじる」参照】 例：どびいてでも連れて来い。 (ひこずってでも、連れて来い。)
1324	どひょーしもない	「突拍子もない」と同じ。とんでもない。非常に。たいそう。甚だ。 「どひょうし」だけでも使う。字は「度拍子」で、「度」は「物の規則」、「拍子」は「音楽の調子」のこと。「度」も「拍子」も「無い」ことは、物の規則に外れ、音楽の調子に外れること。よって、この言葉を「物事が法外に外れる、とんでもないこと」の意に用いた。古語では「とひょうし」とも言った。現代では「突拍子(とつひょうし)」として残っている。 防長方言の特殊なものとして昔から、「ちゅーに」、「ごっぽう」、「どひょーしもない」と挙げられている三つの内の一つ。「どひょうし」は「どようし」と、「ない」は「なえー」と言うことも多い。 【「こくうもない」、「ごっぽう」、「ちゅーに」、「どようし」参照】 例：どひょーしもないことをしたねー。 (とんでもないことを仕出かしたね。) 例：けさー、どひょーしさふいのー。 (今朝はたいそう寒いなあ。)
1325	どびんご	①雀の子。(鳥) 「とべぬこ(飛べぬ子)」が訛って「どびんご」になった。 ②新人。新入社員。 まだ毛が生えていないと言うことが転じて、「新人、新入社員」のことを「どびんご」と言うこともある。
1326	どふけだ	泥が深くて良い田。 米の収量は多い。
1327	どぶざけ (濁酒)	どぶろく(濁酒)。 最近では「どぶろく」と言う人が多いと思うが、一部では「どぶざけ」も使う。
○ 1328	どぶづけ (どぶ漬け)	ぬか漬け。 国語辞書にも載っているが、最近、言わなくなった気がするので、収録した。元々、「どぶ」は酒かすやどぶろくをさした言葉で、昔は酒かすに白みそ、またはどぶろくに糠糞(糠味噌)を混ぜたもので、ウリ、ナスなどを漬けていたようだ。それで、「どぶ漬け」。糠味噌だけで漬けるようになって「どぶ漬け」の名前は残ったと思われる。 【「じんだ」、「どぶざけ」参照】 余談1：京都や大阪では「どぼ漬け」と呼ぶらしい。こちらは「どぼ」と漬ける」からと説明あり。 余談2：飲み物を冷やす水槽や溶融亜鉛に鋼材を浸すメッキのことも「どぶ漬け」。こちらは「どぶんと漬ける」かららしい。

No.	見出し	説明
1329	どべ	①ビリ。最下位。 「どけつ」、「どんけつ」、「どべくそ」とも言う。「どべ」は「どっべ」の略語。「ど」はののしり言葉で、「つべ」はお尻のこと。言い方は「どべ」。 ②ヘドロ、粘土状のどろ、泥土。 「どろ」と同じような擬音語、擬態語。言い方は平板式に「どべ」。または「どべ」。 【「だぶ」参照】 例：かけっこは、どべじゃたいやー。 （かけっこは、ビリだったよ。） 例：この溝には、どべがたまっちゃう。 （この溝には、ヘドロがたまっている。） 余談：「ビリ」は東日本を中心に全国で使われているが、「ドベ」は西日本中心で使われている。変わった言い方としては、埼玉の「ペケ」、北陸の「ゲベ」がある。
1330	どべた	①地面。地べた。 ②水が入った田。泥田。 ③湿地 ①の言い方は「どべた」。②③は「どべたゝ」。 【「じべた」、「はるた」、「もと」参照】
1331	とぼけ	とぼけ者のこと。 主に、ぼんやりした人、うっかり者のこと。 【「ぬけ」、「ぼうれい」、「ぼけたれ」参照】 例：何をしよるんかー、このとぼけが! （何をしているのか、このうっかり者が!）
1332	～とみー （～と見い）	「～のだよ」ぐらいの意味。 話相手に対し念押し・強調する文末表現。指示・引用する意を表す格助詞「と」に、「見る」の命令形方言「みー（見い）」が続く表現法。やや丁寧に表現する場合は「～とみー（見い）さん」、相手に軽い敬意を込めてさらに丁寧に表現する場合には、「～とみー（見い）さんせ」。 他に「～とみー（見い）やん」、「～とみーやんせ」、「～とみなさえー（見なさい）」、「～とみなさえーませ」などの言い方がある。 【「ともいー」、「のんた」、「みー」参照】 例：「さむーていけんとみー（寒くて仕様がなのだよ）」、 「よーわからんとみーさん（よく分からないのよ）」、 「どねーもこねーもならんとみーさんせ （どうにもこうにもならないのですよ）」、 「ぐあえーがわりーとみーさん（具合が悪いのだよ）」等。
1333	とめる （留める）	埋める。 東地区では野菜などを一時保管の意味で土の中に入れる時は「とめる」。永久に入れる時は「埋める」と使い分けた。 ただし、西地区では「とめる」は「埋める」と同意で使い分けはなかった。各地の方言集を見ても、「土葬する」が「とめる」となっているので、多くの地域で使い分けはなかったようだ。 例：どろの中にとめる。 （泥の中に入れて埋める。）

No.	見出し	説明
1334	～ともいー (～ともえー)	～のだよ。～よ。 「～ともいー」は、念押し、余情強意を示す文末表現。「～ともえー」とも言う。「～と思ひ」と思っていたが、元々は「ともえ」で、「賜(たま)れ(して下さいませ)」が「たもえ」→「ともえ」になったと言う説もある。同様の方言に、「～のんた」や「～とみー」がある。丁寧に言う時は、「～ともいーさん」、「～ともえーさん」となる。「～ともいーさんのんた」と言う人もいる。 「ともいー」と「のんた」が同様の方言と書いたが、「ともいー」と「のんた」の違いは前者が主体的なのに対して、後者は相手に対して、同感を求めたり、何か反応を待つ気持ちがある。 【「とみー」、「～ともう」、「のんた」参照】 例：今ごろ、難儀なことがおいしいともいーさん。 (今頃は、難儀なことが多いのだよ。) 例：とても、えなかったともいなさいませ、のんた。 (大変、疲れたことでありましたよ。)
1335	～ともう (～ともー)	～と思う。 言い方は「～ともー」。接続助詞「と」の母音「オ」があるため、「思う(オモウ)」の「オ」が脱落している。【「～たい」、「～ともいー」参照】 例：試験が近いから、勉強しようともおーんよ。 (試験が近いから、勉強しようと思うのよ。) 例：だめともーちゃったら、えかったいねー。とおっちゃった! (だめと思っていたら、良かったよ。合格していた!) 例：えーともーでよ。(良いと思うよ。)
1336	どもならん (どーもならん)	どうにもこうにもならない。どうしようもない。困ったものだ。 深刻な状況ではなく、ちょっと軽めな状況で使うことが多い。言い方は「どもならん」。「どーもならん」とも言う。 【「うずろしい」、「やれん」参照】 例：どもならんやつじゃのー。(どうしようもないやつだなあ。) 例：こんなどーもならんのー。(こいつはどうしようもないなあ。)
1337	とゆーて (とよーて)	遠くて。 言い方は「とゆーて」、「とよーて」とも言う。「おいー」の欄の注に書いたように、「とおひ(遠い)」が「といー」になるのと同様に、「とおくて」は「といくて」となるので、この形容詞の連用形活用語尾の「ク」がウ音便化して、「イク」が「ユー」と発音される。よって、「といくて」は「とゆーて」になる。「とよーて」は「とゆーて」の転。 【「おいー」、「おゆーて」、「かわゆーて」参照】 例：《離れた所から、たけて(叫んで)いる人に》 とゆーて、よー聞こえんでー。(遠くて、良く聞こえないよ。) 注：これを電話の受話器を通して言っている時は、「とゆーて」は「声が小さくて」の意味になる。 例：そねーに、とゆーちゃー、たわんじゃろー。 (そんなに、遠くては、届かないだろう。)
1338	どうし (どよおし) (どひょうし)	すごく。とても。 言い方は「どよおし」、「どひょうし」が言い易いように変化したもの。 【「えらい」、「ごっぱう」、「どひょうしもない」参照】 例：今日は、どうし車が多かった。 (今日は、とても車が多かった。)

No.	見出し	説明
1339	とり	すごく。やたらに。まったく。 特定の動詞の上に付く接頭語。 【「さで」、「ちち」、「とりすてる」、「とりちらかす」、「とりてぶる」、「ぶち」参照】 例：うまかったけー、とり食うたいやー。 （おいしかったから、すごく食べたよ。）
1340	とりがー	取り合い。取り合いを。 どちらかと言うと激しく取り合いをする時に使う。騎馬戦の帽子の取り合いのような時に「とりがーしよる（取り合いをしている）」と言う。「とりがを」が「とりがー」になっていると思われる。「が」は連体修飾語を受けて、それを体言化する言葉で、「とりが」は「とりごと→取り合いごと」の意。また、母音「ア」+助詞「オ」は「アー」と発音されるので、「とりがを（トリガオ）」が「トリガー」になる。同様の言い方に「みせがー（見せごとを→見せ合いを）」があるが、これには激しい感じはなく、「見せ合いっこ」のレベル。 【「とりやいっこ」、「みせがー」、「～やい（～やいこ）」参照】 例：《餅まきの時に》 もちょーみなが必死でとりがーしよる。 （餅を皆が必死で取り合いをしている。）
1341	とりかえごう	取り替えっこ。 周南ではあまり言わないと思うが、KRYテレビの山口弁コーナーで紹介していたので収録した。 例：遠足でおやつをとりかえごうした。 （遠足でおやつを取り替えっこした。）
1342	とりことりよめ （取り子取り嫁）	夫婦が養子のこと。 広島でも言う。方言かどうか不明だが、方言集に書いてあるので記載した。
1343	とりすてる （とりしてる）	ただ捨てるのではなく、思いっきり（全て）捨てること。 要らないと言う気持ちを強く出して捨てること。ここでの「とり」は強調語。「取り」ではない。「取り捨てる」で「取って捨てる、取り去る、取り除く」と国語辞書にあるが、この「とりすてる」とは意味が違うので注意のこと。「とりしてる」とも言う。【「してる」、「とり」参照】 例：はあーいらんともーて、とりすてたいやー。 （もう要らないと思って、全部捨てたよ。）
1344	とりちらかす （とっちらかす） （とっつらかす）	すごく散らかしている状態。 「とり」は強調して言う言葉。「とっちらかす」や「とっつらかす」とも言う。 【「つらかる（散らかる）」、「つらけかやす（散らけ返す）」、「とり」参照】 例：どうかね、とりちらかしてから。 （どうかね、すごい散らかしてから。）
1345	とりてぶる	完全に放棄する。完全に放置する。何もしない。 「とり」は強調語。 【「てぶらかす」、「てぶる」、「とり」、「ほーかる」、「ほーたる」参照】 例：しごたー、とりてぶって、<u>まつり</u>ー見に行っただー。 （仕事は完全に放棄して、祭りを見に行っただよ。） 注：子音内の母音「イ」+助詞「オ」は概ね「ユー」と発音されるが、「イヨ」、「ヨー」、「イー」と発音されることも多い。「祭り（マツリオ）」は「まつりゅー」、「まつりよ」、「まつりょー」、「まつりー」のどれかの言い方になる。

No.	見出し	説明
1346	とりはなえる	取り始める。 【「はなえる」、「はなまる」、「はなわる」参照】 例：もーふだーとりはなえたでー。 (もう、札を取り始めたよ。)
1347	とりやいっこ	取り合いっこ。 単に必死で取り合うと言うより、柔らかく取ったり取られたりやの感じで遊んでいる様子。【「とりがー」、「～やい(～やいい)」参照】 例：おはじきのとりやいっこをして遊んだんよ。 (おはじきの取り合いっこをして遊んだのよ。)
1348	どろおとし (泥落とし) (しろみて) (うえみて) (どろみて)	田植え後の休日。また、その祝いのこと。 部落みんなで集まって、田植え作業の「てまがえ」の清算をする目的もある。「しろ(代)みて」、「うえ(植)みて」、「どろみて」と言うところもある。「みて」は「みてる」ことで、終了の意味。今頃はほとんど無い行事になった。行事も無くなったが、言葉も「どろおとし」が残っているだけで、他の言い方は聞かれなくなっているのが現状である。 また、何かの催しの後で会食する時などに、「どろおとしになるね」と言うような表現で、ねぎらうような使い方もしたようだ。 【「うえみて」、「しろみて」、「てまがえ」、「みてる」、番外の「昔の言葉、行事?」の「さばらい(さばらー)」参照】
1349	とろさく	仕事の遅い人。 「とろすけ」とも言う。とろい人のこと。油のトロトロしている様子の「とろ」を言葉にした。【「ぬるい」、「ぱーぷー」参照】 余談：「全国アホ・バカ分布考」の全国語彙一覧によると、山口県の一部地域で採取したのが、「あんぱんたん」「まぬけ」「ぬるさく」「とろさく」などとなっていた。 【「てーたーさく」、「ぬるい」、番外の「方言周圏論」参照】
1350	どろばえ (どろんばえ)	タカハヤ。(魚) 鮠(ハヤ)の一種。体の側面に小さな黒点が散在する。 【「あかまつ」参照】 注1：「アブラハヤ(油鮠)」は体の側面に側線を中心にした幅広い黒点の帯があるが、これは岡山より北に生息しており、山口県にはいない。「タカハヤ」は本州中部から西に生息している。 注2：山口県の河川課発行の「水辺の小わざ」に載っている山口県の河川に生息する魚類一覧表にも「タカハヤ」はあるが「アブラハヤ」はない。
1351	どろもぶれ (どろまぶれ)	泥まみれ。 水田で「どろもぶれ」になる重労働を終えた後は「どろおとし(泥落とし)」。 【「どろおとし」、「まぶれる」、「もぶる」、「もぶれる」参照】
1352	とわん	届かないこと。高い所や深い所などに手や足が届かないこと。 「たわん」とも言う。反対は「とう」。「とう」は「とーた」や「とーて」で良く使うが、「とわん」の使用率は下がっている気がする。「たわん」の方を良く使う。 【「たう」、「たわん」、「とう」参照】 例：そりゃー、とわんにーや。 (それは届かないよ。)
1353	とんがりごえ	甲高(かんだか)い声。 字は「尖り声」。

No.	見出し	説明
○ 1354	とんきょう (頓狂) (とんきょうさく) (頓狂作)	慌て者。 とんきょうな人のことを単に「とんきょう」、または「とんきょうさく」と言う。驚いてびっくりした顔は「とんきょうづら」。「出し抜けて調子外れであるさまを言う「とんきょう」は標準語。つまり、「頓狂な声」の「とんきょう」は標準語。「この頓狂が(このあわて者が)」の「とんきょう」や「とんきょうさく」は山口弁。【「きょそ」、「そっきょう」参照】
1355	とんぎらかす (とぎらかす) (とぎらす) (とんぎらす)	尖らす(とがらす)。尖らせる。 「とぎらかす」、「とぎらす」、「とんぎらす」など、色々な言い方をするが、「とんぎらかす」を良く使う。 【「とぎらす」、「とぎる」、「とんぎる」参照】 例：鉛筆の先をとんぎらかした。(鉛筆の先を尖らした。) 例：口をとんぎらかして、おお文句を言いよる。 (口をとがらせて、おお文句を言っている。)
1356	とんぎる (とぎる)	尖る(とがる)。とんがる。 「とがる」ことを「とぎる」と言い、語調を整えるために撥音の「ん」を加えて、「とんぎる」と言った。鳥の「トビ(鳶)」を「トンビ」と言うのと同じ。「とぎる」より「とんぎる」の方を良く使うかな? 【「とぎらす」、「とぎる」、「とんぎらかす」参照】 例：とんぎった鉛筆の先は折れやすいちゃ。 (とんがった鉛筆の先は折れやすいよ。) 例：あのずってんがとんぎच्चよる山に今から登るんちゃー。 (あの頂上がとがっている山に今から登るのだよ。) 余談：名古屋では、鉛筆の先がとがっていることを「ときんときん」と言うらしい。
1357	とんする	①座る。(幼児語) ②落ちる。転ぶ。(幼児語) ①は「あつとんする」とも言う。②は「転ぶ」意味の「とーんする」がつづまった言い方と思われる。【「おぎょうぎをする」、「ちゃんこ」、「とーんする」、「とんち」、番外の「幼児語」参照】 例：ええ子じゃけー、とんしときんさいよ。 (良い子だから、座っておきなさいよ。) 例：ええ子じゃけー、あつとんするんよ。(良い子だから、座るのよ。) 例：そねーに高いところに行ったら、とんするよ。 (そんなに高いところに行ったら、落ちるよ。)
1358	とんだの かわらふみ (富田の 瓦踏み)	足のサイズが大きいこと。 1953年、富田(とんだ)や福川が合併して南陽町に、その後、1970年に新南陽市になり、駅名も1980年に「周防富田」から「新南陽」になり、「とんだ」の名前を聞くことが少なくなったが、昔は「富田瓦」が有名だった。製造に関わる家は明治20年代には65軒、戦後も32軒あった。平野山で瓦に適した土がとれなくなって衰退したと言われている。その瓦を造る時に、土を踏むのは足の大きい人が良いと言うことで、「富田の瓦踏み」と言う言葉が生まれたようだ。なお、新南陽市は2003年、徳山市等と合併して、周南市になっている。 余談：富田と福川の対抗する様子を「とんだのどろくい、ふくがわのじゃこひき」、または「ふくがわのじゃこぐい」と言ったらしい。
1359	とんち	座る。(幼児語) 【「おぎょうぎをする」、「ちゃんこ」、「とんする」、番外の「幼児語」参照】

No.	見出し	説明
1360	とんちゃん	ホルモン焼き。 豚の小腸のことを、朝鮮語で「とんちゃん」と言ったから、この名前が定着したらしい。 余談:「ホルモン」はドイツの医学用語に由来するとの説もあるが、元々破棄する部位を使うから「ほうるもん(捨てるもの)→ホルモン」となったとの関西弁由来説もあるようだ。【「ほーかる」参照】
1361	とんど (とんど焼き) (とんど) (とんどん焼き)	とんど焼き。左義長。 小正月の14日か15日に正月飾りなどを焼く行事。「とんど」、「とんど焼き」と呼ぶところが多いが、一部では「とんど」も使う。ただ、地域によっては、「とんどん」、「とんどん焼き」と呼ぶところもある。民俗関係の資料によると、他に「とんどら焼き」、「ぢょんぢょん焼き」、「ぼんぼん焼き」等の呼び名も載っていた。「左義長」は京都から愛知、神奈川辺りでの呼び名らしい。広島や兵庫は「とんど」である。
1362	どんばら	太鼓腹。 例:ビールウーよう飲むから、どんばらになろーがや。 (ビールを多く飲むから、太鼓腹になっただろう。)
1363	どんびき	カエルの大きいもの。(両生類) カエルは「ひき」、カエルの大きいのが「どんびき」。
1364	とんびとんび	とびとび(飛び飛び)。点々と。 【「とんぎる」参照】 例:水たまりがとんびとんびにあるから、ばしゃばしゃ撥ねて行こうやー。 (水溜りが飛び飛びにあるから、ばしゃばしゃ撥ねて行こうよ。)
1365	～な	「～だ」、「～でしょう」、「～になった」等の意味。 山口県方言の形容動詞は「カリ活用」に似た特殊型活用をする。活用は、「静かなかる・う」「静かな・ろう」「静かなじゃろ・う」(未然形)、「静かなかつ・た」(連用形)、「静かな」(終止形)、「静かな・とき」(連体形)、「静かなけり・やー」(仮定形)となる。 活用の特徴は、終止形・連体形はもとより語幹までも、「静かな」のようにすべて「な」で終わることである。「大きな」、「でんきな(意地っ張りな、片意地な、頑ななという意)」など連体詞とも解される語には、この活用しかない。「あの人は綺麗なね」、「今日の海は穏やかなです」、「元氣なかね」、「料理が豪華なよ」などというような使い方をする。 【「いなげな」、「きれいな かった」、「～じゃ」参照】
1366	なあ	無い。 言い方は「なー」。 例:はあ、なあでよ。(もう、無いよ。) 例:お金がなーよーになっとるよ。(お金が無くなっているよ。)
1367	～なー	～のは。～ことは。～ものは。 用言を名詞化して文の題目にする。「ゆーなー(言うのは)」、「大きいなー(大きいものは)」、「こいつなー(こいつのは)」等の使い方をする。 例:あんなー、どれかね。(あなたのは、どれですか。) 注:「言うのは」の「ゆーなー」の言い方は、静かに話す時は、平板式か「ゆーなー」。「ゆーなー」とちよつと上がり調子の時は力んで言う時。但し、語尾を延ばさない時は「悠な」の意味になる。【「ゆうな」参照】

No.	見出し	説明
1368	～ない (～なあ)	～なさい。 何々するように指示をする言葉。「～なはれ」、「～んない」と使うこともある。【「いきんさんへー」、「～くん(～くんない)」、「～しない」、「～さんせ」、「～はーれ」参照】 例：早よう、行きなない。(早く、行きなさい。)
1369	～ないと (～なえーと)	「～でも」、「～なりと」、「せめて～なりとも」、「せめて～ぐらい」といった意味。 「ないと(なえーと)」は仮の例としてある事柄を示し特定のものに限定しない時、例として軽く取り上げて言う場合に使う副助詞。この言葉は、もと古語の「なりと」の「り」がイ音便化して、「ないと」に変化したもの。山口弁の音韻法則により、「ないと」は「なえーと」になる。よって、「何なりと」は山口では「何ないと」、「何なえーと」と言う。 例：さびーの一。酒ないと飲まんにやー、ぬくもらんでよ。 (寒いなあ。酒でも飲まなきゃ、温まらないよ。) 例：お茶なえーと、のーで行きさんせ。 (お茶でも、飲んで行きなさいよ。) 例：どっちになえーと好きなようにしんさい。 (どちらでも好きなようにしなさい。) 例：暇じゃけー、新聞ないと読もうかのー。 (暇だから、新聞でも読もうかな。) 余談：連母音の「アイ(ai)」と「アエ(ae)」が「アエー(æ:)」と発音されるのは、山口弁の特徴だが、最近、東部ではこの言い方が退化しているとのこと。県中央部、西部、北浦地区はこの言い方が強いらしい。方言研究家の森川さん談。【「あえ」、「あかー」、「こまい」、「～めえー」参照】
1370	ないない	①無くなった。(幼児語) ②[片付ける。](幼児語) ①は「無い無い」。②は物が無くなるから、「片付ける」の意になる。これは全国的に言われているようだ。【番外の「幼児語」参照】 例：《お菓子が無くなった時》もーないない。(もう無くなったよ。) 例：《おもちゃで遊ぶのを、もうやめさせたい時に》 もー、おもちゃをないないしょーね。(もう、おもちゃを片付けようね。)
1371	ないなる	無くなる。 「ないようにする」、「ないよんする」で「無くす」。「ないよんなる」、「ないようになる」で「無くなる」の意。「なえーよーにする」、「なえーよーになる」の言い方もする。【「ないない」、「のーなる」、「みてる」参照】 例：本が、ないなつた。(本が、無くなった。) 例：本を、ないよんしたいね。(本を、無くしたよ。) 例：本が、ないよんなる。(本が、無くなる。)
1372	なえんぼう (萎えん坊)	①怠け者。②部屋などを片付けなくても平気な人。 「怠け者の節句働き」は「なえんぼうの節句働き」と言う。 【「ぐーたれ」、「ぐんだらべー」、「ずーたらべー」、「のーくれ」、「びったれ」参照】 例：《部屋が散乱している時に》 この子はなえんぼうじゃからねー。 片付けりゃーええんじゃが、そのままにしちよるのいね。 (この子は怠け者だからね。 片付けてやれば良いのだが、そのままにしているのだよ。) 《教育的配慮?》

No.	見出し	説明
☆ ○ 1373	なおす (直す)	①片付ける。仕舞う。納める。 ②[修理する。修正する。整える。] ②の意味は国語辞書にある。①の使い方が方言。字は「直す」。「真っ直ぐにする」、つまり「正常な状態にする」。これが、「元に戻す」となり、「元の位置に置く(片付ける)」ことと、「整え直す(修理する)」両方の意味に使われるようになった。「修理する」の意味の「なおす」は全国的に使われているが、「片付ける」意味で使うのは主には九州、山口、沖縄、近畿。他には広島や四国、青森、岩手の一部。ただ、福岡、佐賀、熊本は「なわす」になるらしいが、これは周防大島や玖珂の一部でも使うようだ。なお、鹿野の方言集に「ばらけてなおした(ちょっとしづれただけで天気になった)」とあるので、「お天気になる」意味にも使ったようだ。 【「しもう」、「のける」、「ないない」参照】 例:この<u>どーぐ</u>、なおしちよいてくれ。 (この道具を、仕舞っておいてくれ。) 例:なくしちゃーいけんともて、 なおしこんだら、よけ一分からんよーになった。 (失くしてはいけないと思って、 仕舞い込んだら、余計に分からなくなった。) 注:母音「ウ」+助詞「オ」は「ウー」と発音される。よって、「道具を(ドオグオ)」は「ドーグー」になる。【「あがりいの」参照】 余談:「片付ける」を関東では「かたす(片す)」と言う。広島では、「とらげる」、「とりあげる」、「とりやあげる」と言う。
1374	ながー (なげー)	長い。 連母音「アイ」が「アエー」または「アー」と発音されることにより、「長い(ナガイ)」は「ナガエー」か「ナガー」になる。「ナガエー」が「ナゲー」と変化した言い方も良くする。 例:手がながーけえ、たうんよね。(手が長いから、届くのよね。)
1375	なかごめ (中米)	芯が残っているご飯。上手に炊けなかったご飯。 「なかごめ」は県内のほとんどの地域で使う。他には、「ごち」、「ごっちゃん」を使うところもある。下松では「かんち飯」とも言ったらしい。 【「ごち」、「ごっちゃん」参照】 余談:広島は「ほつ」、「ほっちゃん」、「ほっち」、茨城は「がんだ」、群馬、新潟は「はんごろし」らしい。
1376	ながしゅう	長らく。永らく。 【「めったごしように」、「ひーさ」参照】 例:ながしゅう、お会いしませんでしたの一。 (長らく、お会いしませんでしたね。)
1377	なかたかゆび	中指。 漢字は「中高指」。「たかたかゆび」と言うところもある。「たかたかゆび」が本州中央部に分布し、その両側に「なかゆび」が分布している。よって、「なかゆび」の方が古い言葉で、「なかたかゆび」は両者の混交でできたものと思われる。 ちなみに、薬指は「べにつけゆび」、「べにゆび」と言っていたらしい。
1378	なきびーす (なきびい) (なきびー)	泣き虫。良く泣く人。(幼児語) 「なきびーす」は西地区で使い、「なきびー」は東地区で使う。 【「なきべそ」、「びーたれ」、番外の「幼児語」参照】

No.	見出し	説明
1379	なきべそ	泣き虫。良く泣く人。 「なきべそをかく」のように、「泣きそうになって、ゆがめた顔」の意の「なきべそ」は標準語。【「なきびーす」、「びーたれ」、「びーびー」参照】 例：あいつはなきべそじゃから、 ひどーにゆーたら、すぐびーびーゆーよ。 (あいつは泣き虫だから、 ひどく言ったら、すぐ泣いてしまうよ。)
1380	なけらんにやー (なけらにやー) (なけんにやー)	無いならば、無ければ。 「なけらにやー」、「なけんにやー」も良く使うが、最近は「なけりやー」の言い方が多いかも。標準語の言い方は「なけらねば」。「なけらんにやー」は幕末の「他所問答」の中の「相用い間敷詞大概」の中に書かれている言葉で、藩外でこの言葉を使うと笑われるぞと言うことらしい。長州藩士と見破られるぞと言うことかも知れないと言う考えもある。 【「～んにやー」参照】 例：ブドウがなけらんにやー、なしよーをこーておいで。 (ブドウが無ければ、梨を買っておいで。) 例：あねー高いとかー梯子がなけらんにやー、どーにもならんで。 (あんなに高いところは梯子が無ければ、どうにもならないよ。)
1381	なごうなる (なごーなる)	①長くなる。②横になる。寝そべる。 「なごう(なごー)」は「ながく」の語尾「く」がウ音便化したもの。 例：いや、なごうお待たせしまして。 (いや、長くお待たせしまして。) 例：疲れたけー、なごーなっとるで。 (疲れたから、横になっているよ。)
1382	なして (ないて) (なひて)	何故。どうして。なんで。 少しびつくりして強調して言う時は「なしてまー」となる。「なして」は「何と為て(なんとして)」の略。 例：なして、あねーなどこにおったんかね。 (なぜ、あんなところにいたのかね。) 例：なして、いけんのん。(なんで、いけないのか。)
1383	なして (なす)	「寄せて、寄せる」「入れて、入れる」の意味。 仲間に入れてもらいたい時に使う。「なして」は「寄せて」、「入れて」の意味で、「なす」は「入れる」「寄せる」の意味。「なして」は櫛が浜で使っていた。他の地域は「よして」。ただし、この「なして」は三重や愛媛でも使うようだ。 【「よして よす」、「よす よせる」参照】 例：ぱっちゃんに、わしもなしてくれーやー。 (メンコに、僕も入れてよ。)
1384	なすくる (なすぐる)	①こすりながら拭く。なすり付ける。 「なすぐる」とも言う。 ②転嫁する。他の人の所為(せい)にする。 罪、責任を他人に負わせること。 【「ぬすくる(ぬすぐる)」参照】 例：そねーに、汚れをなすくるなよ。 (そんなに、汚れをこすりつけるなよ。) 例：わしに、なすくるな。 (私の所為(せい)にするな。)

No.	見出し	説明
○ 1385	なすび	茄子。(野菜) 平安時代に「奈須比(なすび)」としてインドから伝わった。昔は小ぶりですっぱだったので、「中がすっぱい実」で「なかすみ」→「なすみ」→「なすび」(「び」は「み」のこと)となった。 日本言語地図によれば、フォッサマグナを境に西は「なすび」、東は「なす」が多い。ただし、高知は「なす」、出雲・沖縄は「なしび」、青森は「なし」と呼ぶのが多いようだ。「一富士、二鷹、三なすび」とは言うが「三なす」とは言わないから、やはり「なすび」が本家だ。 【番外の「東西の違い」、番外の「野菜の呼び名」参照】 余談：徳川家康が「なすび」が好きで作れと奨励したが、高いので売れなかった。それで「成す」と発音が同じで商売繁盛する縁起の良い野菜として売り出したらしい？ それで、東では「なす」なのか？
1386	なだら	稲掛け。稲や麦を干す組み木。はせ(稲架)。 最近は「はぜ」と言う人が多いが、昔は、下松や高水の一部では、「なだら」と言っていた。島根の石見でも「なだら」らしい。 【「はぜ」参照】
1387	なつめうり	まくわうり(真桑瓜)。(野菜) 「まくわうり」の品種のひとつ。日本の「なつめうり」とヨーロッパのメロンの交雑種が「プリンスメロン」らしい。県東部(田布施)では、この品種の名前が「まくわうり」の代名詞になったようだ。ただし、「まっか」とも言っていたようなので、昔は品種や表面の色で使い分けがあったのかも知れない。方言と言って良いのかどうか分からないが、参考のために収録した。 【「あじうり」、「まっか」、番外の「野菜の呼び名」参照】
1388	～なにいの (～なにいや)	～だねえ。 「何」に終助詞「い」、「の」、「や」がついて、呼びかけ、強調の言い方になる。 例：それがなにいの、えろーてやれんから、 いかなかったのいやー。 (それがだねえ、疲れていたの、 行かなかったのだ。)
1389	なにかし	少ししか。 「何か知らん」の転、「何かしら」の「ら」が省略された言い方。「無い」とか「残っていない」前について、「特定できないほど無い」とか「分からない位しか残っていない」の意味。それが「特定できないほど少ない」、つまり「少ししか」の意味で使われるようになった。 例：みなで分けたけー、なにかし無かったよ。 (みんなで分けたから、少ししか無かったよ。)
1390	なにがなんやら (何が何やら)	何が何だか。 内容、筋道などが全く理解できないさま。 例：何がなんやら、さっぱり分からん。 (何が何だか、まったく分からない。)
1391	なにがやあ	何が。なんのことはない。思いのほか。 例：幽霊かと思うたら、なにがやあ、ススキじゃった。 (幽霊かと思ったら、なんのことはない、ススキだった。)

No.	見出し	説明
1392	なによー (なにゆー) (なによ) (なにー)	何を。 子音内の母音「イ」+助詞「オ」は概ね「ユー」と発音されるが、「イヨ」、「ヨー」、「イー」と発音されることも多い。「なによー」は「ヨー」の場合。「なにゆー」は「ユー」、「なによ」は「イヨ」、「なにー」は「イー」の場合である。 【「きーつけて」参照】 例:《子供がじら(我儘)や文句を言っている時に》 なによーじらぐりよるんかね。(何を我儘を言っているのかね。) なによーゆーちよるかね。(何を言っているかね。) なにゆーいよるかね。(何を言っているかね。) なによいよるんかね。(何を言っているのかね。) なにーいよるんかね。(何を言っているのかね。)
1393	なば	きのこ(茸)。(菌類) 主には松茸。椎茸は「なば」とは言わないらしい。食べられないようなものは「くそなば」。また、昔の子供達は托鉢僧のことを「なば」と言っていたらしい。托鉢僧が来たら「なばが来た」と囁き立てていた。深い編み笠の格好を「きのこ」に見立てて呼んだようだ。また、「疲れて体が無力になる」ことを、「なばになる」と言っていたそうだ。 「なば」の語源は「滑(なめ)」か。「なめ」→「なま」→「なば」という説と、「なば」は「隠(なば)り」が変化したものか、「すくず(落ち松葉)」の底にそっと隠れた「きのこ」を「なばり」→「なば」と呼んだのではないかという説あり。 また、森川さんによると、「滑(なめ)らかに生(は)える」義、すなわち「なめばえ」が転じて「なば」とのこと。 余談1:「きのこ(茸)」の語源は「木の子」。漢字は形が「耳」に似ているから。佐渡や能登、但馬では茸のことを「みみ」と言うようだ。 余談2:沖縄の「那覇」の由来は「なば(なーば)」。海岸線にきのこの形をした岩が沢山あったので、この名前になったそうだ。
1394	なるかみ	雷。 プチ雑学:「稲妻」は「稲の夫(つま)」の意。「稲妻」とか「いなびかり」と言うのは、この光が当たって稲が実を結ぶと考えられていたからだそうだ。
1395	なるへそ	なるほど。 例:《理由を聞いて》 ふーん、なるへそねー。 (ふーん、なるほどな。)
1396	～なん	～なの。 言い方が「～なん」で念を押したり、断定する。「～なん」で質問する意になる。【「なんなん」参照】 例:うちゃーここが好きなんよ。 (私はここが好きなのよ。) 例:ここはどこなん? (ここはどこなの?)
1397	なんか しらんけど (何か 知らんけど)	何とは無しに。 「なんか知らんが」とも言う。 例:朝から、なんか知らんけど、気になるんよー。 (朝から、何とは無しに、気になるのよ。)

No.	見出し	説明
1398	なんかちゃー (なんちゃー)	なにかと言えよ。いつも。よく。何かにつけて。 「なんちゃー」とも言う。 例：あのひとは、なんかちゃー、よー泣くいね。 (あの人は、何かと言えよ、よく泣くよな。) 例：あのひたー、なんちゃーもんくーゆーんちゃー。 (あの人は、いつも文句を言うのだよ。) 注：同じ「なんちゃー」を使う例として、「好きなんちゃー(好きなんだよ)」や「嫌いなんちゃー(嫌いなんだよ)」などがあるが、「～ちゃー」の意味が違う。【「～ちゃー」参照】
1399	なんぎ (難儀)	悲しむさま。悲しいこと。 「悲しむこと」に使うのが山口弁。言い方は「なんぎ」。苦勞をして、なおかつ悲しむような時に、「なんぎをせる」、「なんぎがる」と使う。 困難や苦勞することにも使うが、これは標準語の使い方。この時の言い方は「なんぎ」。 例：あんたの話を聞きよったら、なんかなんぎになったねー。 (あなたの話を聞いていたら、何か悲しくなったね。)
1400	なんじゃ かんじゃ (なんじゃー かんじゃー)	なんだかんだ。あれやこれや。あれこれ。いろいろ。 【「なんたら かんたら」、「なんだり かんだり」、「なんやら かんやら」参照】 例：なんじゃー かんじゃー ゆうのは、みやすいーね。 (あれこれ言うのは、簡単だよな。)
1401	なんじゃし	何も。 下に打ち消しの言葉を伴う。【「～じゃし」参照】 例：お礼になんかあげようとも一たが、なんじゃしあげるもんがないねー。 (お礼に何かあげようと思ったが、何もあげるものが無いね。)
1402	なんじゃの一	何だなあ。そうだなあ。 話の途中で間を持たせるために使う言葉。 例：今年の掃除はえらかったでー。 なんじゃの一、もう一人でやるのは無理かの一。 (今年の掃除は疲れたなあ。 そうだなあ、もう一人でやるのは無理かな。)
1403	なんじゃらほい	何だ簡単だ。何だばからしい。 「思っていたこととちょっと違うが、何とすることは無い」の意。ちょっとおどけて言う感じ。 例：《種明かしをされて》なんじゃらほい。(何だ簡単なんだ。)
1404	なんじょう	杵。餅をつく杵。 編者は「だいがら」で餅をついていたので、杵(きね)を使っていないから、この言葉は知らなかったが、新南陽、鹿野、小畑、柳井、周防大島、須佐、下関の方言集には載っているの、県内のかかなりの範囲で使われていたと思う。また、別の言い方だが、大工道具の大槌を「かけや(掛矢)」と言うので、杵のことを「かけや」と言った地域もあるようだ。【「だいがら」参照】 余談：柳井の方言集に「つらら」のことを「なんじょう」と言うがあった。「なんじょう」の語源は「なんりょう(南鑌)銀」で江戸時代の貨幣のこと。これが銀の延べ棒に似ており、それが、つららの形と似ているかららしい。杵を「なんじょう」と呼ぶのも、先が細くなる形が「つらら」と同様に「なんりょう(南鑌)銀」に似ているからか？

No.	見出し	説明
○ 1405	～なんだ	～なかった。 「なんだ」は中世後期から近世の江戸語まで用いられたが、江戸語の末期には「なかった」も用いられるようになり、現代語では関西地方などで用いられる以外は「なかった」に取って変わられた。 【「～だった」、「～んじゃった(～だった)(～んかった)」参照】 例：わしゃー行かなんだで。(私は行かなかったよ。)
1406	なんたら かんだら	何とか かんとか。 文句を言う事の枕詞の使い方が多い。 【「なんじゃ かんじゃ」、「なんだり かんだり」、「なんやら かんやら」参照】 例：なんたら かんたら、よ一文句をゆうねー。 (何とか かんとか、良く文句を言うね。)
1407	～なんだり	～など。～なんか。 「なんだり」は、「畑の世話をしたりなんだりする」のように、一般的に前に「～たり」、後には「～せる、～する」が続く。また、「喧嘩なんだりして(喧嘩なんかをして)」のように名詞の後に続く使い方もある。 例：小さいころー、川でいしゅー投げたりなんだりして、 よーあそーだ。 (小さい頃は、川で石を投げたりなどをして、よく遊んだ。) 例：賭け事なんだりして、泣きよー見るで。 (賭け事なんかをしてたら、泣きを見るよ。) 注：「いしゅー」は「いしゅー」とも言う。どちらも「石を」の意味。「泣きよー」も「泣きゅー」とも言い、「泣きを」の意味。
1408	なんだり かんだり	何や かや。何したり かにしたり。なんとか かんとか。 【「なんじゃ かんじゃ」、「なんたら かんたら」、「なんやら かんやら」参照】 例：なんだり かんだりしよったら、すぐ時間がたったいね。 (何や かやしていたら、すぐ時間が経ったわ。)
1409	なんちゅー こたーない (なんつー こたーない)	①[取り立てて言うことはない。何と言うことはない。] ②嘘だった。困ったことに。参ったよ。 「ちゅー」が「つー」になって、「なんつーこたーない」とも言う。 【「なんでもないこと」参照】 例：なんちゅーこたーないー話ーや。 (何と言うことはない話だよ。 →取り立てて言うことはない話だよ。) 例：まっちょつてくれーゆーけー、まっちょつたんじゃが、 なんちゅーこたーない、ぐりゃーへんのんじゃけー。 (待っていてくれと言うから、待っていたのだから、 参ったよ、来はしないのだから。)
1410	なんちゅーことか (なんつー ことか)	何と言うことか。 「ちゅー」が「つー」になって、「なんつーことか」とも言う。 例：こりゃーまた、なんちゅーことじゃ。(これはまた、何と言うことか。)
1411	なんちゅーても (なんつーても)	何と言っても。 「なんつーても」とも言う。【「なんつーたっち」参照】 例：なんちゅーても、あいつはすごいちゃー。 (何と言っても、あいつはすごいよ。)

No.	見出し	説明
1412	なんちゅーんか (なんちゅーん かい) (なんちゅーん かいね) (なんちゅーん かいや) (なんつーんか)	①何と言うのか。②何と言っているのか。何を言いたいのか。 本来は「～んのか」だが、縮まった言い方で「～んか」になっている。 ①は名前を聞く時に使う。あまり丁寧な言い方ではない。 言い方は「<u>なん</u>ちゅーんか」。最後が「か」、「かい」、「かいね」または「か いや」と進むと、言い方がゆっくりで最後を下がり調子に言う時は優しい問 いかけのようになり、早口で強く上がり調子に言うと脅迫的になる。 ②は難癖を付ける時に使う。「文句があるのか」の意味を含んでいる。「な んか」、「なんかい」、「なんかいや」とも言う。 言い方は「<u>なん</u>いちゅーんか」。こちらは最後が「か」、「かい」、「かいや」と進 むにつれて、「絡み具合」が増してくる。 「ちゅー」が「つー」に変わる言い方も使う。 【「どうちゅーんか」、「～んか」、「～んかい」参照】 例：あんたー、なんちゅーんか。(あなたの名前は何と言うのか。) 例：あんたー、なんちゅーんかいね。(あなたの名前は何かね。) 例：あんたー、なんちゅーんか、わしがわりーちゅーんか。 (あなたは、何と言うか、私が悪いと言うのか。) 例：《文句を言っている人に》じゃから、なんちゅーんかいや。 (だから、何を言いたいのか。) (だから、どうしたと言うのだ。)
1413	なんつーたち	何と言ったって。何と言っても。 後ろが「たち」の時は、前の言葉は「なんつー」を良く使う。「なんちゅー」と 言ったら、後ろは「ても」の方を使う率が高い。【「なんちゅーても」参照】 例：なんつーたち、これが一番ええのー。 (何と言ったって、これが一番良いよ。)
1414	なんでも ないこと (なんでも なえーこと)	①[取り立てて言うほどのことではない。] ②元も子もない。台無しだ。無意味。無駄。 ③嘘だった。困ったことに。参ったよ。 「なんでもなえーこと」とも言う。【「なんちゅーこたーない」参照】 例：そんな事をして、怪我でもしたら<u>なん</u>でもないことじゃでー。 (そのような事をして、怪我でもしたら、元も子もないよ。) 例：まっちょつてくれーゆーけー、まっちょつたんじゃが、 なんでもなえーこと、くりゃーへんのんじゃけー。 (待っていてくれと言うから、待っていたのだが、 参ったよ、来はしないのだから。)
1415	なんとのー	①何とまあ。 難しいことや厄介な事を話し始める時の言葉。 言い方は「<u>なん</u>と<u>の</u>ー」【「～のー(～の)」参照】 ②何となく。 言い方は平板式。最後は軽く上げても下げても良い。 例：<u>なん</u>と<u>の</u>ー、こないだ、はらーこわしてのー。 (なんとまあ、この前、お腹をこわしてね。) 例：なんとのー、始めたんじゃが、おもしろーなつてのー。 (何となく、始めたのだが、面白くなってね。)
1416	なんないと	なんなりと。 何でも許容する意を表す。 例：なんないと話してつかーさい。(何なりと話してみて下さい。)

No.	見出し	説明
1417	なんなん	何か。 【「～なん」参照】 例：これ、なんなん？ （これは、何か？）
1418	なんのんた	①何ですか。（疑問） ②何ですって！（反論） ①は聞こえなかった時に軽く聞き返す言い方。②は「何と言ったのか!」と反論する時の言い方で強めに「 <u>なんのんた</u> 」となる。【「のんた」参照】
○ 1419	なんぼ (なんぼう) (なんぼー)	①いくら。 ②いくつ。 数量や値段の程度が限定されないことを表わす。「なにほど(何程)」の転が、「なんぼう」。「なんぼう」の転が「なんぼ」。 「なんぼ」は関西弁と思われているが、分布は大阪、京都、奈良、中国、四国、福岡、大分、宮崎と福島以北の東北。「いくら」は滋賀、三重、中部、関東から新潟、宮城、山形と佐賀、長崎。鹿児島は「どしこ(どれだけ)」で、熊本は「どしこ」と「いくら」の混在地域。 また、値段を数えるのは「いくら」「なんぼ」。数を数えるのは「いくつ」と区別して使う地域は関東、中部、紀伊半島、福岡、大分の一部で、他は値段と数量を区別しないで使っている。 例：このお菓子はなんぼ？ （このお菓子の値段はいくら？） 例：このお菓子はなんぼある？ （このお菓子はいくつあるか？） 例：《お行儀の悪い子に》なんぼーゆうても直らんの一。 （いくら言っても直らないなあ。）
1420	なんぼうも (なんぼーも) (なんぼーでも)	いくつでも。いくらでも。 「なんぼーもない」なら「少ない」の意味。「なんぼーでも」とも言う。「なんぼーも」ならちょっと多い位、「なんぼーでも」なら「本当に沢山」のような感じ？ 例：そねーなもなー、なんぼーも、もっちゃらいやー。 （そんなものは、いくらでも、持っているよ。）
1421	なんぼか (なんぼうか)	嘸(さぞ)かし。定めし。さぞや。 例：《冬、外から帰って来た人に》 家ん中も寒いから、外はなんぼか寒かったろう。 （家の中も寒いから、外はさぞかし寒かっただろう。）
1422	なんぼかし (なんぼーかし) (なんぼかしも)	幾らか。幾らも。 後に否定語が付いて、「幾らも・・・しない」。「かし」は強く念を押して強調する古語。「さぞかし」の「かし」と同じ。「なんぼかしも」、「なんぼーかしも」の言い方もする。【「なんぼ」参照】 例：なんぼかし負けた。 （幾らか負けた。） 例：なんぼかし、集まらない。 （幾らも、集まらない。） 例：おかしゃーは一なんぼかしもありゃーせんでね。 （お菓子はもう幾らも有りはしないよ。）

No.	見出し	説明
1423	なんまん (なんまんきび)	とうもろこし(玉蜀黍)。(穀物) 西地区で使う。東地区は「まんまんきび(ままんきび)」。「防長動植物方言考」によると「山口県下のとうもろこし方言は、『とーきび』系と『なんばんきび』系に分かれていて、前者は『とーきび、ときび』と若干変化し、後者は『なんばきび、なんば、なんばん、なんまい、なんまいきび、なんまんきび、なんまん、ままんきび、まんまんきび、まんまん』と変化している」とある。分布は大きく分けて、「とーきび」は西部、「なんばんきび(なんまんきび)」は中部、「まんまんきび」は東部と言うことになる。 よって、周南の西地区(徳山まで)は、「なんまん(なんまんきび)」、東地区(下松から)は「まんまんきび(ままんきび)」が主体となるのだが、なぜか中間の東地区(櫛ヶ浜)では「とうきび」が使われていた。 【「とうきび」、「まんまんきび」、番外の「野菜の呼び名」参照】 余談1:玉蜀黍の近県の呼び名は、九州と四国の瀬戸内側は「とーきび」、島根西部は「なんまん」、広島西部は「まんまんきび」である。 余談2:「さとうきび」のことを「とーきび」と言うところもあるようだ。
1424	なんや (なんやー)	なにか。 問い掛ける言葉。「なんやー」と最後を伸ばして言うのは喧嘩腰(けんかごし)の時。 例:なんやー、わりやー、もう一回ゆうてみー。 (なにー、お前、もう一回言ってみろ。)
1425	なんやら かんやら (なにやら かにやら)	なにや かや。あれや これや。いろいろ。 「何やら彼んやら」と書く。 【「なんじゃ かんじゃ」、「なんだり かんだり」、「なんたら かんたら」参照】 例:年末は、なんやら かんやら忙しいちゃー。 (年末は、いろいろと忙しいよ。)
1426	～にー	～よ! 「にー」は文末にあって感情を添えたり強調したりする意を表す終助詞。「にー」はしばしば、念押し・強調・詠嘆などの意を表わす終助詞の「の」「ね」「や」を後に伴う。ただし、常に打ち消しの助動詞「ん」に接続して「んにー」というのが基本的な言い方になる。つまり、否定表現に感情を添えたり、それを強調したりする語。「～よ」の強い言い方か? 【「～い(～いね)(～いの)(～いや)」、「～んにー」参照】 例:「そねーなこたー、ありませんにーの (そんなことは、ありませんよ)」、 「うちゃー、知らんにーね(私は、知らないよ)」、 「どねーもこねーもならんにーや (どうにもこうにもならないよ) (にっちもさっちもいかないよ)」、 「あのひたー、はー、来ちゃーありませんにー (あの人は、もう、いらっやいませんよ)」等。
1427	にえくさし	①半煮え。 ②やりかけ。する途中。中途半端。【「くさす」、「やりくさし」参照】 例:そりゃーまだにえくさしじゃけーね、もーちよい掛かるね。 (それはまだ半煮えだからね、もう少し時間が掛かるね。) 例:にえくさしで逃げんさんなよ。 (やりかけで逃げたらダメだよ。)

No.	見出し	説明
1428	にえこむ (煮え込む)	はまり込む。めり込む。 車輪がぬかるみにはまり込んだような時に、「車がにえこんだ」と言う。家に人が一杯に入り込んだ時も「大人数でにえこんだ」と言ったようだ。 例：《軸が抜けない時に》 こりゃー、軸がにえこんじよるのー。抜くなー難儀じゃのー。 (これは、軸がはまり込んでいるなあ。抜くのは大変だな。)
1429	にえつく (煮え付く)	やかましく言う。 相手にきつく文句を言う様。言い方は「にえつく」。【「にえる」参照】 例：自分の悪口をゆーた相手に、にえついて行きよったでー。 (自分の悪口を言った相手に、きつく文句を言いに行ったぞ。)
○ 1430	にえる	①もめる。 ②くたびれる。 ③腹を立てる。 ひどい時は「にえくる」、「にえくりかえる」、「にえくりかえす」、「にえくりかやる」、「にえくりかやす」と使う。②の「くたびれる」の意味は、暑さに疲れた時や野菜の葉が霜の害を受けた時に使うようだ。「霜ににえた」のように言ったらしいが、我々は使ったことはない。 当然、「煮える」の意味でも使う。【「にえつく」参照】 例：えらいあの会議は、ながびーちよるのー。 にえくりかえしちよるんじゃろーか。 (大変あの会議は長引いているな。 ひどくもめているのだろうか。) 例：あいつがおーちゃくーゆーんちゃ。 わしー、腹がにえくりかえったいやー。 (あいつが横着を言うのだよ。私はひどく腹を立てたよ。)
1431	におう (によう)	嗅ぐ。 鼻でにおいを感じ取ること。言い方は「によう」だが、「におう」と使う人も多い。標準語の「匂う」の意味でも使う。「香りが漂う」のも「におう(匂う)」、「鼻で嗅ぐ」のも「におう」。また、「似合う」のも「におう」と使う。 【「におーちよる」、「によい」参照】 例：こりよーちよと、におうてみーや。腐っちょらんか。 (これをちよと、嗅いでみて。腐っていないか。)
1432	におーちよる (によおーちよる)	①似合っている。 ②仕事の質、量が相当、適当である。 「似合っている」が転じて、仕事の質、量が相当、適当であるの意味に使うようになった。しかし、ちよと、軽めの表現になる。 言い方は「によおーちよる」に近い。【「そぐう」、「ふさう」参照】 例：この服はあんたに、よーにおーちよるのー。 (この服はあなたに、良く似合っているね) 例：あの人に、におーた仕事じゃー。(あの人に、合った仕事だ。) 注：「似合う(ニアウ)」の山口弁の正調の言い方は「ニヤウ」。連母音「イア[ia]」の間に、半母音「j」が挿入されて、「イヤ[jia]」と発音される。この「ニヤウ」が言い易い「ニョウ」「ニオウ」の言い方になっている。 他には「幸せ(シアワセ)」が「シヤワセ」になる。 【「ぐわえー」、「こうこ」、「しよ」参照】

No.	見出し	説明
○ 1433	にがる (苦る)	痛む。 主に腹が痛むのに使う。どちらかと言うと鈍痛か? 「山口県方言辞典」には、痛むことの区別は、腹は「にがる」。歯と頭は「はしる」。胃は「せく」、「つめる」。神経痛は「うずく」。足は「うばる」。腫れものは「おぼる」、「づくづくする」、さらに「おぼろしい」とあった。 「にがる」は「ゆがむ」の転と言う説と、「にがい」という味覚を体感に移した言葉という説あり。 腹以外にも、足や腰を使いすぎて疲れた時に使うことあり。また、「色々考えることが多いので頭がにがる」のように「痛み」ではなく、「悩ましい、困る」ような意味で使う人もいる。 当然、国語辞書にある「苦々しい顔をする」意味でも使う。 【「うずく(うづく)」、「おぼる(うばる)」、「おぼろしい」、「しわる」、「ずくづく(づくづく)」、「せく」、「つめる」、「はしる」参照】 例：ちょっと、腹がにがるけー、医者に行ってくるわー。 (ちょっと、腹が痛いから、医者に行ってくるよ。) 例：引っ越しのあたー、<u>腰がにがって</u>やれんかったいやー。 (引っ越しの後、腰がちょっとだるくて大変だったよ。) 注：腰が本当に痛い時は「腰がいとーてやれん」になる。「腰がにがる」はそこまではいかない。ちょっとした鈍痛くらい。
1434	にぎり (握り)	けちんぼ。 握って離さないから「けち」。西日本全般で使われる。 【「がり」、「こまい」、「こぶい」、「よくつべ」、「よくどう」参照】 例：あいつは、にぎりじゃナー。 (あいつは、けちだから。)
1435	にくじ	「悪口、皮肉、嫌味」のこと。 「憎口(にくくち)」の略。本来の字は「にくち」。 例：おおにくじを言われた。(大悪口を言われた。) 余談：県西部では「にくじに留守だった(あいにく留守だった)」のように、「にくじな、にくじに」を「運悪く、あいにく」の意味に使うようだ。
1436	にげる (逃げる)	①移ること。転居。転勤。②その場を離れる。去る。退く。中座する。 ①に関しては、今頃は「移る」、「換わる」、「転居する」、「転勤する」を使うので、ほとんど使われないと思う。②に関しては、普通に使っている。不快、不都合、不利益から逃げるのは標準語で、単に場所を移動するだけのことに使うのが山口弁の使い方。 例：あの家はもう逃げちゃったから、 今はどうしちよってかは、よう知らんねえー。 (あの家はもう家移り(やうつり)されたから、 今どうしておられるかは、良く知りません。) 例：《人ごみの中で、子供に動かないように言う時》 ここからにげちゃーいけんよ。(ここから動いたらいいけんよ。) 例：《台風が過ぎ去ったと言う天気予報を見ながら》 台風は、はー逃げたでー。(台風は、もう過ぎたよ。)
1437	にしーむく (西へ向く)	反対する。 東地区(下松)で使う。
1438	にじゅむ	にじむ。にじみ出る。 例：包帯に血がにじゅんじよるよ。(包帯に血がにじんでいるよ。)

No.	見出し	説明
1439	～にやー	①～しないと(だめ)。～しなければ。 【「～んにやー」参照】 例:「<u>よう見んにやーいけんよ</u>(よく見ないといけんいよ)」、「<u>食べんにやー痩せるよ</u>(食べなければ痩せるよ)」、「<u>せんになーだめよ</u>(しなければだめだよ)」等。 例:A;勉強せんにやー。(勉強しなさいよ。) B;うんにや、遊びに行く! (いいや、遊びに行く!) 【「うんにや」参照】 ②～には。 例:あの人にやー、ゆうちゃーいけんよ。 (あの人には、言っではいけないよ。) 注:「よう見んにやーいけんよ」は、「いけんよ」を省略して「よう見んにやー!」だけで使う場合もある。両方とも、言い方は「<u>よー見んにやー</u>」と「よう」が強くなる。
1440	にやす	殴りつける。責め立てる。締め上げる。 元々は頭にげんこつを見舞って、その頭が熱くになるような思いをさすことを「にやす」と言った。字は「煮やす」か? 最近はほとんど使われない。 例:わりやー、にやしあげちゃろうかー。(お前、なぐりあげてやろうか。)
1441	によい (匂い) (によえー)	におい(匂い)。 言い方は「によえー」に近い。「イオ[io]」の間に半母音[j]が挿入されて[jio]になるので、「ニオイ」が「ニョイ」になる。【「におう」参照】 例:えーによえーがせるのー。(良いにおいがするなあ。)
1442	にわ (庭)	土間。 家の中の土間。「たたき」とも言う。
1443	にわばき (庭履き)	普段用の履物。つっかけ。 【「じかばき」参照】
1444	にんこうに (にんこーに) (にんと)	①似ていないまま。②煮ないまま。 「にんと」とも言う。【「～こーに」参照】 例:まっついにしょーともーたんじゃが、できんかった。 にんこーのまんまになってしもーたいや。 (良く似ているようにしようと思ったんだが、出来なかった。 似ていないままになってしまったよ。) 例:あの鍋は、にんこーに持って行ったで。 (あの鍋は、煮ないまま持って行ったぞ。)
○ 1445	ぬくい	温かい。暖かい。 「温(ぬく)める」の意もあり。標準語で国語辞書に載っているが、他の地域では通じないことあり。【「ひやい」参照】 例:今日は、わりかしぬくいのー。(今日は、わりと暖かいなー。) 例:寒かったろう。火にあたっ、ぬくうしんさいよ。 (寒かったでしょう。火にあたっ、あたためなさいよ。) 例:寒かったろう。火にあたっ、ぬくもりんさいよ。 (寒かったでしょう。火にあたっ、あたたまりなさいよ。) 例:お味噌汁がさめたけー、ぬくめましょうか。 (お味噌汁がさめたから、あたためましょうか。) 例:《あたたかくなった季節の挨拶で》 ぬくーになりました、のんた。(あたたかくなりましたねー。)

No.	見出し	説明
1446	～ぬくい	～し難(にく)い。 「為ぬくい(し難い)」、「見ぬくい(見難い)」、「歩きぬくい(歩ぎにくい)」と使う。「～ぬくい」は「～(し)にくい」の「にくい」の転音。 例：《難しい細工の注文の時》 こりゃー、やりぬくい細工じゃの一。 (これはむづかしい細工だな。) 余談：「むづかしい」も西日本での言い方らしい。東日本は「むずかしい」。
○ 1447	ぬけ	①お尻を出している状態。 赤ちゃんがおしめをしていない状態を「おぬけそうろう」と言う。 ②ぼんやり。抜けている人。間抜け。 「ぬけさく」とも言う。 【「おぬかれごすん」、「おぬけそうろう」、「てーたーさく」、「とぼけ」参照】 例：ありゃー、おぬけそうろうじゃね。 (あらあら、お尻丸出しですね。) 例：あいつは、ぬけちよるからの一。 (あいつは、間抜けだからなあ。)
1448	ぬすくる (ぬすぐる)	①こすりながら拭く。なすり付ける。 「ぬすぐる」、「ぬすくりつける」とも言う。 ②転嫁する。他の人の所為(せい)にする。 罪、責任を他人に負わせること。 【「なすくる(なすぐる)」参照】 例：そねーなところにぬすくらずに、ハンカチで拭かんにゃー。 (そねーなところになすり付けずに、ハンカチで拭きなさい。) 例：めんめの失敗を人にぬすくるな。 (自分の失敗を人の所為にするな。)
1449	ぬすつとー (ぬひと)	盗人。泥棒。 「ぬひと」とも言う。「ぬすびと(盗人)」が「ぬすつとー」に訛り、さらに「ぬすと」に訛り、もうひとつ訛って「ぬひと」になったと言う説あり。
1450	ぬばす (伸ばす) (延ばす)	伸ばす。延ばす。長くする。長引かせる。 「日延べ」のことは「日ぬべ」。 【「ぬぶ(ぬびる)」、「ぬんだ」、「ぬんどる」参照】 例：そねーにゴムをぬばしたら、 ちぢまんようになるじゃないかねー。 (そんなにゴムを伸ばしたら、 縮まないようになるでしょ。)
1451	ぬぶ (ぬびる)	伸びる。延びる。 「ぬぶ」は「のぶ」の母音「オ」が「ウ」に母音交替をした例。延びてしまった状態を「のうだ(のーだ)」とも言う。 【「ぬばす」、「ぬんだ」、「ぬんどる」、「のうだ(のーだ)」参照】 例：そねーに引っ張ったらぬぶから、はー、止めちよけー。 (そんなに引っ張ったら延びるから、もう、止めときなさい。) 例：《縮こまっている子供に》 おおきゅーに、ぬんでみんさい。 (大きく、背伸びしてみなさい。)

No.	見出し	説明
1452	ぬべる	①薄める。 湯や汁に水を入れて温度や辛さを調節する。【「うめる(うべる)」参照】 ②伸べる。 ①②共に、今頃はほとんど使われていない気がする。 例：これは塩辛いから水をぬべるよ。 （これは塩辛いから水で薄めるよ。） 例：手足をぬべんさい。(手足を伸ばしなさい。)
1453	ぬるい	仕事が遅いこと。手緩いこと。のろいこと。 字は「緩い」か「温い」。ぬるい人は「ぬるさく」と呼ぶ。反対は「すどい」か？ 同義語に「もとーらん」があるが、遅いのが「ぬるい」で、下手なのが「もとーらん」か？風呂が「温(ぬる)い」は全国で通用するが、仕事が遅い意味で使うのはこの辺りだけか？ 【「すどい」、「とろさく」、「へぬるい」、「もとーらん」参照】 例：お前は、ぬるいの一。(君は、仕事が遅いねー。) 例：ぬるいことをするな。(もたもたするな。) 《転じて、「早くしろ。」の意。》
1454	ぬんだ	伸びた。 【「ぬばす」、「ぬぶ(ぬびる)」、「ぬんどる」参照】 例：ちょっと見んうちに背がぬんだの一。 （ちょっと見ないうちに背が伸びたねー。) 例：雨で運動会がぬんだ。(雨で運動会が延びた。)
1455	ぬんどる	延びている。遅れている。 例：工事がぬんどるから、はよーするよーに、ゆーたいや。 （工事が遅れているから、早くするように、言ったよ。)
1456	～ね (～ねー)	～よ。～だよ。 文末に付けて、念を押し、意味を強め、軽い感動を表す。しばしば、念を押し気持ちを添える助詞「い」の後に付く。女性が良く使う。男性は「～や」や「～の」の方を使う。 【「～い」、「～いね」、「それいね(その2:い)」、「～だい」、「～ちゃー」、「～で」、「～ど」、「～の一」、「～や」参照】 例：そねーなこたー知っちょるいねー。 （そんなことは知っているよ。) 例：遊びに、いこーいね。(遊びに、行こうよ。)
1457	ねーた	ねー、あなた。 「ねー、あんた(ねー、あなた)」の短縮形。「あん」を省くと「ねーた」になる。 【詳しくは「のんた」の欄を参照】 例：かえーらしー子じゃねーた。(可愛らしい子だねえ、あなた。)
1458	ねき	際。脇。横。側。 「根際(ねぎわ)」か「根岸(ねぎし)」の略。木の根だけでなく、人や家、門、塀、橋なども対象として使う。「近所」の意味に広げて使うところもあるようだ。周防大島では「にき」、阿武では「ねぎ」と少し変化して使う。同様の意味の「へり」も良く使う。【「ねと」、「へり」参照】 例：木のねきに置いちょきーさい。(木の横に置いておきなさい。) 例：《近寄って来る人に》 あんまり、人のねきに寄りーさんないやー。 (あんまり、私のそばに寄らないで。)

No.	見出し	説明
1459	ねぎすわる (ねじすわる)	勢いを付けて、遠慮なく座る様子。周りにはばかりことなく座る様子。尻の力で餅や団子をこねるように座り込む様子を「ねぎすわる」、「ねぎ」は「ねぐ」の変形。体をねじらせて座る様子を「ねじすわる」。「ねじる」+「すわる」で、「ねじすわる」。ちょっと、動きの感じは違うが、ほぼ、同じような感じで使われている。尻を地面になするように、どっかりと座る感じで、座り込んで動かない様子を示す。 西地区は「ねぎすわる」、東地区では「ねじすわる」が良く使われる。字は「振ぎ座る、振じ座る」か？ 【「ねぐ」参照】 例：あいつは、じべたにねぎすわったでよ。 (あいつは、地面に遠慮なく座ってしまったよ。)
1460	ねぎつける (ねじつける)	練り付ける。たっぷり付ける。 「ねじつける」、「ねりつける」とも言う。 例：ベアリングにグリースを、 ねぎつけりゃーええちゅーもんじゃないんど。 (ベアリングにグリースを、 たっぷり付けたら良いと言うものではないのだよ。)
1461	ねぐ	練る。こねる。つきまぜて柔らかくする。 「ねぐ」は「ねる」ことで、固形物や粒状のものを水に溶かして、どろどろにすること。「餅をねぐ(餅をこねる)」の様に使う。 【「ねぎすわる」参照】
1462	ねくじを言う (ねくじゅーくる) (ねじらを言う)	子供が眠くて、わがままを言う状態。 言い方は「ねくじゅーゆー」、「ねくじょーゆー」。「ねくじゅーくる」、「ねくじょーくる」とも言う。 また、「ねじらを言う(ねじらーゆー)」とも言う。 【「くじをくる」、「じらを言う」参照】 例：もうーねむとーなったんじやろう。 ねくじをくりはなえたでー。 (もう眠たくなったのだろう。 ぐずつき始めたよ。)
1463	ねこ	猫車。 農具や農作物などを運ぶための一輪車。
1464	ねこげ	①産毛(うぶげ)。 ②髪の毛が柔らかいこと。柔毛(じゅうもう)。 柔らかな毛や産毛のことを「和毛」と書いて、「にこげ」と言うので、この訛か？
1465	ねこわけ	食べ物を食べ残すこと。 猫の習性から出た言葉。よく食べ残しをする人のことも「ねこわけ」と言う。西地区で使用。 例：また、ねこわけしてから。ちゃんと食べ。 (また、食べ残してから。ちゃんと食べなさい。) 例：よー、ねこわけをする子じゃ。 (よく、食べ残しをする子だ。)

No.	見出し	説明
1473	ねたがえる (寝違える) (ねたごう)	寝違(ねちが)える。 無理な方向にからだを向けたまま寝ていたため、首や腕の筋を痛めること。「ねたごう」とも言う。【「たごうた」参照】 例：きのーの晩、どーも首をねたがえたらしい。 (きのうの晩、どうも首を寝違えたらしい。) 例：ねたごーて、首が回らんわい。(寝違えて、首が回らないよ。)
1474	ねたろー	寝坊する人。寝てばかりいる人。 周南からはかなり遠いが、県西部の厚狭には「寝太郎伝説」がある。寝てばかりいても、その時考えて、最後に大仕事をした寝太郎を祭って、4月にお祭りがある。 例：あいつは、まだ寝ちよるんかー。ねたろーじゃのー。 (あいつは、まだ寝ているのか。お寝坊だなあ。)
○ 1475	ねつゐ (ねつゐー)	①熱心だ。根気強い。丁寧な。念入りな。 「念厚(ねんあつ)い」の略と言う説あり。また、「ねつよし(根強し)」が「ねつし」になり「ねつゐ」になったとの説もある。この「ねつゐ」は、中国や関東、東北等、かなり広い地域で使われている。【「ひになる」参照】 ②執念深い。しつこい。 ちょっと悪く言う時には「執念深い、しつこい」の意味に使う。 言い方は音韻融合して「ねつゐー」になる人もいる。 例：えらい、ねつゐーにやるのー。(大変、熱心に取り組むねー。) 例：あいつあー、ちーと、ねつゐーからのー。 (あいつは、ちょっと、しつこいからなあ。)
1476	ねと	①根元。切り株。 言い方は「ねと」。「うら」の対。 ②近所。際(きわ)。そば。 言い方は「ねと」。 【「うら」、「ねき」、「へり」参照】
1477	ねば	真綿(まわた)。 字は「粘」か？ 余談：「真綿」は絹糸にできない屑繭(くずまゆ)を一個ずつ広げて引き延ばし、乾燥させた綿。木綿より前からあった「綿」と言うことで「真綿」と言われているようだ。
1478	ねはぐらかす	寝そびれる。寝はぐれる。 例：夜中に外で大きな声で話しよるから、ねはぐらかしたいやー。 (夜なかに外で大きな声で話しているから、寝そびれたよ。)
○ 1479	ねぶたい	眠たい。 「睡(ねぶ)り甚(いた)し」の転。
○ 1480	ねぶる (舐る)	舐(な)める。しゃぶる。 【「すわぶる」参照】 例：あみよー、ねぶりよる。(飴をなめている。)
1481	ねらむ	睨(にら)む。 「白眼(にらむ)」の転音。 例：そねーに、ねらむないやー。(そんなに、睨むなよ。)

No.	見出し	説明
1482	ねりかやす	練り直しを繰り返す。 練り直すことを何度も繰り返している感じ。 例：あの案をあーじゃない、こーじゃーないゆうて、 ねりかやしちよるで。 (あの案をああではない、こうではないと言って、 練り直しを繰り返しているよ。)
1483	ねりへい	上を瓦でふいた土塀。
○ 1484	ねる (寝る)	麴が発酵すること。 「麴がねる(麴が発酵する)」と言う。 【「ねさす」参照】
1485	ねるける (ねりける)	知らない振りをする。関心は無いように装う。 「ねりける」とも言う。いろいろなことに対して態度をはっきりさせずに、機を 窺う狡さがある。常に不満を抱えており、すねている感じもある。西地区(湯 野)で使う。「ねるけもん」は「態度をはっきりさせずに、わざととぼけている 人」。 例：そりゃー、あいつあー、またねるけちよるのいやー。 (それは、あいつは、 また知らん振りをしてとぼけているのだよ。)
1486	ねんごー	①生意気なさま。小癪なさま。子供が大人びた言動をすること。 ②大人の生意気、屁理屈。こじつけ。 「念入れ」の「念」に接尾語「こ」を添えて「念こ」と言ったのを俗音化したの が、「ねんごー」。他には「ねんご」は「年功」または「年号」のこととか、「寝 言」のことと言う説もある。「念語」の意味もあるのか？ 【「おーちゃく」、「こうへい」、「てんごう(癲狂)」参照】 例：こんなーよーねんごーゆーのー。 (こいつはよく生意気なことを言うなあ。) 余談：山口弁で「年長の人」のことを「ねんこー」と言ったらしい。「年功」の ことと思われるので、「ねんご」がそれから派生したとも考えられたようだ。
1487	ねんごーくさい	生意気な。分不相応な。小癪なさま。小生意気なさま。 子供が大人びた言動をする様子を言う。こちらの方は愛嬌がある。また、 若者が生意気なことを言ったり、年寄りが言うような分別がついた言い方 をする時にも使うが、こちらはちょっと横着だと言う感じがある。言い方は 「ねんごーくさえー」、これが山口弁正調。 例：《子供が生意気なことを言った時》 どーかー、えらいねんごーくさいことをいいよるでー。 (どうかね、大変生意気なことを言っているぞ。)
1488	ねんごーな	生意気なさま。小癪なさま。 「な」は標準語では「だ」にあたる山口弁の形容動詞。 【「～な」参照】 例：あいつは、ねんごーなかるー。 (あいつは、生意気だろう。)

No.	見出し	説明
1489	ねんごーを たれる	①子供が大人びたことを言う。 ②大人が生意気なことや屁理屈を言う。 「念入れ」の「念」に接尾語「こ」を添えて「念こ」と言ったのを俗音化したのが、「ねんごー」。「念入り」の意から転じて、ことごとく講釈を言って大袈裟な物言いをするを「ねんごーを垂れる」と言うようになった。「ねんごーを言う」とも言う。屁理屈を言う人を「ねんごいいい」、「ねんごたれ」と言う。 【「おーちゃく」、「こうへい」、「こうしゃくをたれる(講釈を垂れる)」、「ねんごー」、「てんごう(癡狂)」参照】 注:「ねんごー」については色々な説がある。「ねんごー」の欄参照のこと。 例:あの子は、よー、ねんごーを垂れるのー。 (あの子は、良く、大人びたことを言うなあ。) 例:わりゃー、ねんごーをたれるなよ。 (お前、生意気なことを言うなよ。)
1490	ねんだひき (ねんだほり)	根掘り葉掘り聞く人。 「ねんだーひく」は根掘り葉掘り聞くこと。「ねんだ」は家の床板を支える「根太(ねだ)」のことで、床板を剥いで「根太」まで探るから「根掘り葉掘り」の意味になる。「ほり」は詮索の意味。
1491	～のい	①～ねえ。～なあ。②～のだよ。 例:それがのい、わしがやったのい。(それがね、私がやったのだよ。)
1492	のう (のー)	ねえ。なあ。 間投助詞で、「のんた」の説明に使われる「のー、あなた」の「のー」。よって、「のんた」は「ねえ、あなた」か「なあ、あなた」が元々の意味になるが、今では「のー」と同程度の言い方になった。ただし、「のー」より「のんた」の方が少し丁寧な表現と言える。 喧嘩口調の時には同意を求める「どうか」の意味合いが強くなる。その時の言い方は「<u>どー</u>」。 【「のんた」参照】 例:のー、どねーしょーかー。(ねえ、どうしようか。) 例:のー、お前らー、おかしいと思わんか! (どうか、お前たち、おかしいと思わないか!)
1493	のう (のー)	藁の束を円筒形に小積みしたもの。「稲叢(いなむら)」のこと。 言い方は「のー」と平板式。「にお(堆)」が「にょー」や「にゅー」になって、「のー」に変化した。上関や玖珂では「のーぐろ」、岩国では「わらのう」、長門や萩、須佐などの県北では「としゃく(稲積、塔積)」と言っているようだ。 なお、茨城でも「のー」と言うらしい。 中心の柱にする芯柱は「のーじん(芯)」。西地区で使う。この芯柱を柳井では「のーぐし(串)」と言うらしい。【「がしゃ」参照】 余談:「田布施町の方言」によると、積み方によって、芯を入れて円形に積むのは「ふみのー」、芯無しで円形に積むのは「のぼせのー」、自然木を芯に利用して円形に積むのは「いーつけのー」と呼ぶらしい。
1494	のうだ (のーだ)	①伸びた。延びた。 「ぬんだ」とも言う。【「ぬぶ(ぬびる)」参照】 ②飲んだ。 例:雨が降ったけー、試合がのーだ。 (雨が降ったから、試合が延びた。) 例:ビールをよけーのーだから、腹が張ってやれん。 (ビールを沢山飲んだから、腹が張ってたまらん。)

No.	見出し	説明
1495	～のー (～の)	「～よ」、「～ね」、「～な」ぐらいの意味。 「のー」または「の」は文末や文節末にあつて念押し・強調・詠嘆などの意を表したり語調を整えたりする終助詞。念押し・強調や語調を整える「い」、念押し・断定・勧誘の「で」、感情を添えるか強調する「にー」の終助詞に続くことが多い。標準語の④語調や断定の気持ちをやわらげる「私はそう思いますの」や、⑤疑問・問いの意を表す「いつ、ここに来るの」とは別のもの。【「～い」、「～いね」、「それいね(その2:い)」、「～だい」、「～ちゃー」、「～で」、「～ど」、「～ね」、「～や」参照】 例:「そのうち来るいの(そのうちに来るよ)」、 「そねーなこたー、知らんでの(そんなことは、知らないよ)」、 「はー、そーでありますのー(はい、そうでございますね)」、 「はよー行こーいの(早く行こうよ)」、 「おー、それいのー(ああ、そうだなあ)」、 「起きちよるかの(起きてるかな)」、 「こねーなこたー、ありませんにーの (こんなことは、ありませんよ)」、 「ありゃーのー、こねーなっちよるのいや (あれはなあ、こうなっているんだよ)」等。
1496	のーが悪い (のーがわりー)	①頭痛がしてすっきりしない。何となく重く感じる。 ②物事が進まないいで頭が痛い状態。 「脳が悪い」か? 「悪い」は「わるい」と「わりー」の両方の言い方を使う。①の場合「頭が悪い」と言うところもある。 本来は「頭が痛い」ことで、①から②の意味が派生したと思われるが、県東部では②の意味でのみ使う率が高い。昔は、①と②の両方の意味で使っていたが、「頭痛」のことを「頭が痛い」と言うようになって、「のーがわりー」を②の意味だけに使うようになったのではないか? 例:数学をしよったら、できんから、のーが悪いっちゃ。 (数学をしていたら、出来ないで、頭が痛いよ。) 余談:高知では「性能が悪い」ことを「のーが悪い」と言うらしい。「のー」は「能」のことかも知れない?
1497	のーくれ (のーたれ) (のーくり)	怠け者。無精者。 怠けている状態は「のーくれちよる」、「のーたれ」、「のーくり」とも言う。「のーくれ」は「なまくら(鈍ら)」が訛ったもの。「鈍ら」は、刃物の切れ味の悪いことに使うが、怠け者でだらしないことも「なまくら」。「なまくら」→「なーくら」→「のーくら」→「のーくれ」か? それと、「地方別方言語源辞典」に「のーくり」は「星鮫」のことで、砂の中にもぐって、えさが近寄ってきたのを食べる怠慢さに由来するとあった。由来は二説あることになる。 また、「赤っ恥」や「赤の他人」のように「全くの、明らかな」の意味の接頭語「あか」を付けて、「あかのーくれ」とも言うようだ。「あか」は標準語だが、「のーくれ」が山口弁なので、「あかのーくれ(本物の怠け者?)」も山口弁となる。 【「ぐーたれ」、「ぐんだらべー」、「ずーたらべー」、「なえんぼう」参照】 例:《子供がだらだらしている時に「ちゃんとやれよ」の意味で》 こら、のーくれ坊主が。(こら、怠け者が。)

No.	見出し	説明
1498	の一た	の一、あんた。 「の一、あんた」の短縮形。「の一、あんた」の「あん」を省くと「の一た」、「一、あ」を省くと「のんた」になる。 【詳しくは「のんた」の欄を参照】 例：そりゃー、えーことじゃの一た。(それは、良いことだなあ、あなた。)
1499	の一て	無くて。 「なくて」の音便。【「の一なる」参照】 例：《歓待しようとするが、良い物が無い時》 なんにもの一てわりーが、まあ、これでも食べてつかーさい。 (何も、無くて悪いが、まあ、これでも食べて下さい。) 例：金が<u>の一ちゃー</u>、あれは買えんで。 (金が無かったら、あれは買えないよ。) 注：「無くては」の意味の「の一ては」は、ラフに言う時は「の一ちゃー」になる。
1500	の一なる	無くなる。 使っていて段々量が少なくなった時は「みてた」。「もう底をついた」の意。 「ないなる」、「の一なる」はその物がいきなり全部無くなった、どこに行ったか分からない時に使う。【「ないなる」、「みてる」参照】 例：金が、の一なった。(金が無くなった。) 例：財布が、の一なった。(財布がどこに行ったか分からなくなった。)
1501	のく (退く)	汚れが落ちる。 当然、標準語の「退く(のく)」の、脇へ移るや立ち去る意味でも使う。 例：この液であろーたら、しみが、のいちょー。 (この液で洗ったら、しみが、落ちている。)
1502	のけとく	①取っておく。後のために残しておくこと。 ②[取り除いておく。邪魔なものを除くこと。] 命令する時は「のけとけ」。①は方言。②は国語辞書にある使い方。 【「しもう」、「なおす」、「のける」参照】 例：ケーキは後で食べるから、のけちよいて頂戴。 (ケーキは後で食べるから、取っておいて下さい。) 例：あの椅子は邪魔になるから、のけとくよ。 (あの椅子は邪魔になるから、除けておくよ。)
☆ ○ 1503	のける	①片付ける。仕舞う。納める。②[移動する。除(よ)ける。] 「どける」と同じ使い方。「どけちよーな(移動しておけよ)」とか「どけてみーやー(移動させて見ろよ)」と同じ言い方で、「のけちよーな」、「のけてみーやー」と使う。 ①の使い方が方言。②の使い方は国語辞書に載っている。 【「しもう」、「なおす」、「のけとく」参照】 例：《どこに仕舞ったか分からなくなった時》 あの花瓶は、どこにのけたかいねー。 (あの花瓶は、どこに仕舞ったかね。) 例：《通路の邪魔になるような時》 このパイプを、のけちよけよ。(このパイプを、移動しておけよ。) 例：《作業が終わって道具を仕舞う時》 そのパイレンを、のけちよけよ。 (そのパイプレンチを、片付けておけよ。)

No.	見出し	説明
1504	のし (のしみず)	米の研ぎ汁。 昔は捨てないで家畜に飲料水として与えていた。
1505	のしあげる	叩き(たたき)のめす。ひどくやつつける。制裁を加える。 【「のす」参照】 例：ぐずぐず言いよったら、のしあげると。 (ぐずぐず言っていたら、叩きのめすぞ。)
○ 1506	のす (伸す)	①なぐり倒す。懲らしめる。打ち負かす。 叩きのめす時は「のしあげる」と言う。 ②[伸ばす。] 折れ曲がったものを真っ直ぐにすること。「背中をのす(伸ばす)」と使う。言い方は「せを <u>の</u> す(背を伸す)」や、「せを <u>の</u> した」。しわ(皺)も「のす」。これは「熨す」とも書く。 ③[勢力を伸ばす。] ①の使い方は山口弁。②③は標準語の使い方。 【「こんごーをかるー」、「のしあげる」、「のる(伸る)」参照】 例：わりゃー、のしちゃろーか。(お前、殴り倒してやろうか。) 例：あいつが、のして来たよのー。(あいつが、勢力を広げて来たよな。)
☆ 1507	のせる (乗せる)	入れる。傘に入れる。 籠に乗るのと同じように、移動するために「傘の中に身を置く」意味と、俗に、加担し、同調するのを「のる」と言い、他動詞は「のせる」と言うが、この「仲間に入る」意味との合わせ技で、相合傘でいくのを「傘にのせる」と言うようになった。江戸時代には八王子でも使われていたようなので、昔はかなり広く使われていた言葉と思われる。 【「のる(乗る)」参照】 例：傘 <u>へ</u> 、のして! (傘に、入れて!) 例：傘へのしちゃぎよー。(傘に入れてあげよう。) 注1：山口弁は方向を示す「～に」を「～へ」と使うことが多いので、「傘に入れてあげよー」は「傘へのしちゃぎよー」、さらに変化して「傘へのしちゃぎよー」になる。 注2：車に乗せてもらうことも「のせて」。それで、「のせて」は車、「いれて」は傘と言うことで、最近は「傘に、入れて」と言う人が多いかな?
1508	のそっと	こっそりと。人に知られずに。そろりと。ひそかに。 「のそっと顔を出す(こっそり訪ねる)」と使う。 【「こそっと」、「そろっと」参照】
1509	のっこのっこ	のろのろした様子。ゆっくりで進まない様子。 「のっそり」に近い感じだが、「のっそり」は一動作。「のっこのっこ」は連続動作。【「のんこ」、「ぼそぼそ」参照】 例：あいつが、のっこのっこ歩きよったでー。 (あいつが、のろのろ歩いていたよ。)
1510	のどかん	顔を出さない。立ち寄らない。 「覗かない」の意味。反対は「のどく」。 例：あのひとたーかおーを合わしたら、 しろーしいから、のどかんのいね。 (あの人とは顔を合わせたら、 うるさいから、立ち寄らないようにしているのだ。)

No.	見出し	説明
1511	のどける (のぞける)	①差し出すこと。渡すこと。 ②出席する。 「のぞける」とも言う。元は「のぞく」から派生し、そっと差し出す、そっと顔を出す意味から、「のぞける」→「のどける」になったようだ。山口弁ではザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・デ・ド」として発音されるため、「のぞける」が「のどける」になったと思われる。 例：ちょっと、これを隣にのどけてくるわー。 （ちょっと、これを隣の家に渡して来るよ。） 例：《「出席して来るよ」の意味で》 顔をのどけて来るわー。 （顔を出して来るよ。）
1512	のどぶとい (喉太い)	もう要らない。おいしそうにない。 気味の悪いものや好きでないものを食べる時の感じ。空腹で無い時に、無理にものを食べた時の感じで喉にものが入り難いこと。つまり、のどがふくれて、食道がせばまり、食べ物が通りにくくなった気持ちを表すのが「のどぶとい」。 例：大きな餅を出されて、のど太かった。 （大きな餅を出されたが、もう要らなかった。）
1513	のどまめ (のどちんこ)	口蓋垂(こうがいすい)。 「のどちんこ」とも言う。 注：「喉仏(のどぼとけ)」を指す地域もあるようだ。
1514	のどり (のどいり)	理解力。飲み込み。納得。 「吞取(のみとり)」の「み」を省いた言葉で、「呑み取り」は現在の「呑み込み」と捉えると分かりが良い。「のどいり」とも言う。「のどりが悪い」、「のどりがせん」は「呑み込みが悪い」で、理解が出来ない、良く分からない、腑に落ちない状態を言う。 逆に良く分かったら「呑み込みが良い」ことで、これは「のどりがいく」、「のどりが入った」と言う。 また、「のどりへ行かん」とか、「のどりに行った」、「のどりに入った」等のいろいろな言い回しをする。 この「のどり」は、広島廿日市、島根の石見、新潟の佐渡でも使われているようだ。 【「あたまがすずしい」参照】 例：のどりへ行かんのに返事はせんもの。 （良く分からないうちに返事をするものではない。） →（生返事をするものではない。） 例：《訳を聞いて》 それかねー、それでのどりがいいね。 （そうですか、それで分かったよ。） 例：こんな子は、のどりがええ子だね。 （この子は、呑み込みが良い子だよ。）

No.	見出し	説明
1515	のどをほる (喉を掘る) (のどーほる) (のどを ほぜくる)	①一生懸命、大きな声で言う。 ②感心してほめる。 ③えぐ味が強い。のどを刺激する味がする。 三つの意味があるが、現在は県東部は①と②の意味で使い、県西部と北部は③の意味で使うようだ。宇部では、里芋の中でえぐ味の強い芋を「喉掘りいも」と言う。 また、「掘る」ことを山口弁で「ほぜる、ほぜくる」と言うので、「のどをほぜくる」と使うこともある。【「えぐい」、「かいいも」参照】 例：《相撲の行司さんが力のこもった大きい声で 「はっけよい、残った、残った」と言った時》 のどをほったよーにゆーてじゃね。 (力のこもった大きい声で言ってだね。) 例：あそこのおばあちゃんは、孫のことを喉を掘って褒めやーるで。 (あそこのおばあさんは、孫のことを褒めちぎるよ。) 例：最近、野菜も質がよーなって、 喉を掘るような芋はのーなった。 (最近、野菜も質が良くなって、 えぐ味の強い芋はなくなった。) 例：そねーにのどーほぜくるよーにゆーな。 (そんなに必死になって言うな。)
1516	のふうどう (のふーど)	不作法、わがまま、横着、大胆なこと、また、そのさま。 「野風俗(のふうぞく)」の転で「のふず」。これがまた転じたか? 「野太い(のふとい)」の音便との説もある。また、「野風人(のふうど)」との説もあり、正確には分からない。 本来は野卑な中に、無礼な意味を含む言葉。「のふーどーもん」とも言う。 【「おおどうな」、「ごっぼう」参照】 例：のふーどーなやつはすかん。 (不作法な人は嫌いだ。)(傍若無人な人は嫌いだ。) (横着な人は嫌いだ。)(《どれかの意味になる。》)
1517	のむのむ (飲む飲む)	飲みながら。 動詞を二つ重ねて、「～しながら」の意味になる。「くうくう(食う食う)」なら「食べながら」。「せわーしいい」なら「世話をしながら」。今頃はあまり言わないかな? 【「じゃあ(～じゃあ)」参照】 例：久し振りじゃのー。飲む飲む、話そうーか。 (久し振りだね。飲みながら、話そうか。)
1518	のる (伸る)	伸ばす。 背筋を伸ばす、姿勢を真っ直ぐにする時に使う。反り返るようにする時も言う。言い方は「<u>の</u>る」。「背筋を伸ばして歩け」の意味で「<u>の</u>って歩け」なら山口弁、「<u>の</u>して歩け」なら標準語。 【「こんごーをかるー」、「のす」参照】 例：こんごーをかるーちよるど。<u>の</u>って歩けよ。 (姿勢が悪いぞ。背筋を伸ばして歩けよ。) 注：「のって」は山口弁「のる」の連用形、「のして」は標準語「のす」の連用形。

No.	見出し	説明
☆ 1519	のる (乗る)	傘に入る。 「車に乗る」は移動のために車内に入ること。「傘に乗る」も同じように、雨の中を移動するために広げた傘の中に入ること。傘の上に乗るのではない。また、「のる」には加担し、同調すると言う意味もあるので、一つの傘の下で仲間になることを指したとも思われる。「のる」は「傘に入る」、「のせる」「のす」は「傘に入れる」こと。今頃は団塊の世代以上しか使わないかも知れない。【「のせる」参照】
○ 1520	のんこ	愚図。 「のんこばち」は「さぼり、下男」の意。県下一般には、昔は「丁稚、小僧、下男」、「農家の少年の奉公人」等の意味で使われていたが、今はその状況がないので死語になっている。由来は名主に対する「名子」の訛りとか、「布子（綿布に綿を入れた着物）」、「農子」の転等、色々な説があるが良く分からない。 「のんこをこく（なまける）」等の言い方で、「のんこ」の悪い面を言った言葉の使い方が須佐の方言集に載っているし、国語辞書にも「のんこ」で「のらくらすること、遊び人」の意味が残っている。よって、周南地方でも、「のんこばち（さぼり）」と同様に、「のんこ」は若いので要領が悪いであろうから、「のんこ＝愚図」の意味で使っていたのが残ったのではなかろうか。但し、徳地の方では「青年、若者」の意味で残っているらしい。 【「のっこのっこ」参照】 例：あんたー、よいよのんこなんじゃけー。 （あなたは、本当に愚図なんだから。）
1521	のんた (のーた) (のいた) (ねーた) (うんた) (んた)	「のー、あんた」、「ねー、あなた」。 山口弁の代表格だが、最近ではほとんど使われなくなった。文末に用いて、感情を軽く添えたり、感動・驚きを強調したり、念押しをしたりする表現。「のー、あんた」という親愛の気持ちを込めて相手に語りかける言い方が短縮化したもの。同様の使い方をする方言としては、「～とみー」や「～ともいー」がある。 「ねーた」とも言う。「ねーた」は女性がよく用い、「ねー、あんた」「ねー、あなた」の短縮化した言葉。優しく上品な響きがある。男性も相手に優しく話しかけたりするような場合には「ねーた」を使う。また、「のーた」と言う時もある。「のーた」も「のー、あんた」の短縮形。一般的には、男性が使う。「のいた」、「うんた」、「んた」も男性がよく使うが、「うんた」、「んた」はやや粗野な言い方になる。 山口弁の説明では一般的に、「のんた」の説明に「のー、あんた」が、その「のー、あんた」の説明用として、「ねー、あなた」が使われている気がする？また、「のんた」は山口弁の代表格と言われているが、下関や豊浦、美祢あたりでは、あまり使われていないらしい。 【「～とみー」、「～ともいー」、「のう」参照】 例：そうであります、のんた。（そうですねー、あなた。） 例：ええ天気であーります、 <u>の</u> ーた。（良い天気ですね。） 例：それがのんた、むつかしゅーありましてのー。 （それがねえ、あなた、難しいのですよ。） 注：「～ともいー」と「のんた」の違いについては、「～ともいー」の欄を参照のこと。

No.	見出し	説明
1522	はぁー	もう、すでに、もはや。 感動詞的に語調を整えるのに良く使う。古語の「今はや」の「い」を省いて、「ま」を「も」に変えると、「もはや」になる。その「もはや」の「は(早)」を転じると「はぁー」になる。「本当に、もう」の意味で「よいよ、はぁー」も良く使う。山口県人は最後の例文のように、語調を整えたり、表現を強調する時に「はぁー」を良く使うので、他県の人には山口では「はぁー」を良く使うと思っている?【「よいよ」参照】 例：はぁー、着いたんかね。(もう、着いたの?) 例：はぁー、夏も終わった。(すでに、夏も終わった。) 例：はぁー、こねーな時間かね。はぁー、いなんにやーいけん。 (もう、こんな時間かね。もう、帰らないといけな。) 例：よいよ、はぁー、わたしゃー、はぁーやれませんかーね、はー。 (本当に、もう、私は、もう、たまりませんよ、もー。)
1523	はあころ はあころ いう	はあはあ言う。呼吸が荒く、はあはあ言う状態。 例：かけってきたんじゃろー。はあころ はあころ、ゆうちよる。 (走って来たのだろう。はあはあ、言っている。)
1524	はあともいえん (はあとも すうともいえん)	一言もない。 例：そうでしたか。はあともいえんねー。 (そうでしたか。一言もないですね。) 例：《正論を言われて》 そねーゆわれたら、はあともすうともいえんね。 (そう言われたら、一言もないね。)
1525	ぱーぷー (パーパー)	馬鹿なさま。間抜け。道理が分からない人。 主に子供に対して使うが、大人に言うこともある。簡単なことを失敗した人に言う「ばかじゃねー」と言う感じ。また、物事を良く理解しないと言うことで、「とうじん(唐人)」と同意で使うこともある。東地区(櫛ヶ浜、下松、三井、東荷)から県東部(伊陸)あたりでは使うが、西地区(福川、湯野)では使わないようだ。また、東部でも室積や周防大島では使わないようなので、狭い範囲で使われた言葉のようだ。 韓国語で「ばか」のことを「ぱーぱー」と言うようなので、これが「ぱーぷー」と聞こえて使われていたのかも知れない? 【「あんぼん」、「しっぽがながい」、「ちんべー」、「とうじん(唐人)」、「ぼけたれ」参照】 例：《同じことを間違う子供に》 お前は何べんゆーても、分からんのか。パーパーじゃのー。 (お前は何回言っても、分からないのか。馬鹿だなあ。) 余談：「ぱーぷー」は「全国アホ・バカ分布考」の全国語彙一覧に載ってなかった。「くるくるぱー」も無かったが、これは「俗語発掘記 消えたことば辞典」によると戦後の俗語のようだ。 【番外の「方言周圏論」参照】
1526	はあもすうも ない	①何も言わずに。問答無用に。 ②何も言うこと無し。文句なし。 例：はあもすうもない。これをやれ。 (何も言わずに、これをやれ。) 例：これだけ出来ちよりゃ、はあもすうもないのー。 (これだけ出来ていれば、文句なしだね。)

No.	見出し	説明
1527	～は一れ	～なさい。 「きんは一れ(来なさい)」、「行きんは一れ(行きなさい)」のように使う。 【「いきんさんへー」、「～さんせー」、「～ない」参照】
○ 1528	はい	蠅(はえ)。(虫) 蠅の転。
1529	はいか	かけっこ。 東地区(櫛ヶ浜)で使う。 例:あのかー、はいかが速いからの一。 (あの子は、かけっこが速いからなあ。) 注:子音内の母音「オ」+助詞「ワ」は、「アー」または「オアー」と発音される。 よって、「あのこは(アノコワ)」は「アノカー」または「アノカアー」になる。 【「えんりよし」参照】
1530	はいそろべー (はえそろべー) (はいそろぼう)	腹ばい。 周防大島や柳井で使われていた方言。TYSの「週末ちぐまや家族」で調べていたが、周防大島でやっと知っている人に出会ったくらいでほぼ忘れられた方言となっていた。山口県東部と広島県西部で使われていたようだ。 「はえそろべー」や「はいそろぼう」とも言うらしい。 例:はいそろべーでおやつを食べちゃーいけんよ。 (腹ばいでおやつを食べてはいけないよ。)
1531	はいつくろう	這い回る。腹這いになって動く。 例:床下をはいつくろうて、やれんかった。 (床下を這い回って、大変だった。)
1532	はいらず (はいちょう) (へーらず)	網張りの食器棚。 「蠅入らず」の意味。「はいちょう」、「へーらず」とも言う。食器棚とちよつとした食品を置く場所を兼ねていた。今頃はこのタイプのものは古い家にしかないだろう。網がないガラス張りのものは「みずや(水屋)」。この「水屋」も今や方言か? 例:このコップを、はいらずになおしちよって。 (このコップを、食器棚に仕舞っておいて。) 例:このお菓子を、はいらずにしもーちよって。 (このお菓子を、食器棚に仕舞っておいて。)
1533	はえる (延える)	注ぐ(つぐ)。 液体を容器から移すこと。注ぐ(そそぐ)様子が液体を引き延ばすようになるので、字は「延える」。「延縄(はえなわ)漁」の「延」と同じである。西地区で使う。言い方は「はえーる」。奈良時代からの古語で、広島、島根でも使う。 例:わしのコップにおちゃー、はえちよってくれー。 (私のコップにお茶を、ついでおいてくれ。) 例:コーヒーを、はえましょう。 (コーヒーを、入れましょう。)

No.	見出し	説明
○ 1534	はがいい (はがいたらしい)	くやしい。癢(しゃく)に障(さわ)る。腹立たしい。 「歯痒い(はがゆい)」の転。国語辞書には「はがゆい」は「歯がかゆくてむずむずするように、他人のする技巧が拙くて、傍で見ているのに堪えられない様子」とある。この意味から転じて、「くやしい、腹立たしい」意味に使うのが方言。 例:あの人にああ言われて、はがいいんちゃ。 (あの人にああ言われて、くやしいよお。) 例:あいつは、はがいたらしいやつじゃのー。 (あいつは、癢に障るやつだよ。)
1535	はかがいく	仕事ははかどる。 「はか」は農作業量を地割にして言う時の単位。「1はか」は田植え定規で一回植え付けること。「はかどる」、「はかばかしい」も、この「はか」から出た言葉。逆に「はかどらない」は「はかがいかん」。
1536	ばかじゃ ちゃんじゃ	馬鹿の二乗。「この大馬鹿たれが」の感じ。 完全に馬鹿にした時の言い方。俗語の「ばかでもちよんでも」とは違う。 例:《大失敗をした後に》 お前らは、ばかじゃ ちゃんじゃ <u>ゆーて言われた</u> いやー。 (お前達は、大馬鹿者と言われたよ。) 注:ただ単に、「ばかじゃちゃんじゃ、ゆわれたいや(言われた)」と言う時もあるが、「ゆーて言われた」、「ゆーてゆわれた」と二重に「言う」を使うことも多い。「～と言うことを言われた」の短縮形か?
1537	はかんばら (はかわら)	墓地。 「はかわら」とも言う。字は「墓原」。湯野では「はかんばら」。西地区で使用。 例:くろうなって、はかんばらのそば一通るのは、 きびがわりーいやー。 (暗くなって、墓地の側を通るのは、気味が悪いよ。)
1538	ばくちん	とても。甚だ。莫大(ばくだい)。(幼児語) 「ごっぽう」とも言う。幼児語ではあるが、大人も使っていた。 【「ごっぽう」、番外の「幼児語」参照】 例:サーカスはばくちん面白かったよ。 (サーカスはものすごく面白かったよ。)
○ 1539	はぐる	捲(めく)ること。 おおっている物の端を持って、はねあげて下のものを現わすこと。国語辞書に載っているが、関東では年配者しか使わなくなっているらしい。もうすぐ方言入りとのうわさ有。
1540	はげ	カワハギ。(魚) 「ウマヅラハギ」のことも「はげ」と言う。平たい近海魚。口は小さく、下あごが出張っている。食用。カワハギ科。「ウマヅラハギ」は「ウマヅラハゲ」とも言う。【「めーぼ」参照】
1541	はざまぐい (狭間食い) (間食い)	おやつ。間食。 「はざま」は事と事の間。間の時間の意。よって、「はざまぐい」は「おやつ」のこと。聞いた程度で今頃は使っていない。【「ひんず」参照】 注:「はざま」は「谷」とか「銃眼」の意味もある。

No.	見出し	説明
1542	はさる	狭い所に挟まること。 物と物の間にはさむ時だけ使う。「はさる」は目的語をとらない自動詞。標準語の「挟まる」の用例にある「二つの主たるものや対立したものに対して間に入る」のは「はさる」とは言わない。この場合は山口でも「はさまる」を使う。【「はせる」参照】 例：肉の筋が歯にはさった。 （肉の筋が歯に挟まった。） 例：この隙間に物がはさらんよーに、きーつけーよ。 （この隙間に物が挟まらないように、気を付けなさいよ。）
1543	はしかいー （はしかいいい）	①痛がゆい。むずがゆい。 稲ののぎ、藁や髪の毛が服の中に入った時のかゆさのこと。 ②とげとげしている。気が短い。 ③すばしこい。機敏な。抜け目がない。 気が短いから、逆に物事をてきぱきと、処理していくような人に対して使う。「はしかし」は敏捷、頭の回転のすばしこさの形容と言われているが、元々、「はしか」は「芒」（稲、麦類の実の外殻にある針のような毛。のぎ（芒）のこと。）である。よって、稲刈りの現場をうろちよろすると「はしかゆうなる（痛がゆくなる）」と言われる。「はしか」が形容詞化して、「はしかい」「はしかし」はその終止形。 なお、「麻疹（はしか）」は、のどなどにそうしたかゆみを伴う発疹であるところから、この名称になった。 【「いがいが（いが）」「じがじがする」参照】 例：あー、はしかいー。 （あー、痛がゆい。） 例：あいつは、はしかいーやつじゃのー。 （あの人、とげとげしい人だね。）（気が短い人だね。） 例：あいつは、はしかいーから、よう働くいやー。 （あいつは、すばしこいから、良く働くよ。） 余談：鹿野の方言集に「はしかいい鎌」として「鋼の質が硬く良く切れるが刃がこぼれやすい」という説明があった。「硬くて脆い」意味にも使っていたようだ。
1544	はしから	次々と、順次。 例：はしから、読んでみんさい。 （順次、読んで下さい。）
1545	はしらかす	走らす。走らせる。 【「～（か）す」参照】 例：《手伝いの加勢を頼まれて》 こっちからも人をはしらかすから、待ちよってくれー。 （こちらからも人を走らすから、待っておいでくれ。）
○ 1546	はしり	台所の「流し台」。 東京では「流し（ながし）」。水を土間の一部に引き入れて、そこに石や木で水溜りをこしらえ、野菜や食器を洗っていた昔の台所。水が走るから「はしり」、流れるから「ながし」と言うようになったのか？ 【「だいどこ」参照】 余談：京都では「はしり」そのものが「台所」を意味しているようだ。

No.	見出し	説明
○ 1547	はしる	痛い。 歯が痛い時に「歯がはしる」と使うことが多い。「歯に痛みがはしる」の「に痛み」が省略された使い方。頭が痛い時、「頭がはしる」と使う人もいる。「膝がはしる」、「足がはしる」と使う人もいる。刺すような痛み、ひりひり、ずきずきするような痛みを使う。激しくうずくこと。切り傷や火傷の痛む時にも使う。新南陽の方言集に「やけどをして火ばしりがする(火傷でぴりぴりと痛む)」とあった。 【「うずく」、「せく」、「つめる」、「にがる」参照】 余談：昔は、山口県では「走る」ことは「かける」と言っていたが、今頃は「走る」が優勢かも？
1548	はぜ (はで)	稲掛け。稲や麦を干す組み木。はせ(稲架)。 杭(はぜぐい)を立てて、横に棹(はぜざお)を渡して、稲や麦を乾かす干場のこと。「はぜを組む」と言う。「はさ(稲架)」は「挟(はさ)む」の意。田と田の間の「はざま(狭間)」に木を立てて、稲を掛け渡したのが初め。「はざ木」を略して「はざ」と呼んでいるうちに「はぜ」と訛った。さらに山口弁のザ行音がダ行音化する法則により「はで」と訛ったようだ。柳井の方では「かけぎ」、または単に「かけ」とも言うらしい。 また、下松や高水の一部では、昔は「なだら」と言っていた。長門や島根の石見でも「なだら」らしい。なお、標準語は「はせ」のようだ。 【「なだら」参照】 余談：「はぜ(櫓)の木」を「はでの木」と言うことも多い。
1549	はせる	挟む。隙間などに挟み込む。 物と物の間にはさむ時にだけ使う。「はさる」は目的語をとらない自動詞だが、「はせる」は目的語をとる他動詞。【「はさる」参照】 例：葉(しおり)を本に、はせちょー。 (葉を本に、挟んでおこう。)
1550	ばちい	ばっちい。ばばっちい。汚いこと。(幼児語) 【「ばばちい」参照】
1551	ばちくそ	好(い)い気味。ざまあみろ。 あまり良く思っていない人が失敗した時に使う。 【「いいきび」、「えーきび」、「ええばち」参照】 例：えーばちくそよ。(いい気味だ。)
1552	はちわれる	果物などが熟して割れること。 「はち」は強意。 例：クリの実がはちわれた。(栗の実がはじけて割れた。)
1553	～ばっかし じゃの一て、 ～も。	～ばかりでなく、～までも。 「～ばっかりか(ばかりか)、～も」と使うこともある。 例：こりゃー子供ばっかしじゃの一て、大人も好きーね。 (これは子供ばかりでなく、大人も好きだよ。)
1554	はっくしょ (はくしょ) (はくしょん)	くしゃみ。 標準語で「はくしょん」は、くしゃみの音。この音を「くしゃみ」の意味に使う。 昔、聞いたことがあるなと言う程度で、今は使われていないと思う。 例：《大きなくしゃみをした子に》 あーやー、おおきなはっくしょが出たねー。 (あら、大きなくしゃみが出たね。)

No.	見出し	説明
1555	ばっけ	血統。遺伝。系統。 字は「末家」か？ 東地区（笠戸島）で使用。家々によって、気質や性格が似通っているから、「本家から末家まで」の意味合いで、「○○ばっけは・・（○○一族は・・）」と言う風に使ったと思われる？ 徳地の方言集にも同じ使い方が載っていたので、昔は各地で使われていたのかも？ 【「そん」参照】
1556	ぱっちゃん	メンコ。 言い方は「ぱっちゃん」。ボール紙などを小さく丸や長方形に切った子供のおもちゃ。地面に置いた相手の「ぱっちゃん」に自分のをぶつけて裏返らせると勝って相手のを取る。【「あそーだ」参照】 余談：下関では「ぶっつけ」とも言うらしい。
○ 1557	はつめい （発明）	聡明。利口。器用。賢い。機転がきく。 主に子供、女性に使う。 例：まあ、このかあー、はつめいなねー。 （まあ、この子は、賢いね。）
1558	はなえる （はなえーる）	始める。 「はなえる」は「①始める ②準備する」の意。言い方は「はなえる」。山口弁の正調は「はなえーる」。 「端（はな）からやり直す」のように使う「端（はな）」から派生した言葉。「はな」を語源として動詞化したのが、「はなえる」「はなわる」。これを「端（はし）」と読むので「はし」を語源として動詞化したのが、「はしめる」「はしまる」→「はじめる」「はじまる」。この「始める」「始まる」の方が新しい言葉である。【「きはなえる」、「とりはなえる」、「はなまる」、「はなわる」参照】 例：そろそろ、はなえましょうか。 （そろそろ、始めましょうか。） 例：勉強しはなえたとみー。 （勉強し始めたよ。） 例：はあ、やりはなえたよ。 （もう、やり始めたよ。） 余談：副詞「はなえて」になると「わざわざ」や「改めて」の意味に使ったようだ。言い方は「はなえーて」。「はなえーてせんでもええよ。（わざわざしなくても良いよ。）」のように使うらしい。
1559	はなげがかる （鼻毛が枯れる）	悪臭がする。いやな匂いが強いこと。鼻が曲がること。
1560	はなしば	しきみ。しきび。仏様に供える柴。（植物） 西地区で使用。東地区は「しきび」。【「しきび」参照】
1561	はなじわを のばす （鼻皺を伸ばす）	鬼の居ぬ間に洗濯のこと。リラックスした感じ。
1562	はなまる （はなわる）	始まる。 「はなわる」とも言う。「はなまる」は「花丸」と同じ喋り方と思って良い。詳しくは「はなえる」「はなわる」を参照のこと。 【「きはなえる」、「とりはなえる」、「はなえる」、「はなわる」参照】 例：はよー行かんにかー、祭りが、はなまるで一。 （早く行かないと、祭りが、始まるよ。）

No.	見出し	説明
1563	はなみやすーに いう	容易にできるように言う。簡単に言う。 東地区(櫛ヶ浜)で使う。「はな」は「最初」、「みやすい」は「容易」。「はなから、みやすーに」が「はなみやすーに」になったか? 【「こみやすーにいう」、「はなまる」、「みやすい」、「わきゃーない」参照】
1564	はなわる (はなまる)	始まる。 「はなまる」とも言う。「端(はな)」と「鼻」は同源。四足動物の先端が「鼻」だから「はなえる」「はなわる」、「端(はし)」とした時は、「はじめる(始める)」「はじまる(始まる)」、「尾」は最後だから「おえる(終える)」「おわる(終わる)」となる。 【「きはなえる」、「とりはなえる」、「はなえる」、「はなまる」参照】 例：今度はなわるドラマの題は、 何ちゅーたんじゃったかいの一。 (今度始まるドラマの題は、 何と言うのだったかね。)
1565	はねにする	のけ者にする。 字は「撥ね」か? 言い方は「 <u>はね</u> にする」。県東部(周防大島)では「はねのけ」と言う。 例：あの子をはねにしちゃーいけんよ。 (あの子をのけ者にしてはいけないよ。)
1566	ばばいい (ばばいー)	まばゆい。まぶしい。 西地区(湯野)で使う。 【詳しくは「まばいい」参照】
1567	はばしい	激しい。 乱暴でいかげん、騒がしく、落ち着かないがやり手の感じ。 例：あの子は、はばしいからねえ。 (あの子は、やり手でうるさいからねえ。)
1568	ばばちい (ばばっちい)	汚い。(幼児語) 「ばばっちい」とも言う。 【「ばちい」、「びーびー」、番外の「幼児語」参照】 例：そりゃー、ばばちいから、いらいーさんなよ。 (それは、汚いから、触ってはダメだよ。)
1569	はぶ	歯茎(はぐき)。 「はぶき」とか「はぶし」とも言う。字は「歯節(はぶし)」。

No.	見出し	説明
1570	はぶてる (はぶをつる) (はぶーつる)	ふくれる。むくれる。少しすねながら怒る様子。 歯茎のことを言う「はぶ」、「はぶし」が動詞化した「はぶつ」が語源。相手に対して、怒った意味で歯茎を出して「いー」をする様子からこの言葉が生まれたようだ。他には、古語の「羽振く(はぶく)」からとか「羽振(はぶり)」(鶏が卵を抱いて羽が膨らんでいる状態)からとの説や、「は(端:はんば)」と「ふてる(不貞)」が合わさって、「少しだけ怒る」意味になったなどの諸説がある。 「はぶをつる」とも言う。言い方は「はぶーつる」。「はぶてづら(面)」、「はぶてがお(顔)」は「仏頂面」のこと。「はぶて」は「はぶてて(むくれて)いる人、良くはぶてる(むくれる)人」のこと。言い方は「はぶて」。 なお、「はぶてる」の17世紀頃の言い方は「ふあぶてる」だったようだ。 【「すくねる」、「はぶ」、「ぶーをつる」、「ぶすけ」、「ぶすける」参照】 例:そねーに、はぶてないや。 (そんなにむくれるなよ。) 例:はぶてて、いんだでよ。 (すねて、帰ってしまったよ。) 例:あいつは、はぶてじゃからのー。 (あいつは、良くむくれるからな。)
1571	はぶを噛んだ (はぶーかんだ)	ほほの内側を噛んだ。 「はぶ」は一般的には「歯茎」のことだが、「はぶを噛んだ」と使っている人は、歯茎の外側とほほの内側は切れ間なくつながっており、同じピンク色の粘膜で覆われているので、この粘膜部分を「はぶ」と認識している。つまり、「はぶ」とは「歯茎とほほの内側、または口の中全体」のこと。主に、山口県東部や広島西部で使われているが、長門や小野田、厚狭でも使っていたようなので、昔はかなり広い地域で使われていた方言かも知れない。言い方は「はぶーかんだ」と「ぶー」を強く言う。 【「はぶ」参照】 例:《ほほの内側を噛んでしまった時》 あいたー、はぶーかんだ。 (痛い、ほほの内側を噛んでしまった。)
1572	はまぐり	あさり。(貝) 広島から周南に嫁いで来た編者のいところが「かんぴょう」とともに、びっくりした呼び名のひとつ。香川県でも言うらしいが、かなり特異的な呼び方である。二枚貝の総称としても使うらしい。ちなみに「はまぐり(蛤)」のことは「びんつけがい(髻付け貝)」と言う。 【「かんぴょう」、「ろーま」参照】
○ 1573	はみ	まむし(蝮)。(蛇:爬虫類) 国語辞書によると「マムシの古名」となっている。言い方は「はみ」。 「はみ」は、平安時代の918年頃に成立した辞書「本草和名」に見えており、古くは中央語として使われていた。語源は諸説あるが、「はむ(喰む)」の連用形の「はみ(喰み)」がそのまま名詞化したものではないかと思われる。 「日本方言大辞典」の方言地図によると、山口県は全県「はみ」だが、瀬戸内海沿岸は「はめ」と言うところもある。昔は蛇のことを「朽ちた縄」に似ていることから「くちなわ」と言ったようなので、広島や岡山の山間部は「くちはみ」や「くちはめ」と言うところもある。他には、九州は「ひらくち」、「まへび」、紀伊半島は「はび」、東北では「くそへび」、「くちはび」などがある。

No.	見出し	説明
1574	はように (早うに)	ゆうに。らくらく。 十分に余裕が有ることを表わす。 例：こりゃあ100万円は、はようにあるけえ。 (これは100万円は、ゆうにあるよ。)
1575	ばらかご (ばら)	バラス、砂利を入れる竹で編んだ丸い籠。 「かご」を付けずに「ばら」と言うところもある。
1576	ばらく	ばらまく。 「餅まき」のことを「餅ばらき」とも言う。 例：棟上げの餅をばらく。(棟上げの餅をばらまく。)
1577	ばらける	雨が降り始める。 例：《空を見上げて》おっ、ばらけだしたで一。 (おっ、雨が降りだしたよ。)
1578	はらはんやく	長時間。約半日。 「はら」は意味は分からないが接頭語か調子を取る言葉だろう。「はんやく」は「一日役」の半分の「半役」。 例：《洗う野菜の量が多い時》 なんと、これだけありや、洗うのに、はらはんやく掛かるね。 (なんとこれだけあれば、洗うのに、長いこと掛かるね。)
1579	はらんきょう (はらんきょ)	スモモ。(植物) スモモの一種「巴旦杏(はたんきょう)」が訛って、スモモ全体を指すようになったようだ？「はらんきょ」とも言う。周防大島には「はらんきょジャム」がある。
1580	ばり	すごく。超。 【「さで」、「ちち」、「つち」、「ぶち」、番外の「『ぶち』の付録」参照】 例：ばりすごかった。 (超すごかった。)
1581	ばる	小便をする。 「大便をする」、「小便をする」と言う意味の古語「まる」が「ばる」に変化した。「寒い」が「さぶい」、「眠たい」が「ねぶたい」になるように、「マ行」が「バ行」に変化したもの。古語「まる」は「おまる」として残っている。 「小便」のことは「ばり」と言う。「寝小便」のことは「ゆばり」、「いばり」、「よばり」と言う。「ゆばり」の「ゆ」は「湯」のこと。小便が生温かいことによる。「いばり」は「ゆばり」の転。「よばり」の「よ」は「夜」のこと。(KRYラジオの山口弁コーナーより) なお、「ばる」以外の言葉は国語辞書に載っているが、「寝小便」の意味が書いてあったのは「よばり」だけで、他は単に「小便」だった。「ばり」は「ゆばり」の略とあり。「ゆばり」、「いばり」を「寝小便」に使うのは山口弁らしい。我々は「ばり」と「ばる」は使ったが、他の「ゆばり」等は使ったことはない。普通に「寝小便」だった。 例：あんなー今、小便ばりに行った。 (あいつは今、小便をしに行った。) 余談：古語の「まる」は、九州には残っており、「小便をしに来る」は「小便をまってくる」と言うらしい。 【「しいをする」、「ひる(放)」参照】

No.	見出し	説明
1582	はるた (墾田)	常に湿っていて、足が深くはまる水田。ぬかるんでいる田。 東地区で使用。一般的には「じるた」。「春田」で一毛作の田のことを言ったり、春にすき起こされた田を言うこともある。 【「じるた」、「どべた」参照】
1583	はわく	掃く。 KRYラジオで森川さんが「山口弁」と言っておられたので、収録した。県西部では今でも使っているようだが、周南では使わないと思う。我々の間では、「はわく」は九州の方言と言う認識である。「はわく」は、古語「ははき(帚・箒)」からの転成語と考えられている。 注1:「はわく」で、各所の方言集に「掃く」と、「急ぐ」系の「気負い込む」、「貪り(むさぼり)食う」等の意味が散見されたので、昔は多様な意味で使っていたようだ。 注2:注1の「急ぐ」系の言葉は、『はばく』を周防では『はわきど』とも『はわく』とも」と「山口県方言辞典」に書いてあったので、語源は違うかも知れない。
○ 1584	ばんげ	夕方。薄暮時。 字は「晩げ」だが、「晩景(ばんけい)」から変化した言葉か?
1585	はんどう (はんどー)	水がめ。台所に置いた水壺。 「はんどーつぼ」、「はんどーがめ」とも呼ぶ。 大きさは、口径が70~80cm、高さは120~130cm位で、大方は防府の堀越窯の製品。昔はみんな「だいどこ(台所)のはしり(流し)」の横に置いてあった。今、置いてあるとしたら、昔を再現した民家くらいか? 語源は「はんざふ(半挿)」で「はんぞう」と言うのが訛って「はんどう」になったのではないかとの説がある。また、茶の湯などで使う金属でできた容器が「飯銅(はんどう)」で、陶器でも「はんどう」と言ったので、水がめも「はんどう」になったとの説もある。 注:「はんざふ(半挿)」は湯や水をつぐ器具。注ぎ口の柄が半分、器の中にさしこまれているので、こう呼ぶ。
1586	はんぶっこ (はんぶんこ)	半分ずつにすること。 「はんぶんこ」とも言う。 例:このお饅頭ははんぶっこにしようやー。 (このお饅頭は半分ずつに分けようよ。)
1587	ひーこら はーこら	「ひいひい はあはあ」している状態。パテている状態。 【「へえこら へえこらする」参照】 例:《パテている人に》どうかー、ひいこら はーこらして。 (どうかね、ひいひい はあはあして。)
1588	ひーさ (ひいさ) (ひさー)	久しく。長い間。 古語の「久」の転。「ひーさ」とも「ひさー」とも言う。「ひいさに」の言い方も「ひーさに」と「ひさーに」の両方あり。 【「ながしゅう」、「めったごしょうに」参照】 例:ひーさ、合わなかったのー。 (長い間、合わなかったね。) 例:ひさー、見なかったのー。 (しばらく、見なかったね。)

No.	見出し	説明
1589	びーたれ (びいたれ)	泣き虫。「よく泣く子」のこと。 「山口県方言辞典」には「女子の卑称」とも書いてあったが、我々の年代はその意味では使っていない。その由来は番外の「昔の言葉、行事？」の「びつつ」を参照のこと。 良く似ている言い方の「びったれ」は「汚い、だらしない、役立たず」の意味。しかし、柳井、田布施辺りでは、「泣き虫」の意味で「びったれ」も使っていたようだ。 【「なきびーす」、「なきべそ」、「びったれ」、「びんたれ」、番外の「昔の言葉、行事？」の「びつつ」参照】 例：ありゃー、昔はびーたれじゃったいやー。 (あいつは、昔は泣き虫だった。) 余談：伊陸(いかち)では「びーたれ」を「垂れ下がった」意味に使い、八の字のように垂れ下がった眉を「びーたれ眉」と言うらしい。
1590	びーびー	①汚い。(幼児語) ②泣く。泣く様子。(幼児語) 言い方が平板式、または「びーゝびーゝ」の時は①「汚い」、「びーゝびーゝ」の時は②「泣く」意味になる。「びーびー泣く」とも言う。 【「なきべそ」、「ばばちい」、番外の「幼児語」参照】 例：そりゃーびーびーよ。(それは汚いよ。) 例：すぐ、びーびーするんちゃー。(すぐ、泣くのだよ。) 例：よー、びーびー泣くんちゃー。(よく、泣くのだよ。) 余談：魚のことを「びーびー」とも言ったようだ。【「たいたい」参照】
1591	ひがおかえる	日が沈むこと。 聞いた程度で、使ったことはない。【「おかえる」参照】 例：ひがおかえたけー、はあ、しまいまひょーや。 (日が沈んだから、もう、止めましょう。)
1592	ひがさく (日が咲く)	日が照ること。 西地区で使用。 例：日が咲いたから、外であそびー。 (日が照ってきたから、外であそんだらどう。)
1593	ひかちゃんぼ	乾いてカチカチの様子。ひからびた様子。 例：ひかちゃんぼの餅を焼こう。(ひからびた餅を焼こう。)
1594	ひがな いちんち	ひがな いちにち。一日中。 【「ひして」、「ひてえ」、「ひてーじゅう」参照】 例：この子は、ひがな いちんち、外であそんじよるよ。 (この子は、一日中、外で遊んでいるよ。)
1595	ひく	敷く。 通常の「引く」も「ひく」だが、「敷く」も「ひく」と言う。「七(シチ)」が「ヒチ」に、「質屋(シチヤ)」が「ヒチヤ」になるように、山口弁では「シ」を「ヒ」と発音する傾向が強い。よって、「しく」は「ひく」になる。ただし、「敷き布団」は「しきぶとん」、「敷布」は「しきふ」で、「ひきぶとん」や「ひきふ」とは言わない。【「ひちぶ」、「ひちや」、「ひちりん」参照】 例：布団をひいちょって。(布団を敷いておいて頂戴。)
1596	ひぐり	日めくりの暦。 最近「ひめくり」と言う方が多い。

No.	見出し	説明
1597	ひこじる (ひこずる)	引き摺る。 「ひこじる」は室町時代、「ひこずる」は安土桃山時代の文献にあるので、昔は中央語だったが、「ひこじる」は江戸末期に小郡代官が書いた「他所問答」には長州藩の方言として載っている。「ひこじる」、「ひこずる」共に中国、四国の各地で使われている。 【「そびく」、「どびく」参照】 例：すそをひこじりーさんなよ。(裾を引き摺らないように。) 例：《肩掛けになっている横鞆の肩掛けを、 手に持って、歩いている子に》 鞆をひこずって歩くんじゃないど。 (鞆を引き摺って歩かないように。)
1598	ひざーくむ (ひだーくむ)	胡坐(あぐら)をかくこと。 丁寧な言い方は「ひざをくむ」だが、普通の言い方としては「ひざーくむ」、または「ひざ」が「ひだ」に近い言い方になって「ひだーくむ」になる。中国、四国で使われている。「あぐらをかく」と「ひざをくむ」が合体して、「胡坐を組む」と言うこともある。最近では「ひざをくずす」の言い方が多いかも？ 「ひざを」が「ひざー」になるのは、母音「ア」+助詞「オ」は「アー」と発音されるため。「ひざ」が「ひだ」になるのは、山口弁ではザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・デ・ド」として発音されるため。 【「かしこまる」、「ひだぼうず」、「らくにする」、「ろうくにする」参照】 例：かしこまらんとひざーくんでつかーさい。 (正座をしないであぐらをかいて座って下さい。)
1599	ひざがわらう (膝が笑う)	ひざが、がくがくする。 山から下りる時などに使う。広島でも言う。山用語か？ 【「ふがあがる」、「わろう」参照】 例：山から下りる時に、膝がわろーてやれんかったいのー。 (山から下りる時に、膝がガクガクして堪らなかったよ。)
1600	ひざぼうさー	ひざ坊主。膝小僧。膝頭。 【「ひだぼうず」参照】 例：ひざぼうさーをすりむいたいやー。(ひざ坊主を摺り剥いたよ。)
1601	ひして	一日。丸一日。日一日(ひひとひ)のこと。 山口弁ではないが、周南市の業者さんの一部で使われているので、収録した。「日本方言大辞典」によると、岩手、山形より南で埼玉、千葉あたりまでと、東海道、関西を除いて、信州、北陸、四国の香川、愛媛、そして九州とかなりの地域で使われている。 よって「ひして」が主流なのに、これがなぜか山口と広島、島根では「ひてえ」、「ひてーじゅう」になる。岡山が「ひてー」と「ひして」の混在地域のようだ。【「ひがな いちんち」、「ひてえ」、「ひてーじゅう」参照】 例：《どのくらいで直せるかと聞かれて》 まあ、ひしてもありゃーできるじゃろー。 (まあ、一日あれば、直せるでしょう。)
1602	ひしゃぐ	潰す。 「へしゃぐ」、「みしゃぐ」、「めしゃぐ」とも言う。「麦飯用の押し麦」は「ひしゃぎ麦」。【「つやす」、「へしゃぐ」、「みしゃぐ」、「めしゃぐ」参照】 注：「ひしゃぐ」は方言と思ったが、どうも標準語のようだ。これから変化した言い方は方言。

No.	見出し	説明
1603	ひしゃげる	潰れる。 「へしゃげる」、「みしゃげる」、「めしゃげる」とも言う。 【「へしゃげる」、「みしゃげる」、「めしゃげる」参照】 例：カンカンがひしゃげたいやー。(缶が潰れたよ。) 注：「ひしゃげる」は方言と思ったが、どうも標準語のようだ。これから変化した言い方は方言。
1604	ひずりそう	はこべ(はこべら)。(植物) 「はこべ」と似た草もみんな「ひずりそー」と呼んだ。他に都濃郡では「がらんがらん」、「にわとりぼーず」、「はこり」、「ひつつきばな」、「こんペーとーぐさ」などの呼び名があったようだ。 例：にわとりに食べさすひずりを取って来い。 (にわとりに食べさせるはこべを取っておいで。)
1605	びた (びと)	活きの良い魚のこと。絞めたばかりの魚。鮮魚。(魚) 東地区、防府、厚狭、萩で使っている。「びと」の言い方もする。萩や須佐の方言集には、「びた」で「新鮮」、「釣り上げたばかりの鮮魚」とあった。 TYSの「ちぐまや家族」で、下松の魚屋さんが「びた」と言っていたし、下松や萩の魚屋さんで「びた」と書いた切り身を売っていたので、今から復権するかも？【詳しくは「びとびと(びと) (びた) (びたびた)」、「ぶえん」参照】 例：《魚屋の店頭で切り身の張り紙に》「びた!」(「新鮮!」)
1606	ひたしい (親しい)	親(した)しいこと。 「親(した)しい」の転。「したしみ」は「ひたしみ」。【「ひく」参照】 例：ああ、あのひとたー、ひたしいよ。 (ああ、あのひととは、親しいよ。)
1607	ひだぼうず	ひざ坊主。膝小僧。膝頭。 山口弁ではザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・デ・ド」として発音されるため、「ひざ」が「ひだ」になっている。 【「ひざーくむ(ひだーくむ)」、「ひざぼうさー」参照】 例：ひだぼうずを抱えてすわっちょけー。 (ひざ坊主を抱えて座っている。)
1608	ひたる (したる) (すたる)	①物が落ちる。②なくなる。 「したる」か「すたる」を良く使う。「ひたる」は今あまり聞かないが「し」を「ひ」と発音する例である。当然、「浸る(ひたる)」も使うがどちらの意味かは状況でわかる。【「したる」、「してる」、「ひてる」参照】 例：庭にひたっちょたよ。(庭に落ちていたよ。)
1609	ひちぶ (七分) (しちぶ)	やもり(家守)。(虫：爬虫類) 「やもり」に毒はないが、似た動物で噛まれると毎日七分ずつ体が腐るようなものがいたらしい。それで「ひちぶ」と呼ばれるようになったようだ。「かべちょう」と言うところもある。主に「かべちょう」は県西部、「ひちぶ」は県東部主体で使われているようだが、詳しくは良く分からない。 【「かべちょう」参照】
1610	ひちめんどうな	しち面倒な。すごく面倒な。 「ひち」は強意の接頭語で、不快感を強調する時に使う。「しち」の転。 例：なんと、ひちめんどうな話を持って来たのー。 (何と、すごく面倒な話を持って来たな。)

No.	見出し	説明
1611	ひちや (質屋)	質屋。 「し」を「ひ」と発音する。サ行音がハ行音に変わる例で、山口弁では「シ」を「ヒ」と言うことが多い。数字の「7」は「しち」でなく「ひち」。同様に「しちや」は「ひちや」になる。 【「ひく」、「ひちぶ」、「ひちりん」、「ひわる」参照】
1612	ひちやかましい	すごくうるさい。 「ひち」は強意の接頭語で、不快感を強調する時に使う。「しち」の転。
1613	ひちりん	①七輪(しちりん)。 5, 6, 7は「ごー」、「ろく」、「ひち」。よって「しちりん」でなく「ひちりん」。 【「ひく」参照】 ②コンロ。 コンロのことも昔は「ひちりん」と言っていた。 余談:「北斗七星」は標準語では「ほくとしちせい」だが、我々は「ほくとひちせい」と言う。
○ 1614	ひっからげる	まくりあげる。 例:裾をひっからげて、走って行ったで。 (裾をまくりあげて、走って行ったよ。)
1615	ひっかるう	背負いこむこと。背負いあげること。 どちらかと言うとカー杯背負うこと。「ひっ(引っ)」は動詞「引く」の連用形「引き」の転で、動詞について、その意味や語調を強める。 背負うことを、荷物は「かるう」で、人は「おう」と使う人は、「ひっかるう」のは荷物だけだが、荷物にも人にも「かるう」を使う人は、「ひっかるう」を同様に荷物にも人にも使う率が高い。 【「かるう」参照】 例:子供を背にひっかるーて行きたいやー。 (子供を背負いあげて行ったよ。) 例:あいつあー荷物ーひっかるーて、慌てて出て行ったでえ。 (あいつは荷物を背負いあげて、慌てて出て行ったよ。)
1616	ひっしもっし (必死もっし)	ものすごく必死に。 例:これを必死もっしにやったんちゃー。 (これをすごく必死にやったんだ。)
1617	びっしゃ (びしょぬれ) (びっしゃこ)	びしょびしょ。 「びしゃびしゃ」、「びっしゃこ」とも言う。雨や水にずぶぬれは「びしょぬれ」、または「びっしゃつしゃ」。 例:この仕事で、汗びっしゃになった。 (この仕事で、大汗をかいて濡れた。) 例:夕立ちでびっしゃこになったいね。 (夕立ちでずぶぬれになったよ。)
1618	びったー	汚くてもよい人。不潔な人。無精なこと、またその人。 【「きじゃない」、「びったれ」、「ほーとくない」、「よこれ」参照】
1619	ひったくその ように言う	ぼろくそに言う。 扱き下ろす(こきおろす)こと。「ひる」は放出すること。「ひった」はその過去形。「くそ」は「糞」なので、かなり侮辱した言い方である。なお、「言う」は「ゆー」と発音する。【「ひる(放)」参照】

No.	見出し	説明
1620	びったれだまし (びっただまし)	花冷え。暖かくなって来た頃に冷え込むこと。 下松で使う。暖かくなって、より成りに構わなくなった不精な人をビックリさせるから「びったれだまし」か? 「びっただまし」とも言う。 余談: 下関の方言集に「びったれほーろく: 冬が近いことを知らせる寒波」とあった。こちらは「焙烙」で暖かいものを食べなくなるからか? また、広島廿日市の方言集には、「びったれおとし: ぐずぐずしていて冬支度の遅れた時の初雪」とあった。昔は冷え込むことに対して、「びったれ〇〇」で、色々な言い方があったのかも?
1621	びったれ	汚い。だらしない。役立たず。 元は「ひきたれ(引き垂れ)」。着物の裾を引きずるほどに垂れさせていても構わぬ風なのを見て言い出した言葉。 【「かんしょう(かんしょうびったれ)」、「きしゃない」、「びったー」、「ほーとくない」、「よこれ」参照】 例: よいよ、びったれなんじゃから。 (もう本当に、だらしないんだから。) 余談: 「びーたれ(びいたれ)」は良く似ている言い方だが「泣き虫」の意味。柳井、田布施辺りでは、「泣き虫」の意味で「びったれ」も使っていたようだ。 【「びーたれ」、「びんたれ」、番外の「昔の言葉、行事?」の「びつつう」参照】
1622	ひつつきむし	さみしがり屋。 大阪や愛媛の方でも使うようだ。 余談: 「ひつつきぐさ」は「ぬすびとはぎ(盗人萩)」のこと。
1623	ひつつき もつつき (くつつき もつつき)	くっついてまとわりつくさま。 周南、下松では「ひつつき もつつき」だけを使うが、光や柳井、田布施周辺では「ひつつき もつつき」、「くつつき もつつき」共に使っているようだ。下関では「ひつつき ほつつき」らしい。 また、秋に、服にひつつく草を萩や鑄銭司では「ひつつき もつつき」と呼び、人の動作には使わないようだ。
1624	ぴっとこ	①跳ねるさまを表わす。ぴよんぴよん。(擬態) 跳ねる時は「ぴよっとこ ぴよっとこ」も使う。 ②水などが滴るさまを表わす。ぽたぽた。 例: カエルがぴっとこ、ぴっとこ跳ねよった。 (カエルがぴよんぴよん跳ねていた。) 例: 雨漏りがぴっとこ、ぴっとこ落ちよるよ。 (雨漏りがぽたぽた落ちているよ。)
1625	ひっぱり (引っ張り)	血縁。親類。 「ひっぱりあい」とも言う。 例: あの家(いえ)は家(うち)と引っ張りになるんよ。 (あの家はうちと親類になるのよ。)
1626	ひでー	ひどい。 子音内の連母音「オイ」は、形容詞等で概ね「エー」と発音される。「ひどい(ヒドイ)」は「ヒデー」、「くどい(クドイ)」が「クデー」である。また、「オエー」と言う場合もある。その時は「ひどい」は「ヒドュー」になる。 【「おせー」、「ひどうに」参照】 例: ひでーことになったのー。(ひどいことになったね。)

No.	見出し	説明
1627	ひてえ	一日。丸一日。 一日おき、隔日は「ひてえおき」、「ひてえがい」、「ひてえがえ」。言い方は「ひてー」。「ひとひ」→「ひとい」→「ひてえ」となった。「ひてえひ」は「同じ日」。「ひてえひに生まれた」は「同じ日に生まれた」こと。 【「ひして」、「ひてーじゅう」、「ひがないいちんち」参照】 例：《修理に丸一日掛かった時》 何とまあ、ひてえも掛かったでよー。 （何と、一日も掛かってしまったよ。）
1628	ひてーじゅう	一日中。 【「ひがないいちんち」、「ひして」、「ひてえ」参照】
1629	ひてる (してる)	①捨てる。 ②紛失する。なくす。落とす。 今頃は「してる」の方を良く使う。 【「したる」、「してる」、「ひたる」参照】 例：いらんけーひてたよー。 （いらないから捨てたよ。） 例：財布をひててしもーた。 （財布を失くしてしまった。）
1630	ひといきつく (一息つく)	一息入れること。ちょっと休憩する。一休みする。 例：ひといきつくーいね。 （一休みしようよ。）
1631	ひどうに (ひどーに)	酷(ひど)く。 「ひどうする(ひどくする)」、「ひどうなる(ひどくなる)」のように「ひどく」を「ひどう(ひどー)」と使う。 【「ひでー」参照】 例：そねーに、<u>ひどー</u>に怒らんでもええじゃないかー。 （そんなに、ひどく怒らなくても良いではないか。） 注：形容詞の連用形活用語尾「ク」がウ音便化する。「オク」は「オー」と発音される。よって、「ひどく(ヒドク)」は「ヒドー」になる。 【「おそーなる」参照】
1632	ひとつつた (ひとつずた) (ひとつつた) (ひとつつて)	ひとつずつ。 「ひとつつた」は西地区で使っている。「ひとつずた」が「ひとつつた」になって、「ひとつつた」になったか？ 東地区は「…わて」を使っていた。ただし、「ひとつつた」は下松のほうえい堂の外郎の名前に使われているから昔は使っていたのかも？ 「山口県方言辞典」によると、「…ずた」は周北となっているから「周防の北」の方で使われていたか？ 「…つた」は周防大島で使われていたようだ。 【「～ずた」、「～つた」、「～わて」参照】
1633	ひとつも	少しも。ちっとも。全く。 後ろに否定語を伴う。【「いっこも」、「いっそ」、「よいよ」参照】 例：ひとつもわりーたーおもーちよらんじゃろー。 （少しも悪いとは思っていないだろう。） 例：ひとつもおもしろーないね。 （ちっとも面白くないね。）

No.	見出し	説明
1634	びとびと (びと) (びた) (びたびた)	活きの良い魚のこと。絞めたばかりの魚。鮮魚。(魚) 「びとびと」や「びと」、「びたびた」、「びた」の言い方を東地区で使う。「びと」、「びた」共に魚が跳ねる様子から派生した言葉か? どの言い方を使うか、友人数十名に聞いた結果、「びた」はまだ使う人がいるが、「びと」は編者のみであった。「びたびた」、「びとびと」はもう使われていないようだ。 また、山間部や周防大島では「ぶえん」を使っていたようだ。 各地の同様の言い方は、北陸(富山):「きときと」、熊本:「ぶたぶた」(魚市場用語?)、茨城:「きちきち」、長崎(対馬):「しょー(正)」、福島:「えきぜー」。また、「ぶえん(無塩)」は、東北から中国、四国、九州の各地で使われている。 【「びた」、「ぶえん」参照】 例:今日の刺身は、びとじゃったから、うまいのう。 (今日の刺身は、活きが良かったから、おいしいね。)
1635	ひとみず	人見知りをする事。 子供によく使うが、大人にも言う。西地区で使う。東地区は「みずをする」を使う。【「いんじゅたれ」、「みずをする」参照】 例:おおきゅうなっても、あの子はひとみずをするねー。 (おおきくなっても、あの子は人見知りをするね。)
1636	ひとよーさ	一晚。 【「ふたよーさ」、「ようさ」参照】 例:ひとよーさ、うちに泊まりに、きなさいませー。 (一晚、我が家に泊まりにおいでなさい。)
1637	ひになる (火になる) (ひんなる) (ひーなる)	①熱中する。夢中になる。 ②ひどくなる。 ②は見境なく必死にしゃべるような時に使う。【「ねつい」参照】 例:あいつは、好きなこと一ひになっちゃべると。 (あいつは、好きな事は、夢中になっちゃべると。) 例:なんかちゃー、あのひたー、 すぐひんなるんじゃけー。 (なにかと言えば、あの人は、 すぐ熱中するんだから。) 例:頭にきたんじゃろー。ひーなってゆーんじゃけー。 (頭にきたのだろう。ひどくまくし立てて言うのだから。) 余談:萩では「熱狂する。熱中して一心になる。」ことは「ひのきだまになる。」と言うらしい。
1638	ひねきる	ひどく、抓る(つねる)こと。 「捻る」ことを最後までやり切るからか? 「ひねきりもち」はおしおきのこと。 普通の時は「ひね[↑]る」。 【「ひねた」、「へねきる」参照】 例:《おしおきとして》 わりいことをしたんで、ひね^きっちゃったいねー。 (悪いことをしたので、強く抓った。)
1639	ひねくりかやす	捻くり回す(ひねくりまわす)こと。

No.	見出し	説明
○ 1640	ひねた (陳ねた) (ひねる)	①穀物がダメになった状態。食物が変質すること。 ②[大人びた。ませていること。] 名詞「陳(ひね)」が動詞化したもの。言い方は過去形は「ひねた」。現在形は「ひねる」で「捻(ひね)る」と同じ言い方になる。「もちがひねる」はカビ臭くなること。煎餅は「ひねた」結果、「しわく」なる。また、「ひねたガキじゃのー」のように「大人びる」の意にも使う。【「ひねきる」参照】 例：A;このせんべーは、ひねちよるのー。 (この煎餅は、古くなっているね。) B;それで、しわいんかー。 (それで、パリッとしてしないのか。)
1641	ひやい (ひやえー)	冷たい。冷え冷えする。寒い。 「ひやえー」とも言う。「ひや酒」、「ひややか」、「冷やし中華」など、「ひや」が付く言葉が多いので、「ひやい」は標準語と思っている人が多い方言。 【「ぬくい」、「ひよーなる」参照】 例：この水は、ひやい。 (この水は、冷たい。) 例：山の上に来ると、ちーとひやいのー。 (山の上に来ると、少し寒いね。)
1642	ひやいでる	干上がって土が割れていること。干ばつの状態。 例：《干天に慈雨だが量が少ない時》 この雨じゃあ、まだ、ひやいじよるから、足らんかねー。 (この雨では、干上がっているから、 まだ水が足りないだろうね。)
1643	ひやぐ	乾く。乾き切る。 【「いらく」、「ひる(干)」、「ふやぐ」参照】 例：雨が降らんので、田がひやいだ。 (雨が降らないので、田が乾いた。)
1644	ひやける (日焼ける)	干ばつ。稲田の水不足。 例：今年はひやけんにやーええがねー。 (今年は水不足にならないと良いがね。)
1645	ひやける (冷ける)	はずんだ気分が抜けること。 注：国語辞書では「冷やける」は「十分に冷える」の意味しかない。「十分に冷える」は山口弁なら「よー冷える」になる。 例：踊り手が少なかったんで、ちょっとひやけたいのー。 (踊り手が少なかったので、ちょっと盛り上がらなかったよ。)
1646	ひやつかん	もみあげ。 「もみあげ」のことを漢方では、「搏癰(はっかん)」と言った。癰を立てた時、脈搏の現れるところの意。これが訛って、「ひやつかん」になった。県西部主体の方言と思われるが、東部でも使われている。 余談：新南陽の方言集には「びんこ」と言う言い方もあったが、これは我々は使っていない。字は「鬢子」かも？
1647	びやびやする	日焼けしてヒリヒリする感じ。 痛い程ではない状態のこと。最近はやらないが、昔聞いたことはある。西地区で使う。東地区は「やびやびする」となる。 【「やびやびする」参照】

No.	見出し	説明
1648	ひゅーじい ひゅーばあ ひゅーまご (ひいじい等)	「ひゅーじい」は「曾祖父、ひいじい」。「ひゅーばあ」は「曾祖母、ひいばあ」。 「ひゅーまご」は「ひ孫、ひい孫」。 最近ではほとんどが「ひいじい」「ひいじいさん」「ひいおじいさん」、「ひいばあ」 「ひいばあさん」「ひいおばあさん」、「ひいまご」と言う。ちなみに「玄孫(や しゃご)」は「ひゅーひゅーまご」か「ひーひーまご」。 【「みい」とこ参照】
1649	～ひょう (～ひょー)	～しよう(～しょう)。 「7」を「しち」でなく「ひち」と言うのと同じで、「しょう」が「ひょう」になったと 思われる? 【「～しよー」参照】 例：行きまひょうかね。 (行きましようかね。)
○ 1650	ひょうげる (剽げる)	おどける。面白い仕草。ふざける。 「ひょうげる」と訛って言うところもある。 例：そねーなとこで、ひょうげよったら、怪我をするでー。 (そねなとこで、ふざけていたら、怪我をするぞ。)
1651	ひよーなる (ひょーなる)	冷たくなる。冷(さ)める。寒くなる。 「ひやい」が「冷たい」。「ひやくなる」は「冷たくなる」。転じて、「寒くなる」意 にも使う。言い方は「ひよーなる」。形容詞の連用形活用語尾の「ク」がウ音 便化する。よって、「ひやく(ヒヤク)」は「ヒョー」と発音される。それを早口で 言う「ヒョー」になる。 【「いとーない」、「さみー」、「ひやい」参照】 例：《味噌汁を温め直した後、なかなか食べ始めない子供に》 おしるー折角ぬくめたのに、また、ひよーなっちゃうよ。 (お味噌汁を折角温かくしたのに、また冷めてしまったよ。) 例：《冷え込みが急に来た時》 今日は、急に、ひよーなったねー。 (今日は、急に、冷たくなったね。) →(今日は、急に、寒くなったね。) 例：《冬の挨拶で》ひよーなったねー。 (寒くなったね。)
1652	ひょっくら (ひょこつと)	ひょっくり。ひょっこり。不意に。 「ひょこつと」とも言う。【「だまがしに」、「だましがけに」参照】 例：《音信不通だった人が現れた話し》 ながーこと、どこにおったか知らんが、 こないだ、ひょっくら現れてのー。 (長いこと、どこにいたのか知らないが、 この間、ひょっくり現れたのだよ。) 例：へーの上に子猫がひょこつと、かおーのぞけたんちゃー。 (塀の上に子猫がひょっこりと、顔を出したんだよ。)
1653	ひよる	風で飛ぶこと。風で舞い上がること。 紙や布などの軽いものが風に吹かされて飛ぶことを言う。県東部の伊陸 (いかち)では、強風で体がよろけそうな時に、「強い風で体がひよりそう」と 言う。 例：風が強いけー、紙がひよったーやー。 (風が強いから、紙が飛んで行ったよ。)

No.	見出し	説明
1654	ひょんげな	①変な。おかしな。 ②ひょんな。妙な。思わぬことから。 【「いなげな」、「おかしげな」、「みょうちくりん」参照】 例：今頃はひょんげな格好をした人がおーねー。 （近頃は変な格好をした人が多いね。） 例：お前がひょんげなことを言うから、みんなが笑おうがや。 （お前がおかしなことを言うから、みんなが笑うだろう。） 例：ひょんげなことから、この遊びを始めてしもーたいや。 （妙なことから、この遊びを始めてしまったよ。）
1655	ひら (びら)	側。片一方。 【「かたひら」、「つら」、「りょうひら」参照】 例：「片ひら(片側)」、「両ひら、両びら(両側)」、 「右のひら、右ひら(右側)」、「左のひら、左びら(左側)」、 「こっちびら(こっち側)」等。
1656	ひらいこめ	焼き米。 米を粳(もみ)のまま煎(い)って搗(つ)いて殻を除いたもの。西地区で使用。 未熟稲を刈ってその粳を焼いて搗(つ)いたので実の薄い米がさらに平たくなったところから「ひらいこめ」と言う。「拾い米」ではない。この焼き米は神に初穂を奉げる趣旨で作ったもの。焼かないと脱皮できなかった。
1657	ひらう	拾う(ひろう)。 最近「ひらった」よりは「ひろーた」の言い方が多い気がする。これは山口弁ではワ行五段動詞連用形の活用語尾の促音「ッ」が、ウ音便化するため、「ひらった」は「ひろーた」、「ひらって」は「ひろーて」になるから。 【「おう(会う)」、「こう」参照】 例：ゴミをひらって歩く。 （ゴミをひろって歩く。） 例：ゴミをひろーて歩く。 （ゴミをひろって歩く。）
1658	ひらべたい	平(たい)らな。平(ひら)たい。 「ひらべたい」は国語辞書にあり。よく「ひらべたい」と言うので収録した。 【「へらべたい」参照】 例：河原でひらべたい石を拾うた。 （河原で平らな石を拾った。）
1659	ひる (昼)	限り。極限。極み。 「～の昼」と使う。江戸時代には「太陽の一番高い時」から「最盛期」の意味に使われていた中央語だったが、地方に伝わる間に「干上がる、果てる」意味の「干る」と合わさって、「限り、極限」の意味に使われるようになったようだ。「贅沢のひる(贅沢の限り)」や「文句のひる(文句の限り)」のように使う。良い事にも悪い事にも使う。 例：《あれこれ我儘を言う人に》横着のひるーゆーな。 （横着の限りを言うな。） 例：えかったの一。こねーにめでたいことのひるはないでよ。 （良かったな。こんなにめでたい事の極みはないよ。）

No.	見出し	説明
○ 1660	ひる (干)	乾く。乾燥する。 使う人は少なくなっていると思われる。今頃は「かわく(乾く)」が多いか？ 広島や小郡辺りでは今も普通に使うらしい。 【「いらく」、「ひやぐ」、「ふやぐ」参照】 例：天気がかつたんで、洗濯物がよーひた。 (天気が良かったので、洗濯物が良く乾いた。) 例：雨が降らんから、田がひちよった。 (雨が降らないから、田が干上がっていた。)
○ 1661	ひる (放)	放尿、放屁をすること。 「へをひる」と使うことは知っているがほとんど使っていない。「へる②」や「ばる」を使う。なお、鹿野の方言集には「糞をひる」と言うのもあった。 【「ばる」、「ひったくそのように言う」、「へる」参照】
1662	ひるのかんぱち (ひるの ひんぱち)	昼のさなか。真っ昼間。 「昼の昼間うち」の意。「ひるのひんぱち」、「ひるのひっぱち」、「ひんなか」とも言う。「昼の日中(ひなか)」も使う。
1663	ひわる	曲がる。反る。 変形、歪、そり等がある。「しわる(撓る)」の転。サ行音がハ行音に変わる 例。数字の「7」が「しち」でなく「ひち」になるのと同じ。山口弁で「しわる」と言えば、「胃がもたれる」や「胃が少し痛む」意味にも使うので要注意。 【「しわい(撓い)」、「しわる」、「ひちや」参照】 例：この柱はひわっちゃうぞ。(この柱は曲がっているぞ。)
1664	びん (便)	ついで。都合の良い機会。 かつては中央語で、平安時代からの言葉。「ついで」と言うより「便」の方があたたかみのある表現かも？今は、「空の便」、「午後からの便」のように成句として使われている。 例：こりよーなんかの便に届けてくれー。 (これを都合の良い時に届けてくれ。) 例：便があつたら、うちー寄って頂戴。 (ついでがあつたら、家に寄って頂戴。)
1665	ひんこち (ひんかち)	ヒタキ。(鳥) ヒタキ一般に使う。特に冬に飛来するジョウビタキが目につく。羽に白い紋が付いている小鳥。「ひんこち」とも、「ひんかち」とも言う。 また、ジョウビタキは「もんつき(紋付)」とも言う。
1666	ひんず (ひんづ)	序(つい)でに。 「ついでに」の中に、「①付け加え、②無益な・余計な、③予期せぬ・臨時の」意味がある。「ひんず食い」は余分に食べること。つまり、間食や夜食のこと。西地区で使用。【「はざまぐい」、「ひんずに」参照】 例：帰り掛けの駄賃じゃから、ひんずの儲けじゃ。 (帰り掛けの駄賃だから、ついでの儲けだ。) 例：ひんずの小遣いをもらうた。(臨時の小遣いをもらった。) 余談：広島では「思い掛けない怪我」のことを「ひんずの怪我」と言う。
1667	ひんずに (頻ずに)	頻りに(しきりに)。 周南では使っていないが、柳井や周防大島の方言集に載っていたので、「ひんず」との比較で収録した。【「ひんず」参照】

No.	見出し	説明
1668	びんたれ (鬢垂) (びんだれ)	小娘。女の子。 どちらかと言うと、女の子に対する卑称だったようだ。我々は使っていないが、「小娘が結う髪型からついた」と鹿野の方言集にあった。同様の言い方に「びーたれ」、「びったれ」、「びつつう」があるので、比較のために収録した。柳井の方言集の「びーたれ」の欄に「①泣き虫 ②女の子(卑称)『びんたれ、びったれ』とも」あるので、この「びんたれ」または「びんだれ」も各地で使われていたようだ。 【「びーたれ」、「びったれ」、番外の「昔の言葉、行事?」の「びつつう」参照】 余談：愛媛では「びんだれ」は「怠け者」のこと。男性に使うことが多いらしい。また、沖縄では「鬢(びん)+たらい」で「びんだれー」。「洗面器」のことらしい。
1669	ひんちがくすり	ひにちくすり(日日薬)。 月日の経過が薬代わりになること。治ったようでも、時間が経たないと傷は癒されないことを指して言う言葉。「ひんち」は「ひにち」のこと。「ひんちを薬にする(時間を掛けて治す)」とも言う。転じて「ひんちを薬に仕上げる(ゆっくりと丁寧に仕上げる)」と言うような使い方もしたようだが、我々はこの使い方はしていない。 例：失恋したらしいが、ひんちがくすりーね。 (失恋したらしいが、時間が経てば持ち直すよ。)
1670	びんぶく (湯野・熊毛) びんどこ (下松) びんびく (柳井)	肩車。 「びんぼこ(櫛が浜)、びんびこ、びんびくま、びんぶくま」と言う所もある。 「鬢服、鬢幅(びんぶく)」は古代の髪飾りで髪を油で固め、両側でふくらましたり、両方の前に下げたものを言う。肩車がその形に似ているのでこの名が付いた。または、「鬢」のように「膨(ぶくら:太もも、ふくらはぎ等)」が当たっているから「びんぶくら」、これが「びんぶくま」に変化した等の色々な説がある。この「びんぶくま」が山口の代表的な言い方らしい。なお、県西部では「べんべこ、べべくま」とも言う。 TYSの番組「週末ちぐまや家族」で、岩国、山口、下関で「肩車」の呼び方を調べていたが、100人中55人は「肩車」と答えていた。他の45人の答えでは「びんびく」が1位(19人)、「びんぶく」が2位(7人)、「びんびこ」が3位(3人)だった。なお、「びんぶくま」、「びんぶくら」と答えた人は共にひとりだった。 「びんどこ」は下松や櫛ヶ浜周辺で使われていたようで、県東部では「びんぶく」、「びんびく」の言い方が多い。 例：祭りでびんぶくしてもろーた。(祭りで肩車をしてもらった。) 例：ねー、びんどこしてーね。(ねー、肩車してよ。) 余談1：「肩車」は北関東の「てんぐるま(手車)」と千葉県「かたうま」に挟まれた形で分布しており、両語の混合で生まれた東京の方言。本来の分布範囲は狭い。 余談2：県外では「てぐるま、でんでん、かたくらげ、てんぐるさ、かこぐま、かたくま、へんだらつく」等、色々な呼び名がある。ちなみに静岡の大井川の肩車で渡しの名は「かたくま」らしい。
1671	ふいきん	ふきん。 元禄時代の京阪の言葉。「布巾」は当て字。古く禅家で、お膳掛けを宗語の「ほゆきん(覆盂巾)」と言っていたのが「拭く」と言う気持ちに引かれて訛り、「ふいきん」になった。「ふきん」は第2次の転化。

No.	見出し	説明
1672	ふうがわるい (風が悪い)	体裁(ていさい)が悪い。みっともない。 言い方は「ふーがわりー」。風采が良くない人を「ふうたくれ」と言う。風にたくられたように服が乱れているからか? 言い方は「ふーがわりー」。 【「ふがわるい」、「ほーとくない」参照】 例:そねーな格好じゃ、ふーがわりーよ。 (そんな格好では、みっともないよ。)
1673	ぶーぶー	湯がぬるい。 東地区(笠戸島)で使う。「ぶーぶー」は水や湯の幼児語として、全国的に使われているが、たらいに水を入れて太陽で少し温まった状態などを「ぶーぶー(ちょっと温まった)」と大人も使っていたようだ。 【「ぶんぶう」参照】 例:A;湯はどうかね?(湯加減はどうかね。) B;まだ、ぶーぶーじゃね。(まだ、ぬるいね。)
1674	ぶーをつる (ぶーつる)	拗ねる(すねる)。膨れる(ふくれる)。剥れる(むくれる)。 「ぶりをつる」(阿武)、「ぼらをつる」(柳井)と言う言い方もあるようだ。 【「すくねる」、「はぶてる」、「ぶすけ」、「ぶすける」参照】 例:そねー、ぶーをつっちゃらんと、 こっちにおいでーね。 (そんなに、膨れていないで、 こちらにおいでよ。)
1675	ぶえん (無塩)	鮮魚。活きの良い魚。(魚) 周防大島の伯母は「ぶえん」を使っていたが、周南では聞いていない。しかし、西地区(鹿野)の方言集にあったので収録した。「ぶえん」は塩漬けにしないで良いから「新鮮」の意味で、「塩無し」が「しようなし」に聞こえるところから「ぶえん」と言い換えられた言葉のようだ。 「ぶえん」(これが変化した「ぶいん」、「びえん」と言う所もある)は、岩手、新潟、茨城、愛知、奈良、岡山、島根、香川、高知、大分、長崎、鹿児島と各地で使われている。 また、「ぶえん」を刺身の意味やうまいものの意味に使う所もあるようだ。周防大島の方言集には「新鮮な野菜」のことも「ぶえん」と言うを書いてあった。 【「びた」、「びとびと」参照】
1676	ふがあがる (ふがはる)	①足が棒になる。 ②こむら返り ①は長く歩いて足の筋肉が痛くなって歩けなくなる一歩手前の状態。東地区(笠戸島)で使うが、周南市小畑の方言集にも載っていたので、昔は周南地区全体で使われていたかも? 「ひざがわらう」の次が「ふがあがる」か? 県東部(伊陸)では、「ふがはる」も使う。 ②は東地区(束荷)、県東部(伊陸)で使う。 【「おぼる」、「ひざがわらう」参照】 例:きのー、山に登ったら、 久し振りじゃったけー、ふがあがった。 (昨日、山に登ったら、 久し振りだったから、足が棒になった。)

No.	見出し	説明
1677	ふがええ (符が良い)	運が良い。めぐり合わせが良い。 「ふ(符)」はめぐり合わせ。運。タイミングが良いこと。言い方は「<u>ふ</u>がええ」、「<u>ふ</u>がえー」。悪い時は「<u>ふ</u>がわるい」、「<u>ふ</u>がわりー」と言う。「ふがえー」の「のー」の様に、後に「のー」が付く時は、「えー」の方を強調して言うことが多い。 元々、「ふ(符)」は神仏の護符、守護札のこと。室町時代後期頃から「めぐり合わせ」や「運」、「運命」の意味が加わったようだ。 「ふのええことに合格したいね」と本当は実力で通ったと思っていても、謙遜して言うような場面で使うことあり。 【「まんがええ(間が良い)」、「ふがわるい」参照】 例:《大事故でも怪我がなかったと言う話を聞いて》 そりゃー、ふがえかったのー。 (それは、運が良かったね。)
1678	ふがわるい (符が悪い)	運が悪い。めぐり合わせが悪い。 「ふ(符)」はめぐり合わせ。運。タイミングが悪いこと。言い方は「<u>ふ</u>がわるい」、「<u>ふ</u>がわりー」。良い時は「<u>ふ</u>がええ」、「<u>ふ</u>がえー」。「ふがわりー」の「のー」の様に、後に「のー」が付く時は、「わりー」の方を強調して言うことが多い。 【「まんがわるい(間が悪い)」、詳しくは「ふがええ」参照】 例: ふがわりーことに、 あそこの角で自転車とぶつかったいやー。 (運が悪いことに、 あそこの角で自転車とぶつかってしまったよ。) 余談: 「ふがわりー」と似た言い方に「ふーがわりー」があるが、意味はまったく違う。【「ふうがわるい」参照】
1679	ふく	ふぐ(河豚)。(魚) 「山口では河豚のことを『ふく』と呼び濁点が付かない」と言うが、最近ではみんな「ふぐ」と言っている。「ふく」は元中央語で、「布久」の字を当てていた。砂の表面を吹いて餌を取るから「ふく」、怒ると膨れるから「ふく」との諸説あり。「福」に掛けるのは後追い。 なお、森川さんによると、「ふぐ」になったのは、関東に伝わった時に、関東では鼻濁音を良く使うので、その影響ではないかとのこと。
1680	ふくちゅうがまめ (腹中が忠実)	内臓に問題がない。 例: あの人ふくちゅうがまめじゃけー、ええよねー。 (あの人内臓に問題がないから、良いよね。)
1681	ぶくり	下駄。高下駄。 言い方は「<u>ぶ</u>くり」。「木履(ぼくり)」の訛り。
○ 1682	ふさう (相応う)	似合う。良く合う。 今頃は主に食べるものに使うことが多い。字は「相応う」。元々は服や髪、相性にも使う。「ふさわしい」はやや文語的で硬い感じだが「ふそーちよります(お似合いです)」の言い方はやわらかでやさしい感じがする。 【「そぐう」、「におーちよる」参照】 例: おばいけに酢味噌は、ようふそーちよる。 (さらし鯨に酢味噌は、良く合っている。)

No.	見出し	説明
1683	ぶすけ	よくぶすっとする人。無愛想で不機嫌なことが多い人。 柳井図書館発行の「柳井の方言」によると、防長方言番付の大関格の言葉らしい。 【「すくねる」、「はぶてる」、「ぶーをつる」、「ぶすける」参照】 例：あのぶすけは、どねーかならんのか。 （あのぶすっとして不機嫌そうな人は、どうにかならないのか。）
1684	ぶすける	①すねる。②立腹する。ぶすっとしたさま。 「ぶす」だけなら無愛想、むっつりやのこと。この言葉が「ブス」になっていったか？ 副詞、擬態語の「ぶすっ」が由来。同義語に「はぶてる」があるが、森川さんによると、「ぶすける」は顔の表情や見た感じが強く、「はぶてる」は内面的、心理的要素が強いとのこと。 但し、今は両方の意味で「はぶてる」を使い、「ぶすける」は少し使用頻度が下がっているかな？ 【「すくねる」、「はぶてる」、「ぶーをつる」、「ぶすけ」参照】 例：そねー、ぶすけちよらんとこっちに来(き)いね。 （そんなに、すねずにこっちに来なさいよ。）
1685	ふすべる	煙でいぶす。燻らかす。 【「くぐす」、「ふすぼる」参照】 例：今から蜂の巣をふすべて、蜂の子を取ろーやー。 （今から蜂の巣をいぶして、蜂の子を取ろうよ。） 余談：山形県の米沢では「ふすべる」は「湯通しする」ことらしい。 【「たまげる たまがす たまぐらかす」参照】
1686	ふすぼる	燻る(くすぶる)。 【「ふすべる」参照】 例：この炭はふすぼって困る。 （この炭はくすぶって困る。）
1687	ふせる	①苗を植える。 ②仮植え。 「苗をふせる」で苗床に種をまくこと。
1688	ふたや	棟と棟の間の蓋のような屋根。また、その場所。 「ふたごや」とも言う。
1689	ふたよーさ	二晩。 【「ひとよーさ」、「ようさ」参照】 例：ふたよーさ泊る。(二晩泊る。)
1690	ぶち	①すごく。とても。 [②鞭の音便。③淵。④まだら(斑)。]《②③④は標準語。》 ①が山口の方言。詳しくは番外の『「ぶち」の付録』に記述あり。 【「えーと」、「ごっぽう」、「さで」、「じょーに」、「ちち」、「つち」、「とり」、「ばり」、番外の『「ぶち」の付録』参照】 例：ぶち、おもしろかった。 （すごくおもしろかった。） 余談：①の意味の「ぶち」について。文法的に「ぶち」は原型、「ぶり」は比較級、神戸弁の「ばり」は最上級と言う説あり。「ぶり」は「ぶち」と「ばり」の混合との説もある。

No.	見出し	説明
1691	ぶと (ぶよ)	①ブユ(蚋)。(虫) ②目の前に群がる虫。(虫) 関西では「ブト」、関東では「ブヨ」と呼ばれる虫は、和名は「ブユ(蚋)」。3～5mmのハエ目ブユ科の「アシマダラブユ」や「キアシオオブユ」などの総称。山口では「ぶと」は方言で、「ぶよ」が正式名称と思っている人も多い。また、目の前を群れになって飛び回る虫も「ぶと」とか「ぶよ」とか言う。目の前を飛ぶのは「ぶよ」、刺すのは「ぶと」と区別している人もいる。 実は「ブト」は目にも寄るが、足などを刺す(山口弁では「かぶる」)ことが多い。刺されるとかなり痛痒くて熱を持つ。最初はかなりきついが、何度も刺されると、免疫ができるのか、かゆいだけぐらいになるようだ。(ただし、人によって症状には違いがあるので、刺されないようにするのが肝心。) 【「めせせり」、「めつつき」参照】 余談1:「刺す」と書いたが、ブユは皮膚を噛み切って吸血するので、山口弁の「かぶる」の方が適切な表現かも? 余談2:かぶられないためには、皮膚を出さないように手首や足首をカバーするのが一番の予防だが、かぶられたら、すぐに血を抜くのが良いらしい。注射器のような器具も売っているようだ。
☆ 1692	ふとい (太い)	①満腹のこと。 「腹がふとい」は「満腹状態」、「腹がふとる」は「満腹になる」こと。一時的に「満腹」になった時に使うもので、恒常的に太いのは「腹が出た」かな? ②お金が掛かること。 ③体が大きいこと。 注:国語辞書にある「太い柱」「太い眉」「太い声」「太いやつ」「肝が太い」「太っている」の使い方以外の意味を記入。また、食後に、女性に対して「お腹は太った?」と聞いてはダメ。最近では勘違いされる恐れ大。 【「いかい」参照】 例:もう腹が太いナー、料理はいらん。 (もう腹が満腹なので、料理はいりません。) 例:《お金が沢山掛かる見積書を見て》 えらい、太いの一。(とても、金額が高いね。) 例:《大きくなった子を見て》 えらい、ふとうなったの一。(とても、大きくなったね。)
1693	ぶとりあい (不取合) (ぶとりやい)	サービスが悪い。構わない。 人に対して、お構い(サービス)をしないこと。 例:いっそ、ぶとりあいでも済みません。 (何のお構いもしないで済みません。)
1694	ふみあげ	踏み台。 普通に「踏み台」も使う。最近はこちらが多いか?
1695	ふやぐ	①乾く。 【「いらく」、「ひやぐ」、「ひる(干)」参照】 ②ご飯が炊けたこと。 物の水気が無くなること。東地区では①の意味では「いらく」を使っていた。 ②は水が引いて炊きあがるのが乾いたと見なしての表現。 西地区で使用。 例:汗がふやいだ。(汗が乾いた。) 例:ご飯がふやげた。(ご飯が炊けた。)

No.	見出し	説明
1696	ぶらんかす (ぶらまかす)	ほったらかしにする。顧みない。放置する。 「ぶらぶら」や「ぶらりぶらり」の「ぶら」+「まかす」で「ぶらまかす」。「ま」が撥音化して、「ぶらんかす」。宇部では「ぶらかます」になるようだ。「さんざか(山茶花)」が「さざんか」になったのと同じく、「ぶらまかす」が「ぶらかます」になったとのこと。 【「てぶらかす」、「ほーからがす」参照】 例：ぶらんかしやーええちゅーもんじゃーないでよ。 (放置すれば、良いと言うものではないよ。) 例：そねーなもなー、ぶらまかしちよきやーええいや。 (そんなものは、ほったらかしにして置けばいいよ。) 例：<u>おまえー</u>は、またぶらんかあーちよるじゃあなあーか。 (お前は、またほったらかしにしとるじゃないか。) 注：「おまえー」の発音については、「らちやーあかん」の欄参照のこと。
1697	ふるーなる	古くなる。 反対は「あたらしゅーなる(新しくなる)」。 例：<u>ふるー</u>なったものーいつまでも取っちょくんじゃーないよ。 (古くなったものをいつまでも取っておくのではないよ。) 注：形容詞の連用形活用語尾「ク」がウ音便化する。「ウク」は「ウー」と発音される。よって、「古く(フルク)」は「フルー」、「暑く、熱く、厚く(アツク)」は「アツー」、「寒く(サムク)」は「サムー」、「薄く(ウスク)」は「ウスー」となる。 【「いとーない」、「おーきゅーなる」、「おそーなる」参照】
1698	ふるしき (風呂敷)	風呂敷。 例：ふるしきゅー、持って行きんさいよ。 (風呂敷を、持って行きなさいよ。)
1699	ふるつく (ほろつく)	フクロウ。(鳥) 鳴き声を「ふーふー、ふるつく、ふーふー」と聞いたので、「ふるつく」。鳴き声を「ほーほー、ほろつくとーこい」と聞くとところでは「ほろつく」。「ボロ着て奉公」と聞くとところでは、「ぼろきち」、「ぼろきちほうこう」と言うところもあるようだ。【「ててっぽ」参照】
1700	ぶるとっぴん	大急ぎ。 宇部、小野田地区で使うようだが、面白い表現なので、収録した。年配の方は「知らない」だったので、新しい方言のようだ。 ただし、県東部の周防大島の方言集に「とっぴん(急いで)」とあったので、「とっぴん」は県内で普通に使われていた言葉かも？ それに強調する意味？ の「ぶる」が付いたものかも？ 例：急に雨が降って来たので、ぶるとっぴんで帰って来た。 (急に雨が降って来たので、超特急で帰って来た。)
1701	ふれげな	おかしな。変な。 昔、聞いたことがあると言う程度で、使ったことはない。おかずを分ける時に、「こりやー、<u>ふれげ</u>なもんじゃが、たべておみんされ(これはおかしなものだが、食べて見て下さい)」のように謙遜して言う時に使っていた。県東部の言い方。 例：ふれげな天気じゃ。(変な天気だ。) 例：ふれげなことーいいよる。 (おかしなことを言っている。)

No.	見出し	説明
1702	ぶんぶう (ぶんぶー) (ぶんぶ) (ぶーぶー)	①水。(幼児語) ②お風呂。(幼児語) 「ぶーぶー」は全国的に言われている言葉。なお、「ぶぶ」、「ぶうぶ」とも言う。 【「ちゃぶちゃぶ」、「ぶーぶー」、番外の「幼児語」参照】 例:のどが渴いたじゃろー。ぶんぶうをもらいんさい。 (のどが渴いただろう。水をもらいなさい。) 例:おじいちゃんと一緒にぶんぶに入るかね。 (おじいちゃんと一緒にお風呂に入るかね。)
1703	～へ	～に。 体言に付いて、動作・作用の方向、到着点、相手を示す格助詞は、山口県では普通「に」よりも「へ」をよく用いる。ただし殆どの人に「へ」を使っているという認識があまりないのは、[e]の音が前接部の母音と融合してしまっているからである。【「～い(～い)」参照】 ①母音「ア」+助詞「エ」で「アエー」と発音。 「オーサカエーイク(大阪へ行く)」「シタエーオリル(下へ降りる)」 ②母音「イ」+助詞「エ」で「イー」と発音。 「ハギーイク(萩へ行く)」「コッチーコイ(こっちへ来い)」 ③母音「ウ」+助詞「エ」で「ウィー」と発音。 ただし、前に子音を伴う「ウ」は脱落することがある。 「ホーフィークル(防府へ来る)」「クダマツイーイク(下松へ行く)」 ④母音「エ」+助詞「エ」で「エー」と発音。 「シマネーイク(島根へ行く)」「フネーノル(船へ乗る)」 ⑤子音内の母音「オ」+助詞「エ」で「エー」または「オエー」と発音。 「ドケーイクカ、ドコエーイクカ(どこへ行くか)」 「ソテーデル、ソエーデル(外へ出る)」 ⑥母音「オ」+助詞「エ」で「オエー」と発音。 「アエーオエーイコー(秋穂へ行こう)」 注:秋穂(あいお)の言い方は、連母音「アイ」が「アエー」になっている。
1704	へー	塀。壁。 垂直に立っているものは「へー」。連母音「エイ」は「エー」と発音される。よって、「へい」は「へー」になる。 【「えーが」、「せー」参照】 例:この板をへーに立て掛けちよけ。 (この板を塀に立て掛けておけ。) 例:この板をへーに立て掛けちよけ。 (この板を壁に立て掛けておけ。)
1705	へーから (へえから)	それから。 「へーじゃから」は「それだから」。「へてから」とも言う。山口弁で「する」を「せる」と言う。それで「せてから」ができ、サ行とハ行の音変換が起こり、「へてから」。それから「て」の子音部分が脱落して「へーから」になった。 【「へたら」、「ほいから」、「ほれから」参照】 例:へーから、のんた。 (それからね、あなた。) 例:へーから、どねーせたんかね。 (それから、どのようにしたのかね。)

No.	見出し	説明
1706	へえこら へえこらする (へーこら へーこらする)	①へいにらすること。へつらい機嫌を取る。こぺこぺすること。 ②息を切らすこと。 【「ひーこら はーこら」参照】 例：あいつは、いつでも、へえこらへえこらしちよるから、すかんのんちゃー。 (あいつは、いつも、こぺこぺしているから、嫌いだ。) 例：坂の途中じゃのに、はあ、へえこらへえこらしちよるでー。 (坂の途中なのに、もう、息を切らしているよ。)
1707	へーたらながい (へたらながい) (へたれながい)	いたずらに長い。冗長なこと。 「へたる(疲れる)ほど長い」と言うことから、「へたれながい」や「へたらながい」になり、「へたら(そうしたら)」を「へーたら」とも言うので、それと混同した「へーたらながい」になったと思われる。「無駄が多く、だらだらした話」は「へーたらながい話」と言うように使う。「へーたらながい」は東地区(下松)で使うが、防府では「へたれながえー」、須佐では「へたりながい」になる。 【「へたら」参照】
1708	へーでも	それでも。 「せーでも」、「ほいでも」も同様に使う。【「せーでも」、「ほいでも」参照】 例：《話を聞いてちょっと反対の時》 へーでも、わしなら、こーするでー。(それでも、私なら、こうするよ。)
1709	～へーでもええ	～しなくても良い。 【「～(せ)んでも(～(せ)いでも)(～(せ)ーでも)」参照】 例：そねーなこたー、へーでもええでー。 (そんなとこは、しなくても良いよ。)
1710	へえなら (へーなら)	①それなら。②さようなら。 ②の意味では今はあまり使わないが、小さい時、「ほいじゃー、へーなら(それでは、さようなら)」のように、「さようなら」の意味で使っていた。 【「さいなら」参照】 例：《賛意を表して》 へーなら、こうしましょー。(それなら、こうしましょー。)
○ 1711	へぐ	剥(は)ぐ。剥(む)く。 剥(む)きやすいものは「むぐ」。道具が必要とか、簡単に剥(む)けないものは「へぐ」。漢字は「剥ぐ、折ぐ」。杉や檜などの材木を薄くはいだ板は「へいだ板」なので「へぎいた(折ぎ板)」と言う。【「へげる」、「むぐ」参照】 例：皮をへぐ。(皮を剥ぐ。) 例：《夏ミカンを見ながら》 皮をへーで食べーね。(皮をむいて食べなさいよ。) 注：「へぐ」は最近使われないので、方言と思っていたが、森川さんによると、現在、「へぐ」、「へがす」は標準語として、「へげる」は方言として位置付けられているようだ。
1712	べくさ (べそ)	少量のこと。 「ちーとべくさ(たったこれだけ)」、「これべくさ(これだけ)」、「それべくさ(それだけ)」の様に少ない時に言う。これは西地区。 東地区は「ちよいとべそ、ちよっとべそ(少しだけ)」。 KRYテレビの山口弁コーナーでは「ちーとべくそ」を使っていた。「べくさ」の元は「べくそ」。その意味については「ちいとべくそ」の欄を参照のこと。 【「それべくさ」、「ちいと」、「ちいとべくそ」参照】

No.	見出し	説明
1713	ぺけ	バツ(×)。 「〇×(マルバツ)」の「×(バツ)」の意味で、関西系の方言。東京では「ビリ」の意味になる。語源は中国系の「不可(プケー)」、マレー語の「pergi(あっちへ行け)」などの諸説あるが未詳。
1714	へげる	剥(は)げる。剥(む)ける。 【「へぐ」、「むげる」参照】 例:《こすったら》 指の皮がへげた。(指の皮が剥けた。)《「むげた」とも言う。》 例:《海水浴に行って、背中がよく焦げた(焼けた)数日後に》 せなの皮がへげたいや。(背中中の皮がむけたよ。)
1715	へこかえ	親友。仲良し。 「へこ(禪)」は「ふんどし」のこと。禪を交換する仲の意で男同士の場合に使う。KRYラジオで紹介されていたが、我々の年代は使ったことはない。 【「ちんぐー」参照】
1716	へこさか	逆。本末転倒。逆さま。 「へこ」は「禪(ふんどし)」のことで「へこ」が逆になるから「逆さま」と言う説と、「へこ」は「でこぼこ」の「ぼこ」と同義で「へこみ」の意。その「へこ」に「さかさま」の「さか(逆)」を添えて「へこさか」と言ったと言う二つの説がある。 前の説の方が素直かな?【「さかし」参照】 例:弱いとおもて、なめて掛かったら、 へこさかにやられてしも一たいや。 (弱いと思って、なめて掛かったら、逆にやられてしまったよ。) 例:そりゃー順番がへこさかじゃーないかね。 (それは、順番が逆さまでは無いかね。)
1717	べしおる	「圧(へ)し折る」ことの強調形。 木を思いっきり折る時などに使う。 例:そだをべしおって、風呂にくべる。 (そだをバキッと折って、風呂で燃やした。)
1718	へじゃー (そいじゃー)	それでは。それじゃー。 【「はいじゃー」参照】 例:へじゃー、行きますか。(それでは、行きましょうか。)
1719	へじゃが	でも。しかし。 例:試験を受けーちゅーて言われちよるんちゃー。 へじゃが、ありゃーむつかしいんちゃー。 (試験を受けろと言われているんだ。 しかし、あれは難しいんだ。) 余談:「受けーちゅーて」は「受けろと言って」の意味になる。よって、「受けーちゅーて言われた」なら、「受けろと言って言われた」となるが、「受けろと言うことを言われた」と解釈したらよい。意識で「受けろと言われた」になる。この言い方はよくする。 【「～ちゅう」、「へじゃけど」参照】
1720	へしゃぐ	潰す。 「ひしゃぐ」、「みしゃぐ」、「めしゃぐ」とも言う。 【「つやす」、「ひしゃぐ」、「みしゃぐ」、「めしゃぐ」参照】

No.	見出し	説明
1721	へじゃけど	でも。けれども。しかし。 【「へじゃが」参照】 例：試験を受けーちゅわれちよるんちゃー。 へじゃけど、忙しいんちゃー。 (試験を受けると言われているんだ。でも、忙しいのだ。)
1722	へしゃげる	潰れる。 「ひしゃげる」、「みしゃげる」、「めしゃげる」とも言う。 【「ひしゃげる」、「みしゃげる」、「めしゃげる」参照】 例：踏んだけー、へしゃげたじゃあないか。 (踏んだから、潰れたではないか。)
1723	へたら (へーたら)	それなら。そうしたら。 「してあら」が「せたら」になり、「へたら」になった。「してあら」は「すんだら」の意。「へーたら」とも言う。【「へーから」、「へーたらながい」、「へてから」、「ほいから」、「ほったら」、「ほんだら」参照】 例：へたら、どうするんねー。(そうしたら、どうするのか。)
1724	へち	①ボタン。特に小さいボタン。②足袋の絆(こはぜ)。
1725	へっぱったー こっぱったー (へっぱたー つっぱたー)	①あれをしたこれをした。 ②言い訳をすること。 「へっぱたー つっぱたー」と言うこともある。 例：へっぱったー こっぱったー、ゆうんじゃない。 (色々と、言い訳をするんじゃない。)
○ 1726	へつる (剥つる)	①削り取る。減らす。 ②かすり取る。 「剥(へ)ずる」の古語。「へびる」とも言う。【「けびる」、「へびる」参照】 例：小遣いを、へつられたいやー。(小遣いを、減らされたよー。)
1727	へてから	それから。そして。 「せてから」が「へてから」になった。サ行音がハ行音に変わる例。 【「へーから」、「へたら」、「ほいから」、「ほいで」参照】 例：へてから、どうしたんか？(それから、どうしたのか?)
○ 1728	へでもない (屁でもない) (へともなー) (へもそうろう)	大丈夫。何ともない。へっちゃら。問題にならない。 「へともなあ」、「へともない」でその状態を示す。「へもそうろう(屁も候)」とも言う。「へもちょうちん」と言う言い方もあったようだ。 例：今日の試験は、へでもなかった。 (今日の試験は、訳は無かった。) 例：《重たいものを抱えている子供に》 A; 重たーのに大変じゃのー。(重たいのに大変だね。) B; このくらーへともな一つちゃ。(この位は何ともないよ。)
1729	へどろ もどろ	しどろ もどろ。言い淀む様。 言葉がすらすらと出ないで口ごもる状態。 【番外の「昔の言葉、行事？」の「しりくちでものをいう」参照】 例：質問されて、へどろ もどろじゃった。 (質問されたが、まともに喋れなかった。)
1730	へなげな	つまらぬ。変な。 「へな」が「つまらん、拙(つたな)い」。

No.	見出し	説明
1731	へぬるい	仕事が遅いこと。温(ぬる)い。手ぬるい。のろいこと。 【「ぬるい」参照】 例：へぬるいことーしちよっちゃー、らちゃーあかんど。 (手ぬるいことをしていたら、埒は明かないぞ。)
1732	へねきる	①捻(ひね)ること。 ②抓(つね)ることにも使う。 【「ひねきる」参照】 例：俳句を一句へねきった。(俳句を一句ひねった。)
1733	へねくれる	ひねくれる。 捻(ひね)られている人は「へねくれもん」。 例：あいつは、へねくれちよるから、うんちゅーまーでー。 (あいつは、捻(ひね)られているから、うんと言わないだろうよ。) 例：あいつは、へねくれもんじゃからのー。 (あいつは、ひねくれ者だからなあ。)
1734	へのこの (へのごの)	四の五の。つべこべ。 あれこれと面倒なことを言い立てるさま。「へのごの」とも言う。 例：へのこの言わずにさっさとやれーやあ。 (四の五の言わずにさっさとやれ。)
○ 1735	へばる	くたびれる。疲れ果てる。 例：今日は外の仕事ばかりで、へばったいやあ。 (今日は外の仕事ばかりで、ばてたよ。)
1736	へびる (減びる)	剥(へず)る。削り取る。減ずる。 お金や物を少し減じる時に使う。【「へつる」、「けびる」参照】 例：お小遣いをへびられた。(お小遣いを減らされた。)
1737	へむつかしー	小難しい(こむずかしい)。 例：へむつかしーことばっかーゆーんじゃけー、やれんにーね。 (小難しいことばかり言うのだから、たまらないよ。)
1738	へや	①離れ。 母屋の横にある長屋や納屋、借家のことも言った。 ②分家。③隠居部屋。 隠居のことを「おへやさま」と言うところもある。 「隔てた家」の意味の「へだてや」が「へや」になったようだ。字は「隔家」。 各地の方言集に①～③の意味が書いてあるが、我々の年代は①の意味でしか使っていない。
1739	へらべったい	平べったい。平らであること。 【「ひらべたい」参照】 例：あの丘の上はへらべっとーなっちよるよ。 (あの丘の上は平べったくなっているよ。)
○ 1740	へり (縁)	①[端(はし)。ふち。きわ。] ②側(そば)。横。脇。 ①「物のはし。川や穴のふち。きわ。」これが国語辞書の解釈。これに、②「ねき(側、横、脇のこと)」の意味も含んで使う。②の意味で使う時は、山口弁。【「ねき」、「ねと」、「まへり」参照】 例：わしのへりに、こいーやあ。(私の横に、おいで。)

No.	見出し	説明
1741	へる	①する。 「せる」の訛り。周防地域で良く言う。 ②「放(ひ)る」の転。 反対の「しない」は「へん」。「そんなことはへん(そんなことはしない)」のように使う。【「せる」、「ひる(放)」参照】 例：そのこたあー、へちよう。 (そのことは、しておこう。) 例：できやーへんにーや。(出来はしないよ。) 例：今、こーちょかんにやー損へるど。 (今、買っておかないと損するぞ。) 例：屁をへったのは誰じゃ。 (屁を放ったのは誰だ。)
1742	へんくう	へそ曲がりな人のこと。 「偏屈」から変化か? 「へんくうな人」を「へんくうたれ」とも言う。ちょっと、ニュアンスは違うかも知れないが、宇部や小野田、下関の方では「げってん(頑固、職人氣質、風変りな人)」と言うらしい。「利休さん」を作っている吹上堂のお菓子の名前になっている。
1743	へんじょー こんごー	文句が多い。くどくどと文句を言う。あれこれ文句を言う。 真言宗の念仏「南無大師、遍照金剛」から来た言葉。念仏は三回唱えるので、「遍照金剛」を三回繰り返すことから転じた。「へんじょーこんじょー」と言う人もいようだ。 【「ちゃぶちゃぶ言うな」、「やーやー言う」参照】 例：あいつは、へんじょーこんごーがおいーのいやー。 (あいつは、文句が多いやつなんだ。) 例：やかましいー、へんじょーこんごーゆーな。 (うるさい、あれこれ文句を言うな。)
1744	べんべ	①血。(幼児語) ②きれいな着物。(幼児語) ①血が出た時は「べんべえがでた」。②着物を「べべ」と言うのは全国的に言われている。「全国幼児語辞典」には、「『べべ』の語源は『紅(べに)』と考えられ、『美しい、きれい』の意味でも用いられている。『べんべ』は『べべ』の周辺域に分布しているので、『紅紅』→『べんべ』→『べべ』と変化したと考えられる。」とある。 【「あっぱい」、「あば」、番外の「幼児語」参照】
1745	～ほ	「～の」の意味。 周南では使わないが、山口弁の「～そ」「～ほ」として、良く知られているので、収録した。「～ほ」と言う地域は旧吉敷郡で、旧佐波郡が「～そ」。境界線は台道辺りのようだ。 【詳しくは「そ」、「～そ(～ほ)」参照】
1746	ほいから (ほいでから) (へーから)	それから。 「ほいでから」、「へーから」とも言う。「ほいたら」、「ほたら」、「ほーたら」は「それなら、そうしたら」の意味。 【「へーから(へえから)」、「へたら」、「ほれから」参照】 例：《「何をしたの?」と聞かれての答え》 お菓子を食べてねー、ほいから、勉強したんよ。 (お菓子を食べて、それから、勉強したのよ。)

No.	見出し	説明
1747	ほいじゃー (ほんじゃー)	それでは。それじゃー。 「ほいじゃけど」なら、「そうだけど」「でも」「けれども」の意味になる。「ほいじゃー、またね(それでは、またね)」は、分かれる時に使う。また、「ほいじゃー」だけで「さようなら」の意味にも使う。 【「へじゃー」、「へじゃけど」参照】 例：ほいじゃー、そうしんさい。 (それでは、そうしなさい。) 例：ほいじゃけど、どうしょーかーねー。 (そうだけど、どうしようかね。)
1748	ほいじゃが のおー (ほじゃがのー) (ほいじゃが)	しかし。しかしね。だけどねー。(接続詞) 「そう言うが、そう簡単にはいかんよ」の意味が込められている。 「だけどねー」の感じ。「ほいじゃが(しかし)」だけでも使う。 例：A；おまえはあいつが好きなんじゃろおー。 好きちゅうていえーや。 (お前はあいつが好きなんだろう。 好きといたらどうだ。) B；そりゃあー好きじゃがのー。 ほいじゃがのおー、いえんちゃーや。 (それは好きだよ。しかし、簡単には言えないよ。)
1749	ほいじゃけー (そいじゃけー)	それだから。 「そいじゃけー」も使う。「それだから」の「そ」は「しち(七)」が「ひち」になるのと同様に、サ行音がハ行音化するので「ほ」に、「れ」はイ音便化して「い」に、「だ」は「じゃ」に、「から」は「けー」に、すべてが山口弁化するので、「それだから」が「ほいじゃけー」になる。さらに、「い」が省略されて、「ほじゃけー」にもなる。 【「～けえ」、「～じゃ」、「じゃけえ」、「ひちや」、「ほじゃから」参照】 例：ほいじゃけー、ゆーたろうがー。 (それだから、言っただろうが。)
1750	ほいで (ほんで)	それから。そして。最後に。 「ほんで」とも言う。サ行→ハ行に子音交替した例。 【「へーから」、「へたら」、「へてから」、「ほいから」、「ほれから」参照】 例：勉強をして、ほいであそんだんよ。 (勉強をして、それから遊んだよ。)
1751	ほいでも (ほんでも)	それでも。 「せーでも」、「へーでも」、「ほんでも」も同様に使う。 【「せーでも」、「へーでも」参照】 例：《話を聞いて、ちょっと反対の時》 ほいでも、うちなら、こーするよ。 (それでも、私なら、こうするよ。)
○ 1752	ほいと (ほいとー)	乞食。 禅宗用語の「陪堂(ほいとう)」が語源。陪堂は客僧が外堂で食事(陪食)を受ける所。転じて、乞食僧。再転して、乞食。一説に「欲人(ほしひと)」の転で「ほいと」もあり。「ほいとーこんじょう(根性)」と言うと、「意地汚い」意味になる。 【番外の「昔の言葉、行事?」の「ほうとうぶれる」参照】

No.	見出し	説明
1753	ほいなら (ほんなら)	それなら。 【「そったら」、「ほったら」、「んなら」参照】 例：《忙しいと言う人に》 ほいなら、次の時にしましょーかね。 (それなら、次の時にしましょーかね。)
1754	ぼんけい (ぼーけー)	ぼんやり。空とぼけ。 言い方は「ぼーけー」。 【「きょぼり きょぼり」、「とぼけ」、「ぼけたれ」参照】
1755	ほうげちない (法下知らない)	無理をすること。口に余るほどほおぼる。力に余ることをする。沢山食べる。 例：《口いっぱい頬張った子を見て》 そねーに、ほうげちないことー、するんじゃないよ。 (そんなに、一度に頬張るものじゃないよ。)
1756	ぼうずり (棒摺り)	デッキブラシ。 山口弁では『魔女の宅急便』のキキは、『ぼうずり』を箒の代わりに使った」となる？
1757	ほうそら (ほうそろ)	何となく。 西地区で昔、使用。周防大島の方言集には「ほうそら、ほうそろ」と載っていたので、昔は周南全域でも言っていたのかも知れないが、今ではほとんど使われなくなった。 例：冷房にあたって、ほうそら喉が痛い。 (冷房にあたって、何となく喉が痛い。) 例：ほうそら、寒い。 (何となく、うすら寒い。)
1758	ほうたん (ほーたん)	「頬(ほお・ほほ)」のこと。 【「ほおべた」参照】
1759	ほうむし (ほう) (ほうじ)	カメムシ。(虫) 県内の大部分は「ほうむし」か「ほう」と呼んでいるが、萩や美祢あたりでは「ほうじ」と呼んでいるらしい。広島、島根、岡山では「はっとうじ」、「はとうじ」。これは岡山の山間部にある「八塔寺」由来の名前らしい。九州では「ふ」、「ふー」、「ふーむし」。今は、どこも、「カメムシ」が主流だろうが、昔、何と呼んでいたかで、出身地が分かるかも？
1760	ほーからがす (ほーたらがす) (ほったらがす)	放置する。ほったらがす。放ってそのままにしておくこと。 「ほーからがす」、「ほーたらがす」、「ほったらがす」、「ほーくらがす」とも言う。自分の意志があって、「ほったらがしにしておく」時は、「ほーたらがしにしちよく」、「ほーかつちよく」、「 <u>ほ</u> かつちよく」と言う。なお、「かす」は他動的な意味を強調する接尾語。 【「てぶらかす」、「ぶらんかす」、「ほーかる」、「ほーたる」参照】 例：また、ほーからがしにしちよる。 (また、ほったらがしにしている。) 例：《子供だけにしていた親に対して》 子供をほーたらがしにしちよいて、どこい行っちゃったんかね。 (子供を放りっぱなしにしておいて、どこに行っていたのかね。)

No.	見出し	説明
1761	ほーかる (ほーくる)	①投げる。 ②捨てる。投げ捨てる。仕事を放り出す。 ③放置する。 古代は「はふる(放る)」、「はふらかす(放らかす)」と言った。この「はふ」が「ほー」に変わって、「ほーる(放る)」。「かる」「くる」は「来る」で、放る状態を示す。「ほーたる」とも言う。「ほーかる」「ほーたる」は長音にしないで、「ほかる」「ほたる」の言い方をする時もある。 関西系の方言で「捨てる」を意味する「ほかす(放す)」は「はふらかす」→「ほほかす」→「ほーかす」→「ほかす」となったようなので、もう少し時代が進むと山口弁として「ほかる」「ほたる」が定着するか? それとも、標準語の「放る」に駆逐されるか? 【「てぶらかす」、「とりてぶる」、「とんちゃん」、「ほーからがす」、「ほーくりなげる」、「ほーたる」参照】 例:物をほーかるんじゃない。(物を投げるな。)(放るな。) 例:仕事をほーかって、どこにいつちよったんかねー。 (仕事を放って、どこに行っていたのかね。)
1762	ほーくりなげる (ほーかり なげる) (ほーたり なげる)	①投げる。 ②捨てる。投げ捨てる。仕事を放り出す。 ③放置する。 「ほーかる」、「ほーたる」とほとんど同義に使う。ただし、投げることが強調されている。【「ほーかる」、「ほーたる」参照】 例:そねーに、物をほーくり投げるな。 (そんなに、物を投げ捨てるな。) 例:玄関に鞆をほーたり投げて、 どこに遊びに行っちゃったんかね。 (玄関に鞆を放り投げて、どこに遊びに行っていたのかね。)
1763	ほーくりぼーず	春蘭。(植物) 西地区(湯野)で言う。 「防長動植物方言考」の中から、近辺での呼び方を列举すると、「おひめさま」(富田)、「じーばー」(下松、夜市、米川)、「はこねぼーず」(徳山、勝間)、「はっかりぼーず」(光)、「ほーくり」(下松)、「やまでらぼーさん」(戸田)、「やまらん」(光)、「らん」(下松)。各所で色々な呼び名があることが分かるが、この内、どれだけの呼び名が残っているかは不明。
1764	ぼーじれちよる (ぼじれちよる)	ぼーとしている。ぼんやりしている。ぼけている。 「ぼーじれちよる」または、「ぼじれちよる」の言い方をする。「寝とぼける」ことを「ねぼじれる」と言う。また、県内には「ぼじれる」を「疲れてぐったりする」や「天気が悪い」意味に使うところもあるようだ。 例:《若い人がピントのずれたことを行った時》 おまえ、ぼーじれちよるんじゃないか。 (お前、ぼけているのではないか。) 例:ドーかーぼーじれてから。 (どうかね、ぼーとしてから。) 例:ぼじれちやいけんよ。 (ぼけてはダメだよ。)
1765	ほーせんぼう	カマツカ(鎌柄)。(魚) 砂地にへばりつくように泳いでいる川魚。

No.	見出し	説明
1772	ぼーぶら (ぼーぼら)	かぼちゃ。南瓜。(野菜) 「ぼーぼら」とも言う。「なんきん(南瓜)」は西日本の方言なので、県内には、昔は「なんきん」「とーぶら」「ぼーぶら」「ぼーぼら」等の呼び名があった。県東部は「なんきん」、「とーぶら」、「ぼーぶら」、県西部は「なんきん」、「ぼーぶら」、「ぼーぼら」混在のようだ。 「ぼーぶら」「ぼーぼら」はポルトガル語の「瓜」を意味する「アボボラ」に由来する呼び方。1800年頃の標準語は「ぼーぶら」で、「かぼちゃぼーぶら」や「なんきんぼーぶら」のような言い方をしていたが、下略されて「かぼちゃ」、「なんきん」になったそう。 なお、「かぼちゃ」は「カンボジア産の瓜」の意の「カンボジア アボボラ(Cambodia abobora)」が前述のように省略されて、「かぼちゃ」になったようだ。 ちなみに、「かぼちゃ」は今は標準語だが、元は東日本の方言。 【「とーぶら」、番外の「野菜の呼び名」参照】
○ 1773	ほおべた (頬辺)	頬(ほお・ほほ)。 言い方は「ほおべた」。「ほうたん」、「ほおげた(頬桁)」、「ほおびんちゃく」とも言う。「ほっぺた」は「ほおべた」の訛りで俗語、「ほっぺ」は全国区の幼児語。ちなみに舌は「べろ」、歯茎は「はぶ」。 【「ほうたん」、「ほおびんちゃく」参照】 余談：上記以外に、岩国では「ほーべんづら」、周防大島では「ほおたぶ」、阿知須や須佐では「ほーがまち」、長門では「ほーめんぼう」等の言い方がある。
1774	ほーほーゆー (ほーほー言う)	①子供をちやほやする。②音(ね)を上げる。悲鳴を上げる。 感情を大袈裟(おおげさ)に出すことに使う。 例：まごーほーほーゆーてかわいがりよったでー。 (孫を相好を崩して可愛がっていたよ。) 例：ほーほーゆーて逃げて行ったでー。 (悲鳴を上げて逃げて行ったよ。)
1775	ほーよ	そうよ。 「ほーよ、ほーよ」と続けて言う時は「そうだ、そうだ」と同じで同意を示す。 例：ほーよねー、どうしようか。 (そうよねー、どうしようか。)
1776	ほーりゃ	それ見よ。 「ほらみー」の「みー」を省略した言い方か？ 【「ほらみー」、「みー」参照】 例：ほーりゃ、思い知ったか。 (それ見よ、思い知ったか。)
1777	ほか (外)	そと(外)。家の前の庭。 我々は使っていないが、KRYラジオで山口弁として紹介されていたので、収録した。言い方は「ほか」。「ほかで遊べ(外で遊べ)」のように使う。昔は「そと(外)」のことを「ほか」と言っていたが、江戸時代から「そと」と言うようになったようだ。「ほか」で、須佐の方言集には「外、屋外」、下関は「前の庭、玄関の前」、小野田は「糶干場」とあった。福栄は「かど」の欄に「『かどにわ、ほか』とも」とあった。他の地域の方言集にはなかったので、長州で残っている方言か？ 【「かいど」、「かど」参照】

No.	見出し	説明
1778	ほがいに (ほがな) (ほがあな)	そんなに。沢山。 字は「法外」。 例：ほがいにゆうても。(そんなに言っても。) 例：ほがなことをゆうても。(そんなことを言っても。) 例：ほがいにあるんかー。(そんなに沢山あるのか。)
1779	ほがす	①欠かす。②穴を開ける。 ①の意味で使うことが多い。【「ほぐ」、「ほげ」、「ほげる」参照】 例：タガネの先をほがしてしもうた。 (タガネの先を欠かしてしまった。)
1780	ほぎとる (ほぎ取る)	削り取る。はぎ取る。大量に取る。 力まかせに取る。物に法外な値段を付けて売り付けるのも、悪徳高利貸が借金を取り立てるのも「ほぎ取る」。言い方は「 <u>ほぎとる</u> 」。なお、取られる方は「ほぎ取られた」。 例：これがくつついちよったから、ほぎ取ったいや。 (これがくつついていたから、カー杯はぎ取ったよ。) 例：あのみしゃー高いたー聞いちよったが、 あねーたかーたー思わんかった。かによーほぎ取られたいや。 (あの店は高いとは聞いていたが、 あんなに高いとは思わなかった。法外なお金を取られたよ。)
1781	ほぐ	①欠かす。②穴を開ける。 「ほぐ」の過去形は「ほげた」。【「ほがす」、「ほげ」、「ほげる」参照】 例：歯がほげた。 (歯が欠けた。) 注：②の意味もあるらしいがあまり使っていない。
1782	ぼくつとー	棒片。太い棒。 「ほく」が枯れた木。これに「刀」が付いたのか、素直に「木刀」のことか？木の根っこを「かくつとー」と言うので、「とー」に別の意味があるのか？現状では不明。
1783	ほぐろ	ほくろ(黒子)。 言い方は「 <u>ほぐろ</u> 」。 余談：「ほくろ」の語源は「ははくそ(母糞)」。「ははくそ」→「ははくろ」→「はうくろ」→「ほーくろ」→「ほくろ」となった。
1784	ほけ	湯気。 周南地区は「ほけ」と「ゆげ」が混在している。
1785	ほげ	破片。 【「ほがす」、「ほぐ」、「ほげる」、「めげ」参照】
1786	ほけたれ (ほけさく) (ほけっとう)	ぼんやり者。うつけもの(空け者)。 反応の鈍いほけている人を嘲って(あざけて)言う言葉。ただし、「日葡辞書」(1604年)には「ほけた人」のことを「気持ちの穏やかな気立てのよい人」とあるので、昔は見守る感じのある言葉だったことが分かる。最近あまり言わない。「ばかたれ」に統一されつつあるのかも。 【「げどされ」、「とほけ」、「ばーぷー」、「ぼうけい」、番外の「方言周圏論」参照】

No.	見出し	説明
1787	ほげる	①欠ける。②穴が開く。 【「ほがす」、「ほぐ」参照】 例：この茶碗は、ほげちよる。（この茶碗は、欠けている。） 例：人のかおーほげるほど、じいーつと見ちよーよ。 （人の顔を穴が開くほど、じつと見ているよ。）
1788	ぼし	帽子。 言い方は「 ぼし 」。 例：《夏の日中、外に遊びに行く子供に》 暑いナー、ぼしをかずいて行けよ。 （暑いから、帽子をかぶって行けよ。）
1789	ほじゃから （ほんじゃから） （ほんじゃきー） （ほいじゃけえ）	～だから。 【「～けえ」、「じゃけえ」、「ほいじゃけー」参照】 例：ほじゃから、そうじゃないんちゃー。 （だから、そうではないんだよ。） 例：《失敗した人に対して、それ見ろの意味があって、女性が言う》 ほんじゃから、ゆうたじゃろーがねー。 （それだから、言ったでしょう。） 例：《同様の場面で、男性が言う》 ほいじゃけえ、ゆうたじゃろーがあー。（だから、言っただろう。）
1790	ほす	吠える。 犬などが吠えること。県東部（伊陸）で使う。
1791	ほぜる （ほぜくる） （ほでくる）	①掘る。ほじくる。②あら探しをする。 「ほでくる」とも言う。【「のどをほる」参照】 例：昔のことをほぜくり返してもしょうがないでー。 （昔のことを掘り返しても仕方ないよ。） 例：人のあらをほでくるな。（人の欠点を詮索するな。）
1792	ぼそぼそ	ぐずぐず。のろのろ。 今頃はまず使わない。昔、聞いた程度。小さい声で話すさま、お菓子などが干からびているさまも、「ぼそぼそ」と言うが、これは標準語。 【「あずがきれん」、「のっこのっこ」参照】
1793	ほたえる	①ふざけて騒ぐ。②うろたえる。 「物類称呼」（1775年）に「ざれたはぶる」事を上方にて、ほたえると云う。 関東にて、をどけると云う。又でうけると云う。又そばえると云う。」とある。 「ほたえる」は江戸時代の浄瑠璃などにもよく出てくる。元々は先に示すように、上方語だが、現在でも西日本の各地で方言として用いられている。 「つばえる」と同じ。 【「つばえる」、「ほだける」参照】
1794	ほだける	ふざけて騒ぐ。騒ぎ回す。 東地区（笠戸島）で使う。「つばえる」と同じ。 「ほたえる」が「ほだける」になったか？ それとも、「山口県方言辞典」に「ほだける」のもう一つの意味として、「分からんことをいう」とあるので、「ほざく（言うを罵る言葉）」が山口弁の「ザ→ダ」の変化で「ほだく」となり「ほだける」になったのかも知れない？ 【「つばえる」、「ほたえる」参照】 例：ほだけんなー。（ふざけて騒ぐな。）

No.	見出し	説明
1795	ほったら (ほいたら) (ほしたら) (ほたら)	それなら。そうしたら。 「ほいたら」、「ほしたら」、「ほたら」など、色々に変化した言い方がある。後ろに「のー」や「ねー」を付けて、例えば「ほいたらのー」と言って手を振ると、「それじゃーね」と別れの挨拶になる。 【「そつたら」、「そんなら」、「へたら」、「ほいなら」、「ほんだら」参照】 例：ほったら、今度行くわ。(それなら、今度行くよ。) 例：ほたら、今度はどうなるかのー。 (そうしたら、今度はどうなるかなあ。)
1796	ほっちゃく (ほおーちやく)	放っておく。 言い方は「ほ <u>ち</u> ゃく」。命令形なら「ほ <u>ち</u> ゃけ(放っておけ)」、または「ほ <u>ち</u> ゃき(放っておきなさい)」。「ほおーちやく」とも言う。 【「～ちゃき」参照】 例：はぶてちよるんじゃろー。ほ <u>ち</u> ゃきーさい。 (むくれているのだろう。放っておきなさい。) 例：ほ <u>ち</u> ゃいってくれちーよんじゃけー、ほ <u>ち</u> ゃきやーええいね。 (かまわないでくれと言っているのだから、放っておけば良いよ。)
1797	ほてんどー	さるとりいばら。(植物) 防府は「ほてんどー」だが、湯野では「いぎのは」。椿峠が境界か？ 柏餅の柏の葉の代わりにさるとりいばらの葉を使って一般的には「柏餅」と呼んでいるが、県内には色々な呼び方がある。 大まかな分け方で、県中央部は「ほてんどもち」、県西部と東部は「いぎのはもち、いぎのはだんご」、周防大島周辺では、「ぶとんばもち、ぶとんもち」。他には、和木は「さんきらいもち、さんけらもち」、柳井周辺は「ぼたんばもち、ぼたんもち」、宇部は「おてんぽもち」、小野田は「ほてんぽおもち」と呼ぶようだ。【「いぎのは」参照】
1798	～ほど (～程)	～だけ。 数量の限定に使う。「～くらい」の程度を表す表現も当然使うが、「5個ほど下さい(5個だけ下さい)」のように使う。【「～が」参照】 例：千円ほど借りよう。(千円だけ借りよう。)
○ 1799	ほとびる (潤びる)	ふやけること。 物や手足が湯や水に浸かってふやけて、大きくなったり、しわもぶれ(しわだらけ)になったりすることを言う。 語源は「膨れること」を言った「ふと(太)ぶ」で、これが「ほと(潤)ぶ」になった。終止形が「ほとぶ」となる古語(近世以前の中央語)は、平安時代の10世紀に成立した「伊勢物語」にも見える。「ほとばかす(潤ばかす)」は「ふやけさせる」の意で、もと古語。室町時代や江戸時代前期の辞書などにも見える語。 小さい頃は使っていたが、今頃はあまり使わないかな？ 【「しわもぶれ」参照】 例：風呂に長いこと入っちゃったら、手がほとびてしもうたいやー。 (風呂に長いこと入っていたら、手がふやけてしまったよ。)
1800	ほどように (ほどよーに)	程好くに。良い具合に。 「ほどよくに」が「ほどよーに」になる。形容詞の連用形活用語尾の「ク」がウ音便化し、「オク」が「オー」と発音される。「遅く(オソク)」が「オソー」、「良くなった(ヨクナッタ)」が「ヨーナッタ」となるのと同じ。 【「あんじょうように」参照】

No.	見出し	説明
1801	ほぼくれもん	①どうにもならない者。どうしようもない者のこと。 ②つまらぬ、役に立たない品物のこと。 物を贈る時に、「ほぼくれもんですが(つまらないものですが)」と言うように使った。「ほぼ」は「粗、略」、「くれ」は「塊」か?
1802	ほぼら (ほぼろ)	わらで編んだ入れ物。 直径約1mで肩かつぎ棒に掛けられる2本のワラ紐が付いている。東地区では「ほぼろ」とも言う。赤ん坊を入れるワラ籠のことも言っていたようだ。 「ほぼらーうる／かる／ふる」と言ったら、嫁が実家に帰ったことを言う。これは、竹籠のふちをかがるには、四目ごとに竹シベを返しては編んでゆく。「よめ(四目)行ってかえる」のしゃれから出た言葉で「うる／かる／ふる」は付け言葉。 また、西地区では、どこかに行きさぼっていることも「ほぼらーうる」と言った。 例:ほぼらに一荷(か)栗を運んだ。 (前後の両天秤のワラ籠で栗を運んだ。) 余談:徳山のマツノ書店の袋の「防長方言番附」には、「ほぼをふる」として「嫁が実家に行ったり戻ったり」となっていた。
1803	ほやけ	赤いあざ。 語源は「火焼け」と思われる。
1804	ほらみー (ほらみーや) (ほーらみーや)	それみたことか。 「ほらみーや」「ほーらみーや」とも言う。 【「ほーりや」、「ほれから」、「みー」参照】 例:《風呂から上がって冷えるよと言ったのに、 そのまま裸でいて、風邪を引いた人に》 ほらみー、風邪を引いたろうが。 (それみたことか、風邪を引いただろう。)
1805	ほりゃー	それは。 例:ほりゃー、ええのー。 (それは、いいね。)
1806	ほれいや (ほれちゃーや)	それよ。その通りよ。 これは男言葉。「ほれいね」、「ほれちゃーね」のように最後の「や」が「ね」になると女言葉になる。【「ほれから」参照】 例:A;あの話はうまいこと行ったちゅーじゃないか。 (あの話は良い具合に進んだと言うではないか。) B;ほれいや。えかったいやー。 (その通りよ。良かったよ。)
1807	ほれかね (ほーかね) (ほーかのー)	そうなのか。そうなの。そうかい。 「それかね」の「それ」が「ほれ」になった言い方。「ほーかね」、「ほーかのー」とも言う。【「それかね」参照】 例:A;あのえーが面白かったでー。 (あの映画は面白かったよ。) B;ほれかね。えかったねー。 (そうなの。良かったね。)

No.	見出し	説明
1808	ほれから	それから。 指示代名詞や感動詞の「それ」の「そ」が「ほ」になる。「それを」は「ほれを」、「それでも」は「ほれでも」、「それ急げ」は「ほれ急げ」ようになる。他には「ほいから」の「ほい」、「ほーでえ」の「ほー」、「ほらみー」の「ほら」、「ほれいや」の「ほれ」、「ほんで」の「ほん」も、同様に「そ」が「ほ」になったもの。【「へーから(へえから)」、「ほいから」、「ほいで」、「ほーでえ」、「ほらみー」、「ほれいや」、「ほんで」参照】
1809	ほれやすの あきやす (惚れやすの 飽きやす)	惚れ易く、飽き易い人。目移りの激しい人。 「あけやすのほれやす(あきやすのほれやす)」の昔の言い方らしいが、「鶏が先か、卵が先か」と同じ命題で、どちらの言い方もされていたような気がする？我々は「あきやすのほれやす」を良く使っていた。 【「あけやすのほれやす(あきやすのほれやす)」参照】
1810	ほろかす	落とす。 「声をほろかす(落とす)」の様に使う。【「ほろける」参照】 例:だえーじなさらーほろかしてめーでしも一た。 (大事な皿を落として割ってしまった。) 例:さいふーほろかさんよーにせーよー。 (財布を落とさないようにしなさいよ。)
1811	ほろける	落ちる。 「ほろ」と言う、涙が一滴こぼれ落ちる様子を表した擬態語から派生した言葉。「ほろり」とか「ほろほろ」、「ぽろっと」、「ぽろり」も同じ語源から派生。「ほろかす」、「ほろける」共に、今では年寄りしか使わないかな？ 【「ほろかす」参照】 例:柿の実がほろけちよる。(柿の実が落ちている。) 例:ボタンがほろけた。(ボタンが落ちた。) 例:猿も木からほろける。(猿も木から落ちる。)
1812	ほろせ	湿疹。じんましん。 古語「ほろし」が訛って、「ほろせ」。中国、四国、九州で使われている。言い方は「ほろせ」。
1813	ほん	①本当に。②それ。 ②の意味では、「ほんでも(それでも)」、「ほんなら(それなら)」等の使い方を。「ほんとうに」の省略語。【「ほんで」、「ほんとき」参照】 例:あのひたー、ほんすかんのんちゃー。 (あの人は、本当に嫌いなものよ。) 例:ほんに、よーできちよるのー。(本当に、良くできているね。) 例:ほんじゃー、これはわしんじゃの。 (それでは、これは私の物だな。)
1814	ほんがほんが 食べる	うれしそうに次から次へと食べる。 好物をうれしそうに次から次へと頬張る様子を言う。 【「もんぐりもんぐり」参照】 例:《お菓子を子供がうれしそうに食べているのを見て》 おかしゅー、ほんがほんがたべよーねー。 (お菓子を、うれしそうにたくさん食べているね。) 注:「ほんがほんが食べる」は、下松在住だが、周防大島出身のいところを使う言葉なので、周防大島の方言かも知れない。

No.	見出し	説明
1815	ほんこ (ほんそ)	良い子。(幼児語) 「ほんそ」とも言う。幼児の褒め言葉。「ほんこほんこする」は良くかわいがること。ちょっと甘やかしが入っている。この言葉は中世後期から江戸期にかけて「大切にすること、可愛がること、またそのもの」の意味で使われるようになった「奔走(ほんそう)」が、変化してできた。県東部の伊陸(いかち)では「大切に育てる」ことを、「ほんそうに育てる」と今でも使っている。 【「おりこーさん」、「めーめーする」、番外の「幼児語」参照】 例:ほんこほんこしときーよ。 (良い子でいるのよ。) 注1:「奔走」は本来は忙しく走りまわること。「馳走(ちそう)」と同義。 注2:「大切な子」のことを「ほんそうご(奔走子)」と言ったらしいが、我々の年代には使わなくなっていた。 余談:柳田国男の「分類児童語彙」には「『ほんそ』は『奔走』でなくて、『ほんにそう(げに然なり)』と言う言葉が型になったもので、子供の言うことを是認する、いわばしたいまをさせる意」とあるようだ。
1816	ほんしきな人 (本式な人)	本格的に、丁寧で、正確に、真面目に物事を行う人。昔気質で律義な人。 例:あの人は本式な人じゃけーねー。 (あの人は、真面目で丁寧な人だからね。)
1817	ほんだら (ほんなら)	それなら。 【「そつたら」、「へたら」、「ほいなら」、「ほつたら」、「んなら」参照】 例:ほんだら、そーしんさい。 (それなら、そうしなさい。) 例:ほんなら、好きにしたらええわー。 (それなら、好きにしたら良いよ。)
1818	ほんで (ほいで)	それで。 「ほんでも」は「それでも」。「ほいで」とも言う。 【「ほいで」、「ほれから」、「ほん」参照】 例:《話を聞いてから》 ほんで、どうしたん?(それで、どうしたの?)
1819	ほんとき	その時。 ナ行音が撥音化した例。九州地方の影響か? 【「そんなとき」、「ほん」参照】 例:ほんときに、もろうたんちゃ。(その時に、もらったのです。)
1820	ぽんぼら (ぽんぷら)	竹筒。筒。 例:キャンプでぽんぼら飯を炊く。(キャンプで竹筒飯を炊く。)
1821	ほんまに (本真に) ほんとに (本当に)	本当に。実に。まったく。 疑問が強い時は、「ほんとかいのー」と言う。東地区(下松、光)では、「ほんまに」を使うが、「ほんとに」も使い、西地区(湯野、福川)では「ほんとに」しか使わない。また、「ほんま、やれんにーね(本当にたまらないよ)」や「ほんと、どーしたーん(本当にどうしたの)」のように「ほんま」や「ほんと」だけでも使う。 例:《遊園地に行こうと言われて》 ほんまに行くん?(本当に行くの?) 例:《信じられないような話を聞かされて》 そりゃー、ほんとかいのー。(それは、本当かな。)

No.	見出し	説明
1822	～まあ	～まい。 以下に、「～まい」の主な使い方を示す。 ㊦打ち消しの推量の意を表す。…ないだろう。 ㊧打ち消しの意志を表す。…するのはよそう。…するのはやめよう。 ㊨終助詞「か」がついて勧誘・依頼の意を表す「～まいか」。 ㊩事実と反対の仮想を表す「～まいに」。 ㊪後続の言葉に対し、条件を示す「～まいし」。 例：あの人を呼ばんのは、いけまあ。 (あの人を呼ばないのは、いけないだろう。) 例：あの人には言わまあ。(あの人に言うのは止めよう。) 例：《量が多い時》多分、その上にやー、のるまーで。 (多分、その上には、載らないだろうよ。) 例：許してもらえまーか。(許してもらえまいか。) 例：冬でもあるまーに、そねーに厚着をしてから、どーかね。 (冬でもあるまいに、そんなに厚着をしてから、どうしたかね。) 例：年寄りじゃああるまーし、歩いていかにやー。 (年寄りではあるまいし、歩いていかなければだめよ。)
1823	～まー	～さん。～ちゃん。 名前に付けて親愛を表す時の呼び方。「にーまー(兄さん)」、「ねーまー(姉さん)」、「じーまー(じいさん)」、「ばーまー(ばあさん)」のように使う。昔は使っていたが、今はほとんど使わない言葉になった。 【「～さー」参照】
1824	～まあす (～まーす) (～まわす)	動詞の後について、その「動きの強意」を示す。 「回す」が動詞の後に付いて複合動詞を作る言い方。「まあす」でなく、素直に「まわす」の言い方もする。【「～あげる」参照】 例：遊びまあす。(十二分に遊ぶ。)(遊んでばかり。) 例：しばきまあす。(強くしばく。)
1825	まーりよー (まーりやー)	おやまあ。あらまあ。 驚いた時に発する言葉。東地区(櫛ヶ浜)で使う。阿知須の方言集には「まーりやー」と載っていたので、昔は普通に使われていたようだ。京都では「まーやー」、和歌山では「まーよー」、三重では「まーあや」と各地にも同様の言葉があったようだ。 例：まーりよーみーさん。(あらまあ、そーなの。) 注：普通の山口弁なら「まーりよーみーさん」と言えば、「周りを見なさい」の意味になる。驚いた時の言い方は「まーりよー」を少し上がり調子に言う。「周りを」の時は平板式に言う。道路を渡る子供に注意する時には「あぶないけー、まーりよー、よーみーさんよ(危ないから、周りを良く見なさいよ)」となる。
1826	～まい	～なさい。 指示や勧めに使うが、お願いをするような、命令をするような微妙な使い方。「きまい(来なさい)」、「くれまい(下さい)」、「よりまい(寄りなさい)」、「ほーたりまい(投げなさい)」等。 否定は「～まんな」。「行きまんな(行ってはいけない)」、「投げまんな(投げてはダメだ)」等。 また、「太ったとみまい(太ったとみなさい)」のように自分の状態を訴える時にも使う。 【「きまい」、「くれまい」参照】

No.	見出し	説明
1827	まいかけ	前掛け。
1828	まいがまえん (舞いが舞えん)	やりくりがつかない。 家計の不如意(ふにょい)を含めて、資金不足で成就できない状況を言う。字は「舞いが舞えない」。飢饉、戦乱、悪疫などで農村娯楽の「お神楽(おかぐら)」が出来ない状況に追い込まれた経験から生まれた言葉か？愛媛や近畿の一部で使われている。山口弁の言い方は「まえーがまえん」。【「まえん」参照】 例：借金がおゆーて、舞いが舞えんでよー。 (借金が多くて、やりくりがつかないよ。)
1829	まいたび (毎度)	毎度。毎回。いつも。 例：《くじが良く当たる人に》 まいたび、まいたび、よー当たるねー。 (毎回、毎回、良く当たるね。)
1830	まいつける	巻きつける。 【「まえつく」参照】
1831	まいひに (まえーひに)	毎日。毎日のように。 「まいひ」が「毎日」で、「に」は格助詞で「～のように」の意。副詞として使う。言い方は「まえーひに」。「毎日に(毎日新聞に)載っていた。」という使い方はするが、通常は「毎日に」と言う標準語はない。 例：あんたんとこあー、まいひに、おそーまで大変じゃねー。 (あなたの所は、毎日、遅くまで大変だね。)
○ 1832	まいまい	カタツムリ(蝸牛)。(陸生巻貝) 渦を巻いているものは「まいまい」。周南では普通は「でんでんむし」と呼んでいるが、「まいまい」と言うところも若干ある。詳しくは「でんでんむし」参照のこと。 【「でんでんむし」、「まいまい：頭の旋毛(つむじ)」参照】 余談：「防長動植物方言考」によると、周南地区では昔、「ミズスマシ」のことを「まいまい」、「まいまいこ」と言ったらしい。 【「みずすまし」参照】
1833	まいまい (まえーまえー) (まいまいこ)	頭の旋毛(つむじ)。 言い方は「まえーまえー」。「まき(巻き)」の重複形「まきまき」の「き」がイ音便化し、これに「舞い舞い」の解釈が加わってできたのが「まいまい」。県東部主体の方言。「まいまいこ」とも言う。 他には「ぎり」、「じろまい」、「じなまい」、「じのまい」とも言う。なお、あまり聞かないが「うず」とも言っていたようだ。 【「ぎり」、「じろまい」、「まいまい：カタツムリ」参照】
1834	まえがきれる	仕事を手際よく進める。物事を処理する能力が高い。 仕事を上手に進めるには「段取り八分」と言うが、前段取りがうまいと言うことからできた言葉か？ただし、昔、聞いたかなあと言う程度で、今は使っていない。 余談：「まえがぬるい」と言えば、「気が利かない」ことらしい。これも、今は使っていない。

No.	見出し	説明
1835	まえつく	巻き付く。 「まきつく」を「まいつく」と言うので、これから連母音「アイ」が「アエー」になる法則で、「マイツク」が「マエーツク」になり、「まえつく」になった。 【「まいつける」参照】 例：あの木につたがまえついちよる。 （あの木に蔦が巻き付いている。）
1836	まえん	手が回らない。やりくりがつかない。 「舞いが舞えん」の「まえん」で、やりくりがつかない状態を示す。 【「まいがまえん」参照】 例：それじゃーまえんでよー。（それでは手が回らない。）
1837	まかしい （任しい）	任せろ。 言い方は「まかしい」。「任せなさい」は「まかしんさい」。 例：それは、まかしちょきー。（それは、任しておきなさい。）
○ 1838	まがなすきがな （間がな隙がな）	いつも。休みなく。暇さえあれば。 「ま」は「間」。「がな」は副助詞でついた語を漠然とさし示す。「すき」は「隙」のこと。東地区（東荷）や県東部（伊陸）で使う。この言葉は国語辞書に載っているの、標準語かも知れないが、鹿野の方言集に載っていたので、周南でも使っていた言葉として収録した。 【「いっしく」、「いつちゅうこたあなあ」、「いつもかつも」参照】 例：まがなすきがな、うとーちよる。（暇さえあれば、歌っている。）
1839	まくる	転がす。転がし落とす。 西地区で使う。転がして物をまとめるような時に使う。当然、標準語の腕や裾をまくる意味の「捲る（まくる）」も使う。 【「まるがす」、「まるげる」参照】 例：きー伐り終わったから、ぼちぼちまくつちよーかの一。 （木を伐り終わったから、ぼちぼち転がして下にまとめようかね。）
1840	まけんしょう （負けん性）	負け惜しみが強いこと。負けん気。 例：まけんしょーを出して走ったねー。 （負けん気十分で走ったね。）
○ 1841	まこと （まーこと）	「なるほど」、「全くそのとおりだ」、「本当だ」ぐらいの意味。 同意や感心の程度が甚だしい場合は、「ま」が長音化し「まーこと」となる。「ほんと」、「うそ」、「まし」などは少し疑問を持った言い方だが、「まこと」は相手への信頼と敬意が含まれている言い方。 例：まーことねー、あえーたがゆーちゃーたとーりじゃねー。 （なるほどね、あなたがおっしゃったとおりだね。） 例：まーこと、やってみんにゃー、わからんもんじゃの一。 （なるほど、やってみなければ、わからないものだなあ。） 例：まこと、おーけな家じゃの一。（本当に、大きい家だなあ。）
1842	まぜこじゃ	まぜこぜ。ごちゃまぜ。 例：《ごちゃまぜにしたものを見て》 あーあ、まぜこじゃにしても一たか。 （あーあ、ごちゃまぜにしまったか。）
1843	またくら	股ぐら。

No.	見出し	説明
○ 1844	まち	枚。 田の一区画の数え方。字は「町」。この言葉が原義で、「人が集まる所」や「商店が多い所」等の「町」の意味が出来てきたようだ。数え方は「ひとまち、ふたまち、みまち、よまち、…」である。大きい田んぼは「おおまち」。
1845	まちいさい (まちなさい)	待ちなさい。 言い方は「 まち いさい」。「まちなさい」とも言う。他にも「まっさんせー」、「まっさんへえー」、「まちまえ」等の言い方がある。命令する感じが強くない時は、「ちょっと、まちいーね(ちょっと、待ってよ)」になる。 例:ちょっと、まちいさい。(ちょっと、待ちなさい。)
1846	まっか (まっかうり) (きいうり)	まくわうり(真桑瓜)。(野菜) 言い方は「まっ か 」か、平板式に「まっか」。「まくわ」が訛って「まっか」になったか? 「まくわ→まっくわ→まっか」かな? 「まっかうり」とも言う。表面は黄色。また、黄色だから、「きいうり(黄瓜)」とも言う。 「防長動植物方言考」によると、他にも県内には、昔は色々な呼び名があったようだ。「あじうり」「きんうり」「なしうり」などである。「まっか」や「あじうり」以外は、品種や「きいうり」同様、表面の色で付いた名前、黄色(金色)のものを「きんうり(金瓜)」、白色のものを「なしうり(梨瓜)」と呼んだようだ。【「あじうり」、「なつめうり」、番外の「野菜の呼び名」参照】
1847	まっさと	都合悪く。折り悪く。あいにく。 言い方は「 ま っさと」。県東部で使われていたようだが、今はほとんど使われなくなっている。友人の間でも一割程度が知っているくらいだった。 例:今日はまっさと雨が降って、びつしゃっしゃーになったいねー。 (今日はあいにく雨が降って、ずぶ濡れになったよ。)
1848	まっちょりー	待っていなさい。 もう少し命令が強い場合は「まっちょれ(待っている)」になる。 例:ちょっと、まっちょりーよ。 (ちょっと、待っていなさいよ。)(待っていてよ。)
1849	まっつい (真対)	良く似ていること。そっくり。 字は「真対」。「ま(真)」は強意の接頭語で「全く、本当に」、「つい(対)」は「ふたつのものが同類であること」を意味する。 例:この二つはまっついじゃのー。 (この二つはものすごく良く似ているな。)
1850	まっつじ (真辻)	頂上。山頂。 県東部は「ずってん(ずく系)」や「てんかち(てんこつ系)」が多いが、県内各地の方言集を調べると須佐や下関では「まっつじ(つじ系)」を使うようだ。ラジオの方言コーナーで山口弁として紹介していたので、収録した。 【「ずく」、「てんかち」、「てんば」参照】 例:山のまっつじに雪がつもつちよる。(山の頂上に雪が積もっている。)
1851	まっとーりに (真通りに)	①真正面に。真っ直ぐ前に。②全くこの方法で。この通りに真似て。 ①は「まっすぐな方向(通り)」の意。まっすぐ前(真正面)のことを言う。②は「まったくこの通りに」の意。言い方は普通は「まっ とー りに」。真っ直ぐや真似具合を強調したい時は、「 まっ とーりに」となる。 例:このまっとーりに、学校が見えるじゃろー。 (この真正面に、学校が見えるだろう。) 例:まっとーりに作るんで、ええから。(この通りに作るので、良いから。)

No.	見出し	説明
1852	まっぽう	四方八方。 西地区で使用。 例：まっぽうから人が来た。 (四方八方から人が来た。)
1853	までくる (まぜくる)	①物をかき混ぜる。 ②混ぜ返すこと。人の妨げをする。混乱させる。 「までくりまわす」、「までくりかえす」、「まぜくりまわす」、「まぜくりかえす」とも言う。「まわす」は①②の両方の意味に使うが、「かえす」は②の意味にし か使わない。山口弁ではザ行音のうち「ザ・ゼ・ゾ」がしばしばダ行音「ダ・ デ・ド」として発音されるため、「まぜくる」と「までくる」の言い方がある。よっ て、標準語の「まぜる」は山口では「まです」になる。 例：そねーに、鍋の中をまでくるなよ。 (そんなに、鍋の中をかき混ぜるなよ。) 例：折角ええ話しじゃったのに、 あいつが までくりかえして、わやになったいやー。 (折角の良い話しだったのに、 彼が混ぜ返して、滅茶苦茶になったよ。) 例：はなしよーまぜくらんこといね、いっそう進まんけえ。 (話を混乱させないでよ、少しも前に進まないから。) 注：「はなしよー」は「はなしゅー」とも言う。
1854	までごはん (混でご飯)	混ぜご飯。 【「まで」の言い方については「までくる」参照】 西地区では「まぜめし」とも言う。
☆ ○ 1855	まどう (償う)	弁償する。 語源は「円」の意味の「まどく」から「またく(全く)」になり、これが「まどう」に 変化した説と、「円(まど)ふ」と言う言葉があったと言う説あり。共に元の円 満な状態に戻す意味と考えられる。他には紛失したものを返す意味からで きた言葉との説もある。北陸から西日本主体に話されていたが、最近では使 う地域は少なくなっているようだ。昔は、借金を返す意味にも使っていたそ うだ。 山口県内でも、現在は「迷う」意味の「まどう(惑う)」が優勢で、「まどう(償 う)」を使うと、キョトンとされることが多くなっている。 例：コップをめぎよって、まどえよ。 (コップを割ったな。弁償しろよ。) 例：かった本をしてしても一たら、まどわんにやーいけんにーね。 (借りた本を紛失してしまったら、弁償しなければいけないよ。)
1856	まどろしい (まどろしい)	①ややこしい。 面倒な。複雑な。動きや反応が鈍い意味の「まどろい」が転じて、ややこし いことになったか？ ②まどろこしいこと。のろくてじれったいこと。 例：まどろーしい話になったのー。 (面倒な話になったな。)
1857	まねし	人の真似を良くする人。 あまり良い意味には使わない。【「～し」参照】

No.	見出し	説明
1858	まばいい (まばいー) (ばばいい)	まばゆい。まぶしい。 古語「まぶゆし」の直系の言葉。中国と九州で使う。「ばばいい」も西地区(湯野)で使う。しかし、今頃は「まぶしい」と言う人が多い。近畿は「まぶしい」と「まぶい」が混在。関東は「まぶしい」、東北は「まつばい」、「まつこい」。徳島、高知は「ばばいい」(注:湯野と同じ)、新潟は「ががつばい」、沖縄は「みーぴからしゃん」と言うらしい。 例:朝日がまばいい。(朝日がまばゆい。)
1859	まひげ	眉毛。 例:まひげのながーひたー長生きするっちゃー。 (眉毛の長い人は長生きをするよ。)
1860	まひょうしに あわん (まにもひょうし にもあわん)	その場の役に立たない。急ぐ時に間に合わない。 「まにもひょうしにもあわん」とも言う。謡曲や音楽で使われる標準語の「間拍子(まびょうし)」が「まひょうし」になった言い方。 例:そねーに時間が掛かったら、まひょうしにゃーあわんでー。 (そんなに時間が掛かったら、 「やっ」と言う時に役に立たないよ。)
○ 1861	まぶれる (塗れる)	塗(まみ)れること。 粉や泥などが一面に付いている状態。「もぶる」も「まぶる」もどちらも使う。「もぶる」は方言、「まぶる」は標準語。「まぶる(塗る)」、「まぶれる」共に国語辞書に載っているが、「もぶる」、「もぶれる」との対比で収録した。 【「もぶる」、「もぶれる」、「どろもぶれ(どろまぶれ)」参照】
1862	まへり	すぐそば。すぐ横。きわ。 「真縁」か。「真横」と同じ使い方。【「へり」参照】 例:あの塀のまへりにあるじゃろうが。 (あの塀のすぐ傍にあるだろう。)
○ 1863	まめ (実) (忠実)	①元気。②よく働く。 語源は、「まま(随)」の音韻変化が「まめ」で、上司の意図のままに行動することから、「誠実に、忠実に」の意を表すと言う説と、「真」と「目」、または「真」と「実」の複合語で、上記の意を表すと言う二説がある。労苦を厭わず(いとわず)勤め励むの意から、身体の丈夫なことを表すようにもなった。元気で良く働く人を見て「まめな人じゃねー」と言うが、こまめ(小忠実)な人に対しても「まめな人じゃねー」と使う。【「まめになる」参照】 例:まめに、しちよったかいねー。(元気にしていたかね。) 例:まめにゃーあったかね。(元気だったかね。) 例:まめに、よう動くのー。(真面目に、よく働くな。)
1864	まめになる	元気になる。病気から快復する。 元は「無事出産して元気を取り戻す」ことを言っていたようだが、今は、病気全般から元気を取り戻した時に使うようになった。【「まめ」参照】 例:まめになっちゃって、えかったねー。 (元気になられて、良かったですね。)
1865	まめのこもち (豆の子餅)	黄な粉餅(きなこもち)。 西地区で明治生まれの人達が言っていたのを覚えている程度で、今は使われていないと思う。
1866	まより	目脂(めやに)。 東地区(室積)で親世代が使っていた。

No.	見出し	説明
1867	まるがす	転がす。 周南では「あたまをまるがす」以外に使っていないが、昔は「樽をまるがす（樽を転がす）」のような使い方をしていたようだ。 また、柳井の方言集に「まるがす」で「うれしがるさま」とあり、「顔をまるがして喜びさーた。」とあった。「あたまをまるがす」以外に、この表現もあったようだ。【「あたまをまるがす」、「まくる」、「まるげる」参照】
1868	まるげる	転(ころ)げる。転ぶ。倒れる。 西地区で使用。【「まくる」、「まるがす」参照】 例：雪道ですべりまるげた。(雪道で滑りこけた。)
1869	まるた (丸太) (まるたま) (まるったま)	全部。丸ごと全部。 「まるた」、「まるたま」、「まるったま」、「まるっと」が周南地域の中で混在して使われている気がする。【「まるっと」参照】 例：キープしたウイスキーが、まるた残ちよるはずでー。 (キープしたウイスキーが、そのまま全部残っているはずだが。)
1870	まるっと	全部。 【「まるた」参照】 例：お年玉はまるっと貯金するんよ。(お年玉は全部貯金するのよ。)
1871	まんが (まんがに)	時々。 例：まんがに顔を見せにきーよ。(時々顔を見せに来なさいよ。)
1872	まんがええ (間が良い)	付いていた。運が良かった。 「ふ(符)が良い」と同じような使い方をするが、「ふ」の場合は「タイミング」のことで、「まん」の場合は「縁起」のこと。目に見えない力が働いている感じ。言い方は「まんがええ」、「まんがえー」。運が良くなる時に「まんがなおり」と言う方もあったようだが、我々は使っていない。 【「ふ(符)がええ」、詳しくは「まんがわるい」参照】 例：まんがえかったのー。信心のお陰でー。 (運が良かったね。信心のお陰だね。)
1873	まんがわるい (間が悪い)	付いていなかった。運が悪い。 「ふ(符)が悪い」と同じような使い方をする。通常使う「間(ま)が悪い」とはちょっと違う。 言い方は「まんがわるい」、「まんがわりー」。特に悪い時は「まんくそが悪い」。「が」を抜いて、「まんわるーに(運が悪いことに)」とか、「まんわるー(運悪く)」と言うようにも使う。また、「まんくそ(糞)」以外に「まんけつ(尻)」や「まんけた(卦体)」も使っていたようだ。そして、運を立て直すことは「まんなおし(直し)」と言う。【「ふ(符)がわるい」、「まんがええ」参照】 例：最近、まんがわりーことが続くんちゃー。 (最近、運が悪い事が続くのだよ。) 例：まん直しに一杯やるか？(験直しに一杯飲むか？) 余談1：「間(ま)」+「運(うん)」で「まん」になった。「符(ふ)」は神仏の札のことで、「まん」も「ふ」もどちらも「運」と「付き」を表すが、「まん」は縁起も含む。元々は中央語。 余談2：「真(ま)」に「ん」を添えて、「まん」と言った説もある。「真ん中」の「まん」と同じ。意味は「褒め称えて楽しむこと」。この賛美語の「まん」を「運命のこと」にして善悪を占ったとのこと。 余談3：単純に「ま(間)」が「まん」に変化したとの説もある。

No.	見出し	説明
○ 1874	まんごー (万劫) (まんご)	永久に。これからずっと。今後一切。 後に打ち消しの言葉が続く。「万劫」とは「一万劫」の意で、極めて長い年月のこと。「万劫末代」の言い方もする。東地区(笠戸島)で使うが、国語辞書に載っている言葉なので、方言ではないかも知れない。 例: はー、まんご知りやーせんけー。 (もう、今後一切、付き合わないから。)
1875	まんさく (満作)	シイラ(鰯)。(魚) 「実の無い粃(もみ)」のことを「しいな(糍)」と言うが、これを山口弁では「しいら」と言う。この「しいら」に通じるのを忌んで、魚の「シイラ」を「まんさく」と言う。【「しいら」参照】
1876	まんまんきび (ままんきび)	とうもろこし(玉蜀黍)。(穀物) 東地区で使う。西地区は「なんまん」。詳しくは「なんまん」参照のこと。 【「とうきび」、「なんまん」、番外の「野菜の呼び名」参照】
1877	まんまんさあ	①仏様。仏壇。(幼児語) ②神様。(幼児語) 【番外の「幼児語」参照】
1878	まんまんさー あっ	拝む時の唱え言葉。(幼児語) 「まんまんさんあっ」とも言う。省略形は手を合わせて「あっ」だけ。 【番外の「幼児語」参照】
1879	まんみ (万三) (まんみー)	うそつき。万に三つの本当。 「せんみまんみ」とも言う? どうも周南の人は言わないようだが、「せんみ」と同様の理由で収録した。県東部の柳井や伊陸の方では今でも使うようだ。【「うそいい」、「せんみ」参照】 例: あの人、まんみーじゃけいねー。 (あの人、うそつきだからね。)
1880	みー	見ろ。見なさい。 「みー」は「見る」の命令形方言で、命令形「見ろ」の丁寧な言い方。 【「〜とみー」、「ほーりや」、「ほらみー」、「みてみい」参照】 例: ありよーみーやー。(あれを見なさい。) 例: ゆーてみーやー。(言ってみろよ。) 例: こりよーみーさん。(これを見なさい。)
1881	みいとこ	はとこ(再従兄弟、再従姉妹)の子供同士。 「はとこ」は「ふた(二)いところ」、「また(又)いところ」と呼ばれるが、その「ふた」と「こ」の次だから、「み(三)いところ」。曾祖父(ひゅーじい)、曾祖母(ひゅーばあ)が兄弟姉妹である者の関係。 【「ひゅーじい、ひゅーばあ、ひゅーまご」参照】
○ 1882	みかじめ	取り締まり。監督。 例: よらあー、よーみかじめんとあぶなーからね。 (夜は、よく見ておかないと危ないからね。)
1883	みしゃぐ	①潰す。壊す。細かく砕く。細かく潰す。②滅茶苦茶にする。 「みしゃぐ」は、より小さく砕く感じがある。 【「つやす」、「ひしゃぐ」、「へしゃぐ」、「めしゃぐ」参照】 例: リンゴを手でみしゃぐことができるんかー。すごいの一。 (リンゴを手でつぶすことができるのか。すごいね。)

No.	見出し	説明
1884	みしゃげる (みしゃぐる)	潰れる。押しつぶされて壊れる。 【「ひしゃげる」、「へしゃげる」、「めしゃげる」参照】 例：あんたがふんだけー、おもちゃが、みしゃげたーねー。 (あなたが踏んだから、おもちゃが、潰れたではないか。)
1885	みしる	窶(むし)る。ちぎる。 「草をみしる」は一般的に使うが、東地区(櫛ヶ浜)では、魚の身を骨から外すことも「みしる」と言う。 例：草をみしったら、手がだった。(草をむしったら、手が疲れた。) 例：魚をみしっちゃって、子供に食べさせちゃれーやー。 (魚の身を取って、子供に食べさせてやれよ。)
1886	みずすまし (水澄)	アメンボウ(飴坊)。(虫) 東地区で使用。周南では他に「あめんど(富田)」や「あみんど(徳山)」の呼び名もあったようだが、現在、西地区は「アメンボウ」は「あめんぼう」で、「ミズスマシ」は「みずすまし」と呼んでいる。 余談1：「アメンボウ」とは・・・正式名称は「アメンボ」。カメムシ目(半翅目)・カメムシ亜目(異翅亜目)に分類される昆虫のうち、6本の長い脚を持ち、水上生活をするものの総称。 余談2：「ミズスマシ」とは・・・コウチュウ目(鞘翅目)にふくまれる甲虫の一群。水面をすばやく泳ぐ小型の水生昆虫。成虫の体の上面は光沢のある黒色で、楕円形で腹背に扁平な体型で、水面に腹ばいに浮く。 余談3：「防長動植物方言考」によると、周南近辺では「ごきあらい(熊毛)」や「すみんど(櫛ヶ浜)」、「まいまい(櫛ヶ浜、鹿野、福川)」、「まいまいこ(徳山、富田、戸田)」の呼び名もあったようだ。「ごき」は「椀」のこと。
1887	みずをする (みずーする)	人見知りをする。こと。 「不見」か? 言い方は「みずーする」。 【「いんじゅたれ」、「ひとみず」参照】 例：あの子は、みずーするけえねえ。 (あの子は、人見知りをするからね。)
1888	みせがー	見せ合い。見せ合いを。 「みせがを(見せごとを→見せ合いを)」が「みせがー」になっていると思われる。昔は言っていたが、今はほとんど使われていないと思う。 【詳しくは「とりがー」参照】 例：《テストを返してもらった時に》 何点じゃった? みせがーしょーやあ。 (何点だった? 見せ合いをしようよ。)
1889	みせぶらかす	見せびらかす。自慢そうに見せる。 例：珍しい物をみせぶらかすんよ。(珍しい物をみせびらかすのよ。)
1890	みそおけ (味噌桶)	出不精者。 出不精者が外に出たら、「味噌桶が出た」と言う。今頃はほとんど言わない。山口市では「味噌樽」とも言うらしい。
1891	みそしるー たべんさい (味噌汁を 食べんさい)	味噌汁を飲みなさい。 味噌汁は具沢山が普通なので、「食べる」を使う。今頃は「飲む」が多くなっているが、年配者は使う率が高い。「味噌汁」は「おつゆ」や、ただ単に「しる」と言うこともある。

No.	見出し	説明
1892	みちうち (道打ち)	道普請。
1893	みちのこやし (みちのこえ)	①旅の途中に費やす費用。②転じて無駄な費用。 「みちのこえ」とも言う。
1894	みったり	「三人」のこと。 四人は「よったり」。これは方言でなく標準語らしい。【「よったり」参照】
1895	みで	見応え。見る値打ち。 例：みでのある木じゃの一。 (見る値打ちのある木だなあ。)
1896	みてみい (見て見い)	さあ、ご覧。 ただし、「ほら、みてみい」になると、忠告をしたのに、失敗した様な時に言う「だから言っただろう」の意味になる。 「見てみいさい」は、平板式に言うのと「見てごらんないさい」の意味になり、「 見てみいさい 」と「みて」を強く言うのと「だから言っただろう」の意味になる。 【「みー」参照】 例：A; あのおおきないえよー、見てみいさい。 (あの大きな家を、見てみなさい。) B; そーじゃー大変じゃろーねえ。(掃除は大変だろうね。) 注1: 母音「エ」+助詞「オ」は「エョー」、または「エー」と発音される。よって、「家を(イエオ)」は「イエョー」か「イエー」になる。「上を(ウエオ)」が「ウョー」、「ウエー」、「絵を(エオ)」が「エョー」、「エー」も同様。 注2: 子音内の母音「イ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「掃除は(ソウジワ)」は「ソージャー」になる。 【「うち」、「たまにやー」、「らちやーあかん」参照】
☆ 1897	みてる (満てる) (充てる)	無くなること。消耗する。使い果たす。 「砂糖がみてた(無くなった)」、「塩がみてた(無くなった)」と使う。また、話題が無くなった時は「話がみてた(無くなった)」と言う。字は「満てる」か「充てる」のどちらかを使う。この字を使うが、意味は「使ってしまったて無くなること」。 「尽きる」が忌み言葉なので、その逆「満てる」を使っただけと言う説と、古語の「満つる」に「一杯になる」の他に「完結する、寿命が尽きる、契約満了」、すなわち「終える、無くなる」の意味があるのでこれを使っただけの説がある。また、「みなはてた(皆果てた)」の省略語との説もある。 「何々が無くなる」時は「何々がみてる」、「何々を無くする」の時は「何々をみたす」となる。中国、四国を中心に広く使われていたが、若い人の使用率は下がっている言葉。なお、森川さんによると「たう(届く)」と「みてる」を使う地域は重なっているらしい。 【「たう」、「ないなる」、「のーなる」参照】 例：醤油が、みてた。(醤油が、なくなった。) 例：あねーあったお菓子が、はあ、みなみてちよー。 (あんなにあったお菓子が、もう、みんな無くなっているよ。) 例：遊びほーけて、財産をみなみたしてしもうーたらしーでー。 (遊んでばかりいて、財産をみんな無くしてしまったようだ。) 余談：風呂の湯を洗濯に使って、無くなった時は「湯がみてた」。栓を抜いて、もう湯が無いことを知らせる時は、「はあ、風呂は抜いたでー」、または「はあ、湯は抜いたでー」と言う。

No.	見出し	説明
1898	みながん	隠し事がない。全部をさらけ出す。 「山口県方言辞典」に「がそ(～ほど、～だけ)」、例として「この肉を百円がそ下さい」とあった。また、「がん」として「金高を限定の詞」、例として「千円がん」とあった。そして、伯父の蔵書であった「全国方言辞典補遺」の「がそ」の項に「～の分だけ(山口県)」となっていたが、伯父が「がん」と修正していたので、県東部では限定する場合は物量でも金額でも、「がん」を使っていたと思われる。この「がん」が「みな」の後について、「みながん(全部の分→何もかも)」となったのではなかろうか? 【「～が」参照】 例:あの人(人)はみながんじゃけー。 (あの人(人)は何もかも話してだから。)
1899	みにならん (身にならん) (みにゃーならん)	①落ち着けない。くつろげない。ゆっくりできない。 ②[身に付かない。] ①の時は、県西部主体の言い方。県東部は「身にも皮にもならん」が主体だが、①の意味での「身にならん」も使われている。②の「身にならん」は標準語なので全県で使われる。 【「みにも かあにもならん」参照】 例:まーりであねー騒がれたら、みにゃーならんの。 (周りであんなに騒がれたら、落ち着けないね。) 例:べんきょーするときゃー集中せてやらんと、 身にゃーならんど。 (勉強をする時は集中してやらないと、 身(人)に付かないよ。)
1900	みにも かあにもならん (身にも皮にもならん) (みにも かもならん)	①忙しく、気忙しい状態。 ②落ち着けない。くつろげない。ゆっくりできない。 「身にも皮にもならぬ」の意。「みにも かわにもならん」、「みにも かもならん」とも言う。子供が多い時などの主婦の気忙(きぜわ)しさを言い、食事の栄養さえ身に付かないという意味。県東部主体で使われている言い方。県西部は「みにならん」。県東部では、「身にならん」は知識や技術が「身に付かない」意味で使う。 【「みにならん」参照】 例:《大家族の食事時に》 ああ、みにもかあにもなりやーせんね。 (ああ、世話で忙しくて大変だ。) 例:ドラマを見よるのに、 子供がうるそうて、みにもかあにもならん。 (ドラマを見ているのに、 子供がうるさいので、見た気がしない。)
1901	みぬきみどおし (見抜き見通し)	千里眼。良く分かっている。推測が当たっている。 自分の思っている事などを、言い当てられたような時に、「そーかね 見抜き見通しじゃね(そうかね 良く分かっているね)」と言うように使う。
1902	みみこ (みみこ)	耳垢。 例:そこに横になりんさい。みみこを取っちゃぎょー。 (そこに横になりなさい。耳垢を取って上げよう。)

No.	見出し	説明
☆ 1903	みやすい	容易なこと。たやすい。 言い方は「みやすい」。「みやすいー」とも言う。標準語の「見るのが容易である」意味で使う時は「みやすい」と言う。 標準語の「見易い」の「筋道が立っていてよく理解できる」、「誰にでもよく分かる」の意から派生した言葉と言う説と、「目安し」の口語なまりで「見苦しくない、無難だ」の意味が「やりやすい」の意味に転じたと言う説がある。 反対は「やねこい」。 【「こみやすーにいう(こみやすげにいう)」、「はなみやすーにいう」、「やおい」、「やねこい」、「わきゃーない」参照】 例：今日の試験は、みやすかった。 (今日の試験は、やさしかった。) 例：人がやりよーなー、みやすいーよーに、みえるいやー。 (人がやっているのは、たやすくやっているように、見えるよ。) 余談：島根県では「容易だ」の意味以外に、病気や荷物などが軽くなって「体が楽だ」の意味でも使うそう。 【「しわい(撓い)」参照】
1904	みやわす	中止する。止める。 「見合わせる」の変形か？ 例：旅行を、みやわす。(旅行を止める。)
1905	みょうちくりん (妙ちくりん)	妙(みょう)ちくりん。妙であること。変なこと。 【「いなげな」、「おかしげな」、「ひょんげな」参照】 例：どうかねー、妙ちくりんな格好をしてから。 (どうかね、変な格好をしてから。)
1906	みょー (みゅー)	見よう。 上二段動詞未然形の活用語尾の子音内の母音「イ」+推量・意志を表す助動詞「ヨー」は「ユー」または「ヨー」と発音される。周南では「ヨー」が多いかな？ よって、「見よう(ミヨー)」は「ミュー」「ミョー」、「起きよう(オキヨー)」は「オキュー」「オキョー」になる。 また、活用語尾が母音「イ」の時は、「イュー」と発音される。「射よう(イヨー)」は「イュー」となる。 古語の助動詞「む」が平安時代に「ん」、鎌倉時代に「う」になり、室町時代に前の音節と融合して「〇ユー」「〇ヨー」のような拗長音になったらしい。 【「～しゅー」、「せる」参照】 例：あのばんぐみょー、みょーともーちよる。 あのばんぐみゅー、みゅーともーちよる。 (あの番組を見ようと思っている。) 【「～ともう」参照】
1907	みん (見ん)	見ない。 近い過去は「みんかった」、もう少し古いと、「みなんだ」、「みだった」。標準語ではどれも「(見なかった)」となる。「ん」は打ち消しの助動詞「ぬ」の転。 【「いかん」、「おきん」参照】 注：「みん」自体は方言と言うより「来(こ)ぬ」を「来(こ)ん」と言うのと同じで、一般的な口語体。
1908	みんさい	見なさい。 例：《道を渡る時》左右をよーみんさいよ。(左右を良く見なさいよ。)

No.	見出し	説明
1909	みんなし	皆さん。 【「～し」参照】 例：みんなしに、よ一聞いてみちよかと、いけんの一。 (皆さんに、良く聞いておかないと、いけないね。)
1910	むぎめしばな (麦飯花)	馬酔木(あせび)。(樹木) 西地区(湯野)で、昔は普通に言っていたが、最近は聞かないとのこと。鹿野の方言集にもあり、「山口県の植物方言集覧」によると、「むぎめしばな(各地)」となっているので、県内で広く言われていたと思われる。 他には「ごまいり(都濃、熊毛、玖珂)」、「せんじしば、やんちゃしば(徳山)」、「ちゃんちゃきしば(鹿野)」の呼び名があった。「むぎめしばな」は花の形容から、「せんじしば」は葉を煎じて駆虫剤として使ったかららしい。
1911	むぐ	剥(む)くこと。剥(は)ぐこと。 最近「むく」を使うことも多い。ただ、「牙を剥(む)く」とか「目を剥(む)いて怒る」のは「むぐ」とは言わない。 剥(む)きやすいものは「むぐ」。道具が必要とか、簡単に剥(む)けないものは「へぐ」。【「へぐ」参照】 例：みかんは皮をむぐんがみやすい。 (みかんは皮を剥くのがたやすい。) 余談：「むぐ」と「へぐ」を、最近は厳密に区別して使ってはいないと思う。 例①：リンゴの皮をむいで食べんさい。 例②：リンゴの皮をへいで食べんさい。 このどちらも使う。昔は例②が普通だったと思うが、今頃は例①が多いと思う。
1912	むげる	剥(む)けること。剥(は)げること。 【「へげる」参照】 例：お湯につけたら、トマトの皮がペロッとむげたいやー。 (お湯につけたら、トマトの皮が簡単に剥けたよ。)
☆ ○ 1913	むさい	長持ちする。 言い方は「むさーえ」、「むさい」。「むさい」の語源は「法華経方便品」の「深入無際」の「無際(むさい)」で、際限がないことから、堅固な意味に使われたとの説と、「無際限」が名詞、形容動詞として使われているうちに、その中の「むさい」の終わりが「い」になっているので、「むさい」単独で形容詞として使われるようになったとの二説がある。 「むさい」は、元々①「意地汚い、卑しい」、②「汚らしい、むさくるしい」の意の中央語。「意地汚い(むさい)ほど長持ちする」ような使い方から派生したとも考えられる。 反対語は「けない」。今頃はあまり使われない。 【「けない」参照】 例：なんと、これはむさーえ飴っこじゃの。 (なんと、この飴玉は口の中で長持ちするね。) 余談：「むさい」は東京では「むさくるしい」の意味になる。「男ばかりでむさい」のように使うらしい。上記の②の意味である。

No.	見出し	説明
1914	むずがる	むずかる。 字は「憤る」。幼児が機嫌が悪く、泣いたりすねたりすること。子供がだだをこねる様子。今頃は「駄々をこねる」の方を使うか？ 【「ぐずねる(ぐすねる)」参照】 例：この子がスーパーで、アイスがいるゆうて、むずがって困ったいねー。 (この子がスーパーで、アイスがいると言って、むずかって困ったよ。)
1915	むちゃら くちゃら	無茶苦茶。
1916	むつこい	味がしつこい。くどい。脂っこい、濃厚な感じ。 「胸が『むかつく』くらい、味が『しつこい』から『むつこい』か？」と言いたいが、実は「むつむ(睦)」がもつれ合う意味で、しんねりと、もつれつくような感じを「むつい」と言い、それから、「むつこい」と言ったのが本当の由来。反対は「淡泊」。 広島でも言うが、山口県では防府や小郡は言わないようだ。周南では、西地区は「けどい」を使う。東地区は「むつこい」を使う。境界は旧新南陽市か？新南陽市の方言集には「むつこい」も「けどい」も両方収録されていた。しかし、岩国や柳井の方言集にも両方載っているの、昔は両方とも使っていたと思われる。【「けどい」参照】 例：この料理はむつこいねー。(この料理は味がしつこいね。) 余談：同じ語源からでた「むつれる」が「もつれる」になった。また、無愛想に黙ってる状態を言う「むつつり」も同様。
1917	むりゅー (むりょー)	無理を。 子音内の母音「イ」+助詞「オ」は概ね「ユー」、または「ヨー」と発音される。よって、「無理を(ムリオ)」が「ムルユー、ムリョー」になる。同様に「柿を食う(カキオクウ)」が「カキューク、カキョーク」、「何を言うか(ナニオイウカ)」が「ナニューユーカ、ナニョーユーカ」となる。 「イ」+「オ」を「イヨ」や「イー」と発音する人や地域もある。よって、「むりを」を「ムリヨ」、「ムリー」と言う場合も多い。 【「うち」、「きーつけて」、「きゅう」、「すじ」、「できだち」参照】 例：ええかー、むりゅーすなよ。(いいか、無理をするなよ。) 例：ええかー、むりょーすなよ。(いいか、無理をするなよ。) 例：むりよしちゃーいけんよ。(無理をしてはダメだよ。) 例：むりーしちゃーいけんよ。(無理をしてはダメだよ。)
1918	めいぼ (めぼ)	目にできる腫れ物。ものもらい(麦粒腫)。 言い方は「めいぼ」。「め」が強い言い方で、平板式に発音する「めーぼ(カワハギ)」と区別する。 大まかには、京都、滋賀、徳島、愛媛、福岡、宮崎は「めいぼ」、大阪、兵庫、奈良は「めばちこ」、関東、東北、島根、鹿児島は「ものもらい」、宮城は「ばか」、長崎は「めもらい」、熊本は「おひめさま」、広島、香川は「めぼ」、愛知、岐阜は「めんぼ」、新潟は「めっぱつ」、「めっぱち」、北海道は「めっぱらしい」。 ただ、山口県では「めいぼ」と「めぼ」は共生している。「めいぼ」は「め」+「いぼ」のようだが、「めぼ」は「め」+「まいと(陪堂)」の下側が欠落した言葉との説もある。【「できもん」、「めーぼ」参照】 余談：呼び名の続きで、福岡県が「おひめさま」、熊本が「おひめさん」、佐賀は「おきやくさん」との情報もある。ちょっと違う言い方が混在しているようだ。

No.	見出し	説明
1919	～めえー	～も良い。 「～もえー(～も良い)」が、「～めえー」になる。「moeー」の「o」が脱落する言い方で「meー」になる。 「来ても良いよ」が「来てもえーよ」になり、「来てめえーよ」となる。県中央部では、この言い方が残っているようだが、県東部では「も」が残っているひとつ前の「来てもえーよ」の段階の言い方が多いと思う。 【「～ないと」参照】 例：遊びに行つてめえーかね。(遊びに行つても良いかね。) 例：なんでめえーよ。(何でもえーよ。)(何でも良いよ。)
1920	めーたんご (めーたん)	めだか。(魚) 「めだか」だけでなく、生まれたての「はや」の子なども「めーたんご」と言っていた。「めーたん」とも言う。西地区(鹿野)の方言集には「けんぱい」、「ちんぱい」の言い方もあったが、我々は知らない。
1921	めーぼ (めいぼ)	カワハギ。(魚) 「ウマズラハギ」のことも「めーぼ」と呼ぶ。両方、「はげ」とも言う。 【「はげ」、「めいぼ」参照】
1922	めーめーする (めーする) (めんめ)	叱る。(幼児語) 「めーする」「めんめ」「めつめ」「めめ」「めめちー」とも言う。褒める時は「えーこえーこ」「おりこーおりこー」「ほんこほんこ」などを使う。 【「ほんこ」、番外の「幼児語」参照】
☆ ○	1923 めぐ (めげる)	壊す。壊れる。割る。割れる。 欠けたり、潰れたりして、壊れる。また、陶磁器などなら、割れる。言い方は「めぐ」、「めげる」。 自発的に行なう時は「めぐ(壊す・割る)」(他動詞)。「茶碗を、めーでしも一た(茶碗を、割ってしまった)」。他力の時は「めげる(壊れる・割れる)」(自動詞)。「茶碗が、めげてしも一た(茶碗が、割れてしまった)」。ぶち壊す時は「ちちめぐ」。 古い器物は木製が多い。それが押しつぶされる時、「めぎめぎ」と言う。「めぐ」はその擬音語を動詞化したものらしい。「めがす(壊す)」(未然形)とも言う。「めげた」は「壊れた・割れた」。 標準語で「めげる」と言えば、「気持ちがくじける」、「しょげる」の意味で使われるが、これは「壊れた」の意味から派生した意味。言い方は「めげる」。派生した意味が一般的に使われ、本来の意味は方言化して、山口、広島、四国、九州、近畿で使われている。 【「おーめげ」、「ごてる」、「やぶける」、「やぶつ」参照】 例：こりあー、めげたでえー。(これは、こわれたなー。) 例：《壊れたものを目の前にして質問》 めーだんか？ めげたんか？(壊したのか？ 壊れたのか？) 例：こりよーめがさんよーに、きーつけて、はこべーよ。 (これを壊さないように、気を付けて、運べよ。)
1924	めくそほど	ほんの少し。わずかな量ほど。 県内には他に「はなくそほど」、「つめくそほど」、「つめあかほど」等の似たような表現がある。【「つべくそ」参照】 例：あいつあーにぎりじゃけー、めくそほどしか、金を出さんのんちゃー。 (あの人はケチだから、ほんの少ししか、お金をださないのだ。)

No.	見出し	説明
1925	めげ	破片。 どちらかと言うと、「ほげ」の方を良く使っていた。「めげ」の使用頻度は下がっていると思う。【「おーめげ」、「ほげ」参照】
1926	めしゃぐ	潰す。壊す。 「めしゃぐ」は潰すだけでなく、壊す感じがある。 【「ひしゃぐ」、「へしゃぐ」、「みしゃぐ」参照】
1927	めしゃげる	潰れる。壊れる。 「めしゃげる」は「めぐ」の言葉からの連想があるからかも知れないが、壊れる感じがある。「ひしゃげる」、「へしゃげる」、「みしゃげる」とも言う。 【「ひしゃげる」、「へしゃげる」、「みしゃげる」、「めぐ」参照】 例：あの車は、めしゃげたで。(あの車は、壊れたよ。)
1928	めせせり (目擗)	目の前に群がる虫。メマトイ、ヌカカ、ブユ等。(虫) 目の前をしつく飛び回る虫の総称。「めつつき」とも言う。「ぶと」とか「ぶよ」とも言うが、群れて飛んでいるのは、実はほとんどは体長1～4mmの極小のハエである。「メマトイ(眼纏)」が和名で、「クロメマトイ」か「マドラメマトイ」が多い。また、「ヌカカ(糠蚊：糠のように小さい蚊)」のことも言うようだ。 【「ぶと」、「めつつき」参照】
1929	めたたき (目叩)	まばたき(瞬き)。 東地区(笠戸島)で使う。 余談：防府では、液体が器にいっぱい入っているさまのことを「めたたき」と言うようだ。
1930	めっきはない (めっきやー ない)	大したことはない。どうってことない。心配ご無用。 言い方は「めっきやーない」。東地区(東荷)や県東部(伊陸)で使う。鹿野の方言集に「めっき」で、「①責め問い糺す ②心配 遠慮 心痛」とあって、例として「めっきはありません(心配ご無用に願います)」と載っていた。同様の言い方を周南でもしていたようだが、我々は知らない。 なお、「めっき」の意味は「滅鬼積鬼(めっきしゃつき：①地獄の鬼の名 ②厳しく責めて問うこと)」の「めっき」かも知れない？
1931	めっそー	目分量。 おおざっぱに見る時は「おおめっそー」。検知を行う時は竹竿を測量尺として用いたので、以来、「さお」と言う言葉が「物差し」の意に使われた。目測を「めさお(目竿)」と呼んだのが、この言葉の最初。「滅相もない(とんでもない)」の「めっそー」とは違う。 【「あてっぽうに」、「えいやー」、「ええころはちべえ」、「おおめっそー」参照】 例：今、この会場に何人おるか、めっそーでええからゆうてみいや。 (今、この会場に何人いるか、目分量で良いから言って見ろ。)
1932	めったごしょうに	長い間。 「滅多に」を強調している。【「ながしゅう」、「ひーさ」参照】 例：近いのに、めったごしょうに、会わなかったねー。 (近いのに、長い間、会わなかったね。)
1933	めったと (滅多と)	滅多に。 例：《めずらしいことが起きた時》 そねーなこたー、めったとないことじゃ。 (そんなことは、滅多にないことだ。)

No.	見出し	説明
○ 1934	めっちゃ	とても。非常に。 「滅茶(めちゃ)」の転。「滅茶」は「むちゃ」の転。関西圏はこの言葉。「滅茶苦茶」、「滅茶滅茶」を縮めた言葉か? 「めっちゃ、うれしー(とても、うれしい)」と使う。
1935	めつつき	目の前に群がる虫。メマトイ、ヌカカ、ブユ等。(虫) 目の前に群がる虫の総称。西地区(福川、湯野)、東地区(笠戸島)で使う。「めせせり」とも言う。「ぶと」とか「ぶよ」とも言う。 【詳しくは「ぶと」、「めせせり」参照】
1936	めにお一た	ひどい目に遭(あ)った。難儀した。 「あった」の促音「ッ」がウ音便化して「オー」と発音されるため、「あった」は「お一た」になる。【「こう」、「たう」参照】 例: えらいめにお一たいやー。(大変な目に遭ったよ。) 例: あのげんばー、工期が短かったけー、めにお一たいや。 (あの現場は、工期が短かったので、きつかったよ。)
1937	めんどしい	①面倒くさい。煩わしい。②騒々しい。やかましい。 昔は「見苦しい」の意味でも使っていたようだが、今は、使われていないと思う。【「めんどーない」参照】 余談: 愛媛や高知、大分では「恥ずかしい」を「めんどしー」と言うらしい。
1938	めんどーない (めんどうし ない)	①不体裁。かっこ悪い。面目が立たないこと。 ②面倒くさい。億劫(おっくう)な。 「めんどうし ない」とも言う。「めんどう」は「め(目)」と「だうな」の合わさったもので、「だうな(どうな)」は「名詞、または動詞の連用形に下接し、無益に消費すること、無駄になることの意を表す」と「角川古語大辞典」にある。 中世までは、「だうな」と書いて「どうな」と読み、「目」が上接して「めどうな」になった。これは、「見るのも無駄な」の意味である。そこから、「体裁が悪い」、「見苦しい」、「恥ずかしい」の意味になったと考えられる。これに、「面倒くさい」、「煩わしい(わずらわしい)」の意味が加わるのは近世になってからである。 よって、「めんどーない」は「面倒が無い」のではなく、「めどうな」が「めんどーなー」になり、「めんどーなえー」、「めんどーないー」に変化したと思われる。「めんどーない身形(みなり)をしてからどーかね(体裁の悪い恰好をしてからどうかね)」のように使う。 また、「面倒」の語源は、上記の他に、「おもぶせ: 面目なくうつむくこと」の当て字、「面倒(おもぶせ)」の音読と言う説や、「愛で憂い(めでうい)」や「目遠い」が語源だとする諸説がある。 【「ほーとくない」、「めんどうしい」参照】
1939	めんめ	①自分。自分自身。②お前。あんた。③各自。おのおの。 「面々」が語源。鎌倉時代から「各自、おのおの」の意味で使う。室町時代に「みんな」の意味になり、相手を呼ぶ時に使うようになった。「銘々(めいめい)」は「めんめん」が変化したもの。【「めんめえ」参照】 例: そねーなこたあー、めんめがやれーや。(そんな事は、自分でやれ。) 例: めんめのことも、ろくによーせんのに、ねんごーをたれるな。 (自分のことも満足にできないのに、生意気なことを言うな。) 例: こねーなことせたのは、めんめか。 (こんなことをしたのは、お前か。) 例: こりゃーめんめでやることにしよーでよ。 (これは各自でやることにしようよ。)

No.	見出し	説明
1940	めんめえ (めんめ) (めえめえ)	面々。おのおの。各自。それぞれ。 まとまれば「めんめらー」。「めんめごー」は「各自で」。「めんめ」は「銘銘」のこと。「めんめ」は「自分」や「お前」の意味で使うが、「めんめえ」や「めえめえ」とちょっと伸ばし気味に言う時は「おのおの、各自」の意味になる。 【「めんめ」参照】 例：《行事の準備で遅くなった時に》 は一遅いけー、後はめんめえでやって来ることにしようやー。 (もう遅いから、後は各自でやってくることにしようよ。) 余談：周防大島では「各自それぞれに」することを「めいめいがちがち」、または「めんめがちがち」と言うようだ。
1941	めんめらー	面々の複数のこと。 例：そねーなこたあー、めんめらーでやれーや。 (そんな事は、自分達でやれ。)
1942	もえくさし	燃え残り。燃え止(さ)し。 薪や炭が十分に燃えずに残っている状態。【「くさす」参照】
1943	もーごーじい	頑固爺さん。 「もーごー」が「訳が分からない、筋が通らない言動、また、その人」の意味のようだ。よって、そんなことをする爺さんの意味か？ 柳井や平生で、昔、言っていたとの情報で収録した。
1944	もーた	目まいがした。眩(ま)った。 例：目がもーた。(目がまわった。)
1945	もがり	柿の実をもぐための道具。 竹の先を半分に割り、小枝か藁をはさんで縄で縛ったもの。田布施や光では「もがり」と言う。「わらばさみ」、「わりばさみ(割鋏)」とも言う。但し、須佐の方言集に「もがり：柄の先に鉤(かぎ)状の枝を付けたひっかけ道具」とあった。「わりばさみ」と「もがり」の本来の形は違っていたと思われるが、竹竿の先で物を取ることから混同して使われたか？ 字は「藻刈」か？ 【「かんまた」、「わらばさみ」参照】
○ 1946	もくひつ (木筆)	鉛筆。 「日本方言辞典」に載っている各地の呼び名を書くと、「からふで(富山)、きぺん(青森、岩手)、ぺん(福井、和歌山)、ぺんぺつ(広島賀茂郡)、ほくしつ(富山)、ほくひつ(徳島)、ぼけひつ(滋賀)、ぽとこ(山口都濃郡)、ぼとと(静岡)、もくひつ(山口、熊本)、もくぺん(宮城)」とある。「ぽとこ」に興味は湧くが都濃郡のどこで言っていたのかまでは分からない。東地区(下松)では「えんぺつ」とも言っていた。
1947	もげない	あつけない。 「もつけの幸い」と言う言葉は「設けぬ幸い」で思いがけない幸せの意。「もげない」も「設けない」を早口で言ったもので、期待外れの以外さを述べた言葉と言う説もあるが、「もつけ」は思いもかけないさま、とんでもないさまを表す「物怪」に由来する言葉ともあるので、「もつけない」が「もげない」に変化したのかも知れない？ また、昔は「無愛想」の意味でも使っていたようで、周防大島の方言集に「もげさく：無愛想な人」とあった。 【「けない」参照】 例：もげなかったのー。 (あつけなかったねー。)《命が長くもたなかった。》

No.	見出し	説明
○ 1948	もげる (掬げる)	取れる。外れる。 取っ手やつまみ等のくっついている物が、外力に負けて取れて落ちる。意識的にするときは「もぐ(もぎ取る)」。「ちぎる」参照 例:このつまみが、もげたいやー。(このつまみが、外れた。)
1949	もさ	小さいさめ(鮫)。(魚) 40センチ位の小さい鮫。小さい鮫の種類や鮫の子などを指して呼んだ。東地区(室積、束荷)から西地区(福川)までの沿岸部主体で使う。柳井や周防大島の方言集にもあったので、県東部では使っていた方言のようだ。
1950	もしゃぐる	紙などを揉みくしゃにすること。 「もんで、くしゃくしゃ」にするから、「もしゃぐる」かと思ったが、「もじる(振じる)」が「もじくる」→「もしゃぐる」となったようだ? 【「ももぐる」参照】 例:手紙を書きかけちゃー、 うまいこと書けんで、もしゃぐるんちゃー。 (手紙を書きかけては、 上手に書けないので、揉みくしゃにしてしまうのだよ。)
1951	もちいと (もちっと) (もそっと)	もう少し。 「『もう』+『ちい』か?」と思ったが、昔は「まちー」とも言っていて、「ま」は「今」の略で、「ちー」は「小(ち)」で「小さい粒」のことらしい。よって、少ない意味になる。言い方は「も <u>ちー</u> と」。 同様の言い方で「もそっと」とも言う。これも昔は「まそっと」とも言っていて、「ま」は同様に「今」の略。「そっと」は「そうと(狭う所)」で、これは少しの意味。言い方は「も <u>そ</u> っと」。 例:も <u>ちー</u> と、どねーかならんかねー。 (頼む、もう少し、どうにかならんかね。) 《「もちーと」の中に、「頼む」という気持ちが入っている。》 例:もちっと、積んでもらえんかねー。 (もうちょっと、積んでもらえないかな。)
1952	もちばらき (餅ばらき)	餅まき。 県内では「餅まき」が主流だが、下松や柳井では「餅ばらき」も使われている。広島でも使う。調べて見ると、棟上げや神事の時に餅をまくことを、東日本で「ぐしもち」、「ごしもちまき」、「ごちもち」、九州南部で「ひとんぎ」、「ひとんぎょ」、「ひとんぎょう」と言っていた。他に、中部、関東や岡山、広島備北では「餅投げ」、和歌山や淡路島では「餅ほり」、広島の大竹では「せんぐう」と言うらしい。「遷宮」の行事に関係しているようだ。他にも各地でいろいろな呼び名があるようだ。
1953	もつとのこと	もう少しのこと。 言い方は「も <u>つ</u> とのこと」。 例:もつとのこと、汽車に遅れるところじゃった。 (もう少しのこと、汽車に遅れるところだった。)
○ 1954	もてる	保てる。保存できる。存続できる。耐久性がある。長く使用できる。 字は「持てる」。当然、「持つことができる」、「人気がある」と、「持てる力」や「持てる国」のような「持っている」、「豊かである」の意味でも使う。反対は「もてん(保てない)」。 例:冷蔵庫にいれちょきゃー、もてるいやー。 (冷蔵庫に入れて置けば、大丈夫だよ。)

No.	見出し	説明
1955	もてん	保てない。堪えられない。たまらない。 当然、「持つことができない」や「もてない(人気が無い)」の意味でも使う。 例:《かなりひどいことを言われて》 そねーなことを言われたら、もてんでー。 (そんなことを言われたら、堪えられないよ。)
1956	もと	地面。大地。 【「じべた」、「どべた」参照】 例:はだしで、もとに下りるなよ。(裸足で、地面に下りないように。)
1957	もとーらん	①能率が悪いこと。やり方が遅いこと。手緩い(てぬるい)こと。てきぱきして いないこと。 ②くだらない。③気が利かない。④余計な事。いらんこと。 ①の意味の応用として、寒くて、かじかんで口が思うように動かない時や、 酔っ払って呂律が回らない時にも使う。 反対は「もとーる(思うように動く)」。 【「すどい」、「ぬるい」、「もとーる」参照】 例:ちいーと、もとーらんの一。(ちょっと、下手だなー。) 例:あいつは口がもとーらんけー。(あいつは口下手だから。) 例:さむーて、口がもとーらんでね。(寒くて、口が思うように動かないよ。) 例:もとーらんことをするな。(いらんことをするな。)
1958	もとーる	①能率がよい。てきぱきとすること。②素晴らしいこと。 ③気が利くこと。④役に立つこと。 昔は中央語で、「回る、めぐる」と言う意味。「役に立つ」等の意味はこれか ら派生している。反対は「もとーらん(思うように動かない)」。 「もとーらん」は良く使うが、「もとーる」はほとんど使わない。「『もとーらん』 ことをしている人」に「反対のことをしろ」と言う意味で「『もとーる』ことをし ろ」と言う程度。【「すどい」、「もとーらん」参照】 例:もうちいと、もとーることをせーやー。 (もう少し、ちゃんとしたことをしろよ。)
1959	もどりしな	帰る途中。戻る途中。帰り掛け。 【「いきしな」、「いにしな」、「おりしな」、「かえりしな」、「～しな」参照】 例:いまー時間がないナー、もどりしなに、寄るいやー。 (今は時間が無いから、戻る途中に、寄るよ。)
1960	ものをゆう (ものーゆー)	会合などで最初に挨拶をすること。 【「ものをゆわん」、「ゆう」参照】 例:ものをゆうーてもろーてから始めようかのー。 (挨拶をしてもらってから始めましょう。)
1961	ものをゆわん (ものーゆわん)	無口なこと。 「ものーゆわんこと」となると「静かにしろ、黙っておけ」の意になる。 【「ものをゆう」、「ゆう」参照】 例:あいつあーものーゆわんけー。(あいつは無口だから。)
1962	もぶる	塗りつける。塗(まぶ)す。 まぶす量が多い時は、「もぶりつける」。「まぶる(塗る)」も使うがこれは標 準語。【「まぶれる」、「もぶれる」参照】 例:餅にきな粉をもぶって食べた。(餅にきな粉をまぶして食べた。) 余談:岩国や和木では「もぶる」を「混ぜる」意味にも使うようだ? 「もぶり」 は「混ぜご飯」のことらしい。

No.	見出し	説明
1963	もぶれる (もぶれつく)	①群がる。②付着する。③子供が戯れてまとわりつく。 皺(しわ)が多いのは「しわもぶれ」。泥まみれは「どろもぶれ」。 【「しわもぶれ」、「どろもぶれ(どろまぶれ)」、「まぶれる」、「もぶる」参照】 例：《蜂の巣を見て》 蜂がもぶれついちよるね。(蜂が群がっているね。) 例：油もぶれになって作業しちよる。 (油まみれになって作業している。) 例：あの子らーが、お母さんにもぶれついちよるね。 (あの子達が、お母さんにまとわりついてるね。) 注：KRYテレビで若い女性アナウンサーが「まぶれつく」、「まぶれついちよる」を使うと言っていた。若い人が使うのは方言の「もぶれる」より標準語の「まぶれる(塗れる)」の方が優勢かも？
1964	もます	もめさせる。混乱させる。乱す。 「～をもむ」と言う他動詞の未然形に、使役の「す」が付いて「もます」になった。江戸時代は中央語だが、現在は方言。自動詞の「もめる」は標準語。 例：そねーに話をもますないやー。 (そんなに話を混乱させるなよ。)
1965	もみだね うしない (粃種失い)	アイナメ(鮎魚女)。(魚) 売りに来ると、おいしいので、つい「粃種(もみだね)」、つまり「来年用の種もみ」を出してまで買ってしまおうということで、「粃種失い」と言われた。他には「あぶらめ」や「おつむぎ」とも言う。 【「あぶらめ」、「おつむぎ」参照】
1966	もめかやす (もめかやる)	ひどくもめること。 例：あいつがもとーらんことを言うから、もめかやしたいやー。 (あいつがくだらないことを言うから、ひどくもめたよ。)
1967	もめら	彼岸花。(植物) 花が済んで、冬の葉のある時や球根のことを「もめら」と言う。 西地区で使用。
1968	ももぐる	揉みくしゃにすること。 紙などを揉みくしゃにすること。紙などを丸めて、ぐしゃぐしゃにすること。「もみくる」を言い易くした言葉。「ももぐる」より、最近では「もしゃぐる」の方を言うかな。また、「ももぐりあう」、「ももぐりおーちよる」と言えば、子供達もみくしゃになって遊んでいる状態を言う。 昔は、口の中でしゃぶることも「ももぐる」と言ったようだが、我々は使っていない。【「もしゃぐる」参照】 例：その紙をももぐって捨てんさい。 (その紙を丸めて捨てなさい。) 例：ももぐって、てぶってしも一た。 (ぐしゃぐしゃにして、捨ててしまった。)
1969	ももたぶら (ももた)	腿(もも)。 「ももた」とも言う。 例：《炎天下で作業をしていて熱中症気味になって》 ももたまでつったから、こりゃーいけんとおもーたいやー。 (ももたまでつったから、これはいかんと思ったよ。)

No.	見出し	説明
○ 1970	もやい (催合い)	同じものを共有して使うこと。 「最合い」とも書く。同じような言葉の「舳い」は船を繋ぐ時に使う。一般的には「お」を付けて丁寧な言い方の「おもやい」を使う。「もやいっこ」はお互いにし合うこと。「もやあえー」とも言う。 「共有する」という意味の「もやう」の連用形が名詞化したものと言う説と、「もやい」の語源は「むあい」で「身合い」のこと。二つのものが身一つになって離れないことを言う。二つの舟を互いに繋いだものを「舳い舟」と言うが、これも元は「身合い舟」と言う二説がある。 なお、「催合い」も「舳い」も元は同じ言葉から発している。元中央語。 【「おもやい」、「～やい(～やいこ)」参照】 例:このおもちゃは、おもやいにしーよ。 (このおもちゃは、一緒に使いなさいよ。)
1971	もやいで (もようて) (もよーて)	共同で。一緒に。 言い方は「もやいで」。「もやいて」がウ音便化して「もやうて」→「もよーて」になった。 例:このおもちゃは、もやいで使おうね。 (このおもちゃは、いっしょに使おうね。) 例:このどーがあー、もよーてつかおーいでね。 (この道具は、共同で使おうようにしようね。)
1972	もよーす (催す)	①[兆候を示す。] ②雨が降りそうになる。 昔は雨が降りそうな時の朝夕の挨拶に「もよおしますのー」と言ったようだ。 なお、①は国語辞書にある内容で「小便をもよおす(小便をしたくなる)」の形で使う。同じように天も雨の兆候を示しているの、②の意味に使うと考えられる。
1973	もろーた	もらった。頂いた。 ワ行五段動詞連用形の活用語尾の促音「ッ」がウ音便化するため、「もらった」が「もろーた」、「もらって」が「もろーて」となる。よって、「見せてもろーた」は「見せてもらった」のこと。「よしてもろーた」は「入れてもらった」のこと。 【「おう(会う)」、「くれちゃった」、「よして」参照】 例:この人形をもろーたいね。(この人形をもらったよ。)
1974	もろぶた	長方形の浅い木の箱。 餅などを一時的に並べて重ねて用いることや、自家味噌を作るのに使っていた。
1975	もろもき (もろば)	裏白。(植物) 正月のお飾りに使うシダ。「もろもき」は西地区、「もろば」は県東部(周防大島)で使う。他に「もろむき」、「もろぶき」とも言ったようだ。
1976	もんぐり もんぐり	①口を開けずに物を噛むさま。②口ごもるさま。 「もぐもぐ」のこと。 【「ほんがほんが食べる」参照】 例:よー、もんぐりもんぐりして食べーよ。 (良く、噛んで食べなさいよ。) 例:なによーもんぐりもんぐりしよーんかね。 (何を噛んでいるのかね。) (何を口ごもっているのかね。→早くしゃべりなさい。) 余談:良く噛むことを幼児語では「がんじ がんじ しょう」と言う。

No.	見出し	説明
1977	～や (～やー)	～よ。～だよ。 文末に付けて、念を押し、意味を強め、軽い感動を表す。しばしば、念を押す気持ちを添える助詞「い」の後に付く。男性が良く使う。女性は「～ね」の方を使う。 【「～い」、「～いね」、「それいね(その2:い)」、「～だい」、「～ちゃー」、「～で」、「～ど」、「～ね」、「～のー」参照】 例:そねーなこたー、知っちゃるいやー。 (そんなことは、知っているよ。) 例:遊びにいいーいや。 (遊びに行こうよ。) 例:はよ、きーや。 (早く、おいでよ。) 《「きー」を強く言うと、「早く来なさい」になる。》
1978	〇〇やー (例:話しゃー) (〇〇やー) (例:言やー)	〇〇ば。 標準語の仮定形の「〇〇ば」の「ば」が「やー」または「やー」になる。標準語の「言えば」が「いやー」、「話せば」が「話しゃー」、「見れば」が「見りやー」、「食べれば」が「食べりやー」、「無ければ」が「無けりやー」となる。 【詳しくは「りやー(しゃー)(きやー)(～やー)」参照】
1979	やーや	①やれやれ。 ②落とす。壊す。失敗する。(幼児語) 失敗した時に発する言葉。幼児語として使う時は、失敗の事象そのものになる。 【「あいた」、「いーい」、「えー えっ」参照】 例:やーや、やってしまうたー。 (やれやれ、失敗してしまった。) 例:《物を落として壊した時、子供に》 やーやしちゃった。 (落としてしまった。)(壊してしまった。)
1980	やーやー言う (やあやあ言う) (やあこら やあこら言う)	①文句を言う。不平、不満を言う。 ②騒ぐ。 ③せき立てる。 標準語で挨拶に使う「やあやあ」や、武士が使う「やあやあ、我こそは〇〇なり」とはちょっと違う。なお、「言う」は「ゆー」になる。 【「ごんごん」、「ちゃーちゃー言う」、「ちゃぶちゃぶ言うな」、「へんじょーこんごー」、「やんやん言う」、「わあこら わあこら言う」参照】 例:そねーに、やーやーゆーないや。 (そんなに、文句を言うなよ。) 例:周りのもんが、やーやーゆーんちゃ。 (周りの者が、せき立てるんだよ。)
1981	やーやーする	果物の皮を剥くなど、状態が良いようにする。(幼児語) 【番外の「幼児語」参照】 例:かきよーやーやーしてたびよーかね。 (柿の皮を剥いて、食べようかね。)

No.	見出し	説明
1982	～やーる (～やる)	～しなさる。 もともと、室町時代末期以降にラ変動詞「あり」の連体形「ある」が変化した中央語で、動詞や動詞型活用をする助動詞の連用形に付く。動作主への軽い敬意や親愛の情を表す助動詞。 「や」はしばしば前にある動詞・助動詞の活用語尾と融合して拗音化する。たとえば、「寝やーる」→「寝りやーる」、「食べやーる」→「食べやーる」、「知ちよりやーる」→「知ちよりやーる」、「行きやった」→「行きやった」、「読みよりやった」→「読みよりやった」という具合に音韻変化する。 ただし、最近は使用率は下がっており、「～ちゃった」や「～て」を使う率が高い。「ねやった(寝られた)」が「ねちゃった」、「おりやらん」→「おりやーらん(居られない)」が「おっちゃんない」、「まっとりやーるよ(待っておられるよ)」が「まっちゃってよ」など。 【「～ちゃった」、「～て(～で)」参照】 例：課長がそう言いやーるんじゃから、 しょうがないやー。やろーいや。 (課長がそう言われるのだから、 仕方がない。やろうじゃないか。) 例：じーさまー、はー寝やったでの。 じーさまー、はー寝りやったでの。(爺様は、もう寝なさったぞ。)
1983	やーれのう (やーれやー)	おやおや。やれやれ。 軽い失意を表す。「やーれやー」とも言う。 例：やーれのう、とうとうダメじゃったかー。 (おやおや、とうとうダメだったか。) 例：やーれやー、かわいそうなことーしたのー。 (やれやれ、かわいそうなことをしたなあ。)
1984	～やい (～やいこ)	～(し)合い。 「やい」は「あい(合い)」の訛ったもの。互いにその動作をし合うこと。「話しやい(話し合い)」、「走りやいこ(徒競走)」、「引っ張りやいこ(綱引き)」、「なぐりやいこ(喧嘩)」等。今頃はほとんど使わないか? 「もやいやいこ(お互いがし合う、手伝う)」が縮まった「もやいっこ」もほとんど使われない。 【「とりがー」、「とりやいっこ」、「もやい」参照】
1985	やいこらしい (やえころしー) (やえくろしー)	ややこしい。複雑な。面倒な。 「やえころしー」「やえくろしー」とも言う。最近は「ややこしい」が普通か?
○ 1986	やいとを すえる (灸をすえる)	①お灸をする。②子供に、お仕置きをする。 「焼処(やきと)」の転。大まかな区分ではフォッサマグナより西は「やいと」、東は「きゅう」だが、奄美大島は「やちゅ」、青森、長崎は「やひ」、鹿児島は「いえつ」、大分、高知は「きゅう」と違いもある。分布から考えると「やつ」類が一番古く、「やひ」類がその次、次が「きゅう」類で、一番新しのが「やいと」類になるようだ。 例：わりー事ばっかししちよると、やいとをすえるよ。 (悪い事ばかりしていると、お仕置きをするよ。)
○ 1987	やうつり (家移り)	引っ越し。 国語辞書にも載っているが、全国各地で方言化しているらしい。
1988	やえ	犬に付くダニ。(虫)

No.	見出し	説明
1989	やおい	①柔らかい。軟らかい。②優しい。弱い。③たやすい。容易。 「弱い」の「よ」が「や」に転じて、「やわい」。「やわい」から「やおい」に転じた。 「ア」が「オ」に母音交替をした例。①は物や体に対して、②は人の態度や性格、気候に対して、③は物事に対して使う。①の反対は「固い」と「きすい」。固い状態が「柔らかくなっている」と言いたい時は「やおっちょる」とか「やおーなっちょる」と言う。 【「きすい」、「みやすい」、「やおーない」、「やおーやる」参照】 例：このとふあ二、ちーとやおいの一。 （この豆腐は、ちょっと軟らかいな。） 例：《前屈で体が良く曲がっている人に》 あんた一体がやおいねー。（あなたは体が柔らかいね。） 例：あんなー、人がやおいけえ。 （あの人は、性格がやさしいから。） 例：こりょーするなー、やおーにやーいかんじろーでよ。 （これをするのは、容易ではないだろうよ。） 注：母音「ウ」+助詞「ワ」は「ウアー」と発音される。「豆腐は（トーフワ）」は「トーフアー」、「靴は（クツワ）」は「クツアー」となる。
1990	やおーない (やおーはない)	①柔らかくない。固い。②強い。強靱。弱くない。（精神的に） ③難しい。容易でない。 「やおーはない」とも言う。「やおーない」の反対は「やおい」だが、③の反対語としては「みやすい」もある。 【「みやすい」、「やおい」参照】 例：このもちは、やおーないよ。（このもちは、固いよ。） 例：あの人はそねーにやおーはないと思うよ。 （あの人はそんなに精神的に弱くはないと思うよ。） 例：あんたらがゆーほど、この仕事はやおーないでー。 （あなた達が言うほど、この仕事は容易ではないよ。）
1991	やおーやる	やわらかくすること。ゆっくり弱めに進めること。 例：もうちーと、やおーたたいてみーいや。 （もう少し、弱くたたいてみろ。） 例：課長も休みじゃし、やおーやろうで。 （課長も休みだから、ゆっくり仕事しようよ。）
1992	やおじ	地（性格）がやさしいこと。 例：やおじの、おとなしい子じゃねー。 （性格がやさしい、おとなしい子だね。）
○ 1993	やかましい	①面倒くさいこと。手間を取る。 面倒くさくて、体が疲れる時は「たいぎいー」。作業内容そのものが本当に面倒な時は「やかましい」。煩わしい（わずらわしい）こと。 【「しろおいしい」、「たいぎい（たいぎな）」、「やねこい」参照】 ②厳しい。 「やかましゅーゆうちよいた」は「厳しく言っておいた」となる。逆に「やかましゅー言われた」と言う時は、「厳しく言われた」と言う意味が転じて、「しかられた」となる。 なお、音がうるさいのも「やかましい」。 例：こねーにやかましいこたーやめちよけーやあー。 （こんなに面倒くさいことは止めたらどうだ。）

No.	見出し	説明
1994	やきだち	焼き立て。 言い方は「やき^ノだち」、または「<u>やきだち</u>」。 【「～だち(立ち)」、「できだち」、「でだち」参照】 例：この<u>いもあー</u>やきだちじゃから、熱いぞ。 (この芋は焼き立てだから、熱いぞ。) 注：子音内の母音「オ」+助詞「ワ」は「アー」、または「オアー」と発音される。 よって、「芋は(イモワ)」は「イマー」「イモアー」になる。
1995	やくたいもない	役に立たない。無益な。 【「やちもない」、「しょーもない」参照】 例：そねーな、やくたいもないことをするな。 (そんな、役に立たないことをするな。)
1996	やけのかんぱち	自棄(やけ)のやんぱち。やけっぱち。自暴自棄。
1997	やし	ずるいことやだますこと。また、その人。 「香具師、てきや」のことから転じたか？ 県西部では「やしをくる(ずるいことをする)」、「やしくり(ずるい人)」、「やしくりな(ずるいような)」、「やしくるよーな(ずるいことをするような)」と言うようだが、県東部では「やしよーする(ずるいことをする)」、「やし(ずるい人)」、「やしよーするよーな(ずるいことをするような)」等の言い方が多い。 例：そりゃあー、やしじゃいやー。 (それはずるいよー、だましたようなものだ。) 例：あいつあーやしじゃナーのー。 (あいつはずるいやつだからなあ。) 例：やしよーしちゃーいけんよ。 (ずるいことをしてはダメだよ。) 余談1：近畿は「すこい」(「こすい」の倒語)、その外周は「こすい(狡い)」、さらにその外周は「ずるい」のようだが、四国は「へらこい」が多いようだ。「やし」は山口県特有か？【番外の「方言周圏論」参照】 余談2：「へらこい」は、「①ずるい」以外に、各地で「②横着だ。③生意気だ。④ずうずうしい。⑤なれなれしい。⑥頑固だ。」等の意味で使われている方言。
1998	やじやじ	いらいら。 西地区で使用。周防大島でも言うらしい。 例：そう、やじやじするな。(そう、いらいらするな。)
○ 1999	やたら (矢鱈)	むやみ。みだり。無茶。 国語辞書に載っているのだから標準語かも？ 例：やたらと、元気がええのー。(むちゃくちゃ、元気がいいなあ。) 例：おおやたらをゆーんちゃー。(大出鱈目を言うのだよ。)
2000	やだれ (屋垂れ)	軒下(のきした)。 字は「屋垂れ」。軒先の垂木(たるき)の木口(こぐち)を隠すために付ける長い板を「鼻隠し」または「尾垂れ」と言う。その「尾垂れ」から転じて「家屋」の「垂れ(庇)」で軒下のことを「屋垂れ」と言うようになったようだ。なお、家の周りは「かわち」と言う。【「かわち」参照】

No.	見出し	説明
2001	やちもない (やーちもない) (やっちもない) (やちもなえー)	くだらない。無益な。埒もない。埒(らち)が明かない。労して功無きこと。物事の埒らぬこと。役に立たないこと。 「由(よし)もない」が「よちもない」になり、さらに「やちもない」に訛ったと言う説と、「埒(らち)もない」の「ら」が音韻変化して「や」になったと言う二説がある。「やーちもない」とか「やっちもない」とも言う。山口弁の正調は「やちもなえー」になる。くだらないことを言われた後の返事として使うこともある。その時は「やちもなえー(くだらん)」になる。 【「しょもない」、「やくたいもない」、「らちゃあかん」参照】 例：やちもないことをするな。(無益なことをするな。) 余談：「埒もない」の「埒(らち)」は、「①馬場の囲いの柵 ②臈次(らっし)の転。物事の順序、秩序」のこと。よって、「らちもない」は①の「柵」から「くぎりが無い」ことになり、また、②の「臈次」から「順序、秩序がない」ことになり、「筋道が立たない、乱雑である、つまらない」の意味になったと思われる。
2002	やっさで	急いで。 「やっさもっさで」の短縮形。 例：やっさで帰る。(急いで帰る。)
○ 2003	やっさ もっさ	①急ぐこと。②うろたえること。 ③[てんやわんや。大勢でゴった返すさま。] 注：③は国語辞書にある使い方。
2004	～やった	～なされた。～あった。 「あった」の転音。「きやった(来なされた)」、「しやった(為やった)」、「みやった(見られた、見なされた)」、「寝やった(寝なされた)」、「いにやった(往なれた、帰られた)」、「しにやった(死なされた、亡くなった)」、「しりやった(知られた)」等の使い方をする。 「来」、「為」、「見」、「寝」の様に一字の後には「やった」だが、「往に」、「死に」、「知り」の様に二字の後には、「往にやった」、「死にやった」、「知りやった」で、その言い方は、「いにやった」、「しにやった」、「しりやった」のように言うこともある。【「～ちゃった」参照】
2005	やっちよります いーね	やっていますよ。していますよ。 言い方は「 やっちよります いーね」。ちょっと照れて言う時の言い方？ いばって言う時は「こねーなことをやりよるんちゃー」になる。 【「やっちよる」、「やりよる」参照】 例：《今頃何をしているのと聞かれた時に》 こねーなことを、やっちよりますいーね。 (こんなことを、やっていますよ。)
2006	やっちよる	やっている。済ましている。 「やっておる」の短縮形。「やりよる」は進行形。「やっちよる」は進行形でも使うが、完了形でも使う。【『～ちよる』『～ちよく』『～ちやる』『～ちゃれ』『～ちよけ』、「やっちよりますいーね」、「やりよる」参照】 例：今、やっちよるよー。(今、やっているよ。) 例：そりー、もうやっちよるよ。(それは、もうやっているよ。) 例：そりー、もうやっちよいたよ。(それは、もうやっておいだよ。)

No.	見出し	説明
2007	やでない (やぜない)	①煩わしい(わずらわしい)。②うるさい。気忙しい。 ①は、あせもや火傷で皮膚が荒れた時や、肌にとべとべとしたものが付いたような時に、「やでない」と言う。東地区(笠戸島)で使う。 ②は、「子供が泣いてやでない」のように「うるさい、気忙しい」などの「気持ち」の方に使う。 本来は「やぜない」だが、山口弁では「ザ、ゼ、ゾ」が「ダ、デ、ド」になるので「やでない」と言う。今頃は、あまり使わない方言になっているが、昔は全県で使われていた。 【「ほーとくない」、「よーそけない」参照】 例：なんとまー、やでない時に、やでないことーゆーて来たのー。 (なんと、気忙しい時に、面倒くさいことを言って来たな。)
2008	やと	奴(やつ)。 「あいと」とも言う。 例：あいつぁー悪いやとでー。(あいつは悪いやつだよ。)
2009	やねこい	①厄介で難しいこと。厳しい。困難。 ②気難しい。融通がきかない。③しつこい。 「脂濃(やにこい)」の転音。「やねこい人」と言えば、松脂(まつやに)のようにねばねばした性格の人と言う意味で使う。反対は「みやすい」。 【「いたしい」、「みやすい」、「やいころしい」、「やかましい」参照】 例：やねこい作りじゃのー。(難しい作り方だなあ。) 例：そねーに、やねこいことーゆーないや。 (そんなに、難しいことを言うなよ。) 例：あの人、やねこい人だねー。(あの人、難しい人だねー。)
2010	やばる	やきもちを焼き、独占したいため、相手を押しのけること。また、その様子を見せてぐずっている状態。 よくやばる人は「やばり」。「やばる」は、標準語に置き換えるのがなかなか難しい言葉である。東地区、県東部で主に使う。西地区では「せばる」を使う。 昔、県東部は「せばる」と「やばる」の両方を使っていたようだ。「せばる」は「欲張って一人占め」、「やばる」は「嫉妬して一人占め」する意識が強い時等の使い分けがあったのかも知れない？ 【「せばる」参照】 例：下の子がお母さんといっしょにおるから、 おねえちゃんがやばっちゃうね。 (下の子がお母さんといっしょにいるから、 お姉ちゃんが、やきもちを焼いて、ぐずっているね。) 余談：「日本方言大辞典」によると、「やばる」は、長野では「自説を言い張る」、和歌山では「小言を言う」、淡路島では「叫ぶ」、茨城では「いばる」、三重や奈良では「茂る」と言う意味になるようだ。語源は違うと思うが、「やばる」と言う同じ言い方になっていると思われる。
2011	やびやびする	ヒリヒリする。むずがゆい。 日焼けや火傷で皮膚がヒリヒリする状態や、寒腫れ(しもやけ)で手の甲などが真っ赤にはれあがったり、おできが出来てむずがゆい違和感があることを「やびやびする」と言った。 我々の親世代は普通に使っていたようだが、今ではほとんど使われていないと思う。西地区では「びやびやする」とも言う。この炎症がひどくなったら「うじゃける」らしい。 【「びやびやする」、番外の「昔の言葉、行事？」の「うじゃける」参照】

No.	見出し	説明
☆ 2012	やぶける (やぶれる) (やぶてる)	壊れる。 紙を破るだけでなく、機械が動かなくなった時にも使う。字は「破ける」か？ 「紙がやぶける(さける)」は標準語。「機械や電化製品がやぶける(壊れる)」は山口弁。【「めぐ(めげる)」、「やぶつ」参照】 例：テレビが映らんからゆーて、 そねーにたたきーさんな。やぶけるよ。 (テレビが映らないからと言って、 そんなに叩いてはダメだ。壊れるよ。) 例：このラジオはやぶれたみたいじゃのー。 (このラジオは壊れたみたいだな。) 例：そねーにひどーに こじ開けたら、箱がやぶてるでー。 (そんなにひどく こじ開けたら、箱が壊れるよ。)
☆ 2013	やぶつ (破つ)	壊す。破る。 標準語と違って、機械、話しなどを「壊す」という意味にも用いる。昔はこの言葉が共通語であったようだが、明治以後「壊す」、「壊れる」を使得して、標準語の地位は「壊す」、「壊れる」になったようだ。 【「めぐ(めげる)」、「やぶける」参照】 例：おもちゃが「やぶれた」じゃのーて、「やぶった」じゃろー。 (おもちゃが「壊れた」でなくて、「壊した」だろう。) 例：そねーに、いじくり回したら、やぶつでー。 (そんなに、ひどくいじったら、壊すぞ。)
2014	やぶれもの	つまらぬもの。価値の少ない物。粗品。 例：こねーな破れものは使い物にならん。 (こんな下らないものは使い物にならない。)
2015	やまのばあ	山姥(やまうば)。 西地区で使用。
2016	～やら	～か。～とか。 不確定なことに使う。また、返事を促す時に「お気に召しますやら(お気に召しますでしょうか?)」のようにも使う。「やら」が「と」が付いた「～とやら」は「～たら」になる。 【「～たら」、「なんたら かんたら」、「なんやら かんやら」参照】 例：いつやら会ったことがあるのー。 (いつか会ったことがあるね。) 例：どうやらゆーたのー。(どうとか言ったなあ。)
2017	やりくさし	やりかけ(遣り掛け)。する途中。中途半端。 【「くさす」、「にえくさし」参照】 例：あの子は宿題をやりくさしで、遊びに行ったね。 (あの子は宿題をやりかけで、遊びに行ったね。)
2018	やりっこ やりっぱなし	遣(や)りっ放し。放りっ放し、片付け無しの状態。 遣りっ放しの強調形。 例：《部屋の中が、片付いていない状態の時に》 この子は、ほんとに、部屋んなかー、 やりっこ やりっぱなし なんじゃからー。 (この子は、本当に、部屋の中は、放りっ放しなんだから。)

No.	見出し	説明
2019	やりやーせん	①物をあげない。 ②やらない。しない。 【「やれりやーせん」参照】 例：あのプラモデルは人にやーやりやーせんじゃろう。 （あのプラモデルは人にはあげないだろう。） 例：あいつあー仕事をやりやーせんのんじゃから。 （あいつは仕事をしないのだから。）
2020	やりよる (やりよーる)	やっている。 「よる」が進行形を表わす。言い方は「やりよるㇿ」。 また、「やり」を別の動詞にして進行形として使う。例としては、 「降りよる(降っている)」、「遊びよる(遊んでいる)」、 「行きよる(行っている)」、「帰りよる(帰っている)」、 「食べよる(食べている)」、「飲みよる(飲んでいる)」等。 また、主に周防地域での使い方だが、「やりよーる」とも言う。例は、 「降りよーる」、「遊びよーる」、「行きよーる」、「帰りよーる」、 「食べよーる」、「飲みよーる」等。 この時の言い方はすべて「やりよーる」のように「りよ」が強く、上がり調子になる。 【「いきよる」、「『～しよる』と『～しとる』」、「『～ちよる』・・・」、「やっちよります いーね」、「やっちよる」、「『～よる』と『～ちよる』」参照】 例：今、やりよるよー。(今、やっているよ。) 例：今、そっちに行きよるちゃー。(今、そちらに向かっているよ。) 例：《「来よるか」と聞かれて、ちょっと、いらっとして》 今、行きよーるっちゃーや。 (今、向かっているとっているだろう。) 例：あみゃー降りよーるでー。(雨は、降っているよ。) 余談：相手が思った以上に出来る時に言う「意外とやりおる」の意味で「意 外とやりよるのー」とも言うが、その言い方は「やりよるのー」。言い方が ちょっと違う。
2021	やるん?	やるのか? 「来るのか?」だったら「来るん?」になる。「どこに行くのか?」だったら、「どこ 行くん?」になる。どれも「やるんㇿ」の様に語尾は上がる言い方になる。 例：こんだー、いつやるん? (今度はいつするの?)
2022	やれそら (やれそれ)	急ぐこと。早く。 西地区は「やれそら」、東地区は「やれそれ」か? 「やれ」は驚いた時に出す掛声で、「やれ待て」などの「やれ」。「そら」や「そ れ」は指す言葉で、「そら行こう」、「それ行こう」の「そら」や「それ」のこと。 合わせて「早急に」の意味に使う。 【「やれに」参照】 例：やれそら言われても、 そねーに早ようはできんにいね。 (急げと言われても、 そんなに早くは出来ないよね。)

No.	見出し	説明
2023	やれに	①沢山に。どこにでも。とつても。 ②急いで。すぐに。 ①は西地区で使う。②はKRYテレビで山口弁と紹介していたが、我々は使っていない。ただし、鹿野や柳井の方言集に「やれに(すぐに、急いで)」とあったので、「やれそら」の「やれ」だけの使い方も県東部でしていたことが分かる。我々が知らないだけで、周南でも使っている人がいるかも？ 【「やれそら」参照】 例：こねーなものは、山にやーやれにあるわー。 (こんな物は、山には沢山あるよ。) 例：やれに待たされたわ。(とつても待たされたわ。) 例：やれにやー書けんーいの。(すぐには書けないよ。)
2024	やれりゃーせん	①物をあげられない。 ②やれない。できない。 【「やりゃーせん」参照】 例：《自分が大切にしている物を見て欲しそうにしている人に》 こりゃー、あんたにやー、やれりゃーせんで。 (これは、あなたには、あげられないよ。) 例：《自分の仕事の腕に自信を持っている人が新人に》 こりゃー、あんたにやー、まだやれりゃーせんよ。 (これは、あなたには、まだできないよ。) 例：《難しい動作を見て》 こねーなこたー、やれりゃーせんで。 (こんなことは、できないよ。)
2025	やれん	困った。もたない。我慢できない。たまらない。やりきれない。 「できない」の意味ではない。丁寧語は「<u>やれ</u>ません」。反対は「いける」。 【「いける」、「こりゃーええ」、「しびらかす」、「うずろうしい」、「どもならん」参照】 例：A：こねーに暑うーちゃー、<u>やれん</u>のー。 (こんなに暑かったら、体がもたないよ。) B：ほんと、としょー取ったら、<u>やれん</u>とみー。 (本当に年を取ったら、大変だよ。) 例：こねーにいそがしゅーちゃー、やれんですいね。 (こんなに忙しかったら、たまらないですよ。) 例：「やれんともいー(困ったと思っているよ→困ったもんだよ)」、 「やれんともいーさん(困ったものですよ)」、 「やれんじゃったいね(たまらなかったよ)」、 「やれんやったい(たまらなかった)」、 「やれんにーの(たまらないよ)」、 「やれんちゃーね(たまらないよ)」等。 例：「さむーてやれん(寒くてたまらない)」、 「あつーてやれん(暑くてたまらない)」、 「えろーてやれん(しんどくてたまらない)」、 「おゆーてやれん(多くてたまらない)」等。 【「～ともいー」参照】
2026	やんがて	やがて。そのうち。 今ではほとんど使わない。「そのうち」を使うのが多いと思う。 例：まっちょりゃー、やんがて戻って来るじゃろう。 (待っていれば、やがて戻って来るでしょう。)

No.	見出し	説明
2027	やんくも (やにくも) (やりくも) (やりこも) (やもこも)	闇雲(やみくも)。ますます。むやみやたらに。 「やみくも」→「やにくも」→「やんくも」と変化した。西地区は「やんくも」が多いが、鹿野や小畑、熊毛は「やりこも」も使う。東地区は「やにくも」、「やりくも」を良く使うが、櫛ヶ浜は「やもこも」を使う。県内には、他に方言集によると「やもくも(柳井)(阿知須)」、「やまくも(周防大島)」等の言い方もあった。各地で2～3種類の言い方が書いてあるので、ちょっと、音を変えて色々な言い方をしていたようだ。今は標準語の「やみくも」を良く使うかな? 例:やんくも、わしょー引っ張ろうとするんじゃなー、 やれんにいねー。 (むやみに、私を引っ張ろうとするので、たまらんよ。) 注:櫛ヶ浜の「やもこも」は「注意されたことに、盾突くこと」との情報があつた。意味が少し変化したかも?
2028	やんない (やりまえ)	しなさい。 「やりまえ」、「やりまい」とも言う。 例:まあ、一杯やんない。 (まあ、一杯飲みなさいよ。)
2029	やんや (やいや)	やれやれ。 煩わしいことが重なる時に発する言葉。言い方は「 <u>やんや</u> 」。「やいや」と言う時もある。 当然、標準語の「やんやの大喝采」のように、ほめはやす時の「やんや」も使う。 例:《煩累(はんるい)が重なった時に》 やんや、そりゃーやれんでよー。 (やれやれ、それは困ったことだよ。)
2030	やんやじゃのー	やれやれだなー。 困ったことを言って来た、また、やられた時に対処を考えていやになる時に発する言葉。 例:そねーなことになっちゃうんかねー。やんやじゃのー。 (そんなことになっているの。やれやれだね。)
2031	やんやん言う	うるさく言い寄る様子。やかましく言う様子。 「言う」は「ゆー」と言い、「やんやんゆー」と言う。 【「ごんごん」、「やーやー言う」参照】 例:そねーに、やんやんゆわんでーね。 (そんなに、やかましく言わないでよ。)
2032	ゆ	蜘蛛の糸。 西地区(湯野)で言う。日本方言地図には、周南地区は「い」になっている。「ゆ」は津和野辺りと表示されているが、岩国、玖珂、徳山でも「ゆ」と言ったらしい。柳井は「ねば」、「いば」、下松は「えんぱり」、「へんぱり」、光は「ゆぱり」、徳山は「ゆ」、「えんぱり」と各地に色々な呼び名があつたようだ。 例:蜘蛛が、ゆを張っちゃう。 (蜘蛛が、巣を張っている。)

No.	見出し	説明
○ 2033	ゆう (ゆー)	言う。 「言う」の山口弁の正調は「ゆー」。しかし、今頃は「言う」と「ゆう(ゆー)」を混在して使っている気がする。【「いいんさい」、「いうけえ」、「それたーゆわんある」、「ものをゆわん」、「ものをゆう」、暇や気楽な意味の「ゆう(ゆー)」は「ゆうな(悠な)」参照】 例：ゆうた通りじゃ。(言った通りだ。) 例：ものをゆうーてもろーてから始めようかのー。 (挨拶をしてもらってから始めましょう。) 例：《内緒にしていたのに》あの人にゆーたんかね。 (あの人に言ったのかね。) 例：ゆーてみーやー。(言ってみろよ。)
2034	ゆうこと きかんちよ	言うことを聞かない人のこと。人の忠告等を見捨てる人。「でんき」な人。 【「きかんど」、「でんき(でんきな)(でんきをはる)」参照】 例：よいよ、あのひたー、 ゆうこときかんちよじゃから、困るいねー。 (本当に、あの人は、 人の言うことを聞かない人だから、困るよ。)
2035	ゆうちやる (ゆーちやる)	言いつける。言てやる。 【「ゆう」、「『～ちよる』『～ちよく』・・・」参照】 例：せんせーにゆうちやるけー。(先生に言いつけるよ。) 例：せんせーがゆーちやった。(先生が言われた。)《丁寧語》 例：「ゆーちやろうー(言てやろう)」、 「ゆーちよけ(言ておけ)」、 「ゆーたろうが(言ただろうが)」、 「ゆーたか?(言ったか?)」等。
2036	ゆうちよること おもーちよる ことが ちごーちよる	裏表がある。 「言っていることと、思っていることが違っている」と言うこと。「ゆーちよーことと、おもーちよーことが、ちごーちよー」とも言う。 例：あんなー、ゆうちよることと、思うちよることが違うけー、 信用ならんちゃー。 (あいつは、裏表があるから、信用ならないよ。)
2037	ゆうな (悠な) (ゆうーな) (ゆうーに)	①暇な。②ゆっくり。③おだやか。④おっとり。 この4パターンで使う。「ゆう」は形容動詞。「ゆうな」「ゆうーになる」は状態を示す。「ゆうーにせる」は動作を示す。 ①暇な。忙しくないさま。転じて、空いている。楽な。 例：土日はどっちがゆうなんかねえ? (土日のどちらが暇ですか。→空いていますか?) ②ゆっくり。のんびり悠長なさま。 例：もちーと、ゆうーにやろぅいねえ。 (もう少し、ゆっくりやろぅじゃないか。) ③おだやか。ゆったりくつろぐさま。 例：今日は波がゆうーなのー。(今日は波がおだやかだね。) 例：休みにやー、家でゆうーにしちよるのいのー。 (休みには家でくつろいでいるのだよ。) ④おっとり。落ち着いているさま。 例：あの子はゆうーな子でねー。(あの子はおっとりした子でね。)

No.	見出し	説明
2038	ゆうなべ	夜なべ。 西地区で使用。 例：ゆうなべに柿の皮をむく。 (夜なべで柿の皮を剥く。)
2039	ゆうまずめ (ゆうまじめ)	①夕暮れ。日没から真っ暗になるまで。 ②夕凧(ゆうなぎ)。夕方の無風状態。 元は「ゆうまずみ」で①の意味と思われる。「あさまじめ(あさまずめ)」と合 わさって、②の意味が加わったのではなかろうか？西地区では①の意味で 「ゆうまずめ」を、東地区(笠戸島)では②の意味で「ゆうまじめ」を使う。 【「あさまじめ」参照】
2040	ゆりる	許される。 古語「ゆる(許)」の口語。我々の一世代前の方が使っていた。 例：《盆明けに》 今日は餓鬼の首もゆりる。 (直訳：今日は地獄でも餓鬼が許される日だよ。 →意訳：今日は休みだよ。ゆっくりしよう。) 説明：「餓鬼の首」というのは、地獄の釜も蓋が開いて、餓鬼も出入り自由 (出入りが許される)になる日で、年2回。旧暦の1月16日と7月16日。この 日は閻魔さまの縁日で、賽日(さいにち)、敷入りと同じ日。
2041	ゆるい	囲炉裏(いろり)。 言い方は「ゆるい」。「寛居(ゆるゐ)」で一家団らんの場合、くつろぎの場所の 意。
2042	ゆんや (ゆんべ) (ゆーべ)	昨夜。 「ゆーべ」、「ゆんやがた」、「ゆんべがた」とも言う。翌日のことは「あけての 日」。今晚は「こんや」。「ゆんべ」は「ゆうべ(夕)」の転。「ゆんべ」、「ゆうべ」 は国語辞書にある。 【「あけての日」、「きによーのぼん」参照】
2043	よい (よーい)	おい。おーい。呼びかけの声。 「よい」は「おい」と同じで近くの人に、「よーい」は「おーい」と同じで遠くの人 に呼び掛ける言い方。今頃はほとんど、「おい」「おーい」かな？「よい、よー」 と呼ぶ時は、「よい」+「ちゃー」で「よいちゃー」と言う。 【「おいちゃー」参照】 例：よい、君はどこへ行くんか。 (おい、君はどこへ行くのか。) 例：よーい、待ってくれーい。 (おーい、待ってくれよ。)
2044	よいたんぼ	酔っ払い。 「ようたんぼ」とも言う。単なる酔いどれが「よいたんぼ」で、人格が一変す るような酔いどれは「のんだくれ」。

No.	見出し	説明
2045	よいよ (よんよ)	①全く。本当に。確かに。 ②とても。非常に。ますます。 ③とうとう。ついに。 「いよいよ(彌・愈)」が変化した。言い方は「よいよ」。あきれたり、がっかりした時に、「本当にもー」とため息をつく感じで「よいよ」とか「よいよでねー」と単独で使うこともある。「よいよ、はあー」も良く使う。「まったくもー」の時は、「よいよじゃねえー」。 さらに、「よいよいけん(全くダメだ)」、「よいよつまらん(全くいけない)」、「よいよやれん(本当にたまらない)」などの慣用表現でよく使われる。 【「いっそ」、「ちゅうに(ちゅーに)」、「はあー」、「ひとつも」参照】 例:よいよ、おもしろーないのー。 (まったく、面白くないなー。) 例:よいよ、はあーやれんでね。 (本当に、もーたまらないわ。) (全くもって、やりきれないよ。) 例:あいつは、よいよ横着じゃなーのー。 (あいつは、とても横着だからな。) 例:よいよ、本降りになったでー。 (ついに、本降りになったよ。) 例:よいよのときゃー、助太刀するいねー。 (いざと言う時は、加勢をするよ。)
2046	ようけ (余計) (よーけ) (よけえー)	①沢山。 ②余計。一層(いっそう)。 ①の同義で「さで」も使う。言い方で意味が変わる。①の意味の時は「よーけナ」、「よけえー」、②の時は「よーけナ」、「よけえー」が基本だが、多少乱れるので内容で判断すること。 【「えーと」、「おーかましい」、「がっぼり」、「ごつつう」、「さで」、「じょーに」参照】 例:おもちゃをようけ(よけえー)持ちよる。 (おもちゃをたくさん持っている。) 例:ごちゃごちゃゆーけー、 よーけ(よけえー)わからんよーになったじゃないかねー。 (ごちゃごちゃ言うから、 余計に分からないようになったではないか。)
2047	ようさ (よさ)	晩。夜。 夜という意味の「ようさり」、「よさり」の「り」が脱落して、「ようさ」、「よさ」になった。「さり」は「さる(去る)」の連用形が名詞化したもので、季節や時を表す語に付いて、「近付く、来る」の意味に使う古語。よって、「ようさり」は「夜が近付く、夜が来る」の意。一晩は「ひとよーさ」、二晩は「ふたよーさ」。 【「ひとよーさ」、「ふたよーさ」、番外の「昔の言葉、行事?」の「よさり」参照】
2048	ようせん (よーせん)	できない。なし得ない。 【「えーせん」参照】 例:そねーなことは、ようせん。 (そんなことは、出来ない。)<自分が> 例:そねーなこたー、よーせんじゃろー。 (そんなことは、できないだろう。)<人が>

No.	見出し	説明
2049	よー (よう)	よう。よく。 古語の副詞「よく(能く)」のウ音便形。「よー」は、「えー」と同様、以下に肯定文が続くときは可能表現となり、打ち消し文が続くときは不可能表現となる。「しっかり」の意味でも使う。 【「えー(ええ)」、「えーせん」、「ようせん(よーせん)」参照】 例:「A;よー打つかのー(打てるかなー?) B;よー打たんじゃろー(とても打てないだろう)」、 「ようやらん(出来ん)」、 「よう読まん(読めない)」、 「よーせん(できない)」、 「よう、きびつちよけよ(しっかりと結んでおけよ)」等。
2050	よー、 きちゃったのー	良く来られたね。 「～ちゃった」は尊敬語なので、動作主への敬意を持った使い方。 家を訪ねて来た人に対して、 丁寧な時は、 「よー、こられましたのー(良く来て頂きました)」、 「よー、おいでましたのー(良くおいで頂きました)」、 心安いときは、 「よー、きちゃったのー(良く来られたね)」、 「よー、こられたのんた(良く来られたですね)」 になる。 【「おいでませー」、「～ちゃった」参照】
2051	よーず	凧(たこ)。 最近ほとんど使われない。「長崎市史風俗編」に長崎の十五種類の「たこ」を紹介しているが、そのひとつに「鶴子」というのがある。これはもともと、中国語で「凧」の意を表す言葉であり、「鶴」は鷹の一種をさす文字なのだそう。よって、「よーず」の語源を中国語の「鶴子」だとする説もあるが、はっきりしたことは分からない。 余談:関西圏や北陸地域では、凧のことを「いか」や「いかのぼり」と言うらしい。昔は、「いかのぼり」が標準語だったかも。
2052	よーそけない (よーさけ なえー)	①うっとうしい。濡れて気持ちが悪い。②汚いので不快。 服が雨で濡れて、べとべとして気持ちが悪い感じや、汚れた場所や物の横を通った時の不快感を表す。我々は使っていないが、KRYラジオで全県で使われると紹介されていたので収録した。 【「うるさい」、「しろおしい」、「ほーとくない」、「やでない」参照】 例:雨に濡れて、よーそけないでよー。 (雨に濡れて、気持ち悪いよ。) 例:《汚れた椅子を見て》 なんかよーそけない椅子じゃのー。 こねーなのになー座れんでよー。 (何か汚れて気持ち悪い椅子だなあ。 こんなのには座れないよ。)
2053	よーたれ	用事。 悪口を言う時に使うことが多い。 例:よーたれも無いのに、いつでもおるんちゃ。 (用が無いのに、いつでも居るのだ。)

No.	見出し	説明
2054	よがなよぶーて	夜なか中。夜の間ずっと。 【「ねずーする」、「よっぴいて」参照】 例：昨日はよがなよぶーてー、本をよんじょったいやー。 (昨日は夜なか中、本を読んでいたよ。)
2055	よくつべ	欲の深い人。 西地区で使用。「つべ」は「お尻」のこと。 【「こぶい」、「にぎり」、「よくどう」参照】
2056	よくどう (よくどうはげ) (よくったれ) (よくしんぼー)	欲張り。 欲張りがひどい人を「よくどうはげ」と言う。「よくどう」、「よくどうはげ」は県内のかんりの地域で使われている。西地区では「よくったれ」も使う。この「よくったれ」は岩国、新南陽、須佐の方言集にもあった。「たれ」は「ばかたれ」の「たれ」と同じ。 また、山口県内には「よくされ」、「よくしんぼー」(須佐)、「よくしっぽー」(周防大島)、「よくつと」(周防大島、須佐)、「よくどーがまち」(防府)、「よくどろがみ」(岩国)、「よくどろがめ」(新南陽)、「よしっぽ」(阿知須)等の言い方があるようだ。 なお、「よくしんぼー」は山口県の代表的な言い方らしい。「ケチ+欲張り」の意味とKRYラジオの山口弁コーナーで森川さんが言っておられたが、我々は「よくどう」の方を良く使っていた。「しんぼー」は「食いしん坊」の「しん坊」と同じ。 【「こぶい」、「にぎり」、「よくつべ」、「よわずー」参照】 注：上記県内の言い方は各地の方言集にあったものを書いた。もっと、周辺の広い地域で使われている可能性は高い。 例：あのひたー、よくどうなじゃけーねー。 (あの人は、欲張りなだからね。)
2057	よくな (欲な)	欲張りなさま。物惜しみするさま。 「よくな人じゃねー(欲張りな人だね)」のように使う形容動詞。
2058	よこざべん(けい) (横座弁慶)	内弁慶。 「横座」は囲炉裏の上席(主人席)のこと。ちなみに、横座に向かって出入口側の側面が「客座」または「脇座」、出入口の反対側の側面が「嬪(かかあ)座」または「嫁座」、横座の向い側は「木尻」と言う。横座のことを「よこだ」とも言うので、「よこだべん(けい)」と言う所も多い。囲炉裏が無い生活が普通になったので、この言葉もほとんど使われなくなった。
2059	よこのり (横乗り)	①大人用の自転車に子供が乗る方法。 サドルに腰掛けられないので、ハンドルを持って、三角のフレームの間に片足を突っ込んで、ペダルに足を掛けて、自転車を斜めにして乗る方法。子供用の自転車を買ってもらえない時代の知恵と工夫の賜物。「さんかくのり」とも言う。【「さんかくのり(三角乗り)」参照】 ②一昔前の風景として、バイクやスクーターの後ろに女性を横向きにさせる方法。 注：馬にまたがらずに横向きで乗るのも「横乗り」。方言と言うより時代語か？

No.	見出し	説明
2060	よごれ (汚れ)	汚れているのが普通の人。不潔な人。 【「きしゃない」、「びったー」、「びったれ」、「ほーとくない」参照】 例：あいつあー、よごれじゃから、ちかよれんにーや。 (あいつは、汚れているのが好きなやつだから、 近寄れないよ。)
☆ 2061	よして (寄して) よす (寄す)	「寄せて、寄せる」、「入れて、入れる」の意味。 仲間に入れてもらいたい時に使う。言い方は「よして」。「止(や)めて」の「止(よ)す」の意味ではない。「よしてくれえやー(仲間に入れてくれよ)」と言ったら、「よしちやる(入れてやる)」、「よしちらん(入れてやらない)」のように使う。「よっしゃる(入れてやる)」、「よっしゃらん(入れてやらない)」の言い方もする。櫛が浜では「なして(なす)」を使う。須佐は「かてて(かてる)」らしい？ 「よして(よす)」は中国、四国、近畿、新潟、山形あたりで使う。青森、秋田では「かでて」、その他の東北、北陸、大阪、和歌山、愛媛は「まぜて」を使うらしい。【「よす よせる」、「なして(なす)」参照】 例：ケンケンによしてーねー。(ケンケンに入れてよ。) 注：ケンケンは片足跳びのこと 例：あの会によしてもろーたんよ。 (あの会に入れてもらったのよ。)
☆ 2062	よす (寄す) よせる (寄せる)	仲間に入れる。仲間に加える。 奈良時代の文献に出ている言葉で「味方に入れる」意味。 【「よして よす」、「なして(なす)」参照】 例：こんだら、あの人もよそーかね。 (今度は、あの人も仲間に入れようかね。) 例：お前もよせちやるから、次からーこいよ。 (あなたも仲間に加えるから、次からはおいでよ。) 例：あいつあーわやーするけー、はーよせんことにしようでよ。 (あいつは無茶をするから、 もう仲間に入れないことにしようよ。)
2063	よだーはう (よだをはう)	①夜遅くまで働く。②夜遅くまで起きている。 夜の田んぼを這うように仕事をしている状態を指す。それから、夜遅くまで起きている意味にも使われるようになったと思われる。下松や防府の方言集には載っているが、他の地域には載っていないので、かなり絶滅危惧種のようなのだ。 【「よだるーひく」、「よだるひき」参照】 例：てれんこぼれんこせんと、はよーせんになー、よだーはうでよ。 (ぶらぶらしないで、早くしないと、夜遅くまで掛かるよ。)
2064	よだるーひく (よざるーひく)	①夜遅くまで起きている。②夜遅くまで仕事をしている。 「よざる」が、「ザ・ゼ・ゾ」が「ダ・デ・ド」になる山口弁の音韻法則で「よだる」になった。夜、猿が引きに来るからと言う説もあるが、「夜が去る」のを「引き戻す」から「夜去るを引く」→「よざるをひく」→「よざるをひく」→「よだるをひく」かも？【「よだーはう」、「よだるひき」参照】 例：こんな子は、いっそよだるをひーていけんねー。 (この子は、いつも夜更かしをして困ったものだよ。) 例：こねーにあるんなら、よだるーひかんになー片付かんてよ。 (こんなにあるのなら、夜遅くまで仕事をしないと済まないよ。)

No.	見出し	説明
2065	よだるひき (よだれひき) (よざるひき)	夜長く起きている人。宵っ張りのこと。 字は「夜垂るひき」と書いてある方言集があったが、「ザ」が「ダ」になったのなら、この字は合わない。当て字か？しかし、「夜垂引」、「夜垂曳」の字はしっくり来る感じあり。「よだれひき」、「よざるひき」とも言う。 【「よだーはう」、「よだるーひく」参照】 例：あんたーほんとによだるひきじゃねー。 (あなたは、本当に宵っ張りだね。) 注：「よだれくり(涎繰り)」とは違う。「よだれくり」は「涎を垂らしている様子、また、その人」のことで、標準語。
2066	よだれ (ゆだれ)	アブラムシ。(虫) 木や野菜の芽につく。東地区では「ゆだれ」とも言う。 なお、この「アブラムシ」は「ゴキブリ」のことでは無い。 例：この木はよだれが付いて、さっぱりだめじゃね。 (この木はアブラムシが付いて、すっかりダメだね。)
2067	よったり	四人。 三人は「みったり」。【「みったり」参照】 例：よったりで遊んだ。(4人で遊んだ。) 注：山口弁と思ったが、実は標準語のようだ。
2068	よっぴいて	夜っぴて。一晩中。 今頃は「徹夜」の方を使うかな。萩では「よっぺてじゅう」らしい。 【「ねずーする」、「よがなよぶーて」参照】 例：間に合わんけー、よっぴいてやったんよ。 (間に合わないから、徹夜でやったのよ。)
2069	よっぱし	余程。よっぱど。甚だ。大変に。 例：よっぱし、うれしかったとみー。あたまーまるがしちよるでー。 (余程、うれしかったと見える。大喜びをしているよ。)
2070	よぼう (よぼー)	液がじわーと漏れて垂れている様子。 縦に液が垂れている状態を言う。平面で濡れているのは「にじむ」。 「よ」は「よだれ」の「よ」で「寄」。「ぼう」は「匍(はう)」で「はらぼう、はう」こと。「よぼう」の[au]が連母音融合して[o:]になって、「よぼう」になった。言い方は「よ ぼお ーちよる」。 【「おう(会う)(合う)」参照】 例：醤油差しの口の所から、醤油がよぼおーちよるよ。 (醤油指しの口の所から、醤油が垂れているよ。)
2071	よむぎ	よもぎ(蓬)。(植物) 「山口県方言辞典」によると、「もちぐさ」とも言ったようだ。
2072	よめじょーはー (嫁女はー)	お嫁さん。 奥さんのことは「おごうはん(御御はん)」。最後の「はー」が「さー」になる場合もある。 【「あんじょう」、「おごーはー」参照】
2073	よりおうて (よりおーて)	寄り合って。 例：こりょーよりおーて仕上げようや。 (これを寄り合って仕上げよう。)

No.	見出し	説明
2074	「～よる」と 「～ちよる」	「～している」と「～した、～している」(進行・習慣と完了・存続・状態) 山口弁は、進行・習慣は「～よる」、完了・存続・状態は「～ちよる」というふうに、付属語(助動詞)を使い分ける。 例えば、「今、考えよる(考えつつある)」「前から考えちよる(考えた状態にある)」、「今、晴れよる(晴れつつある)」「朝から晴れちよる(晴れた状態にある)」、「毎朝五時に起きよる(起きる習慣である)」「起きちよるか(起きた状態にあるか)」などと使い分ける。 また、完了の時は「～とる」も使う。「はあ、起きちよるよ」と「はあ、起きとるよ」は共に「すでに起きていますよ」という意味で完了していることを示す。また、完了に限らず存続・状態を示す意味でも「～とる」を使う。「起きとるか」は「起きた状態にあるか」を示す。 「～よる」は、また「～よった」となると、過去の進行や習慣のほかにも、「もう少しで～するところだった」「危うく～しかけた」の意にも用いる。例は「もうちょっとで、こけよったでよ(もう少しで、転ぶところだったよ)」。 過去の進行や習慣の例としては「きのーの今ごろーあそこー歩きよった(昨日の今頃はあそこを歩いていた)」「(進行)」、「昔のひたーよー働きよった(昔の人は良く働いていた)」「(習慣)。 【「いきよる」、「『～しよる』と『～しとる』」、「やりよる(やりよーる)」参照】 例：なんしよるん。(今、何をしているの。) 例：なんしちよるん。(さっきから、何をしているの。) 余談：九州弁の語尾では「～ばい」、「～たい」が多いが、大分ではこの「～よる」と「～ちよる」が使われているようだ。山口と大分は距離も言葉も近い。
2075	よれる (縋れる)	萎れる(しおれる) 一歩手前。弱る。 暑さで植物などが弱ることを言う。例えば、稲の苗が、水不足で葉が円筒状に巻いたような状態の時に使う。【「からびる」、「しばなえる」参照】 例：《水不足で丸くなった葉を見て》 暑いんでのー、はあーよれちよらーやー。 (暑いので、もう萎れているよ。)
2076	よろこーで	喜んで。 例：《招待されて》そりゃー<u>よろこー</u>で行きますで。 (それは喜んで行きますよ。) 注：バ行、マ行五段動詞連用形活用語尾の撥音「ン」は概ねウ音便化する。よって、「喜ぶ→喜んで(ヨロコンデ)」は「ヨロコーデ」となる。他には「呼んだ(ヨンダ)」は「ヨーダ」、「飲んだ(ノンダ)」は「ノーダ」、「結んで(ムスンデ)」は「ムスーデ」などがある。【「あそーだ」参照】
2077	よわずー	①弱虫。②体の弱い人。虚弱体質の人。 東地区(櫛ヶ浜)で使う。 例：あいつはよわずーじゃから、怖いえーがーよー見いんやー。 (あいつは弱虫だから、怖い映画は見れないよ。) 例：あのひたーよわずーじゃけー、すぐかじょー引くいね。 (あの人は体が弱いから、すぐ風邪を引くよ。) 余談：TYSの「週末ちぐまや家族」で福栄の口ケ中に、昔の重たい開墾鋤(くわ)を持って、「おもとーて、今頃のよわしつぽは誰も使いきらん」と言う鍛冶屋さんがいた。テロップに「弱しつぽ＝軟弱な人？」とあった。周防大島や島根の出雲、隠岐の方では「欲張りやケチ」のことを「よくしつぽ」と言うようなので、「よく」が「よわ」になった同系の言い方のようだ？ 【「よくどう」参照】

No.	見出し	説明
2078	よわりかやす	困り切る。困り果てる。弱り切る。 「弱り返す」の転。「こまりかやす」とも言う。 【「かやす」、「こまりかやす」参照】 例：いつでもうるさい事を言うから、よわりかやすいね。 （いつもうるさい事を言うから、困っているよ。）
2079	よわります (弱ります)	困ります。 「よわりやんす」とも言う。言い方は「よわり ます 」。「たいがたい」を通り越して、そんなにしてもらおうと「困ったな」と言う気持ちが強い時に使う。最近では素直に「困ります」か？【「たいがたい」参照】 例：《過大なお礼をされそうな時に》 そねーなことをしてもらったら、よわります。 （そんなことをしてもらったら、困ります。）
2080	よんびき (四匹)	4匹。 正式な山口弁は「よんびき」。「よんひき」ではない。 【詳しくは番外の「数の数え方」参照】
2081	よんぼん (四本)	4本。 正式な山口弁は「よんぼん」。「よんほん」ではない。 【詳しくは番外の「数の数え方」参照】
2082	よんよ	散歩。歩き。(幼児語) 方言集によると周防大島や須佐、長門では「あいめ」とも言うようだが、周南では「よんよ」か「よんよ よんよ」。 【番外の「幼児語」参照】 例：《幼児の腋を持って立たせてから》 よんよしてみー。(歩いて見ろ。) 例：よんよいこーか。(散歩に行こうか。)
2083	よんよん	外へ。よそへ。(幼児語) 【番外の「幼児語」参照】 例：よんよんにいこーか。(外に行こうか。) 注：「よんよ」と「よんよん」を区別したが、状況によっては「歩くこと」は「外に行くこと」だし、「外に行くこと」は「歩くこと」なので、同義に使っていることも多い。
2084	らくちゅー (洛中)	全域。くまなく(隈無く)。そこら一面。 京都を豊臣秀吉が御土居(おどい：土塁)で囲んで中を洛中、外を洛外と区別した「洛中洛外」の「洛中」のこと。「らくちゅー」とは「みやこじゅー」のことなので、これを「地域全体」、「くまなく一面」の意味に使った。聞いたことがあるかなあと言う程度で、今はまず使われていないが、こんな言い方もしていたと言う記録として収録した。 例：いえんなかーらくちゅー探したが、見つからなかった。 （家の中をくまなく探したが、見つからなかった。） 余談：なぜ「洛中」かと言うと、昔、京都の東を「洛陽」、西を「長安」と呼んでいたが、東の方が栄えたかららしい。
2085	らくにする	正座から、あぐらをかくこと。または、膝を崩すこと。 「おらくになさいませ」と訪問のお客に挨拶する。 【「ひざーくむ」、「ろくうにする」参照】

No.	見出し	説明
2086	らちやーあかん	埒(らち)が明かないこと。物事の決まりがつかない。事態が進展しない。「らちやーあかん」は「埒が明かない」の意味。標準語の「埒は明かない」の山口弁の言い方。また、下松の方言集に「だちがあかない」と書いてあったので、昔は「らち」のことを「だち」とも言っていたようだ。 【「やちもない」参照】 例:《まかしても、うまくいかない時に》 <u>おまえー</u>にまかつしょつても、<u>らちやーあ</u>きやーせんの一。 (お前に任せていても、埒は明かないな。) 注1:連母音「アエ」は「アエー」と発音される。よって、「お前(オマエ)」は「オマエー」になる。 注2:子音内の母音「イ」+助詞「ワ」は普通「ヤー」と発音されるが、「チャー」や「シャー」、「ニャー」等になることもある。よって、「らち(ラチワ)」は「ラチャー」、「私は(ワタシワ)」は「ワダシャー」、「ここには(ココニワ)」は「ココニャー」になる。 【「うち」、「たまにやー」、「みてみい」参照】
2087	らんきよ (らんきょう)	らっきょう。(野菜) 昔は全県で言っていたようだが、今は「らっきょう」に押されて、少数派になっている。しかし、東地区(下松、光)では今でも使っている。 【番外の「芋の呼び名」参照】
2088	らんとん	ビー玉。 ビー玉を使った遊びも「らんとん」。東地区(櫛ヶ浜)で使う。呼び名の由来は、一つは定置網等の目印にするガラス玉の浮きを「らんとん」と呼んでいたの、ビー玉が同じようなガラス玉なので、子供たちがこう呼んだのかな? 手提げランプの「ランタン」の丸みに似ているガラス製のものは、みんな「らんとん」だったのかも知れない。もう一つは、「ラムネの玉」を「らむたま」と言うところもあるので、その訛りかも知れない。 余談:「ビー玉」の由来は、ラムネに栓にするガラス玉の規格内品は「A玉」と呼び、規格外品を「B玉」と呼んだから。
2089	～りー	～なさい。 勸奨表現で女の子が良く使う。 例:食べりーね。おいしーよ。 (お上がんなさいね。おいしいよ。)
2090	りこう	器用であること。工作技術にたけていること。 標準語の「頭が良い、賢い」意味などでも使うが、それから派生して「手先が器用なこと」に使う。但し、「りこーもん」や「りこーもの」と言う時は、狡猾な者の意を含む言い方になる。 例:あのひたーりこーなけー、何でもめーめーで作りんさるんよ。 (あの人は器用だから、何でも自分で作ってですよ。)
2091	りごう (離合)	狭い道で車がすれ違うこと。 山口、福岡、大分でしか使用しない言葉らしい。 例:あそこの道はせまーから、離合する場所が所々に作っちゃう。 (あそこの道は狭いから、車がすれ違えるように、 広くしたところが所々に作ってある。)

No.	見出し	説明
2092	～りゃー (～しゃー) (～きゃー) (～やー)	～れば。～せば。 動詞・形容詞、および、動詞・形容詞型活用をする助動詞の仮定形活用語尾の母音「エ」に、山口弁では、標準語の接続助詞「バ」が接合せず、そのくだけた形である「ヤー」へ続いて、活用語尾と「ヤー」は融合する。標準語の「見れば」が「ミリャー」、「食べれば」は「タベリャー」、「話せば」が「ハナシャー」、「聞けば」が「キキャー」、「言えば」が「イヤー」、「言えれば」は「イエリャー」、「無ければ」は「ナケリャー」となる。 【「～ちりゃー」参照】 また、「静かなければ」は「シズカナケリャー」になるように、形容動詞がカリ活用型特殊活用する場合の仮定形にも同様のことが言える。 【「きれいな かった」、「～な」参照】 例：行きたけりゃー行きゃーえー。(行きたければ行けばいい。) 例：知っちゃりゃー、えーが。(知っていれば、よいが。) 例：置いちよきゃー、えー。(置いておけば、いい。) 例：言やーええのに。(言えばよいのに。) 例：聞きゃーええのに。(聞けばよいのに。) 例：聞かれりゃー答えたのにねー。(聞かれれば答えたのにね。) 例：おいしけりゃー、ええがのー。(おいしければ、良いがなあ。) 例：まじめなけりゃー、やとーてもええがのー。 (まじめであれば、雇っても良いかなあ。) 例：綺麗なけりゃー、そーじょーせんでもええよ。 (綺麗であれば、掃除をしなくても良いよ。)
2093	～りゃーせん (～きゃーせん)	～は、しない。 動詞および動詞型活用をする助動詞の連用形+係助詞「ワ」で強調し、後ろに打ち消し、または逆接が続く表現は、仮定形+係助詞「ワ」のくだけた形「ヤ」となり、音韻融合して「ヤー」と発音される。「投げりゃーせん(投げはしない)」のように使う。「せん」が打ち消しの表現。逆接の言い方の時は、「投げりゃーせるが(投げはするが)」となる。「せるが」が逆接の表現である。【「ききゃーせんでよ」参照】 例：なんぼーゆーても、きらいなもなー食べりゃーせんに一ね。 (いくら言っても、嫌いなものは食べはしないよ。) 例：みりゃーせるが、かやーせんで。(見はするが、買いはしないよ。) 例：あのひたー興が乗らんにやーかきゃーせんでね。 (あの人は興が乗らないと書きはしないよ。)
○ 2094	りゅうきゅういも (琉球芋)	さつまいも(薩摩芋)(甘藷)。(芋) 琉球から渡って来た芋だから「琉球芋」。1970年頃、近畿では「さつまいも」が一般的の呼び名だが、「物類称呼」(1775年)には「畿内にて『りうきゅういも』と云、東国にて『さつまいも』といふ、肥前にて『からいも』といふ」とあるので、昔は「りゅうきゅういも」が標準語だったことが分かる。東日本から押し寄せた「さつまいも」に追われて、消えたようだ。西日本も同様で、我々の一世代前までの方言で、今は使われていない。 さらに、山口県では「いも」と言えば、「さつまいも」のことを指すようになり、消滅が加速されたかも? 【「いも」、「とーいも」、「るいきいも」、番外の「芋の呼び名」参照】
○ 2095	りゅうのひざ (じゅうだま)	じゃのひざ(蛇の鬚)。その実。(植物) 「りゅうのひざ」は江戸時代の「長門産物名寄」や「周防国都濃郡徳山領産物附立」に載っており、「周防産物名寄」には「りゅうひざ」とあるようだ。 【詳しくは「じゅうだま」参照】

No.	見出し	説明
2096	りょうひら	両側。両方。 【「かたひら」、「ひら」参照】 例：りょうひらに書いたらええじゃ。(両側に書けば良いのでは。)
2097	るいきいも	さつまいも(薩摩芋)(甘藷)。(芋) 「りゅうきゅう」が訛って「るいき」になっている。東地区(湯野)で使う。 【「いも」、「とーいも」、「りゅうきゅういも」、番外の「芋の呼び名」参照】
2098	るすごと (留守事)	留守の間に御馳走を食べる等の良いことをする。 例：るすごとにええものを食べたんじゃないか。 (留守の間に御馳走を食べたのではないか。)
○ 2099	れんぎ (連木・擂木) (れんげ)	擂粉木(すりこぎ)。 「れんげ」とも言う。今頃は「すりこぎ」を普通に使うかな。岩国地方は「でんぎ」と言うらしい。「摺木(らいぎ)」が訛って、「れんぎ」になったと言う説や、練ることもあるから練木(れんぎ)」を使ったと言う説あり。対になる言葉として「すりばち(擂鉢)」は「れんばち(擂鉢)」や「かがつ」、「かがち」と言うらしいが使ったことはない。 注：漢字は、国語辞書では「連木」となっていたが、方言集には「擂木」となっていたので、併記した。 余談：西日本は「れんぎ」だが、その周辺に「すりこぎ」が分布している。よって、周囲分布をみると、「すりこぎ」の方が「れんぎ」より古い言葉になる。古い言葉の方が標準語になった例と言える。 【「なかつかゆび」参照】
○ 2100	～ろー (～ろう)	～だろう。 推量の助動詞「らむ」の転。用言の終止形について、推量の意を表す。「～じゃろー」とか「～ちよろー」のように使うこともある。 【「～じゃろう」参照】 例：《忠告したのに、失敗した人に対して》 ゆーたろーがや。(言っただろうがね。) ゆーたじゃろーがや。(言っただろうがね。) 例：お菓子は、はあ、あげたろーがね。 (お菓子は、もう、あげただろうがね。) 例：そりゃー、知っとろーでよ。(それは、知っているだろうよ。) そりゃー、知っちゃろーでよ。(それは、知っているだろうよ。)
2101	ろーま	春菊。(野菜) 春菊は地中海原産。中国経由で日本に入った時に、地中海を代表する地名の「ローマ(羅馬)」を名前に付けたようだ。「大葉春菊」のことで、今でも下関や北九州地区では「ろーま」が使われている。周南地区では、中葉春菊が多いので、単に「春菊」と言う方が多いが、今でも「ろーま」を使っている方もおられた。 言い方は「ろーま」 ^マ と「ま」が強く、語尾が上がる。本来ついていた「ローマ菊」、「ローマ菜」の「菊」や「菜」を取った感じで言う。江戸時代は、長州は「ろうま」、防州は「ろうまぎく」と言っていたらしい。 【「かんぴょう」、「はまぐり」、番外の「野菜の呼び名」参照】 余談：イタリアの「ローマ」の言い方は「 <u>ロ</u> ーマ」。

No.	見出し	説明
2102	ろくい (陸) (ろく)	平らなさま。平坦なさま。 「陸」の字をあてるが、「円(まるく)」からの略語らしい。「ろくなことがない」の「ろく」も同じ。計画したことが、順調に行かずに、躓きがあるから、「ろくなこと」が「ない」になる。「ろくでもない」の「ろく」も同様にこの「陸(ろく)」を本来の語源としている。凸凹(でこぼこ)のことは「不陸(ふろく)」。 例：畑をろくーにならず。(畑を平らにする。)
2103	ろくうにする (ろくにする)	①平らにする。②あぐらをかく。膝を楽にする。 注：①の意味は使う。②の意味では周防大島や柳井の方言集に載っているが使ったことはない。「ろく」は「陸」で、心身をゆったりさせる意味がある。 【「ひざーくむ」、「らくにする」参照】 例：このつらーろくーにせず、こっち側へこーばいをつけーよ。 (この面は平らにしないで、こちら側に勾配をつけろよ。)
2104	ろくったま	ろくすっぽ。ろくすっぽう。 下に打ち消しの言葉を言葉に伴って、物事を満足には成し遂げないさまを表す。 例：あいつはろくったま知らんじやろう。 (あいつは陸(ろく)に知りもしないだろう。)
2105	ろをこぐ (艀を漕ぐ)	居眠りする。 「船を漕ぐ」とも言う。 例：《冬に日のあたる窓際で居眠りをしている人を見て》 ぬくーなって、気持ちがあえんじやろー。ろーこぎよるよ。 (暖かくなって、気持ちが良いのだろう。居眠りをしているよ。)
2106	わあこら わあこら言う (わーこら わーこらゆー)	わあわあ言う。 「やあやあ言う」のを「やあこら やあこら言う」と同じ言い方。 なお、「言う」は「ゆー」になり、言い方は「わーこら わーこらゆー」になる。 【「やーやー言う」参照】
2107	～わーね (～わーの) (～わーや) (～わいね) (～わいの) (～わいや)	「～よ」、「～ぞ」ぐらいの意味。 文末にあって感情を添えたり軽く念押しをしたりする終助詞「わー」は単独でも用いるが、「わーね」「わーの」「わーや」など、他の念押しの終助詞を伴った形で使われるが多い。 「そねーなこたー、ないーわーや(そんなことは、ないぞ)」、 「わたしゃー、なんもしらんわーね(私は、何も知らないよ)」などと使う。 「～わいね、～わいの、～わいや」も使う。最後が「ね」の時は女言葉、「の、や」は男言葉。【「～けえー」、「～たーね」参照】 例：そーいやー、こんところ、あのひたー見んわーね。 (そう言えば、最近、あの人は見ないよ。) 例：あんたがさがしよーるもなー、あそこにあーね。 (あなたが探しているものは、あそこにあるよ。) 注：①動詞や動詞型活用をする助動詞の終止形活用語尾の母音「ウ」+文末にあって感情を添えたり軽く念押しする意の終助詞「ワー」(以下同様)や、②形容動詞(ジャ活用、カリ活用型特殊活用)または③断定の助動詞「ジャ」の終止形活用語尾の母音「ア」+終助詞「ワー」は「アー」と発音されるので、「わーね」等は以下のような言い方をすることが多い。 ④「有るわーね」は「アラーネ」、「見えるわーね」は「ミエラーネ」、「来ちよるわーや」は「キチョラーヤ」、⑤「元気じゃわーね」は「ゲンキジャーネ」、「綺麗なわーね」は「キレーナーネ」、⑥「あんたじゃわーね」は「アンタジャーネ」、「これじゃわーね」は「コレジャーネ」など。

No.	見出し	説明
2108	わかいし (若い衆)	①若者。 特にじげ(地下:地元)の祭りなどの世話をするもの。 ②若い職人。 例:あたーわかいしに任して、としよりゃーいの一でよ。 (後は若い人に任して、年寄り帰ろうよ。)
2109	わきゃーない (訳はない)	容易だ。たやすい。 「訳も無い」こと。「わきゃーない」は「訳はない」の山口弁の言い方。 【「はなみやすーにいう」、「みやすい」参照】 例:こねーなこたー、 <u>わきゃーない</u> できるいや。 (こんなことは、簡単にできるよ。) 注:子音内の母音「エ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。「訳は(ワケワ)」は「ワキヤー」、「それは(ソレワ)」は「ソリヤー」となる。 【「そりゃーなにーいや」参照】
2110	わく (分)	製材すること。材木を引いて切り分けること。 言い方は「わく」。 例:この木を製材所でわーてもらう。 (この木を製材所で切り分けてもらう。)
2111	わけ (分)	食べ残し。 「子供のわけ」は「子供の食い残し」。「ねこわけ」の「わけ」。 【「ねこわけ」参照】
2112	わこーさま (和子様)	男の子を敬って言う言葉。「坊ちゃん」と同じ。 今頃はほとんど言わない。
2113	わさ	紐を結んで作る輪。 字は「輪鎖(わさ)」。
2114	わざと	わざと。故意に。 例:ありゃー、わざとやったんじゃろう。 (あれは、わざとやったんだらう。)
2115	わしかた (うちかた) (おれかた)	私の家。自分の家。我が家。 「うちかた」は女性が使う。今頃は「わし」を男性が使うが、昭和初期までは「わし」は女性が、「おら」を男性が使っていたので、昔なら「おらかた」になるかな。今は、「おれ」を良く使う人は「おれかた」、「おれがた」、「わし」を良く使う人は「わしかた」、「わしがた」かな? 反対は「あんたかた」、「あんたがた」。 【「あんたかた」、「うちかた」、「うちんところ」、「おら」、「わしんところ」、番外の「家(『いえ』と『うち』の使い分け)」参照】 例:わしかたへ来いーやあ。 (私の家においで。)
2116	わじける	割れる。弾ける(はじける)。 弾けるように割れること。「われ」+「はじける」で「わじける」か? 例:柘榴(ざくろ)がわじけちよる。 (柘榴が割れている。)

No.	見出し	説明
2117	わしんとこ (わしとこ) (おれんとこ) (おれとこ)	私の所。 「私の家」の意味でも言う。男言葉。同様な言い方として「おれんとこ」、「おれとこ(俺の所)」がある。反対は「あんたんとこ(あなたの所)」。 【「あんたんとこ」、「うちかた」、「うちんとこ」、「わしかた」参照】 例：わしんとこへ来いやー。 (わたしの所へおいでよ。)(私の家においでよ。)
2118	わすれんこーに (わすれん ずくに)	忘れないように。忘れないで。 同じ意味で「忘れんずくに」と言う言い方もある。 【「～こーに」、「～ずく」参照】 例：《友達との別れの時に》 わたしんことを、忘れんこーに、いてーよ。 (私の事を、忘れないで、いてね。)
2119	～わて	～ずつ。 【「～ずた」、「～つた」、「ひとつつた」参照】 例：一人にふたつわて、ミカンを配ろう。 (一人にふたつずつ、ミカンを配ろう。)
○ 2120	わや	①無茶。無理。筋が通らないこと。 ②台無し(だいなし)。めちゃくちゃ。だめ。 「わやく」から。(国語辞書によると「わやく」は①理に合わないこと。むちゃ。②いたずら。腕白。) 「わや」がひどい状態を「わやくしゃ」、「わやくちゃ」、「わやくそ」と言う。 他にも「わや」や「わやく」の説があるので併記する。 「わや」は「わやわや」言いながら騒ぐことが元の意味で、「わやく」は「わやくちゃ」の略との説もある。 また、元々、「わ」の音は「わあー」と叫ぶこと。「や」は驚きなげくこと。「わや」は驚いて、大声で叫ぶ位、無茶苦茶なこと。「く」は「来る」で、「わやく」は驚き叫ぶようなことが、やって来ることと言う説もある。 【「がしゃんど」、「だだんだー」、「わやくう(わやく)」参照】 例：わりゃー、わやするのー。(お前は無茶なことをするなー。) 例：こりよーせーちゅーんか。わやーゆーのー。 (これをしろと言うのか。無理を言うなあ。) 例：《無茶苦茶になっているのを見て》 わやわやじゃいやー。(無茶苦茶だー。)
2121	わやくう (わやく)	①無茶苦茶。 ②冗談。 無茶苦茶な話を冗談ととらえたか？ ③嘲笑。嘲笑する。 「わやく」は「枉惑(おうわく)」の転。国語辞書によると「わやく」は「①理に合わないこと。むちゃ。②いたずら。腕白。」、「枉惑(おうわく)」は「ごまかし、だますこと」。 【「わや」参照】 例：そねーな、わやくーを言うな。(そんな無茶苦茶を言うな。) 余談：上記②の「腕白」の語源は「わやく」と「関白」からの二説がある。江戸後期の随筆集「嬉遊笑覧(きゆうしょうらん)」には「わんぱく」は「わやく」の転とあり、江戸中期の国語辞書「俚言集覧(りげんしゅうらん)」には「関白」を「くわんぱく」と発音していたが「わんぱく」になったと書いてある。

No.	見出し	説明
○ 2122	わらかす (笑かす)	笑わせる。 「笑はかす」の転。 例：よいよ、面白いことをゆうて、わらかすんじゃから。 (本当に面白いことを言って、笑わせるんだから。)
2123	わらばさみ (わりばさみ) (割鋏)	柿の実をもぐための道具。 竹の先を半分に割り、小枝をはさんで縄で縛ったもの。小枝の代わりに藁を挟むこともある。「わりばさみ(割鋏)」とも言う。田布施や光では「もがり」とも言う。【「かんまた」、「もがり」参照】
2124	わりー	①悪い。②済みません。申し訳ない。 ②は、①の「悪いね」の意識で「済まないね」の意味になる。この意味では「すまん」も良く使う。 子音内の連母音「ウイ」は概ね「イー」、または「ウィ」と発音される。よって、「悪い(ワルイ)」は「ワリー」、「ワルイ」。他には、「寒い」は「サミー」、「サムイ」、「熱い」は「アチー」、「アツィ」、「歩いて」は「アリーテ」などがある。 【「さみー」、「すまん」参照】 例：わりーこたあ言わんから、止めた方がええで。 (悪いことは言わないから、止めた方がよいよ。) 例：ぐわえーがわりー。(具合が悪い。) 例：あいつのかおー見たら、むなくそがわりーいっちゃ。 (あいつの顔を見たら、むかむかするよ。) 例：おそーなって、わりー、わりー。 (遅くなって悪かった、ごめん。) 例：こねーにもろーて、わりーの一。 (こんなに貰って、悪いなあ。) →(申し訳ない。)
2125	わりかし	わりと。割りに。 「わりかた」の俗語的な言い方。方言かどうかは良く分からないが、わりかし使うので収録した。 例：今日は、わりかしぬくいの一。(今日は、わりと暖かいなー。)
2126	わるがんつう (わりがんつう)	悪童。いたずら坊主。腕白者。 県東部(伊陸)で言う。柳井の方言集には「わるがんとー」とあった。「がんとー」は「頑童(がんだう)」の変化と思われるが、「がんつう」は頑固なことに良く通じているからと言う意味で「頑通」か？ それとも、「がん」は「頑」だが、「つう」は「ばかたれ」などの「たれ」と同じで卑称なのかも知れない。 「がんつう」だけで「わるガキ」の意味だが、単独では使わずに「わるがんつう」と言うそう。田布施では「わりがんつう」とも言う。 【「がんぼー」、「こびんちゃく」、「わるぼーず」参照】
2127	わるき	割り木。焚き木。掛け木。 言い方は「わるき」。ちなみに、「焚き木」は「たけぎ」。「わるき」は「わりき」の「り」の母音「イ」が「ウ」に母音交替をした例。
2128	わるぼーず (悪坊主)	悪童。いたずら坊主。腕白者。 今頃は「わるガキ」の方が一般的か？「がんぼー」と同じ。 【「がんぼー」、「こびんちゃく」、「わるがんつう」参照】

No.	見出し	説明
2129	われ (わりゃー)	おまえ。 第二人称代名詞。男言葉。目下の者か、相手を罵る時に使う。「われは(ワレワ)」と言う時は「わりゃー」になる。「われはどうするんか」と言うような「は(ワ)」をはっきり言う言い方はほとんどしない。 「わりゃー(われは)」は、どちらかと言うと喧嘩腰のような言い方になるが、これが普通。喧嘩腰の時は「<u>わぁ</u>りゃー」のように「わ」が強調された言い方になる。「わりゃー、くそ! (この野郎!)」と良く言う。 「我は海の子」の「われ」(一人称)とは違う「われ」(二人称)である。 【「おちゃー」、「おどりゃー」、「おんどれ」、「おんし」参照】 例: <u>わりゃー</u>、どうするんかい。(お前は、どうするのか。) 例: わりゃー、わやするのー。(お前は、無茶なことをするな。) 例: <u>わぁ</u>りゃー、何しよるんかい。(お前は、何をしているのか。) 注: 子音内の母音「エ」+助詞「ワ」は「ヤー」と発音される。よって、「われは(ワレワ)」は「ワリヤー」になる。
2130	わろう (わろー)	笑う。 「わろう」の[au]が連母音融合して[o:]になると、「わろう」になる。「わろうでよ」のように、「わろう(終止形や連体形)」で使うこともあるが、「わろーた(笑った)」や「わろーて(笑って)」のように連用形で使うことが多い。広島でも言う。関西でも「何、わろ(う)てんねん(何、笑ってるの?)」のように使う。これは、ワ行五段動詞連用形の活用語尾の促音「ッ」がウ音便化し、さらに[au]が連母音融合して[o:]になるため、「わらった(ワラッタ)」は「フロータ」、「わらって(ワラッテ)」は「フローテ」となる。他の例としては、「かった(買った)」が「コータ」、「かって」が「コーテ」、「ねらった(狙った)」が「ネロータ」、「ねらって」が「ネローテ」などがある。 【「おう(会う)」、「たう」、「とう」、「ひざがわらう」参照】 例: 《笑う場面でないところで笑っている人に》 そねーに、わろーちよつちゃー、いけんよ。 (そんなに、笑ってはいけないうよ。)
2131	～ん	～か? 疑問を持って聞く時に使う。「いくん? (行くのか?)」、「きくん? (聞くのか?)」、「するん? (するのか?)」、「やるん? (やるのか?)」の様に使う。言い方は、「やるん?」を例にとると、普通に聞く時は「やるん?」と歯切れ良くちよつと上がり調子に言うが、疑問が強い時は「やるーん?」のように伸ばして上がり調子に言う。聞きながらその行動に否定的な時は「やるーん?」と下がり調子になる。【「いくん」参照】 例: はあ、やるん? (もう、やるの?) 《「まだ、やりたくないな」の気持あり》
2132	～んか	～(し)ないか。 誘う言い方。「行かんか(行かないか)」、「聞かんか(聞かないか)」、「せんか(しないか)」、「やらんか(やらないか)」の様に使う。 余談: 「～んのか」になると行かない理由を問いたずら言い方になる。「行かんのか(なぜ、行かないのか)」等。【「いかん」参照】
2133	んが(んーが)	いや、いいや、いいえ。 例: A; ケンケンしようやー。 B; んが。 (A; ケンケンしようよ。 B; いやだ。)

No.	見出し	説明
2134	～んかい (～んかいや)	～ないか。 「～せんかい」「～せんかいや」で「～しないか」、「～やらんかい」「～やらんかいや」で「～やらないか」のように使う。ちょっと急かす時の命令口調。 【「どうちゅーんか」、「なんちゅーんか」参照】 例：はよー、せんかい。(早くしないか。) 例：はよー、起きんかいやー。(早く起きないか。)
2135	～んこー (～んこーに)	～(し)ないで。～(せ)ずに。 「～んこー」は少し上から目線の口調になる。「～んこーに」の方が柔らかい言い方になり、良く使われる。なお、同じ使い方の方言としては「～んと」がある。「～んと」の①参照。 【「～こーに」、「～せんこーに」、「～んと」参照】 例：遊ばんこー、仕事をせーよ。(遊ばないで、仕事をしなさいよ。) 例：文句を言わんこーに、やろーでよ。 (文句を言わずに、やろうよ。)
2136	～んさい (～んされ)	～なさい。 「きんさい(来んさい)」と同じで指示を表す。「～んさい」の方が、「～い」より少し柔らかい表現になる。昔は「あがりんされ(あがりなさい)」のように言う人もいた。「～され」は「～さい」よりもっと穏やかな丁寧な言い方のような気がする。【「あげんさい」、「きんさい」、「～い(～え)」参照】 例：走りんさい。(走りなさい。) 例：読みんさい。(読みなさい。) 例：《帰りが遅くなる時》先に寝ちょきんさい。(先に寝ておきなさい。)
2137	～んさる	～なさる。～される。 敬語だが今頃はまず言わないかな。 例：おばあさん、どこへ行きん <u>さる</u> 。 (おばあさん、どこへ行かれるのですか。)
2138	～んじゃった (～だった) (～んかった)	～(し)なかった。 「～(し)なかった」という打ち消しの過去を表す場合、「～んじゃった」「～だった」「～んかった」と言う。【「～だった」、「～なんだ」参照】 例：そりゃー知らんじゃったねー。(それは知らなかったね。) 例：「きによーは家から出だった(昨日は家から出なかった)」、「 「聞かだった(聞かなかった)」、「 「遊ばだった(遊ばなかった)」等。 例：誰も分からんかったねー。(誰も分からなかったね。)
2139	～んずく (～んづく)	～しないまま。～せずに。 「～しない状態で」の意。打ち消しの助動詞「ん」は古語の「ず」が「ぬ」、最後に「ん」に音韻変化したもの。この言い方は中部地方以西で使う。「ずく」が付く言い方の「腕ずく」や「おもしろずく」は標準語で、「ん」がつく「知らんずく(知らないまま)」のような言い方は山口弁と思ったらよい。他には「言わんずく(言わないまま)」、「聞かんずく(聞かないまま)」、「見んずく(見ないまま)」、「食べんずく(食べないまま)」、「出会わんずく(出会わないまま)」、「寝んずく(寝ないまま)」などがある。 【「～ずく」、「せんずくに」参照】 例：あれから、行かんずくでよー。(あれから、行かないままだったよ。) 例：よー分からんずくにやりよったら、できたいねー。 (良く分からないままにやっていたら、出来たよ。)

No.	見出し	説明
2140	～んて (～んって)	～と言うことだ。～だって。～そうだ。 「～んって」と言うこともある。【「～て(～てー)」参照】 例:あのひたー、結婚しちゃったんて。 (あの人は、結婚されたそうだ。)
2141	～んと	①～(し)ないで。～(せ)ずに。 ②～(し)なければ。～(し)ないと。 ①の使い方は「どこにも行かんと、家におった。(どこにも行かないで、家にいた。)」や「むりよーせんと、やらんにやー。(無理をせずに、やらないと。)」など。 ②の使い方は「しっかり食べんと、元気にならんよ。(しっかり食べなければ、元気にならないよ。)」や「よー見てみんと、分からんの一。(よく見てみないと、分からないね。)」など。 この使い分けは、山口県人には容易であるが、標準語を使い慣れた人には難しいようだ。なお、①と同じ使い方で「～んこー」もよく使う。 【「～せんと」、「～んこー」参照】 例:まあ気兼ねせんと、ゆーにしちよきーさい。 (まあ気兼ねをしなくて、ゆっくりしておきなさい。) 例:はよー行かんと、席がないかも知れんど。 (早く行かないと、席が無いかも知れないよ。)
2142	～んど (～んで)	～(する)んだぞ。～(する)のだぞ。 断定的に説明する時と相手の行動を指図する時に用いる。「～んで」も使う。【「～ど」参照】 例:こりやー、お前がやったんど。(これは、お前がやったんだぞ。) 例:あしたー、ちゃんと学校へ行くんど。 (明日は、ちゃんと学校へ行くのだぞ。)
2143	～んとき	～しない方が良い。 例:それはせんとき。(それはしない方が良い。)
2144	んなら	それなら。 【「ほいなら」、「ほんだら」参照】 例:んなら、もちいと粘ってみい。 (それなら、もう少し粘ってみなさい。)
2145	～んにー (～んい) (～んいー)	～んよ! 打消しの強調で、「ん+い(念押し、強調の『い』)」が「んに」になり、「んにー」になった。最後に「ね」「の」「や」を付けて言うことも多い。「～んい」や「～んいー」と言う人もいる。 【「～い(～いね)(～いの)(～いや)」、「～にー」参照】 例:いそがしゅーて、やれませんにー。 (忙しくて、たまりませんよ。) 例:こねーなこたーやっちゃーおられんにーの。 (こんなことは、やってはおられないよ。)
2146	んにや	いいえ。 「うんにや」、「いんにや」、「んにやあ」とも言う。 【「うんにや」、「～にやー」参照。】

No.	見出し	説明
2147	～んにゃー	～しないと。～しなければ。 「言わねば」、「起きねば」のような、標準語の「～ねば」に相当する山口弁は「～んにゃー」である。つまり、標準語における打ち消しの助動詞「又」「ン」の仮定形「ネ」は、山口弁では「ン」となり、後ろに接続助詞「バ」のくだけた形である「ヤ」が付いて、「ン」と「ヤ」は音韻融合し、「ンニャー」と発音される。よって、「言わねば」は「イワンニャー」、「起きねば」は「オキンニャー」になる。 【「いなんにゃー」、「～せんにゃーいけん」、「なけらんにゃー」、「～にゃー」参照。】 例：ちゃんと食べんにゃー、ダメよ。 （ちゃんと食べなければ、ダメよ。） 例：ぐずぐずせずに、はよーいかにゃー。 （ぐずぐずしてないで、早く行かないと。） 注：「ン」+「ヤー」で、「ンニャー」にならずに、「ンニャー」になるのは、連声（れんじょう）と言う作用である。「カンオン（観音）」が「カンノン」、「サンイ（三位）」が「サンミ」になるのと同じ音変化。
2148	んまー	まあ。 驚いたり感心する時に発する感動詞。女性が良く使う。 例：んまー、よおー、くーねー。 （まあ、良く食べるね。） 例：A：んまー、はあ、これでしまいかねー。 （まあ、もう、これで終わりかね。） B：それーね、これでおしまいーね。 （そうですよ。これでおしまいですよ。）

《 番外 》

No.	見出し	説明
1	方言周圏論 (1-1)	方言周圏論（ほうげんしゅうけんろん）は、方言分布の解釈の原則仮説の一つ。 方言の語や音などの要素が文化的中心地から同心円状に分布する場合、外側にあるより古い形から内側にあるより新しい形へ順次変化したと推定するもの。見方を変えると、一つの形は同心円の中心地から周辺に向かって伝播したとする。柳田國男が自著「蝸牛考」（かぎゅうこう、1930年）において提唱し、命名した。
	方言周圏論 (1-2)	柳田國男は蝸牛（かぎゅう）を指す方言が、近畿地方では「デデムシ」、中部地方や四国で「マイマイ」、関東地方や四国で「カタツムリ」、東北地方と九州の一部で「ツブリ」、東北地方北部と九州西部では「ナメクジ」と、近畿地方を中心として同じ方言が同心円状に分布することを発見した。そこで、かつて文化的中心地であったとされる京都では古い順から、ナメクジ、ツブリ、カタツムリ、マイマイ、デデムシのように変化したことから、その時系列と比例して東西南北へ放射状に広がったものと推定した。 【本文の「でんでんむし」参照】

No.	見出し	説明
	方言周圏論 (1-3)	他の例として「探偵!ナイトスクープ」(朝日放送)の番組内での調査により、「馬鹿」「阿呆」などに相当する表現の方言の分布状況がやはり同心円状に広がっていることが判明して、その詳細が同番組のプロデューサーである松本修により「全国アホ・バカ分布考 はるかなる言葉の旅路」(太田出版、後に新潮文庫)としてまとめられている。 余談: 周南では、「アホ・バカ」の意味で、「アホ、アホウ、バカ、バカタレ、ホウケ、ボケ、ボケタレ、ボケナス、タワケ」などを使うが、他の地域では「トロイ、ウトイ、ヌクイ、テレ」のような、この地域で言う、近いがちょっと違う意味になる言葉が使われているようだ。
2	方言への 思い度合い (2-1) 方言への 思い度合い (2-2) 方言への 思い度合い (2-3)	NHKの「みんなでニホンGO!」で放送した明海大学、井上史雄教授編纂の「方言への思い度合いの各県の立ち位置」を参考にして以下に示した。 ・山口県はどこ? 合っていますか? ・あなたの出身県はどこ? 合っていますか? ①方言は好きだが、話すのは恥ずかしい。 (地元愛はあるのだが、ちょっと内気?) 青森、岩手、秋田、山形、福島、新潟、宮城、鹿児島 ②方言は大好きだが、話すのはちょっと恥ずかしい。 (地元大好きだが、照れ屋さん?) 沖縄 ③方言は好きだし、話すのも恥ずかしくない。 (自信家タイプ?) 北海道、京都、東京、大阪 ④方言に好き嫌いはないし、話すのも恥ずかしくない。 (自信家、それとも、無関心?) 神奈川、兵庫 ⑤方言は嫌いだし、話すのも恥ずかしい。 (都会志向で、ちょっと自己嫌悪?) 茨城、栃木、福井 ⑥方言はちょっと嫌いで、話すのも少し恥ずかしい。 (照れ屋さん?) 富山、石川 ⑦方言は嫌いで、話すのも少し恥ずかしい。 (地元蔑視で、照れ屋?) 群馬、山梨、和歌山、岐阜、岡山 ⑧方言は嫌いだが、話すのはそれほど恥ずかしくない。 (地元蔑視で、開き直り?) 愛知、滋賀、埼玉、千葉、奈良 ⑨方言が好きと言うことはないが、話すのはまあ躊躇なし。 (ちょっと謙遜、中庸タイプ?) 佐賀、大分、広島、鳥取、香川、三重、静岡 ⑩方言は、まあ好きだし、話すのも躊躇なし。 (方言を方言と思わずに話している? 標準語に近いと思っている?) 宮崎、熊本、長崎、福岡、山口、島根、愛媛、高知、徳島、長野 注1: ⑨と⑩を合わせたグループが全国平均タイプになる。 注2: 今は、方言に対する考え方も変わって来ている気がするので、あくまでも参考と言うことで見て頂きたい。

No.	見出し	説明
3	山口県の方言区分	山口県の方言区分について、資料に図表とともに載せたので、詳しくはそちらを参照のこと。 昭和40年代に徳山高校の先生をされていた中川健次郎先生が書かれた「講座方言学8 山口県の方言」より転載した。
4	山口弁のアクセントについて (4-1)	山口方言の語アクセントは、共通語などと同じ「中輪型東京式アクセント」に分類される(他には、西関東や鳥取県東部、広島県西部など)が、独特のアクセントを持つものもある。人名の「松田」「山田」などは、共通語では「伊藤」(イトウ)と同じように平板式の発音であるが、山口方言では「加藤」(カウ)と同じように第一音にアクセントを置いて発音する(「マツダ」「ヤマダ」となる)。 また、「山口県」や「山口市」などと言う場合には、共通語と同様に平板型の発音であるが、単に「山口」と言う場合に、「ヤマグチ」と第一音にアクセントを置いて発音すると山口市を指す。同様に「岩国」を「イワクニ」と言う。 フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」より 追記:ただ単に、県や市を付けないで「ヤマグチ」と平板式に発音すると山口県のこと、県外で「どこから来たか」と問われた時に使う。
	山口弁のアクセントについて (4-2)	普通名詞では、「先生(センセー)」(共通語ではセンセイ)、「海苔(ノリ)」(共通語ではノリ)(尾高型)、「梨(ナシ)」(共通語ではナシ)(平板型または中高型)など、第一音にアクセントを置いて発音する例が多く見られる。文アクセントは、「アリマス」「フリマス」のように一音節が高くなって、あとは下降調となる傾向が見られ、山口式文アクセントと呼ばれている。ただし、下関・豊浦方言(豊関方言)ではその傾向は弱い。 フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」より 追記:「来ました」は「キマシタ」。山口では箸は「ハシ」、橋は「ハシ」だが、関東では箸は「ハシ」、橋は「ハシ」になるのでご注意あれ。また、海苔のところに書いた共通語の言い方で「ノリ」と言えば山口では「糊」になる。
	山口弁のアクセントについて (4-3)	①「宇部」は地元では「ウベ」と平板式に発音するが、東京では「ウベ」と第一音にアクセントを置いて発音する。他に地元では「萩」は「ハギ」、または「ハギ」、「岩国」は「イワクニ」と発音するが、東京では「ハギ」「イワクニ」となる。 ②「柳井」は「ヤナイ」、「徳山」は「トクヤマ」、「下松」も「クダマツ」、「防府」も「ホウフ」と平板式。しかし、「株式会社トクヤマ」は「トクヤマ」。「下関」は「シモノセキ」。「小郡」は「オゴオリ」。 注1:「柳井」は「ヤナイ」と言う場合もある。人名なら「ヤナイ」さんとなる。 注2:最近の地名のアクセントはテレビで流れるものを聞いていると、地元の人の言い方、アナウンサーの言い方等がバラバラで、各種あるので、上記のものは一般論とご理解頂きたい。 余談:「防府」は「ホウフ」が一般的だが、高齢者は「ボウフ」と呼ぶ人もいる。
	山口弁のアクセントについて (4-4)	③「おやじ」は山口では「オヤジ」だが、東京では「オヤジ」、関西では「オヤジ」になる。「おふくろ」はどこも同じアクセント。 ④「みやもと」「こばやし」「なかむら」は東京ではどれも平板式だが、山口では「ミヤモト」「コバヤシ」「ナカムラ」となる。 ⑤「ひろし」「たかし」「ひろこ」などの3文字の名前は、東京では第一音が強調されるが、山口では「ヒロシ」「タカシ」「ヒロコ」のように第二音が強調されることが多い。 ⑥「学校」は山口弁は「ガッコウ」、東京では「ガッコウ」。「古典」は山口弁は「コテン」、東京では「コテン」。

No.	見出し	説明
5	東西の違い (5-1)	伝統的方言において山口県の言葉は、アクセントが広い意味での東京式であること以外は、殆ど西部方言に属している。(山口弁アクセントが東京式である理由の一つとして、安土桃山時代から江戸時代にかけて現在の山口県を統治した毛利氏の出自が、もともとは相模の国、現在の神奈川県であったことが関係していると考えられる。)
	東西の違い (5-2)	①一昨日：西は「おとつい」、東は「おととい(おとついの転)」。「おとつい」が主体の西は「おととい」を標準語的な言葉と意識し、「おととい」が主体の東は「おとつい」を上品な言葉と認識しているようだ。 ②あさっての翌日(明明後日)：西は「しあさって」、東は「やのあさって」、ただし、東京都区内は「しあさって」、岐阜、三重、北陸の一部、九州南端では「さあさって(ささって)」。 ③あさっての翌翌日：西は「ごあさって」、東は関東一円は「しあさって」、福島から山形、秋田、青森は「さあさって」、ただし、東京都区内は「やのあさって」。よって、「しあさって」と言う時は、相手の出身地を確認する必要あり。
	東西の違い (5-3)	伝統的方言では、「おる(居る)」「西」と「いる」「東」、「なすび」「西」、「なす」「東」、「素麺流し」「西」、「流し素麺」「東」、「からい(塩からい)」「西」、「しょっぱい」「東」、「うろこ(鱗)」は飛騨山脈を境界にして「うろこ、うろこ、いりこ」「西」、「こけ、こけら」「東」。 また、「つゆ(梅雨)」は全国を三分する言い方がある。「つゆ」は四国、九州を除く西日本、「ながし」が四国、九州、「にゅうばい」が東日本一帯。
	東西の違い (5-4)	伝統的方言における東西対立だけでなく、近代になって使われ始めた言葉にもこの現象は見られる。 「ワイシャツ」〔東〕と「カッターシャツ」〔西〕、「画鋏」〔東〕と「押しピン」〔西〕、「学区」〔東〕と「校区」〔西〕、「メンチカツ」〔東〕と「ミンチカツ」〔西〕、「肉まん」〔東〕と「豚まん」〔西〕、「牛丼」〔東〕と「肉丼」〔西〕、「アイスコーヒー」〔東〕と「冷(レイ)コー」〔西〕など。
	東西の違い (5-5)	他には、「綿あめ」〔東〕と「綿菓子」〔西〕、「鶏肉」〔東〕と「かしわ」〔西〕、「かけうどん」〔東〕と「素うどん」〔西〕、「チャーハン」〔東〕と「焼きめし」〔西〕、「メンチカツ」〔東〕と「ミンチカツ」〔西〕、「串揚げ」〔東〕と「串カツ」〔西〕、「炊き込みご飯」〔東〕と「かやくご飯」〔西〕など。 注：厳格に言うと材料や調味料に違いがあるものもあるが、おおめっそな分け方とご理解下さい。
	東西の違い (5-6)	余談1：北海道は梅雨がないと言われているが道南には「ずり」という言葉がある。他の地域は「つゆ」なので「つゆ」は入植者が持ち込んだ言葉か？ 余談2：「ワイシャツ」は「ホワイトシャツ」の訛りで「ホ」と「ト」が発音されなくなったから、「ワイシャツ」になった。「Yシャツ」は間違い。また、「カッターシャツ」はスポーツメーカーの「ミズノ」が開発したシャツで「勝った!」をもじって名付けたようだ。

No.	見出し	説明
	東西の違い (5-7)	余談3:「肉まん」と「豚まん」、「牛丼」と「肉丼」の方言対立は、「肉」という語を使う場合に、普通、西日本では牛肉を、東日本では豚肉を意味することが多かった食文化の違いから発生したもの。山口弁は基本的には西部方言の方に属すが、「肉まん」以下の食品については全国的なチェーン店などの影響で、山口県でも多くの人が東部方言を使うようになっている。 余談4:余談3の「肉」の使い方にあつたように、肉じゃがの肉は関西は「牛肉」、関東は「豚肉」が主流。 余談5:「校区」、「学区」以外に北陸は「校下(こうか)」、名古屋は「連区」と言うらしい。
	東西の違い (5-8)	余談6:うどん、そばの「きつね」と「たぬき」の東西の違い 関東では「うどん or そば」+「油揚げ」=「きつね」 「うどん or そば」+「揚げ玉(天かすのこと)」=「たぬき」 関西では「うどん」+「油揚げ」=「きつね」 「そば」+「油揚げ」=「たぬき」 「うどん」が標準的な大阪の食文化で「油揚げ」をのせたのが「きつね」であつたが、それに標準外の「そば」に「油揚げ」をのせたものが出て来たので、「たぬき」に化けたとなつたらしい。 ただし、京都では「うどん or そば」+「刻み油揚げにあんかけ」=「たぬき」で、これは、「どろっとしている」→「どろんどろんとしている」→「たぬき」となつたようだ。 なお、揚げ玉については、関東はお金がいるが、関西では「天かす」と呼んでタダ。
6	挨拶の表現 (6-1)	「ごめんください」は、山口弁では、 ①「ごめん」 ②「ごめんなさえーませ」 ③「ごめんなさんせ」 ④「およろしさんせ」 ⑤「あんたんでありますか」「あんたんでござりますか」 ⑥「おるんかえーの」「おるんかえーね」「おるかね」 ⑦「おってかの」「おってかね」「おってかえーね」など。 【本文の「あんたんで」、「ごじぶんですか」参照】
	挨拶の表現 (6-2)	①は、かつて子供や若年層などがよく使ったやや粗野な表現。 ②は現在最も使用頻度の高い丁寧表現。 ③④は丁寧度において②よりやや低い表現。 ④は「お許ください」の意で、最近あまり耳にしない。 ⑤は「ご安泰であるか」または「あんた方ですか」あるいは「あんたは御在宅ですか」の意の丁寧表現で、大正時代ぐらいまでは普通に使われていたようだが、現在では殆ど死語。 ⑥は「居るか」の意で、気兼ねの無い親しい間柄において使われる。 ⑦は敬意を示す助詞の「て」を用いており、親愛の気持ちを込めた「居らっしゃるか」ぐらいの意を表す挨拶。
	挨拶の表現 (6-3)	「おはようございます」は「おはよーござえーました」「おひんになりました」としばしば過去・完了の形で交わされる。 「いらっしゃいませ」に相当する表現は、「おはえーりなさえーませ」「おあがりなさえーませ」「おかけなさえーませ」と、標準語同様動作による使い分けがある。

No.	見出し	説明
	挨拶の表現 (6-4)	親しい間柄ではそれぞれ「はえーりさんせ」「あがりさんせ」「かけさんせ」を使い、ごく親しい間柄や目上から目下への表現では、語尾に「せ」を付けない。 別れの挨拶の「それじゃまた来るよ」などは「はいじゃまたこー」や「へたらまたこー」、「おじゃましました」は「おさまたげしました」をよく使う。 「失礼しました」「失礼します」は「ごぶれーしました」「ごぶれーします」、「すみません」「申し訳ありません」は「ごぶれー」を使うが、今頃の若い人はほとんど使わないと思う。 【本文の「ごぶれいしました」、「ごぶれいします」参照】
	挨拶の表現 (6-5)	その他には、「そろそろおかえーりませ（気を付けてお帰り下さい）」、「さえーなら（さようなら）」、「おえろーござえーました（お疲れ様でした）」、「たえーがとーあります（ありがとうございます。恐縮です。）」、「おたえーがとーあります（①ありがとうございます。恐縮です。②また、場面が変わると「御愁傷様です」の意味で使う。）」 【本文の「おえろーありました」、「ごしんぱいです」、「そろそろ」参照】
	挨拶の表現 (6-6)	やり取りの例は、訪問者が丁寧に「ごめんなさいませ」なら「よう おいでなさいました」、少しくだけて「ごめんなさんせ」なら「よう おいでんさんした」か「よう おいでました」。 家に入れる時は「おはいりなさいませ」、縁側などの時は「お掛けなさいませ」。帰る時は、「はいじゃー、ごぶれーします」となる。 お客を引き止める時は「まだ、よーございますじゃーありませんか（まだ、いいではないですか）」となる。 【番外の「昔の言葉、行事？」の「すみましたか」参照】
7	「ぶち」の付録 (7-1)	強意の副詞「ぶち」は、「ぶち寒い」、「ぶち美味しい」、「ぶち真面目」というふうに、「非常に」、「すごく」、「たいへん」など程度が甚だしいことを表現する場合は新方言である。 元々この語は、1970年前後頃から山口県で使われるようになった流行語（若者語）で、伝統的山口県方言ではない。東部では戦前から使われていたと言う説もある。
	「ぶち」の付録 (7-2)	元々の「ぶち」は動詞の「打つ（ぶつ）」が接頭語となったもので、副詞ではない。接頭語の「ぶち」は動詞の上に付いて、「標準語」では意味を強めたり荒々しい動作でその事をする意を表し、「ぶち壊す」、「ぶちまける」、「ぶち込む」などと用いる。 「伝統的山口県方言」では主に荒々しい動作で物事をする意を表し、「ぶち殴る」、「ぶちにやす（強く殴る）」、「ぶちめぐ（乱暴に破壊する）」、「ぶち蹴る」などの動詞がある。
	「ぶち」の付録 (7-3)	「ぶち」に相当する、強意の副詞は東京周辺の「ちょー」、関西の「めっちゃ」、「むっちゃ」、福岡市や長崎県などでは「ちかつぱ」、「ちかつぱい」、名古屋周辺では「でら」、熊本県では「まうごつ（舞うごとく）」、「むしゃんごつ（武者のごとく）」、「うまんごつ」、「たいぎゃ」、宮崎県では「てげ」、大分県や沖縄県では「しんけん」、北海道や新潟県では「なまら」。 同義の「ぶり」や「ばり」は山口県では、「ぶち」ほどには使用頻度が高くない。「ぶち」、「ぶり」、「ばり」は広島県でも使われ、「ばり」は福岡市や関西などでも用いられる。

No.	見出し	説明
	「ぶち」の付録 (7-4)	余談1:元防府図書館長の森川さんによると、「ぶち」は、2013年現在、東は広島県の全域と岡山県の笠岡辺りまで広まっているが、西は関門海峡を越えることができないようだ。北九州の「でたん」に阻止されている格好かな? 東は岡山には「でーれー」、「ぼっけえ」があるので、これ以上は進まないかな? 余談2:「ちかつぱ」は「ちからいっぱい」から、「でら」は「どえりゃー」から、「でたん」は「大胆」からと、いろいろの語源あり。
8	家 (「いえ」と「うち」 の使い分け) (8-1)	家屋(建物)を表現する場合、山口県では「いえ」を使う。「いえを建てる」と言う。 しかし、一般的な意味での家庭・家族を指す場合も「いえ」を使い、自分の家庭・家族を意味する場合には「うち」を用いる。 たとえば、「あのいえにゃー優秀な子がおいー(多い)」「あんたー、はよーいえーかえーりさん(あなたは、早く家に帰りなさい)」と言う場合の「いえ」は、一般の家庭・家族を指す。
	家 (「いえ」と「うち」 の使い分け) (8-2)	これに対し、自分の家庭・家族の場合には、「うちにゃー、よいよー、かしけー子がおらん(私の家には本当に賢い子がいない)」「ちえーと、うちー寄って行きさん(ちょっと、私の家に寄って行きなさい)」などと使う。
	家 (「いえ」と「うち」 の使い分け) (8-3)	「はー、いえーかえーろーや(もう、家に帰ろうよ)」と言う時の対象には他人を含んでいるが、対象が自分の家族に限られる場合には普通「はー、うちーかえーろーや」と言う。 抽象的な観念としての家庭・家族や家系を意味する場合は「いえ」を使い、「自分のいえの格式」「長男がいえを継ぐ」などと言う。これは標準語の用法と同じ。
9	数の数え方 (9-1)	山口では1本、2本、3本、4本、5本を「いっぽん」、「にほん」、「さんぽん」、「よんぽん」、「ごほん」と言う。1匹、2匹、3匹、4匹、5匹を「いっぴき」、「にひき」、「さんびき」、「よんびき」、「ごひき」と言う。4のところは関東では「よんほん」、「よんひき」と言うらしい。 4の後が濁るのは、3で濁るので続いて濁る言い方になっていると言われていたようだが、「促音 っ」の後には「半濁音符 ゜」で、「撥音 ん」の後には「濁点 丶」がルールなら山口弁が本来の有り方かも?
	数の数え方 (9-2)	余談1:「千本」は「せんぽん」、「万本」は「まんぽん」と言うように、「ん」の後には「ぽん」。よって、「よんぽん」は本来は正しい読み方。 なぜ、「よんほん」になったかと言うと、昔は「しほん」だったが、「し」が「死」に通ずるのを嫌ったため、「よほん」と読み替えた。これが、前の「さん」に釣られて、「よ」が「よん」になり、「よんほん」が定着したようだ。よって、「よんほん」は本当は江戸の方言。
	数の数え方 (9-3)	余談2:「三階」を何と読むか? 「さんがい」、それとも、「さんかい」? 今頃は、「さんかい」と読む人が増えているそうだ。「さんがい」、「よんがい(四階)」はいつまで生き残れるか? 余談3:方言ではないが、「10」を「とお」と言うのは、両手で数を数えた時に、「1」から一番「とおい」から、また、「20(歳)」を「はたち」と言うのは両手両足で数を数えた時に、指を「使い果たす」からと言われている。

No.	見出し	説明
10	野菜の呼び名 (10-1)	・唐茄子(とうなす) → トマト(東京、埼玉、栃木、群馬では「とうなす」は「かぼちゃ」のこと) ・唐黍(とうきび)、南蛮黍(なんばんきび) → とうもろこし(県外では、トウマメ、トウムギ、トウナスと呼ぶ) ・唐豆(とうまめ) → インゲン豆(隠元豆)(空豆のことを言うところもある。県外ではトウモロコシの意味になることあり) ・唐柿(とうがき)、南蛮柿(なんばんがき) → いちじく ・とーぶら、ぼーぼら、なんきん → かぼちゃ(ポルトガル語でウリ類をアボボラと呼ぶ。唐から入って来たアボボラで「とーぶら」) - KRYテレビの山口弁コーナーより
	野菜の呼び名 (10-2)	・おーね → 大根 ・なんまん(西地区) → とうもろこし ・まんまんきび、ままんきび、とうきび(東地区) → とうもろこし ・あじうり、まっか、なつめうり → まくわうり(真桑瓜) ・あぜまめ → 大豆 ・さんどまめ → さや隠元、隠元豆 ・そらず → そらまめ(空豆) ・ちしゃつぱ → サニーレタス ・なすび → なす ・ろーま → 春菊 ・そこまめ(底豆) → 南京豆、落花生(東地区) 【本文の各欄参照のこと】
11	芋の呼び名	・いも → さつまいも(山口県では単に「いも」と言えば「さつまいも」のことを指す。) ・こいも → 里芋(親芋を食べずに、子芋を食べる食習慣による。) ・かいいも → 里芋(さわると、かゆくなくなるから。) ・きんかいも → 馬鈴薯、ジャガイモ(「禿げ頭」を「金柑」になぞらえて、「きんか」と言う方言に由来している。) ・琉球いも、とういも(とーいも)、るいきいも → 甘藷、甘薯、さつまいも ・ちなみに芋ではないが、らんきょ → らっきょう 【本文の各欄参照のこと】
12	魚の呼び名	・あかまつ → カワムツ ・あぶらめ → アイナメ ・おつむぎ → アイナメ ・がぜ → 小魚 ・がっちゃん → コチ ・かなこぎ → ハオコゼ ・ぎざみ → べら ・きすご → キス ・ごり → よしのぼり ・すすりん → うなぎの稚魚 ・たいたい → 魚(幼児語) ・ちん(ちぬ) → 黒鯛 ・どろばえ(どろんばえ) → タカハヤ 鮠(ハヤ)の一種 ・はげ → カワハギ ウマズラハギ ・ほーせんぼう → カマツカ(鎌柄) ・まんさく(満作) → シイラ(鰯) ・めーぼ → カワハギ ウマズラハギ ・めーたんご → メダカ ・もさ → 小さいさめ(鮫) ・もみだねうしない(粃種失い) → アイナメ(鮎魚女)
13	幼児語 (13-1)	・あっぱい → ①着物 ②赤いもの ③美しいもの ・あとーさま(あとーさー)(あとーはん) → お月様 ・あば → 着物 ・あんあんした → 泣いた ・あんも → [あんもち] ・えーえ → 汚い時 ・おひーさま(おひーさー) → 太陽 ・おりこーさん → 良い子 ・おんりする → 背中から下に降りる

No.	見出し	説明
	幼児語 (13-2)	・かおかお → 手を握ったり開いたりするしぐさ ・かくれご → かくれんぼ ・がんが → 魚の骨 ・がんじ がんじしよう → 良く噛もう ・こっこ → 鶏 ・こつつんこ → ぶつかること ・ごんごんちい(ごんごー) → おばけ 妖怪 ばけもの
	幼児語 (13-3)	・しいをする(しーをする)(しーする) → 小便をする ・しゃむいしゃむい(しゃぶいしゃぶい) → 寒い ・しゅき(ちゅき) → 好き ・シュッポッポ(シュツシュッポッポ、ポー) → 汽車 ・シュンする → 鼻をかむ
	幼児語 (13-4)	・たいたい → さかな ・たかたか → 幼児を高く抱き上げること また、その時の掛け声 ・たっちする → ①[立つ] ②さわる ・だんだん → ありがとう ・ちゃぶちゃぶ(ちゃんぼ) → お風呂(「ちゃぶしよう」と使うこともある) ・ちゃん → (赤ちゃんを)座らせる(「ちゃんしんさい」と使う) ・ちゃんこ → 座る ・ちょーち ちょーち → 手をたたくこと
	幼児語 (13-5)	・つーしなさい → 吐き出しなさい ・つるつる → [うどん 麺類] ・でんで → 銭 お金 ・てんてん → [手拭] ・とーんする(たーんする)(てーんする) → 転ぶ 倒れる ・とんする → ①座る ②落ちる 転ぶ (座るの意味で「あっとんする」とも言う) ・とんち → 座る
	幼児語 (13-6)	・ないない → ①無くなった ②[片付ける] ・なきびい → 泣き虫 ・ぱかぱか(ぱっかぱっか) → [馬] ・ぱくちん → とても ・ばばちい(ばばちい) → 汚い ・びーびー → ①汚い ②泣く 泣く様子 (言い方が平板式、または「びーゝびーゝ」の時は①「汚い」、 「びーゝびーゝ」の時は②「泣く」意味になる。)
	幼児語 (13-7)	・フーフーする → [吹く] ・ぶんぶう → ①水 ②お風呂 ・ぶんぶん → [虻 蜂 かなぶん等] ・べべ → [着物] ・べんべ → ①血 ②きれいな着物 ・ほんこ → 良い子
	幼児語 (13-8)	・まんま → [ご飯] ・まんまんさあ → ①仏様 仏壇 ②神様 ・まんまんさーあっ → 拝む時の唱え言葉 ・めーめーする(めーする)(めんめ) → 叱る ・めめ → [目]
	幼児語 (13-9)	・やーや → 落とす 壊す 失敗する(物を落としたり、壊したりした時) ・やーやーする → 果物の皮を剥くなど、状態が良いようにする ・よんよ → 散歩 歩き ・よんよん → 外へ よそへ 注: 標準語に[]がついている言葉は、全国的に使われている幼児語。

No.	見出し	説明
14	身体に関する 方言 (14-1)	◎本書に載せた身体や感覚等に関する山口弁をまとめた。 (50音順に列記しているので、同意語などの更なる項目での「まとめ」は読者にお任せすることにする。) (複数の意味があるものは、身体に関するもののみを記した。) ・あおじ(あおち)(あおじに)(あおじみ) → アザのこと 打ち身のあざ ・いがい(いがらい) → いがらっぱい のどに対して使う ・いがいがする → のどがいがらっぱい 棘が刺さったような肌触り ・いぎが刺さった(いぎが立った) → のどに小骨が刺さった ・いぐしりわりー(いぐしり悪い) → うっとうしい 気分が悪い ・いずい → 違和感 窮屈 収まりが悪い ・いとーない → 痛くない ・いびしー(いびせー) → 見て気持ちが悪い 見た目が汚らしいこと ・いろめ → 顔色 血色
	身体に関する 方言 (14-2)	・うずく(疼く)(うづく) → 痛む 神経や筋や傷の痛み ・うずろうしい → 鬱陶(うっとう)しい ・うらぶ → 瘰癧(ひょうそ) 指先の化膿性炎症 ・えずく(えづく) → 吐き出す もどす ・えらい(えらえー)(えれえー) → 疲れた だるい つらい ・おどろく → 寝ていて、目が覚めること ・おぼる(うぼる) → ①疲れて筋肉が張る ②腫物が膨れて痛む ・おぼろしい → ①腫物で顔がうずうずする感じ ②顔や目がほてって、腫れぼったい感じ むくんだ状態
	身体に関する 方言 (14-3)	・かいいい → かゆい ・かぐる → 引っ掻く ・かじょーひく → 風邪を引く ・かぶる(齧る) → ①虫が刺す ②動物が噛みつく ③おなかが痛い ・かまれる → 蚊に刺される ・からすなえ(からすない) → 筋肉の痙攣(けいれん) こむら返り ・かんばれ(寒腫れ)かんやけ(寒焼け) → 凍瘡(とうそう) 霜焼け ・きつぽ → 傷跡(きずあと) 傷痕 切り傷や火傷の跡 ・ぎばる(気張る) → トイレで息(いき)む
	身体に関する 方言 (14-4)	・くすばいー(くすばえー) → くすぐったい ・ぐつが悪い(ぐつがわりー) → 具合が悪い 塩梅(あんばい)が悪い ・くろじ(くろぢ)(くろじに) → アザのこと 打ち身のあざ ・ぐわえー → 具合(ぐあい)(ぐわい) ・こそばい(こそばいー)(こそばえー) → くすぐったい ・こつる → 咳をする ・こねる(捏ねる) → くじく ・こようがつかえる(小用が支える) → 小便をしたくなる ・こわえー(こわい) → 疲れてだるい ・こんごーをかるー(こーごーをかるー) → 姿勢が悪く猫背になること

No.	見出し	説明
	身体に関する 方言 (14-5)	・さかむげ → 逆剥(さかむ)け ・さぶけがする(寒気がする) → 寒気がする 悪寒(おかん)がする ・さみー(さびー) → 寒い ・じかじかする(じかじかする) → ちくちくする【本文参照】 ・ししらさむい → 肌寒い 何となく寒い ・しむ(しゅむ) (しゅみる) → しみる(染みる 滲みる 沁みる)こと ・しゃんとする(しゃんとせる) → すっきりする さっぱりする (風邪が治らない時は「しゃんとせん(すっきりしない)」) ・しゅむ → 鼻をかむこと 幼児語は「シュンする」 ・しわる → 胃がもたれる 重苦しい 少し痛む
	身体に関する 方言 (14-6)	・すいばりがたつ → とげが刺さる ・すえる → 耳が聞こえなくなる ・ずくずく(づくづく) → 腫物などの痛むさま ずきずき ・すくれる → 冷える 凍える 寒がりは「すくれ」 ・すじ(すじゅーひく) (すじょーひく) → 痙攣(けいれん) 引き付け ・すわぶる → 舐める(なめる) しゃぶる 吸う ・せく → 腹が痛い時に使う どちらかと言うと刺すような痛み ・せく(咳く) → ひどく咳をする 咳き込むことが続く時に使う (昔は「たぐる(吐る)」とも言う) ・せわーない(世話は無い) → 大丈夫 心配ない
	身体に関する 方言 (14-7)	・たいぎい(大儀い) (たいぎな) → 体調が悪くて気が進まない ・たごうた(たごーた) (たがう) → 捻(ひね)った 捩(ね)じった 捻る 捩じる ・だる(疲る) (倦る) → 疲れる くだびれる ・ちぶくれ → 打ち身で黒血が溜まって膨れ上がる状態 血膨れ ・つむ(抓む) (摘む) → 切ること 爪や髪を切る時に使う ・つめる → 痛む 胃が痛むこと ・できもん → 出来物 吹き出物 おでき ・どがーもない(どげーもない) → どうもない
	身体に関する 方言 (14-8)	・におう(によう) → 嗅ぐ ・にがる(苦る) → 痛む 主に腹が痛むのに使う 鈍痛 足や腰を使いすぎて疲れた時も使う また、「悩ましい、困る」ような意味でも使う ・にじゅむ → にじむ にじみ出る ・ねたがい(ねたがえ) → 寝違(ねちが)えること ・ねたがえる(寝違える) (ねたごう) → 寝違(ねちが)える ・ねぶたい → 眠たい ・ねぶる → 舐める(なめる) しゃぶる ・のどぶとい(喉太い) → もう要らない おいしそうにない

No.	見出し	説明
	身体に関する 方言 (14-9)	・はしかいー(はしかいい) → 痛がゆい むずがゆい ・はしる → 痛い 歯・頭が痛い時使う 刺すような痛み ひりひり ずきずきするような痛みに 使う 切り傷や火傷の痛む時にも使う ・ばる → 小便をする ・びやびやする → 日焼けしてヒリヒリする感じ 【「やびやびする」参照】 ・ひる(放) → 放尿、放屁をすること ・ふがあがる(ふがはる) → ①足が棒になる ②こむら返り ・ふくちゅうがまめ(腹中が忠実) → 内臓に問題がない ・へる → 「放(ひ)る」の転 ・ほーちゃく(疱熟) → 化膿して悪化すること ・ほおはれ(ほおばれ) → お多福風邪のこと ・ほとびる(潤びる) → ふやけること
	身体に関する 方言 (14-10)	・まめ → 元気 ・まめになる → 元気になる 病気から快復する ・めいぼ(めぼ) → 目にできる腫れ物 ものもらい(麦粒腫) ・やいとをすえる(灸をすえる) → お灸をする意 ・やじゃじ → いろいろ ・やでない(やぜない) → 煩わしい(皮膚の荒れ、べとべと感) ・やびやびする → ヒリヒリする むずがゆい 【「びやびやする」参照】 ・よわずー → 体の弱い人 虚弱体質の人
	身体に関する 方言 (14-11)	◎昔の人が使っていた方言をまとめた。 (番外の「昔の言葉、行事?」より) ・いこ → 乳幼児の体力 「いこがある(強い)」「いこがない(弱い)」 ・うじゃける(うじゃじゃける) → 皮膚がただれること 化膿して膿がでる状態のこと ・じゃぎ → あばた ・とんぼやみ → 極めて短い時間に嘘のようにケロリと直ってしまう 病気の現象を言う ・ねはんはあ → 病気などで寝たままになった人のこと 涅槃様のこと ・やみすてる(病み捨てる) → 長い持病から開放されて本復する 元通りの健康体に戻ることに

No.	見出し	説明
	身体に関する 方言 (14-12)	◎身体の部位、状態等を示す言葉をまとめた。 ・いび → ゆび ・うしろあたま(後ろ頭) → 後頭部(こうとうぶ) ・かがと → 踵(かかと) ・きー → 頭の「雲脂・頭垢(ふけ)」 ・ぎり(まいまい) → 頭の旋毛(つむじ) ・こけつ(こけ) → 垢 ・ごたえー(五体) → 身体そのもの、及びその状態や体格など ・じろまい(じなまい) (じーなまい) (じのまい) → 頭の旋毛(つむじ) ・しわもふれ → しわだらけ ・せー → 背(せい)のこと ・せな → 背中のこと ・たてよこたろうちよる → 背も高く、体つきも良い ・たんけつ → 痰(たん) ・つず(つづ) → つば 唾液 ・つべ → お尻 ・どんばら → 太鼓腹
	身体に関する 方言 (14-13)	・なかたかゆび → 中指 ・のどまめ(のどんこ) → 口蓋垂(こうがいすい) ・はぶ → 歯茎(はぐき) ・ひだぼうず(ひざぼうさー) → ひざ坊主 膝小僧 膝頭 ・ひゃっかん → もみあげ ・ほうたん(ほーたん) → 頬 ・ほおびんちゃく → 頬(ほお・ほほ) ・ほおべた(頬辺) → 頬 ・ほぐろ → ほくろ(黒子) ・ほやけ → 赤いあざ ・ほろせ → 湿疹 ・まいまい(まえーまえー) (まいまいこ) → 頭の旋毛(つむじ) ・またくら → 股ぐら ・まひげ → 眉毛 ・まより → 目脂(めやに) ・みみこ(みみこ) → 耳垢 ・ももたぶら(ももた) → 腿(もも) 注：本文の見出しにはないが、「きびす → かかと」、「こぶ → くるぶし」も昔は言っていたらしい。【「かがと」参照】 ◎余談：身体に貼るもので、方言化しているもの。 ・カットバン → 絆創膏
15	昔の山口弁？ (15-1)	徳山のマツノ書店の袋の「防長方言番附」に書いてある山口弁の中で本文見出しに載せていないものを以下に示す。周防側の方言は、昔は言っていたのだろうが、今は、絶滅危惧種の方言に近いと言えるかも知れない。 【資料「防長方言番附」参照】 周防前頭(上から順に掲載) ・はつく → 繁盛する ・にーま → 兄さん ・びしゃく → 叩(たた)く ・とちれる → まごまごする 注：他に、「とてつもない(予想外)」と「しける(荒れる天気)」があるが、国語辞書に載っているので入れなかった。また、「にーま」は「～まー」の欄に説明あり。「とちれる」は「とちまよう」に近い。 【「とちまよう」、「～まー」参照】

No.	見出し	説明
	昔の山口弁? (15-2)	長門前頭(上から順に掲載) ・どーげん → 子供の悪戯 ・めぎつける → 叱りつける ・ざまく → 不作法 取り乱し ・あねさん → 庶民層の人妻 ・さばる → とりすがる ・こなげる → 草や薪を束にする ・いれる → 愠気(りんき) やきもちをやくこと ・ぐと → よほど ・こんげん → よほど 全然 ・はじく → しゃべる ・あえる → 雨等のおちる ・けぶりやく → 共同の奉仕作業 ・いらぬさいこ → いらぬお世話
	昔の山口弁? (15-3)	注1:他に「かげん(病気、不快)」があるが国語辞書に載っているのに入れなかった。それから、「てこにあわぬ(手に負えぬ)」は「てごにおえん」、「かいざら(全然)」は「かいさら」と長門と周防で若干表現が違うが同じ言い方として本文にあるので、ここには入れなかった。 注2:【「どーげん」については本文の「がんぼー」を参照のこと】 注3:【「さばる」については本文の「すがる」を参照のこと】 注4:「いらぬさいこ」の「さいこ」は周防では「さいこをやくな(いらぬ世話をやくな)」と使っていたようだ。 【本文の「さいこをやく」、番外の「昔の言葉、行事?」の「さいろい」参照】 余談:広島では「さいきょーをやく(お節介をやく)」と言い、「さいきょ」は江戸時代の公用語「裁許(申し立てを認める、仲裁をする)」のこととの説もあるが、「さいこ」の変化とも考えられる。
16	昔の言葉、 行事?	昔の言葉や行事で気になったものを以下に列挙した。周南地方と言うことでなく、山口県東部の明治、大正生まれの人が話していた言葉、行っていた行事と思って頂きたい。 主に、編者の祖母、伯父が喋っていた言葉が主体である。
16-1	あいちょうじる	幼児を相手にして機嫌を取って遊ぶこと。 それが転じて、問題の多い人に対していい加減に適当な応対をすることにも使う。【本文の「そびく」参照】
-2	あけだい	子供をほったらかし、放任している状態。 無責任と言うことではなく、昔の農村の普通の状態。転じて、見て見ぬふりをするように使ったのか?
-3	いぎぢない	えげつない。 「いぎつな一」とも言った。中世の古語。ひどい仕打ちをすることを「いぎぢなさんぼーにする」と言った。
-4	いこがある	「いこ」は乳幼児の体力、気力。 強そうなら「いこがある」、弱そうなら「いこがない」と言った。
-5	いっこんづけ	煮魚、焼き魚を一尾まるごと膳部に供えるのを言う。 晴れの日の豪華な馳走の代名詞。「いっこん」は「一喉(いっこん)」で魚の一尾を指した。「づけ」は「付け」。昔は魚を一尾まるごと食べると言うのは夢のような出来事だった時代の言葉と言える。 【本文の「こん」参照】
-6	いどかえ (井戸替え)	家の主人が井戸の底に入って、中の泥等を掻き出す作業。 お盆の一週間前に行う。近所の若い衆4、5人に手伝ってもらい、きれいになった水でそうめんを冷やして振る舞うのが習わしになっていた。

No.	見出し	説明
-7	いのこ (亥の子)	旧暦の10月の亥の日に行うお祝い。稲の刈り上げと、猪の子供が多いことから子孫繁栄、子供の健康と成長を祈った。 「亥の子石」と言う直径30cm、高さ40cm位の真ん中がくびれて鉄の輪が付いているものを、数人の子供が綱で上下に振って各家の玄関周りを搗いて歩く行事。 最後に物干し竿を使った子供竹合戦が部落対抗で行われた。この合戦が危ないと禁止されて、この行事が無くなったようだ。なお、この日に炬燵や火鉢を出す「火の用心」が良いとされた。 注:「亥の子」は一時すたれていたが、最近、下松の中河原地区で行うようになったように、各所で復活しているようだ。
-8	うじゃける (うじゃじゃける)	皮膚がただれること。化膿して膿がでる状態のこと。
-9	うたてい	①汚い。不潔。②恐ろしい。気味が悪い。 古語「うたてし」から。 例:うたてーやつがやってきた。 (汚らしいやつがやってきた。) 例:夜道はうたてーから、きーつけーや。 (夜道は気味が悪いから、気を付けろよ。)
-10	うぶがみさんが わらわせる (産神さんが 笑わせる)	生まれたばかりの赤子の微笑のこと。 かすかに笑みを浮かべているのを見て「うぶがみ(産神)さんが笑わせておられる」と言う。「産神」すなわち「産土神(うぶすながみ)」は生まれた子の守護神でもあったので、子供の笑いに神のはかりごと、神威のなごみを感じたのであろう。
-11	えんばい (塩梅)	塩梅(あんばい)を直接読み下した言葉で、主としてお客の褒め言葉として使われた。 ご馳走を前にして、「ええごえんばいで・・・」の様に使った。
-12	おあてがい (お宛てがい)	神助。良いめぐり合わせ。 善根、陰徳を積んだ人にはそれなりの果報が、悪徳を重ねた人間には、またそれなりのむくい、それぞれに決められているといった人生的な宿命観、因果応報観の表れた言葉。心根は優しい人だが、色々と問題がある相談を受けた時に、「そのうちお宛てがいがございますの」などと言った。
-13	おかちん	餅。 宮中から出た女房言葉の「搗飯(かちいい)」の転訛。「つく」動作は昔は「かち」と言っていた。
-14	かざ (香)	「匂い」の意味であるが、物本来が持っている隠微な香のこと。 その匂いが無くなることを「かざが抜けた」と言った。 【本文の「えんか(苑香)」参照】
-15	かんし	正月や盆に親類、知人の懇意な人を呼んで、酒を振る舞うこと。 温かいお酒でもてなす宴の名称を「爛酒(かんしゅ)」と呼び、それが「かんし」になったと思われる。
-16	くどろおけのわ (くどろ桶の輪)	くずれた桶の輪の意味で、汚い着物をだらしくまとった人を指して言った言葉。 ボロはボロでも清潔なきちんとした身なりをしていれば言われない。 【本文の「くどろ」参照】

No.	見出し	説明
-17	けんくが わからん	目安が立たない。分量が分からない。 「けんくが立たん」とも言う。「けんく」は「見当」の意味だが、語源は分からない。 余談:「日本方言大辞典」に「けんくり(工夫、算段)」「岐阜の飛驒」、「けんくる(推量する)」「富山の砺波」と似た言葉があった。また「かんくり」で「① 具合 ② やりくり、工面、算段 ③ 手順、手立て」とあった。「繰り」は「察し、推し量ること」の意味があるので、「けん」と「かん」と読む「間」の字を当てて、「間を推量する」で、「間繰り」のような言葉があったのか?
-18	こごとひき	愚痴や人の悪口や中傷を言い詰める人。 字は「小言ひき」。
-19	さいろい	おせっかいも少し出しゃばりの世話好きな人のこと。 その動作を「さいろいを焼く」と言った。「宰領(世話役、監督)」から出た言葉と思われる。 【本文の「さいこをやく」、「てんばを焼く」、番外の「昔の山口弁?」の『さいこ』参照】
-20	さえんば	家の近くにある野菜畑。 舎(家)に近い園のことで「舎園場」。野菜を作るのが主体なので「菜園場」の略とも取れるが、家の近くの畑の意味なら「舎園場」が正か。
-21	さばらい (さばらー)	牛馬を稲穂で洗う行事。 旧暦6月晦日の行事で山口県独特のものらしい。田植えの時の残りの稲穂を陰干しにしておき、この日に牛馬を川や海に入れて、この稲穂で洗う行事。「さば」は「早苗(健全な苗)」、「らい」は「洗い」のことか。 【本文の「どろおとし」参照】
-22	ざまく	乱雑。だらしないようす。秩序の無い乱雑さ。
-23	じっこうを あげた	初志を貫いて成功したこと。 「じっこう」は「実効、実功」。反対は「じっこうがあがらん」
-24	しびしびい	魚などが生乾きで、まだ水気が多い状態を指す擬態語。
-25	じゃぎ	あばた。
-26	じょうみょう (定命)	寿命。 人間には初めから仏に従って定められた寿命(定命)があるという仏教思想から出た言葉。国語辞書に載っている言葉ではある。急に亡くなった時に「けないことでした」と言う相手の「とむらい」に対して、「じょうみょうでございました」と言った昔の人の人生観がにじむ言葉と言える。 【本文の「けない」参照】
-27	しりくちで ものをいう (尻口で ものを言う)	「しどろもどろ」の意。 前後の言動が矛盾だらけで、理路整然としていない場合に使う。 【本文の「へどろ もどろ」参照】 注:「山口県方言辞典」には「尻口で言う」は「二枚舌のこと」とあった。
-28	しんもう	葬式。 字は「新亡」か?

No.	見出し	説明
-29	すいれー	水に潜ること。 近畿圏では「すいり」と言うようなので、「水(す)入り」が語源か? 「水練」の変化かも知れない?
-30	すみましたか	今晚は。 夕刻の挨拶。食べることが精一杯の時代の「食事が無事に食べられましたか」と問い掛ける意味の「済みましたか」。「おしまいされたか」、「おあがんされたか」も同じ。
-31	せたげる	周りの食べ物を全部食いつくすこと。 古語の「虐(せた)ぐ」から派生。食べ物に限定して使う。
-32	だぐをなげる	お手上げ。処置無し。諦めて物事を放棄する。失望して断念する。 「匙(さじ)を投げる」と同じ。周防大島では「だく」らしい。 注:「だく」が何か分からなかったが、鹿野町史の方言の欄に「駄具(だぐ):牛馬に作業させる時の具」とあった。よって、「作業中に『だぐ』を投げる」、すなわち、「物事を放棄する」という意味になる。これでのどりがいった。【本文の「だや」、「のどり」参照】
-33	たこんたー	小川の水力で米などを搗く小型の装置。 小川を利用して樋(とい)から水を落として片方に受けるか、水車を利用して米を搗(つ)く小型のものを「たこんたー」と言った。「さこんた」と言う所もある。「迫の太郎」の意味。「だいがら」の小さいもの。 【本文の「だいがら」参照】
-34	たじない	乏しい。不足気味。 「足しない」の意味か。京都では「たしない」と濁らないそうだ。
-35	ちよろけん	悪童。いたずら坊主。 人の目を盗んではいたずらをする悪童、俊敏でチョロチョロとなにかことあれかしと機会を狙っているいたずら坊主のこと。「ちよろけん」とは元々は京都で始まった、数人一組で大型の張り子をかぶって、鳴り物入りで踊る門付(かどづけ)の一種。この踊りのしぐさに悪童の悪ふざけを重ねながら、子供のいたずらを温かい目で見つめた大人たちの許容の気持ちがこの言葉を生んだのかも知れない。 【本文の「がんぼー」、「こびんちゃく」、「ちゃりこい」参照】
-36	つながりがたたん (連りが立たん)	前後の脈絡がない。理屈に合わない。結局、意味不明。 「つながり」は「連り」または「鎖り」。「つながりがない」は「脆い」、「たわいない」の意味で使う。
-37	てなしい (手無しい)	不器用。 余談:下松では言い方が悪いが「てもげ」で昔、「不器用、へたくそ」の意味に使っていたようだ。同様の言い方になる。

No.	見出し	説明
-38	てんく (てんくう)	いたずら坊主。 「てんごう(癪狂)」からきたと思われる。「天狗」かも知れない?女性に対する「びつう」は蔑視が入っているが、こちらは愛称的な匂いが強い。「5歳かね、てんく盛りじゃね(5歳かね、いたずら盛りだね)」のように使った。 余談1:「てんくら坊主」とも言ったらしい。「てんくら」におてんば娘の意味があるので、その意味の転用か? 【本文の「てんくら」、「てんすら」参照】 余談2:「山口弁方言辞典」に「『がんばん』いたずら坊主(周防)広島」とあった。昔は「てんく」と「がんばん」が並行して使われていたのかも知れない。広島では「がんばん」が残っている。 【本文の「がんばん」、「こびんちゃく」参照】
-39	てんぼうどう (天保童)	「旧時代人、旧弊者」の意味。 明治から大正時代の言い方。難しい問題にぶつかったり、時代遅れを指摘されると「わしは天保童じゃからのー」と言っていた。ちなみに「てんぼうせん(天保銭)」と言うと「馬鹿」の意味に使ったらしい。理由は「一銭」が「八厘」の価値しかなかったから。 また、方言ではないが、旧日本陸軍では陸大出身者を「天保銭」と言ったらしい。これは胸に天保銭型の徽章を付けていたから。
-40	どうよう	費用。経費。 「雑巾」が「どーきん」になる言い方を当てはめると「ぞうよう」か。律令制度時代の「雑徭」のことかも知れないとの説あり。
-41	とび	お移り。 贈り物を入れて来た器や風呂敷を返す時に、中に入れて渡すちょっとした物。マッチや半紙を使った。子供のお使いに対する礼。語源は「賜(た)べ」らしい。
-42	どみる	ドロドロしている状態。 「どみ」は「曇み」でどんよりしたさまを言った。「お粥に芋や餅を入れると、よくお粥がどみた」と言う風に使う。
-43	とろとろ (とろへー) (とへ) (盗餅)	子供が各戸を回り、わら馬の代わりに祝餅をもらう行事。 都濃地域では「とろへい(とろへー)」と呼ぶところもあるらしいが、新南陽、下松、田布施は「とろとろ」。「とひ」「とへ」「とへとへ」と言う所もある。1月14日に子供数人が組を作って、夜陰にわら馬を各戸の玄関に置いて、「とろとろ」とさけば、代わりに祝餅をもらう行事。その時、家の人に姿を見られてはいけなし、家の人の子供が玄関に置いてある祝餅を取る時に水を掛ける。子供は水を掛けられないように逃げる。 余談: 山口市阿東地福では「トイトイ」として、この行事が今も残っている。ただ、祝餅はお菓子になっていた。TYS「週末ちぐまや家族」より。
-44	とんぼやみ	極めて短い時間に嘘のようにケロリと直ってしまう病気の現象を言う。 「とんぼよう」と言う中国四国に多い俗信上の小動物がつきものとして家々に憑くと信じられており、それは小さな狐とも考えられていた。香川県ではこれを「とんぼ神」と言うそうだから、そう言う「つきもの」が急に落ちたような平癒の状態を「とんぼやみ」と言ったのかも知れない。「蜻蛉」と考えた時には、トンボは急に反転するのが上手だから、急に良くなることをその動作と引っかけて言ったとも考えられる。??

No.	見出し	説明
-45	にんにん	ひとびと、その人それぞれ、各人各様のこと。 山口県東部の独特な用法らしい。「にんにんの定め」とか「にんにんの約定」の様に使っていた。抹香臭い使い方が多い。
-46	ねはんはあ	病気などで寝たままになった人のことを言った。 涅槃様。釈迦入滅の横臥（おうが）像をイメージしている。
-47	のがれんなか	のがれることのできない関係の意。 親子、夫婦、肉親の絆の大切さを言う言葉。
-48	のらの ばかぶとり	田舎の肥満児。 字は「野良の馬鹿太り」。怠け者で親の労働力の手助けにならない子供のことを言った。
-49	びつつう	女の子に対する蔑称。 「おなごびつつうのくせに…」と使っていたようだ。少しいいいした、何かあるとシクシクするような感じを言った。女性がはっきり物事を言うべきでないとした時代の言葉か？ 現在残っている「びーたれ」や「びったれ」と同源の言葉と思われる。 余談：「びったれ」も「びーたれ」も本来は「びー」と言う女性を現わす言葉から派生したもので、女性、女性の蔑称、だらしない女、無精、不潔、意気地無し、泣き虫等の意味が各地で派生したようだ。「びー」の語源は男の子を「坊」と呼んだように、女の子を「比丘尼」と言ったのでその転であるとか、「姫」、「美」、「微」、「婢」の意味か等、諸説あるが良く分からない。 【本文の「びーたれ」、「びったれ」、「びんたれ」参照】
-50	ひとあつい	誰にでもなついてくること。 そう言う子を「ひとあつい子じゃ」と言う。「人篤い」か？ 反対は「ひとみず」。
-51	フラフ	国旗のこと。 明治5年に公官庁や学校は一年中国旗を掲揚するようお達しが出たが、その頃から「フラッグ (flage) 」のことを「フラフ」と言っていたようだ。明治12年に祝旗の時を除いて掲揚しなくて良いと言うお達しに「自今フラフ掲揚に及ばす候…」と書いてあった。 注：「ふらふ」はオランダ語「flag」より。「ふらほ」と言うところもある。 余談：方言と言うより、時代の言葉か？ 他には「ガラス」は「ビードロ」、「帽子」は「シャッポ」、「器」は「フラスコ」と言っていたらしい。
-52	べくそうろう (べく候)	「仕方がないか」の意味。 物事の終りが不首尾だった場合、やや自嘲と諦めを交えて「やれやれべく候じゃ」と言った。どこかに農村のちょっと気取ったユーモアがある言葉。
-53	ほうとうぶれる	他人の持ち物や見る物、聞く物が欲しくなること。 「ほいとぶる」の転訛か？ 「陪堂（ほいとう）ぶれる」の変化か？ 【本文の「ほいと」参照】
-54	ほがとく	不平、不満を大声で訴えること。 大声で文句を言っているのを見て、「あいつはなにをほがといちよるのか（あいつは何を大きな声で文句を言っているのか）」と言うような言い方をした。

No.	見出し	説明
-55	もうし (申)	地域の集まり。「申し合わせ」の意。 「春もうし」、「秋もうし」、「地神(じじん)もうし」、「荒神(こうじん)もうし」等がある。当家が料理を作り、禰宜さんと呼んでお祓いと祝詞をあげて、五穀豊穰等を祈念する。
-56	もうもうどき	夕暮れ時のこと。化け物が出る時分の意。 「もうもう」は「お化け」か「朦々」のどちらの意味か分からない。
-57	やくじょう (約定)	約束の意味。 国語辞書にも出ているが、契約のように堅苦しい意味でなく、単に「約束事」のような意味で使った。前世の因縁のような寿命の時も「これも約定で・・・」と使ったようだ。
-58	やっさい	「やっさい」は集落にある組で、正月用の餅を搗いて歩く。 餅を搗いてもらった後、手間賃とは別に「へぎ」と言う薄い容器にきな粉餅を盛ってもてなすのが習わしだった。
-59	やみすてる (病み捨てる)	長い持病から開放されて本復する。元通りの健康体に戻ることに。 四国巡礼をして「お四国で病み捨てました」と言う風に使った。信心との引き換えに、病や障害をお大師様に預けると言った響きがある言葉。
-60	ようらくを たらしたような (瓔珞を 垂らしたような)	ぼろを垂らした様子。 「瓔珞(ようらく)」とは仏像の天蓋に吊るしたにぎやかな金具の飾りのこと。また、珠玉や貴金属に糸を通して作った装身具。 仏像の身を飾る。その様子が物は違うがぼろを着ている様子に似ていることから昔はこう言ったらしい。
-61	よこずり	歯ブラシ。 柄が竹製で、今と同じように先に白い毛が付いており、柄の真ん中が5～6cm程度、薄くなっていた。この薄い所が今で言う「舌ブラシ」で、舌の上を「こさく」ようになっていた。
-62	よさり (夜さり) (よーさり)	夜。夜分。 「さり」は、来る、近づくの意を表す動詞「去り」の連用形から。各地で言われていた中世語だが、今は京都に残っているくらいか？ 【本文の「ようさ」参照】
-63	よざるをひく	子供が夜遅くまで起きていること。 特に子供達の寝付きが悪くて、夜遅くまで起きているような一種の生活のリズムの変調を指した言葉。 【本文の「よだるひき(よだれひき)」参照】
-64	よましむぎ (よまし麦)	「食いのばし」用の麦。 一遍蒸し上げた丸麦(精白済)を米といっしょに炊いて「食いのばし」にしていた麦のこと。「食いのばし」とは米に菜っ葉を入れたりして量を増やして、米の使用量を減らすこと。「よまし」は「咲(え)まし」の転。「咲(え)ます」は水、湯などに浸してふやかすこと。また、「咲ます」は「笑ます」に通ずる古語。

No.	見出し	説明
17	90代の言葉	1950年代に生まれた70代の我々は知らないが、室積の友人が集めてくれた昭和初期に生まれた90代の方が使っていた言葉を列挙した。 ・あさづくり → 朝食前の仕事 ・おおびき → 縄 力を入れて固く縋(な)った小さい縄 ・くい → 食事持ちで働くこと ・くいでのこーろく → 食事を自分持ちで無償の仕事をする ・こーろく → 無償の仕事 奉仕 合力(こーりよく)のこと ・ばいせん → 小型帆船 字は「売船」 ・ふなだ → 造船所 ・ほろ → 汽船の煙突 漢字は「母衣」か「幌」 布がふくらんだ感じや、竹籠を入れた袋状の母衣もあったそうなので、その形状に似ているからか?
18	気になる 山口弁 (18-1)	本文に収録した「あずがきれん」のように、山口各地の方言集には載っているが、我々は知らない。しかし、気になると言う山口弁を少し挙げてみた。 ・あんぎらほー(あんげらほー)(あんぎりほー) → のんき ぼんやり ・あんぎらあんぎら → ぐずぐずする様子 ぼんやりする様子 (防府、徳地) ・いぶしこぶし(いぼしこぼし) → 凹凸の甚だしいさま 例: 蚊にかぶられて、いぶしこぶしよ。 ・うんとーてんとー → 「運否天賦」 一か八か運を天に任せること 例: うんとーてんとーうてて見る。 注: 「うてる」は「挑戦する」の意 ・おそうそう → お粗末(字は「御草草」か「御忽忽」)
	気になる 山口弁 (18-2)	・ぐるぐるもうじ → 「来来舞牛」 蟻地獄のこと ・けにもはれにも → 後にも先にも たった一つ 「けぎにも晴着にも」の意 「けぎ(褌着)」は普段着のこと 国語辞書にもあるので昔は標準語かも? 「ケ(日常)」と「ハレ(非日常)」と言った方が分かり易いかも? ・ごしょうがわるい → 気の毒な かわいそうな(字は「後生」)
	気になる 山口弁 (18-3)	・ごんべーごんにやく → 似たり寄ったり 「ごんべー」は「意地悪い人」の意 ・さんばちたろーた → 申し分のない 何もかも整うた ・それべくそうろう → それきり音沙汰無いこと 【本文の「それべくさ」参照】 ・ちよいちよいぎ → ちょっとした外出着 注: 国語辞書にあるが、方言化している? ・てんからぼし → 炎天下、無帽で歩くこと
	気になる 山口弁 (18-4)	・とーびんぐち(どびんぐち) → 「土瓶口」 差出口 子供が大人の話に口を出すこと ・ねこもどり → 一度、出た人が忘れ物などをして引き返すこと ・むさんこ → ①向こう見ず 一心不乱 ②むりやり 強制 例: むさんこに働く。 ・むさんこーに → むやみやたらに 無理矢理に 例: むさんこーに積み込む。 ・めんげな → 小さな 注: 「めげ」からの派生語か? (小畑) ・めんぎちょんぎ → 非常に小さい物のこと また、そのさま(防府)

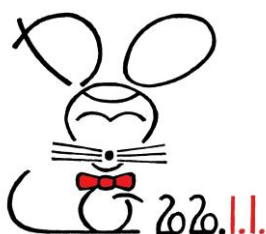
No.	見出し	説明
	気になる 山口弁 (18-5)	・めんたし → ①ありがとう(物をもらった時) ②ごめんなさい(人の前を横切る時) ・ムクリククリ → 慌てて逃げるさま(萩) (意味は「蒙古、高句麗」で蒙古襲来による方言。壱岐対馬では「残酷な」の意味に使われているようだ。) ・こち → 東風 ・あなじ → 北西風 ・北ごち → 北東風 ・やませ → 南東風 ・まじ → 西南風(新南陽) ・あなじ → 西北風 ・いなさ → 東南風 ・まじ → 南風 ・まじにし(やまじ) → 西南風(周防大島) ・だいがらぼし → 北斗七星(天文)(周防大島) 【本文の「だいがら」参照】 ・いしゃいらず → ①ゲンノショウコ(現の証拠) ②アロエ(植物) ・いしゃごろし → ①ゲンノショウコ ②アロエ ③ドクダミ(植物) ・きんぎんそう → ユキノシタ(雪の下)(植物) ・なるてん → ナンテン(南天)(植物)
19	広島の方 言 (19-1)	山口弁を集めている時に聞こえて来た広島独自の方言を収録した。なお、標準語索引には載せていない。 ・どがへが → 行き違い 「どがへが」は、順序が狂うなどして、物事がうまく運ばないこと。行き違いが生じてうまくいかないこと。元々の意味に、凸凹、高低があることや、むらがあることがあるのでそれから転じたか。 例:どがへがしている。(行き違いがある。) ・どさりくさり → かろうじて 「どさりくさり」は、「かろうじて」「どうやらこうやら」のこと。 例:どさりくさり、読み終わった。 (どうやらこうやら、読み終わった。)
	広島の方 言 (19-2)	・かみいつく → 神経が高ぶる のぼせる 「かみ」は「頭」のこと。「かみにつく」が「かみいつく」になっていると思われる。 例:かみ一ついて寝られん。(神経が高ぶって寝られない。) ・ほく → 吸い殻 「ほく入れ」は「吸い殻入れ」のこと。広島黒瀬で使う。「ほく」は「方言大辞典」によると、山梨や長野でも使うようだ。 ・びんびんしょ → 汚い 汚れたものを見て、「きたな」と言う場面で「びんびんしょ」と言う。
	広島の方 言 (19-3)	・いらぬお世話のかいじゃくし → いらぬ世話をしないで。 余計なことをした人に使う。 山口弁の「いらんてんばをやくな」より軟らかい言い方か? 「かいじゃくし」は「貝杓子」で、板屋貝や帆立貝の殻に、竹や木の柄を付けたもの。 ・がいな → 力強い。丈夫な。 ・かいくる(かいぐる) → 回転する。 ・とらげる → 片付ける。仕舞って置く。整理整頓する。

No.	見出し	説明																																		
20	2013年の若者の山口弁認知度(20-1)	2013年度の18才の若者(17名の新入社員男子:周南市出身)がどの程度、山口弁を使っているか33語について、アンケートした結果を示す。方言の意味の説明を見ながら知っているか、知らないかを○×方式で付けた結果で、%の数値が知っていた割合。 【50音順】 <table><tbody><tr><td>いぎ→18%</td><td>いごく→53%</td></tr><tr><td>いらく→ 6%</td><td>うめる(うべる)→24%</td></tr><tr><td>おおくじをくる→53%</td><td>かえりしな→47%</td></tr><tr><td>きつぽ→65%</td><td>きなる→ 6%</td></tr><tr><td>ごてる→12%</td><td>さでしてる→41%</td></tr><tr><td>しろおいしい(しろーしい)→82%</td><td></td></tr><tr><td>すいばり→100%</td><td>たける→59%</td></tr><tr><td>たてる→29%</td><td>たわん→100%</td></tr><tr><td>つっぺ→ 6%</td><td>つばえる→59%</td></tr><tr><td>てご→29%</td><td>なおす→100%</td></tr><tr><td>のける→100%</td><td>のせる→24%</td></tr><tr><td>のどり→ 6%</td><td>はさる→53%</td></tr><tr><td>ひょんげな→12%</td><td>ぶち→100%</td></tr><tr><td>ほーたる→71%</td><td>ほーとくない→12%</td></tr><tr><td>ほげる→29%</td><td>まどう→0%</td></tr><tr><td>みてる→35%</td><td>みやすい→100%</td></tr><tr><td>めぐ(めげる)→76%</td><td>よぼう→ 6%</td></tr></tbody></table>	いぎ→18%	いごく→53%	いらく→ 6%	うめる(うべる)→24%	おおくじをくる→53%	かえりしな→47%	きつぽ→65%	きなる→ 6%	ごてる→12%	さでしてる→41%	しろおいしい(しろーしい)→82%		すいばり→100%	たける→59%	たてる→29%	たわん→100%	つっぺ→ 6%	つばえる→59%	てご→29%	なおす→100%	のける→100%	のせる→24%	のどり→ 6%	はさる→53%	ひょんげな→12%	ぶち→100%	ほーたる→71%	ほーとくない→12%	ほげる→29%	まどう→0%	みてる→35%	みやすい→100%	めぐ(めげる)→76%	よぼう→ 6%
	いぎ→18%	いごく→53%																																		
いらく→ 6%	うめる(うべる)→24%																																			
おおくじをくる→53%	かえりしな→47%																																			
きつぽ→65%	きなる→ 6%																																			
ごてる→12%	さでしてる→41%																																			
しろおいしい(しろーしい)→82%																																				
すいばり→100%	たける→59%																																			
たてる→29%	たわん→100%																																			
つっぺ→ 6%	つばえる→59%																																			
てご→29%	なおす→100%																																			
のける→100%	のせる→24%																																			
のどり→ 6%	はさる→53%																																			
ひょんげな→12%	ぶち→100%																																			
ほーたる→71%	ほーとくない→12%																																			
ほげる→29%	まどう→0%																																			
みてる→35%	みやすい→100%																																			
めぐ(めげる)→76%	よぼう→ 6%																																			
	2013年の若者の山口弁認知度(20-2)	【知らなかった順】 0%→まどう 6%→いらく、きなる、つっぺ、のどり、よぼう 12%→ごてる、ひょんげな、ほーとくない 18%→いぎ 24%→うめる(うべる)、のせる 29%→たてる、てご、ほげる 35%→みてる 41%→さでしてる 47%→かえりしな 53%→いごく、おおくじをくる、はさる 59%→たける、つばえる 65%→きつぽ 71%→ほーたる 76%→めぐ(めげる) 82%→しろおいしい(しろーしい) 100%→すいばり、たわん、なおす、のける、ぶち、みやすい 注1:6%が17人中1人知っていたことになる。 注2:アンケートを実施した人数が少ないので、データは参考値として見て頂きたい。																																		

資料



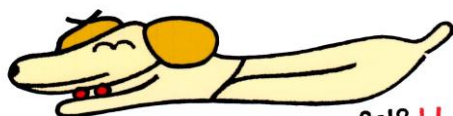
1995.1.1.



2020.1.1.



2021.1.1.



2018.1.1.



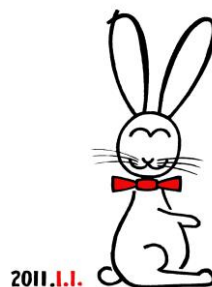
2022



2017.1.1.



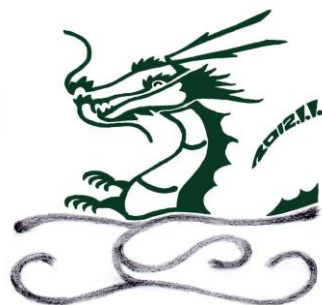
1989.1.1.



2011.1.1.



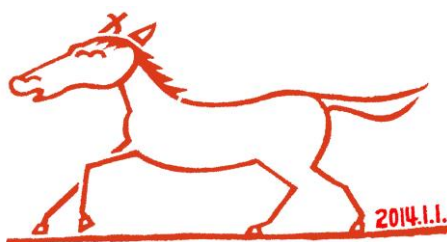
2016.1.1.



2012.1.1.



「降松神社」と「賀正の干支」



2014.1.1.



防長方言番附(マツノ書店)

[illegible]

県内の方言区分（注：行政区の名称は昭和50年代のもの）

以下の文、図表は、昭和40年代に徳山高校の先生をされていた中川健次郎先生が書かれたものを転用した。

「講座方言学8 山口県の方言」より

方言区分の全体像

I. 方言区分の差はかなり小さく、山陽山陰の南北の差より、東西の差が目立つ。例えば、日本海側の萩方言と瀬戸内海側の防府方言とはほとんど相通じる。山口の「山口なまり小唄」は、大同小異の歌詞で、萩・防府でも歌われている。

II. 全県が一つの方言圏を醸成した要因は、以下の四つ。

- ①自然的条件：県土の中央を東西に走る中国山地は、丘陵台地状であり、道路は南北にも発達し、交通を途絶させる大河がない。
- ②統一した支配形態：防長二国はともに毛利氏一族によって支配され、その伝統が風土の一様性に助長されて、まとまり伝えられた。
- ③教化の実態：説教中心の浄土真宗の寺院数は県下全寺院数の約半数にあたる。17世紀半ばから寺請制度のもとに、僧侶は領内を往来し、共通方言で説法したと言う。
- ④教育の浸透：幕末期の郷校、寺小屋の数は全国一、二位を誇り、師匠達の講義口調はかなり広い方言域に浸透したと推定される。

参考：山口なまり小唄

山口なまりはあのも（あのもの）にこのそ。おぬしゃ（おまえは）どうちゅうか（いうのか）
おらいぬる（おれは帰る）。ちゅうにごっぼうさばけん（とてもとても困る）。ねえまに、に
いまに、ごうま（姉さん、兄さん、娘さん）。おつばえしゃんすな（ざれなさいますな）、い
けんちゃあ（いけません）。いんだらおかか（いうちやげん）（帰ったら母に言ってやる）。
せんぎんごうごうおたえがたい（こみあってお気の毒）。ようそけないこはほうとくない
（きたのうてきたのうて）。やみくもほろけた（たくさん落した）国なまり、長州防州ねえ
た（よねえ）。

第一方言区画

本県の方言区画は、まず周防・長門に二大別される。国域が生活文化圏の最大の枠となって生活したからである。ただし、南部の方言区画の境界線は、国境の東方を流れる佐波川の流域となる。川の道は、本県においても連続的な言語伝播路となっている。さらに、旧藩域に区分する。周防では、旧岩国藩と本藩に二分する。ただし、徳山藩は方言域では本藩に入れる。長門では長府藩域を独立させる。ただし、清末藩域も含ませる。他はすべて本藩である。本藩の下位区分としては、旧郡役所単位の行政区画がほぼ一致する。さらにまた、村や浦々によっても区分される。以上、音韻・アクセント・文法・語彙の各分野から総合的にみたばあい、山口県方言区画は図1、表1のように設定される。これを第一方言区画とする。

大島方言は、旧周防国に属する屋代島(周防大島)および平郡島近接島嶼(とうしよ)に行われているもの。熊毛郡並びに愛媛・大分両県の島嶼に通ずるものもあるが、独立した方言圏となる。東周防方言は、岩国・柳井を中心とするいわゆる旧岩国藩領域と旧山代地方の一部玖珂郡および熊毛郡を含めた周東地区である。特異な分布態を持つ錦川流域の大半を持ち、広島県の影響がある。熊毛郡域は都濃郡域に類似するが、大島の吸引力が強い。

西周防方言は、山口・防府を中心とする県中央部と、周南工業地帯とその後背地(旧徳山藩領域)を含む地域である。山口方言の代表的地域である。佐波川全流域を含んでいる。

北長門方言は、旧城下町萩と水産都市長門を中心とする第一次産業地域であり、日本海沿岸とその後背地を含む。阿武川流域全域をその方言域とし、まとまりを見せている。西周防方言とかなり類似しながらも、石見ことばの影響を受け、特に見島方言は特色がある。次に南長門方言は、工業都市宇部・小野田とその後背地を含む地域のものである。厚東川および厚狭川が縦断し、県下を二分するほどの境界線が太く通る方言域である。また、豊関方言は、吉田川流域以西の地域であり、下関を中心とする旧長府藩および旧清末藩領域のものである。北九州にも近接し、東部および中央部とは著しく異なった方言域を形成している。

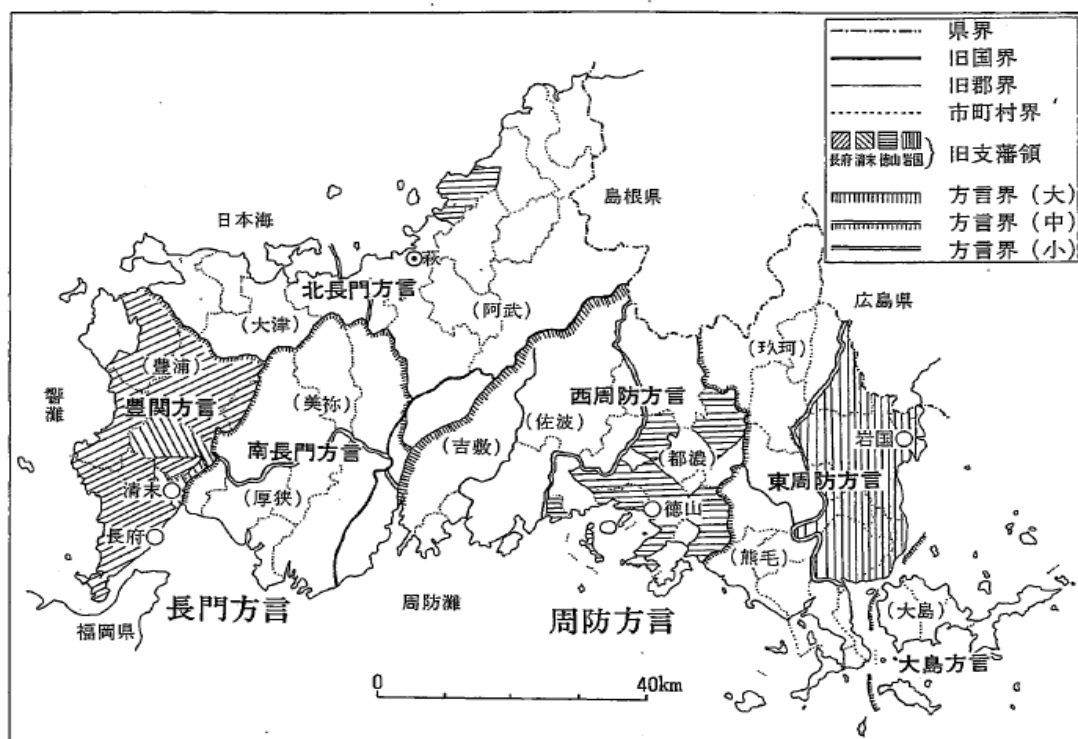


図 1 山口県方言区画図(1)

第二方言区画

今一つの方言区域は県下の主要河川の流域によって三大方言に区分したものである。主に語彙の分布状態を要件としたものである。しかもこれは、第一方言区域に匹敵するほどのものである。これは図2、表2のように設定される。これを第二方言区画とする。

1. 山口東部方言(樺野川以東)は、第一方言区画の周防方言に当たる。さらに大島方言・錦川流域方言・佐波川流域方言に区分する。[A]
2. 山口中部方言(樺野川西側流域から厚東川東側流域まで)は、第一方言区画の、南長門方言および北長門方言の各東部域のものである。厚東川流域方言と阿武川流域方言とに区分する。[B]
3. 山口西部方言(厚東川以西)は、厚狭川流域方言と豊関方言(吉田川以西域)との二つにさらに区分する。[C]

この方言域の例を示す。

天秤棒(A・B オーコ、B カタギボー・ニナイボー、C ロクシャク)

すわる(A・B・C スワル、B カシコマル)

全く・少しも(A・B・C チョトモ、B チューカイ、
B・C チョットモ・チートモ・チューニ)

無い(A・B・C ナー、B・C ネアイ)

騒ぐ(大島・錦川・阿武川流域 アラビル・ツバエル、
佐波川・樺野川流域 サオグ、厚東川流域 ホコル・サオグ・オゴル
吉田川流域 オゴル)

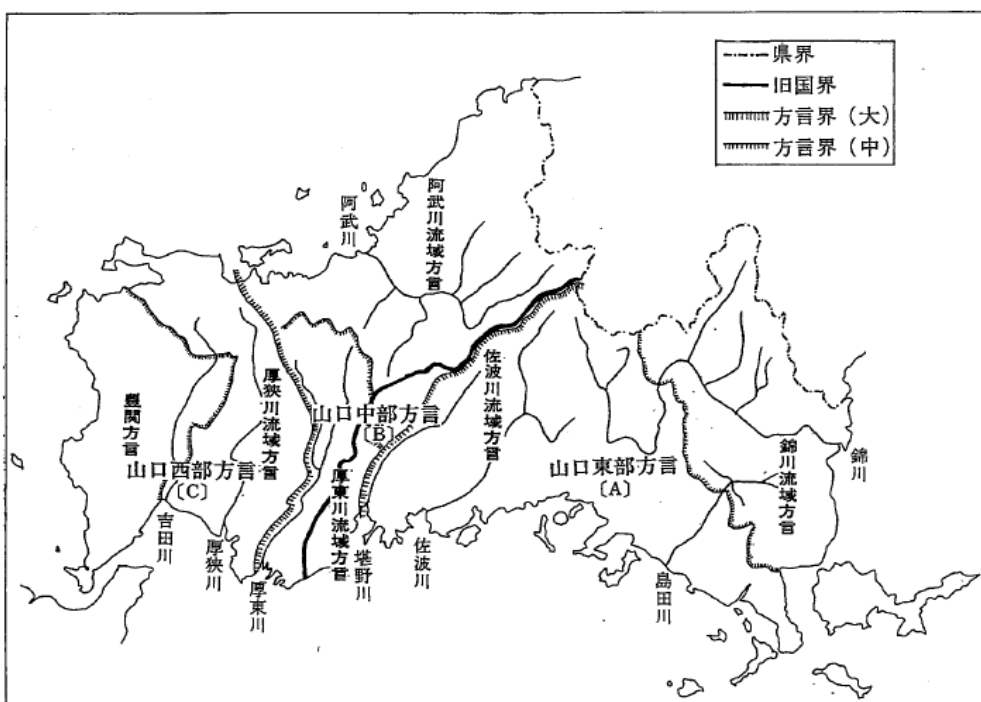
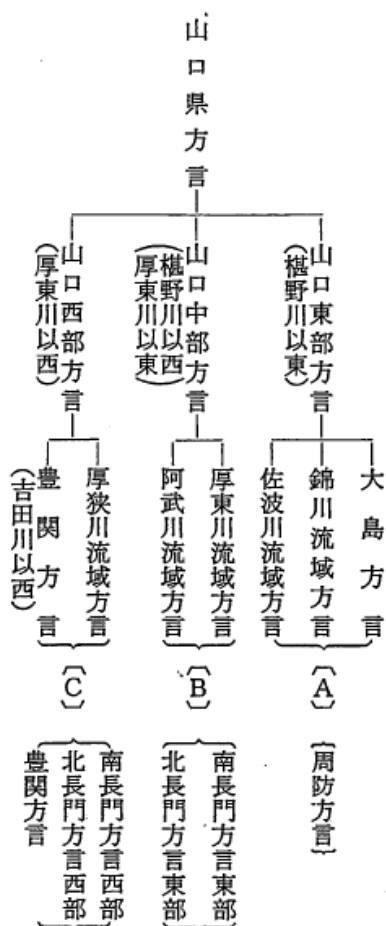


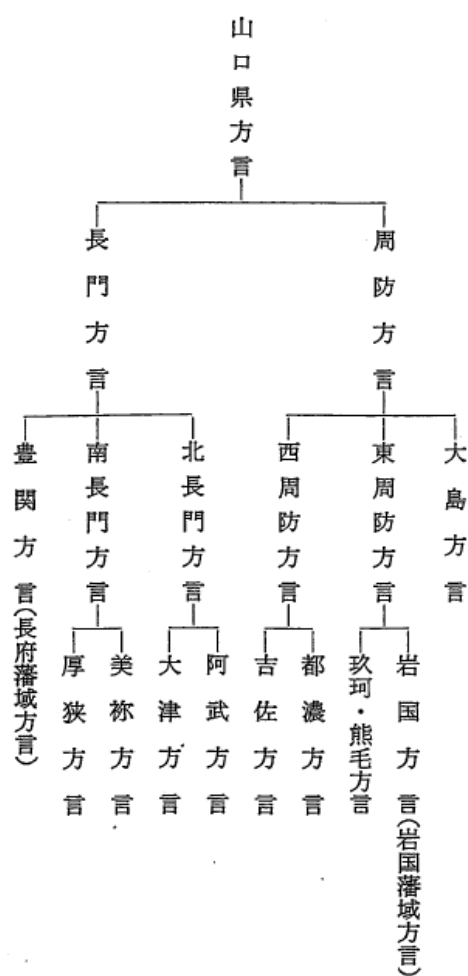
図2 山口県方言区画図(2)

表2 山口県方言区画表(2)

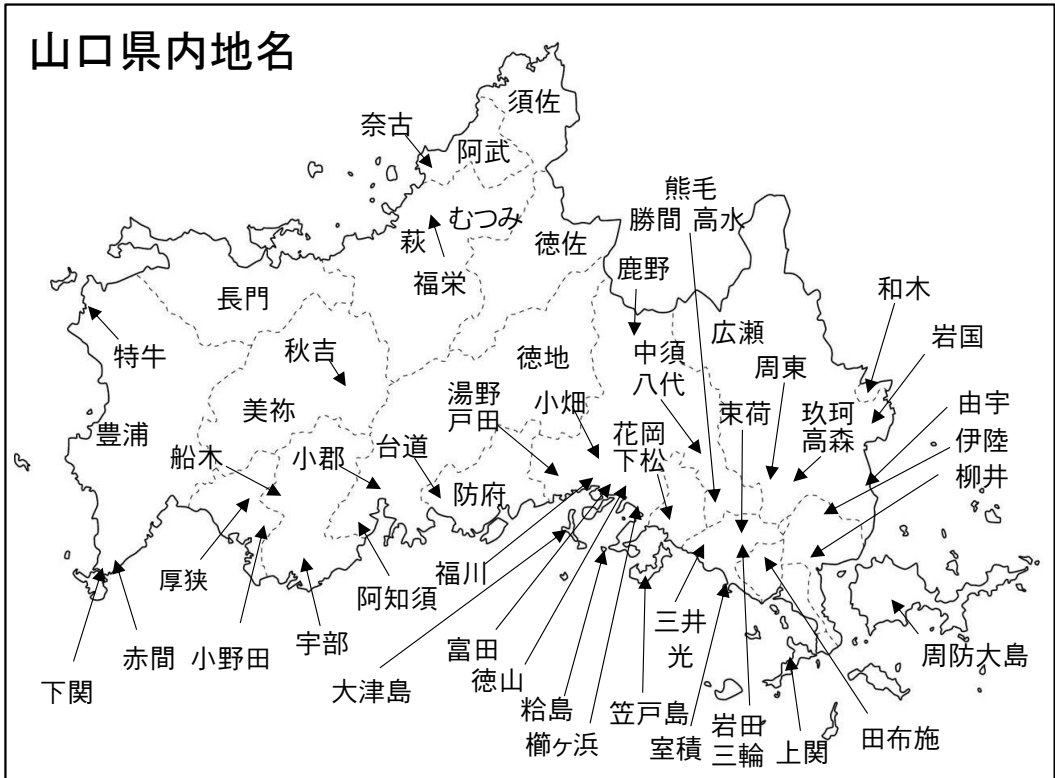


〔表1〕との比較

表1 山口県方言区画表(1)



山口県内地名：以下の地名は、本文に出てくるものを記載した。



◎本文中に出てくる地域名の範囲を以下に示す。

- ・東地区 → 周南市の櫛ヶ浜、熊毛、下松市、光市の範囲
- ・西地区 → 周南市の櫛ヶ浜、熊毛を除き、徳山、鹿野の南北のラインより西側
- ・県東部 → 周防
- ・県西部 → 長門
- ・県中央部 → 周防と長門の境界周辺で、山口、小郡、秋穂、宇部辺り
- ・都濃郡 → 旧 鹿野町+旧 新南陽市 +旧 徳山市+下松市
《 現在の周南市で熊毛地区(旧 熊毛町)を除いた地域と下松市の範囲 》
- ・新南陽 → 富田、福川地域(旧 新南陽市)
- ・佐防(さぼう)地区 → 佐波川流域で、旧 佐波郡徳地と防府地域
- ・北浦地区 → 長門、萩、豊浦等の日本海沿岸地域

◎本文中に出てくるもので、県外では読み難いと思われる地名を以下に記す。

【読みにくい地名】

- ・光(ひかり) ・下松(くだまつ) ・三井(みい) ・室積(むろづみ)
・束荷(つかり) ・富田(とんだ) ・伊陸(いかり) ・杵島(すくもじま)
・戸田(へた) ・美祢(みね) ・厚狭(あさ) ・特牛(こつとい)

標準語索引 (50音順)

「標準語見出し・説明」欄の 注意点：	「山口弁見出し」欄の 注意点：
1. 同じ山口弁で複数の意味があるものは①、②のように示し、①で始まるものと②で始まるものを、それぞれの欄に記載した。ただし、[] 内は標準語。また、「～(し)なくても」のような表現のものは「し」と「な」の両方の欄に記載した。	1. 標準語が同じ言葉で、山口弁の言い方が複数あるものは①、②の様に示した。それぞれの項目が本文の「見出し」に対応している。
2. 「標準語見出し・説明」欄にある言葉は、本文の「説明」欄の最初に記入した意味のそのままか、主要な単語を選択して記載した。「番外」内の「見出し」の表題を 太字 で示した。	2. 本文の「見出し」にある言葉と「番外」内の「幼児語」を、索引の「山口弁見出し」の欄に記載した。本文の見出しに記載がなく、「説明」欄の中に「△△のことは『○○』と言う。」とか、「『○○』と言うこともある。」などの表現で記載している方言はこの索引には載せていない。
3. 「番外」に記載した「幼児語」は最後にまとめて「50音順」に並べた。なお、[] が付いている標準語以外の山口弁は、本文の索引にも記載した。	3. 【 】で参照する箇所を示した。【「○○」も参照】と「も」が入っているものは、方言が本文と番外の両方に記載してあることを示す。

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
あ		
	ああ汚い わー汚い	えー きしゃな
	アーンアーン泣く	あんころ あんころ なく (あーんころ あーんころ 泣く)
	～(し)合い	～やい(～やいこ)
	挨拶の表現	【「番外:挨拶の表現」参照】
	挨拶をすること(会合で最初に)	ものをゆう(ものーゆー)
	間(あいだ)	あえ(間)(あい)(あいのや)(あいご)
	間が広がる 距離、間隔が開く	あらく(散らく)
	②間(あいだ)を開ける 透かす ①板などを掛け渡す	たなげる
	①あいつは あれは ②あいつを あれを	あんなー
	②あいつを あれを ①あいつは あれは	あんなー
	アイナメ(鮎魚女)(魚)	①あぶらめ(油身魚) ②おつむぎ ③もみだねうしない(粃種失い)
	①会う ②合う	おう(会う)(合う)
	②合う ①会う	おう(会う)(合う)
	合う 調和	そぐい
	合う 似合う 釣り合う	そぐう
	青大将(蛇:爬虫類)	ねずみとり
	仰向いたまま	ああぬけだま
	仰向く	ああぬく(あーぬく)
	垢(あか)	こけつ(こけ)
	赤い	あかー
	②赤いもの ③美しいもの ①着物	あっぱい【「番外:幼児語」も参照】
	②赤くなる ①明るくなる	あこーなる
	上がり口《土間から座敷に》	①あがりこぐち(上がり小口) ②あがりはな(上がり端)
	あがりなさいよ《家の中に》	あがりいの(あがりいや) (あがりいね)(あがりんさい)
	明るい	あかい(明い)
	①明るくなる ②赤くなる	あこーなる
	あかんべい	あっかんべー
	②赤ん坊がおしめをしていない状態 ①抜けていること 注意力散漫な状態	おぬけそうろう

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	飽きた	①あいた(飽いた)(あいだ)(あーた) ②あけた
	飽きやすい人 根気の無い人	あけやす(あきやす)
	飽き易く、惚れ易い人 目移りの激しい人	①あけやすのほれやす (あきやすのほれやす) ②ほれやすのあきやす (惚れやすの飽きやす)
	あきらめずに	あきらめんこーに
	あきらめて止めてしまう	けつをわる(尻を割る)(穴を割る)
	飽きる	あぐ(飽ぐ)(あく)
	飽きる 飽き飽きする	あくばる
	②飽きる もういない ①[潤う(うるおう) 湿る]	うるう(潤う)
	①あく(灰汁)が強い ②気持ちが悪い どぎつい	えぐい
	悪臭がする	はなげがかれる(鼻毛が枯れる)
	悪童 いたずら坊主 腕白者	①がんぼー ②わるがんつう(わりがんつう) ③わるぼーず(悪坊主)
	②あぐらをかく ①平らにする	ろくうにする(ろくにする)
	胡坐(あぐら)をかくこと	ひざーくむ(ひだーくむ)
	あぐらをかく または、膝を崩す (正座から)	らくにする
	開けっ広げ	あっぱっぱー
	①あげない(物を) ②やらない しない	やりゃーせん
	あげなさい(やりなさい)	あげんさい(やりんさい)
	①あげられない(物を) ②やれない できない	やれりゃーせん
	あご(主に魚の)	あぎ
	あざ(内出血の) 打ち身のあざ	①あおじ(あおぢ)(あおじに)(あおじみ) ②くろじ(くろぢ)(くろじに)
	あざ(赤い)	ほやけ
	浅い木の箱(長方形)	もろぶた
	あさっての翌日(明明後日)	しあさって【「番外:東西の違い」も参照】
	あさっての翌翌日	ごあさって【「番外:東西の違い」も参照】
	①朝凧(あさなぎ) ②夜明け	あさまじめ(あさまずめ)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	朝のうち 午前中	あさま(朝間)
	あさり(貝)	はまぐり
	味が濃い 脂が多い 匂いがきつい	けどい
	味がしつこい くどい	むつこい
	①足が棒になる ②こむら返り	ふがあがる(ふがはる)
	あじさい	てまりかん
	足のサイズが大きいこと	とんだのかわらふみ(富田の瓦踏み)
	足踏みの杵 踏み臼	だいがら
	味も素っ気もないこと	あじもすっぽもない
	味を見ること	きく
	馬酔木(あせび)(樹木)	むぎめしばな(麦飯花)
	あそこ(彼所) あすこ あのところ	①あっこ(そっこ)(どっこ) ②あんとところ(こんところ)(そんところ)
	遊んだ	あそーだ
	温かい 暖かい	ぬくい
	②頭が痛い状態(物事が進まないの) ①頭痛がしてすっきりしない	のーが悪い(のーがわりー)
	あちらこちら	あっちゃ こっちゃ(あっちゃら こっちゃら)
	あつけない(命)	もげない
	集めて回ること(お金や物を)	つなぐ
	当てずっぽうに	あてっぽうに
	後退り(あとずさり)	あとすだり(あとすざり)
	跡取り 跡継ぎ	いえとり(家取り)
	穴	たんぽこ
	②穴が開く ①欠ける	ほげる
	あなた	①あーた ②あえーた ③あんた
	あなたの家	あんたかた(あんたがた)
	あなたの所	あんたんとこ(あんたとこ)
	②穴を開ける ①欠かす	①ほがす ②ほぐ
	①穴を掘る ②潜る	うぐる
	兄上	あんじょう(あにじょう)
	あのよう に あの通り	あんとうに(あんとに)(あのとーに)
	④あばずれ ①嘘つき ②食わせ者 ③お転婆	てんすら
	アブラムシ(木や野菜の芽につく)(虫)	よだれ(ゆだれ)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	あぶる じわじわ熱する	いびる
	阿呆らしい ばからしい	あほったらしい
	①甘える ②ふざける ③おかしな格好をする	ちばける
	甘柿（果物）	きねり
	②雨が降りそうになる ①[兆候を示す]	もよーす（催す）
	雨が降り始める	ばらける
	アメンボウ（飴坊）（虫）	みずすまし（水澄）
	あやす すかす 機嫌を取る	あやかす
	②粗い（目が） ③沢山 ①大きい 太い	いかい（いかえー）
	②あら探しをする ①掘る ほじくる	ほぜる（ほぜくる）（ほでくる）
	「あら、まあ」「おや、まあ」	おりやまー
	蟻（虫）	ありこ（ありんこ）
	①ありがたい ②助かります ③好都合であります	しあわせます（幸せます） （仕合わせます）
	②ありがとう ①大いに 非常に （大きに）	おーけに
	ありがとう（幼児語）	だんだん（段々）【「番外：幼児語」も参照】
	ありがとうございました	ありがとうありました
	ありはしない	ありやーせん
	歩き 散歩（幼児語）	よんよ【「番外：幼児語」も参照】
	あるだろう	あろーがや
	あるらしい あるそうだ	あるげな
	あれだけ	あいだけ（あえだけ）（あんだけ）
	あれに あそこに	あんに
	あれはどうか	ありやーどうか
	あれはねー「あのね」くらいのつもり	ありやーね（ありやーの）
	あれはねー「あれはねえ、あなた」	ありやーのんたー
	「あれ、まあ」	ありやまー（ありやーまー）
	あれやこれや	①あーや こーや ②あねーこねー（あねこね）
	①あれをしたこれをした ②言い訳をすること	へっぱったー こっぱったー （へっぱたー つっぱったー）
	あれを見る 失敗に対してはざまを見ろの感じあり	ありよーみー（ありよーみーやー）

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	慌て者	とんきょう(頓狂)(とんきょうさく)(頓狂作)
	慌て者(あわてもの) 落ち着きのない人	きよそ
	合わない 似合わない 釣り合わない	そぐわん(そぐわぬ)
	あんな	あがいな(あがあな)(あげえな)
	あんな(そんな、こんな、どんな)	あねー(そねー、こねー、どねー)
	あんなに(そんなに、こんなに、どんなに)	あげえに(そげえに、こげえに、どげえに)
	あんぽんたん 愚か者	あんぽん(あんぽんたれ)
	あんもち(幼児語)	あんも【「番外:幼児語」も参照】
い		
	いいえ	①いんにや(いんや) ②うんにや ③んにや
	いいえ いや いいや	んが(んーが)
	①いいえ、どう致しまして ②「いや、違う」「とんでもない」 「いや、そうでなくて」(強否定)	①いいえのー(いいやのー) (いいえねー)(いいやねー) ②いいやのー(いいえのー)
	言い掛け 中途半端な言い方	いいくさし
	①いい加減さ 無責任さ 程々 ②目算 見当	ええころはちべえ
	いい加減なこと 適当なこと	ええほど
	いい加減に 適当に	①えーころ ②えーころぱっち
	いい加減にしろよ	えーかげんにせーよ
	いい加減にしろよ 大概にしろよ	てーげーにせーよ (たえーがえーにせーよ)
	好(い)い気味	①いいきび ②えー きび ③ばちくそ
	いいぞー	ええどー(ええどおー)
	言い出し 最初に言うこと	いいはなえ(ゆいはなえ)
	言いつける 言ってやる	ゆうちゃる(ゆーちゃる)
	言いつ放し 言ったそのままで実行無しの状態	いいつこ いいつぱなし
	言いなさい	①いゐさい(いゐさん)(ゆゐさい) ②いゐんさい(いゐんさん)(ゆゐんさい)
	言いなさるな	いゐさんな(いゐんさんな)(ゆゐさんな)
	言いなさるなよ 言ってはダメ	いゐどもしいさんなよ (いゐどもしんさんなよ) (ゆゐどもしーさんなよ)
	言い難いことだが	そーゆーちゃーなんじゃが

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	いいのかなあ	ええんかのー
	いいよ	ええっちゃ(ええーいや)
	②言い訳をすること ①あれをしたこれをした	へっばったー こっばったー (へっばたー つっばったー)
	言う	ゆう(ゆー)
	言う めかす	きらす
	言う 悪いことを言う	たれる
	言うから	いうけえー(言うけえー)(ゆうけえー)
	言うことを聞かない人	ゆうこときかんちょ
	家(「いえ」と「うち」の使い分け)	【「番外:家(『いえ』と『うち』の使い分け)」参照】
	家の表側 家の前の庭、広場	かいど(垣外)
	家の周り	かわち(かーち)
	④意外に ①とても 甚だ ②とうとう ③全然 まったく めったに	ちゅうに(ちゅーに)
	②行かない ①してはいけない ダメだ	いかん
	如何にも 成程 相槌の言葉	いかにものー
	胃がもたれる 重苦しい 少し痛む	しわる
	いがらっぽい	いがい(いがらい)
	②いがらっぽい ①塩辛い	いがらい
	②行かない ①してはいけない	いけん
	①意気込む ②奮発する ③息(いき)む	ぎばる(気張る)
	行きつつある 行っている最中	いきよる(行きよる)
	行きなさい 行ってみたら	いきんさんへー (いきさんへー)(いきんさんせー)
	行き難い 便利が悪い 遠回りになる	いきはがわるい
	活きの良い魚 鮮魚(魚)	①びた(びと) ②びとびと(びと)(びた)(びたびた) ③ぶえん(無塩)
	③息(いき)む ①意気込む ②奮発する	ぎばる(気張る)
	②息を切らすこと ①へいこらすこと	へえこらへえこらす (へーこらへーこらす)
	②行く ③来る ①居(いる)	おいでる
	②[行くことができる] ①できる 可能だ	いける

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	③[行くことができるか] ①良くない 許されない いい訳がない ②できるか	いけるか
	②いくつ ①いくら	なんぼ(なんぼう)(なんぼー)
	いくつでも いくらでも	なんぼうも(なんぼーも)(なんぼーでも)
	行く途中	いきしな
	行くの? 行くのか?	いくん
	①いくら ②いくつ	なんぼ(なんぼう)(なんぼー)
	幾らか 幾らも 後に否定語が付いて、「幾らも・・・しない」	なんぼかし (なんぼーかし)(なんぼかしも)
	生簀(いけす)	だんべー(団平)
	行けば	いきゃー
	行けよ お行き	いきっ(行き)
	潔い さっぱりした人	いさぎえー
	②石段(海岸や川岸の) ①畝(うね)	がんぎ(雁木)
	いじめる	えらめる
	②いじめる(軽く) ③からかい半分におだてることを言う ①からかう	かもう
	②異常振動する 回転が滑らかでない ①放棄する 放置する	てぶる(手振る)
	移植ゴテ スコップ 【関東ではシャベル、ショベル】	スコップ
	①いじる 触る 少し動かす ②手を加える 修繕する 手入れする	いらう(いろう)(弄う)(綺麗)
	②意地悪 意地悪な人 ①ひねくれた心(性格が悪い) ひねくれ者	こんじょーくさり(根性腐り) (こんじょーわる)(根性悪)
	泉 わき水	でみ(ぜみ)
	急いで	やっさで
	②急いで すぐに ①沢山に どこにでも とっても	やれに
	忙しい	せわしい(忙しい)
	忙しい 多事多忙	おことー
	④忙しい 多忙 ①騒々しい うるさい ②面倒 煩わしい ③うるさい性格	しろおいしい(しろーしい)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①忙しく気忙しい ②落ち着けない くつろげない	みにも かあにもならん (身にも皮にもならん) (みにも かもならん)
	忙しくてせかせかしている 煩わしい	せせろしい
	忙しくて煩わしい	せせくろしい
	急ぐ	そめぐ
	①急ぐこと ②うろたえること ③[てんやわんや]	やっさ もっさ
	急ぐこと 早く	やれそら(やれそれ)
	②痛い ①しまった	あいたっ(あいたー)
	①痛がゆい むずがゆい ②とげとげしい 気が短い ③すばしこい 機敏な 抜け目がない	はしかいー(はしかいい)
	痛くない	いとーない
	いたずらっ子 ちょっと生意気な子	こびんちゃく
	いたずらっ子 どちらかと言うと悪童 腕白坊主	がんぼー
	いたずらに長い 冗長なこと	へーたらながい (へたらながい) (へたれながい)
	いたずら坊主 腕白者 悪童	①わるがんつう(わりがんつう) ②わるぼーず(悪坊主)
	②いたどり(虎杖) (植物) ①片足飛び	ててっぽ
	①板などを掛け渡す ②間(あいだ)を開ける 透かす	たなげる
	痛む 痛い	①せく(腹) ②はしる(歯、頭)
	①痛む 胃が痛むこと ②閉める ③挟む	つめる
	痛む 神経や筋や傷の痛み	うずく(疼く) (うづく)
	痛む(少し) 胃がもたれる 重苦しい	しわる
	痛む(腹) どちらかと言うと鈍痛か?	にがる(苦る)
	痛めつける 苛める	いぼめる
	炒める(いためる)	ける
	いたらぬこと 余計なこと	いたらん
	いちじく(無花果) (果物)	とうがき(唐柿) (とーがき)
	一日 丸一日	①ひてえ(ひてー) ②ひして(注:山口弁ではない)
	一日中	①ひがな いちんち ②ひてーじゅう
	いちにのさん	①さんしのみつつ ②さんのーがはい

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	一昨日	おとつい【「番外：東西の違い」も参照】
	②一昨日の晩 ①きのうの晩 昨日の晩	きによーのばん(きのーの晩)
	一緒くた	いっしょこたー
	①一生懸命、大きな声で言う ②感心してほめる ③えぐ味が強い	のどをほる(喉を掘る) (のどーほる)(のどをほぜくる)
	①一緒に 共に ②ひとまとめに 一括りに	いっこに
	行ったり来たり 埒(らち)が明かない	つんぐりもんぐり
	一反十俵のお米ができた 豊作の代名詞	せたけができた(せできができた)
	一張羅	いっちょうらい(いっちょらい)
	行ってらっしゃい	いっておかえり
	何時の間にか 知らないうちに	いつかしらん
	②いつの間にか ①いつも (いつとなく)	いつちゅうこたあなあ (いつちゅうこたあない)
	一步引く 怖じける(おじける)	いもをひく(芋を碾く)
	いつも	いっしく
	①いつも ②いつの間にか (いつとなく)	いつちゅうこたあなあ (いつちゅうこたあない)
	いつも 常に「いつも」の強調	いつもかつも
	③いつも すでに ④[思い切って] ①少しも 一向に ②全く ほんとに	いっそ(いっそー)
	いつも 休みなく 暇さえあれば	まがなすきがな(間がな隙がな)
	井戸	つるい
	②[移動する 除(よ)ける] ①片付ける 仕舞う	のける
	居ない	おらん
	いない いない ばあー	おらん おらん おったー
	居ないだろう	おるまー
	稲叢(いなむら) 藁の束を円筒形に小積みしたもの	のう(のー)
	①意に反して 予期しないのに ②急に 俄かに(にわか)に ③根こそぎ いっぺんに	ごっくり(ごっくし)
	稲掛け 稲や麦を干す組み木 はせ(稲架)	①なだら ②はぜ(はで)
	稲刈り	あき
	稲のはかま(あくた)を除けること 藁のはかまを取る	そぐる

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	居眠りする	ろをこぐ(艀を漕ぐ)
	位牌盆	どじぼん(どちぼん)
	②[威張る] ①欲張る	えばる
	いぶす(煙で) 燻らかす	ふすべる
	いぶす くすぶらせる	くぐす(くぶす)
	いぶすこと(粃殻や雑草を集めて)	くぐし(くぶし)
	今、言うように	いまゆーふしに
	②今に 近い将来 ①たった今 つい先ほど	いまのこと(いまんこと) (いまんさき)(いまんがた)
	今の所 現段階では 当面	いまんどこ
	芋の呼び名	【「番外:芋の呼び名」参照】
	いや いいや いいえ	んが(んーが)
	②「いや、違う」「とんでもない」 「いや、そうでなくて」(強否定) ①いいえ、どう致しまして	①いいえのー(いいやのー) (いいえねー)(いいやねー) ②いいやのー(いいえのー)
	いらいら	やじやじ
	いらっしゃいませ いらっしゃいよ	おいでませー
	いらない	いらん
	いらぬ世話を焼くこと お節介をすること	①てんばを焼く ②さいこをやく ③さいたらやく ④さいばーやく ⑤せんばをやく ⑥ちゃんばをやく ⑦せこをやく(こせこをやく) ⑧てんごうをやく(てんごーする)
	入口	こぐち(小口)
	～(して)いる	おりゃーる
	居(いる)	おる(居る) 【「番外:東西の違い」も参照】
	①居(いる) ②行く ③来る	おいでる
	入れる 傘に入れる	のせる(乗せる)
	入れるの強調 かき集める 取り込むこと	さでこむ(さぜこむ)
	囲炉裏(いろり)	ゆるい
	②違和感 窮屈 収まりが悪い ①賢い	いずい
	言わないことではない 言った通りだろう	いわんこっちゃーない (ゆわんこっちゃーない)
	言わないようにしなさい	いいさんな(ゆいさんな)(いいんさんな)
	言われた	いいさえた(いいさった)(ゆいさえた)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	③隠居部屋 ①離れ 長屋 納屋 借家 ②分家	へや
	隠元豆 さや隠元（野菜）	さんどまめ
	②いんげんまめ(隠元豆)（野菜） ①そらまめ(空豆)（野菜）	とうまめ(唐豆)(とーまめ)
う		
	上 頂上 一番上	てんかち(てんこつ)(天骨)
	飢えた子供	かつえご(餓え児)
	上の方 頂上	ずく(木菟)(ずくてん) (ずってん)(ずってんこう)
	上の面 頂上	てんば(天場)
	動きが甚だしいこと 動きの強意を示す	①～あげる ②～まあす(～まーす)(～まわす)
	動きも素動きもせん 微動だにしないこと	いごきもすごきもせん
	動く	いごく
	①薄める ②伸べる	ぬべる
	②薄める ①ぬるくする	うめる(埋める)(うべる)
	②嘘だった 困ったことに 参ったよ ①[取り立てて言うことはない 何と言うことはない]	なんちゅーこたーない (なんつーこたーない)
	③嘘だった 困ったことに 参ったよ ①[取り立てて言うほどのことではない] ②元も子もない 台無しだ 無意味 無駄	なんでもないこと (なんでもなえーこと)
	嘘つき	うそいい(嘘言いい)
	嘘つき 千に三つの真がある意味	せんみ(せんみつ)
	嘘つき 万に三つの本当	まんみ(万三)
	①嘘つき ②食わせ者 ③お転婆 ④あばずれ	てんすら
	嘘を吐く(うそをつく)	うそをいう(嘘を言う)(うそーゆー)
	嘘を吐くな(うそをつくな)	うそをいえ(嘘を言え)(うそーゆーな)
	内弁慶	よこざべんけい(横座弁慶)
	打ち身で黒血が溜まって膨れ上がる状態	ちぶくれ
	③美しいもの ①着物 ②赤いもの	あつぱい【「番外:幼児語」も参照】
	うっとうしい 気分が悪い	いぐしりわりー (いぐしり悪い)(いぐすり悪い)
	うっとうしい 煩わしい(わずらわしい)	うるさい

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①うっとしい 濡れて気持ちが悪い ②汚いので不快	よーそけない(よーさけなえー)
	①鬱陶しい 煩わしい 面倒くさい うるさい ②どうにもこうにもならない	うずろうしい
	①うつむく ②しゃがみ込む	くずぬく
	②[うつむく] ③隠れる ④閉じこもる ①[しゃがむ]	かごむ(屈む)
	①移ること 転居 転勤 ②離れる 去る 退く 中座する	にげる(逃げる)
	うなぎの稚魚(魚)	すすりん
	うぬ 貴様	おんどれ(おんどりやー)
	うぬは 貴様は	おどりやー(おんどりやー)(おのりやー)
	①畝(うね) ②石段(海岸や川岸の)	がんぎ(雁木)
	産衣(うぶぎ)(産着)	うぶきん
	①産毛 ②髪の毛が柔らかいこと 柔毛	ねこげ
	うまい具合に 上手に 都合良く	あんじょうように
	うまいこと 上手に	うまあこと(うまーこと)
	うまくいかない 良い具合にならない	えーがいにいかん(えーがーにいかん)
	埋める	とめる(留める)
	裏表がある	ゆうちよることとおもーちよることが ちごーちよる
	裏白(植物) 正月のお飾りに使うシダ	もろもき(もろぼ)
	①[潤う(うるおう) 湿る] ②飽きる もういらない	うるう(潤う)
	うるさい 忙しい	こじろしー(こじろーしー)
	うるさい すごくうるさい様子	ひちやかましい
	②うるさい 気忙しい ①煩わしい(わずらわしい)	やでない(やぜない)
	③うるさい性格 ④忙しい 多忙 ①騒々しい うるさい ②面倒 煩わしい	しろおいしい(しろーしい)
	うるさいほどしゃべる様子 ベちゃくちゃ	ちゃーちゃー言う
	うるさく言い寄る様子	やんやん言う
	うるち米	ただごめ(ただまい)
	うれしそうに次から次へと食べる	ほんがほんが食べる
	②うろたえる ①ふざけて騒ぐ	ほたえる

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②うろたえること ③[てんやわんや] ①急ぐこと	やっさ もっさ
	運が良い	①ふがええ(符が良い) ②まんがええ(間が良い)
	運が悪い	①ふがわるい(符が悪い) ②まんがわるい(間が悪い)
え		
	映画	えーが
	永久に これからずっと 今後一切	まんごー(万劫)(まんご)
	③えぐ味が強い ①一生懸命、大きな声で言う ②感心してほめる	のどをほる(喉を掘る) (のどーほる)(のどをほぜくる)
	えのころぐさ(狗尾草)(植物)	ととこぐさ
	縁台	おきだ
	鉛筆	もくひつ(木筆)
	遠慮する人	えんりょし(えんりょしー)
	遠慮なく座る様子	ねぎすわる(ねじすわる)
お		
	おい おーい(呼びかけ)	よい(よーい)
	追いかける	おわえる(おわえーる)
	おいよー(呼びかけ)	おいちゃー
	牡牛(哺乳類)	こつとい
	負えない できない 手に余る	おえん
	多い たくさん	①おーい(おいしい) ②どさな
	多い 沢山 充分 腹一杯	けだる
	①多いこと 甚だしい ②おおざっぱな	おーかましい(おおかましい)
	大急ぎ	ぶるとっぴん
	①大いに 非常に ②ありがとう (大きに)	おーけに
	覆う(布などで) 閉める(蓋を)	おう(覆ふ)(被う)(蓋う)
	大嘘 出鱈目	おお天ぷら
	①大きい 太い ②粗い(目が) ③沢山	いかい(いかえー)
	大きくなる	①おーきゅーなる(おーきょーなる) ②でこーなる
	大きな	おーけな
	多くて	おゆーて(およーて)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	大酒飲み 大酒豪 飲み助	①いっしょうかぶ(一升株) ②いっとだる(一斗樽) ③そこがない(底が無い)
	②おおざっぱな ①多いこと 甚だしい	おーかましい(おおかましい)
	大雑把なさま 物事に頓着しないさま	おーぼっかい(おーぼっかえー) (大法界)
	大雑把に行うさま 雑なさま また、そのような気質の人	おーちょうしな(おーじょうしな) (大調子な)
	大通り 街道 主要道路	おうかん(往還)
	①大間違い 心得違い ②大変びっくりする 驚愕する	おおたまげ
	大飯食らい 大食漢	いっしょうめし(一升飯)
	おおよそ 概略	えいやー
	おかしな 変な	ふれげな
	③おかしな格好をする ①甘える ②ふざける	ちばける
	おかずだけ食べる	ただくち(徒口)
	お金 銭 (幼児語)	でんで(でんでえー)(ぜんぜえー) 【「番外:幼児語」も参照】
	お金 銭 料金	でに(銭)
	②お金が掛かる ③体が大きい ①満腹	ふとい(太い)
	拝む時の唱え言葉 (幼児語)	まんまんさーあっ 【「番外:幼児語」も参照】
	起きない	おきん(起きん)
	①起きなさいよ ②終わりなさいよ 止めなさいよ	おきさんへー(おきんさんせー) (おきさんよ)(おきんさいよ)
	①お灸をする ②お仕置きをする	やいとをすえる(灸をすえる)
	奥様	おごーはー(おごーさー)
	臆病者	おそれ(恐れ)
	教える	おせえる(おせーる)(おすえる)
	②お仕置きをする ①お灸をする	やいとをすえる(灸をすえる)
	②おしくらまんじゅう ③話しがまとまらない ①混み合うさま	せんぎーもんぎー (せんぎもんぎ)
	おしゃれな人 伊達者	だてし
	押すこと	つく(突く)
	お寿司を作ること	つける

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	お世辞者	おべんたれ
	お節介をすること いらぬ世話を焼くこと	①てんばを焼く ②さいこをやく ③さいたらやく ④さいばーやく ⑤せんばをやく ⑥ちゃんばをやく ⑦せこをやく(こせこをやく) ⑧てんごうをやく(てんごーする)
	遅い	おせー
	遅いこと 手緩いこと のろいこと	①ぬるい ②へぬるい
	遅くなる	おそーなる
	恐れさす 怖がらせる 脅かす	おそらかす
	恐ろしい	①おそろしー ②おとろしー
	お多福風邪	ほおはれ(ほおばれ)
	おたまじゃくし カエルの子 (両生類)	たふぐ
	③おだやか ④おっとり ①暇な ②ゆっくり	ゆうな(悠な) (ゆうーな) (ゆうーに)
	②落ち着きがない ①ごそごそ良く動く 元気	ごそ
	落ち着きのない様 そそかしい様子 またその人	けそ(けそけそ) (げそげそ)
	落ち着きのない人 慌て者(あわてもの)	きよそ
	②落ち着けない くつろげない ①忙しく気忙しい	みにも かあにもならん (身にも皮にもならん) (みにも かもならん)
	①落ち着けない くつろげない ②[身に付かない]	みにならん (身にならん) (みにゃーならん)
	落ち松葉 落ち葉	すくず(すくど)
	②おちよくる 馬鹿にする 嘲弄する ③邪険に扱う 手ひどく扱う ①叱る やかましく言う	ちやなぐる
	落ちる	ほろける
	②落ちる 転ぶ ①座る (幼児語)	とんする【「番外:幼児語」も参照】
	①落ちる ②なくなる	①したる(すたる) ②ひたる
	お疲れ様でした	おえろーありました
	お疲れ様です お世話様です(挨拶言葉)	ごしんぱいです(ご心配です)
	お月様 (幼児語)	あとーさま(あとーさー) (あとーはん) 【「番外:幼児語」も参照】
	④おっとり ①暇な ②ゆっくり ③おだやか	ゆうな(悠な) (ゆうーな) (ゆうーに)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	おでこ 額(ひたい)	でぶっちゃん
	お手玉	おしとつ(おじゃみ)(おひとつ)
	③お転婆 ④あばずれ ①嘘つき ②食わせ者	てんすら
	おどける 面白い仕草	ひょうげる(剽げる)
	男の人 男衆	おとし
	男まさりの女の人	しゃばら
	落とす	ほろかす
	②落とす 壊す 失敗する(幼児語) ①やれやれ(失敗した時)	やーや 【「番外:幼児語」も参照】
	②落とす 紛失する なくす ①捨てる	①してる ②ひてる
	おととい 一昨日	おとつい 【「番外:東西の違い」も参照】
	おとな	おせ
	②[大人びた] ①穀物がダメになった状態	ひねた(陳ねた)(ひねる)
	①大人びたことを言う ②生意気や屁理屈を言う	ねんごーをたれる
	大人用の自転車に子供が乗る方法	さんかくのり(三角乗り)
	①大人用の自転車に子供が乗る方法 ②バイクの後ろに女性を横向きに 乗せる方法	よこのり(横乗り)
	驚いた時の言葉	①ありやまー(ありやーまー) ②おりやまー ③おりよっ(おりよー)(おりよりよ)
	驚きうろたえること	①とちまよう ②とちめんぼうをふる
	①驚く 驚かす びっくりする ②湯通し	たまげる たまがす たまぐらかす
	③おなか(胃)が痛い ①虫が刺す ②噛みつく 大口を開けて食いつく	かぶる(齧る)(かぶられた)
	鬼の居ぬ間に洗濯のこと	はなじわをのばす(鼻皺を伸ばす)
	お化け 幽霊 鬼(幼児語)	ごんごち(ごんごし)(ごんごんちい) (ごんごー)(がんごー) 【「番外:幼児語」も参照】
	おはじき(御弾き)	いしゃら
	おはようございます	おはようありました(おはようございました)
	尾ひれ 尻尾(しりお・しっぽ)	おばち(おっぱち)
	お風呂(幼児語)	ちゃぶちゃぶ(ちゃんぼ) 【「番外:幼児語」も参照】

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②お風呂（幼児語） ①水（幼児語）	ぶんぶう(ぶんぶー) (ぶんぶ) (ぶーぶー)【「番外：幼児語」も参照】
	おまえ	われ(わりゃー)
	②お前 あんた ③各自 おのおの ①自分 自分自身	めんめ
	お前 お主(ぬし)	おんし
	お前は	おちゃー(おうちは)
	②お召し上がり下さい ①座敷にお上がり下さい	おあがんさんせー(おあがりんさんせ)
	④[思い切って] ①少しも 一向に ②全く ほんとに ③いつも すでに	いっそ(いっそー)
	重たい	おもたー(重たー)
	おやおや やれやれ 軽い失意を表す	やーれのう(やーれやー)
	おやつ 間食	はざまぐい(狭間食い)(間食い)
	おやつ ありゃ あれっ	おりよっ(おりょー)(おりよりよ)
	おやまあ あらまあ	まーりょー(まーりゃー)
	お嫁さん	よめじょーはー(嫁女はー)
	居(お)られる	おりんさる
	降りられる	おりんさる
	降りる 背中から下に降りる（幼児語）	おんりする【「番外：幼児語」も参照】
	降りる時	おりしな(おりがけ)
	俺達	おまらー(おんまらー)
	おろし大根	すりだいこん(摺り大根)
	①おろそかになる ②帰られる	おかえる
	②終わりなさいよ 止めなさいよ ①起きなさいよ	おきさんへー(おきんさんせー) (おきさんよ)(おきんさいよ)
	音楽(おん <u>ぎ</u> ゃく)	おんがく
	おんざのはつもの(穩座の初物)	おんだのはつもの
	女の子 小娘	びんたれ(鬢垂)(びんだれ)
	女の人 妻女 女中	おなごし
	おんぶする	おう(負う)
か		
	～か？	①～かー ②～ん (いくん？ きくん？ するん？ やるん？)
	～か ～とか	～やら

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	外観が良い 見かけが良い	うっぱいがええ(うっぱえーがえー)
	②外観が良い 見かけが良い ①体格が良い	たっぱいがええ(たっぱえーがえー)
	買いなさる	かやーる(買やーる)(かいやーる)
	買う	こう(買う)
	③孵(かえ)す ①倒す ②こぼす(こぼれる)	かやす(かやる)(かやれる)
	帰った	いんだ
	帰って	いんで
	却(かえ)って むしろ いっそ	けっか(結果)(けっく)(結句)
	帰らす 帰らせる	いなす(いなせる)
	帰らない	いなん
	帰らなければ	いなんにやー
	帰られる	いにさる(いにんさる)
	②帰られる ①おろそかになる	おかえる
	帰りなさい	いにさい(いにんさい)
	帰りなさった	いにさった(いにんさった)(いにさえた)
	帰りなさる	いにさえる(いにんさえる)
	帰る	いぬる(いぬ)
	帰る途中 帰り掛け 戻る途中	①かえりしな ②もどりしな
	②帰る途中 ①帰ろうとする時 (帰り掛け)	いにしな(いにがけ)
	カエルの大きいもの (両生類)	どんびき
	帰れ	いね
	帰ろう	いのう
	①帰ろうとする時 ②帰る途中 (帰り掛け)	いにしな(いにがけ)
	顔色 血色	いろめ(色目)
	香り(茶の)	えんか(苑香)
	顔をたたく	つらをはる(面を張る)
	顔を出さない 立ち寄らない	のどかん
	①欠かす ②穴を開ける	①ほがす ②ほぐ
	踵(かかと)	かがと
	鏡餅	おいわい
	鏡餅を数える単位	かけ(掛け)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	かがむこと しゃがみこむこと	つくなむ(蹲む)(屈む)(つくのむ)
	かき集める 海底や川底などをさらう	さらばえる(浚ばえる)
	①かき集める ②撫(な)でる	さでる(さぜる)
	柿の実をもぐための道具	①もがり ②わらばさみ(わりばさみ)(割鋏)
	かき餅	こおりもち
	限り 極限 極み	ひる(昼)
	②掻き分けて進む ①くぐる	こぐる
	嗅ぐ 鼻でにおいを感じ取ること	におう(によう)
	覚悟を決める	あんじんをきめる(安心を決める)
	隠し事がない 全部をさらけ出す	みながん
	③各自 おののお ①自分 自分自身 ②お前 あんた	めんめ
	各自 おののお それぞれ「面々」のこと	めんめえ(めんめ)(めえめえ)
	③隠れる ④閉じこもる ①[しゃがむ] ②[うつむく]	かごむ(屈む)
	かくれんぼ(幼児語)	かくれご(かくれんご) 【「番外:幼児語」も参照】
	②崖(がけ) 切り立った所 ①岸	ぎし
	カケス(懸巢)(鳥)	かぎーす
	かけっこ	はいか
	①欠ける ②穴が開く	ほげる
	かける(掛ける)(アイロンやパーマ)	あてる(当てる)
	カゴ 手籠(竹編み)	てぼ
	籠(竹編で丸い バラス、砂を入れる)	ばらかご(ばら)
	花崗岩 御影石	きりいし
	傘に入れる	のせる(乗せる)
	傘に入る	のる(乗る)
	貸し借り無しのこと 同等 互角	つっぺ
	①賢い ②ずる賢い とげのある人	えずい
	①賢い ②違和感 窮屈 収まりが悪い	いずい
	数の数え方	【「番外:数の数え方」参照】
	②かすりとり ①削り取る 減らす	へつる(剥つる)
	風で飛ぶこと 風で舞い上がること	ひよる
	～(か)せる ～(か)させる	～(か)す(～(か)さす)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	風邪を引く	かじょーひく
	数える	かぜーる
	片足跳び（子供の遊び）	けんけん
	①片足飛び ②いたどり(虎杖)（植物）	ててつぽ
	④固い ①粘り強い 辛抱強い ②くどい しつこい ③強情 頑固	しわい(撓い)
	片一方	いっぽーかた(一方片)
	肩車	びんぶく(湯野・熊毛)、 びんどこ(下松)、びんびく(柳井)
	②片付けなくても平気な人 ①怠け者	なえんぼう(萎えん坊)
	①片付ける 仕舞う ②[移動する 除(よ)ける]	のける
	①片付ける 仕舞う ②[修理する 修正する]	なおす
	②[片付ける] ①無くなった（幼児語）	ないない【「番外：幼児語」も参照】
	カタツムリ(蝸牛)（陸生巻貝）	①でんでんむし ②まいまい
	形無し 面目まる潰れ	かたーなー(かたーない)
	片方	かたひら(片枚)
	固結び 細(こま)結び	からむすび
	家畜小屋 駄屋	だや
	担(かつ)ぐ 肩に担(にな)う 肩に乗せる	かたぐ(担ぐ) (かたげる)
	買ってくる	こうてくる(買うて来る)
	①河童 ②化け物(川に住む) ③ゲンゴロウ(虫)	えんこう(えんこー)
	②角々しい 性格が強い きつい ①筋張って硬い	きすい
	悲しむさま 悲しいこと	なんぎ(難儀)
	蚊に刺される	かまれる
	金持ち 財産家 分限者(ぶげんしゃ)	ぐべんしゃ(くべんしゃ) (ぐえんしゃ)
	化膿して悪化すること	ほーちゃく(疱熟)
	画鋏	おしピン(押しピン) 【「番外：東西の違い」も参照】
	被(かぶ)る	かずく(かづく)
	かぼちゃ 南瓜（野菜）	①とーぶら ②ぼーぶら(ぼーぼら)
	呎(かます) わらむしろを 二つ折りにして作った袋	かまぎ

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	カマツカ(鎌柄) (魚)	ほーせんぼう
	かまど	①くず(くずし) ②くど
	②我慢する 抑制する 許す ①固定する 支持する	おらえる
	我慢強く働いて、 なおかつ、質素儉約に努める人	しんぼうにん(辛抱人)
	②髪が少ない ①聡明な	あたまがすずしい(頭が涼しい)
	②神様 (幼児語) ①仏様 仏壇 (幼児語)	まんまんさあ【「番外:幼児語」も参照】
	②噛みつく 大口を開けて食いつく ③おなか(胃)が痛い ①刺す(虫が)	かぶる(齧る) (かぶられた)
	雷	なるかみ
	②髪の毛が柔らかいこと 柔毛 ①産毛	ねこげ
	①噛むさま(物を) ②口ごもるさま(もぐもぐ)	もんぐりもんぐり
	カメムシ (虫)	ほうむし(ほう) (ほうじ)
	かゆい	かいい
	～から ～だから ～故に	～からに
	③からかい半分におだててることを言う ①からかう ②いじめる(軽く)	かもう
	からかう	かしらう(かしろう)
	①からかう ②いじめる(軽く) ③からかい半分におだててることを言う	かもう
	②からかう(軽く) ①触る いじくる 少し動かす	いじる
	②からかう(子供を) ①せきたてる	せつく
	②からかう ①対抗する 反抗する	せがう(せごう)
	③体が大きい ①満腹 ②お金が掛かる	ふとい(太い)
	②体の弱い人 虚弱体質の人 ①弱虫	よわずー
	身体そのもの 及びその状態や体格	ごたえー(五体)
	身体に関する方言	【「番外:身体に関する方言」参照】
	～からだよ(非難)	～ごといやー
	②身体を壊す 健康をそこなう ①失敗する	しまう(仕舞う)
	②仮植え ①苗を植える	ふせる

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	借りた	かった(借った)
	借りること	かる(借る) かった(借った)
	辛うじて 何とか	えーやら やっと(えーやっと)
	側	①つら(面) ②ひら(びら)
	可愛くて	かわゆーて(かわよーて)
	③かわいそう ①難しい ②苦しい	いたしい(いたしー)
	①可愛らしい ②小さい	かいらしい
	乾く	①いらく ②ひやぐ ③ひる(干)
	①乾く ②ご飯が炊けたこと (水気が無くなること)	ふやぐ
	カワハギ(魚)	①はげ ②めーぼ(めいぼ)
	カワムツ(河鯉)(魚)	あかまつ(あかまつばえ)(あかばえ)
	瓦(かわら)	かーら
	代わり番こ 代わる代わる	かわりごうて(かわりばんて)
	代わるがわる	てんぐりまんぐり
	柑橘類(果物)	こーるい
	元金(がんきん) 元手(もとで)	がん(元)
	頑固 片意地 意地っ張り	でんき(でんきな)(でんきをはる)(ぜんき)
	頑固爺さん	もーごーじい
	③癩癧(かんしゃく) ④毛虫 ①気短な人 せっかち ②刺すくらげ	いら(苛・刺)
	②感心してほめる ③えぐ味が強い ①一生懸命、大きな声で言う	のどをはる(喉を掘る) (のどーほる)(のどをほぜくる)
	甲高(かんだか)い声	とんがりごえ
	神主	たゆうさん
	干ばつ	①ひやける(日焼ける) ②ひやいでる
	完膚無きまでに	けちよん、けちよん
	①完膚無きまでにやられた状態 ②真っ直ぐになっていない状態	いんごーがんぎー(いごうがんぎ)
	②元来 根っから ①全く まことに	どだい(土台)
き		
	黄色	きー(きーろ)
	③気が利かない ④余計な事 ①能率が悪い ②くだらない	もとーらん

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	③気が利く ④役に立つ ①能率がよい ②素晴らしい	もとーる
	気兼ねを良くする人	きがねし
	聞(利)かん坊 腕白な子供の様子	つらはり
	木切れ(きざれ) 木の枝 枯れた枝木	きなざれ(木切)
	③機嫌が悪くなる 気分を損なう ①木を斜めに切る ②本筋から外れる 横道にそれてしまう	そげる(削げる)
	危険 不安	あんぶ
	貴様 うぬ	おんどれ(おんどりゃー)
	貴様は うぬは	おどりゃー(おんどりゃー)(おのりゃー)
	①岸 ②崖(がけ) 切り立った所	ぎし
	汽車(幼児語)	シュッポッポ(シュッシュッポッポ)(ポー) 【「番外:幼児語」も参照】
	キス(魚)	きすご
	傷跡(きずあと) 傷痕 切り傷や火傷の跡	きつぽ
	②気詰まりで、窮屈な状態 ①煙たい	けぶたい(けぶたあ)
	汚い(幼児語)	ばばちい(ばばっちい) 【「番外:幼児語」も参照】
	汚い かつこ悪い みっともない	ほーとくない (ほーとくなえー)(ほーちょくない)
	①汚い ②ずるい	きしゃない(きちゃんい)
	汚い だらしない 役立たず	びったれ
	①汚い(幼児語) ②泣く 泣く様子(幼児語)	びーびー 【「番外:幼児語」も参照】
	①きたないなあ ②しまったなー	えー えっ(えーえ) 【「番外:幼児語」も参照】
	②汚いので不快 ①うっとうしい 濡れて気持ちが悪い	よーそけない(よーさけなえー)
	汚くてもよい人 不潔な人	びったー
	②着たのか 服をもう着たのか ①来たのかね	きたんかね
	①来たのかね ②着たのか 服をもう着たのか	きたんかね
	①来ている ②着ている	きちよる
	②着ている ①来ている	きちよる

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①来てはいけない ②着ない方が良い	きいさんな(きーさんな)(きさんな)
	気取る人	ええかつこし
	②着ない方が良い ①来てはいけない	きいさんな(きーさんな)(きさんな)
	黄な粉餅(きなこもち)	まめのこもち(豆の子餅)
	①来なさい ②着なさい	①きいさん(きーさん) (きさん)(きいさい)(きさい) ②きまい ③きんさい(きーさい)
	②着なさい ①来なさい	①きいさん(きーさん) (きさん)(きいさい)(きさい) ②きまい ③きんさい(きーさい)
	気になる山口弁	【「番外:気になる山口弁」参照】
	杵 餅をつく杵	なんじょう
	きのう 昨日	きによー(きのー)
	①きのうの晩 昨日の晩 ②一昨日の晩	きによーのばん(きのーの晩)
	気の内は忠実(まめ)な 呑気(のんき)な	きのうちやーまめな
	きのこ(茸) (菌類)	なば
	①来はしない 来ないだろう ②着はしない 着ないだろう	きやあせん(きゃーせん)
	②着はしない 着ないだろう ①来はしない 来ないだろう	きやあせん(きゃーせん)
	来始める	きはなえる(来はなえる)
	②厳しい ①面倒くさいこと 手間を取る	やかましい
	②きまりが悪い ①申し訳ない	たいがたい(たえがたい)
	②気味が悪い ①寒気がする 悪寒がする	さぶけがする(寒気がする)
	気味が悪いこと	きびがわるい(きびが悪い)(きびがわりー)
	①気短な人 せっかち ②刺すくらげ ③癩癧(かんしゃく) ④毛虫	いら(苛・刺)
	②気難しい 融通がきかない ③しつこい ①厄介で難しいこと 厳しい 困難	やねこい
	気持ちが悪い 汚らしい	いびしー(いびせー)
	気持ちが悪い 気分が悪い いまいましい	けたいくそが わりい (けったくそが わりい)
	②気持ちが悪い どぎつい ①あく(灰汁)が強い	えぐい

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①気持ちの悪い感じ ②失敗して気分が悪い感じ	きやいがわるい(きあいがわるい)
	着物(幼児語)	あば【「番外:幼児語」も参照】
	①着物 ②赤いもの ③美しいもの	あっぱい【「番外:幼児語」も参照】
	②着物(きれいな着物)(幼児語) ①血(幼児語)	べんべ【「番外:幼児語」も参照】
	着物の小修理をする	せんたくする
	逆 本末転倒 逆さま	へこさか
	客間	おもて(表)
	急勾配 急坂 陰阻	さかしい(陰しい)(嶮しい)
	キュウセン(求仙、九仙) ベラ(魚)	ぎざみ
	休息をする 骨休みをする	いきをする(息をする) (いきゅーする)(いきょーする)
	②急に 俄かに(にわか) ③根こそぎ いっぺんに ①意に反して 予期しないのに	ごっくり(ごっくし)
	急に暗くなる	だいぐら(大暗)(だいくら)
	兄弟(姉妹)	おとどい
	器用であること 工作技術にたけていること。	りこう
	共同で 一緒に	もやいで(もようて)(もよーて)
	共有	おもやい
	共有して使うこと	もやい(催合い)
	嫌い	すかん
	嫌いで不愉快なこと	すかんたらしい(好かんたらしい)
	気楽な人 人の好意を感じない人	えーきなもの
	切りが無い 際限がない	きりゃーない
	ぎりぎり どうにかこうにか	かつかつ
	①ギリギリス バッタ(虫) ②痩せた人	ぎーす(ぎいす)
	切干大根	かんぴょう
	切ること(爪や髪を)	つむ(抓む)(摘む)
	きれい好き(病的に)	かんしょう(癪性)(かんしょう びったれ)
	きれいだった	きれいな かった(きれーな かった) (きれんな かった)
	②きれいな着物(幼児語) ①血(幼児語)	べんべ【「番外:幼児語」も参照】

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	きれいになる 汚れが取れてピカピカになる	きしきしになる
	②際(きわ) 近所 ①根元 切り株	ねと
	際、脇、横、側のこと	ねき
	きわ(すぐ横) すぐそば すぐ横	まへり
	①木を ②気を	きゅう(きゅー) (きょう) (きょー)
	②気を ①木を	きゅう(きゅー) (きょう) (きょー)
	気を付けて	きーつけて(きゅーつけて) (きよつけて) (きょーつけて)
	①木を斜めに切る ②本筋から外れる 横道にそれてしまう ③機嫌が悪くなる 気分を損なう	そげる(削げる)
	金柑(果物)	きいかん
	②近所 際(きわ) ①根元 切り株	ねと
	筋肉の痙攣(けいれん) こむら返り	からすなえ(からすない)
く		
	具合(ぐあい) (ぐわい)	ぐわえー
	②具合が良い 使い勝手が良い ①便利	じゅうがええ(じゅうがええ)
	具合が悪い 塩梅(あんばい)が悪い 都合が悪い	ぐつが悪い(ぐつがわりー)
	②具合が悪い 使い勝手が良くない ①不便	じゅうがわりー
	食い代(くいしろ)	くいしこ
	①食いしん坊 ②つまみ食い	ずいたれ(ずい) (ずいと) (ずいとう)
	ぐうすかぐうすか 良く寝ている時のさま	ぐうすこぐうすこ
	くくる 結ぶ 縛る	①いわえる ②きびる
	①くぐる ②掻き分けて進む	こぐる
	①くじく ②てこ(梃子)で物を少し動かす	こねる(捏ねる)
	櫛でとく(髪を)	かく(掻く)
	くしゃみのこと	はつくしょ(はくしょ) (はくしょん)
	屑(くず) くずもの 不合格品	くどろ
	愚図	のんこ
	ぐずぐず のろのろ	ぼそぼそ
	愚図愚図言うこと 不平を言うこと	ぐちぐち言う(ぐちぐちゅー)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②ぐずぐずして物事が進まない ①くねくねと身悶える	いんぐりもんぐり
	ぐずぐずしている はっきりしない	あずがきれん
	くすぐつたい	①くすばいー(くすばえー) ②こそばい(こそばいー)(こそばえー)
	崩す つぶす	①ずやす(づやす) ②つやす(潰す)(づやす)(づわす)
	燻らかす 煙でいぶす	ふすべる
	燻る(くすぶる)	ふすぼる
	崩れる	①つえぬけ ②つえる(づえる)
	崩れる(形あるものが) 器具が壊れる	どおれる
	崩れる 崩壊する	①ぐすねる ②ずえる(づえる) ③ずやける(づやける)(ずわける)
	下さい くれなさい(手を出しながら)	くれまい(くれさい)(くれんさい)
	下さい(丁寧な言い方)	おくれんさいやー
	～下さい	①～くれまい(～くれさい)(～くれんさい) ②～くん(～くんない)(～くんねー) ③～つかあーさい(～され)(～んさい) ④～つかあさんへー(～さんせい)
	③下さい ①来れないだろう ②呉れないだろう	くれまい
	②下さい くれ くれなさい ①来るな	くんな
	②くたびれる ③腹を立てる ①もめる	にえる
	くたびれる 疲れ果てる	へばる
	②くだらない ③気が利かない ④余計な事 ①能率が悪い	もとーらん
	くだらない 無益な	やちもない(やーちもない) (やっちもない)(やちもなえー)
	くだを巻く。(お酒に酔って)	ぐでる
	くだを巻く人(酒に酔って)	くだまき(管巻き)
	②口が立つ ①生意気を言う	かばち
	②口ごもるさま ①物を噛むさま(もぐもぐ)	もんぐりもんぐり
	口に含む	くくむ
	口を揃えて言う	いいつろう
	くっついてまとわりつくさま	ひつつき もつつき(くつつき もつつき)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	くっつく 近づく 引っつく	せつつく
	②くどい しつこい ③強情 頑固 ④固い ①粘り強い 辛抱強い	しわい(撓い)
	①くどくど言うこと ②ぺちゃくちゃしゃべること	うだうだ
	①くねくねと身悶える ②ぐずぐずして物事が進まない	いんぐりもんぐり
	工夫する	ぎみる(ぎんみる)
	熊手	がんざき(がんぜき) (がんでき)(がんじき)
	ぐみの実(植物)	ぐいめ
	工面(くめん)する 探す	さんだん(算段)
	蜘蛛の糸	ゆ
	くやしい 癢(しゃく)に障る 腹立たしい	はがいいい(はがいたらしい)
	暗がり	くらさめ(暗さめ)
	繰り返す人	〜くり(〜繰り)
	③来る ①居(いる) ②行く	おいでる
	②苦しい ③かわいそう ①難しい	いたしい(いたしー)
	②来(く)るだろう ①来(こ)よう	こー(来う)
	来る途中	きしな
	①来るな ②下さい くれ くれなさい	くんな
	くれた 下さった	くれちゃった
	②呉れないぞ ①来ない 来ないだろう	くりゃーせん
	②呉れないだろう ③下さい ①来れないだろう	くれまい
	くれなさい(手を出しながら) 下さい	くれまい(くれさい)(くれんさい)
	くれる 下さる	くれやある(くりゃーる)
	苦労する	しんつーする(心痛する)
	黒鯛(魚)	ちん(ちぬ)
	②食わせ者 ③お転婆 ④あばずれ ①嘘つき	てんすら
	くわの実(植物)	くわいちご
け		
	計算 算用の古い言い方	さんによ(算用)
	軽率なさま	そっきよう(率軽)(そっきょー)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①瘻癧(けいれん) 子供の瘻癧 引き付け ②びっくりする	すじをひく(すじを引く) (すじゅーひく)(すじょーひく)
	けしかける 意気込ます	いきらかす
	削り取る 搔き取る	こさぐ
	削り取る 減ずる	①けびる ②へびる(減びる)
	削り取る はぎ取る 大量に取る	ほぎとる(ほぎ取る)
	①削り取る 減らす ②かすり取る	へつる(剥つる)
	解せない 了解できない	げせん(解せん)
	下駄 高下駄	ぶくり
	蹴散らす 蹴散らかす	けつらかす
	けち	がり
	③けち ①倏約するさま ②実直な	じまたい(じまたえ)
	③けち 吝嗇 ①小さい 細い ②細かい	こまい(細い) (こまえー)(こみゃー)(こまー)(こめー)
	[けち 吝嗇(りんしょく) しみったれ]	しわい(吝い)
	けちんば	にぎり(握り)
	血縁 親類	ひっぱり(引っ張り)
	血統 遺伝 系統	①そん(尊) ②ぼっけ
	～けば ～れば(仮定形)	～きゃー(～りゃー)
	①下品なこと 卑しいこと また、そのさま ②できの悪いもの へたなこと	げさく(下作)(戯作)
	④毛虫(虫) ①気短な人 せっかち ②刺すくらげ ③癰癤(かんしゃく)	いら(苛・刺)
	①煙たい ②気詰まりで、窮屈な状態	けぶたい(けぶたあ)
	蹴ること	けつる
	①元気 ②よく働く	まめ(実)(忠実)
	元気になる 病気から快復する	まめになる
	③ゲンゴロウ(虫) ①河童 ②化け物(川に住む)	えんこう(えんこー)
	元治(げんじ)(年号)	がんじ(元治)
	倏約 節約	しまつめ
	①倏約するさま ②実直な ③けち	じまたい(じまたえ)
こ		
	個(卵や石の数え方)	き

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②こいつ達は こいつ達を ①こいつら(そいつら、あいつら、どいつら)	こいらー(そいらー、あいらー、どいらー)
	①こいつ(そいつ、あいつ)は ②こいつ(そいつ、あいつ、どいつ)を	こんなー(そんなー、あんなー、どんなー)
	②こいつ(そいつ、あいつ、どいつ)を ①こいつ(そいつ、あいつ)は	こんなー(そんなー、あんなー、どんなー)
	①こいつら(そいつら、あいつら、どいつら) ②こいつ達は こいつ達を	こいらー(そいらー、あいらー、どいらー)
	幸運に会う	えーめにあう(ええめにあう)
	口蓋垂(こうがいすい)のこと	のどまめ(のどちんこ)
	交換	かえごと
	③強情 頑固 ④固い ①粘り強い 辛抱強い ②くどい しつこい	しわい(撓い)
	強情な 一概のこと	いちがいな
	強情な人 一刻者	いちがいほり
	後退する バックする	ごすたん
	好都合 良いタイミング	えーひょうし
	③好都合であります ①ありがたい ②助かります	しあわせます(幸せます) (仕合わせます)
	こうでしょう(そう、ああ、どうでしょう)	こーじゃろう(そー、あー、どーじゃろう)
	こうですか(そう、ああ、どうですか)	こーでえー(そー、あー、どーでえー)
	後頭部(こうとうぶ)	うしろあたま(後ろ頭)
	①興奮状態 調子に乗って騒いでいる状態 ②得意がる	きなる(気成る)
	①肥えた人 太っちょ ②肥溜め壺	こえたんぼ
	②肥溜め壺 ①肥えた人 太っちょ	こえたんぼ
	肥溜め壺	だいつぼ
	凍る	しみる(凍みる)
	コクゾウムシ(虫)	つみ
	ごく小さい様子	ちんげな
	①穀物がダメになった状態 ②[大人びた]	ひねた(陳ねた)(ひねる)
	穀物のくずを除去すること	さびる

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①心配りのない人 気の利かない人 ②不始末な人 物事に対処できない人 ③だらしない人 自堕落な人 怠け者	いたんなし(いたりなし)
	～ございます	～あります(～ありました)
	小魚(魚)	がぜ
	小魚の干物(魚加工品)	つんこ
	小皿	①てつしょ(てつしょう) ②てふけ
	乞食	ほいと(ほいとー)
	狡(こす)い 欲が深い けちんぼう	こぶい
	梢(こずえ) 先端	うら(末)
	①こすりながら拭く なすり付ける ②転嫁する	①なすくる(なすぐる) ②ぬすくる(ぬすぐる)
	①ごそごそ良く動く 元気 ②落ち着きがない	ごそ
	こたつの格子 コンロ(七輪)の中底	さな
	コチ(魚) 正式名はネズミゴチ(鼠鱖)	がっちゃん
	ご馳走	ごっそー(ご馳走)
	②ご馳走(お客を呼んだ時) ①準備 用意	しかまえ(仕構)
	こっぴどく 手酷(てひど)く 非常にひどく	こひどうに(こっぴどーに)
	①固定する 支持する ②我慢する 抑制する 許す	おらえる
	～ごと ～ぐるみ ～のまま	①～ごし ②～ごみ(～ごめ) ③～ごめ(～込め)(～籠め)
	今年は	こっしゃー(ことしゃー)
	子供 ガキ	こやと(小奴)(こやっとう)
	②子供が病弱で親が心配 ①心配をさせること その人や物	きもやき
	①子供をちやほやする ②音(ね)を上げる 悲鳴を上げる	ほーほーゆー(ほーほー言う)
	①来ない 来ないだろう ②呉れないぞ	くりゃーせん
	粉々	じんだ
	粉々に	①ちんじに ②ちんじばらばらに
	②[こねて固める] ①だらしなく積み上げる	つくねる
	②このところ(此の所) この場所 ①近頃 最近 このところ	こんところ

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	この(その、あの、どの)人	こんなし(そんなし)(あんなし)(どんなし)
	この野郎 此奴(こやつ) この悪ガキ	こんげどー(こんくそー)
	このような(その、あの、どのような)	①こがあな (そがあな、あがあな、どがあな) ②こつとな(そつとな、あつとな、どつとな)
	このようなこと (その、あの、どのようなこと)	こげんなこと (そげん、あげん、どげんなこと)
	このように(その、あの、どのように) この通りに(その、あの、どの通りに)	こんとうに(そん、あん、どんとうに) (このとーに、その、あの、どのとーに)
	このように こんなに	①こがあに(そが、あが、どがあに) ②こげんに(そげ、あげ、どげんに)
	②鞋(こはぜ) ①ボタン 特に小さいボタン	へち
	②ご飯が炊けたこと ①乾く(水気が無くなること)	ふやぐ
	①ご無沙汰しております ②済みません	ごぶれいしました(ご無礼しました)
	②こぼす(こぼれる) ③孵(かえ)す ①倒す	かやす(かやる)(かやれる)
	①小骨(魚の) ②トゲ いばら	いぎ
	②細かい ③けち 吝嗇 ①小さい 細い	こまい(細い) (こまえー)(こみゃー)(こまー)(こめー)
	細かいこと ほんの少し 些細なこと	つべくそ
	細かく切断する 細かく砕く	こぎる(小切る)
	困った もたない 我慢できない たまらない	やれん
	困って四苦八苦している様子 てこずる	あずる
	②困らかす ①失敗する	しまわかす(しまーかす)(しまくらかす)
	困り切る 困り果てる	①こまりかやす ②よわりかやす
	困ります	よわります(弱ります)
	困る 思うようにならない どうにもならない	さばけん
	混み合うこと 混雑	せぐ
	①混み合うさま ②おしくらまんじゅう ③話しがまとまらない	せんぎーもんぎー (せんぎもんぎ)
	②混み合うさま 人が多いさま ①沢山の人から求められ、欲しがられる さま 非常に評判の良いこと	せんごーまんごー(せんごまんご) (せんぎーまんぎー)
	混み合うさま 押し合い圧(へ)し合い	せんぎんごんごん(せんぎーごんごー)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	ごみ捨て場	ごみたんぼ
	小難しい(こむずかしい)	へむつかしー
	小娘 女の子	びんたれ(鬢垂)(びんだれ)
	こむら返り 筋肉の痙攣(けいれん)	からすなえ(からすない)
	②こむら返り ①足が棒になる	ふがあがる(ふがはる)
	米の研ぎ汁	のし(のしみず)
	①来(こ)よう ②来(く)るだろう	こー(来う)
	堪(こら)え性 忍耐力 耐える性質	こらえじょう
	②懲(こ)らしめ ①処置 始末 手入れ 下拵え	しごーする(しごをする)(しごーせる)
	～ごらん ～ごらんない	～てん
	ご覧なさい	ごろうじませい(ご覧じませい)
	懲りない(こりない)	しょうねがない(性根が無い)
	これだけ(それだけ、あれだけ、どれだけ)	こんだけ(そんだけ、あんだけ、どんだけ)
	①来れないだろう ②呉れないだろう ③下さい	くれまい
	これは良い	こりゃーええ
	これを見てごらん	こりょー見ない
	転がす	まるがす
	転がす 転がし落とす	まくる
	転(ころ)げる 転ぶ 倒れる	まるげる
	転ぶ	こける(転ける)(倒ける)
	転ぶ 倒れる	とーんする(たーんする)(てーんする) 【「番外：幼児語」も参照】
	壊す 破る	やぶつ(破つ)
	壊す 壊れる	めぐ(めげる)
	壊れやすい 粘り気が無くもろい	さくい
	壊れる	やぶける(やぶれる)(やぶてる)
	壊れる 機械、装置の調子が悪くなる	ごてる
	壊れる(器具が) 崩れる	どおれる
	②根気強い 忍耐力が強い ①性質が良い	しょうがええ
	今度は この次は	こんだー(こんだら)
	こんにちは おじゃまします	あんたんで(あんたんでありますか)
	婚約のお酒	すみざけ

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②コンロ ①七輪(しちりん)	ひちりん
さ		
	さあ、ご覧	みてみい(見て見い)
	サービスが悪い 構わない	ぶとりあい(不取合)(ぶとりやい)
	最後だ 終りだ	ぎよめいぎよじ(御名御璽)
	西条柿(果物)	さんじょうがき
	～さいませ	～さんせー
	冴えない	さえん
	逆さまに戻る でんぐりがえり(後転) とんぼ返り	つんぺんかやり
	逆様(さかさま)	①さかし(逆し) ②さかつんべ(さかつべ) ③へこさか
	魚(魚)(幼児語)	たいたい【「番外:幼児語」も参照】
	魚の骨(幼児語)	がんが【「番外:幼児語」も参照】
	魚の呼び名	【「番外:魚の呼び名」参照】
	逆剥(さかむ)け	さかむげ
	昨夜	ゆんや(ゆんべ)(ゆーべ)
	酒	さんずい
	酒に酔って顔が赤くなる その様	きんときになる(金時になる)
	叫ぶ	①いがる ②おらぶ(叫ぶ)(号ぶ) ③たける(哮る)(たっける)
	支える 助ける	すける(助ける)(すげる)
	ささくれること	ささける
	①刺す(虫が) ②噛みつく 大口を開けて食いつく ③おなか(胃)が痛い	かぶる(齧る)(かぶられた)
	～(して)差し上げなさい (～(して)やりなさい)	～(して)あげんさい (～(して)やりんさい)
	①座敷にお上がり下さい ②お召し上がり下さい	おあがんさんせー(おあがりんさんせ)
	①差し出すこと 渡すこと ②出席する	のどける(のぞける)
	②刺すくらげ(刺胞動物) ③癩癧 ④毛虫 ①気短な人 せっかち	いら(苛・刺)
	嚙(さぞ)かし 定めし さぞや	なんぼか(なんぼうか)
	さっさと 手早く 速やかに	①しゃつしゃと ②ちゃつちゃと

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	雑水	ぞーず(どーず)
	さつまいも(薩摩芋)(甘藷)(芋)	①いも ②とういも(唐芋)(とーいも) ③りゅうきゅういも(琉球芋) ④るいきいも
	さといも(里芋)(芋)	①かいいも(かゆいも) ②こいも(子芋)
	サニーレタス 萵苣(ちしゃ)(野菜)	ちしゃつぱ
	ザビエル	サビエル
	妨げる	じゃまくる(邪魔くる) (じゃまーくる)(邪魔を繰る)
	さみしがり屋	ひつつきむし
	寒い	さみー(さびー)
	寒い(幼児語)	しゃむいしゃむい(しゃぶいしゃぶい) 【「番外:幼児語」も参照】
	寒いですね(挨拶)	おさむーあります
	寒がり 寒さを感じ易い人	すくれ
	寒くなる 冷たくなる 冷(さ)める	ひよーなる(ひょーなる)
	①寒気がする 悪寒がする ②気味が悪い	さぶけがする(寒気がする)
	さや隠元 隠元豆(野菜)	さんどまめ
	さやえんどう(野菜)	かわやお(かわやわ)(かわくい)
	さようなら	さいなら
	②さようなら ①それなら	へえなら(へーなら)
	さらしくじら	おばいけ(尾羽毛)
	ざる(竹で編んだ浅いもの)	そうけ(箆筥)
	さるとりいばら(植物)	①いぎのは ②ほてんどー
	～された	～さった(～さいた)(～さえた)
	②騒ぐ ③せき立てる ①文句を言う	やーやー(やあやあ) (やあこらやあこら)言う
	③騒ぐ ①増える ②叱る 怒る	おごる
	①触る いじくる 少し動かす ②からかう(軽く)	いじる
	①触る いじる 少し動かす ②手を加える 修繕する 手入れする	いらう(いろう)(弄う)(綺ふ)
	②さわる(幼児語) ①[立つ](幼児語)	たっちする【「番外:幼児語」も参照】
	～さん	～さー

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	～さん ～ちゃん	～まー
	散々な目 踏んだり蹴ったり 無茶苦茶	ささら ほーさら(ささら もさら)
	三人	みったり
	残念	だんねん(残念)
	散髪に行く 美容院に行く	あたまにいく(頭に行く)
	①残飯 ②どべ	あだぶ(あざぶ)
	散歩 歩き(幼児語)	よんよ 【「番外:幼児語」も参照】
し		
	～(し)合い	～やい(～やいこ)
	シイラ(鰯)(魚)	まんさく(満作)
	慈雨 めぐみの雨	うるい
	①塩 ②潮	しょ(塩)(潮)
	②潮 ①塩	しょ(塩)(潮)
	塩味が薄い	あまい
	①塩辛い ②いがらっぽい	いがらい
	しおれる しなびる	しばなえる(しばなえーる)(しなばえる)
	萎れる(しおれる) 一歩手前 弱る	よれる(縊れる)
	しおれること 干涸(ひから)びること(草木)	からびる(乾びる)
	しかし	①へじゃが ②へじゃけど
	しかし しかしね	ほいじゃがのおー (ほじゃがのー)(ほいじゃが)
	①仕方ない 仕様ない ②大丈夫	しゃーない
	②[仕方ない 甲斐がない 無益] ①辛い(つらい)こと 難儀なこと	せんない(詮無い)
	仕方なしに	しょーことなしに
	叱る(幼児語)	めーめーする(めーする)(めんめ) 【「番外:幼児語」も参照】
	②叱る 怒る ③騒ぐ ①増える	おごる
	①叱る やかましく言う ②おちよくる 馬鹿にする 嘲弄する ③邪険に扱う 手ひどく扱う	ちやなぐる
	①叱ること 怒ること ②わがママを言うこと ぐずつくこと (子供が)(一般的に「ねくじ」)	くじをくる (くじゅーくる)(くじょーくる)
	叱ること(ひどく叱る)	おおくじをくる(おーくじゅーくる)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	しきみ (植物)	①しきび ②はなしば
	頻りに(しきりに)	ひんずに(頻ずに)
	しきりに～する 物に熱中する様	～すえる
	④資金や物を活用しない ①寝かせる ②斜めにする 横にする ③発酵させる	ねさす(ねかす)
	敷く	ひく
	しぐさ 振る舞い 所作(しよさ)のこと	しよしゃ(所作)
	～しくて	～しゅーて
	～しくない	～しゅーない
	茂る はびこる	しこる
	時候 気候	かんやい(寒合) (かんやえ) (かんや)
	しこたま 沢山	しこったま
	仕事がかどる	はかがいく
	仕事の遅い人	とろさく
	②仕事の質、量が相当、適当 ①似合っている	におーちよる(によおーちよる)
	仕事の手助けをし合うこと	てまがえ(てまがえー)
	②静かにしておく ①正座をする	おぎょうぎをする(お行儀をする)
	静かになる	おろーなる(おろになる)
	～した ～している	～しとる
	～(し)たい	～(し)たー(～(し)てー)
	～(し)たくない	～(し)とーない
	～(し)たくなる	～(し)とーなる
	～(し)たくもない	～(し)とーもない
	親(した)しい	ひたしい(親しい)
	下の階のこと 足元	したじ(下地)
	②じたばたする もがく ①寝相が悪くて動くこと	あがく(足掻く)
	しち面倒な すごく面倒な	ひちめんどうな
	質屋	ひちや(質屋)
	支柱	おろ
	①七輪(しちりん) ②コンロ	ひちりん
	①しっかり者 ②はきはきしている人 さっぱりとした人	しゃんとこべー(しゃんとき)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	③しつこい ①厄介で難しいこと 厳しい 困難 ②気難しい 融通がきかない	やねこい
	湿疹 じんましん	ほろせ
	知った振りをする 知った風をする	しったげにする(知った気にする)
	③湿地 ①地面 地べた ②水が入った田 泥田	どべた
	②実直な ③けち ①儉約するさま	じまたい(じまたえ)
	じっとする 静かにする	ちょうどする(丁度する) (ちょーどする)(ちょーどせる)
	①失敗した ②仕舞った 終り	しもーた
	②失敗して気分が悪い感じ ①気持ちの悪い感じ	きやいがわるい(きあいがわるい)
	①失敗する ②身体を壊す 健康をそこなう	しまう(仕舞う)
	①失敗する ②困らかす	しまわかす(しまーかす)(しまくらかす)
	②失敗する 落とす 壊す(幼児語) ①やれやれ(失敗した時)	やーや【「番外:幼児語」も参照】
	失礼致します(別れる時の挨拶)	ごぶれいします(ご無礼します)
	～してあげる ～したげる	①～ちゃげる ②～しゃげる
	していない する訳ない しはしない	しゃーせん(しゃーせん)
	～していなさい	～しとりんさい
	～(して)いる	おりやーる
	～している ～される	～さいる(～さえる)
	「～している」と「～した、～している」 (進行中と動作終了・存続・状態)	「～しよる」と「～しとる」
	「～している」と「～した、～している」 (進行・習慣と完了・存続・状態)	「～よる」と「～ちよる」
	～しているよ	～ちよらー
	～していれば ～したなら	～ちよりやー
	①～しておいた方がよい ②～しておきなさい	①～ちよき ②～とき
	②～しておきなさい ①～しておいた方がよい	①～ちよき ②～とき
	～(して)差し上げなさい (～(して)やりなさい)	～(して)あげんさい (～(して)やりんさい)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	～(して)しまった	～(して)しも一た
	～してねえ ～したりして	～から
	～してはいけない	～さんな
	してはいけない するな	しいさんな(しーさんな)
	～してはいけない ～するな	～すな
	①してはいけない ダメだ ②行かない	いかん
	①してはいけない ②行かれない	いけん
	～しても	～たっち
	③～してやった ～してあった ①～だった ②～なされた ～なさった	～じゃった
	②～してやった ～してあった ①～なされた ～なさった	①～ちゃった(～ちゃーた) ②～しゃった
	しどろ もどろ 言い淀む様	へどろ もどろ
	②～しない ①～しないだろう	～すまー(～すまゑ)
	～しない ～しまい	～せまい(～せまー)
	～(し)ないか	～んか
	②～しないか ～しろ(命令) ①～しよう(勧誘)	～せんかい
	しないぞ	せんど
	①～しないだろう ②～しない	～すまー(～すまゑ)
	～しないで	～せーで
	①～しないで ②～しないと	～せんと
	しないで するなよ	すんないやー
	～しないで ～せずに	～せんこーに(～せんこー)
	～(し)ないで ～(せ)ずに	～んこー(～んこーに)
	①～(し)ないで ～(せ)ずに ②～(し)なければ ～(し)ないと	～んと
	①～しないと(だめ) ②～には	～にやー
	②～しないと ①～しないで	～せんと
	～しないと ～しなれば	～んにやー
	しない方が良い	せんほーがええ
	～しない方が良い	～んとき
	～しないまま ～せずに	～んづく(～んづく)
	しないままに	せんづくに

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	しないように	せんこと
	～(し)なかった	①～だった ②～んじゃった(～だった)(～んかった)
	～しなくてはいけない	～せんにやーいけん
	～(し)なくても	～(せ)んでも(～(せ)いでも) (～(せ)ーでも)
	～しなくても良い	～へーでもええ
	②～(し)なければ ～(し)ないと ①～(し)ないで ～(せ)ずに	～んと
	しなさい	①しーさい(しーさん) ②しんしゃい ③やんない(やりまえ)
	～しなさい	①～さい ②～さん ③～しない
	～しなさる	～やーる(～やる)
	～し難(にく)い	～ぬくい
	四の五の つべこべ	へのこの(へのこの)
	芝生(植物)	けば
	縛る 結ぶ	①いわえる ②きびる
	渋々 いやいやながら	しぶりこぶり
	自分	おんま(おまー)
	①自分 自分自身 ②お前 あんた ③各自 おのおの	めんめ
	②自分に都合よくする ①[何とか都合つける]	さしくる(差し繰る)
	自分の家 私の家	①うちかた(うちがた) ②わしかた(おれかた)
	③自分の家 ①私(女性が使用) ②自分の家庭・家族	①うち ②番外の「家(『いえ』と『うち』の 使い分け)」
	②自分の家庭・家族 ③自分の家 ①私(女性が使用)	①うち ②番外の「家(『いえ』と『うち』の 使い分け)」
	四方八方	まっぼう
	仕舞う 片付ける	しもう
	「～(し)ましょう」の丁寧な言い方	～(し)まひょーや
	①しまった ②痛い	あいたっ(あいたー)
	②仕舞った 終り ①失敗した	しもーた
	～(して)しまった	～(して)しもーた
	②しまったなー ①きたないなあ	えー えっ(えーえ)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①閉まっている ②渋滞している ③積んでいる	つんだる(つんじよる)
	締りのない人	ぐんだらべー
	自慢をする人	じまんし
	しみこんでいる	しゅんじよる
	しみる(染みる、滲みる、沁みる)こと	しむ(しゅむ)(しゅみる)
	②沁みること ①鼻をかむこと	しゅむ
	①締め括りのつかない人 ②戸を閉めない人	しりぬけ(尻抜け)
	閉める(戸や障子)	たてる(立てる、閉てる)
	閉める(蓋を) 覆う(布などで)	おう(覆ふ)(被う)(蓋う)
	②閉める ③挟む ①痛む 胃が痛むこと	つめる
	湿る(しめる) 湿気る(しける)	しとる(湿る)
	地面	①じべた(地べた) ②どべた ③もと
	①地面 地べた ②水が入った田 泥田 ③湿地	どべた
	地元	じげ(地下)(治下)
	霜焼け	かんばれ(寒腫れ)、かんやけ(寒焼け)
	じゃがいも 馬鈴薯(芋)	きんかいも(金柑芋)
	②しゃがみ込む ①うつむく	くずぬく
	①[しゃがむ] ②[うつむく] ③隠れる ④閉じこもる	かごむ(屈む)
	しゃがんでみる 屈(かが)み込む	かごーでみる
	③邪険に扱う 手ひどく扱う ①叱る やかましく言う ②おちよくる 馬鹿にする 嘲弄する	ちやなぐる
	借金 借りること	かつちん
	遮二無二 無茶苦茶に 無理矢理に	どうのこうなあない(どーのこーのなえー) (どーこーはない)
	②遮二無二 いつも ③どんなにも こんなにも どうにもこうにも ①どうと言うことはない 大丈夫だ	どうちゅーこたーない
	じゃのひげ(蛇の鬚) その実(植物)	①じゅうだま ②りゅうのひげ
	シャベル(ショベル) 【関東ではスコップ】	シャベル(ショベル)
	斜面の一番下の田畑	しりのまち(こじりのまち)
	①じゃれる 戯れる ②通り雨が降る	そばえる(戯える)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	じゃれる ふざける	すばえる
	じゃれる はしゃぐ ふざける	つばえる
	しゃんとしている しっかりしていて気が利く 素早くやる 能率がよい	しゃんしゃん
	②渋滞している ③積んでいる ①閉まっている	つんどる(つんじよる)
	執念深い しつこい ねちっこい	ねしこい
	②執念深い しつこい ①熱心だ 根気強い 丁寧な 念入りな	ねつい(ねつーい)
	②十分 ①良い いい	ええ(えー)
	②[修理する 修正する] ①片付ける 仕舞う	なおす
	熟柿(果物)	ずくし(じくし)
	熟して割れること(果物等)	はちわれる
	②出席する ①差し出すこと 渡すこと	のどける(のぞける)
	首都圏	かみのほう(上の方)
	春菊(野菜)	ろーま
	①準備 用意 ②ご馳走(お客を呼んだ時)	しかまえ(仕構)
	春蘭(植物)	ほーくりぼーず
	背負子(しょいこ)	おいこ(負子)
	～しよう	①～しょー ②～ひょう(～ひょー)
	①～しよう(勧誘) ②～しないか ～しろ(命令)	～せんかい
	～しよう(～しょう)	～ひょう(～ひょー)
	上手にはならない 役に立たない	ことんならん(ことにやーならん)
	状態が良いようにする (果物の皮を剥くなど)(幼児語)	やーやーする 【「番外:幼児語」も参照】
	②冗談 ③嘲笑 ①無茶苦茶	わやくう(わやく)
	①小便をしたくなる ②道草をしたくなる	こようがつかえる(小用が支える)
	小便をする	ばる
	小便をする(幼児語)	しいをする(尿をする)(しーをする) (しーする)【「番外:幼児語」も参照】
	醤油仕立ての汁物料理	けんちよー(けんちん)(けんてん) (けんちんじる)(けんちん汁)
	少量	べくさ(べそ)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	食事そのもののこと	ごぜん(御膳)
	食事時	おじぶん(御時分)
	食事時ですか	ごじぶんですか
	食事 また、その準備	たべごと
	①処置 始末 手入れ 下拵え ②懲(こ)らしめ	しごーする(しごをする)(しごーせる)
	食器棚(網張り)	はいらず(はいちよう)(へーらず)
	背負(しょ)っている 自惚れている	しょっちよる
	②処分する(物や家を) ①畳む	たとむ
	知らない振りをする 関心は無いように装う	ねるける(ねりける)
	尻	つべ
	尻尾 魚の尾ひれ	おばち(おっぱち)
	①尻を出している状態 ②ぼんやり 抜けている人	ぬけ
	退く 後ろに下がる	しーろく
	～しろ	～せー
	じわじわ ゆっくり じわりじわり	じわっこ じわっこ
	しわだらけ	しわもぶれ
	芯が残っているご飯 上手に炊けなかったご飯	①ごち ②ごっちゃん ③なかごめ(中米)
	新築披露	いえみせ(家見せ)
	浸透させる 浸(ひた)す	します(しゅます)
	振動させる	おずく(おづく)
	②新入社員 新人 ①雀の子(鳥)	どびんご
	心配や苦勞をかけること	きもをやく(きもーやく)
	①心配をさせること その人や物 ②子供が病弱で親が心配	きもやき
	人糞肥料	だる
	親友 仲良し	①ちんぐー ②へこかえ
す		
	①透(す)いている 隙間がある ②好きになっている	すいちよる
	すいば(酸葉)の茎(植物)	じんとう
	①ずいぶん たいそう 意外に 案外 ②沢山(たくさん)	ごっぼう

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	末っ子	おとんぼ
	好き（幼児語）	しゅき(ちゅき)【「番外:幼児語」も参照】
	②好きになっている ①透(す)いている 隙間がある	すいちよる
	すぐそば すぐ横 きわ	まへり
	少ない ちょっと物足りない	けだらん
	①すぐにバテてしまう人 その様子 ②良く働くこと(朝早くから)→伊陸で	いかちうま(伊陸馬)
	スゲ笠(竹の皮で作る)	たこのばち
	すごく(強意の接頭語)	つち
	①すごく ②沢山	さで(さぜ)
	すごく 超	ばり
	すごく とても	どうし(どよおし)(どひょうし)
	①すごく とても [②鞭の音便 ③淵 ④まだら]	ぶち【「番外:『ぶち』の付録」も参照】
	すごく やたらに まったく	とり
	少し ちょっと	①ちいと(ちーと) ②ちびっと ③ちよっくら ④ちよっくし(ちっくし) ⑤ちよびっと(ちよぼっと)
	少し ちょっと ほんの少し	ちいちっと(ちーちっと)(ちちっと)
	少し当たって動かない状態	せる(競る)(迫る)
	少ししか	なにかし
	「少し足りない」の意	たりくさい(足り臭い)
	少しは 多少は 幾分かは	だいしょう(だえーしょー)(だえーしょ)
	少しは ちょっとは	ちいたあ(ちいたー)(ちーたー)
	少しばかり ちょっとばっかし	ちいとべくそ(ちーとべくそ)(ちーとべくさ)
	①少しも 一向に ②全く ほんとに ③いつも すでに ④[思い切って]	いっそ(いっそー)
	少しも ちっとも 全く	①いっこも ②ひとつも
	スコップ 移植ゴテ 【関東ではシャベル、ショベル】	スコップ
	①筋張って硬い ②角々しい 性格が強い きつい	きすい
	①雀の子(鳥) ②新入社員 新人	どびんご
	～ずつ	①～ずた ②～つた ③～わて

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①頭痛がしてすっきりしない ②頭が痛い状態(物事が進まないの)	のーが悪い(のーがわりー)
	すっきりする さっぱりする	しゃんとする(しゃんとせる)
	ずっと前に 遠い昔に 早くに とつくに	とーに(とーから)(とーの昔から)
	酸っぱいこと	すいい
	①捨てる ②落とす 紛失する なくす	①してる ②ひてる
	②捨てる 投げ捨てる 仕事を放り出す ③放置する ①投げる	①ほーかる(ほーくる) ②ほーくりなげる(ほーたりなげる) ③ほーたる
	捨てること(思いっきり、全て)	とりすてる(とりしてる)
	捨てるの強調 投げ捨てること	さでしてる
	①捨てるの強調 ②見捨てる 見放す	ちやなぐりすてる
	すなめり(砂滑) 小さい鯨類(哺乳類)	でごん
	図に乗ること	ずにあがる(頭に上がる)
	①すねる ②立腹する ぶすつとしたさま	ぶすける
	すねる ぐずぐず言う むずかる	すくねる(ずくねる)
	拗ねる(すねる) 膨れる(ふくれる) 剥れる(むくれる)	①はぶてる(はぶをつる)(はぶーつる) ②ぶーをつる(ぶーつる)
	すばしこい	すばしい
	①すばしこい 敏捷な ②目先が聞く 悪賢い 抜け目がない	ちゃりこい(ちょろこい)
	③すばしこい 機敏な 抜け目がない ①痛がゆい むずがゆい ②とげとげしい 気が短い	はしかいー(はしかいいい)
	①素早い すばしこい やることが早い ②抜け目がない 悪賢い ずる賢い	すどい
	②素晴らしい ③気が利く ④役に立つ ①能率がよい	もとーる
	隅	すま
	済みません	すまん(すいません)
	②済みません ①ご無沙汰しております	ごぶれいしました(ご無礼しました)
	②済みません 申し訳ない ①悪い	わりー
	スモモ(植物)	はらんきょう(はらんきょ)
	播粉木(すりこぎ)	れんぎ(連木・播木)(れんげ)
	する(為る)	せる(為る)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①する「せる」の訛り ②「放(ひ)る」の転	へる
	②ずるい ①汚い	きしゃない(きちゃんない)
	ずるいことやだますこと また、その人	やし
	②ずる賢い とげのある人 ①賢い	えずい
	することが難しい やりにくい	しにくい(為難い)
	するな してはいけない	しいさんな(しーさんな)
	～するな ～してはいけない	～すな
	するなよ しないで	すんないやー
	～(する)んだぞ ～(する)のだぞ	～んど(～んで)
	座る(幼児語)	①ちゃんこ【「番外:幼児語」も参照】 ②とんち【「番外:幼児語」も参照】
	①座る ②落ちる 転ぶ(幼児語)	とんする【「番外:幼児語」も参照】
せ		
	②[精 力] ①張り合い やり甲斐	せー せーがええ せーがおちた せーがない せーをつけんにやー せーがでますね
	製材すること	わく(分)
	正座する	かしこまる(畏まる)
	①正座をする ②静かにしておく	おぎょうぎをする(お行儀をする)
	①性質が良い ②根気強い 忍耐力が強い	しょうがええ
	背(せい)のこと	せー
	③[勢力の伸張] ①なぐり倒す ②[伸ばす]	のす(伸す)
	背負いこむこと 背負いあげること	ひっかるう
	①背負う ②負担する	かるう(かるー)
	せかせかしている 急いでいて余裕がない	せせかましい
	せかせかしている 忙しい 気忙しい	せからしい
	せきたてる せかす しきりに促す	せくる(せくらかす)
	①せきたてる ②からかう(子供を)	せつく
	③せき立てる ①文句を言う ②騒ぐ	やーやー(やあやあ) (やあこらやあこら)言う
	石炭	ごへーだ(五平太)(ごへいだ)
	せき止めること(水を)	せく(塞く)(堰く)
	咳をする	①こつる ②せく(咳く)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	背中	せな
	背中を流すこと	せなをする(背中をする)
	銭 お金 (幼児語)	でんで(でんでえー)(ぜんぜえー) 【「番外:幼児語」も参照】
	銭 お金 料金	でに(銭)
	～せば ～れば(仮定形)	～しゃー(～りゃー)
	狭い	せばい
	狭い道で車がすれ違うこと	りごう(離合)
	「せめて～なりとも」「せめて～ぐらい」 「～でも」「～なりと」の意	～ないと(～なえーと)
	背も高く、体つきも良い	たてよこたろうちよる
	～(か)せる ～(か)させる	～(か)す(～(か)さす)
	ゼロ(零)	でろ(零)
	せわしく動く	そーそーする
	全域 くまなく(隈無く) そこら一面	らくちゅー(洛中)
	鮮魚 活きの良い魚 (魚)	①びた(びと) ②びとびと(びと)(びた)(びたびた) ③ぶえん(無塩)
	全然 全く	①かいさら(かいさ) ②ちゅうかい ③ちゅうにちゅうかい ④てんくら ⑤でんでん
	③全然 まったく めったに ④意外に ①とても 甚だ ②とうとう	ちゅうに(ちゅーに)
	全部	まるっと
	全部 丸ごと全部	まるた(丸太)(まるたま)(まるったま)
	全部(その人の) 虚飾の無い実力	ありみしょうみ(有身正身)
	千里眼 良く分かっている	みぬきみどおし(見抜き見通し)
そ		
	～ぞ	～ど
	～ぞ ～よ (強調・断定と勧誘の意)	～で(～でね)(～での)(～でよ)
	①そいつ達 ②そいつ達は そいつ達を	そんならー(こんならー) (あんならー)(どんならー)
	②そいつ達は そいつ達を ①そいつ達	そんならー(こんならー) (あんならー)(どんならー)
	そういえば	そりゃーそうと

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	葬式	①うれい(うれえ) ②たちば(立ち場) ③とうふ(豆腐)
	そうそう(然う然う)	それぞれ(然れ然れ)
	①騒々しい うるさい ②面倒 煩わしい ③うるさい性格 ④忙しい 多忙	しろおいしい(しろーしい)
	②騒々しい やかましい ①面倒くさい 煩わしい	めんどうしい
	曾祖父、曾祖母、ひ孫	ひゅーじい、ひゅーばあ、 ひゅーまご(ひいじい等)
	早朝	あさつぱち(あさつぱちら)
	そうですか	ほーでえ
	そうなのか そうなの そうかい	①それかね(それかー) ②ほれかね(ほーかね)(ほーかのー)
	「そうなんです 分かってもらえましたか」 の意	ですいね
	そうなんですか	それですか
	そうなんですよ	それですいね(そーですいね)
	聡明 利口 器用 賢い	はつめい(発明)
	①聡明な ②髪が少ない	あたまがすずしい(頭が涼しい)
	素麺を流しながら食べること	そーめんながし(素麺流し) 【「番外:東西の違い」も参照】
	そうよ	ほーよ
	そうよね	それいね(その1:それ)
	僧侶	おてらさん(お寺さん)
	草履	じょーり(じょうり)
	そーだねー	さあーらのー(さあーりゃのー)
	粗雑な様 大雑把	あらましい
	②粗雑な様 ①乱暴な様	あらかましい
	そっくり 似ていること よく似ている	まっつい(真対)
	即刻 取るものも取りあえず 早々と	おそはよう(遅早よう) (おそーはよー)(はよーおそー)
	そと(外) 家の前の庭	ほか(外)
	外へ よそへ (幼児語)	よんよん【「番外:幼児語」も参照】
	その通り	そりゃーそれ
	その通りに	そんとーりに
	その時	①そんなとき ②ほんとき

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	そのところ その点	そんところ
	その場の役に立たない	まひょうしにあわん (まにもひょうしにもあわん)
	そのよう そのようなもの その通り	そんとー
	そのような そんな	そんとな(そねーな)
	側 際 脇 横	ねき
	②側(そば) 横 脇 ①[端(はし) ふち きわ]	へり(縁)
	そらまめ(空豆) (野菜)	そらず
	①そらまめ(空豆) (野菜) ②いんげんまめ(隠元豆) (野菜)	とうまめ(唐豆) (とーまめ)
	②それ ①仲間(完成品) 同志 一緒	そ
	②それ ①本当に	ほん
	それから	①へーから(へえから) ②へてから ③ほいから(ほいでから) ④ほれから
	それから そして 最後に	ほいで(ほんで)
	それこそ	そりゃーなにーいや(いね) (いの)
	それだから	ほいじゃなー(そいじゃなー)
	それだけか「ただそれだけ」の意	それべくさ(それべくそ) (それっぽっち) (それっぽち)
	それだよ そうなのよ その通り	それっちゃー(それっちゃ)
	それっきり	それぎり
	それで	①そいで ②そんで ③ほんで(ほいで)
	それでは それじゃー	①へじゃー(そいじゃー) ②ほいじゃー(ほんじゃー)
	それでは ～では	じゃあ(～じゃあ)
	それでも	①せーでも ②へーでも ③ほいでも(ほんでも)
	それなら	①そったら ②そんなら ③へたら(へーたら) ④ほいなら(ほんなら) ⑤ほったら(ほいたら) (ほしたら) (ほたら) ⑥ほんだら(ほんなら) ⑦んなら
	①それなら ②さようなら	へえなら(へーなら)
	それは	ほりゃー
	それみたことか	ほらミー(ほらミーや) (ほーらみいや)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	それ見よ	ほーりゃ
	それみろ それみなさい	①そらみー(そらみーや) ②それみー(それみーや)
	それよ その通りよ	ほれいや(ほれちゃーや)
	それより多い	それたーゆわんある
	揃い 同じもの 一對	つい(対)
	そろりと ひそかに	①こそと ②そろと(そろーと) ③のそと
	そんな そのような	そがあな(そがいな)
	そんなに	そねーに(そんとに)
	そんなに 沢山	ほがいに(ほがな) (ほがあな)
た		
	「～だ」「～でしょう」「～になった」等	～な
	①～だ ②～でしょう	～じゃ
	～(し)たい	～(し)たー(～(し)てー)
	大概にしろよ いい加減にしろよ	てーげーにせーよ (たえーがえーにせーよ)
	①体格が良い ②外観が良い 見かけが良い	たっぱいがええ(たっぱえーがえー)
	退屈なこと	しんきな
	①対抗する 反抗する ②からかう	せがう(せごう)
	太鼓腹	どんばら
	大根おろし おろし金	だいこんすり(大根摺り)
	②大根(だいこん) (野菜) ①もともと 元来 おおもと 根本	おーね(大根)
	大したことはない どうってことない 心配ご無用	めっきはない (めっきゃーない)
	①大失敗 大失策 ②大出費	おーめげ
	①大丈夫 心配ない 差支えない ②容易だ 簡単だ	せわーない(世話は無い)
	②大丈夫 ①仕方ない 仕様ない	しゃーない
	大丈夫 何ともない へっちゃら	へでもない(屁でもない) (へともなー) (へもそうろう)
	②大出費 ①大失敗 大失策	おーめげ
	大豆 (野菜)	あぜまめ(あでまめ)
	大胆な 横着な	おおどうな

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	台所	だいどこ
	②台無し(だいなし) めちゃくちゃ だめ ①無茶 無理 筋が通らないこと	わや
	大八車 荷車	しゃりき(車力)
	堆肥	ねせごえ
	大分(だいぶ、だいぶん) かなり	だいめん(だえーめん)
	大分(だいぶん) しばらく 長時間	たいさま(たえーさま)
	①大分(だいぶん) すこぶる 長時間 ②たまたま 折よく	たっさま
	①大変 非常に ②沢山(たくさん)	ごつつう(ごつう)
	②大変びっくりする ①大間違い 心得違い	おおたまげ
	太陽 お天道様 (幼児語)	おひーさま(おひーさー) 【「番外:幼児語」も参照】
	平らであること 平べったい	へらべったい
	平(たい)らな 平(ひら)たい	ひらべたい
	平らなさま 平坦なさま	ろくい(ろく)(陸)
	①平らにする ②あぐらをかく	ろくうにする(ろくにする)
	田植え後の休日 また、その祝い	①うえみて(植え満て) ②しろみて(代満て) ③どろおとし(泥落とし)
	耐えきれないこと	しびらかす
	②[耐える] ①許す	こらえる(こらえーる)
	①倒す ②こぼす(こぼれる) ③孵(かえ)す	かやす(かやる)(かやれる)
	～だが 然し	じゃが(～じゃが)(じゃがの一)
	高く抱き上げる その時の掛け声(幼児語)	たかたか【「番外:幼児語」も参照】
	タカハヤ (魚)	どろばえ(どろんばえ)
	～だから	①じゃけえ(じゃから)(じゃけい)(じゃけん) ②ほじゃから(ほんじゃから)(ほいじゃけえ)
	～だから ～から ～故に	～からに
	①～だから ～なので ②～ね ～かね	～けえ(～けー)(～けん)
	焚き木	たけぎ
	焚き木 割り木	わるき
	沢庵漬け	こうこ(こうこう)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	沢山	①えーと(えっと)(ええと) ②おいー ③じょーに ④どさな
	②沢山(たくさん) ①量 嵩(かさ)	そけ(そけー)(そけら)
	①沢山 ②余計 一層(いっそう)	ようけ(余計)(よーけ)(よけえー)
	沢山 がっぱり	ごっぱり(ごっぱし)
	②沢山(たくさん) ①ずいぶん たいそう 意外に 案外	ごっぼう
	②沢山 ①すごく	さで(さぜ)
	③沢山 ①大きい 太い ②粗い(目が)	いかい(いかえー)
	②沢山(たくさん) ①大変 非常に	ごつつう(ごつつ)
	沢山な 非常な(沢山に 非常に)	ごんごな(ごんごに)
	①沢山に どこにでも とっても ②急いで すぐに	やれに
	①沢山の人から求められ、欲しがられる さま 非常に評判の良いこと ②混み合うさま 人が多いさま	せんごーまんごー(せんごまんご) (せんぎーまんぎー)
	～(し)たくない	～(し)とーない
	～(し)たくなる	～(し)とーなる
	～(し)たくもない	～(し)とーもない
	竹筒 筒	ぽんぽら(ぽんぷら)
	～だけ	～ほど(～程)
	だけど ですけど	じゃけど
	だけどねー (接続詞の「しかし」)	ほいじゃがのおー (ほいじゃがのー)(ほいじゃが)
	風(たこ)	よーず
	②助かります ③好都合であります ①ありがたい	しあわせます(幸せます) (仕合わせます)
	①尋ねる(たずねる) 探す ②訪問する	たんねる(たねる)
	～だそうだ	～じゃげな
	叩き(たたき)のめす ひどくやっつける	のしあげる
	①畳む ②処分する(物や家を)	たとむ
	②「～達」 ①～をよくする人	～し
	たちどころに 間もなく	じきのまに(直の間に)
	①[立つ](幼児語) ②さわる(幼児語)	たっちする【「番外:幼児語」も参照】

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①～だった ②～なされた ～なさった ③～してやった ～してあった	～じゃった
	①たった今 つい先ほど ②今に 近い将来	いまのこと(いまんこと) (いまんさき)(いまんがた)
	だっている 疲れが出る	だりが出る
	～立て(たて) ～してまもない	～だち(立ち)
	谷	えき(浴)
	ダニ(犬に付く)(虫)	やえ
	種(果物の)(植物)	さね(実)(核)
	～だねえ	～なにいの(～なにいや)
	頼んだ	たの一だ
	束ねる 手で束ねる (手で練る動作に似る)	てねる(手練る)
	度々	たんびに(たんびたんび)
	①旅の費用 ②無駄な費用	みちのこやし(みちのこえ)
	食べかけ 食べ残し	くいさし(くいさし)(食いさし)
	食べ応えがある	くいどがする
	食べ残し	わけ(分)
	食べ残すこと よく食べ残しをする人	ねこわけ
	だます 欺く	だまくらかす(騙くらかす)
	②たまたま 折よく ①大分(だいぶん) すこぶる 長時間	たっさま
	たまには	たまにゃー
	たまらない 困った もたない 我慢できない	やれん
	①だめだ いけない ②[役に立たない くだらない]	つまらん(つあーらん)
	保てない 堪えられない たまらない	もてん
	保てる 保存できる 耐久性がある	もてる
	たやすい 容易だ	わきゃーない(訳はない)
	たやすい 容易なこと	みやすい
	～たよ	～たい
	～たよ ～たぞ	～たーね(～たーの)(～たーや)
	～だよ ～よ	～だい
	だらしない ずぼらなこと	①ずーたらべー ②ずへえな

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	③だらしない人 自堕落な人 怠け者 ①心配りのない人 気の利かない人 ②不始末な人 物事に対処できない人	いたんなし(いたりなし)
	①だらしく積み上げる ②[こねて固める]	つくねる
	垂らすこと	たらかす(垂らかす)
	だらだらするな でれっとするな	てれてれするな
	たらの木 (植物)	だらき(だら木)
	だるいこと	だらしい(だらシー)
	だるくなった	だった
	垂れている様子(液が)	よぼう(よぼー)
	~だろう	~ろー(~ろう)
	痰(たん)	たんけつ
	檀家を回って読経すること	たなぎょう
ち		
	①血 (幼児語) ②きれいな着物 (幼児語)	べんべ 【「番外:幼児語」も参照】
	②小さい ①可愛らしい	かいらしい
	①小さい 細い ②細かい ③けち 吝嗇	こまい(細い) (こまえー) (こみゃー) (こまー) (こめー)
	小さい鯨類 すなめり(砂滑) (哺乳類)	でごん
	小さいさめ(鮫) (魚)	もさ
	近頃	ちこう(ちこうきん) (ちこうきんらい)
	近頃 この頃 このところ	ちかしゅー
	①近頃 最近 このところ ②このところ(此の所) この場所	こんところ
	茅(ちがや)の穂の新芽 花穂 (植物)	①ずぼな ②つばな(茅花) (ずぼな) (ずぶな)
	ちくしょう ちきしょう	えー くそ
	①ちくちくする むずがゆくて、ちくちくする ②ちくちくする とげが刺さって、ちくちくする ③ちくちくする 虫に刺されて、痛痒い	じがじがする(じかじかする)
	ちぐはぐ	ちんぐうはんぐう(ちんぐーはんぐー)
	縮む	ちぢゅむ
	縮れ毛	ちぢゅうがみ
	地面	①じべた(地べた) ②どべた ③もと

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	地元	じげ(地下)(治下)
	茶のこうばしい香り	えんか(苑香)
	ちゃんちゃんこ	ちゃんちゃこ
	中古(ちゅうこ)	ちゅうぶる
	中止する 止める	みやわす
	中途退学	さがる
	②中途半端 する途中 やりかけ ①半煮え	にえくさし
	中途半端で完了していないことを表す	くさす
	中途半端なこと やり始めて途中で止めること	つつきくさし
	①[兆候を示す] ②雨が降りそうになる	もよーす(催す)
	長時間 約半日	はらはんやく
	調子に乗る	えーきになる
	③嘲笑 ①無茶苦茶 ②冗談	わやくう(わやく)
	頂上 一番上	①ずく(木菟)(ずくてん)(ずってん) ②てんかち(てんこつ)(天骨) ③てんば(天場) ④まっつじ(真辻)
	丁度 かつきり ちょつきり	ちょつきし
	嘲弄(ちょうろう) ばかにすること	おびく
	直接	じか(ぢか)(直)
	ちょっと 少し	①ちいと(ちーと) ②ちびっと ③ちょっころ ④ちょつくし(ちつくし) ⑤ちょびっと(ちょぼっと)
	ちょっと 少し ほんの少し	ちいちっと(ちーちっと)(ちちっと)
	ちょっとの間 ほんのわずかな間 あつと言う間	ちょろま(ちょろっとのま)
	ちょっとは 少しは	ちいたあ(ちいたー)(ちーたー)
	ちょっとばっかし 少しばかり	ちいとべくそ(ちーとべくそ)(ちーとべくさ)
	散らかしている状態(ひどく散らかす)	①つらけかやす(散らけ返す) ②とりちらかす (とっちらかす)(とつつらかす)
	散らかす	どばく(どばす)
	散らかる 散らける	つらかる(散らかる)(つらける)
つ		
	つい	ちい

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	ついで 都合の良い機会	びん(便)
	序(つい)でに(付け加え 無益な 臨時)	ひんず(ひんづ)
	疲れた だるい つらい 骨が折れる	えらい(えらえー)(えれえー)
	疲れた 閉口した	くたびらかした(くたぶらかした)
	①疲れた ②弱った 骨身にしみた (堪(こた)えた)	こたえかした(堪えかした)
	①疲れて筋肉が張ること ②腫物が膨れて痛むこと	おばる(うばる)
	疲れてだるい	こわえー(こわい)
	①疲れろ くたびれる ②ゆるむ たるむ ③抜ける(味や香り)	だる(疲る)(倦る)
	次々と 順次	はしから
	注ぐ(つぐ)	はえる(延)
	つぐむ(噤む)	つむぐ
	繕う(つくろう)	そくう(続う)
	浸けておく ひたす	かす(浸す)
	都合が悪い 具合が悪い 塩梅(あんばい)が悪い	ぐつが悪い(ぐつがわりー)
	都合が悪いこと 用事が重なること	つどう
	②都合よくする ごまかす ①[都合をつける くりあわせる]	さしくる(差し繰る)
	①[都合をつける くりあわせる] ②都合よくする ごまかす	さしくる(差し繰る)
	都合をつけること	さしくり
	都合悪く 折り悪く あいにく	まっさと
	土人形	でこ
	①つつく ②とがめる 修正する	こつく
	抓る(つねる)こと(ひどく)	ひねきる
	②抓(つね)ることに使う ①捻(ひね)ること	へねきる
	つば 唾液(だえき)	つず(つづ)
	椿の実(植物)	かたし(かたち)
	潰す	①ひしゃぐ ②へしゃぐ
	潰す 壊す	めしゃぐ
	①潰す 壊す 細かく潰す ②滅茶苦茶にする	みしゃぐ

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	潰れたりして 壊れる	めぐ(めげる)
	潰れる	①つぶける(潰ける) ②ひしゃげる ③へしゃげる
	潰れる 壊れる	①みしゃげる(みしゃぐる) ②めしゃげる
	つま先立ち	つめたか
	躓く(つまず)くこと	けつまずく(蹴躓く)
	②つまみ食い ①食いしん坊	ずいたれ(ずい) (ずいと) (ずいとう)
	つまらぬ 変な	へなげな
	つまらぬもの 価値の少ない物 粗品	やぶれもの
	旋毛(つむじ)	①ぎり ②まいまい(まえーまえー) (まいまいこ) ③じろまい(じなまい) (じのまい)
	冷たい	ひやい(ひやえー)
	冷たくなる 冷(さ)める 寒くなる	ひよーなる(ひよーなる)
	梅雨が明ける	つゆがあがる(梅雨が上がる)
	つゆくさ(露草) (植物)	いんきばな(いんき花) (いんきぐさ)
	①辛い(つらい)こと 難儀なこと ②[仕方ない 甲斐がない 無益]	せんない(詮無い)
	②辛くて ①連れだって	つろうて(つろーて)
	つらら	すまる(統まる)
	つるつるてん のっぺらぼう	ずんずらぼうず(ずんべらぼうず)
	連れ立って	つれようて
	①連れだって ②辛くて	つろうて(つろーて)
	③積んでいる ①閉まっている ②渋滞している	つんどる(つんじよる)
て		
	手遊びのこと 集中しないで手で何かをしていること	てわるさ(手悪さ)
	体裁(ていさい)が悪い みっともない	ふうがわるい(風が悪い)
	「～ておる」「～ておく」「～てやる」 「～てやれ」「～ておけ」	①「～ちよる」「～ちよく」「～ちやる」 「～ちやれ」「～ちよけ」 ②「～じよる」「～じよく」「～じやる」 「～じやれ」「～じよけ」 ③「～しよる」「～しよく」「～しやる」 「～しやれ」「～しよけ」
	手が回らない やりくりがつかない	まえん
	適温(風呂)	じょうかん(ええかん)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	適温(風呂、酒)	ええかん(えーかん)
	出来立て	できだち
	できない なし得ない	①えーせん ②ようせん(よーせん)
	②できの悪いもの へたなこと ①下品なこと 卑しいこと また、そのさま	げさく(下作)(戯作)
	出来物 吹き出物 おでき	できもん
	①できる 可能だ ②[行くことができる]	いける
	②できるか ③[行くことができるか] ①良くない 許されない いい訳がない	いけるか
	手際よく進める 処理する能力が高い	まえがきれる
	てこずる 困って四苦八苦している様子	あずる
	②てこ(梃子)で物を少し動かす ①くじく	こねる(捏ねる)
	②でしゃばり ①どこへでも顔を出す人 外を良く出歩く人	でべそ(出臍)
	～でしょう ～だろう	～じゃろう
	②～でしょう ①～だ	～じゃ
	「～ですか?」の省略形	～でえー
	～ですよ	～ですいね
	出たばっかし 出たばかり 出立て	でだち
	デッキブラシ	ぼうずり(棒摺り)
	手伝い	てご
	手長エビ(甲殻類)	てっかい
	手に余る 持て余す 手に負えない	てごにおえん (てこにあわん)(てこにいらぬ)
	手に負えない 管理できない	うでっこうにあわん(うでっこうにおえん)
	①手に負えない 始末に負えない ②油断がならない	しごにならん (しごんならん)(しごにおえん)
	～てねえ	～てから
	②～ては ③～と言えば ①～よ ～だ	～ちゃー(～ちゃ)
	～ではない	～じゃーない
	～ではなくて	～じゃーの一て(～じゃの一て)
	手袋を「する」 手袋を「はめる」こと	てぶくろをやる(手袋をやる)
	出不精者	みそおけ(味噌桶)
	手間が掛かる	てまをくう(手間をくう)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	手まり	てまる
	でも けれども しかし	へじゃけど
	でも しかし	へじゃが
	～でも ～なりと せめて～なりとも	～ないと(～なえーと)
	①照れ屋 引っ込み思案な人 恥ずかしがり屋 ②まぬけ 役に立たない人	てれさく(照れ作)
	手を上に伸ばして物を支える	さげる
	②手を加える 修繕する 手入れする ①いじる 触る 少し動かす	いらう(いろう)(弄う)(綺ふ)
	手をたたくこと(幼児語)	ちょーち ちょーち【「番外:幼児語」も参照】
	手を握ったり開いたりするしづさ(幼児語)	かお かお【「番外:幼児語」も参照】
	②転嫁する ①こすりながら拭く なすり付ける	①なすくる(なすぐる) ②ぬすくる(ぬすぐる)
	でんぐりがえり とんぼ返り 逆さまに返る	つんべんかやり
	店主 親方 おやじ ご亭主	たいしよー
	天秤棒	おーこ
	③[てんやわんや] ①急ぐこと ②うろたえること	やつさ もっさ
と		
	～と言う	①～ちゅう(～ちゅー) ②～つー(～つう)
	～と言うこと	～て(～てー)
	～と言うことだ ～だって ～そうだ	～んて(～んって)
	～と言うのに	～ちゅうのに(～ちゅうに)
	「～と言うのに、うるさいねえ」の感じ	～ちゃいや
	～と言うよ ～と言ってるよ	～ちゅわー(～つわー)
	～と言え	～ちゅえ(～つえ)
	③～と言えば ①～よ ～だ ②～ては	～ちゃー(～ちゃ)
	「～と言っても」の意	～ちゅうても
	どう	どげん(どねん)(どがん)
	②どう どのように ①どのよう どんな	①どがい(こがい)(そがい)(あがい) ②どない(こない)(そない)(あない) ③どねー(こねー)(そねー)(あねー)
	どういたしまして	あねーなことを
	峠	たお(峠)(峠)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②同行 同伴 同道 ①友達 仲が良い	どーしん
	東西の違い	【「番外：東西の違い」参照】
	どうしたの	どしたん(どーしたん)
	どうしよう	どねーしょう(どねーしょー)
	「どうしようかしら」より もっと切迫している時に発する言葉	どうしようかしらん(どねーしょかしらん)
	遠出 遠出して遊びまわること	たかあるき
	どうですか	どねえかね
	どうと言うことはない 大したことではない	どってこたーない(どおってこたーない)
	①どうと言うことはない 大丈夫だ ②遮二無二 いつも ③どんなにも こんなにも どうにもこうにも	どうちゅーこたーない
	どうと言うのか 何を言いたいのか	どうちゅーんか (どうちゅーんかい)(・・かいや)
	③とうとう ついに ①全く 本当に ②とても 非常に	よいよ(よんよ)
	②とうとう ③全然 まったく めったに ④意外に ①とても 甚だ	ちゅうに(ちゅーに)
	どうにか 何とか	どねーか(どねーにか)
	どうにか こうにか	①どねーか こねーか ②どねこね(どねえーこねえー)
	どうにもこうにもならない	どもならん(どーもならん)
	②どうにもこうにもならない ①鬱陶しい 煩わしい 面倒くさい うるさい	うずろうしい
	どうにもならない	こうばいはねた
	①どうにもならない者 ②役に立たない品物のこと	ほぼくれもん
	どうも こうも	どがーも こがーも
	どうもない	どがーもない(どげーもない)
	とうもろこし(玉蜀黍)(穀物)	①とうきび(とーきび) ②なんまん(なんまんきび) ③まんまんきび(ままんきび)
	遠くて	とゆーて(とよーて)
	～と思う	～ともう(～ともー)
	通り雨 村時雨 時雨 夕立 驟雨	そばえ(すばえ)
	②通り雨が降る ①じゃれる 戯れる	そばえる(戯える)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	～通りに ～そのままに	～とーに(～とうに)
	～とか	～たら
	～とか ～か	～やら
	②とがめる 修正する ①つつく	こつく
	尖らす(とがらす) 尖らせる	①とぎらす(とぎらかす) ②とんぎらかす(とんぎらす)
	尖る(とがる)	とぎる(とんぎる)
	尖る(とがる) とんがる	とんぎる(とぎる)
	時々	まんが(まんがに)
	②得意がる ①興奮状態 調子に乗って騒いでいる状態	きなる(気成る)
	独身者(男性に使う)	チョンガー
	独占したがること(相手を押しのけて)	①せばる ②やばる
	トゲ 毬(いが)	いがいが(いが)
	②トゲ いばら ①小骨(魚の)	いぎ
	②とげとげしい 気が短い ③すばしこい 機敏な 抜け目がない ①痛がゆい むずがゆい	はしかいー(はしかいい)
	小刺(とげ)のこと ただし、小さい刺	すいばり
	何処と言うことなしに ところ構わずに	どこたあない(どこたあなあ) (どこちゅうこたあない)
	何処と言っても	どこじゃし
	①どこへでも顔を出す人 外を良く出歩く人 ②でしゃばり	でべそ(出臍)
	～とさ ～ということだ ～だそうだ	～といや(～といの)(～とー)
	鶏冠(とさか)	えぼし(烏帽子)
	④閉じこもる ①[しゃがむ] ②[うつむく] ③隠れる	かごむ(屈む)
	徳利	とく
	①取っておく ②[取り除いておく]	のけとく
	とつても すごく	えらい(えろう)(えらえー)(えれえー)
	「突拍子もない」と同じ とんでもない	どひょーしもない
	～とて ～としても	～といて
	とてつもない 大層 とても 途方もない	こくうもない
	とても 非常に	めっちゃ
	とても (幼児語)	ばくちん【「番外:幼児語」も参照】

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①とても 甚だ ②とうとう ③全然 まったく めったに ④意外に	ちゅうに(ちゅーに)
	②とても 非常に ③とうとう ついに ①全く 本当に	よいよ(よんよ)
	届かない(手や足が)	①たわん ②とわん
	届く(手や足が)	①たう ②とう
	①どのような ②どう どのように	①どがい(こがい) (そがい) (あがい) ②どない(こない) (そない) (あない) ③どねー(こねー) (そねー) (あねー)
	どのような	どねーな
	②～とは ①～より(比較)	～たあ(～たー)
	とばす(飛ばす)	とばかす(とばくらかす)
	とびとび(飛び飛び) 点々と	とんびとんび
	どぶろく(濁酒)	どぶざけ(濁酒)
	②どべ ①残飯	あだぶ(あざぶ)
	土堀(上に瓦)	ねりへい
	とぼけ者のこと ぼんやりした人	とぼけ
	土間	にわ(庭)
	トマト (野菜)	とうなす(唐茄子) (とーなす)
	～とも ～とは	～どて
	友達 連れ 仲間	とぎ(伽)
	①友達 仲が良い ②同行 同伴 同道	どーしん
	取り合い 取り合いを	とりがー
	取り合いっこ	とりやいっこ
	取り替えっこ	とりかえごう
	取り掛かり 手始め 最初の時	かかり(掛かり)
	取り締まり 監督	みかじめ
	①[取り立てて言うことはない 何と言うことはない] ②嘘だった 困ったことに 参ったよ	なんちゅーこたーない (なんつーこたーない)
	①[取り立てて言うほどのことではない] ②元も子もない 台無しだ 無意味 無駄 ③嘘だった 困ったことに 参ったよ	なんでもないこと (なんでもなえーこと)
	②とりとめのないこと あれこれまとまらず物事が進まない様子 ①何もせずにぶらぶらとしている様子	①てれーぐれー(てれんぐれん) ②てれんこぼれんこ (てれんこぼれんこ) (てれんぱれん)
	②[取り除いておく] ①取っておく	のけとく

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	取り始める	とりはなえる
	取れる 外れる	もげる(掬げる)
	泥が深くて良い田	どふけだ
	泥跳ね	あとばね
	泥棒 盗人	ぬすつとー(ぬひと)
	泥まみれ	どろもぶれ(どろまぶれ)
	②戸を閉めない人 ①締め括りのつかない人	しりぬけ(尻抜け)
	戸を閉めない人	しっぽがながい(尻尾が長い)
	戸を閉める	たてる(立てる、閉てる)
	どんこ(鈍甲)(魚)	ごつぽ(ごつぱち)
	どんど焼き 左義長	とんど(とんど焼き)(どんどん焼き)
	どんなに こんなに 「どうにか こうにか」の意	どねこね(どねえーこねえー)
	どんなにも どうも	どねーも(どねーにも)
	どんなにも こんなににも にっちも さっちも	どねーも こねーも
	③どんなにも こんなににも どうにもこうにも ①どうと言うことはない 大丈夫だ ②遮二無二 いつも	どうちゅーこたーない
	②とんぼ返りすること ①ひっくり返ること	でんぐりかえる(でんぐりがやる)
な		
	無い	なあ
	～ないか	～んかい(～んかいや)
	～(し)ないか	～んか
	内臓に問題がない	ふくちゅうがまめ(腹中が忠実)
	泣いた(幼児語)	あんあんした【「番外:幼児語」も参照】
	ないだろう	あるまー
	～(し)ないで ～(せ)ずに	～んこー(～んこーに)
	①～(し)ないで ～(せ)ずに ②～(し)なければ ～(し)ないと	～んと
	無いならば 無ければ	なけらんにやー (なけらにやー)(なけんにやー)
	①苗を植える ②仮植え	ふせる
	長い	ながー(なげー)
	長い間	めったごしょうに

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	長い間 久しく	ひーさ(ひいさ)(ひさー)
	①長くなる ②横になる 寝そべる	なごうなる(なごーなる)
	流し台(台所の)	はしり
	～なかった	～なんだ
	～(し)なかった	①～だった ②～んじゃった(～だった)(～んかった)
	②長々と説明や文句を言う ③生意気なことを言う ①理屈ばかり言う	こうしゃくをたれる(講釈を垂れる)
	長話	おーばなし
	仲間 友達 連れ	とぎ(伽)
	①仲間(完成品) 同志 一緒 ②それ	そ
	仲間に入れる 仲間に加える	よす(寄す) よせる(寄せる)
	長持ちしない	けない
	長持ちする	むさい
	中指	なかたかゆび
	長らく 永らく	ながしゅう
	泣き虫 良く泣く人 (幼児語)	なきびーす(なきびい)(なきびー) 【「番外:幼児語」も参照】
	泣き虫 良く泣く人	①なきべそ ②びーたれ(びいたれ)
	②泣く 泣く様子 (幼児語) ①汚い (幼児語)	びーびー 【「番外:幼児語」も参照】
	無くて	のーて
	～(し)なくても	～(せ)んでも(～(せ)いでも) (～(せ)ーでも)
	①無くなった ②[片付ける] (幼児語)	ないない 【「番外:幼児語」も参照】
	無くなる	①ないなる ②のーなる
	無くなる 消耗する 使い果たす	みてる(満てる)(充てる)
	②なくなる ①落ちる	①したる(すたる) ②ひたる
	①なぐり倒す [②伸ばす ③勢力の伸張]	のす(伸す)
	殴りつける 打つ	どづく(どつく)
	殴りつける 責め立てる 締め上げる	にやす
	殴り回す	くらしあげる
	なぐる	くらわす(くらわかす)(くらわせる)
	投げ込む 飛び込む 突っ込む	どばしこむ

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①投げる ②捨てる 投げ捨てる 仕事を放り出す ③放置する	①ほーかる(ほーくる) ②ほーくりなげる(ほーたりなげる) ③ほーたる
	②～(し)なければ ～(し)ないと ①～(し)ないで ～(せ)ずに	～んと
	～なさい	①～い(～え) ②～え(～い) ③～ない(～なあ) ④～はーれ ⑤～まい ⑥～りー ⑦～んさい(～んされ)
	～なさる ～される	～んさる
	～なされた ～あった	～やった
	①～なされた ～なさった ②～してやった ～してあった	①～ちゃった(～ちゃーた) ②～しゃった
	②～なされた ～なさった ③～してやった ～してあった ①～だった	～じゃった
	茄子(野菜)	なすび【「番外:東西の違い」も参照】
	何故 どうして なんで	なして(ないて)(なひて)
	なぞること	えどる(絵取る)
	②撫(な)でる ①かき集める	さでる(さぜる)
	～など ～なんか	～なんだり
	②斜めにする 横にする ③発酵させる ④資金や物を活用しない ①寝かせる	ねさす(ねかす)
	何か	なんなん
	なにか 問い掛ける言葉	なんや(なんやー)
	なにかと言えば いつも よく	なんかちゃー(なんちゃー)
	何が何だか	なにがなんやら(何が何やら)
	何がなんでも 否でも応でも	どげえーでも こげえーでも (どがーでも こがーでも)
	何も	なんじゃし
	②何も言うこと無し 文句なし ①何も言わずに 問答無用に	はあもすうもない
	①何も言わずに 問答無用に ②何も言うこと無し 文句なし	はあもすうもない
	①何もせずにぶらぶらとしている様子 ②とりとめのないこと あれこれまとまらず物事が進まない様子	①てれーぐれー(てれんぐれん) ②てれんこぼれんこ (てれんこぱれんこ)(てれんぱれん)
	なにや かや あれや これや いろいろ	なんやら かんやら(なにやら かにやら)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	何を	なによー(なにゅー)(なによ)(なにー)
	～なの	～なん
	②生意気 ①ふざける いたずら	てんごう(癡狂)
	②生意気 屁理屈(大人) ①生意気なさま(子供)	ねんごー
	生意気な 分不相応な	ねんごーくさい
	生意気な ませた 高慢な 小癪な	こうへい(こーへー)
	生意気なこと 横柄なこと 口答えすること	おーちゃく(横着)
	③生意気なことを言う ①理屈ばかり言う ②長々と説明や文句を言う	こうしゃくをたれる(講釈を垂れる)
	①生意気なさま(子供) ②生意気 屁理屈(大人)	ねんごー
	生意気なさま 小癪なさま	ねんごーな
	②生意気や屁理屈を言う ①大人びたことを言う	ねんごーをたれる
	①生意気を言う ②口が立つ	かばち
	怠け者	ぐーたれ
	怠け者 無精者	のーくれ(のーたれ)(のーくり)
	①怠け者 ②片付けなくても平気な人	なえんぼう(萎えん坊)
	海鼠(なまこ)(棘皮動物)	たわらご(たーらご)
	舐(な)める しゃぶる	①すわぶる ②ねぶる(舐る)
	なるほど	なるへそ
	なるほど 全くそのとおりだ 本当だ	まこと(まーこと)
	南京豆 落花生(野菜)	そこまめ(底豆)
	なんだかんだ あれやこれや	なんじゃかんじゃ(なんじゃーかんじゃー)
	何だ簡単だ 何だばからしい	なんじゃらまい
	何だなあ そうだなあ	なんじゃのー
	①何ですか。(疑問) ②何ですって!(反論)	なんのんた
	②何ですって!(反論) ①何ですか。(疑問)	なんのんた
	何と言うことか	なんちゅーことか(なんつーことか)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①[何と言うことはない 取り立てて言うことはない] ②嘘だった 困ったことに 参ったよ	なんちゅーこたーない (なんつーこたーない)
	①何と言うのか ②何と言っているのか 何を言いたいのか	なんちゅーんか(・・んかい) (・・んかいね) (・・んかいや) (なんつーんか)
	何と言ったって 何と言っても	なんつーたち
	②何と言っているのか 何を言いたいのか ①何と言うのか	なんちゅーんか(・・んかい) (・・んかいね) (・・んかいや) (なんつーんか)
	何と言っても	①なんちゅーても(なんつーても) ②なんつーたち
	何とか なんとか	なんたら かんたら
	①[何とか都合つける] ②自分に都合よくする	さしくる(差し繰る)
	何となく	ほうそら(ほうそろ)
	②何となく ①何とまあ	なんとのー
	何とは無しに	なんかしらんけど(何か知らんけど)
	①何とまあ ②何となく	なんとのー
	なんなりと 何でも許容する意を表す	なんないと
	なんのことはない 思いのほか	なにがやあ
	何やかや 何したり かにしたり	なんだりかんだり
に		
	～に(格助詞)	～へ
	～に ～へ	～い(～い)
	似合う 良く合う	ふさう(相応う)
	①似合っている ②仕事の質、量が相当、適当	におーちよる(によおーちよる)
	におい(匂い)	によい(匂い) (によえー)
	荷車 大八車	しゃりき(車力)
	にじむ にじみ出る	にじむ
	2013年の若者の山口弁認知度	【「番外:2013年の若者の 山口弁認知度」参照】
	①似ていないまま ②煮ないまま	にんこうに(にんこーに) (にんと)
	似ていること よく似ている そっくり	まっつい(真対)
	②煮ないまま ①似ていないまま	にんこうに(にんこーに) (にんと)
	②～には ①～しないと(だめ)	～にやー
	荷札 名札	えぶ(えふ)(絵符)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	睨(にら)む	ねらむ
	「にらめっこ」の結句(歌)	うんとこ どっこいしょ
	煮る	たく(炊く)(煮く)
	①庭 ②広場	①かいど(垣外) ②かど(門)
	庭(家の前の) そと(外)	ほか(外)
	鶏(にわとり) (鳥)(幼児語)	こっこ【「番外:幼児語」も参照】
ぬ		
	ぬか漬け	どぶづけ(どぶ漬け)
	ぬかるんでいる状態	じるい(じゅるい)
	ぬかるんでいる田	①じるた(汁田) ②はるた(墾田)
	抜けていること	おぬかれごすん
	①抜けていること 注意力散漫な状態 ②赤ん坊がおしめをしていない状態	おぬけそうろう
	②抜けている人 ぼんやり ①尻を出している状態	ぬけ
	②抜け目がない 悪賢い ずる賢い ①素早い すばしこい やることが早い	すどい
	③抜ける(味や香り) ①疲れる くたびれる ②ゆるむ たるむ	だる(疲る)(倦る)
	盗人 泥棒	ぬすっとー(ぬひと)
	布などで覆う 蓋を閉める	おう(覆ふ)(被う)(蓋う)
	塗りつける 塗(まぶ)す	もぶる
	温(ぬる)い 手ぬるい のろいこと	へぬるい
	ぬるい(湯がぬるい)	ぶーぶー
	①ぬるくする ②薄める	うめる(埋める)(うべる)
ね		
	②～ね ～かね ①～だから ～なので	～けえ(～けー)(～けん)
	①～ねえ ～なあ ②～のだよ	～のい
	ねえ なあ	のう(のー)
	ねー、あなた	ねーた
	①寝かせる ②斜めにする 横にする ③発酵させる ④資金や物を活用しない	ねさす(ねかす)
	根株	かくつとう
	猫車	ねこ
	猫背になること	こんごーをかるー(こうごうをかるう)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	③根こそぎ いっぺんに ①意に反して 予期しないのに ②急に 俄かに(にわかに)	ごっくり(ごっくし)
	ねじれる ひねくれる	ねじける(拗ける)
	①寝相が悪くて動くこと ②じたばたする もがく	あがく(足掻く)
	寝そびれる	ねはぐらかす
	寝違える	ねたがえる(寝違える)(ねたごう)
	寝違(ねちが)えること	ねたがい(ねたがえ)
	①熱心だ 根気強い 丁寧な 念入りな ②執念深い しつこい	ねつい(ねついー)
	①熱中する 夢中になる ②ひどくなる(見境なくしゃべる)	ひになる(火になる) (ひんなる)(ひーなる)
	寝ない 徹夜する	ねずーする
	粘り気が無くもろい 壊れやすい	さくい
	①粘り強い 辛抱強い ②くどい しつこい ③強情 頑固 ④固い	しわい(撓い)
	寝坊する人 寝てばかりいる人	ねたろー
	根掘り葉掘り聞く人	ねんだひき(ねんだほり)
	眠くて、わがままを言う状態(子供)	ねくじを言う (ねくじゅーくる)(ねじらを言う)
	眠たい	ねぶたい
	①根元 切り株 ②近所 際(きわ)	ねと
	練り付ける たっぷり付ける	ねぎつける(ねじつける)
	練り直しを繰り返す	ねりかやす
	練る こねる	ねぐ
	②音(ね)を上げる 悲鳴を上げる ①子供をちやほやする	ほーほーゆー(ほーほー言う)
の		
	～の	①～そ(～ほ) ②～ほ
	①能率がよい ②素晴らしい ③気が利く ④役に立つ	もとーる
	①能率が悪い ②くだらない ③気が利かない ④余計な事	もとーらん
	の一、あんた	の一た

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	の一、あんた ねー、あなた (親愛の気持ちで)	のんた(の一た)(のいた)(ねーた) (うんた)(んた)
	軒下(のきした)	やだれ(屋垂れ)
	退け よそへ行け	どきゃーがれ
	野げしのような白い乳を出す草(植物)	ちちぐさ
	のけ者にする	はねにする
	②～のだよ ①～ねえ ～なあ	～のい
	～のだよ	①～とみー(～と見い) ②～ともいー(～ともえー)
	～の途中 ～の時 ～の際	～しな
	～のは ～ことは ～ものは	～なー
	伸ばす	のる(伸る)
	伸ばす 延ばす	ぬばす(伸ばす)(延ばす)
	[②伸ばす ③勢力の伸張] ①なぐり倒す	のす(伸す)
	伸びた 延びた	ぬんだ
	①伸びた 延びた ②飲んだ	のうだ(の一だ)
	延びている 遅れている	ぬんどる
	②伸び放題(植木が) ③乱れている(家や部屋の中が) ①乱れ髪 髪が伸び放題	がっそー(兀僧)(おおがっそー)
	伸びる 延びる	ぬぶ(ぬびる)
	②伸べる ①薄める	ぬべる
	～のまま	～ずく(～づく)
	～のまま ～ごと ～ぐるみ	①～ごし ②～ごみ(～ごめ)
	～のままには ～しないことには ～しない限りには ～しなければ	～ごしょうには(～ごしょーにゃー)
	飲みながら	のむのむ(飲む飲む)
	のろいこと 手ぬるいこと 遅いこと	①ぬるい ②へぬるい
	のろのろした様子	のっこのっこ
	呑気(のんき)な 気の内は忠実(まめ)な	きのうちゃーまめな
	呑気なさま 気楽なさま	あんき(安気)
	②飲んだ ①伸びた 延びた	のうだ(の一だ)
は		
	「○○ば」の「ば」(標準語の仮定形) (例:話せば、言えば)	○○ゃー(例:話しゃー) (○○やー)(例:言やー)
	はあはあ言う(呼吸が荒い)	はあころ はあころ いう

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②バイクの後ろに女性を横向きに 乗せる方法 ①大人用の自転車に子供が乗る方法	よこのり(横乗り)
	排便、排尿をさせること(幼児に)	ささげる
	這い回る 腹這いになって動く	はいつくろう
	蠅(はえ)(虫)	はい
	ハオコゼ(葉虎魚)(魚)	かなこぎ(からこぎ)(からっこ)
	馬鹿なさま 間抜け	ぱーぷー(パープー)
	ばかにすること(あざけて) 嘲弄(ちょうろう)	おびく
	馬鹿の二乗	ばかじゃ ちゃんじゃ
	①馬鹿者 愚か者 ②野郎《人をののしる言葉》	げどされ(外道去れ) (げどうされ)(げどうたれ)
	馬鹿野郎	くそげどう
	～ばかりでなく、～までも	～ばっかしじゃの一て、～も
	吐き出しなさい(幼児語)	つーしなさい【「番外:幼児語」も参照】
	吐き出す もどす	えずく(えづく)
	②はきはきしている人 さっぱりとした人 ①しっかり者	しゃんとこべー(しゃんとき)
	掃く	はわく
	歯茎(はぐき)	はぶ
	禿げ頭	きんかあたま(金柑頭)
	激しい 乱暴であるがやり手の感じ	はばしい
	「激しく」の意	ちち
	②化け物(川に住む) ③ゲンゴロウ(虫) ①河童	えんこう(えんこー)
	はこべ(はこべら)(植物)	ひずりそう
	挟まること(狭い所に)	はさる
	挟む 隙間などに挟み込む	はせる
	③挟む ①痛む 胃が痛むこと ②閉める	つめる
	①[端(はし) ふち きわ] ②側(そば) 横 脇	へり(縁)
	弾ける(はじける) 割れる	わじける
	～は(ワ)、しない	～りゃーせん(～きゃーせん)
	始まる	①はなまる ②はなわる

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	始める	はなえる(はなえーる)
	走らす 走らせる	はしらかす
	走る	かける(かっける)(駆ける)
	②外れる(本筋から) 横道にそれる ③機嫌が悪くなる 気分を損なう ①木を斜めに切る	そげる(削げる)
	はずんだ気分が抜けること	ひやける(冷ける)
	肌寒い 何となく寒い	ししらさむい(ししらさみー) (ししらさぶい)(ししらさびー)
	肌を日にあてて、黒くすること	こがす(焦がす)
	罰が当たろうが	ええばち(えーばち)
	80代の言葉	【「番外:80代の言葉」参照】
	バツ(X)	ぺけ
	③発酵させる ④資金や物を活用しない ①寝かせる ②斜めにする 横にする	ねさす(ねかす)
	発酵すること(麴)	ねる(寝る)
	ばっちい 汚いこと	ばちい
	はとこ(再従兄弟、再従姉妹)の子供同士	みいところ
	③話しがまとまらない ①混み合うさま ②おしくらまんじゅう	せんぎーもんぎー (せんぎもんぎ)
	花冷え。暖かくなって来た頃に冷え込むこと。	びったれだまし(びっただまし)
	①離れ 長屋 納屋 借家 ②分家 ③隠居部屋	へや
	②離れる 去る 退く 中座する ①移ること 転居 転勤	にげる(逃げる)
	鼻をかむ (幼児語)	シュンする【「番外:幼児語」も参照】
	①鼻をかむこと ②沁みること	しゅむ
	破片	①ほげ ②めげ
	はまり込む めり込む	にえこむ(煮え込む)
	早くに とくに ずっと前に 遠い昔に	とーに(とーから)(とーの昔から)
	はやる あせる	せく(急ぐ)
	腹いせ 仕返し 八つ当たり	あたん
	腹ばい	はいそろべー(はえそろべー) (はいそろぼう)
	ばらまく	ばらく
	③腹を立てる ①もめる ②くたびれる	にえる

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①張り合い やり甲斐 ②[精 力]	せー せーがええ せーがおちた せーがない せーをつげんにやー せーがでますね
	②腫れぼったい感じ(顔や目がほてって) むくんだ状態 ①腫物で顔がうずうずする感じ	おぼろしい
	②腫物が膨れて痛むこと ①疲れて筋肉が張ること	おぼる(うぼる)
	①腫物で顔がうずうずする感じ ②顔や目がほてって、腫れぼったい感じ むくんだ状態	おぼろしい
	腫物などの痛むさま ずきずき	ずくずく(づくづく)
	晩 夜	ようさ(よさ)
	ハンガー	えもんかけ(衣紋掛け)
	絆創膏	カットバン
	反対する	にしーむく(西へ向く)
	①半煮え ②やりかけ する途中 中途半端	にえくさし
	半日	かたひなか(かたひま)(かたひる)
	半分ずつにすること	はんぶっこ(はんぶんっこ)
ひ		
	尾(び) 匹(ひき)(魚の数え方)	こん(喉)
	ビー玉	らんたん
	ひいひい はあはあ	ひーこら はーこら
	冷える 凍える	すくれる
	日が沈むこと	ひがおかえる
	日が照ること	ひがさく(日が咲く)
	ひからびた様子 乾いてカチカチの様子	ひかちんぼ
	干涸(ひから)びること しおれること(草木)	からびる(乾びる)
	彼岸花(葉のある時や球根)(植物)	もめら
	引きずる	①どびく(そびく)(ぞびく) ②ひこじる(ひこずる)
	引きずる 引っ張る	そびく(そびく)(どびく)
	ひざが、がくがくする	ひざがわらう(膝が笑う)
	久しく 長い間	ひーさ(ひいさ)(ひさー)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	ひざ坊主 膝小僧 膝頭	①ひざぼうさー ②ひだぼうず
	②非常に ①呆けていること ぼんやりしていること	こくう(虚空)
	びしょびしょ	びっしゃ(びしょぬれ) (びっしゃこ)
	ヒタキ (鳥)	ひんこち(ひんかち)
	ひたすら そればかり 一途に	かたきに(仇に)
	左利き	ぎっちょ
	引っ掻く	かぐる
	①ひっくり返ること ②とんぼ返りすること	でんぐりかえる(でんぐりがやる)
	①びっくりする 驚く 驚かす ②湯通し	たまげる たまがす たまぐらかす
	②びっくりする ①痙攣(けいれん) 子供の痙攣 引き付け	すじをひく(すじを引く) (すじゅーひく) (すじょーひく)
	引っ越し	やうつり(家移り)
	引っ込み思案 臆病なさま 小心なさま 内気なさま	いんじゅたれ(因循たれ) (いんじゅんたれ)
	必死 一生懸命	がし
	必死に(ものすごく必死)	ひっしもっし(必死もっし)
	必死にする様子 精を出してするさま	がしがし
	ひどい	ひでー
	一息入れる 一休みする	ひといきつく(一息つく)
	ひどい目に遭(あ)った 難儀した	めにおーた
	酷(ひど)く	ひどうに(ひどーに)
	ひどく怒られた	すりほがれた
	ひどく叱ること	おおくじをくる(おーくじゅーくる)
	②ひどくなる(見境なくしゃべる) ①熱中する 夢中になる	ひになる(火になる) (ひんなる) (ひーなる)
	ひどくもめること	もめかやす(もめかやる)
	一言もない	はあともいえん(はあともすうともいえん)
	ひとつずつ	ひとつった(ひとつずた) (ひとつつた) (ひとつわて)
	一晚	ひとよーさ
	②ひとまとめに 一括りに ①一緒に 共に	いっこに
	人見知りをすること	①ひとみず ②みずをする(みずーする)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	皮肉 嫌味 悪口	にくじ
	ひにちくすり(日日薬)	ひんちがくすり
	捻くり回す(ひねくりまわす)	ひねくりかやす
	①ひねくれた心(性格が悪い) ひねくれ者 ②意地悪 意地悪な人	こんじょーくさり(根性腐り) (こんじょーわる)(根性悪)
	ひねくれる	へねくれる
	捻(ひね)った 捩(ね)じった 捻る 捩じる	たごうた(たごーた)(たがう)
	①捻(ひね)ること ②抓(つね)ることに使う	へねきる
	①暇な ②ゆっくり ③おだやか ④おっとり	ゆうな(悠な)(ゆうーな)(ゆうーに)
	日めくりの暦	ひぐり
	美容院に行く 散髪に行く	あたまにいく(頭に行く)
	療疽(ひょうそ) 指先の化膿性炎症	うらぶ
	ひょつくり ひょっこり 不意に	ひょつくら(ひょこつと)
	②ひょんな 妙な ①変な おかしな	ひょんげな
	①ぴょんぴょん(跳ねる) ②ぽたぽた(水滴)	ぴつとこ
	平手で打つ、殴る 叩く [棒で殴る]	しばく
	①ビリ ②ヘドロ	どべ
	ヒリヒリする むずがゆい	やびやびする
	ヒリヒリする感じ(日焼けして)	びやびやする
	昼のさなか 真っ昼間	ひるのかんぱち(ひるのひんぱち)
	②「放(ひ)る」の転 ①する「せる」の訛り	へる
	拾う(ひろう)	ひらう
	広島の方言	【「番外：広島の方言」参照】
	②広場 ①庭	①かいど(垣外) ②かど(門)
ふ		
	不意に	①だまがしに(たまがしに) ②だましがけに
	不意に ひょつくり ひょっこり	ひょつくら(ひょこつと)
	夫婦が養子のこと	とりことりよめ(取り子取り嫁)
	①増える ②叱る 怒る ③騒ぐ	おごる
	①孵化する ②蒸し暑い ③蒸す	うむす(産(うむ)す)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	ふきん	ふいきん
	ふぐ(河豚)(魚)	ふく
	ふくれる(膨れる) むくれる(剥れる) すねる(拗ねる)	①はぶてる(はぶをつる)(はぶーつる) ②ぶーをつる(ぶーつる)
	フクロウ(鳥)	ふるつく(ほろつく)
	雲脂・頭垢(ふけ)	きー
	分限者(ぶげんしゃ) 金持ち 財産家	ぐべんしゃ(くべんしゃ)(ぐえんしゃ)
	①ふざけて騒ぐ ②うろたえる	ほたえる
	ふざけて騒ぐ 騒ぎ回す	ほだける
	ふざけて騒ぐ はしゃぐ 戯れる じゃれる (調子に乗って大騒ぎ)	つばえる
	ふざける	おがちる
	②ふざける ③おかしな格好をする ①甘える	ちばける
	①ふざける いたずら ②生意気	てんごう(癡狂)
	ふざける じゃれる	すばえる
	不作法 わがまま 横着 そのさま	のふうどう(のふーど)
	②不始末な人 物事に対処できない人 ③だらしない人 自堕落な人 怠け者 ①心配りのない人 気の利かない人	いたんなし(いたりなし)
	②ぶすっとしたさま 立腹する ①すねる	ぶすける
	不揃い	かたちん
	二晩	ふたよーさ
	二股になった木	かんまた
	②負担する ①背負う	かるう(かるー)
	普段用の履物	①じかばき(直履き) ②にわばき(庭履き)
	[③淵 ④まだら ②鞭の音便] ①すごく とても	ぶち 【「番外:『ぶち』の付録」も参照】
	「ぶち」の付録	【「番外:『ぶち』の付録」参照】
	②付着する ③まとわりつく(子供が) ①群がる	もぶれる(もぶれつく)
	ぶつかること 鉢合わせすること	がっちんこ(かっちんこ)(がつつんこ)
	ぶつかること 鉢合わせすること(幼児語)	こつつんこ 【「番外:幼児語」も参照】
	仏壇に供えるご飯	①おうっぱん ②おはっつあま

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①不体裁 かっこ悪い ②面倒くさい 億劫(おっくう)な	めんどーない(めんどうし ない)
	不平 不満	いいごと
	①不便 ②具合が悪い 使い勝手が良くない	じゅうがわりー
	踏み台	ふみあげ
	踏み分けて歩く	こぶる
	ふやけること	ほとびる(潤びる)
	①ブユ(蚶) (虫) ②目の前に群がる虫 (虫)	ぶと(ぶよ)
	ぶらぶらとしている様子	①てれーぐれー ②てれんこぼれんこ(てれんこぼれんこ)
	古くなる	ふるーなる
	風呂敷	ふるしき(風呂敷)
	風呂の温度が丁度良い状態 適温	じょうかん(ええかん)
	風呂や酒が適温である	ええかん(えーかん)
	～ぶん(分) ～だけ ～ほど	～が(～がー) (～がん)
	②分家 ③隠居部屋 ①離れ 長屋 納屋 借家	へや
	踏んだり蹴ったり 散々な目 無茶苦茶	ささらほーさら(ささら もさら)
	②奮発する ③息(いき)む ①意気込む	ぎばる(気張る)
へ		
	塀 壁	へー
	①へいこらすこと ②息を切らすこと	へえこらへえこらす (へーこらへーこらす)
	圧(へ)し折る	べしおる
	へそ曲がりな人	へんくう
	蒂(へた) 果物や野菜のへた	えんだ(円座)
	②ぺちゃくちゃしゃべること ①くどくど言うこと	うだうだ
	②ヘドロ ①ビリ	どべ
	への字口	しっぺいぐち(竹籠口) (しっぺーぐち)
	ベラ キュウセン(求仙、九仙) (魚)	ぎざみ
	便所 雪隠(せっちん) (せんち)	せんちん(せんち)
	変な おかしな	いなげな(異気な)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①変な おかしな ②ひょんな 妙な	ひょんげな
	変なこと 妙(みょう)ちきりん 妙であること	みょうちくりん(妙ちくりん)
	変な 分からないこと	おかしげな
	弁償する	まどう(償う)
	①便利 ②具合が良い 使い勝手が良い	じゅうがええ(じゅうがええ)
ほ		
	放棄する 放置する ほったらかしにする	てぶらかす
	①放棄する 放置する ②異常振動する 回転が滑らかでない	てぶる(手振る)
	放棄する 放置する(完全に) 何もしない	とりてぶる
	①呆けていること ぼんやりしていること ②非常に	こくう(虚空)
	方言周圏論	【「番外:方言周圏論」参照】
	方言への思い度合い	【「番外:方言への思い度合い」参照】
	豊作の代名詞 一反十俵のお米ができた	せたけができた(せできができた)
	帽子	ぼし
	③放置する ①投げる ②捨てる 投げ捨てる 仕事を放り出す	①ほーかる(ほーくる) ②ほーくりなげる(ほーたりなげる) ③ほーたる
	放置する ほったらかす 放ってそのままにしておくこと	①てぶらかす ②ぶらんかす(ぶらまかす) ③ほーからがす (ほーたらがす)(ほったらがす)
	放っておく	ほっちよく(ほおーちよく)
	放尿、放屁をする	ひる(放)
	棒片 太い棒	ぼくつとー
	②訪問する ①尋ねる(たずねる) 探す	たんねる(たねる)
	放り出す	さでだす(さでくりだす)
	吠える	ほす
	頬(ほお)	①ほうたん ②ほおびんちゃく ③ほおべた
	ぼーとしている ぼけている	ぼーじれちよる(ぼじれちよる)
	ほくろ(黒子)	ほぐろ
	干しカレイ(魚加工品)	でびら(でべら)
	ほじくる いじる つつく	せせる(搦る)(せせくる)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	補助輪付き	コ口付き
	②ぽたぽた(水滴) ①ぴょんぴょん(跳ねる)	ぴっとこ
	①ボタン 特に小さいボタン ②鞋(こはぜ)	へち
	墓地	はかんばら(はかわら)
	ほったらかしにする 顧みない 放置する	①てぶらかす ②ぶらんかす(ぶらまかす) ③ほーからがす (ほーたらがす)(ほったらがす)
	坊ちゃん	わこーさま(和子様)
	①仏様 仏壇(幼児語) ②神様(幼児語)	まんまんさあ【「番外:幼児語」も参照】
	程好くに 良い具合に	ほどように(ほどよーに)
	頬(ほほ)	①ほうたん ②ほおびんちゃく ③ほおべた
	ほほの内側を噛んだ	はぶを噛んだ(はぶーかんだ)
	①掘る ほじくる ②あら探しをする	ほぜる(ほぜくる)(ほでくる)
	ホルモン焼き	とんちゃん
	惚れ易く、飽き易い人 目移りの激しい人	①ほれやすのあきやす (惚れやすの飽きやす) ②あけやすのほれやす (あきやすのほれやす)
	ぼろくそに言う	ひったくそのように言う
	②本筋から外れる 横道にそれてしまう ③機嫌が悪くなる 気分を損なう ①木を斜めに切る	そげる(削げる)
	①本当に ②それ	ほん
	本当に 実に まったく	ほんまに(本真に)／ほんとに(本当に)
	本当に なるほど それはそうと	げに(実に)
	本当に なるほど てきめん	げんと(げんに)
	ほんの	つい
	ほんの少し 些細なこと 細かいこと	つべくそ
	ほんの少し ちょっと 少し	ちいちっと(ちーちっと)(ちちっと)
	ほんの少し わずかな量ほど	めくそほど
	ぼんやり(きょうきょうしながら放心状態)	きよぼりきよぼり
	ぼんやり 空とぼけ	ぼうけい(ぼーけー)
	②ぼんやり 抜けている人 ①尻を出している状態	ぬけ

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	ぼんやりした人 うっかり者	とぼけ
	ぼんやり者 うつけもの(空け者)	ぼけたれ(ぼけさく)(ぼけっとう)
ま		
	まあ	んまー
	まあ まあまあ (感動詞:驚嘆とひやかしの両方)	おーお
	枚(田の一区画の数え方)	まち
	～まい ①打ち消しの推量「・・・ないだろう」 ②打ち消しの意志「・・・するのはよそう」 ③+終助詞「か」で勧誘・依頼の意 「～まいか」 ④事実と反対の仮想「～まいに」 ⑤後続に対し、条件を示す「～まいし」	～まあ
	毎度 毎回 いつも	まいたび(毎度)
	毎日 毎日のように	まいひに(まえーひに)
	前掛け	まいかけ
	任せろ	まかしい(任しい)
	曲がる 反る	ひわる
	巻き付く	まえつく
	巻きつける	まいつける
	まくりあげる	ひっからげる
	まくわうり(真桑瓜)(野菜)	①あじうり(味瓜) ②なつめうり ③まっか(まっかうり)(きいうり)
	負け惜しみが強いこと 負けん気	まけんしょう(負けん性)
	真面目に物事を行う人 昔気質で律義な人	ほんしきな人(本式な人)
	「～(し)ましょう」の丁寧な言い方	～(し)まひょーや
	①真正面に 真っ直ぐ前に ②全くこの方法で この通りに真似て	まっとーりに(真通りに)
	②混ぜ返す 混乱させる ①(物をかき)混ぜる	までくる(まぜくる)
	まぜこぜ ごちゃまぜ	まぜこじゃ
	混ぜご飯	までごはん(混でご飯)
	①(物をかき)混ぜる ②混ぜ返す 混乱させる	までくる(まぜくる)
	股ぐら	またくら

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	[④まだら ②鞭の音便 ③淵] ①すぐく とても	ぶち【「番外：『ぶち』の付録」も参照】
	まだら模様の猫（小型哺乳類） 白に褐色の斑点の猫 三毛猫	きじねこ
	待ちなさい	まちいさい(まちなさい)
	真っ直ぐなこと	すぐい(直い)
	②真っ直ぐになっていない状態 ①完膚無きまでにやられた状態	いんごーがんぎー(いごうがんぎ)
	全く 全然	①かいさら(かいさ) ②ちゅうかい ③ちゅうにちゅうかい ④てんくら ⑤でんでん
	②全くこの方法で この通りに真似て ①真正面に 真っ直ぐ前に	まっとーりに(真通りに)
	②全く ほんとに ③いつも すでに ④[思い切って] ①少しも 一向に	いっそ(いっそー)
	①全く 本当に ②とても 非常に ③とうとう ついに	よいよ(よんよ)
	①全く まことに ②元来 根っから	どだい(土台)
	マッチ	あてこすり(当擦)
	待っていなさい	まっちよりー
	②まどろこしい ①ややこしい 面倒な 複雑な	まどろうしい(まどろしい)
	③まとわりつく(子供が) ①群がる ②付着する	もぶれる(もぶれつく)
	まな板	きりばん
	まぬけ	てーたーさく(てーたー)
	②まぬけ 役に立たない人 ①照れ屋 引っ込み思案な人 恥ずかしがり屋	てれさく(照れ作)
	真似を良くする人	まねし
	まばたき(瞬き)	めたたき(目叩)
	まばゆい まぶしい	①(ば)ばいいい(ば)ばいー ②まばいいい(ま)ばいー
	塗(まみ)れること	まぶれる(塗れる)
	まむし(蝮) (蛇:爬虫類)	はみ
	磨滅する 先が磨り減ること	ちびる(禿びる)
	眉毛	まひげ

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	真綿(まわた)	ねば
	①満腹 ②お金が掛かる ③体が大きい	ふとい(太い)
み		
	箕(み)	①てみ(手箕) ②いしぞうけ(石筈) ③えぶ(得歩)
	三毛猫 まだら模様の猫 白に褐色の斑点の猫(小型哺乳類)	きじねこ
	見応え 見る値打ち	みで
	①水(幼児語) ②お風呂(幼児語)	ぶんぶう(ぶんぶー)(ぶんぶ) (ぶーぶー)【「番外:幼児語」も参照】
	②水が入った田 泥田 ③湿地 ①地面 地べた	どべた
	水がめ 台所に置いた水壺	はんどう(はんどー)
	水たまり 池 泥池	だぶ
	水たまりや浅瀬をはしゃいで歩くこと	こぶる
	②見捨てる 見放す ①捨てるの強調	ちゃんぐりすてる
	水を溜めた泉池	つぼんかわ
	見せ合い 見せ合いを	みせがー
	見せびらかす 自慢そうに見せる	みせぶらかす
	味噌汁を飲みなさい	みそしるーたべんさい (味噌汁を食べんさい)
	みぞれ(霰)	しとれ
	①乱れ髪 髪が伸び放題 ②伸び放題(植木が) ③乱れている(家や部屋の中が)	がっそー(兀僧)(おおがっそー)
	③乱れている(家や部屋の中が) ①乱れ髪 髪が伸び放題 ②伸び放題(植木が)	がっそー(兀僧)(おおがっそー)
	②道草をしたくなる ①小便をしたくなる	こようがつかえる(小用が支える)
	道普請	みちうち(道打ち)
	三つ爪の農具や貝掘用のくわ	くまで(熊手)
	みっともない 汚い かつこ悪い	ほーとくない (ほーとくなえー)(ほーちよくない)
	みっともない 体裁(ていさい)が悪い	ふうがわるい(風が悪い)
	見通しが暗い	おきゃーくらい
	見ない	みん(見ん)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	見なさい	みんなさい
	皆さん	みんなし
	②[身に付かない] ①落ち着けない くつろげない	みにならん (身にならん)(みにゃーならん)
	峰 山の背	お(峰)
	実のない米麦等 屑(穀物)	しいら(しーら)
	耳垢	みみこ(みみご)
	耳が聞こえなくなる	すえる
	身元調査	といぎき
	妙(みょう)ちきりん 妙であること 変なこと	みょうちくりん(妙ちくりん)
	見よう	みょー(みゅー)
	見ろ 見なさい	みー
む		
	昔の言葉、行事?	【「番外:昔の言葉、行事?」参照】
	昔の山口弁?	【「番外:昔の山口弁?」参照】
	剥(む)くこと 剥(は)ぐこと	①へぐ ②むぐ
	無口なこと	ものをゆわん(ものーゆわん)
	むくれる(剥れる) 拗ねる(すねる) 膨れる(ふくれる)	①はぶてる(はぶをつる)(はぶーつる) ②ぶーをつる(ぶーつる)
	剥(む)ける 剥(は)げる	①へげる ②むげる
	むささび(小型哺乳類)	そばおしき(傍折敷)
	②蒸し暑い ③蒸す ①孵化する	うむす(産(うむ)す)
	筆(むし)る ちぎる	みしる
	③蒸す ①孵化する ②蒸し暑い	うむす(産(うむ)す)
	むずかる	むずがる
	むずかる すねる	ぐずねる(ぐすねる)
	結ぶ 縛る くくる	①いわえる ②きびる
	②無駄な費用 ①旅の費用	みちのこやし(みちのこえ)
	[②鞭の音便 ③淵 ④まだら] ①すぐく とても	ぶち 【「番外:『ぶち』の付録」も参照】
	①無茶 無理 筋が通らないこと ②台無し(だいなし) めちゃくちゃ だめ	わや
	無茶苦茶	むちゃら くちゃら
	①無茶苦茶 ②冗談 ③嘲笑	わやくう(わやく)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①難しい ②苦しい ③かわいそう	いたしい(いたしー)
	胸くそが悪い 腹が立つ	ごーが すく(ごーがにえる)(ごーがわく)
	棟と棟の間の蓋のような屋根 また、その場所	ふたや
	むやみ みだり 無茶	やたら(矢鱈)
	①群がる ②付着する ③まとわりつく(子供が)	もぶれる(もぶれつく)
	無理矢理に 無茶苦茶に 遮二無二	どうのこうなあない(どーのこーのなえー) (どーこーはない)
	無理を	むりゅー(むりょー)
	無理をすること 口に余るほどほおばる	ほうげちない(法下知らない)
め		
	牝牛(哺乳類)	うなめ(うなみ)
	目が覚めること	おどろく
	捲(めく)ること	はぐる
	②目先が聞く 悪賢い 抜け目がない ①すばしこい 敏捷な	ちゃりこい(ちょろこい)
	めだか(魚)	めーたんご(めーたん)
	②減茶苦茶にする ①潰す 壊す 細かく潰す	みしゃぐ
	減多に	めったと(減多と)
	②目の前に群がる虫(虫) ①ブユ(蛸)(虫)	ぶと(ぶよ)
	目の前に群がる虫 メマトイ ヌカカ ブユ等(虫)	①めせせり(目搦) ②めつつき
	目分量	①おおめっそー ②めっそー
	目まいがした 眩(ま)った	もーた
	目脂(めやに)	まより
	メロンパン	コッペパン(サンライズ)
	メンコ	ぱっちゃん
	②面倒 煩わしい ③うるさい性格 ④忙しい 多忙 ①騒々しい うるさい	しろおいしい(しろーしい)
	面倒くさい 億劫である 体調が悪くて気が進まない	たいぎい(大儀い)(たいぎな)
	①面倒くさい 煩わしい ②騒々しい やかましい	めんどうしい

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②面倒くさい 億劫(おっくう)な ①不体裁 かつこ悪い	めんどーない(めんどうし ない)
	①面倒くさいこと 手間を取る ②厳しい	やかましい
	面倒な すごく面倒な しち面倒な	ひちめんどうな
	面々 おのおの 各自 それぞれ	めんめえ(めんめ) (めえめえ)
	面々の複数のこと	めんめらー
も		
	～も	～じゃし
	もうすでに もはや	はあー
	もう要らない おいしそうにない	のどぶとい(喉太い)
	①申し訳ない ②きまりが悪い	たいがたい(たえがたい)
	もう少し	もちいと(もちっと) (もそっと)
	もう少しのことで	もっとのこと
	もうよいぞ	えーど(ええど) (えーよ)
	燃え残り 燃え止(さ)し	もえくさし
	挽ぐ(もぐ)	ちぎる(千切る)
	②目算 見当 ①いい加減さ 無責任さ 程々	ええころはちべえ
	もぐもぐ (①物を噛むさま ②口ごもるさま)	もんぐりもんぐり
	もぐら (小型哺乳類)	うぐろ(うぐら) (むぐろ)
	②潜る ①穴を掘る	うぐる
	持ち上げる	かかえる
	持ち上げる かかえる	かく(昇く)
	餅まき	もちばらき(餅ばらき)
	もちろん～する	～でか
	元手(もとで) 元金(がんきん)	がん(元)
	戻る途中 帰る途中 帰り掛け	①かえりしな ②もどりしな
	②元も子もない 台無しだ 無意味 無駄 ③嘘だった 困ったことに 参ったよ ①[取り立てて言うほどのことではない]	なんでもないこと (なんでもなえーこと)
	①もともと 元来 おおもと 根本 ②大根(だいこん) (野菜)	おーね(大根)
	ものもらい(麦粒腫) 目にできる腫れ物	めいぼ(めぼ)
	①物をあげない ②やらない しない	やりゃーせん

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①物をあげられない ②やれない できない	やれりゃーせん
	①物を噛むさま ②口ごもるさま(もぐもぐ)	もんぐりもんぐり
	もみあげ	ひゃっかん
	粃殻(もみがら)	すくも
	揉みくしゃにすること(紙など)	①もしゃぐる ②ももぐる
	もめさせる 混乱させる 乱す	もます
	①もめる ②くたびれる ③腹を立てる	にえる
	もめること(ひどくもめる)	もめかやす(もめかやる)
	腿(もも)	ももたぶら(ももた)
	～も良い	～めえー
	もらった 頂いた	もろーた
	もろい(粘り気が無く) 壊れやすい	さくい
	文句が多い ぐどぐどと文句を言う	へんじょーこんごー
	①文句を言う ②騒ぐ ③せき立てる	やーやー(やあやあ) (やあこらやあこら) 言う
	文句を言うな あれこれ言うな つべこべ言うな	ちゃぶちゃぶ言うな (ちゃばちゃば言うな) (ちゃぶちゃぶゆーな)
や		
	やがて そのうち	やんがて
	やかましく言う	にえつく(煮え付く)
	やかましく叫ぶこと	ごんごん
	焼き網	てつき(てき)
	焼き米	ひらいこめ
	焼き立て	やきだち
	やきもちを焼いて、相手を押しのけること	やばる
	やきもちを焼いて、欲しがること	せばる
	役立たず	がんたれ
	役に立たない	①くそにもならん ②しょーもない ③やくたいもない
	②[役に立たない くだらない] ①だめだ いけない	つまらん(つあーらん)
	役に立たない 上手にはならない	ことんならん(ことにゃーならん)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②役に立たない品物のこと ①どうにもならない者	ほぼくれもん
	②役に立たない人 まぬけ ①照れ屋 引っ込み思案な人 恥ずかしがり屋	てれさく(照れ作)
	役に立たん つまらん	しょーもな
	役に立つ 効果がある 有効だ	いき目がいく(生き目が行く) (いきめにいく) (いきめいく)
	④役に立つ ①能率がよい ②素晴らしい ③気が利く	もとーる
	自棄(やけ)のやんぱち やけっぱち 自暴自棄	やけのかんぱち
	野菜の呼び名	【「番外:野菜の呼び名」参照】
	②優しい 弱い ③容易 ①柔らかい 軟らかい	やおい
	やさしいこと(性格が)	やおじ
	②痩せた人 ①キリギリス バッタ(虫)	ぎーす(ぎいす)
	奴(やつ)	やと
	①厄介で難しいこと 厳しい 困難 ②気難しい 融通がきかない ③しつこい	やねこい
	②やっつける ①ゆでる 湯搔く	いがく
	やっていますよ していますよ	やっちよりますいーね
	やっている	やりよる(やりよーる)
	やっている(進行形) 済ましている(完了形)	やっちよる
	藪(やぶ)	がしゃ(がっしゃん)
	山姥(やまうば)	やまのばあ
	山口県の方言区分	【「番外:山口県の方言区分」参照】
	山口弁のアクセントについて	【「番外:山口弁のアクセントについて」 参照】
	闇雲(やみくも) ますます むやみやたらに	やんくも(やにくも) (やりくも) (やりこも) (やもこも)
	ヤモリ(家守) (虫:爬虫類)	①かべちよる(かめちよる) ②ひちぶ(七分) (しちぶ)
	ややこしい 複雑な 面倒な	やいころしい(やえころしー) (やえくろしー)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①ややこしい 面倒な 複雑な ②まどろこしい	まどろうしい(まどろしい)
	②やらない しない ①物をあげない	やりゃーせん
	やりかけ する途中 中途半端	やりくさし
	②やりかけ する途中 中途半端 ①半煮え	にえくさし
	やりくりがつかない	①まいがまえん(舞いが舞えん) ②まえん
	遣(や)りっ放し 片付け無しの状態	やりっこ やりっぱなし
	やる気を出す 元気を出す	きばくをだす(気魄を出す)
	やるのか?	やるん?
	②やれない できない ①物をあげられない	やれりゃーせん
	やれやれ(失敗した時)	いーいつ
	やれやれ(わずらわしさが重なる時)	やんや(やいや)
	①やれやれ(失敗した時) ②落とす 壊す 失敗する(幼児語)	やーや【「番外:幼児語」も参照】
	やれやれだなー	やんやじゃのー
	①野郎《人をののしる言葉》 ②悪ガキ《子供の蔑称》	げどう(外道)
	②野郎《人をののしる言葉》 ①馬鹿者 愚か者	げどされ(外道去れ) (げどうされ)(げどうたれ)
	①柔らかい 軟らかい ②優しい 弱い ③容易	やおい
	やわらかくすること ゆっくり弱めに進めること	やおーやる
	①柔らかくない 固い ②弱くない 強い ③容易でない	やおーない(やおーはない)
ゆ		
	夕方 薄暮時	ばんげ
	①夕暮れ ②夕凧(ゆうなぎ)	ゆうまずめ(ゆうまじめ)
	②夕凧(ゆうなぎ) ①夕暮れ	ゆうまずめ(ゆうまじめ)
	ゆうに らくらく (十分に余裕が有ることを表わす)	はように(早うに)
	湯加減	かん《風呂の》(爛)
	ゆがむ 曲がる	いがむ

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	湯気	ほけ
	②油断がならない ①手に負えない 始末に負えない	しごにならん (しごんならん) (しごにおえん)
	②ゆっくり ③おだやか ④おっとり ①暇な	ゆうな(悠な) (ゆうーな) (ゆうーに)
	ゆっくり気を付けて	そろそろ
	①ゆでる 湯搔く ②やっつける	いがく
	②湯通し ①びっくりする 驚く 驚かす	たまげる たまがす たまぐらかす
	ゆび(指)	いび
	百合の花 鬼百合やササユリ (植物)	ごうら(ごーら)
	許さないぞ こらえないぞ	①ききやーせんでよ (ききやーせんど) (ききやーせんぞ) ②きかんど
	許される	ゆりる
	①許す ②[耐える]	こらえる(こらえーる)
	②ゆるむ たるむ ③抜ける(味や香り) ①疲れる ぐたびれる	だる(疲る) (倦る)
よ		
	～よ	①～い(～いね) (～いの) (～いや) ②それいね(その2:い)
	～よ! (感情を添えたり強調したりする終助詞)	～にー
	「～よ」「～ぞ」ぐらいの意味	～わーね(わーの) (わーや) (わいね) (わいの) (わいや)
	①～よ ～だ ②～ては ③～と言え	～ちゃー(～ちゃ)
	～よ ～だよ ～よね	①～いね(～いの) (～いや) ②～だい ③～ね(～ねー) ④～や(～やー)
	「～よ」「～ね」「～な」ぐらいの意味 (終助詞)	～のー(～の)
	②夜明け ①朝凧(あさなぎ)	あさまじめ(あさまずめ)
	①良い いい ②十分	ええ(えー)
	良いから いいから	ええけー(えーけー)
	良い子 (幼児語)	①おりこーさん ②ほんこ(ほんそ) 【「番外:「幼児語」も参照】
	よう よく	①えー(ええ) ②よー(よう)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	③容易 ①柔らかい 軟らかい ②優しい 弱い	やおい
	②容易だ 簡単だ ①大丈夫 心配ない 差支えない	せわーない(世話は無い)
	容易だ たやすい	わきゃーない(訳はない)
	③容易でない ①柔らかくない 固い ②弱くない 強い	やおーない(やおーはない)
	容易なこと たやすい	みやすい
	容易にできるように言う	①こみやすーにいう(こみやすげにいう) ②はなみやすーにいう
	用事	よーたれ
	幼児語	【「番外: 幼児語」参照】
	～ように ～ままに	～こーに
	②要領が悪い ①埒(らち)が明かないこと。 はかどらないこと。	こをくらん(こーくらん)
	良く噛もう (幼児語)	がんじ がんじしよう 【「番外: 幼児語」も参照】
	良く来られたね	よー、きちゃったのー
	翌日	あけての日
	良く出歩く人	あるきがみ(歩き神)
	①良くない 許されない いい訳がない ②できるか ③[行くことができるか]	いけるか
	欲の深い人	よくつべ
	②よく働く ①元気	まめ(実)(忠実)
	②良く働くこと(朝早くから)→伊陸で ①すぐにバテてしまう人 その様子	いかちうま(伊陸馬)
	欲張り	よくどう(よくどうはげ) (よくつたれ)(よくしんぼー)
	②欲張りで利己的 ①理屈っぽい 文句を言う	こーじくな(こーじゅくな)(こーじよくな)
	欲張りなさま 物惜しみするさま	よくな(欲な)
	①欲張る ②[威張る]	えばる
	よくぶすつとする人 無愛想で不機嫌なことが多い人	ぶすけ
	②余計 一層(いっそう) ①沢山	ようけ(余計)(よーけ)(よけえー)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	余計なこと 無駄なこと いたらぬこと	いたらん
	④余計な事 ①能率が悪い ②くだらない ③気が利かない	もとーらん
	②横車を押すこと 無理難題を言うこと ①わがママを言うこと 子供が駄々を言うこと	じらをくる(じらを繰る)(じらーくる) (じらーゆー)(じらを言う)
	②横になる 寝そべる ①長くなる	なごうなる(なごーなる)
	汚れが落ちる	のく(退く)
	汚れているのが普通の人 不潔な人	よごれ(汚れ)
	よしのぼり(葦登)(魚)	ごり
	寄せて 寄せる 入れて 入れる	①よして(寄して)やす(寄す) ②なして(なす)
	よそる よそう (ご飯を)	つぐ(注ぐ)
	よそを見ている	あさってのほーみちよる (明後日の方を見ちよる)
	酔っ払い	よいたんぼ
	夜っぴて 一晩中	よっぴいて
	よっぱど 余程	よっぱし
	夜なか中 夜の間ずっと	よがなよぶーて
	夜なべ	ゆうなべ
	四人	よったり
	よもぎ(蓬)(植物)	よむぎ
	①～より(比較) ②～とは	～たあ(～たー)
	寄り合って	よりおうて(よりおーて)
	寄り掛かる 体をもたせ掛かる	すがる(縋る)
	夜 晩	ようさ(よさ)
	①夜遅くまで起きている ②夜遅くまで仕事をしている	よだるーひく(よざるーひく)
	②夜遅くまで起きている ①夜遅くまで働く	よだーはう(よだをはう)
	②夜遅くまで仕事をしている ①夜遅くまで起きている	よだるーひく(よざるーひく)
	①夜遅くまで働く ②夜遅くまで起きている	よだーはう(よだをはう)
	夜長く起きている人 宵っ張りのこと	よだるひき(よだれひき)(よざるひき)
	喜ぶこと 非常に喜んでいる様子	あたま(頭)をまるがす(あたまーまるがす)

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	喜んで	よろこーで
	②弱い 優しい ③容易 ①柔らかい 軟らかい	やおい
	②弱くない 強い ③容易でない ①柔らかくない 固い	やおーない(やおーはない)
	②弱った 骨身にしみた ①疲れた (堪(こた)えた)	こたえかした(堪えかした)
	①弱虫 ②体の弱い人 虚弱体質の人	よわずー
	弱めに進めること(ゆっくり) やわらかくすること	やおーやる
	弱る 衰弱する	しける
	4匹	よんびき【「番外:数の数え方」も参照】
	4本	よんぼん【「番外:数の数え方」も参照】
ら		
	～らしい ～そうだ	～げな
	～らしいよ	～てえな
	埒(らち)が明かない	らちゃーあかん
	①埒(らち)が明かないこと はかどらないこと ②要領が悪い	こをくらん(こーくらん)
	落花生 南京豆 (野菜)	そこまめ(底豆)
	らっきょう (野菜)	らんきょ(らんきょう)
	～られる	～て(～で)
	乱雑 むちゃくちゃ	①がしやんど ②だだんだー(だだんこだー)
	①乱暴な様 ②粗雑な様	あらかましい
	乱暴をする 暴れる	あらびる
り		
	理解力 飲み込み 納得のこと	のどり(のどいり)
	①理屈っぽい 文句を言う ②欲張りで利己的	こーじくな(こーじゅくな) (こーじよくな)
	①理屈ばかり言う ②長々と説明や文句を言う ③生意気なことを言う	こうしゃくをたれる(講釈を垂れる)
	②立腹する ぶすっとしたさま ①すねる	ぶすける

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①量 嵩(かさ) ②沢山(たくさん)	そけ(そけー)(そけら)
	両側 両方	りょうひら
る		
	留守の間に御馳走を食べる等の 良いことをする	るすごと(留守事)
れ		
	～れば ～せば(仮定形)	～りゃー(～しゃー)(～きゃー)(～やー)
	恋愛する	こころやすーせる
ろ		
	老衰死のこと	おとうみょうがきれる(お燈明が切れる)
	ろくすっぽ ろくすっぽう	ろくったま
わ		
	輪(紐を結んで作る)	わさ(輪鎖)
	わあわあ言う	わあこら わあこら言う (わーこら わーこらゆー)
	②若い職人 ①若者	わかいし(若い衆)
	①わがママを言うこと 子供が駄々を言うこと ②横車を押すこと 無理難題を言うこと	じらをくる(じらを繰る)(じらーくる) (じらーゆー)(じらを言う)
	②わがママを言うこと ぐずつくこと (子供が)(一般的に「ねくじ」) ①叱ること 怒ること	くじをくる (くじゅーくる)(くじょーくる)
	わがママを言う状態(子供が眠くて)	ねくじを言う (ねくじゅーくる)(ねじらを言う)
	①若者 ②若い職人	わかいし(若い衆)
	<u>若者の山口弁認知度(2013年)</u>	【「番外:2013年の若者の 山口弁認知度」参照】
	訳なく	こたあなえ(こたーなえー)
	わけの分からないことを言う人	とうじん(唐人)
	わざと 故意に	わざと
	～は(ワ)、しない	～りゃーせん(～きゃーせん)
	①煩わしい(わずらわしい) ②うるさい 気忙しい	やでない(やぜない)
	忘れないように 忘れないで	わすれんこーに(わすれんずくに)
	私 俺 自分	おら

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	①私(女性が使用) ②自分の家庭・家族 ③自分の家	①うち ②番外の「家(『いえ』と『うち』の使い分け)」
	私の家 自分の家	①うちかた(うちがた) ②わしかた(おれかた)
	私の所	①うちんところ(うちとこ) ②わしんところ(わしとこ) (おれんとこ)(おれとこ)
	渡せ 寄越せ(よこせ) 取って	かせ(かして)(かしーさい)
	わな(罟)(小鳥用)	かつちろ
	罟の締め木を支えておく仕掛けのこと	ちんちろ
	笑う	わろう(わろー)
	わらで編んだ入れ物	ほぼら(ほぼろ)
	藁の束を円筒形に小積みしたもの 稲叢(いなむら)	のう(のー)
	藁の袴(はかま)	あくた
	藁のはかまを取ること 稲のはかま(あくた)を除けること	そぐる
	笑わせる	わらかす(笑かす)
	わりと 割りに	わりかし
	①悪い ②済みません 申し訳ない	わりー
	悪いことの程度	かげん(加減)
	②悪ガキ《子供の蔑称》 ①野郎《人をののしる言葉》	げどう(外道)
	悪口 皮肉 嫌味	にくじ
	割れる 弾ける(はじける)	わじける
	腕白 いたずら坊主 悪童	①がんぼー ②わるがんつう(わりがんつう) ③わるぼーず(悪坊主)
を		
	①～をよくする人 ②～達	～し
ん		
	～(する)んだぞ ～(する)のだぞ	～んど(～んで)
	～んよ!	～んにー(～んい)(～んいー)
	幼児語	【「番外:幼児語」参照】
あ	②赤いもの ③美しいもの ①着物	あっぱい【本文「あっぱい」も参照】
	[虻 蜂 かなぶん]	ぶんぶん

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	ありがとう	だんだん【本文「だんだん」も参照】
	歩き 散歩	よんよ【本文「よんよ」も参照】
	[あんもち]	あんも
う	③美しいもの ①着物 ②赤いもの	あっぱい【本文「あっぱい」も参照】
	[うどん 麺類]	つるつる
	[馬]	ばかばか(ばっかばっか)
お	お金 銭	でんで【本文「でんで」も参照】
	拝む時の唱え言葉	まんまんさーあっ 【本文「まんまんさーあっ」も参照】
	②落ちる 転ぶ ①座る	とんする【本文「とんする」も参照】
	お月様	あとーさま(あとーさー)(あとーはん) 【本文「あとーさま」も参照】
	落とす 壊す 失敗する	やーや【本文「やーや」も参照】
	おばけ 妖怪 ばけもの	ごんごんちい ごんごー 【本文「ごんごち」も参照】
	お風呂	ちゃぶちゃぶ(ちゃんぼ) ちゃぶしよう 【本文「ちゃぶちゃぶ」も参照】
	②お風呂 ①水	ぶんぶう【本文「ぶんぶう」も参照】
か	かくれんぼ	かくれご【本文「かくれご」も参照】
	②[片付ける] ①無くなった	ないない【本文「ないない」も参照】
	②神様 ①仏様 仏壇	まんまんさあ 【本文「まんまんさあ」も参照】
き	汽車	シュッポッポ(シュツシュッポッポ、ポー) 【本文「シュッポッポ」も参照】
	汚い	ばばちい(ばばちい) 【本文「ばばちい」も参照】
	①汚い ②泣く	びーびー【本文「びーびー」も参照】
	汚い時	えーえ 【本文「えー えっ(えーえ)」も参照】
	着物	あば【本文「あっぱい」、「あば」も参照】
	[着物]	べべ
	①着物 ②赤いもの ③美しいもの	あっぱい【本文「あっぱい」も参照】
	②きれいな着物 ①血	べんべ【本文「べんべ」も参照】
こ	[ご飯]	まんま
	転ぶ 倒れる	とーんする(たーんする)(てーんする) 【本文「とーんする」も参照】

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
さ	さかな	たいたい【本文「たいたい」も参照】
	魚の骨	がんが【本文「がんが」も参照】
	寒い	しゃむいしゃむい(しゃぶいしゃぶい) 【本文「しゃむいしゃむい」も参照】
	②さわる ①[立つ]	たっちする【本文「たっちする」も参照】
	散歩 歩き	よんよ【本文「よんよ」も参照】
し	叱る	めーめーする(めーする)(めんめ) 【本文「めーめーする」も参照】
	失敗する 落とす 壊す	やーや【本文「やーや」も参照】
	状態が良いようにする (果物の皮を剥くなど)	やーやーする 【本文「やーやーする」も参照】
	小便をする	しいをする(しーをする)(しーする) 【本文「しいをする」も参照】
す	好き	しゅき(ちゅき)【本文「しゅき」も参照】
	座らせる(赤ちゃんを)	ちゃん(ちゃんしんさい) 【本文「ちゃんこ」参照】
	座る	①ちゃんこ【本文「ちゃんこ」も参照】 ②とんち【本文「とんち」も参照】
	①座る ②落ちる 転ぶ	とんする【本文「とんする」も参照】
せ	背中から下に降りる	おんりする【本文「おんりする」も参照】
	銭 お金	でんで【本文「でんで」も参照】
そ	外へ よそへ	よんよん【本文「よんよん」も参照】
た	太陽	おひーさま(おひーさー) 【本文「おひーさま」も参照】
	高く抱き上げる	たかたか【本文「たかたか」も参照】
	①[立つ] ②さわる	たっちする【本文「たっちする」も参照】
ち	①血 ②きれいな着物	べんべ【本文「べんべ」も参照】
て	[手拭]	てんてん
	手をたたくこと	ちょーち ちょーち 【本文「ちょーち ちょーち」も参照】
	手を握ったり開いたりするしぐさ	かお かお【本文「かお かお」も参照】
と	とても	ばくちん【本文「ばくちん」も参照】
な	泣いた	あんあんした 【本文「あんあんした」も参照】
	泣き虫	なきびい 【本文「なきびーす((なきびい))」も参照】

50音	標準語見出し・説明	山口弁見出し
	②泣く ①汚い	びーびー【本文「びーびー」も参照】
	①無くなった ②[片付ける]	ないない【本文「ないない」も参照】
に	鶏(にわとり)	こっこ【本文「こっこ」も参照】
は	吐き出さない	つーしなさい【本文「つーしなさい」も参照】
	鼻をかむ	シュンする【本文「シュンする」も参照】
ふ	[吹く]	フーフーする
	ぶつかること	こつつんこ【本文「こつつんこ」も参照】
ほ	①仏様 仏壇 ②神様	まんまんさあ 【本文「まんまんさあ」も参照】
み	①水 ②お風呂	ぶんぶう【本文「ぶんぶう」も参照】
め	[目]	めめ
よ	良い子	①おりこーさん 【本文「おりこーさん」も参照】 ②ほんこ【本文「ほんこ」も参照】
	良く噛もう	がんじ がんじ しょう 【本文「がんじ がんじ しょう」も参照】

参考文献 : 特に記載していないが、各本より転載あり。ご了承ください。

- ・「面白くて為になる山口弁よもやま話」 森川信夫著
(文法及び山口弁の由来等について、詳しく書いてあるものは、主にこの本よりの転載、抜粋とご理解下さい。)
- ・「山口県方言基本発音体系」 森川信夫著
(発音について、詳しく書いてあるものは、主にこの本よりの転載、抜粋とご理解下さい。)
- ・「やまぐち方言帳」 森川信夫監修 (財)山口観光コンベンション協会発行
- ・「山口県方言辞典」「新訂山口県方言辞典」 山中六彦編
- ・「論集 山口県方言の研究」 岡野信子、白木進編
- ・「講座方言学8 中国・四国地方の方言 山口県の方言」 中川健次郎著
- ・「新南陽市の生活とことば」 新南陽市教育委員会編
- ・「小畑郷土誌 4. 小畑の民俗 9. 小畑の言葉」 (徳山)
- ・「周防大島方言集」 柳田国男編、原安雄著
- ・「周防大島ことば大全」 山本隆志編
- ・「市立柳井図書館叢書第7集 柳井の方言」 市立柳井図書館編集
- ・「岩国地方の方言集」「岩国の民俗と俚諺」 岩国市立岩国図書館編
- ・「田布施地方史研究会会誌：ふるさとのことば、消えたコトバたち他」
長生俊良(ながおとしろう) 著
- ・「田布施町郷土館研究紀要 第4号 田布施町の方言」 林芙美夫編
- ・「田布施地方の口承文芸 民話・民謡・ことわざ」
郷土館叢書第四集 林芙美夫編著
- ・「山口弁(周南地方)辞典」 阿部啓治編
- ・「下松地方史研究会誌：都濃地域方言の音韻学的考察の一端」
藤尾桂一著
- ・「ふるさとの言葉(佐防地区)」 有井チエ子著(佐波郡徳地、防府地区)
- ・「熊毛方言集」「室積郷土史談」 中道静夫編
- ・「平生町を中心とした周南地方の方言集」 山部章編
- ・「玖珂郡の方言・訛言」 江木健太郎編
- ・「わたしのことば誌」 山手信義編(周東)
- ・「須佐地方の方言」 須佐地方の方言編集委員会編
- ・「長門方言集」 重本多喜津編
- ・「長門方言集」 山崎徳三郎著
- ・「萩の方言」 柳井山甫著
- ・「方言でつづる福栄のくらし」 福田百合子監修 福栄村発行
- ・「百合子のふるさと辞典」(福栄村) 福田百合子著
- ・「ふるさとのことば」(福栄村) 波多放彩著
- ・「宇部の方言」 右田昇 末永俊彦 牛尾芙美子 共著
- ・「八代の民俗 第一輯 里言葉の辞典」 瀬田静香著
- ・「八代の民俗 第二輯 遊び・芸能、俚言」 瀬田静香著
- ・「伝承集 ふるさとの方言」 下松市北上地区老人クラブ編
- ・「うさぎとかめ 山口県徳地地方方言 おきかえ話」
中村哲子著 森川信夫編
- ・「阿知須の方言」 阿知須郷土史研究会
- ・「方言ことわざ集」 ふるさと平田を見つめる同好会発行(岩国)
- ・「中田の方言集」 中田ふるさと探訪会発行(周東)
- ・「下関の方言」 富田義弘著
- ・「宇部で使われた炭鉱のことば」 長尾美代之輔編著
- ・「防長方言考、防長民謡集(山口県文化史外篇)」
山口県文化史編纂委員会編集

- ・「防府市史 資料自然・民俗・地名：防府地域の方言」 森川信夫著
- ・「鹿野町誌 第11章 鹿野の民俗 第4節 方言」
- ・「山口市史 史料編 民俗・金石文 V 暮らしの言葉」
- ・「阿武町史 下巻 第7編 民俗 第3章 方言」
- ・「小野田市史 民俗と文化財：小野田の方言」
- ・「続由宇町史 附録：由宇方言」
- ・「川上村史 資料編：川上村の方言」
- ・「宇部市史 自然環境・民俗方言篇」
- ・「美東町史 資料編 第九章 民俗 1 美東町の方言」 改訂版
- ・「周防大島町誌 第13編 生活と伝承 第4章 方言」
- ・「和木町史 民俗篇 7. 方言」
- ・「大島町史 VII宗教・民俗・文化財 2. 民俗 (3)大島の方言」
- ・「周東町史 第7編 民俗と文化 3. 地名と方言」
- ・「柳井市史 総論編 VIII 暮らしと言葉 1. 方言」
- ・「長門市史 民俗編 VII 言語生活 1 暮らしのことば」
- ・「油谷町史 第4編 民俗 第5章 方言」
- ・「豊浦町史3 民俗編 第11章 方言」
- ・「下関市史 民俗編 暮らしのことば」
- ・「防長 土地に刻まれた歴史」 高橋文雄著
- ・「防長動植物方言考」 小川五郎著
- ・「山口県の植物方言集覧」 見明長門著 岡国夫 三宅貞敏補
- ・「山口県のことば」 有元光彦編
- ・「山口県の野鳥ガイド」 山口県立博物館編集発行
- ・「水辺の小わざ」 浜野龍夫 伊藤信行 山本一夫編
山口県土木建築部河川課発行
- ・「日本貝類方言集 民俗・分布・由来」 川名興編
- ・「魚と貝の事典」 望月賢二監修 魚類文化研究会編
- ・「うたいつぎたい ふるさとのおうた ～山口県のわらべ唄～」
周防大島民謡童謡保存会発行
- ・「鹿野の民俗文化財」 瀬田静香著 鹿野町教育委員会編
- ・「防長味の春夏秋冬」「やまぐち味ばなし」 貞永美紗子著
- ・「聞き書 山口の食事」 農山漁村文化協会編集
- ・「山口あるある」 タキガワマミ著
- ・「都道府県別 全国方言辞典」 佐藤亮一編
- ・「方言の読本」 佐藤亮一監修 尚学図書 言語研究所編集
- ・「お国ことばを知る 方言の地図帳」 佐藤亮一編
- ・「日本方言大辞典」 尚学図書編集 小学館発行
- ・「全国方言辞典」 東條操編
- ・「分類方言辞典 附全国方言辞典補遺」 東條操編
- ・「標準語引き 日本方言辞典」 佐藤亮一監修 小学館辞典編集部編集
- ・「地方別方言語源辞典」 真田信治 友定賢治編
- ・「県別罵詈雑言辞典」 真田信治 友定賢治編
- ・「県別方言感情表現辞典」 真田信治 友定賢治編
- ・「語源辞典 名詞編」 草川昇著
- ・「語源辞典 形容詞編」 吉田金彦著
- ・「日本語源広辞典」 増井金典著
- ・「日本語 語感の辞典」 中村明著
- ・「誤解されやすい方言小辞典」 篠崎晃一著
- ・「関西ことば辞典」 増井金典著

- ・「角川古語大辞典」 阪倉篤義 岡見正雄 中村幸彦編
- ・「日本国語大辞典(第二版)」 小学館編
- ・「瀬戸内海方言辞典」 藤原与一著
- ・「瀬戸内海事典」 北川健次・町博光・灰谷謙二・鏡見明克他編
- ・「全国幼児語辞典」 友定賢治編
- ・「民俗学辞典」 柳田国男監修 民俗学研究所編
- ・「星の方言集 日本の星」 野尻抱影著
- ・「草づくし」 白洲正子著
- ・「広島県 方言辞典」 村岡浅夫編
- ・「ひろしまのおもしろ方言集」 友定賢治監修
- ・「広島ことばの風景」 廿日市市平良公民館方言クラブ編
- ・「広島の方言とその語源」 田淵実夫著
- ・「ふるさと大竹(郷土の民俗文化)」 大竹市教育委員会編
- ・「呉地方の方言辞典」 高坂利雄編著
- ・「今じゃけえ広島弁」 町博光監修 NHK広島放送局編著
- ・「これが広島弁じゃ!」 灰谷謙二著
- ・「出身地(イナカ)がわかる! 気づかない方言」
篠崎晃一+毎日新聞社編
- ・「ことばの系譜 九州方言考」 原田種夫ほか編
- ・「方言の息づかい」 川崎洋著
- ・「九州・沖縄『方言』から見える県民性の謎」 篠崎晃一著
- ・「北から南から 方言ものしり事典」 方言資料研究会編
- ・「いばらぎXじゃなくていばらきO」 青木智也著
- ・「土佐さんぽ」「続土佐さんぽ」 竹村義一著
- ・「土佐弁の基礎知識」「簡易土佐弁辞典」 一の瀬 愚(おろか)
- ・「日本の方言地図」 徳川宗賢編
- ・「方言の日本地図」 真田信治著
- ・「生きている日本の方言」 佐藤亮一著
- ・「滅びゆく日本の方言」 佐藤亮一著
- ・「全国アホ・バカ分布考」 松本修著
- ・「俗語発掘記 消えたことば辞典」 米川明彦著
- ・「NHK気になることば『サバを読む』の『サバ』の正体」
NHKアナウンス室編
- ・「NHK気になることば 走らないのになぜ『ご馳走』?」
NHKアナウンス室編
- ・「日本語の研究(意味文化の東西差)」 櫛引祐希子著
- ・「方言考」「続方言考」 読売新聞コラム 2012年~2014年
- ・「知っちょるかね下松弁」 下松トピックス社発行
- ・「厚狭高校同窓会機関紙」
- ・テレビ、ラジオでの放送
NHKテレビ:「情報維新やまぐち」の「使おういね!山口弁」等
KRYテレビ:「さわやかモーニング」の「〇月頃の山口弁っちゃ」等
KRYラジオ:「おはようKRY」の木曜日の「おはようアミーゴ」、
2015年からは「モーニング+(プラス)」
TYSテレビ:「週末ちぐまや家族」等
注:上記の放送名は2016年当時のもの
- ・インターネット上に公開されている山口弁コーナー、ウィキペディア等
- ・山口県の地図は「日本地図のフリーイラスト集」より転載
(敬称略)

あとがき

2016年に「山口弁(周南地方)辞典」を上梓しました。

その後の経緯を書きますと、

この本の中から、800語を選んで、2018年に「つこおーちよってですか？ 山口弁(周南地方)」と言う小冊子を作り、友人や母がお世話になっていた介護施設等に配りました。

その後、「下松点訳・音訳友の会」の皆様がこの本の点訳と音訳したものを作られましたので、その音声をお借りして、例文の音声が入るようにしたものをネットに載せました。と言っても友人のブログで、名称は「明博(あきひろ)のひまつぶし」です。「山口弁 800」で検索するとすぐ出て来ます。

この活動で、「下松点訳・音訳友の会」のみなさまと、田中寿敏氏、徳田小夜野氏、中村明博氏に大変お世話になりました。

また、近年、災害が多く発生したので、「医療者やボランティアのための山口東部方言」としてA4版4枚のしおりを作成して、友人のブログに公開しました。

そして、調査の方は、周南地方だけでなく、もう少し範囲を広げて、「がんざき」と「がんぜき」は地域で言い方が変わるが境界線はどこだ、とか、「てんばを焼く」の他の言い方が沢山あるようだ、と言ったようなことを調べていました。

これらの調査も山を越えたかなと思うようになり、最終版を作成しました。

なお、この本を作成するための調査等に、方言仲間の友人に助けをもらい、色々な貴重な情報を提供して頂きました。

また、元防府図書館長で方言研究家の森川信夫氏には、著作の色々な資料をこの本に転載することを快くご了承頂きました。感謝に堪えません。

友人と、森川氏に、この場を借りて、お礼申し上げます。

2024年7月11日

阿部啓治 記



編者プロフィール:

阿部 啓治 (あべ けいじ)

山口県下松市出身。下松で小、中、高を過ごす。(下松小、下松中、下松高)

広島大学工学部機械工学科卒業後、徳山曹達(現トクヤマ)に入社。

(株)トクヤマの技術教育訓練センター長の時に、「山口弁辞典(2013年版)」を編纂。退職後、2016年に前書を改訂した「山口弁(周南地方)辞典」を上梓した。2017年には下松市芸術文化功労賞を受賞。

2018年に、800語の「つこおーちよってですか? 山口弁(周南地方)」を発行して、各所に配布した。

今回は、2016年の増補改訂版として、本書を編纂した。

元機械屋の方言愛好家。下松市東陽在住。

てれんこぼれんこ山口弁

発行日: 2024年11月15日

発行者: 阿部 啓治

印刷所: 睦美マイクロ株式会社

〒744-0002 山口県下松市東豊井1364

TEL:0833-41-0305 / FAX:0833-45-0001

【非売品】

「医療者やボランティアのための山口東部方言」について

災害はあっては欲しくないけど、万が一起きた時に、県外から応援に来て下さった医療者やボランティアの方々の役に立つのではないかと思い、「医療者やボランティアのための山口東部方言」をまとめました。

ネットで検索すると、広島県や島根県、熊本県には「医療者のための〇〇方言(△△地方)」がありましたが、山口県には該当するものがありませんでした。

それで、今回、医療者でもない私が作成するのはおこがましいとは思いましたが、「たたき台」として作成しました。

今回の資料を「山口東部方言」に限ったのは、前文の資料も多分、作成者の出身地近辺の方言をまとめたと思われるので、それに習いました。山口県中央部や西部のものは別の作成者が現れるのを期待しています。

なお、この冊はA4用紙、4枚で構成されていますが、医療者用として、最初の2枚だけでも使うことができるように項目を分割しています。

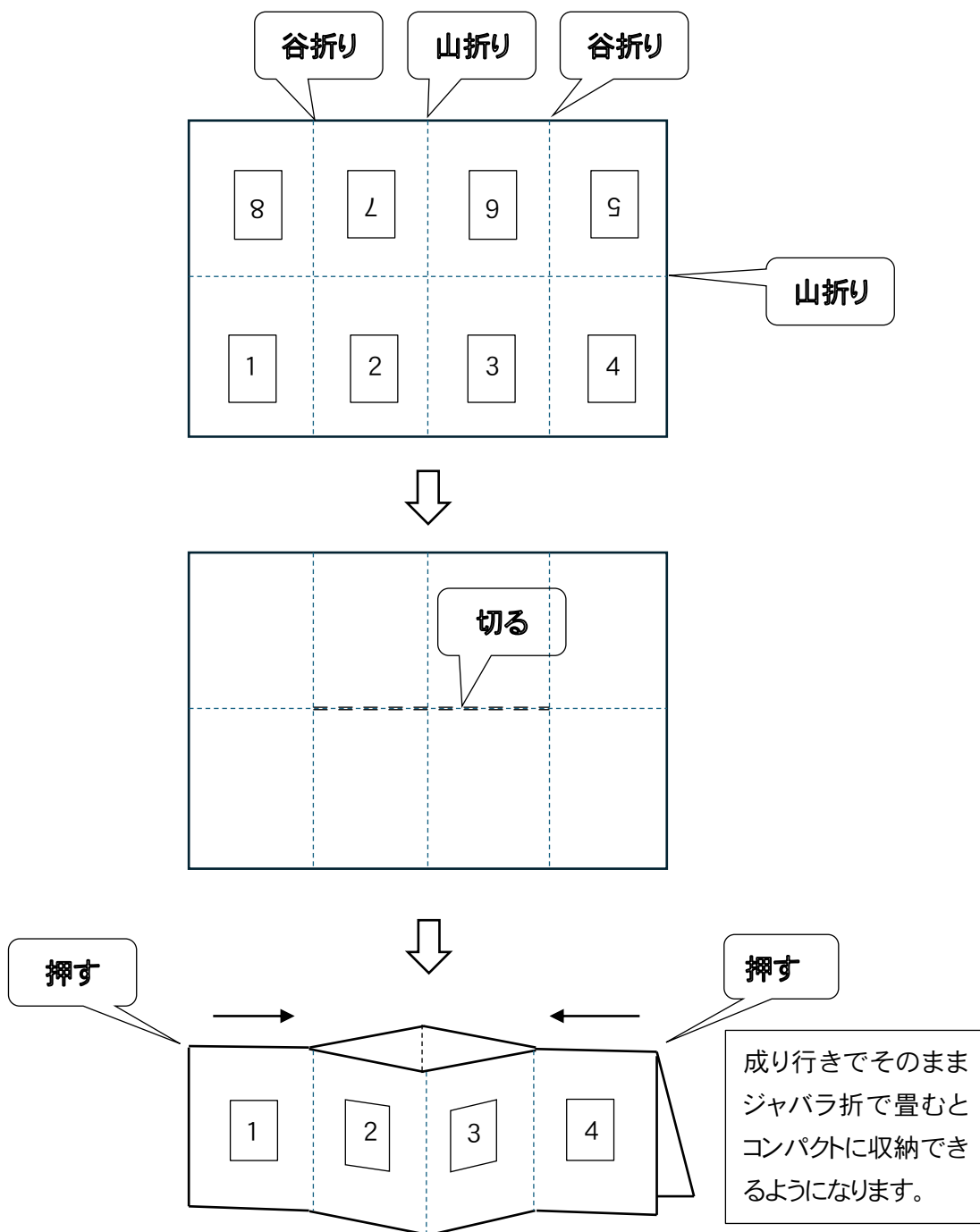
そして、持ち運びが容易なように、1枚が8ページの小冊子になるようにしています。作り方は「8ページの折本の作り方」を参照して下さい。

また、本の大きさに合わせるために、本来のものはA4版ですが、添付しているものはB5版に縮小しております。ご了承下さい。コピーして使う場合は、そのまま使うか、A4版に拡大して使うか、状況に合わせてご利用下さい。

追記：身体の状態を示す言葉が多く載っていますが、それを了解して頂ければ、山口弁の小冊子としても使えるかなと思っています。ご活用頂ければ、幸いです。

【参考】「医療者やボランティアのための山口東部方言」を小冊子にする方法

8ページの折本の作り方



医療者やボランティアのための山口東部方言（1/4）

1. 身体感覚・症状 【1】

いがいがする → のどがいがらっぱい
いぎが刺さった（いぎがたった）→ のどに小骨が刺さった
いけん → ①いけない よくない ダメだ ②行けない
いとーない → 痛くない
うずく（疼く）（うづく）→ 痛む 神経や筋や傷の痛み
えずく（えづく）→ 吐き出す もどす
えらい（えらえー）（えれえー）→ 疲れた だるい つらい
おぼる（うぼる）→ ①疲れて筋肉が張る ②化膿して痛む
かいいい → かゆい
かじょーひく → 風邪を引く

かぶる（かぶられた）→ ①虫が刺す ②動物が噛みつく
かまれる → 蚊に刺される 【2】
ぐわえー → 具合（ぐあい）（ぐわい）
こつる → 咳をする
こわえー（こわい）→ 疲れてだるい
こんごーをかるー（こうごうをかるう）→ 猫背
さぶけがする → ①さむけがする ②気味が悪い
さみー（さびー）→ 寒い
じがじがする（じかじかする）→ ちくちくする
ししらさむい → 肌寒い
しむ（しゅむ）（しゅみる）→ しみる（沁みる）こと
しゃんとする（…せる）→ すっきりする さっぱりする

しゅむ → ①鼻をかむ 《幼児語はシュンする》 ②沁みる
すいばりがたった → 小さいとげが刺さった 【3】
すくれる → 冷える 凍える 《「寒がり」は「すくれ」》
せく → ①痛む 痛い（腹が） ②ひどく咳をする
たごーた・たがう → ひねった ねじった・捻る 捩じる
だる（疲・倦る）→ ①疲れる くだびれる ②ゆるむ たるむ
つめる → ①痛む 胃が痛むこと ②挟む
にがる（苦る）→ 痛む（腹） どちらかと言うと鈍痛か？
ぬくい → 温かい 暖かい
はさる・はせる → 挟まる・はさむ（狭い所、隙間に）
はしる（歯が、頭が）→ 痛い 痛む
びっしゃ（びしょぬれ）（びっしゃこ）→ びしょびしょ

ひやい（ひやえー）→ 冷たい 【4】
ひよーなる（ひよーなる）→ 冷たくなる さめる 寒くなる
ほとびる（潤びる）→ ふやけること
まめ・まめになる → ①元気 ②よく働く・元気になる
むさい → 長持ちする
もてる → 保てる 保存できる 耐久性がある
やじやじ → いろいろ
やびやびする（びやびやする）→ ヒリヒリする むずがゆい
2. 病名・症状（名詞）
あおじ・くろじ（あおじに・くろじに）→ あざ
からすなえ（からすない）→ 筋肉の痙れん こむら返り
かんばれ（寒腫れ）・かんやけ（寒焼け）→ 霜焼け

レガーもーレガーもー → どうも どうも
レウちゅーこたーない → ①どうも ②はい
たまげる たまがすたま → ①驚く ②驚かす
たいぎー（大機い）→ ①面倒 ②疲れて体がだるい
せんない（詮無い）→ 辛い（つらい）こと 難儀なこと
せわーない → ①大丈夫 心配ない ②容易だ 簡単だ
せーがおちた → 張り合いがなくなった（気力がなくなる）
せーがええ/せーがない → 張り合いがある/やり甲斐がない
しんきな → 退屈なこと
しろーしい → ①うるさい ②煩わしい ③忙しい
じゅーがええ（じゅーがええ）→ 具合が良い 便利
【8】 しんしんやん → 素早 能率がよい

きえん → 汚さない
くつがわるい（くつがわりー）→ 具合・塩梅・都合が悪い
きびがわるい（きびがわりー）→ 気味が悪いこと
きしやない（きしやない）→ ①汚い ②ずるい
いびしー（いびせー）→ 気持ちが悪い 汚らしい
いながな → 変な おかしな 怪しげな
4. 心情
〜わてー → 余計
よーけ（余計）（よけえー）→ ①沢山 ②余計 ③そう
よいよ（よいよ）→ ①全く ②とても ③どうも
ゆうな → ①暇な ②ゆる〜り ③おだやか ④おっとり
【7】 やおい → ①やわらかい ②優しい

もちい（もちい）（もちもち）→ ①もち ②少し
ふたふた（ふた）→ ①満腹 ②体が大きい
ふち → ①ふち ②ふち
はあー → ①もう ②もう
ながしゅう → ①長ら〜 ②永ら〜
どようし（どようし）（どようし）→ ①どうも ②どうも
どねーか → ①どねーか ②どねーか
どー（どー）（どー）→ ①早く ②早く
ちゅーに → ①どうも ②どうも ③まったく
だいめん（だいめん）→ ①大分（だいぶん） ②かなり
だいしよー（だいしよー）→ ①少し ②少しは ③多少は ④幾分か
【6】 きすい → 筋張って硬い

おーけな → ①大きな
えらい（えらい）（えらい）→ ①とても ②とても
いっそ（いっそ）→ ①少しも ②全く ③全く
3. 程度・頻度など
めいば（めいば）→ ①ものもらい ②目にできる腫れ物
ほろせ → ①温疹
ほーちや → ①化膿して悪化すること
ねたがえ（ねたがえ）（ねたがえ）→ ①寝違える
ねたがえ（ねたがえ）→ ①寝違（ねたがえ） ②寝違（ねたがえ）
ちぶれ → ①打身で黒血が溜まって膨れ上がる状態
すし（すし）（すし）→ ①寝違（ねたがえ） ②寝違（ねたがえ）
【5】 きらば → ①傷跡（きずあと） ②傷痕 ③切り傷や火傷の跡

医療者やボランティアのための山口東部方言（2/4）

どひょーしもない → 突拍子もない とんでもない 【9】
 のーがわりー（悪い）→ ①心配事で頭が痛い ②頭痛がする
 はがいい（はがいたらしい）→ くやしい しゃくに障る
 はぶてる（はぶ一つ）→ ふくれる むくれる
 ふがええ/ふがわるい（符が良い/悪い）→ 運が良い/悪い
 まんがええ/…わるい（間が良い/悪い）→ 運が良い/悪い
 やかましい → ①面倒くさい 手間を取る ②厳しい
 やねこい → ①難しい ②気難しい ③しつこい
 やれん → 困った もたない 我慢できない たまらない
 わや → ①無茶 無理 ②だいなし めちゃくちゃ
 わりー → ①悪い ②済みません 申し訳ない

5. 動作 【10】

あずる → てこずる 困って四苦八苦している様子
 いごく → 動く
 いらう（いろいろ）→ ①触る いじる ②手を加える
 かぐる → 引っ掻く
 かける（駆ける）かっける → 走る
 かしこまる（畏まる）→ 正座する
 かずく（かづく）→ 被（かぶ）る
 かやす（かやれる）→ ①倒す 倒れる ②こぼす こぼれる
 かるう（かるー）→ 背負う
 ぎばる（気張る）→ ①意気込む ②奮発する ③息む
 きびる → 結ぶ 縛る

けつまづく（蹴つまづく）→ つまづくこと 【11】

けつる → 蹴ること
 こける（転ける）（倒ける）→ 転ぶ
 さかし（逆し）→ 逆様（さかさま）
 します（しゅます）→ 浸透させる ひたす
 すがる（縋る）→ 寄り掛かる 体をもたせ掛かる
 すわぶる → なめる しゃぶる
 せせる（せせくる）→ ほじくる いじる つつく
 たう・とう / たわん・とわん → 手や足が届く / 届かない
 たける・おらぶ・いがる → 叫ぶ 大声で叫ぶ
 つくなむ（蹲む）（つくのむ）→ かがむ しゃがみこむ
 つむ（抓む）（摘む）→ 切ること（爪や髪を）

なおす → 片付ける 仕舞う 【12】

なごーなる → ①長くなる ②横になる 寝そべる
 におう（によう）→ 嗅ぐ 鼻でにおいを感じ取ること
 ねくじゅーくる・ねじらーゆう → 子供が眠くて我儘を言う
 ねさす（ねかす）→ 寝かせる
 ねぶたい → 眠たい
 ねぶる（舐る）→ 舐（な）める しゃぶる
 のる（伸る）→ 伸ばす
 はなえる / はなまる・はなわる → 始める / 始まる
 ひく→敷く《「し」が「ひ」になる「しち」が「ひち」》
 ひこじる（ひこずる）→ 引きずる
 ひぎーくむ（ひだーくむ）→ 胡坐（あぐら）をかくこと

よんぼん / よんひき → 4本（ほん） / 4匹（ひき）
 ぶほう → 液がびわく一わーと漏れて垂れていく様子
 ぶーせん → てきない いなし得ない
 やし → ずるいこいやすこと また、その人
 ちやい（都合い）・ちやいて（もようて）→ 共同で一緒に
 もーらん → ①役に立たない ②くだらない ③余計な事
 むつこい → 味がしつこい
 みやすい → 容易なこと たやすい
 みてる（満てる）（充てる）→ 無くなる 使い果たす
 はみ → まむし（蝮）《蛇：爬虫類》
 のける → 片付ける 仕舞う
 のけとく → 取っておく 【16】

のーなる → 無くなる
 ねき → 際、脇、横、側のこと
 ぬるい → 遅いこと 手緩いこと
 にじむ → にじむ にじみ出る
 ーなんだ → ーなかつた（過去の否定）
 ー～ておる → ー～てやる ー～ておく ー～ておけ
 （～じょ～）（～じょ～）（～じょ～）（～じょ～）
 ーちやる → ーちやる ーちやる ーちやる
 たてる（立てる）（開てる）→ 戸を開める
 ーせんにやー → ーしないといふ ーしなけれは
 ーせんずく → ーしないまま ーせず
 ーじやった → ーだった 【15】

こう（買う）/ こーた（買った）→ 買う / 買った
 ーげな → ーらしい
 かわりこうて（かわりばんて）→ 代わり番
 かる（借る）/ かつた（借った）→ 借りる / 借りた
 カットパソ → 絆創膏
 7. その他の方言（その1）
 ももたぶら（ももた）→ 腿（もも）
 まひげ → 眉毛
 はぶ / はぶを噛む → 歯茎（はぐき） / 口蓋（こうがい）を噛む
 のどまめ（のどちんこ）→ 口蓋垂（こうがいすい）
 せな → 中景 【14】
 きり・じろまい（じなまい）・まいまい → 旋毛（つむじ）

かかへそ → 踵（かかと）
 うしろあたま（後ろ頭）→ 後頭部（こうとうぶ）
 6. 身体部位等
 らくにする → あぐらをかく 膝を崩す（正座から）
 ゆー / ゆーちやる → 言う / 言いつける 言うてやる
 やぶつ（破つ）/ やぶける（やぶてる）→ 壊す 破る / 壊れる
 やいとをすえる → ①お灸をする ②お仕置きをする
 めぐ（めげる）→ 壊す 壊れる 割る 割れる
 ほーかる（ほーくる）（ほーたる）→ ①投げる ②放置する
 へぐ・むぐ / へげる・むげる → むぐ / むける はげる
 ひる（放）→ 放尿、放屁をする
 ひねまる → ひねく、つねること 【13】

医療者やボランティアのための山口東部方言（3/4）	
8. 身体関係方言の番外編	【17】
こけつ（こけ）→ 垢（あか）	
さかむげ → 逆剥（さかむ）け	
しっぺいぐち（竹篋口）（しっぺーぐち）→ への字口	
せー → 背（せい）	
つず（つづ）→ つば 唾液（だえき）	
つべ → お尻	
ひざぼうさー・ひだぼうず → ひざ坊主 膝小僧 膝頭	
ひゃっかん → もみあげ	
ほおびんちゃく・ほおべた・ほうたん → 頬（ほお・ほほ）	
ほやけ → あざ（赤い）	
ふくちゅうがまめ（腹中が忠実）→ 内臓に問題がない	
まより → 目脂（めやに）	【18】
みみこ（みみご）→ 耳垢	
9. 日にちの方言	
あけての日 → 翌日	
きにょー（きのー）/ おとつい → きのう 昨日 / 一昨日	
きにょーのばん（きのーの晩）→ ①昨日の晩 ②一昨日の晩	
しあさって → あさっての翌日（明明後日）	
ひてえ（ひてー）/ ひてーじゅう → 一日 丸一日 / 一日中	
まいひに → 毎日 毎日のように	
ゆんや（ゆんべ）（ゆーべ）→ 昨夜	
よーさ / ひとよーさ / ふたよーさ → 晩 夜 / 一晚 / 二晩	
10. その他の方言（その2）	
【19】	
いかい（いかえー）→ ①大きい ②粗い（目が） ③沢山	
いなん・いにます → 帰らない・帰ります	
いぬる（いぬ）・いのう・いんだ → 帰る・帰ろう・帰った	
いら（苛・刺）→ ①気短な人 せっかち ②刺すくらげ	
③癩癧（かんしゃく） ④毛虫	
いらく → 乾く	
うそーゆー（嘘を言う）→ 嘘を吐く（つく）	
うめる（埋める）（うべる）→ ①ぬるくする ②薄める	
ええけー（えーけー）→ 良いから いいから	
ええころはちべえ → ①いい加減さ 無責任さ ②目算 見当	
えどる（絵取る）→ なぞる	
えぶ（えふ）→ 荷札 名札	
【20】	
おいこ（負子）→ 背負子（しよいこ）	
おいでる → ①おられる ②行かれる ③来られる（敬意有）	
おう（負う）→ おんぶする	
おーかましい → ①多いこと 甚だしい ②おおざっぱな	
おおくじをくる（おーくじゅーくる）→ ひどく叱ること	
お行儀をする → ①正座をする ②静かにしておく	
おしピン（押しピン）→ 画鋏	
おせー / おそーなる → 遅い / 遅くなる	
おる（居る）→ 居（い）る	
かかり（掛かり）→ 取り掛かり 手始め 最初の時	
がんざき（がんぜき）→ 熊手	

きーさん（きいさい）①来なさい ②着なさい	
きーつて（きーゆーつて）①気を付けて	
【21】	
きなる（気成る）→ 調子に乗って騒いでいる状態	
くさす → 中途半端で完了してないことを表す	
くじくる（くじゅーくる）（くじょーくる）→ 叱る	
くれまい（くーれさい）（くーれんさい）→ 下さい	
くけえ（くーけー）（くーけん）→ ①～だから ②～ね / 例：	
ばーもーええーきーやー（もうよいから来なさいよ）	
こがーな（そが、あが、どが）→ このよう な（そ、あ、ど）	
こげえに（そげ、あげ、どげ）→ こんなに（そ、あ、ど）	
こるる → ①～く～ ②掻き分けて進む	
こまい（こまえー）（こまー）（こめー）	
【22】	
→ ①小さい ②細かい ③けち 吝嗇	
～こみ（～こめ）（～これ）→ ～こ～る み～の まま	
さく → 粘り気が無くもろい 壊れやすい	
ささげる → 排便、排尿をさせること（幼児に）	
さしくる（差し繰る）→ 自分に都合よくする	
さてこむ（さてこむ）→ かき集めて取り込むこと	
しあわせます → ①ありがた い ②助かります ③好都合です	
しごーする → ①手入れや下拵えをする ②こらしめる	
しっぽがながい（尻尾が長い）→ 戸を閉めない人	
～しな → ～の途中 ～の時 ～の際	
しみる（減みる）→ 減る	
【23】	
しもーた → ①失敗した ②仕舞った 終り	
【24】	
そりゃーなにーい（い）（い）（い）→ それこそ	
それいね → そーよなね	
【24】	
たく（炊く）→ 煮る 《ご飯も大根も「炊く」と言う》	
～たち（立ち）/ たきだち → ～立て / 炊き立て	
ちーとーへくそ（ちーとーへくき）→ ちよとばつかし	
ちきる（千切る）→ もぐ	
ちびつと → 少し ちよと	
ちびる（赤びる）→ 磨減する 先が磨り減ること	
つ（笑く）→ 押す / 例：自転車を押す	
つ（注ぐ）→ よそる よそう（ご飯を）	
つくる → だらしない 積み上げる	

<u>医療者やボランティアのための山口東部方言（1/4）</u> 1. 身体感覚・症状 【1】 いがいがする → のどがいがらっぱい いぎが刺さった（いぎがたった）→ のどに小骨が刺さった いけん → ①いけない よくない ダメだ ②行けない いとーない → 痛くない うずく（疼く）（うづく）→ 痛む 神経や筋や傷の痛み えずく（えづく）→ 吐き出す もどす えらい（えらえー）（えれえー）→ 疲れた だるい つらい おばる（うばる）→ ①疲れて筋肉が張る ②化膿して痛む かしい → かゆい かじょーひく → 風邪を引く	きっぱ → 傷跡（きずあと） 傷痕 切り傷や火傷の跡 【5】 すじ（すじゅーひく）（すじょーひく）→ 痙攣 引き付け ちぶくれ → 打ち身で黒血が溜まって膨れ上がる状態 ねたがい（ねたがえ）→ 寝違（ねちが）えること ねたがえる（寝違える）（ねたごう）→ 寝違える ほーちゃく → 化膿して悪化すること ほろせ → 湿疹 めいぼ（めぼ）→ ものもらい（麦粒腫） 目にできる腫れ物 3. 程度・頻度など いっそ（いっそー）→ ①少しも ②全く ②いつも えらい（えろう）（えらえー）→ とっても すごく おーけな → 大きな
かぶる（かぶられた）→ ①虫が刺す ②動物が噛みつく かまれる → 蚊に刺される 【2】 ぐわえー → 具合（ぐあい）（ぐわい） こつる → 咳をする こわえー（こわい）→ 疲れてだるい こんごーをかるー（こうごうをかるう）→ 猫背 さぶけがする → ①さむけがする ②気味が悪い さみー（さびー）→ 寒い じがじがする（じかじかする）→ ちくちくする ししらさむい → 肌寒い しむ（しゅむ）（しゅみる）→ しみる（沁みる）こと しゃんとする（…せる）→ すっきりする さっぱりする	きすい → 筋張って硬い 【6】 だいしょー（だえーしょー）→ 少しは 多少は 幾分かは だいめん（だえーめん）→ 大分（だいぶん） かなり ちゅーに → ①とても ②とうとう ③まったく とーに（とーから）→ 早くに とくに ずっと前から どねーか こねーか → どうか こうにか どうようし（どよおし）（どひょうし）→ すごく とても ながしゅう → 長らく 永らく はあー → もう すでに もはや ぶち → すごく とても ふとい（太い）→ ①満腹 ②体が大きい もちいと（もちっと）（もそっと）→ もう少し
しゅむ → ①鼻をかむ《 幼児語はシュンする 》 ②沁みる すいばりがたった → 小さいとげが刺さった 【3】 すくれる → 冷える 凍える《 「寒がり」は「すくれ」 》 せく → ①痛む 痛い（腹が） ② ひどく咳をする たごーた・たがう → ひねった ねじった・捻る 捩じる だる（疲・倦る）→ ①疲れる くだびれる ②ゆるむ たるむ つめる → ①痛む 胃が痛むこと ②挟む にがる（苦る）→ 痛む（腹） どちらかと言うと鈍痛か？ ぬくい → 温かい 暖かい はさる・はせる → 挟まる・はさむ（狭い所、隙間に） はしる（歯が、頭が）→ 痛い 痛む びっしゃ（びしょぬれ）（びっしゃこ）→ びしょびしょ	やおい → ①やわらかい ②優しい 【7】 ゆうな → ①暇な ②ゆっくり ③おだやか ④おっとり よいよ（よんよ）→ ①全く ②とても ③とうとう ついに よーけ（余計）（よけえー）→ ①沢山 ②余計 いっそう ～わて → ～ずつ 4. 心情 いなげな → 変な おかしな 怪しげな いびしー（いびせー）→ 気持ちが悪い 汚らしい きしゃない（きちゃんない）→ ①汚い ②ずるい きびが悪い（きびがわりー）→ 気味が悪いこと ぐつが悪い（ぐつがわりー）→ 具合・塩梅・都合が悪い さえん → 冴えない
ひyai（ひやえー）→ 冷たい 【4】 ひよーなる（ひょーなる）→ 冷たくなる さめる 寒くなる ほとびる（潤びる）→ ふやけること まめ・まめになる → ①元気 ②よく働く・元気になる むさい → 長持ちする もてる → 保てる 保存できる 耐久性がある やじやじ → いらいら やびやびする（びやびやする）→ ヒリヒリする むずがゆい 2. 病名・症状（名詞） あおじ・くろじ（あおじに・くろじに）→ あざ からすなえ（からすない）→ 筋肉の痙れん こむら返り かんばれ（寒腫れ）・かんやけ（寒焼け）→ 霜焼け	しゃんしゃん → 素早くやる 能率がよい 【8】 じゅーがええ（じゅうがええ）→ 具合が良い 便利 しろーしい → ①うるさい ②煩わしい ③忙しい しんきな → 退屈なこと せーがええ/せーがない → 張り合いがある/やり甲斐がない せーがおちた → 張り合いがなくなった（気力がなくなる） せわーない → ①大丈夫 心配ない ②容易だ 簡単だ せんない（詮無い）→ 辛い（つらい）こと 難儀なこと たいぎー（大儀い）→ ①面倒 億劫 ②疲れて体がだるい たまげる たまがす たまぐらかす → ①驚く 驚かす ②湯通し どうちゅーこたーない → ①どうと言うことはない ②いつも どがーも こがーも → どうも こうも

医療者やボランティアのための山口東部方言（2/4）

どひょーしもない → 突拍子もない とんでもない 【9】
のーがわりー（悪い）→ ①心配事で頭が痛い ②頭痛がする
はがいい（はがいたらしい）→ くやしい しゃくに障る
はぶてる（はぶーつる）→ ふくれる むくれる
ふがええ/ふがわるい（符が良い/悪い）→ 運が良い/悪い
まんがええ/…わるい（間が良い/悪い）→ 運が良い/悪い
やかましい → ①面倒くさい 手間を取る ②厳しい
やねこい → ①難しい ②気難しい ③しつこい
やれん → 困った もたない 我慢できない たまらない
わや → ①無茶 無理 ②だいなし めちゃくちゃ
わりー → ①悪い ②済みません 申し訳ない

5. 動作 【10】

あずる → てこずる 困って四苦八苦している様子
いごく → 動く
いらう（いろう）→ ①触る いじる ②手を加える
かぐる → 引っ搔く
かける（駆ける） かけける → 走る
かしこまる（畏まる）→ 正座する
かづく（かづく）→ 被（かぶ）る
かやす（かやれる）→ ①倒す 倒れる ②こぼす こぼれる
かるう（かるー）→ 背負う
ぎばる（気張る）→ ①意気込む ②奮発する ③息む
きびる → 結ぶ 縛る

けつまずく（蹴つまずく）→ つまずくこと 【11】

けつる → 蹴ること
こける（転ける）（倒ける）→ 転ぶ
さかし（逆し）→ 逆様（さかさま）
します（しゅます）→ 浸透させる ひたす
すがる（縋る）→ 寄り掛かる 体をもたせ掛かる
すわぶる → なめる しゃぶる
せせる（せせくる）→ ほじくる いじる つつく
たう・とう / たわん・とわん → 手や足が届く / 届かない
たける・おらぶ・いがる → 叫ぶ 大声で叫ぶ
つくなむ（蹲む）（つくのむ）→ かがむ しゃがみこむ
つむ（抓む）（摘む）→ 切ること（爪や髪を）

なおす → 片付ける 仕舞う 【12】

なごーなる → ①長くなる ②横になる 寝そべる
におう（によう）→ 嗅ぐ 鼻でにおいを感じ取ること
ねくじゅーくる・ねじらーゆう → 子供が眠くて我儘を言う
ねさす（ねかす）→ 寝かせる
ねぶたい → 眠たい
ねぶる（舐る）→ 舐（な）める しゃぶる
のる（伸る）→ 伸ばす
はなえる / はなまる・はなわる → 始める / 始まる
ひく→敷く 《「し」が「ひ」になる「しち」が「ひち」》
ひこじる（ひこずる）→ 引きずる
ひぎーくむ（ひだーくむ）→ 胡坐（あぐら）をかくこと

ひねきる → ひどく、つねること 【13】

ひる（放）→ 放尿、放屁をする
へぐ・むぐ / へげる・むげる → むく はぐ / むける はげる
ほーかる（ほーくる）（ほーたる）→ ①投げる ②放置する
めぐ（めげる）→ 壊す 壊れる 割る 割れる
やいとをすえる → ①お灸をする ②お仕置きをする
やぶつ（破つ）/やぶける（やぶてる）→ 壊す 破る/壊れる
ゆー / ゆーちゃる → 言う / 言いつける 言ってやる
らくにする → あぐらをかく 膝を崩す（正座から）
6. 身体部位等
うしろあたま（後ろ頭）→ 後頭部（こうとうぶ）
かがと → 踵（かかと）

ぎり・じろまい（じなまい）・まいまい → 旋毛（つむじ）

せな → 背中 【14】
のどまめ（のどちんこ）→ 口蓋垂（こうがいすい）
はぶ / はぶを噛む → 歯茎（はぐき） / ほほの内側を噛む
まひげ → 眉毛
ももたぶら（ももた）→ 腿（もも）
7. その他の方言（その1）
カットバン → 絆創膏
かる（借る）/ かった（借った）→ 借りる / 借りた
かわりごうて（かわりばんて）→ 代わり番こ
～げな → ～らしい ～そうだ
こう（買う）/ こーた（買うた）→ 買う / 買った

～じゃった → ～だった 【15】

～せんずく → ～しないまま ～せずに
～せんにゃー → ～しないと ～しなければ
たてる（立てる、開てる）→ 戸を閉める
～ちよる ～ちよく ～ちやる ～ちやれ ～ちよけ
（～じよる ～じよく ～じやる ～じやれ ～じよけ）
→ ～ておる ～ておく ～てやる ～てやれ ～ておけ
～なんだ → ～なかった（過去の否定）
にじゅむ → にじむ にじみ出る
ぬるい → 遅いこと 手緩いこと
ねき → 際、脇、横、側のこと
のーなる → 無くなる

見ちよる
読んじよる

のけとく → 取っておく 【16】

のける → 片付ける 仕舞う
はみ → まむし（蝮）《蛇：爬虫類》
みてる（満てる）（充てる）→ 無くなる 使い果たす
みやすい → 容易なこと たやすい
むつこい → 味がしつこい くどい
もとーらん → ①役に立たない ②くだらない ③余計な事
もやい（催合い）・もやいで（もようて）→ 共同で一緒に
やし → ずるいことやだますこと また、その人
よーせん → できない なし得ない
よぼう → 液がじわーと漏れて垂れている様子
よんぼん / よんびき → 4本（ほん） / 4匹（ひき）

医療者やボランティアのための山口東部方言（3/4） 8. 身体関係方言の番外編 【17】 こけつ（こけ）→ 垢（あか） さかむげ → 逆剥（さかむ）け しっぺいぐち（竹篋口）（しっぺーぐち）→ への字口 せー → 背（せい） つず（つづ）→ つば 唾液（だえき） つべ → お尻 ひざぼうさー・ひだぼうず → ひざ坊主 膝小僧 膝頭 ひゃっかん → もみあげ ほおびんちゃく・ほおべた・ほうたん → 頬（ほお・ほほ） ほやけ → あざ（赤い）	きーさん（きいさい）→ ①来なさい ②着なさい きーつけて（きゅーつけて） 【21】 （きよつけて）（きょーつけて）→ 気を付けて きなる（気成る）→ 調子に乗って騒いでいる状態 くさす → 中途半端で完了していないことを表す くじをくる（くじゅーくる）（くじょーくる）→ 叱る ～くれまい（～くれさい）（～くれんさい）→ ～下さい ～けえ（～けー）（～けん）→ ①～だから ②～ね / 例： はーもーええーけーきーやー（もうよいから来なさいよ） こがーな（そが、あが、どが）→ このような（そ/あ/ど） こげえに（そげ、あげ、どげ）→ こんなに（そ/あ/ど） こぐる → ①くぐる ②掻き分けて進む
ふくちゅうがまめ（腹中が忠実）→ 内臓に問題がない まより → 目脂（めやに） 【18】 みみこ（みみご）→ 耳垢 9. 日にちの方言 あけての日 → 翌日 きにょー（きのー）/ おとつい → きのう 昨日 / 一昨日 きにょーのばん（きのーの晩）→ ①昨日の晩 ②一昨日の晩 しあさって → あさっての翌日（明明後日） ひてえ（ひてー）/ ひてーじゅう → 一日 丸一日 / 一日中 まいひに → 毎日 毎日のように ゆんや（ゆんべ）（ゆーべ）→ 昨夜 よーさ / ひとよーさ / ふたよーさ → 晩 夜 / 一晩 / 二晩	こまい（こまえー）（こみゃー）（こまー）（こめー） → ①小さい 細い ②細かい ③けち 吝嗇 【22】 ～ごみ（～ごめ）（～ごし）→ ～ごと ～ぐるみ ～のまま さくい → 粘り気が無くもろい 壊れやすい ささげる → 排便、排尿をさせること（幼児に） さしくる（差し繰る）→ 自分に都合よくする さでこむ（さぜこむ）→ かき集めて取り込むこと しあわせます → ①ありがたい ②助かります ③好都合です しごーする → ①手入れや下拵えをする ②こらしめる しっぽがながい（尻尾が長い）→ 戸を閉めない人 ～しな → ～の途中 ～の時 ～の際 しみる（凍みる）→ 凍る
10. その他の方言（その2） 【19】 いかい（いかえー）→ ①大きい ②粗い（目が） ③沢山 いなん・いにます → 帰らない・帰ります いぬる（いぬ）・いのう・いんだ → 帰る・帰ろう・帰った いら（苛・刺）→ ①気短な人 せっかち ②刺すくらげ ③癩癧（かんしゃく） ④毛虫 いらく → 乾く うそーゆー（嘘を言う）→ 嘘を吐く（つく） うめる（埋める）（うべる）→ ①ぬるくする ②薄める ええけー（えーけー）→ 良いから いいから ええころはちべえ → ①いい加減さ 無責任さ ②目算 見当 えどる（絵取る）→ なぞる	しもーた → ①失敗した ②仕舞った 終り 【23】 じゃけえ（じゃから）（じゃけん）→ ～だから 「～しよる」と「～しとる」「～しちよる」→ 「～している」（進行中）と「～した、～している」（完了・存続・状態）《進行形を「～よる」、完了形を「～とる、～ちよる」で表現する。つまり、「来よる」は現在移動中、「来とる」「来ちよる」は到着している状態。》 じらをくる（じらーくる）→ ①我儘を言う ②横車を押す しりぬけ（尻抜け）→ 締めくくりがない人 戸を閉めない人 じるい（じゅるい）→ ぬかるんでいる状態 しわい（撓い）→ ①粘り強い 辛抱強い ②くどい しつこい ③強情 頑固 ④固い
えぶ（えふ）→ 荷札 名札 【20】 おいこ（負子）→ 背負子（しょいこ） おいでる → ①おられる ②行かれる ③来られる（敬意有） おう（負う）→ おんぶする おーかましい → ①多いこと 甚だしい ②おおざっぱな おおくじをくる（おーくじゅーくる）→ ひどく叱ること お行儀をする → ①正座をする ②静かにしておく おしピン（押しピン）→ 画鋏 おせー / おそーなる → 遅い / 遅くなる おる（居る）→ 居（い）る かかり（掛かり）→ 取り掛かり 手始め 最初の時 がんざき（がんぜき）→ 熊手	しわい（吝い）→ けち りんしょく 《これは標準語》 そりゃーなにーいや（いね）（いの）→ それこそ それいね → そうよね 【24】 たく（炊く）→ 煮る 《ご飯も大根も「炊く」と言う》 ～だち（立ち）/ たきだち → ～立て / 炊き立て ちーとべくそ（ちーとべくさ）→ ちょっとばっかし ちぎる（千切る）→ もぐ ちびっと → 少し ちょっと ちびる（禿びる）→ 磨滅する 先が磨り減ること つく（突く）→ 押す / 例：自転車をつく（自転車を押す） つぐ（注ぐ）→ よそる よそう（ご飯を） つくねる → だらしく積み上げる

医療者やボランティアのための山口東部方言（4/4）	ひわる → 曲がる 反る 【29】
つっぺ → 貸し借り無しのこと 同等 互角 【25】	ふうがわるい（風が悪い）→ 体裁が悪い みっともない
つどう → 都合が悪いこと 用事が重なること	ぶーをつる（ぶーつる）→ すねる ふくれる むくれる
つなぐ → 集めて回ること（お金や物）	へびる（減びる）→ 剥（へず）る 削り取る 減ずる
つばえる → ふざけて騒ぐ はしゃぐ 戯れる	へんくう → へそ曲がりな人
〜て（〜で）→ 〜られる（敬意を示す） / 例：食べてですか（食べられますか） 例：読んでですか（読まれますか）	ぼうずり（棒摺り）→ デッキブラシ
てーげーにせーよ（たえーがえーに・・・）→ 大概にしろよ	ほーとくない（ほーとくなえー）→ 汚い みっともない
てご → 手伝い/ 例：てごーしてくれ（手伝いをしてくれ）	ほろける → 落ちる
てっき（てき）→ 焼き網	〜まー → 〜まい（…ないだろう、…するのはよそう 等）
手袋をやる → 手袋を「する」 手袋を「はめる」こと	まいがまえん（舞いが舞えん）→ やりくりがつかない
	まっつい（真対）→ 似ていること そっくり
	まっとーりに（真通りに）→ ①真正面に ②同様に真似て
てぶらかす → 放棄する 放置する 【26】	までくる（まぜくる）→ 混ぜる 混ぜ返す 混乱させる
てぶる（手振る）→ ①放棄する ②異常振動する	までごはん（混でご飯）→ 混ぜご飯 【30】
てみ（手箕）→ 箕（み）	まどう（償う）→ 弁償する
てれんこぼれんこ（てれんこぼれんこ）（てれんばれん） → 何もせずにぶらぶらしている様子 とりとめのないこと	まばいい（まばいー）（ばばいい）→ まばゆい まぶしい
でろ → ゼロ《「ざ・ぜ・ぞ」が「だ・で・ど」になる》	まひょうしにあわん → その場の役に立たない
でんき（善機）・でんきをはる → 頑固 片意地 ・我を張る	みしる → 筆（むし）る ちぎる
てんばを焼く → 口を挟む おせっかいをすること	みずをする（みずーする）→ 人見知りをする
どがーもない（どげーもない）→ どうもない	みにならん（みにゃーならん）→ くつろげない
どべ → ①ビリ《「ど」を強く発音する》 ②ヘドロ	みにもかあにもならん（身にも皮にも…）→ 気忙しい状態
とりすてる（とりしてる）→ 思いっきり捨てる	めっそー / おーめっそー → 目分量 / おおざっぱ 大まか
とりちらかす（とっちらかす）→ ひどく散乱させる	めにおーた → ひどい目にあった 難儀した
	もしゃぐる・ももぐる → 揉みくしゃにすること（紙など）
どろもぶれ（どろまぶれ）→ 泥まみれ 【27】	もぶる → 塗りつける 塗（まぶ）す 【31】
とんぎる → 尖る（とがる） とんがる	もぶれる（もぶれつく）→ ①群がる ②付着する ③子供が戯れてまとわりつく
〜ないと（〜なえーと）→ 〜でも せめて〜なりとも	やちもない（やっちもない）→ くだらない 無益な
なけらんにゃー（なけんにゃー）→ 無いならば 無ければ	やばる → やきもちを焼いて、独占したがる
ぬすくる（ぬすぐる）→ なすり付ける	やりくさし → やりかけ する途中 中途半端
ぬぶ（ぬびる）→ 伸びる 延びる	ゆうこときかんちょ → 言うことを聞かない人
ねこ → 猫車《 荷物を運ぶ一輪車 》	よくどう（よくどうはげ）（よくったれ）→ 欲張り
ねつい → 熱心だ 根気強い 丁寧な	よして・よす（寄す）→ 寄せて 入れて ・ 寄せる 入れる
ねと → ①根元 切り株 ②近所 際（きわ）	よだるひき（よだれひき）→ 夜長く起きている人 宵っ張り
ねんごーゆーな → 生意気を言うな 屁理屈を言うな	らちゃーあかん → 埒（らち）が明かない
のーくれ（のーたれ）（のーくり）→ 怠け者 無精者	りごう（離合）→ 狭い道で車がすれ違うこと
のどける（のぞける）→ ①差し出す 渡す ②出席する	
のどぶとい（喉太い）→ もう要らない おいしそうにない	〜りゃー（〜しゃー）（〜きゃー）（〜やー） → 〜れば 〜せば（仮定形） 【32】 / 例：見りゃー・話しゃー・聞きゃー・言やー → 見れば・話せば・聞けば・言えば
のどりがいく / のどりがせん → 理解した / 理解できない	ろくい（ろく）（陸）→ 平らなさま 平坦なさま
のる（乗る） / のせる → 傘に入る / 傘に入れる	ろをこぐ（艫を漕ぐ）→ 居眠りする
のんた（のーた）（ねーた）→ のーあんた ねーあなた	わきゃーない（訳はない）→ 容易だ たやすい
はざまぐい（狭間食い）（間食い）→ おやつ 間食	わく（分）→ 製材すること
はしかいー → ①痛がゆい むずがゆい ②気が短い	われ（わりゃー） / わりゃー、くそ → おまえ / この野郎！
はねにする → のけ者にする	んまー → まあ / 例：A；んまー、はーこれでしまいかね？ （まあ、もうこれで終わりですか？）B；それいね、これでお しまいいね（そうですよ、これでおしまいですよ）
はばしい → 激しい 乱暴であるがやり手の感じ	
ひちりん → ①七輪（しちりん） ②コンロ	
ひよる → 風で飛ぶこと 風で舞い上がること	
ひょんげな → ①変な おかしな ②ひょんな 妙な	

TERENKO
PORENKO
YAMAGUCHIBEN